

WHO ARE WE ...

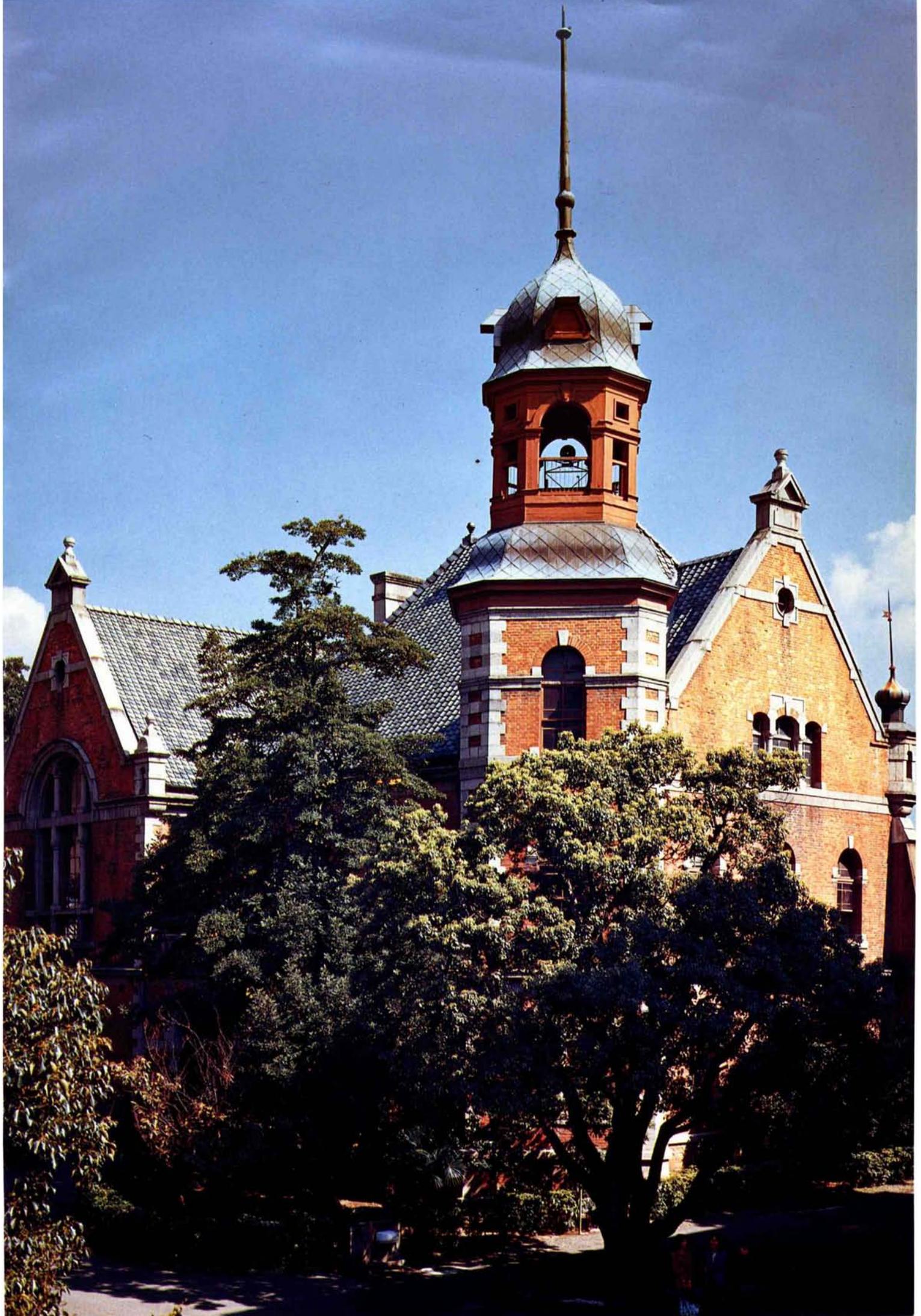
同志社グリークラブ80年の歩み

Glee Club

WHO ARE WE ...

同志社グリーンクラブ80年の歩み

GleeClub





Doshisha College Song

*One purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim.
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide.*

*Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than selflove we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divine
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood.*

80周年に憶う



同志社グリーンクラブOB会会長

松本寛二

(昭和15年卒)

早や一昨年(1984年)のことになってしまったが、12月、それもクリスマス直前をねらうかのように、同志社グリーンクラブが創立80周年を記念する特別演奏会を東西で開き絶賛を博した。その熱演は超満員の聴衆をうならせ、魅了しつくした。私もいまだに、後輩たちが作り出してくれたその日(東京新宿文化センター大ホール)の見事な、そして高度な演奏を忘れることができない。正に80周年を記念するにふさわしいものであった。

また、そのひと月前には、全国に散らばるOB合唱団のクローバークラブが中心となった80周年記念演奏会と大パーティーが開かれ、これまた好評を博した。1984年は正に同志社グリーの年であった。

80年、日本人の平均的生命が大きくのびた今日では、80歳なんて決して長命とは言えなくなってしまったが、しかし、一つの学園の中に芽ばえたひとにぎりの合唱グループが、80年、その間一日として絶えることなく歌い続けてきた。しかも年ごとに大きくなり、技術的にも精神的にも大きく成長していった。しかも今や、日本合唱音楽界の頂点にまで達してしまった。それらのことを思うと、同志社グリーンクラブ80年の歳月とその歩みには、人間の生命とは全く異った生きた力が、あるいは目には見えなくとも別な何ものかがつねにあった、と言っていいような気がしてならない。

私は、ちょうどそのド真ん中の昭和15年、40周年を迎えようとする年に卒業した一人だが、今日、早やその倍を数えるのかと思うと、今昔の様々な憶いが浮び、かすめてきてとどまることがない。

いま、その歴史を、憶いをふり返りながら同志社グリーンクラブの80年史を世に出そうという。実に大変な仕事である。とくに、それぞれの本業に携わりながらのことだからなおさらだ。しかし、それにもかかわらず、この編纂、発行にふみ切ったOB会の決断には心からの敬意を表したい。なぜなら、同志社グリーンクラブの80年は、単に同志社だけでなく、日本の合唱音楽界にとっても貴重な足跡であり、合唱音楽の一つの歴史を作っているからである。

まだ、私が6,7歳のころだったと思う。当時(大正10年ごろ?)私の家は朝鮮の京城(今日の韓国ソウル特別市)にあったが、ある夏の日、私から見れば正にオッサンと思われるカンカン帽姿の4人(5人だったかもしれない)がわが家の玄関先に荷をおろすと、いきなり大声で、それもすばらしい美声で歌い出した。

「ワンパーパス ドーシーシャ」

と、びっくりして飛び出した私は、まず男たちだけの歌声におどろき、また初めて聞く男のハーモニイにこどもながらも仰天したのである。

あとで知っののだが、このグループこそ、創立20周年を記念して、第2回目の鮮満演奏旅行に出た

同志社グリーメンだったのである。10名足らずのメンバーだったそうだが、その中の4人がわが家に分宿したわけだ。その中には、すでに故人となられたが、いつもマンドリンをかかえていた山口隆俊氏、台湾から同志社に来たという美声の陳さん2人(大陳、小陳といった)、小島応氏、さらに名は忘れたが口笛の名人というX氏などがいたように思う。とくに山口さんは、その後も何回かわが家を訪れたことがあり、すっかり親しくなってしまった。

これも、もう60余年も前のことになってしまったが、その時の強烈な印象が私を奪い、同志社は私のトリコになってしまった。そしてグリークラブ入りはその時すでに決ってしまった、と言ってよい。

あの「ワンパーパス ドーシーシャ」は、大げさだが、私の人生の行く手を決めてくれた何か目には見えない力であった、と言っても言い過ぎではないような気がする。

まったく偶然のことかも知れないが、あの鮮満演奏旅行が、果して20年を記念してのものであったとしたら、私は、なんとグリーの20周年で同志社グリーを知り、40年を同志社で迎え、80年をOBとして迎える幸運をつかんだことになる。その深い因縁が今日まで私をグリークラブに結びつける絆となったのかもしれない。

その同志社グリーが、今や国内の定期その他の演奏会だけでなく、アメリカ、中国さらには本場のヨーロッパの各地にまで演奏活動をひろげ、しかもその都度好評を博するまでに成長してしまった。本年春にはさらに第2回目のヨーロッパ行がすでに決まっているという。喜ばしいことだ。

もちろん、80年の歳月の中には、確かに暗い冬の時代もあった。大東亜戦争による軍部の圧力は、グリークラブだけでなく学園内のすべての音楽活動を中断させ、一時的ではあったが、グリークラブの名称さえ変えざるを得なかったし、また60年代に起った学園紛争による部員の激減も、またその一ページであったかもしれない。

しかし、1974年、ニューヨーク、ワシントンで開かれた第4回世界合唱祭への参加が決った70年代は再び同志社グリーの声価を海外にまでとどろかす胎動の時となったといえる。そのバックにはOB合唱団として大活躍をしていたクローバークラブの活動、さらには援助団体として立ち上ったOB会の発足は正に時を得たものであったと言えるだろう。

その同志社グリークラブは同志社が存続する限り永遠にその輝やかな歩み、歴史を積み重ねて行かなければならない。その永遠の歴史を築く一助として、このたび80周年記念史(誌)が発行されることは実に意義深い。

この大事業に当たった編集委員の方々におくればせながらも厚くお礼を申し上げたい。

グリークラブ80周年に



同志社グリークラブOB会副会長
同志社グリークラブ名誉顧問

遠藤 彰

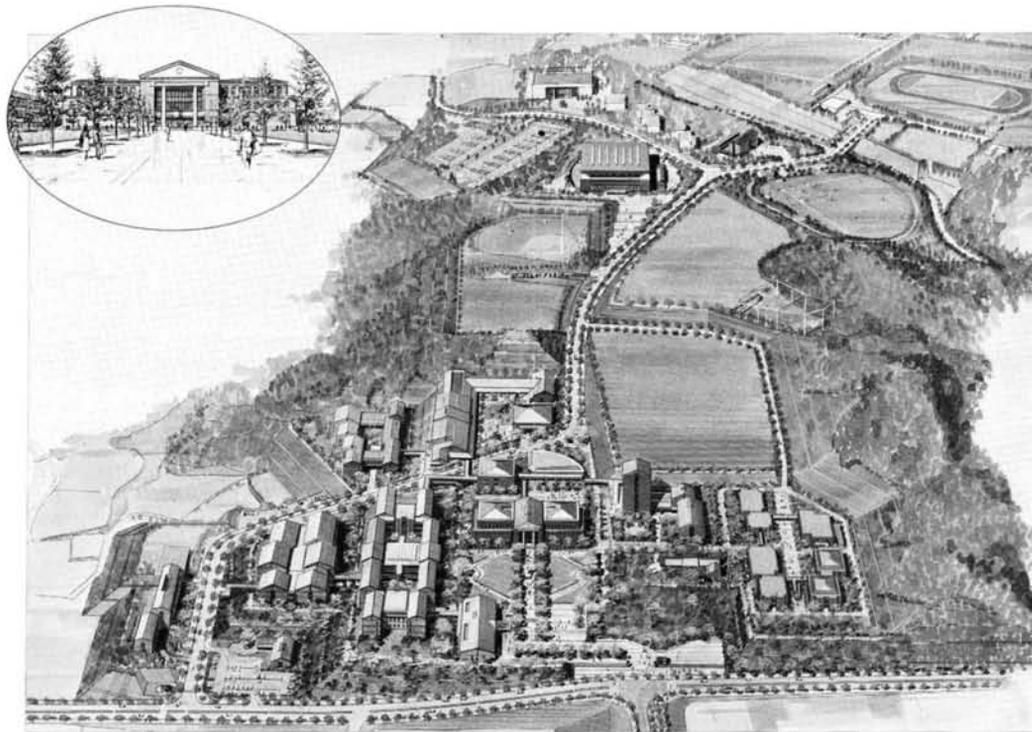
(昭和17年卒)

先日のワルシャワで行われたショパン・ピアノ・コンクールの録画が放映された。19才のブーニンというソ連の青年が、完璧な技巧で弾きまくって一位を獲得した。しかし、私は彼が弾き始めた瞬間から、ああ、これはショパンではないな、と感じ、弾き終わった時の聴衆の大拍手にもかかわらず、私の心は全く感動を覚えなかった。この青年が一位ときいて驚いたが、現代のショパン解釈も、現代社会の通弊である技巧や技術や機能至上の傾向が主流となりつつあるのであれば、人類文化の力の衰退を示す一つの証しなのであろう。

文化は、人類の精神の営みである。技巧、技術、機能は重要な文明的所産であるけれども、それをもって直ちに文化とはいえない。文明は文化の形態化、現実化であって、その逆ではない。ショパンにはショパンの心や精神がある。ポーランドの民衆にはポーランドの精神や信念がある。一位の青年の演奏にそれが果して表現されていたか。

グリークラブの80年を顧みて、故片桐先生いらい各時代の先輩たちから今の現役にいたる歴史を通して、この精神文化としての音楽、とくに男声合唱の領域においてグリーの果して来た大きな仕事を私は大へん意義深く思う。同志社グリークラブが形成して来た特色は、国を富ませ軍を強め科学技術を高めることを根本とした近代日本の歴史の中で、深く人間精神の世界に思索の基を据え、そこから歌い出される音楽を大切に出来たところにあると思われる。こういう音楽や演奏は、戦前の時代にあっては評価されず不当な冷遇を受けるのみであったが、今日でも別の意味で事情はあまり変わっていない。しかし、同志社グリークラブは、一般の皮俗無内容な技術主義や耽美主義に抗して、音楽の持つ内面性への共感とその表現を大切にしたいと願っている。西洋音楽の源泉であるヨーロッパを度々訪れ、中世いらいの諸教会の音楽にじかに触れ、またそこで演奏の機会に恵まれる体験を重ねることにより、グリークラブは、正しい自己評価と将来への方向選択について、得がたい収穫を収めつつある。最近の定期演奏会の出来栄は、それを表わしているものと思われる。

同志社グリークラブOB会が、この現役の努力の、変らぬ理解者・支援者として、温い指導と配慮をあらゆる意味で続けようよう力を盡したいものと願っている。



昭和61年(1986年)4月開校同志社大学田辺キャンパス



同志社グリークラブ

—— 創立80年のあゆみ ——

目 次

① 創立80年のあゆみ

I 明治編(有史前のグリークラブとその背景)

明治36年(1903)	グリークラブの前身「クワイヤ」の誕生	1
明治39年(1906)	京都における最初の洋楽音楽会	2
明治41年(1908)	「ダヴィデ・クワイヤ」組織	2
	* 「同志社大学のあゆみ」……同志社大学人文科学研究教授・杉井六郎	3

II 明治編(同志社グリークラブの誕生)

明治44年(1911)	『同志社グリークラブ』の創設	7
	* 「グリークラブの創設—私の学生時代—」……片桐 哲	7
	* 「同志社College Song」	12

III 大正編

大正元年(1912)	クリスマス記念音楽会	13
大正2年(1913)	プリムローズクラブ創設	13
	* 「プリムローズについて」	
	プリムローズとグリークラブ……西邨辰三郎	15
	プリムローズクラブ創立について……故柳島彦作	16
	プリムローズの思い出……故橘 威	17
	プリムローズの思い出……長谷川常次郎	19
	第一回プリムローズ私演音楽会……50周年記念誌編集部	19
大正3年(1914)	平田甫氏指揮者に	21
大正4年(1915)	詩篇98篇初演	21
	* 「ミリアム・クワイヤー」	21
	* 「詩篇98」	22
大正5年(1916)	第1回讚美礼拝(「歌の夕べ」)	24
	* 「送別の歌(春の調べ)」	24
	* 「ジュニヤーグリークラブ」	25
	* 「同志社EVE」(第1回)	26
大正6年(1917)	第1回満州・朝鮮演奏旅行	26
大正7年(1918)	同志社で初めて混声合唱が行われる	27
大正8年(1919)	第2回満州・朝鮮演奏旅行	27
大正9年(1920)	神戸女学院で音楽会開催	28



大正10年(1921)	グリークラブ東京での第一声	28
	* 「パン屋のオッチャンと私—山口隆俊氏との思い出—」	松本 淳 28
大正11年(1922)	第3回満州・朝鮮・中国演奏旅行	29
	* 「戦前の海外演奏旅行」	津下統一郎 30
大正12年(1923)	第1回台湾演奏旅行	31
大正13年(1924)	同志社高商音楽会に賛助出演	32
大正14年(1925)	同志社混声合唱団が初めて組織される	32

IV 昭和編(戦前)

大正15年 昭和元年(1926)	第4回満州・朝鮮演奏旅行	33
昭和2年(1927)	盛大な同志社EVE音楽会	33
昭和3年(1928)	第5回満州・朝鮮演奏旅行	34
昭和4年(1929)	同志社混声合唱団東京演奏会	35
	* 「グリーよほんとにありがとう—昭和初年のグリー—」	山田基男 36
昭和5年(1930)	第2回台湾演奏旅行	38
昭和6年(1931)	第1回立教・同志社交歓音楽会	38
昭和7年(1932)	栄光館落成	38
昭和8年(1933)	第3回立教・同志社交歓音楽会	39
昭和9年(1934)	グリークラブ創立30周年	39
	* 「グリークラブの歌」(三輪源造作詞・大中寅二作曲)	41
昭和10年(1935)	同志社創立60周年記念音楽会で「メサイア」全曲演奏	41
	* 「同志校歌」(湯浅吉郎作詞・大中寅二作曲)	43
	* 「同志社大学歌」(北原白秋作詞・山田耕筰作曲)	44
昭和11年(1936)	同志社混声合唱団第1回発表会	45
昭和12年(1937)	日華事変起る	45
昭和13年(1938)	国家総動員法成立	45
昭和14年(1939)	グリークラブ創立35周年	45
昭和15年(1940)	学園軍国主義化の波	46
昭和16年(1941)	「グリークラブ」と「プリムローズクラブ」の合併	46
昭和17年(1942)	同志社男聲合唱団第2回発表会	47
昭和18年(1943)	同志社男聲合唱団第3回発表会	48
昭和19年(1944)	活動、一時途絶す	49

V 昭和編(戦後)

昭和20年(1945)	「同志社男声合唱団」復活	50
昭和21年(1946)	第1回関西合唱コンクール総合第2位	50
	「同志社グリークラブ」復活	50
	「クローバークラブ」発足	50
昭和22年(1947)	第2回関西合唱コンクール総合第1位	51
	「同志社学生混声合唱団(C.C.D)」発足	51
	* 「同志社学生混声合唱団(C.C.D)」	



	同志社学園に於ける混声合唱団の起源	片桐 哲	52
	「C.C.D.」設立の思い出	長嶋俊司	53
	「C.C.D.」昨今	小門君子	55
	* 「庭上の一寒梅」		57
昭和23年(1948)	復活第1回立教・同志社交歓演奏会		58
	第1回全日本合唱コンクール学生の部第2位		59
昭和24年(1949)	第2回立教・同志社交歓演奏会		60
	同志社グリークラブ創立45周年演奏会		60
	第4回関西合唱コンクール学生の部第2位		61
昭和25年(1950)	第3回立教・同志社交歓演奏会		62
	第3回全日本合唱コンクール学生の部第1位		63
昭和26年(1951)	第4回立教・同志社交歓演奏会		64
	創立第47回発表演奏会		65
	第6回関西合唱コンクール大学の部第3位		66
	森本芳雄先生逝く		67
	* 「森本芳雄先生追憶」	柳原一男	70
	* 「先生、有難うございました」	織田幹雄	71
昭和27年(1952)	第5回立教・同志社交歓演奏会		73
	第1回東西四大学合唱音楽会		73
	第7回関西合唱コンクール大学の部第2位		74
	* 「ペナントの変遷」		75
昭和28年(1953)	グリー史上初の「送別演奏会(Farewell Concert)」		76
	第6回立教・同志社交歓演奏会		76
	創立49周年定期演奏会		76
	第2回東西四大学合唱音楽会		76
	第8回関西合唱コンクール大学の部第2位		77
昭和29年(1954)	「Silver Gate Quartet」デビュー		77
	創立50周年記念演奏会		77
	第3回東西四大学合唱音楽会		79
	第9回関西合唱コンクール「クローバークラブ」一般の部、初参加で第3位		80
	第7回全日本合唱コンクール大学の部第1位		80
	* 「HAIL OUR GLEE CLUB」		81
	* 「シルバー・ゲイト・カルテット」		82
	* 「バッジとバインダー」		84
昭和30年(1955)	第7回立教・同志社交歓演奏会		85
	第4回東西四大学合唱音楽会		85
	同志社創立80周年記念特別演奏会		86
	第10回関西合唱コンクール大学の部第2位		86
	第8回全日本合唱コンクール「クローバークラブ」一般の部第1位		86
昭和31年(1956)	クローバークラブ第1回演奏会		87
	第8回立教・同志社交歓演奏会		87
	創立52周年定期演奏会		88



	第5回東西四大学合唱音楽会	88
	第11回関西合唱コンクール大学の部第2位	88
	第9回全日本合唱コンクール「クローバークラブ」一般の部第1位	88
昭和32年(1957)	男声合唱組曲「雪と花火」本邦初演	89
	* 「私と同志社グリークラブ—組曲「雪と花火」作曲の頃—」	多田武彦 90
	第6回東西四大学合唱演奏会、第9回立教・同志社交歓演奏会	91
	第10回全日本合唱コンクール「グリー」・「クローバー」ともに優勝	92
	* 「同志社グリークラブ、クローバークラブ合唱コンクール成績一覧表」	94
	* 「コンクールで関学グリーと競う—昭和20年代のグリークラブ—」	日下部吉彦 94
昭和33年(1958)	創立54周年定期演奏会	96
	第10回立教・同志社交歓演奏会、第7回東西四大学合唱音楽会	96
	第13回関西合唱コンクール大学の部第2位	97
	* 「ステージコートの起源」	塩路良一 99
昭和34年(1959)	「グリー会館建設基金」始まる	103
	創立55周年記念演奏会	103
	第11回立教・同志社交歓演奏会	104
	第8回東西四大学合唱音楽会	105
	第14回関西合唱コンクール大学の部第2位	105
昭和35年(1960)	第56回定期演奏会	106
	第12回立教・同志社交歓演奏会、第9回東西四大学合唱音楽会	106
	* 「長かった演奏旅行」	林田慎也 107
昭和36年(1961)	福永陽一郎氏、グリークラブ技術顧問に就任	109
	* 「福永陽一郎先生との出会い」	浅井敬壹 109
	第13回立教・同志社交歓演奏会、第10回東西四大学合唱演奏会	111
	第57回定期演奏会	112
	第1回野尻湖ハウスにて合宿	112
	第16回関西合唱コンクール大学の部第2位	113
	第1回関西学院グリークラブ・同志社グリークラブ交歓演奏会	113
昭和37年(1962)	「You'll never walk alone」	115
	ヴォイストレーナー「大久保昭男先生」、「中村博之先生」就任	116
	* 「いま、よみがえる“ダグ先生”—大久保昭男先生—語録」	大島 功 116
	* 「“ヒロタン”先生—中村博之氏—の思い出」	大熊政次 117
	第14回立教・同志社交歓演奏会、第11回東西四大学合唱演奏会	117
	第58回定期演奏会	118
昭和38年(1963)	第15回立教・同志社交歓演奏会	119
	第2回同志社・関学交歓演奏会、第12回東西四大学合唱演奏会	119
	第59回定期演奏会	119
昭和39年(1964)	第16回立教・同志社交歓演奏会	120
	第13回東西四大学合唱演奏会で「わが歳月」を初演	120
	* 「私の“わが歳月”」	大中 恩 121
	第60回定期演奏会	122
	第1回関西六大学合唱演奏会	123



昭和40年(1965)	第3回同志社・関学交歓演奏会……………	123
	第14回東西四大学合唱演奏会で「十の詩曲」を名演……………	123
	エール大学グリークラブと交歓演奏会……………	123
	第17回立教・同志社交歓演奏会……………	123
	第61回定期演奏会……………	124
	復活第1回全同志社「メサイア」演奏会……………	125
昭和41年(1966)	第2回関西六大学合唱演奏会、第15回東西四大学合唱演奏会……………	125
	第18回立教・同志社交歓演奏会(以後1976年まで中断さる)……………	125
	第62回定期演奏会……………	126
昭和42年(1967)	再編第1回関西六大学合唱演奏会……………	127
	第4回同志社・関学交歓演奏会、第16回東西四大学合唱演奏会……………	127
	Harvard Glee Club-Radcliff Choral Society と交歓演奏会……………	127
	第63回定期演奏会……………	128
昭和43年(1968)	第2回関西六大学合唱演奏会、第17回東西四大学合唱演奏会……………	129
	第64回定期演奏会……………	129
昭和44年(1969)	学園紛争激化……………	130
	第3回関西六大学合唱演奏会、第18回東西四大学合唱演奏会……………	130
	第65回定期演奏会……………	130
昭和45年(1970)	第19回東西四大学合唱演奏会……………	132
	第66回定期演奏会……………	132
	* 「レコーディング」……………	133
昭和46年(1971)	京都三大学交歓演奏会……………	134
	第5回同志社・関学交歓演奏会、第20回東西四大学合唱演奏会……………	135
	第67回定期演奏会……………	136
昭和47年(1972)	関西五大学合唱交歓会……………	136
	第21回東西四大学合唱演奏会……………	137
	第68回定期演奏会……………	137
昭和48年(1973)	「第4回世界大学合唱祭」への招聘を受諾……………	138
	第22回東西四大学合唱演奏会……………	139
	第69回定期演奏会……………	141
昭和49年(1974)	渡米メンバー決定、渡米パンフレット完成……………	142
	「第4回世界大学合唱祭」に出発……………	143
	* 「感動の30日間」—第4回世界大学合唱祭ツアーレポート—……………伏村淳二……………	144
	第23回東西四大学合唱演奏会……………	152
	3度目の第1回関西六大学合唱演奏会……………	152
	第1回長井賞受賞……………	153
	第70回定期演奏会……………	153
昭和50年(1975)	第6回同志社・関学交歓演奏会、第24回東西四大学合唱演奏会……………	154
	第2回関西六大学合唱演奏会……………	154
	第71回定期演奏会に北村協一氏を客演指揮者に迎える……………	155
昭和51年(1976)	第25回東西四大学合唱演奏会、第19回立教・同志社交歓演奏会……………	156
	同志社グリークラブOB会発足……………	157



	* 「OB会設立によせて」	片桐 哲	156
	* 「OB会設立について」	小田泰弘	157
	第3回関西六大学合唱演奏会		159
	第72回定期演奏会		159
昭和52年(1977)	第7回同志社・関学交歓演奏会、第26回東西四大学合唱演奏会		160
	第1回東西四大学OB合唱演奏会		160
	第4回関西六大学合唱演奏会		161
	第73回定期演奏会		162
昭和53年(1978)	第27回東西四大学合唱演奏会、第5回関西六大学合唱演奏会		163
	第74回定期演奏会		164
	富岡健氏、グリークラブ指揮者に就任		164
	* 「指揮者、富岡健氏を迎えた経緯」	千代沢修	165
	* 「グリークラブ歴代学生指揮者」		166
昭和54年(1979)	第8回同志社・関学交歓演奏会		167
	第28回東西四大学合唱演奏会、第20回立教・同志社交歓演奏会		168
	同志社グリークラブ中国演奏旅行に出発		169
	* 「ホンロンー中国演奏旅行ー」	山下秀幸	171
	* 「同志社グリークラブ訪中記」	梶浦義人	172
	第6回関西六大学合唱演奏会		177
	グリークラブOBが「台湾演奏旅行」に出発		177
	* 「台北演奏旅行記」	松本 淳	178
昭和55年(1980)	第75回定期演奏会		180
	第21回立教・同志社交歓演奏会、第29回東西四大学合唱演奏会		181
	* 「同志社グリークラブ規約」		182
	第7回関西六大学合唱演奏会		183
	第76回定期演奏会		184
昭和56年(1981)	第9回同志社・関学交歓演奏会、第30回東西四大学合唱演奏会		185
	第8回関西六大学合唱演奏会		186
昭和57年(1982)	第77回定期演奏会		187
	第31回東西四大学合唱演奏会、ハーバード大学グリークラブ招待演奏会		187
	グリークラブ創立者「片桐哲」先生逝去		187
	* 弔辞「巨人はその道を走ってゆく」	松本寛二	188
	第9回関西六大学合唱演奏会		190
	第78回定期演奏会		191
昭和58年(1983)	クローバークラブハワイ演奏旅行		192
	第10回同志社・関学交歓演奏会、アーモスト大学グリークラブ交歓演奏会		192
	第32回東西四大学合唱演奏会、第22回立教・同志社交歓演奏会		193
	同志社グリークラブ初の「ヨーロッパ演奏旅行」に出発		194
	* 「原点への回帰ーヨーロッパ演奏旅行」	諸江 修	195
	* 「渡欧レポート19日間」	梶原昌彦	196
	第10回関西六大学合唱演奏会		201
	第79回定期演奏会		201



昭和59年(1984)	第31回東西四大学合唱演奏会、第23回立教・同志社交歓演奏会	202
	同志社グリークラブ創立80周年記念「クローバークラブ」演奏会	202
	同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会	220

②東西四大学合唱演奏会

* 「四連」縁起	山田孝彦	206
* 「エピソード」	長谷部勇	207
* 「京都会館がオープンした頃」	寸田 達	209
* 「“十の詩曲”の頃」	滝沢裕人	211
* 「全てがグリーだった15年前の思い出」	高橋 博	212
* 「アイヌのウポポにビールを賭けて……」	河村 淳	214
* 「フィンランド語に悩まされた日々」	西尾強志	216
* 「東京文化会館に四連初登場」	白石 昭(ワグネルOB)	216

③メサイアの歩み

「メサイア」との出合い(戦前)	218
「メサイア」復興(戦後)	220
* 「キャンドルサービスの起源」	223
「復活メサイア」	224
* 「広島メサイア」	230

④クローバークラブ

昭和21年(1946)	クローバークラブ誕生	231
昭和32年(1957)	全日本合唱コンクール3年連続優勝	233
昭和35年(1960)	「山に祈る」男声(大編成版)初演	255
昭和38年(1963)	「Missa Salve Regina」(Stehle曲)本邦初演	238
昭和40年(1965)	第10回記念定期演奏会で「白いクレオン」初演	240
	* 「白いクレオン」について(「合唱サークル」昭和42年4月号より) …服部公一	224
昭和44年(1969)	おじさまたちのグループ・サウンズ	246
昭和45年(1970)	佐良直美と共演	288
昭和46年(1971)	ペギー葉山と共演	249
昭和47年(1972)	新谷のり子と共演	251
昭和52年(1977)	第1回東西四大学OB合唱演奏会	253
昭和53年(1978)	東京クローバークラブ創立20周年記念演奏会	254
昭和54年(1979)	第2回東西四大学OB合唱演奏会	255
	台湾演奏旅行	256
昭和56年(1981)	第3回東西四大学OB合唱演奏会	258
昭和58年(1983)	ハワイ演奏旅行、第4回東西四大学OB合唱演奏会	261
昭和59年(1984)	同志社グリークラブ創立80周年記念「クローバークラブ」演奏会	263

⑤年 表

⑥あとがき

創立80年のあゆみ

同志社グリークラブ

創立80年のあゆみ

I 明治編(有史前のグリークラブとその背景)

大学設立を夢みつつ、東奔西走された校祖新島襄先生が御逝去されて7年、明治30年頃の同志社は暗雲の低迷が著しく、国粹反動の形勢が序々に教会にまで浸潤し、同志社をミッション化せんとする外人宣教師に反対する日本教師との意思も相通せず、教育上及び財政上の危機に直面していた。

小崎弘道同志社々長の後を受けて、横井時雄氏が社長になるや、政府に同志社諸学校に対する徴兵猶予及びその他の特権賦与を願い出た。しかし、同志社が公然隠れもなきキリスト教主義学校であったので、政府からは冷たく拒絶され、このために横井社長は「同志社不易の綱領」の1個条「キリスト教ヲ以テ徳育ノ基本トス」をおろそかにし、ここにキリスト教教育は骨抜きにされたのである。

かくして、宣教師はすべて同志社を去り、この時代の同志社は、ほとんどその形態を留むるのみという悲境に沈んでいた。

明治34年頃も、「^{*}門前雀羅(=とりあみ)を張る」と形容された程に同志社は衰微の極みで、生徒の数は男女あわせて200名足らずという、今では想像もつかぬものであった。

この年の暮にグリークラブの創立の基礎を作られた速水藤助氏(明39神学科本科卒)が、また明治36年(1903)には美声の持主渡部守成氏(明42卒)が入学せられ、地味ではあったが機会ある度に音楽の奨励に尽された。

しかし、当時の同志社生活は、新島先生以来の清教徒的魂と気風とが、精神的気風となって驚くべき潜在力を持ち、合せて一種の豪傑肌の気風も交わって、情操方面では潤いのない野蛮の空気が充満していたのである。音楽に対する興味を全然持たぬこれらの学生は、讚美歌を歌うのにも「信仰をもって歌えばそれで充分だ。何も楽譜なんぞに拘泥する必要はない。」といった調子であり、思い切って蛮声を張り上げ、大声で怒鳴ることをもって痛快事としていたらしい。ましてや重唱などは思いもよらぬことであり、渡部氏が1人でベースのハーモニーをつけて歌えば、他の者がつり込まれて歌うことができなかった。という話もある位である。

しかし、渡部氏等のたゆまざる努力の結果、だんだんと音楽の愛好者がふえ、練習も始まった。そしてその内に、内外の信用と理解を得て隆盛の波にのってきた同志社当局の協力を得て、大阪より毎週1回オルチン師を招き、指導を受けた。そして、全校に音楽を普及する目的をもって、活動はさらに活発になった。このようにして音楽愛好者グループができていったが、別に名称をつけず「クワイヤ」と呼んでいた。

ようやく音楽が認められはじめたとはいえ、学校の内外には相当に音楽に無理解な人もあり、それらの人々に対する普及も並々ではなかった。重唱は「かけ合い」と称され、ベースの声も「牛の様だ」などと評されたりした。

この頃、この発展に寄与貢献された方には、前述の速水氏、渡部氏のほか、近藤優氏、境野周次郎氏、伊庭孝氏、海老沢亮氏、岩村清四郎氏、片桐哲氏、佐竹直重氏、相馬祐次氏、佐野清之助氏、穂永齊氏、長谷川直吉氏、宇野重孝氏、横田確三氏らである。

*訪う人なく、門前に雀を捕える羅(あみ)を張るばかりに寂しいの意。



同志社創立者 新島襄

明治39年

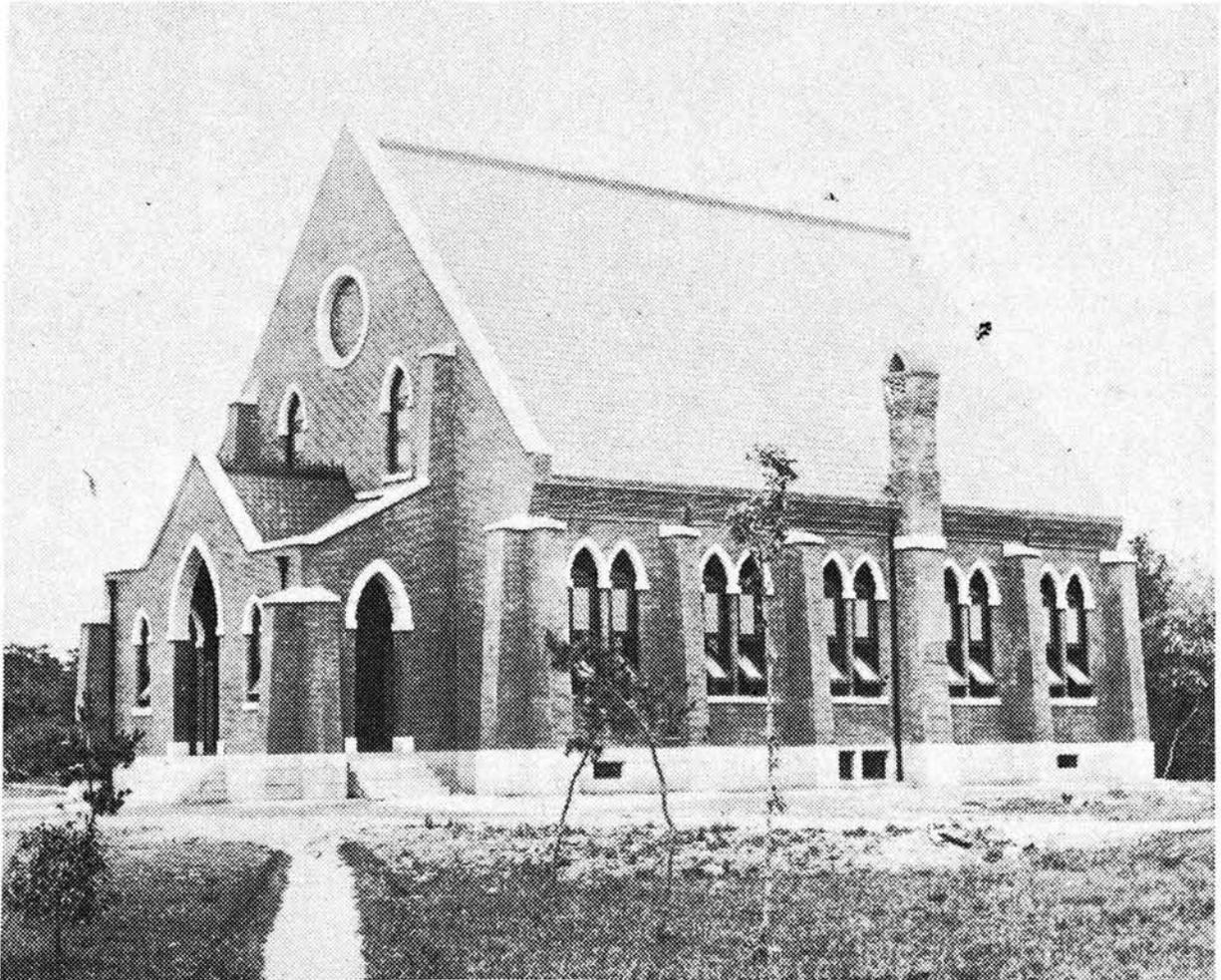
(1906)

2月17日、当時「同志社公会堂」といわれたチャペルにおいて、東北地方飢饉救済のための有料(入場料志門と武門の二種)洋楽音楽会が開かれた。30名からなる学生の男声合唱をオルチン氏が指揮して、大曲「復活の歌」を演奏し、非常に大喝采を受け素晴らしい人気を得た。そしてこの音楽会の収益から450円を難民に送り喜ばれた。またこの音楽会は京都における最初の洋楽音楽会であると共に、グリークラブ誕生の前奏曲とでもいうべき、エポック的なできごとであった。

明治41年

(1908)

堀内清氏(明43卒)、海老沢亮氏(明44卒)らが「ダヴィデ・クワイヤ」を組織し、市内の教会に進出して会員を募集し、讃美歌練習会を度々催した。



同志社チャペル

「抑モ教育ハ宗教ト密接ノ関係アル者ニシテ、教育ノ基本ハ宗教ニアリト謂フ可シ」と、定礎(明治18年12月)に新島襄は述べた。また、このチャペルは「我同志社ノ基礎トナリ又タ精神トナル者」であるとも言った。

設計はD.C.グリーン。施工は日本の大工であろうが、純洋風建築の技法がほとんど完璧にこなされている。外観、内部ともにシンプルな構造で、単純で力強い直線と、玄関および窓枠上部の白い石材のアーチの組み合わせに、デザインの特徴がある。また各窓にはめこまれたステンドグラスも美しい。

同志社大学のあゆみ

同志社大学
人文科学研究所教授 杉井 六郎

■ 同志社の精神的遺産

同志社大学は1875年(明治8)11月29日、京都市上京区寺町通丸太町上ルに仮校舎を設けて開校した同志社英学校にその起源をもつ。この学校の設立は、新島襄のアメリカ修学時代からの年来の素志であり、アメリカン・ボード派遣の宣教師J・D・ディヴィスの協力、京都府顧問山本覚馬の賛同によって誕生した。学舎は翌年9月に相国寺の門前、もと薩摩屋敷あとに移り、尔後同志社はここを拠点として現在にいたった。

この今出川キャンパスには、明治の建築である同志社チャペル、彰栄館、有終館、ハリス理化学館、クラーク記念館などの煉瓦造りの諸建築(重要文化財指定)があり、



J. D. ディヴィス (1838~1910)

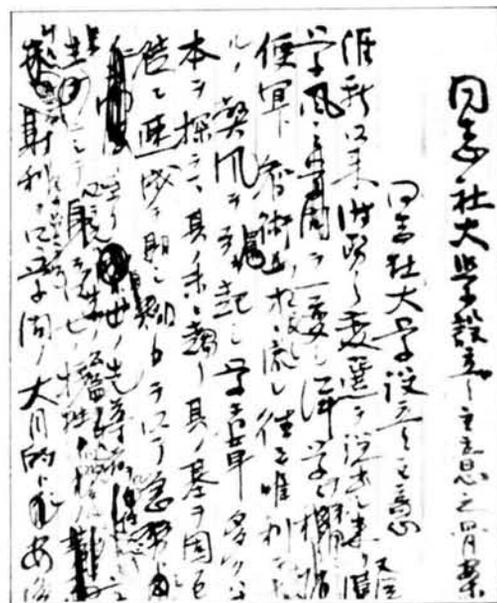
それは同志社人の「心のふるさと」であり、正門のところに建てられている新島襄の「良心」の碑「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」は、私学同志社の果すべき精神的遺産の要言でもある。この同志社百余年の風雪の歩みは、明治維新以降の日本の百余年の歩みと並行するものであり、日本の近代化過程の曲折ならびにその展開の経緯と複雑にからみ合って進んだ。かかる意味では、私学同志社の歩んだ姿は、また近代日本のキリスト教、教育、思想の一つの凝縮したそれでもある。



山本覚馬 (1828~1892)

■ 今日の同志社大学の課題

いうまでもなく、今日の同志社大学は直接には1948年(昭和23)4月、新制大学として発足した神学部、文学部、法学部、経済学部の四学部ならびに翌1949年4月に発足した商学部、工学部のあわせて6学部および1954年4月に開校した大学第2部[夜間](文学部の英文学科、文化学科の国文学、法学部、経済学部、商学部、工学部)、さらに1950年4月に設置された神学・文学・法学・経済学・商学の各研究科、1955年4月に設置された工学研究科の大学院課程をもつ大学に端を発している。この新制大学の発足にあたって、戦時下の同志社において第10代総長として苦悩をなめ、戦後再び招かれて第12代総長となった湯浅八郎は、新島襄、キリスト教主義、国際主義、民主主義という同志社の精神的遺産を再生することを



1882年11月7日付「同志社大学設立之主意」の草稿(新島襄筆)

しばしば唱道した。今日、その大学の発足以来30余年を経過し、その間、学科、制度の改廃、充実、施設の増強・拡張が行なわれ、今日にいたった。

さて、こうした新制大学の発足以前においては、1912年(明治45)専門学校令による同志社大学、さらに1920年(大正9)大学令による同志社大学は、同志社の予科、専門学校の卒業生をもって、大学学生を構成する小じんまりした性格をもっていたが、現在、大学学生の大多数は同志社外の高校卒業生をもって構成され、しかも、全くその相貌を一変したのは他の私立大学と同様に、学生数の急激な増大化現象である。かつ、第二次大戦後の社会においては、キリスト教主義教育を立学の基本とすることにおいて、開学以来そして戦前、戦中の同志社がいくたびかなめた苦難と桎梏からは解放されたが、そのキリスト教主義教育をかかげて、新しい大学を創出することが、まさに私学同志社としての独自性にかかわる緊急重要な課題である。

■ 新島襄とその遺志を継承した人びと

こうした解決すべき課題に直面している同志社は今日ほど、ふるい格言にもあるように「温故知新」まさにその歴史をたずね、闊達な視野をひろげて、新しい伝統の創造に務めなければならない。

いま、ここではその同志社の歩みをすべて跡づけることはできないが、創立者新島襄、ならびにその遺志を継承して同志社大学の業を進めた跡をたずね、明日への展望の足掛りとしてみよう。

新島襄の同志社創業の業は、わずか15年間であって、その生前において、年来の素志である「大学」を、ついにこの地上に見ることがなかった。彼はその席の温まる暇もなく東奔西走し、その生涯は伝道と大学設立を訴えて病軀に鞭うつ毎日であり、1890年1月23日、神奈川県大磯で客死した。その新島襄には学校設立の業において、いくつか教育国に寄せた熾烈な姿勢、態度をうかがうことができる。

その一つは、その発端である1875年8月の「私塾開業願稿」、それはまだ「同志社」の名称が確定していない段階であるが。彼は、その中で文部省の規則では外国人宣教師を雇入れて、学校教師を兼ねることは許可されないことを十分承知しながら、「敢て犯則之罪を顧みず」宣教師デヴィスを教師として採用しようとした態度である。

その二は、1882年の「同志社大学設立之主意之骨案」において、当時、関西に大学のない現状にかんがみ、「維新ノ民タルモノ……セメテ民資ヲ集合シ一大学ヲ関西ニ創立」しようとする官学、そして中央に対して、「民資」まさに国民の力をかりて大学を創設しようとする反骨の主張である。

その三は、自由民権運動の激化するなかで、学校の須要な学科を、「最モ急且要ナル者……即チ法学ノ一科」(1883年の「同志社大学校設立旨趣」といい、さらに「最モ急且ツ要ナル者……即チ文学ノ一科」(1884年の「同志社大学設立旨趣」という推移を見せて、すなわち、外にむけて発せられる過熱化した政治意識に対応する人間の「内部生命」=良心の光沢を磨くことを緊要であるとした姿勢である。

その四は、以上のすべてを集約した1888年11月の「同志社大学設立の旨意」に展開される私学教育宣言である。それは「全国民の力を藉りる」という表現を再三くり返して、私立大学の設立を訴えるもので、そこには凝縮された新島の思想をうかがうことができる。

吾人は政府の手に於て設立したる大学の実に有益なるを疑はず、然れども人民の手に拠て設立する大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信ず、素より資金の高より云ひ制度の完備したる所より云へば、私立は官立に比較し得可き者に非ざる可し、然れども其生徒の独自一己の氣象を發揮し、自治自立の人民を養成するに至っては、是れ私立大学特性の長所たるを信ぜずんば非ず……

一国を維持するは、決して二三英雄の力に非ず、實に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざる可からず、是等の人民は一国の良心とも謂ふ可き人々なり、而して吾人は即ち此の一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。

新島襄の主張し続けた「自由教育」、「自治教会」の双輪の業は、彼の死によって中断した。新島の後を継いだ人々が、その遺志を継承する姿勢を執ったのは、その業の中途に終わったからである。しかして、新島の死後、同志社に見舞ったものは、澎湃として起った国粹主義思想を背景とするキリスト教排撃論、いわゆる「教育と宗教の衝突」問題であり、文部省訓令第12号によって、その生命とする宗教教育、儀式を正規の学科課程のなかで行ないえなくなったこと、ならびに徴兵猶予の特典を与えない教育行政の圧迫であり、また、これと連動して同志社におこった「同志社綱領」の基本を改削する動き、ならびに永年継続していたアメリカン・ボードとの友好関係の断絶など、苦難と荆棘の道をたどることになった。新島の後を継いだ第2代社長小崎弘道の辞職後、1907年1月、原田助が第7代社長（のち総長）に就任するまでのわずかに11年の間に4人の社長が交代し、同志社は衰漸の途をたどった。

原田助が社長に就任した11月、同志社は創立32回の記念日を迎えた。原田助はこの記念日の司会にあたって、「私は言葉を以て述べるよりも、故新島先生が大学設立の趣意書に記されたものは尤も簡明にして又其要を尽して居ると思ひますから、私の話に換へて同設立の趣意書を読み度と思ひます」と述べて、新島襄の「大学設立の旨意」を朗読し、その遺志を継承する姿勢を表明した。原田のこの提唱に、いちはやく呼応し、これを支持したのは校友であり、ついで社友・教職員であった。当時、早稲田、明治、法政、日本、慶応義塾などはすでに専門学校令による学制を整えて、「大学」を称していたことも大きな刺激であったとしてよいであろう。かくて、明治中期、新島襄の大学設立義損金募集にも対比すべき募金活動が展開された。原田の「同志社明治43年度報告」(1911年3月31日付)によると、「大学基本金募集の議は校友に依て發議せられ、校友会の賛成を得、忽ち寄附申込を得ることとなり、遂に理事会の採用する所となれり……幾千もなく予期額〔30万円〕に達すべきを以て、更に時機を計り、進んで江湖有志の協賛に訴へ吾等の素志を貫徹せんことを期す」とある。同志社が専門学校令による「私立同志社大学」の認可をうけて、神学部、政治経済部の2学部と英文科の1学科で発足するのは1912年4月のことである。それは新島が大磯で「鶏鳴早已報佳辰」としたときから、すでに23年を経過していた。新島の宿志である同志社大学が発足しえたのは、新島の遺志を継承しようとし、かつ、同志社の名につながる多くの人びとの協力一致により、またこの動きに呼応する多大の支援があったからである。

こえて、1920年(大正9)4月、同志社は日本におけるキリスト教主義の大学として、はじめて認可され、大学令による大学となった。これは1918年12月に公布された大学令に基づくものであり、法学部(政治学科・経済学科)、文学部(神学科・英文学科)の2学部と予科、大学院を併設し、1920年2月、すでに発足していた慶応義塾、早稲田に続いて、法政、明治、中央、日本、国学院の各大学とともに、大正期の日本における高等教育を担う私立大学となった。第8代総長海老名弾正は当時の澎湃とした時代思潮を背景として、人格主義、デモクラシー、インターナショナリズム、男女平等の思想を大学教育の原理として、同志社大学の学風を形成、樹立することに努めた。この大学の発足、展開が、また新島襄につながり、同志社の名において結ばれた多くの人びとの、永い間の協力によったことはいうまでもないが、とくに、その発足に当って、注目すべきことは、当時多くの在学生在が決議して、大学となるための必須の要件の一つである図書の実のため、その購入費として寄附金を醸出することを申し出て、かつ、大学としてキリスト教主義教育を維持、展開すべきことを主張したことであった。

■ 同志社大学の使命

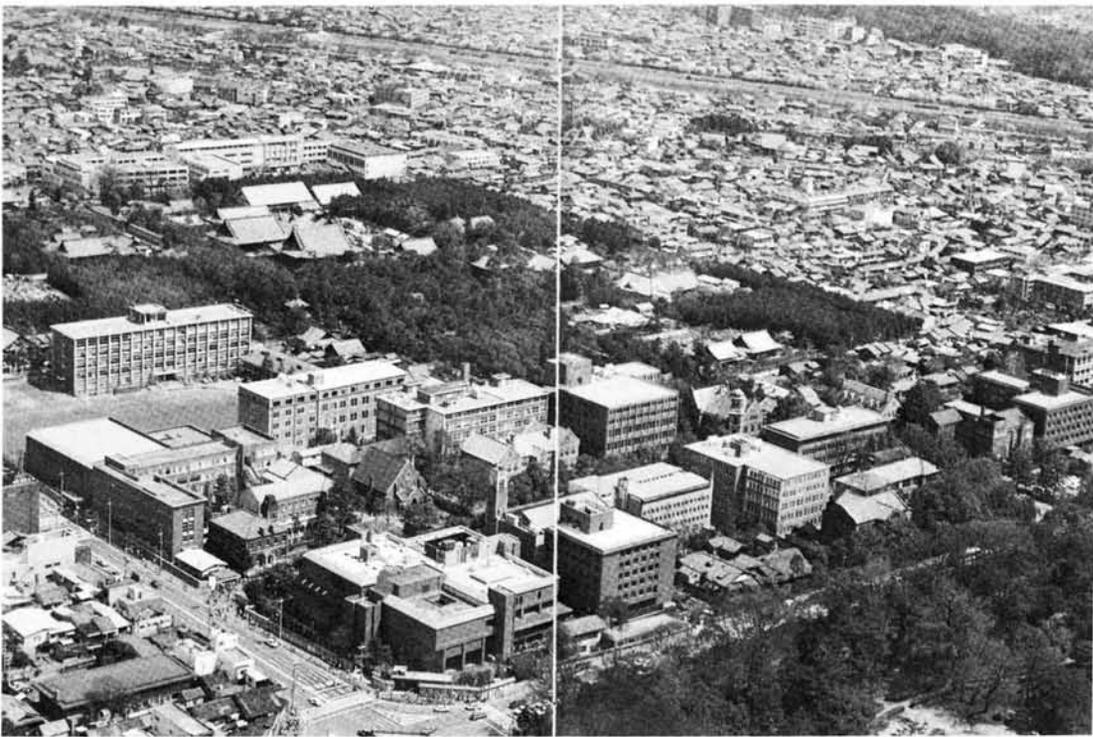
ひるがえって思うに、同志社大学の今日の精神的根基は、まさに新島襄の教育・伝道の理想を発展させた、独自一己の気風の形成、創出になければなるまい。しかも大磯の病床で新島襄が同志社に遺した遺言の条々はいまも我々の使命の那辺にあるかを示しているといつてよい。

同志社の前途は基督教の徳化、文学政治等の隆興学芸の進歩三者相伴ひ相待って行ふ可き事 同志社教育の目的は其の神学政治文学科学等に従事するニ係らず皆精神活力あり、真誠の自由ヲ愛し、以て邦家ニ尽す可き人物を養生するを務む可き事

社員たるものハ生徒ヲ鄭重ニ取扱ふ可き事

同志社ニ於てハ^{てきとう}個儻不羈なる書生を圧束せず務めて其の本性に従ひ之ヲ順導し以て天下の人物を養成す可き事

同志社は隆なるニ従ひ機械的ニ流るゝの恐れあり切に之を戒慎す可き事



同志社大学 (今出川学舎)

Ⅱ 明治編 (同志社グリークラブの誕生)

明治44年
(1911)

この年の秋、片桐哲氏(大2卒)は東寮の寮長であり、そのもとに同好者が集い合唱(と
いうよりも重唱か)をしていた。ここに集まる人々は勿論何の組織もなく、また将来どう
しようかという野心もなく、ただもの好きで集まっうなるのみであった。

9月、東寮の弁論大会が開かれ、その席上8名の人々によって、男声三部合唱で讃美歌の「はなよりもめでし」
(524)を歌い、ここで初めて『同志社グリークラブ』の名を公けにした。その当事者は、片桐哲氏(大2卒)、平賀徳
造(大6卒)、浜田光雄氏(大7卒)、平田甫氏(大7卒)、川中忠治氏、松岡繁氏、谷為三氏、谷喜楽氏であった。

これを機会に部員も増え、本格的な合唱団として12月には、ろうそくの光の中で「ほしをしるべに」を四部で
歌った。そして岩村清四郎氏(大2卒)、浜田格氏(大4卒)、錦織貞夫氏(大5卒)、柳島彦作氏(大5卒)、三宅讓
氏(大6卒)らが入部したのもこの頃である。

片桐氏のもとで、グリークラブは技巧も進み、声も洗練され、声量も豊かになって、カンタータやオラトリオ
なども演奏する様になった。



同志社グリークラブ創設者
片桐 哲

グリークラブの創設

— 私の学生時代 —

片桐 哲(大正2年卒)

私はまだ急行列車などなかった明治37年に東北の仙台から二昼夜の汽車の旅をへて、普通学校に転入学してから大正2年に大学神学部を卒業するまで、8年間、同志社に在学しました。明治も後期の時代で、日露戦争の始まった年にやってまいりましたので、今から60年以上の昔になります。当時の京都市の北の端は丸太町止まりで、電車はありましたが、七条駅から北野行と出町行の単線の、今は姿を消したチンチン電車で、まだ自動車もなく、速度の速い乗物といえば人力車だけで、貧乏学生には徒歩が唯一の交通機関だった時代でした。従って同志社は広大な御所と相国寺とにはさまれた、都心から遠く隔離された閑静な同志社村とでもいった方がよい環境でした。当時の同志社は最も衰微した時代で、男子部と女子部とを合しても400名前後の学生生徒しかいなかった小さな同志社家族でした。当時は今日とは事情が異なり、同志社と同志社教会とは一身同体で一つの経営の下にあり、同志社生活の中に渾然と融け合っていました。すなわちチャペルを中心に、聖日の礼拝式も、若王子の墓参も新年会も、皆一緒に行われていました。少数の自宅通学の学生を除いては、ほとんど全寮制といって



彰 栄 館 (明治17年9月竣工)

明治8年11月29日に創立された同志社の、開校当初の校舎は、すべて洋風の木造2階建てであった(そのうち1棟は、いま田辺校地へ移築されている)。彰栄館は本学最初の煉瓦建築で、設計者は同志社教員の宣教師D.C.グリーン。施工は尾滝菊太郎という京都の大工の棟梁であり、内部の眼に見えない部分は、すべて日本建築の技法によっている。

時計塔に特徴がある建物で、その塔には明治20年に時計機械(重要文化財)が組み立てられた。また塔の内部に吊られている西洋の鐘を、生徒がアルバイトで鳴らし、その鐘の音が授業の開始や終了を告げていた。京都に現存するものでは最も古い煉瓦建築物である。

もよいくらいで、同志社村の生活は彰栄館の鐘の音で起床から三度の食事、チャペルの礼拝式、授業の合図、就床の時刻まで規則正しく進められていました。寮生は夕食後御苑の散歩がすむと、集会室に参集して聖書の輪読会を持ち、それから各自の室に戻り、自習時間に這入ります。十時の鐘で就寝という日程でした。

*

授業は五日制で、月曜から金曜までは毎日チャペルでの朝拝式に始まり、全力を教室での勉学に傾注し、土曜日は終日体育のため登山・遠足・ボート漕ぎや各種のスポーツに当て、日曜日は聖日として終日霊的修養に用い、午前中は旧神学館のクラーク・ホールの教室を中心にして日曜学校と聖書の研究会を持ったのち、女子部を加えて一緒にチャペルにて聖日の礼拝を守り、午後は静かに御苑や鴨川堤の散歩や瞑想に過したものでした。金曜日の夕にはチャペルで祈祷会が守られ、彰栄館の鐘にさそわれて女子部の寮生が提灯を手にした舎監の先生を先頭に、行列を組んでやって来るのが印象的でした。日曜日の聖書研究会は年級別に組分けされて、先生方が熱心に指導されました。加藤延年先生、大塚素先生、三輪源造先生などの熱心なご指導ぶりが感銘深く残っています。まことに有難い思い出です。

チャペルでの礼拝式の光景は東側が女子部、西側が男子部の座席で、中央が先生方の御家族や一般会衆の座席という振分けでした。当時の牧師には丹羽清次郎校長、原田助社長、武田猪平総寮長が相次いで熱心に奉仕されました。今から考えて見ると、当時の同志社村は中世紀の欧州の学園都市のような姿で、彰栄館の鐘が教会の鐘の役割を果しており、チャペル中心に同志社の一切の活動が展開されていたのでした。同志社が大京都の都心の中に存在してしまい、京阪神から自家用車で多くの学生が通学している今日、文化の程度も交通事情も社会環境も全く一変してしまい、昔日の面影を偲ぶよすがも無い有様で、まことに隔世の感に絶えません。

*

当時の同志社学生の課外活動の一端に触れて見ると、同志社創立以来の校祖の学ばれた米国からの伝統的な清教徒的禁慾主義の学風が強く残っており、芝居浄瑠璃等はもちろん凡て淫楽がましき場所に立入ることは一切厳禁されており、祇園や京極などはタブー地域であった。その熊本バンドの入学と共に強化されたものと思われるが、歌舞音曲などは甚だ低級なるものとして高踏的に排斥する気風が強かった。それゆえに若人の元氣は自然と学問上の議論や世相の批評や慷慨に吐け口を求め、弁論会などが大いに盛んに催されていた。学年別や対寮間の演説会などよく催されていた。デモステネスの故事に倣って相国寺の松林の中に這入って、発声の練習や演説の予習などする者もあった。



熊本バンド

明治43年の秋だったと思うが、旧の京都市会議事堂で、京都府教育会主催の全国学生大演説会が催された際、関西側代表として京大・立命・龍谷と共に同志社から出演した神学校の榎本修君の熱弁が、関東関西を圧して断然光っておった事など記憶に鮮やかに残っている。私より歳は上であったが一年下の及川八楼君の、校祖の逸事から「血鞭」と題した対校演説会での弁説が、若人の血を沸かした感動的な出来事など忘れることが出来ない。当時の名弁士としては前述の榎本君の外に、神学部には松原大八君や沖田(大塚)節治君、専門部には谷岡勝美君や先の及川君など錚々たるものがいた。

*

学究的な修道的な学生たちは教室以外でもよく先生に質問をしたり、金、土などの夜には三三五五誘い合わせて先生の宅を訪問して、御高説を拝聴したものである。私は保証人を御願していた関係か

らよく波多野培根先生宅を訪問したものである。先生は端座されて瞑目したまま諄々と御高説をはかれるので、足をくずすことが出来ず、たびたび難行を嘗めたことを思い起すのであるが、学問と教養を深めるためには古典を原語で研究することの重要性を説かれたことがあった。そうした御教訓などが知らず識らずのうちに、私をしてヘブライ語の研究に進ましめた遠因となったように回想させられるのである。このように教師と学生との人格的接触はまことに濃厚であったので、設備の不足や不満をよく克服して年月が経てば経つほど同志社教育に対する感激が深まるばかりである。

*

当時の学生スポーツは柔剣道の外に日露戦争の影響か相撲が盛んになり、東寮の第三寮の前庭に土俵が新設されて盛んに稽古が行われ、品川義介君など得意の業を発揮していた。そうした稽古場に謹厳そのものといったような和服姿の波多野先生がたびたび現われて、奨励されていたのも忘れられない印象である。こうした国粹的気風の復活の影響か、寮舎内では夜間よく肝試しというものが行われていた。暗い不気味な夜中に相国寺の竹藪の奥にある石燈籠の所まで、ところどころに控えている上級生の嚇しの声に肝をつぶしながら往復させられることなど行われていた。

学生スポーツといつてよいか知らないが、同志社の旗奪いの競技は当時の同志社学生としては忘れることの出来ない勇壮なものであって、運動会でのクライマックスを飾るものであった。後日学生数が増加するようになってからは、拡張された現在の校庭に移されたが、以前は上加茂神社の大鳥居を這入った左側の芝生が恒例の運動会場であった。男子部の学生生徒の中から選抜された青竜白虎の二部隊が分かれて、3メートルくらいの棒の先に立てられた旗を奪い合う競技である。まことに猛烈な攻防戦であり肉弾戦であった。この競技に士気を鼓舞するため、開始前に剣舞が演ぜられたものである。当時の美少年阪本行郎君の妙技が今なお脳裡から離れない。

日露戦争がわが国の勝利に終って急に世界の日本に飛躍したためか、旧来のスポーツ界にも洋風のものも台頭して来た。もちろん同志社には創立以来の米国との密接なる関係と多くの宣教師の感化でベースボールやア式蹴球のまねごとは早くより行われていたが、素手で投球し合ったり、大きなボールを蹴合ったりする程度の幼稚なものであったが、漸次進歩して行き、放課後や土曜日などには、御苑の北東側の芝生が特に同志社学生生徒のためその使用を公認されていた。私が大学神学部に進んで後、選ばれて東寮の第三寮の寮長に任命され、普通部の少年たちの監督の責任を負わされるや、勉学と徳育との外に体育の増進にも責任を痛感し、寮生にベースボールを奨励することを決心し、ミットやグローブその他揃いの用具を購入して、やり出したのはよかったが、その費用を運動具店に支払うのに、長い間四苦八苦したことを思い出されるのである。ラグビーが盛んになったのもその頃であって、市内の三高との対校試合には全校をあげて応援し、血を沸かしたものであった。

*

こうしたスポーツ界における洋風の流入と共に学生の文芸方面にも漸次洋風が台頭しかけて来た。歌舞音曲を卑しいものとして排斥する封建性と堅苦しい禁欲主義的ピウリタンの学園内にも、もう少し潤いのある生活を、高い教養を維持しながら趣味の豊かな生活、堅固な徳行を維持しながら芸術の香り高い生活、特に若人の潑刺たる気魄を発現させる合唱芸術、そうしたものを目指して動き出す気運が同志社内に漸次台頭しつつあった。そうした気運を頓に強化したものは、同志社内部からではなくして、各地方で別々に宣教師たちの感化を受けて同志社に入学して来た者たちの間から醸し出された、清新な音楽的活動からであった。遠い北海道の札幌市で音楽一家として有名だった宣教師ローランド氏の感化と指導とを受けて、伝道者たらんとして同志社神学校にやって来た渡部守成氏は、ポリウムのあるバスの歌手であったし、少し遅れて同じく札幌から神学校に入学した海老沢亮氏もバスの歌い手であった。それから東北の仙台市で、宣教師デフォレスト氏夫人やブラットショウ女史から仕込まれて教会で独唱などしていた速水(秋保)藤助氏、これまた伝道者を志望して第二高を中退し、

同志社にやって来た。同氏に後
れて三年後には小生も仙台から
やって来た。次に東海道の名古屋
市で音楽の盛んな美以派の宣
教師たちの感化を受けて、伝道
者を志して入学して来たテノー
ルの近藤優、バスの境野周次郎
の両氏、近畿からでは神戸女学
院の宣教師たちの活躍していた
神戸教会から同志社普通学校に



満鮮演奏旅行 (1917年夏)

左より山口隆俊・原忠雄・平田甫・小島応・大中寅二・堀内清氏

入学して来た佐野(千谷)清之助、横田確三の両君、京都在住者としては日基派の牧師の息子だった穂永齊君、平安教会の堀内清君など比較的年少者ではあったが歌が上手であった。こうした歌の上手な者たちが、期せずして同志社内に合唱音楽の気運を興隆する役割を果たす存在となった。もちろん主として教会の礼拝や宗教的集会の応援として校外で活動していたのであるが、同志社の礼拝式や宗教的集会にも力を入れていたし、彼らの音楽的水準は高かったので、漸次その感化と影響とが内部に浸透せざるを得なかった。しかし彼らの主たる活躍の舞台は市内の教会にあったので近藤、境野、堀内、海老沢の諸君は四重唱団を組織し、ダビデクワイヤーと称して大に活躍しておった。学内では普通学校の比較的若い者の間で長谷川直吉、片桐哲、横田確三、宇野重孝の四名が四重唱団を組織して、卒業式の際、三輪源造先生作詞の歌を合唱するようになっていた。明治39年の早春であったが、「東北地方の冷害飢饉救済のための慈善音楽会」を開催する議が同志社内の東北出身の教師と学生との間に纏り、チャペルで京都では最初の洋楽だけの音楽会を催したのであった。その際に30名ばかりのメンバーでカンタータ「復活節の歌」を合唱したのであったが、大変好評であって、我然音楽熱を高揚する機縁となったのであった。そうした音楽熱が盛んになって来たが、年長の神学生が多数であり指導権を握っていたので、自然と校外の教会中心の活動が対象であった。従って讃美歌や宗教歌が練習の主要部分を占めていた。これに対して学内の一般学生、なかでも寮生を対象とする音楽熱の高揚を目指して合唱団を組織し始めたのが私で、大学神学部に進学するや、間もなく選ばれて東寮の第三寮長に任命されたのを機会に、前述のように体育増進のためベースボールを開始するとともに、清純なる情操涵養の目的を以って合唱を奨励することを決意し、ペビーオルガンを購入して讃美歌を正しく唱う外に、外国の民謡やカレッジソングを教えるようにした。そして寮の親睦会や新年会などに出演せしめて好評を博するようになった。しかし合唱などをする者は軟派とか不良グループとか非難する者が跡を断たず、低音部を牛のなき声などと貶して、牛肉のすき焼などを喰っていると「牛の共喰」などと冷やかす有様で、音楽に対する無理解はなかなか烈しかったものである。

しかし漸次合唱が歓迎せられるようになり、合唱団に加入を希望する者が多くなって来た。そうした希望者があるごとにペビーオルガンの側に立たせて、音階を試した上で声質を選別したのであるが、後日バスの名歌手としてグリークラブで活躍した小島応という脊の高い少年が合唱団に加入したいというので、検声した際、少年としては珍らしく低音が出るので段々と低い音階を出させて行っていたが、限界に達したと見え沈黙してしまった。更に気張っても一音階下を出すよう促がしたところ、大きな口を開いて長い舌(下)を突出して見せたので、思わず大笑いをしたという珍事さえあった。原始時代の思い出に苦笑を禁じ得ないものがある。そうこうしている内に寮生間にも通学生間にも同好の士が参集するようになってきた。当時はまだ「男女席を同じうせず」といった風習が消えず、聖日の礼拝式や創立記念式や卒業式などで男女が一緒に讃美歌を歌う機会があっても、混声合唱団組織など全く考え及びもつかなかった時代で、男性は男性だけで合唱団を組織する以外に途はなかったので、特別な意

味を以って男声合唱団を組織したのでなかったのである。私の養成していた普通校の少年たちも漸次進学して上級に進むに従い、神学部以外の学生も増加するようになり、聖歌以外の歌曲を希望する気運も強くなり、ポピラーソングや外国の学生歌をも歌うことが多くなってきた。外国の大学で組織されているグリークラブの名称には、「愉快的元気な合唱クラブ」という意味を持っているところに大いに心引かれて、同志社にもそうしたクラブを組織することに決心したのが同志社グリークラブの命名の由来であった。学生の音楽活動に多大の関心を示されたシドニー・ギュリック博士から御出身のエール大学のグリークラブ歌集の本「カレッジソング・コレクション」を拝借して、その中から種々の曲目を使用するに至った。それから音楽家の宣教師であり、名テノール歌手であったオルチン師が神学校に音楽を教えるため、毎週大阪からやって来られたが、同氏から提供されたタウンナー氏編の男性合唱集の単行本が創始当時のグリークラブの唯一の種本となったのはそれからである。

グリークラブの名称が生れても全同志社が対象であったから、大学とか中学とかの区別なしに、比較的最近まで、同志社グリークラブの名称が使用されていたのはそのためであった。60年の歳月の歴史はあらゆる点において一大進歩と変革を遂げてしまっている。当時400名 ならずの全同志社の学生生徒は今日では2 万以上に達しているし、音楽の水準も驚異的な躍進を遂げている。当時夢想だにもし得なかった今日の進歩を見る時、ただただ神に感謝する以外に途はないのである。願わくば同志社の精神教育の面においても同様の進歩を遂げ得たならばこれに越した感謝はあるまいともしばそれを祈求してやまないものである。

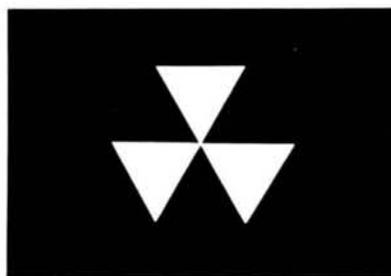
(昭和42年7月「同志社時報」26号より)

同志社徽章

制定年月 明治26年(1893)10月

デザイン 湯浅吉郎 半月

正三角形を三つ寄せたこのマークは、国あるいは土を意味するアッシリア文字「ムツウ」を図案化したもの。考案者の湯浅半月は、本学が生んだ詩人(代表作「十二の石塚」)であり古代オリエント学者である。制定された当時、半月は本学の神学校教授であった。制定以来、智・徳・体の三位一体あるいは調和を目指す本学の教育の理想をあらわすものと解釈されている。



School Color

スクール・カラーはPurple & White (紫と白)の二色である。紫はローヤル・パープルで日本の古代紫と江戸紫の中間色に相当する。創立者新島襄が学んだ米国アモスト大学のスクール・カラーと同色である。社旗は、地を紫に、徽章を白でぬく。

Doshisha College Song



W.M. Vories 氏

この曲はカール・ウイヘルムの「ラインの守り」(当時のドイツ国歌「Die Wacht am Rhein」)で、それに詩をつけたものです。

作詩の動機は、グリークラブの創立者の片桐先生がギュリック先生にエール大学の校歌集をいただいて、同志社にも同志社の歌がほしいとギュリック先生におっしゃったのがきっかけでアメリカでも詩人といわれていたヴォーリス先生にお頼みになったのです。

この詩は One purpose に詩想の根拠をおいてあり、その内容は三節迄が「神の為に」「同志社の為に」「祖国の為に」と詩ったのですが第四節には同志社の発展の為是非必要で、同志社が先に立ってやらねばならない「世界同胞の為に」という考えを折り込んであります。

昭和24年に栄光館でグリークラブが歌っているのを聞かしていただいて本当に上手に歌っていらっしやうと思いました。

作詩者の話

作詩者 ヴォーリス氏は メンソレータムと建築設計を営み、その収益で社会事業、教育事業をやっていることは有名だが、また一面音楽家であり、詩人であり、京大で英文学を講ぜられたことを知る人は少いであろう。「同志社カレッジソングは大正のはじめに作った」と氏自らが述べておられる。

(古沢基生氏一昭13卒一)

Doshisha College Song

W. M. Vories

Allegro maestoso

Carl Wilhelm

One pur - pose Do - shi - sha, thy name Doth sig - ni - fy one of - ty aim To
 train thy sons in heart and hand To live for god and Na - tive land. Dear
 Al - ma Ma - ter, Sons of thine Shall be as bran - ches to the vine.
 Tho' through the World we won - der far and wide
 Still in our heart thy pre - cepts shall a - bide.

Still broader than our land of birth
 we've learned the oneness of our earth
 Still higher than self-love we find
 The love and service of man Kind
 Dear AlmaMater sons of thine
 Would strive to live the life divine.
 Tha: we may with increasing years have stood
 For God, For Doshisha and Brotherhood

一、同志社汝の名にたくして
 われらは目指す
 いとし子が心を鍛え
 腕をみがいて
 神と祖国のために
 生きることを
 親愛なる母校よ
 汝のいとし子は
 ぶどうの枝のごとく
 はるか遠く
 世界をさまようとも
 汝の教えは
 われらの心に生きる

四、われらは学んだ
 生まれ故郷より
 はるかに広い世界が
 ひとつであることを
 愛とわが身を捧げることが
 自己愛よりも気高いことを
 親愛なる母校よ
 汝のいとし子は
 聖なる人生を送ろうとしている
 時の流れの中で
 われらは生きる
 神と同志社と世界同胞のために
 (中村洋子 訳)

Ⅲ大正編

大正元年 (1912)

12月、クリスマス記念音楽会。聖歌隊として同志社教会主催のクリスマス礼拝に「みさかえハレルヤ」を合唱した。錦織氏はソリストとして大活躍であった。

大正2年 (1913)

片桐氏らが卒業され、グリーの前途が案じられたが、選挙により浜田格氏(大4卒)が指揮者に、浜田光雄氏(大7卒)が書記とられた。この年の10月、聖歌以外のものも歌いたいという希望から、柳島氏、川中氏らが「プリムローズバンド」を作られた。そしてほどなく「プリムローズソサエティ」と呼ばれるようになった。

また、錦織氏や美濃部董氏(大5卒)、内海孝夫氏らが中心となり、マンドリン合奏をはじめられた。これが現在の同志社マンドリンクラブの揺籃である。

いよいよ同志社の音楽熱は盛んになり、その結果、全体としての音楽会が望まれるようになったので、5月24日に全同志社演奏会が開かれた。同志社における総合音楽会として特筆さるべき行事であった。そのプログラムは次のとおりである。

全同志社演奏会プログラム

- | | | | |
|-----|----------------|-------|---------------------------|
| 一、 | 開 会 の 辞 | | 芦 田 教 授 |
| 二、 | オルガン連奏 | | 郭 馬 西
陳 清 忠 |
| 三、 | コ ー ラ ス | | グリークラブ |
| | 「ザ・ビューティフルランド」 | | |
| | (※希望の島のことか?) | | |
| 四、 | 二 部 合 唱 | | 河 原 五 郎 |
| | 「春夜の夢」メンデルスゾーン | | 志 水 義 孝 |
| 五、 | 台 湾 絃 楽 | | 林 育 伯 |
| 六、 | コ ー ラ ス | | グリークラブ |
| | 「ユッパイデイ」 | | |
| 七、 | オルガン独奏 | | オズグッド 嬢 |
| 八、 | コ ー ラ ス | | プリムローズソサエティ |
| | 「ウオニタ」 | | |
| 九、 | 独 唱 | | グローバー教授 |
| | 「アウトオンザデープ」 | | |
| 十、 | 四 部 合 唱 | | 錦 織 貞 夫 |
| | 「コールジョン」 | | 浜 田 格
平 田 甫
川 中 忠 治 |
| 十一、 | オルガン独奏 | | 富 永 孟 |
| | 「ウオタローの戦い」 | | |
| 十二、 | 朗 読 | | ケリー教授 |
| 十三、 | コ ー ラ ス | | グリークラブ |
| | 「復活カンタータ」 | | |

プリムローズ

プリムローズとグリークラブ



西邨辰三郎(昭和7年卒)

そもそも大学プリムローズクラブは、大正2年頃、グリークラブから派生した男声合唱団で、学友会所属のれっきとした合唱団であり、僕らの時代は、グリーとともに片桐哲先生がプリムローズの顧問でもあった。

派生の理由は、グリーが神学生中心の聖歌隊的存在であったので、宗教音楽はもとより、世界の民謡や合唱曲も歌いたい連中が、プリムローズという新しい男声合唱団を組織したのである。

昭和3年プリムは宝塚大劇場で開催された全関西合唱コンクールに敢て出場し、第一位を獲得したすごい歴史も持っている。その時貰った優勝杯に、なみなみと泡立つビールを注ぎ、一同廻り持ちで乾杯した歓喜と醍醐味は、未だに忘れ得ぬ私の合唱歴の一大イベントであった。

プリムローズという名称は、「櫻草」のことで、その昔イギリスの国会議事堂で活躍した上院議員のビーコンスフィールド卿が、議政壇に立つとき、常に上衣のフラワーホールにプリムローズの花を挿していたという故事来歴によるものであった。そしてその心は、人間と生れたからにはいかなる世俗の真只中に投げ込まれても、いつもその花のような美しい心を生かすべきだ

という優雅な物語りから、あやかり得た名であることを私どもは先輩から聞かされていたのである。

基督教主義を以て建学の精神とする同志社の合唱団に於て、大学グリーはまずは与党で、その練習場も立派なリードオルガンを持つ神学館（現在のクラーク記念館）の二階の礼拝堂があてがわれ、祈禱を以て、練習を始めていたそうだ。そこへくると野党のプリムローズはひどい待遇で、今は影も形もない寺小屋と称していた堀立小屋（現在は啓明館すなわち旧図書館前の新



全関西合唱コンクール優勝(昭和3年秋)

島先生記念品倉庫あたりに建っていた粗末な木造瓦葺一階の建物)で、一人でもけっこうかつげるようなペビーオルガンで練習を続けていた。

私の予科時代、グリーは神学科の森本芳雄兄、プリムは英文科の岡橋祐兄が指揮をしていたが、惜しいことに二人とも亡くなられた。その後を継いだのが、グリーではいま浜名湖近くに住んでいる神学科の山田基男兄、プリムローズは、依然京都に住んでいる法律科の私が指揮者となったのである。二人とも元気で、それぞれ好きな道を歩み、今も相かわらずの友人付合をしている。

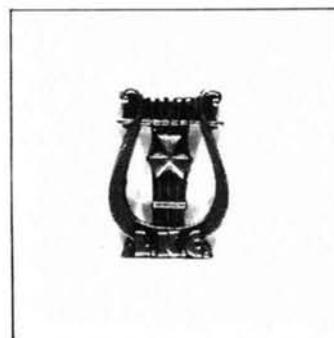
第二次世界大戦中「西洋名はよくない」との軍国主義国家の指令で、グリーとプリムローズは合併させられその名称も「同志社大学男声合唱団」という固い名前になった。

敗戦後もしばらくその名は続いたが、昭和22年頃かと思うが、その名称は外され、同志社グリークラブとなった。合併後の改名であったから、その名称は昔のグリークラブに帰ったが、実情は昔のプリムのように、宗教曲はもとより、その他の日本や世界中の合唱曲もバリバリ歌うようになり、いってみればプリムの要素が主流を占めるようになった。その頃から始められた朝日新聞社の合唱コンクールに、同大グリークラブは出場しているし、たしか織田幹雄兄か日下部吉彦兄が指揮をしていた時代、グリーは、昔のプリムのように関西第一位の栄誉を獲得している。自分から言うのも可笑しいが、同志社からは昔のグリーの指揮者森本芳雄兄とプリムの指揮者であった私とは、当時の合唱コンクールの審査員になっていて、度々中之島の朝日新聞社で会議をしたことを覚えている。

因みに言っておくが、プリムローズ部員の有志が、大正7・8年頃同志社大学マンドリンクラブを創設し、また私の時代には、校内の徳照館の高商の学生達が、グリーやプリムローズに入っていたが、高商が岩倉に移転してからは、主としてプリムの連中が、「リーダークラツ」という合唱団を設立し、そのバッジはプリムのバッジとほとんど同じものを作っているのも面白い。

私は同志社に連なる一人として、グリークラブに対しては入学の当初から今日に至るまで、その存在の価値を高く評価している。また永年グリーを愛して召天された片桐哲先生や顧問の遠藤先生の基督者としてのご人格にも畏敬の念を抱いている。

創立当初は宗教音楽を根幹としていたグリーから、先きにも述べたプリムローズが起り、合併して再び同志社グリーとして活躍している男声合唱団の上に、神の御祝福がいよいよ豊かにあるよう祈りつつ筆をおく。



「プリムローズ」のバッジとよく似ている、現在の「同志社リーダークラツコール」のバッジ

プリムローズクラブ創立について

プリムローズ創立者の一人

故 柳島 彦作(大正5年卒)

大正2年頃かと思うが学生生活をもっと潤いのあるものにしたいと言うので、或夜東門前町にあった三輪源造氏宅の二階で原忠雄氏(大7卒)、川中忠治氏、平田甫氏に小生が集り相談した結果、宗教的なものに限らずもっと自由な範囲の合唱団を作ろうと言う事になりプリムローズが創立された。最初の部員は井上美憲氏、河原五郎氏、平田甫氏に小生であった。

その後しばらくして内海孝夫氏、山本完二氏、安田一氏、鈴木深蔵氏、宇野貞二郎氏らが入部し、井上美憲氏が指揮者となり当時の図書館(今の有終館)の三階に集って合唱練習を開始した。

当時のグリークラブは神学生が多く、随って教会音楽の研究演奏を主として盛んに活躍していたが、

グリー部員の経済科生などはグリーのこの行き方に満足出来ず、斬新な学生の歌や愉快的な曲を研究する目的をもってグリーと袂を分ったのであるが、決してグリーに対抗するとか感情問題の衝突とか言う事はなく、その証拠には平田氏はグリー、プリムローズの両方に属していたし、大演奏などになるとグリーと仲良く協力してこれに当たったものだ。

当時のプリムローズには体格の立派な運動選手が多かった関係上声量もあり、潑瀾としていて元気に満ちパバリパバリ歌っていた様に記憶している。

井上氏が卒業してから川中忠治氏が指揮者となり、氏が大正6年に経済科を卒業するや露口四郎氏が之に代り、翌年露口氏の跡を継いで藤田幾三氏が指揮された。

プリムローズクラブの思い出

大正7年度指揮者

故 橘 威(大正8年卒)

前指揮者露口四郎君の後を継いで、新入部員合して30数名と共に大正7年度発足にあたり、有能なマネージャー鳥居健君、金松史郎君を擁して、新春4月赤煉瓦のチャペルに集結した。水谷央君の指揮するグリークラブは神学館にあり、大中寅二君のジュニアグリークラブは中学部にあつて氣勢をあげていた。

自然当部員の意気もナカナカ盛んであった。然も同志社マンドリンクラブの部員が殆んどプリムローズで占めていたので、合唱技量は別として、一般に対するポスターパリュエがあり、派手な存在であった。然し当時は特色あるソロイストもなく、指導者もなく、ただ同好者の寄せ世帯でお互に曲の解釈と意見の持ち寄り、それを指揮者が一応まとめると云ふ行き方であった。



大正8年(1919)4月頃のプリムローズクラブ

所謂盲目蛇に怖じずで随分勇敢に唱ったものである。当時は合唱曲も少く、主としてターナーやフォスターより選曲、山田耕筰氏作曲のものは、その頃一般同好者の注目していたもので、同氏の曲を多く採用したのも当然の傾向であった。「故郷を離るる歌」、「希望の島」平田先輩の「詩篇98篇」は既にお家芸であった。

奈良演奏会は部員福田嘉樹君の尊父弁護士福田正己氏の御尽力により、シャイベリー先生の軍服姿での独唱、OBの露口君、加藤君、富田君(後の富田マンドリン合奏団主)と大阪の永井氏等を迎へてのクオウテットで華々しく開催した。名古屋演奏会はプリムローズの遠征で、鼎の軽重を問はれた催しであった。当時、日独戦終了後の青島俘虜収容所が名古屋にあり、恰も当日の会場の商工会議所の別室で俘虜諸君の慰安会があり、我々もダブルクオウテットで何か歌い、彼等の拍手を受けたことを記憶している。滋賀県信楽演奏会は全く田舎式で、芝居小屋にお客は藁堂に坐り込み、弁当御持参で聴

いて貰った。「ジョンブラウンズあんころ喰いたい」や部員演出のひょうたん山、恋の辻占、あんまさん、夜泣うどん等のコスチウム付出演と合唱伴奏に聴衆ヤンヤの喝采、今思へば誠に長閑な音楽会風景であった。然しいつもこんな呑気な演奏会ばかりによい気になっていたのでない。教会への奉仕や同志社イーヴの演奏の部員の真面目さは、恐らく今日以上に発揮されていたと思ふ。

グリークラブの宗教音楽への一辺倒に対して、プリムローズが一般大衆向選曲をしたと云ふ意識は当時既に我々には無く、部員中に基督教徒も多く、讃美歌もよく選曲し、京都教会、平安教会、同胞教会、膳所教会等の讃美礼拝並に小音楽会に参加し、三条Y M C Aで合同演奏会を催し、水谷君の指揮で合同大合唱もやっている。

大正8、9年頃は日本財界のパニックを反影して卒業生の就職戦線異常時代であり、一般社会も文化面に足踏みをしつゝ、あったので、我々プリムローズの活動も緩慢になり、合せて大正8年度卒業は7月の盛夏となったので、例年の卒業生送別演奏会は中止の止むなきにいたった。恒例の指揮棒渡しの行事が出来なかったことを今だに残念に思っている。当時は一般に合唱団の結成が少なく、卒業後のOBとして同好の士と歌ふ機会は殆んどなかったがために、大多数のOBとの連絡はなく、年々の現役プリムローズクラブへの後援奨励の実がなかったことを遺憾に思っている。

プリムローズクラブ

同志社学生一般同好者、会員中に京都會員も5、6名あった。大正6年マンドリン部員も大部分参加。富田マンドリンクラブ独立。

プリムローズクラブ指揮者

	井上美憲氏	川中忠治氏
大正6年	露口四郎氏	藤田幾三氏
大正7年	橘 威氏	
大正8年	田島光三氏	
大正13～大正14年	滝 久雄氏	
大正14～昭和3年	岡橋 裕氏	
昭和3～昭和7年	土方(西邨)辰三郎氏	

プリムローズ演奏会

大正6年5月 ○奈良市演奏会……………同市劇場
シャイベリー教授 米軍服姿で独唱
露口、永井等、加藤、古川クオウテット

大正6年10月 ○京都大学管弦楽団、プリムローズ合同演奏会
「ローエンゲリン結婚行進曲」 合唱部をプリムローズ演奏
指揮者 京大 深瀬氏

大正7年 ○グリークラブ・プリムローズ合同演奏会……………三条青年会館
グリークラブ指揮 水谷 央氏

大正7年5月 ○名古屋市演奏会
青島独逸俘虜収容所でマッチの軸で作ったオルガン演奏に驚いた。
同所独逸人の造ったソーセージ試食

大正7年9月 ○大津膳所教会演奏会

大正7年10月 ○滋賀県信楽町演奏会……………同町劇場

大正6～8年 ○同志社チャペル、平安教会、同胞教会、京都教会演奏会

プリムローズの思い出

プリムローズ幹事

長谷川常次郎(昭和5年卒)

曲目の傾向

当時はグリークラブが宗教的なものを選んでいたので、非宗教的なものを練習していました。滝氏の頃は黒人霊歌のようなものを練習しておったかと思います。岡橋氏の頃、初めはオペラのもの、例えばグノーのファーストより兵士の歌（これはプラスバンドの伴奏でイヴにやったかと思います。）等でしたが、後の頃にはドイツ宗教歌等を選ばれたかと記憶します。土方氏になって、初めは所謂現在高校で歌われるような曲目が多かったかと思います。当時太田黒養二氏(昭和3年卒業)が入部しておられましたが、照井氏の御弟子さんで解釈、発声、技巧の上で全学ピカールの歌手であったかと思います。

昭和3年の秋だったかと思いますが、現部員及び太田黒氏等のオールドボーイ合同のダブルクワルテットを作って、宝塚主催の合唱コンクールに出場したことを憶えています。昭和4年春の休暇に、小生の斡旋でグリークラブと合併のメンバーでダブルクワルテットを作り、同メンバーでマンドリンクワルテットをも作って、沖縄に演奏旅行をしたことを思い出します。当時女専とグリー、プリムローズ合同の混声合唱をしたことはグリーの歴史とも重なることでしょう。

第一回プリムローズ私演音楽会

50周年記念誌編集部

先日、グリー先輩山田健三氏に昔のグリー楽譜やプログラムを頂いた中に、貴重なこのプログラム一枚があった。プリムローズソサエティーの歴史が今尚不明であり、従って当時のレパトリーがどんな物であったかが、このプログラムで大体の概要を知る事が出来ると思う。

時 昭和4年10月1日 午後7時

場所 華頂会館（昔は演奏会場と云えばこの会場と市公会堂以外になかったそうだ。今も（昭和29年）祇園知恩院北側にあるが暗い。）

昭和4年頃のプリムローズは第2黄金時代と云われている。即ち西邨辰三郎氏が当時プリムローズ指揮者として縦横無尽の活躍をされた時代である。尚「私演音楽会」と称しているが、これは多分に同志社マンドリンクラブの影響であろうと思う。

指揮者 西邨辰三郎氏

伴奏者 小森 七郎氏

賛助出演 榊原多恵子氏

(先輩) 太田黒養二氏

生田 定一氏

坂根 新一氏……外3氏

メンバー

29名の氏名が記されているが、現グリー先輩名簿にも校友会名簿にも掲載されてない人が案外多い。

(第一テナー)

後藤正三郎氏、長谷川常次郎氏、井上星人氏、大石保明氏、多賀谷重信氏、吉田一雄氏、吉田孝夫氏

(第二テナー)

今栄武次郎氏、神松国良氏、木村繁一氏、徳本繁彌氏、山田弘氏、山崎喜三郎氏、吉田利光氏、吉村清氏、

(バリトン)

江口常雄氏、番野五良氏、藤井義久氏、藤田重寛氏、岩内日出男氏、古賀千代松氏、西八条俊彦氏

(ベース)

井保吉太郎氏、神康生氏、峯籬光彦氏、田中兼誉氏、渡辺充生氏、横江稔氏、松井進氏

太田黒養二氏は同志社在学中、プリムローズのソリストとして活躍されたが、若くして照井穰三氏に学び、その後フランスに遊学、世紀のバリトン歌手パンゼラに師事し日々研鑽に努めた。昭和6年に帰朝、翌7年にデビューし、楽界人、批評家をして「声量、ディクッション、テクニックのすべてが完璧な純芸術歌手」と矚目せしめ稀に見る名テナーとその将来を約束され、フランス歌曲の唯一の正統的名歌手となられた。尚、氏は今日活躍して居られる宮本良平氏の先生であった。しかし昭和14年にローゼンシュトック指揮、新交響楽団(現N響)伴奏で「カルメン」のホセ役名演奏を最後に、惜くも早世された。

第一回プリムローズ私演音楽会

プログラム

第一部

1. 男声合唱

イ オッフエルリード

ベートーヴェン

ロ 希みの島

ジオンズ

2. バリトン独唱

神松国良氏(昭8 経卒)

イ 迎春賦

シューマン

ロ アーベントルーエ

モーツアルト

ハ 初鶯

スエーデン民謡

3. 絃楽四重奏

京都絃楽四重奏団

セレナード ト長調

モーツアルト

4. 男声合唱

イ 旅路の夜

キューロ

ロ 白菊

ドイツ民謡

ハ ふるさと

スエーデン民謡

第二部

1. 男声合唱

オ、ヘイルアスイーフリー

ヴェルディ

2. 男声四重唱

イ 咲く花うばら

第13世紀歌謡

ロ かへれ

ユングスト

3. テノール独唱

太田黒養二氏

歌劇「メフィストフェレス」より

ファーストの歌他

アリゴ・ボイート

4. 男声合唱

イ 帰りきて

フランツ・アプト

ロ アイラブマイラブ

エマースン

ハ 同志社よ永久に栄光あれ

大正3年 (1914)

指揮者が浜田格氏から平田氏に交替した。それ以後平田氏のもとに、グリークラブはめざましい前進、発展をとげたのである。この頃、同志社におられたシャイベリー教授が、指揮者としてグリークラブのために助言されている。

また、グリークラブの中では四重唱が盛んに行われた。中でも、錦織、浜田格、平田甫、浜田光雄各氏らのものと、北村藤三郎、原忠雄(大7卒)、片桐弘(大7卒)、小島応(大7卒)各氏らのものが、特に活躍せられた。

大正4年 (1915)

名古屋キリスト教青年会主催の音楽会に参加した。これがグリークラブ初の演奏旅行である。4月、女専に「ミリアム・クワイヤー」が生れた。

名古屋キリスト教青年会主催の音楽会に参加した。これがグリー

大正4年頃のレパートリー

- ✚ 詩篇98(新しき歌をエホバに向いて唱え)
- ✚ アンクルサム
- ✚ Glory in the Highest
- ✚ 白菊
- ✚ Toy Symphony
- ✚ I am thy Child
- ✚ 八つの鐘
- ✚ 希望の島
- ✚ 片足チョンギレ
- ✚ 三つの小猫
- ✚ オラトリオ「ダヴィデ」

ミリアムクワイヤー

明治9年の冬、御苑紫宸殿の附近にて、妙齡の女学生が数名寄りそうて、新島襄夫人とスタークウェザー嬢の下に英学及び女典の勉強を始めだした。書に曰ク「是れなん、将来百花繚乱の同志社女学校となるために、将に至らんとする嚴冬の霜雪を前にして、健気にも萌え出でたる寒梅の蕾にも比すべき哉」と。

当時の女学校における音楽は、わずかにスタークウェザー嬢が讚美歌を教えられる程度に過ぎず、アルトのパートを歌うことは不可能であり、勿論合唱団もなかった。

しかし、世も大正に至り、4年の4月に谷



ミリアムクワイヤー
同志社イヴ音楽会 岡崎公会堂

川たき子氏が女学校寄宿生の中から比較的音程の確かな諸姉を20名ばかり選抜して合唱団を組織し、当時の音楽教師田中寅之助氏の指導を受けた。そして、モーゼの姉ミリアムの名を取って、「ミリアムクワイヤー」と称するようになった。同年6月8日、同志社教会の受洗者歓迎会で讃美歌118番を合唱したのがデビューである。

その後、グリークラブがミリアムの演奏をほめたのでますます勢いにのり、数々の音楽会や礼拝で唱っていたが、次第に芸術的に目覚めかけた彼女らは、女声合唱ではあきたらなくなり、混声合唱をも欲し、グリークラブに協力していただけないかと、女学校当局に申し出た。しかし女学校当局から「もってのほか」と拒否され、泣く泣く混声を断念したようだ。

しかし、大正7年のイヴにおいて、待望の混声をグリー、プリムローズ、ジュニヤークリーと共に、同志社における混声合唱を創設した。

その頃ミス・クラブが来日し、ミリアムの指揮者となり苦勞を共にされたが、昭和14年、軍国日本の弾圧激しく、やむなくミス・クラブは帰米され、これを機にミリアム・クワイヤーの歴史にピリオドがうたれた。

また御大典が行われ、その祝賀の音楽会が11月6日に開かれ、他の合唱団とも声をそろえた。この日の男声合唱は百数十名という、当時としては珍しいものであった。12月にはそろって神戸に行き、同志社の音楽会に参加した。

なお私達が現在、伝統歌として歌っている詩篇98「新しき歌をエホバに向いて唱え」は、9月27日に練習を開始し、11月28日の同志社音楽会で初演された。

詩篇98

堀内清氏(明43卒)談

「この曲は、実は私が最初同志社に輸入した。明治41年(?)4月、東京で万国共励会大会が開催され、東京連合聖歌隊(約100名位)がこの曲を混声合唱した。いかにも良い曲だったので、友人の隊員にのみ楽譜をもち帰った。忘れもしないそれは紫色のコンニャク版プリントだった。」

平田甫氏(大7卒)談

「讃美歌以外に歌える曲を探すのが大変。手に入るのは『タナーの男声曲集』と『ミュージック・ラヴァーズ・ライブラリー』だけ。ある日、平安教会で堀内氏がどこかで手に入れられた楽譜をもってこられた。美しい曲で礼拝向きの混声曲。さっそく編曲して、9月27日に練習を開始した。そして11月28日がこの曲の誕生日となった。その後しばらく歌わなかった。というのも演奏会には少し地味すぎる。そこで再三編曲しなおした。12月4日、神戸の青年会で歌ったときに、試みに終りをオクターブ上げてフ・ラチラ f f にしてみた。(それまでは p でアメンを歌っていた。) どうやら演奏会向きになった。大正5年からはグリーといえはこの曲とコールジョンを所望されるありさまだった。」

送別の歌 (春の調べ)

The image shows a musical score for the song '送別の歌 (春の調べ)'. It consists of two columns of music, each with four staves. The left column is the vocal line, and the right column is the piano accompaniment. The score is written in G major and 4/4 time. The lyrics are written below the vocal line. The score includes dynamic markings such as 'Moderato', 'f', and 'ff'. The lyrics are in Japanese and are repeated twice, corresponding to the two columns of music.

1. 春の調べの 鶯よ

花の夢路を 解くなかれ
あつ 天津日の かげに向いて
大空高く 行く我ぞ
露の色香に 懂くがれじ
神の召し給ふ み声ぞ響く

3. 朝夕順れし 鐘の音よ

別れのふしを 打つなかれ
とこよ 永世まで 心の空に
響きわたりて 絶えせぬを
真昼も夜半も なれが音に
神の召し給ふ み声きかまし

4月、中学に「ジュニアグリークラブ」が平田甫氏の肝入りで誕生した。

ジュニアグリークラブ

大正5年4月にグリークラブの活躍に刺激された同志社中学生の山口隆俊氏(大13卒)、横浜礼吉氏(大6卒)、北小路功光氏、小野義夫氏、三輪雅夫氏ら十数名が同志社YMCAに集り練習を始めた。



大中寅二氏

当時グリーの指揮者だった平田甫氏が指導に当り、氏が「ジュニアグリークラブ」と命名された。その頃大中寅二氏(大9卒)はジュニアグリーのオルガニストとして平田氏を助けていたが、やがて平田氏が多忙となり、代って指揮者となられた。

大正5年11月16日、チャペルで行れた秋季各クラス連合大演説会にジュニアグリークラブは「ガリラヤ懐古」を合唱し、華々しくデビューした。

その後ますます隆盛を来し、部員もふえてきたので、ジュニアを2部に分け、1・2年生を「小ジュニアクラブ」と呼び、3・4・5年生を「ジュニアグリークラブ」と称して、各々30名以上の部員がいた。大正7年のイヴでは、グリー、プリムローズ、女専のミリアムクワイヤーと一緒に「希望の島」、「同志社校歌」の合同合唱に参加する程隆盛であった。そして、礼拝に、音楽会にと出演し、そのレパトリーは100を越えるという盛況を呈した。

しかし、大正9年3月にジュニアに尽力された大中氏をはじめ、主力メンバーが卒業したため不振になり、ついに6月ジュニアグリークラブは解散のやむなきに至った。しかし、男声合唱への憧憬濃きかつてのジュニア部員が続々集り、同年12月に「ホザナクラブ」として練習を開始し、翌大正10年に中堀愛作氏が指揮者になられ、再び隆盛を示して今日の中高校ホザナコーラスに至ったのである。

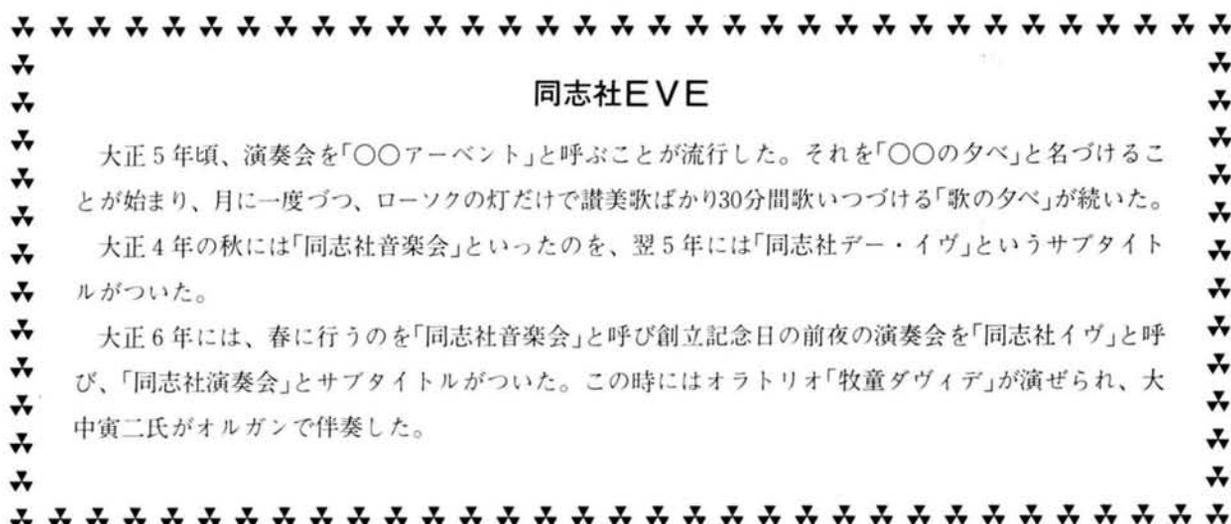


大正5年ジュニアグリークラブ創立メンバー

その頃のグリークラブは、単独で大阪にて音楽会を開くまでに成長した。11月18日、大阪キリスト教青年会館で開催した音楽会が大盛況で、その利益金で、当時グリークラブの本部になっていた同志社大学青年会(現YMCAか?)にオルガンを寄付した。

11月28日には**最初の同志社イヴ**がチャペルにおいて開かれた。この頃は同志社デーヴと呼ばれ、音楽会が盛大に行われた。プログラム中、グリークラブの曲目は——白菊、ブルドッグ、トイ・シンフォニー——の3つであった。この他にプリムローズ、ダヴィデクワイヤー、ジュニアグリーの合唱。オルガン、ピアノ、バイオリンの独奏があり、最後は同志社ソングを一同で歌っている。また、プログラムの中に、大正2年の音楽会にも朗読

されたケリー教授(オーティス・ケリー教授の祖父)が最後にリーディングをされ、この音楽会の印象を強くしたとあるのもおもしろい。この音楽会は大盛況で、入場できぬ人々は机を持ち出して、その上に上って見た程であるといわれている。



同志社EVE

大正5年頃、演奏会を「〇〇アーベント」と呼ぶことが流行した。それを「〇〇の夕べ」と名づけることが始まり、月に一度ずつ、ローソクの灯だけで讃美歌ばかり30分間歌いつづける「歌の夕べ」が続いた。

大正4年の秋には「同志社音楽会」といったのを、翌5年には「同志社デー・イヴ」というサブタイトルがついた。

大正6年には、春に行うのを「同志社音楽会」と呼び創立記念日の前夜の演奏会を「同志社イヴ」と呼び、「同志社演奏会」とサブタイトルがついた。この時にはオラトリオ「牧童ダヴィデ」が演ぜられ、大中寅二氏がオルガンで伴奏した。

またこの年から「歌の夕べ」と称される讃美礼拝が音楽会の形式で行われ、毎年2～3回グリークラブの行事として行われ始めた。その第1回目は次の3つの説がある。

- ① 原 忠雄 氏説 3月4日。
- ② 三輪源造 氏説 5月20日の音楽会。同志社50年史の中で、「大中氏の奏楽『ゲッセマの祈り』のおごそかな曲に始まり……」とある。
- ③ 平田 甫 氏説 10月8日(日)夜、チャペルに於いて行なわれた組合教会総会(700名参加)開催中、カーブ教授の奏楽でグリークラブが讃美歌42番を合唱。(同志社教会史資料より)

しかしいずれにせよ、私達の先輩が意識して神に捧げる歌を歌ったのではなく、無意識の中に常に神に対する讃美の声を合わせ、それが偶然に讃美礼拝なる言葉になったものであることが想像される。当時のグリークラブが常に祈りによって支えられ、祈りとしての合唱をなしていたことは、この時代の記録の片々から容易に知られることである。この年以來「讃美礼拝」はグリーの例年の重要なステージとなった。

大正6年 岸和田市の演奏会が機会となって、グリーの歴史上に輝くべき**第1回満州・朝鮮演奏旅行**
(1917) に出発した。この旅行のスポンサーは満鉄であった。最初、合唱の何たるかを知らぬ満鉄社会課ではグリーの招聘をちゅうちょしたが、関係者の努力によってついに実現した。この一行は、ソリストの堀内清氏(明43卒)、オルガニストの大中寅二氏(大9卒)、それに山下匠(大7卒)、原忠雄(大7卒)、平田甫(大7卒)、小島応(大7卒)各氏のクワルテットの計6名であった。岡山、八幡、大邱、京城をはじめとして安東、撫順、奉天、鉄嶺、長春、遼陽、大石橋にて大好評のうちに演奏会を続け、旅順、大連を最後として約1ヶ月の旅を終えた。この旅行は、一行の動静が毎日の新聞に出る程の評判であり、主催の満鉄側も、その成功に大いに気を良くしたといわれている。

11月28日、第2回同志社イヴが行われ、グリークラブは大中寅二氏のオルガン伴奏で、オラトリオ「牧童ダヴィデ」の第一幕をコスチュームをつけて歌い、これまた大好評であった。

12月1日には三条柳馬場の京都青年館(現YMCA)において、三高、関学、神戸女学院、奈良女高師で関西学生連合音楽会を開催した。関学グリークラブの中に津川主一氏や由木康氏がいた。

大正7年 (1918)

グリークラブ卒業生送別音楽会を開催したが、音楽がようやく一般に普及しだしたこの当時、会場には聴衆が入りきれぬ程の大盛況であった。この音楽会を最後に多くの有能なメンバーを送り出し、指揮者も平田氏より水谷央氏(大12卒)にと代り、面目一新の新らしいグリークラブとして発足した。しかし、水谷氏が都合で退学されたため、蘭川四郎氏が指揮者におかれた。この時代はグリークラブの全盛時代で、さすがに部員も多く約60名という当時としては、真に多人数でスケールの大きな合唱団として、内外に君臨した。この中には大中氏をはじめ、湯浅永年氏(大10卒)、田島光三氏(大9卒)、陳清忠氏らがあり、中学にはジュニヤークラブがあり、その中に内田栄一氏(大7卒)、橘静雄氏(大7卒)らがおられ活躍された。

この年も各地の招待演奏会、クリスマスの音楽会、讚美礼拝、同志社イヴ等、その動きもめざましかった。特筆されることは、同志社イヴで初めて混声合唱が行なわれたことである。これは長い間、音楽関係者の夢であり、特にその方面では風聞のうるさい世間にあって、このような合唱ができたのは一つに同志社であったからこそであろう。この編成は女専のミリアムクワイヤー、グリークラブ、プリムローズクラブ、ジュニヤークラブが参加し、大中氏の伴奏で蘭川氏が指揮をされた。これは同志社における混声合唱の初めであると共に、合唱界においても意義深いものであった

大正7年頃のレパトリー

- ✧ 希望の囁き(ホーソン)
- ✧ 漂流の歌
- ✧ Sailing Sailing
- ✧ Toy Symphony
- ✧ 森のこだま
- ✧ いざ歌はん
- ✧ Natures Baiese
- ✧ Joy come with Song
- ✧ Solo Profugo
- ✧ Hallelujah for the Cross

大正8年 (1919)

湯浅永年氏(大10卒)が指揮者となられ、再び6名で7月4日から8月15日まで40余日にわたって、満州、朝鮮に演奏旅に出かけた。メンバーは湯浅氏(テナー)、山口隆俊氏(テナー・マンドリン、大13卒)、小北広武氏(バス・口笛、大10卒)、陳清忠氏(バス・ピアノ)、田島光三氏(テナー・



大正9年頃のグリーメンバー。神学館(現クラーク記念館)前。最後列中央和服姿が当時の指揮者湯浅永年氏、その2人前が津下氏、最前列右から5人目が次の指揮者山口隆俊氏。

ヴァイオリン、大9卒)、陳溪圃氏(テナー・ピアノ)らであった。釜山、大邱、仁川、大田、平壤、奉天、大連、鞍山、遼陽、長春、寛城子、安東、竜山、京城、水原、群山、江景を訪問、内地では岡山、門司、下関、長府、熊本、長崎と音楽会を30回、讚美礼拝を4回行った。数多くの思い出、珍談を残し、大成功の内に終わった。

この年の同志社イヴは大変トラブルがあったらしく、「場所が狭く、中学との間に争いがあり、年1度の楽しいイヴもワヤクチャである」と記録されている。

大正9年

(1920)

例によって卒業生送別音楽会より始まった。曲目はマルタの中の「ソロ・プロウグウ」、ブルドッグ、送別の歌、アングルサムスの四重唱、他に田島氏のヴァイオリン等であった。この曲目の中にある「アングルサム」は、当時のグリーの四重唱の中でも「コールジョン」以上に歌われ、いたるところで大喝采を受けていたようである。この他には「トーイシンフォニー」なども評判のレパートリーであった。

11月には、全員35名が神戸女学院で音楽会を開催し大成功をおさめた。このステージでは、三宅譲氏、水谷央氏、奥村竜三氏でトリオの出演があった。同志社イヴは例年どおり大盛況で、「アングルサム」がアンコールにあり、閉口したと記されている。

大正10年

(1921)

1月には高知に演奏旅行に出かけ、一行の演奏が映画撮影され、活動写真館で上映されるという騒ぎであった。

7月には東北・北海道に演奏旅行。演奏地は金沢、長岡、新潟、酒田、山形、秋田、弘前、青森、札幌、小樽、旭川、名寄、室蘭、野辺地、一ノ関、仙台、岩沼、東京の18ヵ所であった。特に仙台では2000余名の大聴衆を集めるという大盛況ぶりであった。帰途には東京により、大中寅二氏の居られる霊南坂教会で歌声をあげた。これがグリークラブの東京での第一声である。

この頃からようやく世間も合唱に慣れ、何を歌っても喜んでくれるという訳にはいかなくなってきた。そこで山口氏らは進んでドイツの合唱曲を研究し始め、直接楽譜をとり寄せたりもした。当時の人達はドイツのいわば高踏的合唱曲には無知であり、ほとんどアメリカの合唱曲のみが愛唱されていた。

「パン屋のオッチャン」と私

—— 山口隆俊氏との思い出 ——



松本 淳(昭和5年卒)

私は中学生時代には下鴨に自宅がありました。余程私の家庭に何か魅力があったと見えて大学生のお兄さんや若い方達が頻りに出入りされていました。

その中には随分変わった方もおられて、進歩的な学生さんで検挙されて獄死された方や、学生オーケストラのコンサートマスター、チェロを奏する方、駆けっこのとても早い方、テニスの上手な方、本

当に様々な方達が集って来て学生時代を過ごすことが出来ました。

その中で、私の今日迄の生活に大きな影響を与えてくれた方がおられました。

私達の仲間では「パン屋のオッチャン」という愛称をつけておりました。私の居宅の近くで絵を学んでおられた妹さんと共に、自炊をしながら学校に通っておられて、毎日のように夕飯が終った頃に來宅されて家族同様の交りをしておりました。談笑が済むと「さあ合唱だ」といって合唱の楽しさを教えて下さいました。

その方はいたって風彩にかまわず、初夏の頃には、ワイシャツの袖をまくりあげて、カーキ色の半ズボンから長い脚をニョキッと出しておられた姿が私の目に残っています。

昭和20年代のグリーメンの中では「タッペ」さんと呼ばれていたのでしょうか、この方の名はグリーメンとして忘れてはならない、故山口隆俊さんのことです。

彼は本当に音楽を愛し、特に男声合唱に心酔され、それに生涯をかけられた方だと思います。それ丈にグリークラブ80年の歴史の中で素晴らしい先輩の一人だったと申しあげてよいでしょう。



山口隆俊氏

大学を卒業し、東京に帰る挨拶に来られ、その別れぎわに私の肩をたたいて——「君も2、3年したらグリークラブに入って歌うんだよ。歌を忘れちゃだめだよ。」と、お別れの言葉をかけて下さいました。

今、私は75才、その言葉どおり今日に至るまで過ぎて来ましただけに、彼の感化力の大きさに驚き、また感謝せざるを得ません。

終戦後私も東京に住むようになり、何度か下町の堀切菖蒲園に近いお宅を訪ねて懐旧談に花を咲かせましたが、「私は今、彼岸花の研究をしているんだ。面白いよ。でも、男声合唱の魅力には勝てないね。」と語られ、その眼が素晴らしく輝いていたことをおぼえています。

彼は東京に帰ると、直ちに「リーダーターフェル男声合唱団」を創設し、後にこの団体をひきつれてドイツへの演奏旅行を実現されました。若い頃からの夢を現実のものとしたことは、これ以上の御満足はなかったことでしょう。

10年余りに遂に天に召されましたが、ご自宅の近所の教会で告別式が行われた時には、各合唱団の代表の外に、東京クローバークラブ、リーダーターフェル、両男声合唱団員で会堂はあふれ、その中で彼の過去の功績をたたえて高らかに歌を捧げました。

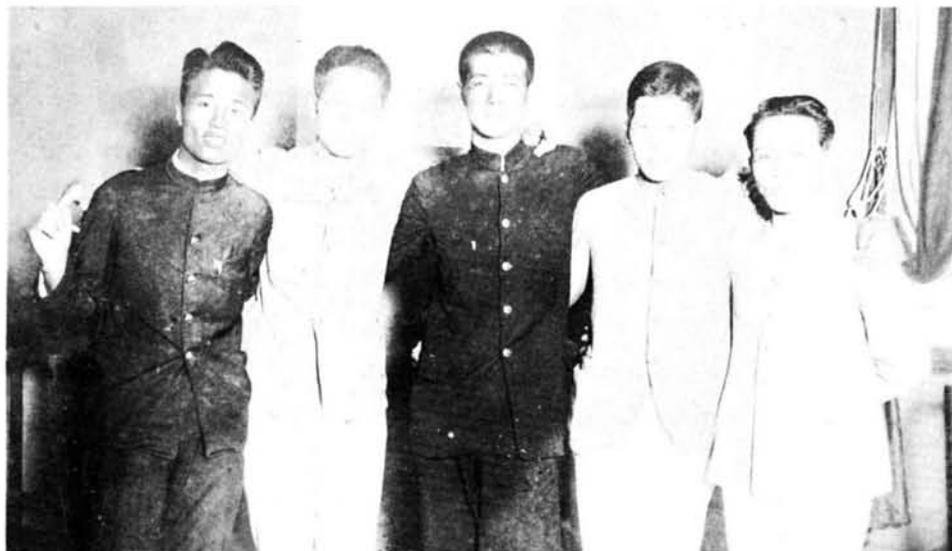
この人こそ、グリークラブの名のあるところ永久に記録されるOBであったと申すことが出来ます。そして私にとっても素晴らしい生涯を示し導いて下さった方として、心から感謝しております。

大正11年

(1922)

7月から9月までの2ヵ月にわたり、渤海・黄海一周大演奏旅行として、原忠明氏(大12卒)、山口隆俊氏(大13卒)、津下統一郎氏(大15卒)、鈴木重敏氏(大15卒)、森本芳雄氏(昭3卒)が朝鮮・満州・中国に出かけた。山口氏はマンドリン、森本氏はピアノの余技をもつての遠征であった。

この旅行は手違いから、演奏会が開催できるかどうか危ぶまれたところが2、3ヵ所あったが、北京での大成功を機に各地とも大好評で、グリークラブの名を三度鮮満華に轟かせたのであった。演奏地は、下関、門司、小倉、福岡、長府、釜山、大邱、京城、仁川、平壤、安東、撫順、奉天、公主嶺、長春、鞍山、湯嵐子、遼



大正11年 朝鮮・満州・中国演奏旅行メンバー
左から山口隆俊氏、原忠明氏、森本芳雄氏、津下統一郎氏、鈴木重敏氏

陽、大連、旅順、北京、天津、青島、上海の24ヵ所という強行軍であったが、34回の音楽会と10回の讚美礼拝を行った。

11月28日、同志社イヴにグリークラブはメンデルスゾーンの「芸術の使徒へ捧げる祝祭歌」(Festgesang an die Künstler op.68)を本邦初演し、注目をあびた。

大正11年頃のレパートリー

- ♣ Laugh boys Lough
- ♣ Come where my Lovelies Dreaming
- ♣ Glory and Honor
- ♣ Gloria in Excelsis (モーツァルト)
- ♣ Festgesang an die Künstler
「芸術の使徒へ捧げる祝祭歌」
(メンデルスゾーン)
- ♣ 雁の叫び
- ♣ 樋屋の歌
- ♣ Seht den Kunt (グリーク)
- ♣ 才女
- ♣ 愛の夢 (フォスター)
- ♣ Mother Goose

戦前の海外演奏旅行

津下統一郎(大正15年卒)

私は大正9年(1920年)に大学予科に入学し、当時の東京の第三寮(現在のアーモスト館の在る場所)に入寮した。同室の先輩伊達(旧姓高井)能君がグリークラブのメンバーであった関係上、同君に誘われて直ちにグリークラブに入り、大正15年(1926年)大学卒業迄6年間同クラブでの活躍を大いに楽しんだ。

私が在籍中にコーテットが次のメンバーで編成された。

- ファーストテナー 山口 隆俊君(大正13年大政卒)
- セカンドテナー 原 忠明君(大正9年中学卒大学中退後留学)
- バリトン 津下統一郎君(大正15年大経卒)
- バス 鈴木 重敏君(大正15年大経卒)

山口君がマネージャー格で、学校の休みには国内を北は北海道から南は四国、九州迄演奏して廻った。伴奏者兼独奏者としてギタリスト矢野豊一君(大正12年大経卒)、ピアニストとして宅孝二君(大中退)が同行した。

最も思い出が深いのは大正11年夏、ピアノ独奏者兼伴奏者として森本芳雄君(昭和3年大神卒)が同行して、五名で朝鮮(現在の韓国及北朝鮮)、満州(現在の中国東北部)、支那(中国)各地を演奏旅行した時のことである。当時飛行機は勿論なく、旅行は凡て汽車と汽船に因るものであった。旅行に先立って山口君が各地の校友や教会等と連絡をとり万事をアレンジした。先ず、関釜連絡船で釜山に上陸して京城(ソウル)で演奏、其の後満州に入り、大連、撫順、奉天(瀋陽)等、満鉄(南満州鉄道)沿線を訪れた。満州では満鉄の好意に依り無料で旅行の出来たことは幸せであった。それから山海関經由で支那(中国)へ入り、天津、北京を訪れた。北京では鈴木君の御一家が、父君のお仕事の関係で在住しておられたので大変御世話になった。又現在東京の桜美林学園長の清水安三先生が同地で学校を経営しておられ、先生からも歓迎を受けた。北京では当時としては最新の設備のあるロックフェラー・オーデトリウムで歌った。同地では、当時日本が管理運営していた山東鉄道の顧問として駐在していた私の叔父大村卓一(後満鉄総裁)の世話にもなり、青島迄の旅行の便宜等を計ってもらったりした。北京、天津の後は当時日本が第一次世界大戦の結果、ドイツから引継いで統治していた膠州湾の要地青島に出て、在住邦人の為に慰問演奏会を催し、青島から海路上海に渡りここでも歌って帰国した。

当時は現在と違って音楽の水準が低かったので、合唱も森本君のピアノソロも私の独唱も結構受け

て、各地で大成功を修めたものである。歌う曲も簡単なものであった。曲目の一つ「Call John」の時にはバンジョーに見せかけるため、広島土産品の大柵文字（しほもじ）を使ったものである。又服装も今日の様なステージ用の立派なものではなく、何時の場合でも学生服で通したのである。費用は前述の様に旅費、宿泊は全部訪問先の主催者が持って下さり、我々の負担は小遣銭位のものであった。この様に各地で歓迎を受けると同時に名所旧跡を見学し、外地の人情風俗に接することが出来て大変よい勉強になったものである。又同志社の大きいPRになり、卒業生にも喜びを与えたものと自負していた。



大正13年頃 左から 太田黒養二氏
秋間勝二氏、津下統一郎氏、鈴木重敏氏

大正13年(1924年)山口君が卒業し原君が学校を去ったので、1st Tenor として太田黒養二君(昭和2年大経卒)と 2nd Tenor として秋間勝二君を迎え、鈴木君と私が残って新たにコーテットを編成した。このコーテットとマンドリンクラブ合同で台湾(当時日本領土)へ演奏旅行に出かけたこともあった。片桐先生も同行され、台北、台中、高雄等で演奏した。当時台湾人が大勢同志社に来ていたので、これ等の学生や卒業生の歓迎を至る所で受けたが、彼等と友好を深めたことが最も意義深いことであったと思う。

大正12年 (1923)

7月には第1回の九州・台湾演奏旅行が行われた。これはグリークラブのみならず、マンドリンクラブ、プリムローズクラブも加わり総勢20名で、片桐氏、速水氏の両先輩が学校を代表して同行された。演奏地は長崎、福岡、台北、淡水、嘉義、台中、台南、高雄などの各地で、その大成功は言うを待たない。

この時代のグリークラブのレパートリーの一部を紹介すると、「榎屋の歌」、「アングルサムバーター」、「Glory and Honor」、「Gloria in excelsis」、「Toy Symphony」、「才女」、「愛の夢」(Beautiful Dreamer フォスター)等があげられる。またこの頃、「コールジョン」がものすごい人気を得つつあった。

こうしている間に指揮者は山口氏から三輪雅夫氏に代ったが、三輪氏はこの年の半ばでやめられ、続いて森本芳雄氏(昭3卒)がその任につかれた。そして、前進発展のため「声のハーモニー」と共に「内なるハーモニー」も磨かれていったのである。

「大正も遠くなりけり」

富本武則(大正13年卒)

大正7年同志社に入る。当時の中学生は、音楽の知識なんて皆無といってよかったです。ただ私の場合、教会で讃美歌を歌っていたことや、土佐堀青年会(大阪YMCA)の音楽講座で「コールユープンゲン」を勉強したことが役に立ちました。

入学してすぐグリーに入りましたが、もともと、「グリー」とは「神をほめたたえる」の意味があり、明けても暮れても讃美歌ばかりでした。土曜・日曜を除く毎日午後12時半から40分程神学館で練習していました。

大正13年

(1924)

学内外に活発な活動を行い、讚美礼拝、イヴ音楽会、他校との交

歓にも活躍した。

当時のグリークラブの役員をみると、指揮者、書記、会計の他、支配人(マネージャーを直訳したと思われる)、印刷という役が役員としてあげられているのもおもしろい。

また同志社高商の音楽会に賛助出演し、電車乗車券をもらったという記録もこの時代の風潮を物語っている。

この年、グリークラブの兄弟ともいうべきマンドリンクラブが全日本で優勝したので、祝勝会をしたり、共に名古屋で演奏会をもったりした。

大正13年頃のレパートリー

- ❖ Holy art Thou (ヘンデル)
- ❖ Schafer's Sonntagslied (クロイツァー)
- ❖ 乾杯の唄 (メンデルスゾーン)
- ❖ Forever Blessed (メンデルスゾーン)
- ❖ Somebody's Here with an Aching Heart
- ❖ Jagerlied
- ❖ 祭の唄 (タウナー)
- ❖ 船路 (メンデルスゾーン)
- ❖ 水車 (ツエルナー)
- ❖ Prayer (グノー)
- ❖ Es ist ein Rosén entsprungen
- ❖ Haiden Roslein (ウエルナー)
- ❖ Gloria Partri (バッハ)
- ❖ みいつあれ
- ❖ 雲の柱

大正14年

(1925)

1月、マンドリンクラブと共に九州演奏旅行。4月には、東北地方(仙台、酒田、鶴岡、秋田)・東海道(静岡、東京)にて音楽会を開いた。

一行のカルテットは、有名なテナー太田黒養二氏がプリムローズから、秋間勝二氏(昭2卒)、津下氏、鈴木氏がグリーから参加し、マンドリンクラブ共々盛大なものであった。

11月28日第10回同志社イヴ音楽会は、開校以来の大音楽会であったと記録されている。グリークラブ、プロムローズ、マンドリンクラブ、シンフォニー、ハーモニカン・ソサエティ、女専コーラス、女学校コーラス、中学ホザナクラブ、そして初めて組織された同志社混声合唱団が参加した。その他に柳兼子女史、竹内禎子女史、内田栄一氏(大7卒)、カーブ教授らも出演された。この時グリーは、京都二中のプラスバンド伴奏で、大正11年本邦初演された「芸術の使徒へ捧げる祝祭歌」を合唱し、大成功であったといわれている。また、ヘンデルのオラトリオ「メサイア」より初めて「ハレルヤ」を演奏した。これがグリーとメサイアの出逢いであった。



同志社正門前にある「良心碑」
良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ
新島襄

IV 昭和編 (戦前)

大正15年 昭和元年

(1926)

7月、4回目の満州・朝鮮大演奏旅行が行われ、片桐氏引卒のもとに森本氏、太田黒氏、直木潤一氏(昭2卒)秋間勝二氏(昭2卒)、伊藤新太郎氏、伊藤栄氏、副田壬一氏が前回と同様のコースで出かけた。約3週間にわたるもので、大成功であった。やがて、世も大正より昭和へと移り、グリークラブもまた森本氏から山田基男氏(昭7卒)へと指揮がゆだねられた。

この頃の同志社は、学内外共に大きな発展をなしつつあった頃であり、海老名弾正氏を総長として、学問の自由、大学の独立の精神を強くかけ、教授陣も全国の俊英と目された人々が続々と集まり、いわゆる進歩的な一派を形づくった時である。

また、大阪在住のグリークラブとプリムローズOBで「同楽会」という合唱団があり、毎週大阪YMCAで練習していた。

メンバーは、美濃部董(大5卒)、錦織貞夫(大5卒)、田中左右吉(大6卒)、露口四郎(大7卒)、田島光三(大9卒)、喜多一二郎(大10卒)、牧野操、久保田正一、平田盛一、富田勇吉、矢野豊一、小野義夫の各氏であった。

丁度その頃、大阪放送局(現NHK大阪放送局JOBK)が開設され(三越の屋上の一室が放送室だった。)、同楽会が「希望の島」、「ブルドック」の2曲を放送した。大阪放送局最初の男声合唱放送であった。



第8代総長 海老名弾正氏

昭和2年

(1927)

3月に卒業生の送別音楽会を開いた。直木氏、秋間氏、山田健三氏らが卒業された。6月に開かれた「歌の夕べ(讚美礼拝)」は、この時既に27回を数えていた。

同志社イヴの音楽会は相変わらず盛大で、グリークラブは「希望の島」、「詩篇98」を合唱している。この他に、プリムローズがウッドワードの「ザ・レジアント・モーン」を合唱し、女専コーラス(=女専グリーという名称が女子専門学校で語られている一辰己寿名尾女史談)、ハーモニカ、オーケストラの他、柳兼子女史、竹内禎子女史、シャイベリー教授の独唱などがあり、最後にシャネップ女史の指揮で、混声合唱ベートーベンの「オリーヴ山上のキリスト」(op.85)から「ハレルヤ」を合唱した。



昭和2年頃の神学館



昭和2年頃の図書館



左：竹内禎子女史 右：柳兼子女史
(竹内先生渡仏送別音楽会 京都市公会堂にて)

昭和3年

(1928)

4月、マンドリン、ハーモニカ、プリムローズと共に上海演奏旅行を行った。讃美歌「雲の柱もて」などが歌われている。

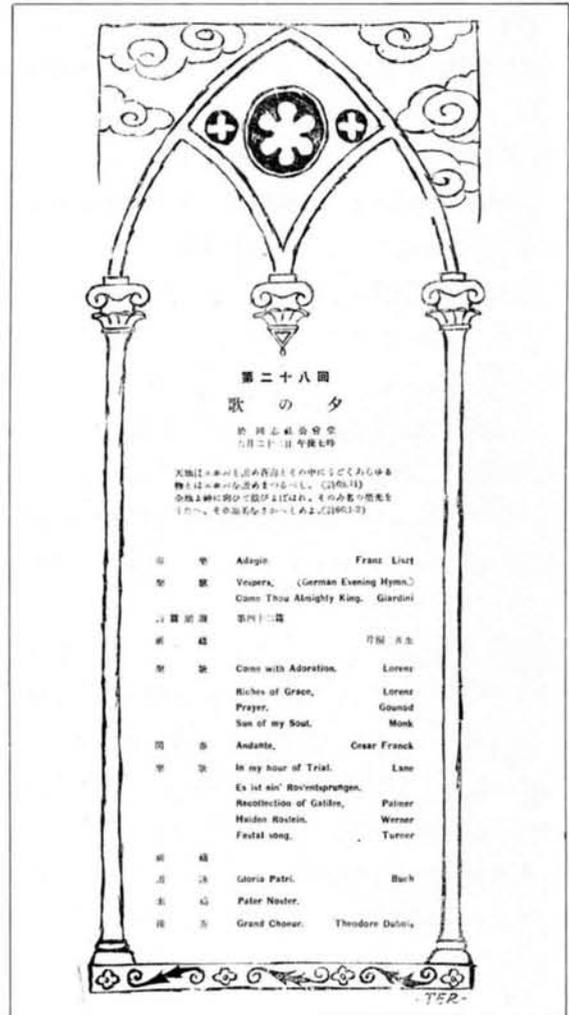
また、この年の記録に「5月18日、瀬田川の校内ボートレース大会に出場一馬術部に惜敗す。メンバーは、山田、宇野、千葉、加藤、松島、日下部」とある。この時代、またこれ以前の先輩には運動選手との兼任も大分あったらしく、その勢いで歌う合唱も相当元気に充ちたものだったと想像される。

6月には前指揮者の森本芳雄氏が渡米され、6月22日には「第28回歌の夕(讃美礼拝)」が催された。

7月14日から8月6日までの24日間にわたり第5回満州、朝鮮大演奏旅行に出かけている。京城、平壤、安東、奏天、公主嶺、長春、四平街、撫順、遼陽、大連の10都市で演奏会を行なった。メンバーは千葉温氏(昭5卒)、阿部勝氏(昭5卒)、松本淳氏(昭5卒)、宇野勇次氏(昭5卒)、酒井美智男氏(昭6卒)、荒井清氏(昭7卒)、海老沢有道氏(昭7卒)、山田基男氏(昭7卒)、中村正氏(昭8卒)であった。

11月、関西合唱コンクールにおいてプリムローズクラブが優勝した。

11月23日、今上天皇が即位御大典のため京都に行幸され京都御所に御滞在中、「有終館」から出火し、その火の粉が御所までとんだため不祥事件として大騒ぎとなった。総長、理事、監事は総辞職し、学生は髪をそりおとし、翌日、全同志社人が神学館前(現クラーク館)に集合し、南の皇居を向いて3分間の最敬礼を行い、厳かに謹慎陳謝の誠意をささげた。この事件により海老名総長は理事会よりボイコットされ学校を去り、大工原銀太郎氏(時の九大総長)を迎えるという同志社の歴史の一ページがあった。このため、この年の「同志社イヴ」は中止された。



「第28回歌の夕(讃美礼拝)」のプログラム



昭和3年夏 第5回満鮮演奏旅行 於：大連YMCA

最後列左端が山田基男氏の父、中段左より5人目が酒井美智男氏、6人目が松本淳氏、9人目が荒井清氏、12人目が山田基男氏

昭和4年
(1929)

女専コーラス、グリークラブ、プリムローズクラブの一行80名が同志社混声合唱団として東京に出かけた。



同志社混声合唱団

昭和4年2月5日 東京日本青年館大ホール（指揮 竹内禎子女史）

まず、ビクターで竹内禎子女史の指揮で「同志社カレッジソング」とメンデルスゾーンの「鶯」のレコードを吹き込み、日本青年館では2000人の聴衆の前に立ち、大成功の内に帰洛した。レコードの吹き込み謝礼は「百円」で、帰りの汽車賃になったといわれる。

3月にはグリーが沖縄に21日間にわたって演奏旅行に出かけた。グリーより山田氏、宇野氏、松本氏、上家氏、酒井氏、荒井氏が、プリムローズから長谷川常次郎氏、仁村健三氏、神康生氏、下山鉄之助氏、山崎喜三郎氏ら11名の編成であった。また山崎、荒井、酒井、下山の4氏はマンドリンも演奏した。

この時の決算書を見ると、約20回の演奏で総収入8,117円80銭、総支出1,006円45銭であった。入場券が1枚平均45銭也の時代である。

この年の同志社イヴでは、メンデルスゾーンの「ベアティ・モルトゥイ」と「インヴォケーション」の全曲を演奏している。31回目の讚美礼拝でシューベルトの「ドイツミサ曲」を山田基男氏の指揮で、同志社チャペルに於いて本邦初演した。

グリーよ、ほんとにありがとう

—昭和初年のグリー—



山田 基男(昭和7年卒)

大正末期はグリーの黄金時代ではなかったか。その頃は男声合唱がまだ珍しかったので、その演奏会は全国各地で歓迎を受け、夏にでもなれば満州、朝鮮にまで毎年のように足を伸ばしておられたようである。私をはじめグリーに接したのは満州の大連であった。

当時中学生であった私は東海林太郎の指揮する聖歌隊でベートーヴェンの「神の栄光」をドイツ語で唱わされ、いささか合唱音楽への素地は出来ていたのでたちまち男声合唱のとりことなってしまった。

そこでグリーに入りたばかりに同志社を志し、入学と同時にグリーの仲間入りをさせてもらい、教室に出ないことはあっても、神学館チャペルでのグリーの練習に顔を出さないことは一度もなかった。大正15年春のことである。時の指揮者は森本芳雄先輩で、グリーの歴史に残る名指揮者。上野の音楽学校を中退して同志社神学部に入られた方だけあって、その指揮は実に堂に入ったもの。ところが、来春は卒業というのに後継者がまだ育っていない。そこで古参部員が相談の結果、新入部員に特訓をほどこして起用することとなり、白羽の矢がどうした風の吹きまわしか、一年生の私に当たったのである。光栄ではあるが指揮棒を一度も握ったことのない私は全く途方にくれた。「握らしてやるから握って見ろ。」との先輩達の情けにすがって握らして頂いたという次第であった。

その頃の部員は大半が神学生であった。従って曲も宗教音楽が主で、定例の発表会を毎年「歌の夕」と銘打って同志社チャペルで開いたが、実は「讚美礼拝」で詩篇第98篇はその頃からお得意中のお得意であった。それにその頃までに山口隆俊先輩が編集出版された、「男性の歌」がグリーのテキストで、その中には同志社の卒業式でグリーが唱う「春のしらべの鶯よ」などもあった。その秘蔵の手垢のついた「男性の歌」を先年グリーの資料として奉納したので淋しい。私はグリーの先輩で山口隆俊先輩ほど男声合唱に情熱を燃した人を知らない。彼は上京するとあの有名な「東京リーダーターフェル」を創設指揮するほか、男声合唱の本場ドイツに楽譜を続々発注、それを現役のグリーにも借して下さった。その中にシューベルトの「ドイツミサ」があり、グリーが本邦初演の名譽に浴したのである。今でもその一曲が讚美歌 546番に「せいなる、せいなる、せいなるかな」としてのっているが、今日、日本中の教会の礼拝で必ずと言っていいほど愛誦され、私はそれを唱うたびに「ハイリッヒ、ハイリッヒ、ハイリッヒ」と50年前グリーで合唱したことを思い出す。

昭和初年のグリークラブはこれら大先輩が築いた名声のお蔭で、各地からお招きを受けた。先輩の蒔かれた種を刈り取らせて頂いたのが、昭和初年の我々であったと今でも感謝している。最初の遠征は上海であった。マンドリンクラブとの合同演奏会ではあったが、その頃はグリーとマンドリンをかけもっているものが多かったので楽しい外国旅行であった。然し後年、私は日支事変に應召、上海上陸作戦にも参加、ガーデン・ブリッジに立ち往時を偲び感憾無量であったこともつけ加えておかねばならないと思う。考えて見ると演奏旅行をしなかった夏休みは同志社6年在学中一度もなかった。沖縄、満鮮、台湾、北海道とのし歩き、各地で同志社の先輩、在学生諸君のお世話になった。その時私の思ったことは、「卒業したらその御恩返しを何等かのかたちで必ず。」であった。

そこで終戦直後、あの物資不足、寝るところもろくにない時代、山口先輩の陣頭指揮でグリーの現役諸君を東京に迎えたことなど今は懐しい思い出である。

私も札幌の北星学園在任中はグリーと同響を北海道へ、山梨英和学院在任中は甲府へグリーを招くことが出来、先輩としての責任の一端を果すことが出来たと喜んでいる。

またこんなこともあった。あるとき突然、甲府の自宅へグリーからと言って電話がかかり「先輩、急なことです、アーモストグリーの名古屋演奏会が会場の都合で急にキャンセルになり困り切っています。甲府で引受けてくれませんか。」と。それで「いつ」、「何人」と聞くと「来週、50名。」とのこと。待ったなしである。すぐ音楽の教師に相談すると「演奏会の予算があるから招びましょう。」と積極的なので、体育館に全校学生、生徒2000余名を集めて男声合唱音楽会を開いたが、大成功で最後は全員起立してハレルヤコーラスを合唱した。ソプラノとアルトを2000の女学生が唱いこなしたので、アーモストグリーも大喜び。その秋私はアーモストを訪れる機会があり大歓迎を受け、日本人で最初のアーモストグリークラブ名誉部員の称号も与えられ、光栄であった。



同志社中学プラスバンド(前列右から3人目が山田基男氏)

OBのクローバークラブのハワイ演奏旅行にも「枯木も山のにぎわい」と加えて頂き、ハワイ大学シンフォニーの定期演奏会にクローバーの一員として賛助出演、ハワイ最大のNBCホールで「ブラームスのアルトラブソディ」を唱ったときは感激の涙にむせんだ。グリーのお蔭である。

それに加えるに、グリー創立80周年記念演奏会では最古参の指揮者として「希望の島」のタクトを許されるなど冥加につきる。

グリーよ、ほんとうにありがとう。

グリーの思い出はつきない。グリーで棒を振らされたお蔭で同志社在学6年、神学の勉強は棒に振ったが、その代り合唱の楽しさを味い、同志社交響楽団でホルンを吹かされたり、同志社中学プラスバンドの創設を命ぜられたり、同志社混声合唱団から選抜されてプロの京都混声合唱団に入れて頂き、本格的な合唱技術、指揮法を学び、山田耕筰先生の指揮でJOBKから放送するなどの幸運にも恵まれ、私の同志社学生生活は豊かなものになった。それに先年グリー

グリー在籍 大正15年—昭和7年

第10代指揮者

現職 浜松衛生短大教授 桜美林学園理事

昭和5年 (1930)

1月に送別音楽会。7月には17日間にわたって第2回台湾演奏旅行に出かけた。酒井氏、江村氏、井田襄司氏、岸田治夫氏、宮本光夫氏、島本裕二氏、荒井氏、中村氏、松島秀郎氏、山田氏、海老沢氏とマンドリンクラブから5名が参加された。

台北、台中、台南、嘉義、阿里山(林業従事者慰問)、高雄、虎尾の各地で演奏会が開かれたが、すべて校友の方々の世話によるものであった。

11月にはイヴを兼ねて同志社創立55周年記念音楽会が27・28日の両日3回にわたって行われた。

またこの年には、関西学生合唱聯盟が組織され、他校とのつながりも密接になった。

昭和6年 (1931)

5年の長い間指揮をされた山田基男氏に代わって、岸田治夫氏(昭和9卒)が指揮者となられた。

この年は大きなステージが次々ともたれた。第1回学生合唱連盟音楽会(於大阪朝日会館)。7月には13日間にわたって、第2回北陸・北海道演奏旅行。9月には第1回立教・同志社交歓音楽会(於東京朝日講堂)。名古屋での同志社音楽会。関西学生合唱祭、讚美礼拝、同志社イヴなどであった。北陸・北海道演奏旅行はマンドリンクラブと共に、福井、金沢、札幌、旭川、名寄で音楽会を開き、札幌では放送を行なった。この旅行の引率は和田洋一教授であった。また、イヴでは、フリードリヒ・ヘーガー(1841-1927)作曲の「Schlafwandel」(幻を追いて)を本邦初演するという熱の入れようであり、このような大曲を研究、演奏したことは大いに賛えられるべきことであった。



栄光館(ファウラー講堂)

昭和7年 (1932)

この年になるとすぐに新讚美歌発表会が京都市公会堂で行われ、グリークラブは他の聖歌隊と共にその任にあたった。また、長らく工事中であった栄光館が落成したので、その祝賀音楽会が2月15日、混声合唱を中心として行われた。この時の聴衆は実に2000人を越したといわれている。

5月、第2回立教・同志社交歓演奏会が栄光館で行われた。立教側はオーケストラが主であった。この時、この交歓会をめぐって、栄光館使用問題や、同志社混声合唱団の出演に関する意見の相違から、女専当局と大学音楽部の間に紛争が起り、ついに時の同志社総長大工原銀

昭和3・4・5年頃のレパートリー

- ❖ ドイツミサ曲(シューベルト)
- ❖ Dörfchen(シューベルト)
- ❖ Beati Mortui(メンデルスゾーン)
- ❖ 夜楽(シュルツ)
- ❖ 兵士の合唱(マクグラナハン)
- ❖ 鉄道開通
- ❖ モテット(ネーゲラー)
- ❖ Invocation全曲(メンデルスゾーン)
- ❖ Weina Chtlied
- ❖ Lacrimosa
- ❖ Glory to God(メンデルスゾーン)
- ❖ Kyrie Eleison(ホーマー)
- ❖ Journey of Shepherd
- ❖ O Bone Jesu(パレストリーナ)
- ❖ Opfer Lied(ベートーベン)
- ❖ Commit Thou all Thy Grips(ハイドン)
- ❖ Weihe Lied(モーツァルト)
- ❖ 麦歌
- ❖ 歌劇「イ・ロムバルディ」より
「巡礼の合唱」(ヴェルディ)
- ❖ Requiem 二短調全曲(ケルビーニ)
- ❖ かぶと虫の親爺(ファイト)
- ❖ ブドウ摘みの唄(メンデルスゾーン)
- ❖ 兵士の合唱(グノー)
- ❖ 狩人の合唱(ウェーバー)
- ❖ Wandere's Song(シューマン)

太郎が中に入って事態の收拾にあたった。そしてようやく解決したかにみえたが、これをきっかけとして、同志社混声合唱団は解散のやむなきに至った。

7月には四国に演奏旅行に出かけ、岡山、高松、今治、西条、松山の各地で演奏した。

その他宗教音楽発表会、同志社イヴ、関西学生合唱祭と多忙を極めた。

12月には、岸田治夫氏より今西善治郎氏(昭9卒)へと指揮者がかわった。

昭和8年

(1933)

前年解散した同志社混声合唱団は、多くの要望者もあり再建の必要に迫られた。

この時、片桐哲氏が女専の校長に就任され、この問題はいっきに解決し、混声合唱団は再びその声を合わせることができるようになった。参加団体は、グ

昭和7・8年頃のレパートリー

- ✧ アーメンフーゲ (ベルリオーズ)
- ✧ 牧人の安息日の歌 (クロイツァー)
- ✧ 詩篇150篇 (フランク)
- ✧ 主に感謝せよ (クライン)
- ✧ 主よ御許に
- ✧ ローレライ
- ✧ かえれ
- ✧ 永久に恵あれ (メンデルスゾーン)
- ✧ 勝ちませる君 (パレストリーナ)
- ✧ Adoramus Te (ピイトニイ)
- ✧ O Salutaris Hostia (ピサリイ)
- ✧ Huckuck (リヒアルト・シュトラウス)

リークラブ、プリムローズ、ミリアムクワイヤ、女専コーラスで、クラップ女史が指揮にあたられた。



クラップ女史

6月14日、第3回立教・同志社交歓音楽会が立教大学で開催された。グリーは「夕べの祈り」、「アーメンフーゲ(ベルリオーズ)」を歌った。

また、6月中に、オーケストラ伴奏の混声合唱が行われた。同志社における最初の試みである。曲目は「メサイア」の中の「グローリー・オブ・ザ・ロード」と「ハレルヤ」であったが、当時の記録には「救世主の如くあらずして、エン魔大王の如き感があった。」と残されている。

9月25日、関西合唱聯盟大音楽会が大阪朝日会館で開かれた。グリーは「牧人の安息日の歌」と「アーメンフーゲ」を歌った。合同曲は「夕風」(エドワード)であった。

昭和9年

(1934)

グリークラブ創立30周年。記念事業を目標に、1月から指揮者となられた太田三郎氏と森本芳雄氏を中心に猛練習が始まった。部員は第一テノール…島本祐二氏(昭10卒)、武田好一氏、提中孝三氏、中野辰男氏(昭12卒)、松本寛二氏(昭15卒)。第二テノール…宮本光夫氏、森田芳和氏、高橋才登氏、三原幸三氏、調正路氏、森下徹造氏。バリトン…鎌谷巖氏、太田三郎氏、白戸剛氏、森川稔氏、対島貞夫氏、宮本孝夫氏。バス…古谷三郎氏、蔡愛智氏、藤田正二氏、柳原一男氏(昭15卒)、阿部強氏の22名で全員がクリスチャンであった。そして、祈禱のあと練習を始めるというグリークラブ創立当時からの伝統をまもりつづけていた。

記念事業① 6月25日(於チャペル)、大中寅二氏によるオルガン演奏会が開かれた。Titelouze (1563~1585)から Reger (1873~1916)に至るオルガンによる聖楽と同氏作曲による変奏曲と幻想曲を演奏された。グリーは「Seligsind des Himmels Erben(H.Rinck)」の1曲を合唱した。会衆は約300名であった。

記念事業② 9月15日、「グリークラブの歴史を語る会」をアーモスト館で開催。

記念事業③ 10月11日、記念祝賀会が旧新島会館(現校友会館)で催された。

記念事業④ 10月13日(土)、午後7時(於栄光館)、創立30周年記念音楽会開催。聴衆は1500人を越えた。まず、三輪源造作詞、大中寅二作曲による「グリークラブの歌」(新発表)から次のプログラムで開演した。特に1部のステージ終了後、湯浅八郎同志社総長が多年にわたりグリークラブのため尽力された三輪源造、片桐哲両氏に感謝状を贈呈された。

創立30周年記念音楽会

第1部

グリークラブの歌(新発表) 三輪源造作詞・大中寅二作曲

1. 男声合唱 Surrexit Pastor bonus……Palestrina

1. 男声合唱

幸よ、悲しむは常に慰め与へられん……………松崎 巧 訳詞

大中寅二 作曲

ものみな挙りて、御神を讃へよ……………森本芳雄 編

1. テノール独唱

湯浅永年氏

ピアノ伴奏 宅 孝二氏

Recitative : Comfort Ye My People

Aria : Every Valley shall be Exalted

from Oratorio "Messiah" ……Handel

1. 男声合唱

先輩・現役合同

詩篇98……………平田 甫 編

第2部

1. 男声合唱

Adoramus Te ……Pitoni

O Salutaris Hostia ……Pisari

1. テノール独唱

湯浅永年氏

ピアノ伴奏 宅 孝二氏

Panis Angelicus(Extrait de La Messe Solennelle)

Aria : Then Shall the Righteous Shine

Forth from Oratorio "Elijah"

……Mendelssohn

1. ピアノ二重奏

宅孝二氏・中瀬古和子嬢

協奏曲 イ長調

……Mozart

1. 混声合唱

女専合唱団・大学グリークラブ

指揮 クラップ教授

Grant me True Courage, Lord

……Bach

Rejoice in the Lord Alway

……Purcell



同志社創立60周年記念音楽会。昭和10年10月29日（於栄光館）。
ソリスト ソプラノ竹内禎子女史、アルト斉藤静子女史、テナー太田黒養二氏、バス内田栄一氏（なぜか空席）
ピアノ 中瀬古和嬢、オルガン水谷央氏、コーラス同志社混声合唱団、同志社シンフォニーオーケストラ
指揮森本芳雄氏。

10月29日、栄光館で同志社創立60周年記念音楽会が開催された。森本芳雄氏指揮でヘンデルの「救世主(メサイア)」全曲を演奏した。ソプラノ竹内禎子女史、アルト斉藤静子女史、テナー太田黒養二氏、バス内田栄一氏、同志社混声合唱団(グリークラブ、プリムローズ、リーダークランツ—旧高商合唱団—、女専学生、OB、OG計約100名)、ピアノ中瀬古和嬢、オルガン水谷央氏、同志社シンフォニーオーケストラ。

同時にこのステージ上から約1時間、同志社60周年記念放送として、メサイアの全国放送が我国ではじめて流された。なお、このメサイア演奏は翌30日大阪中之島公会堂、11月22日和歌山公会堂でも演奏された。

11月23日には、グリー主催による同志社創立60周年記念「讃美礼拝」を平安教会で行った。指揮太田三郎氏、奏楽森本芳雄氏、伴奏勝俣敏子氏で、「頌栄」(大中寅二)、「茨の冠」(讃美歌147)などを歌った。

同志社の日本語の校歌(湯浅吉郎作詞・大中寅二作曲)と大学歌(北原白秋作詞・山田耕筰作曲)ができたのもこの年であった。その発表会に勿論グリーが出たが、栄光館で山田耕筰氏の講演につづいて、山田氏の前で新しい大学歌を歌った。しかし、山田氏は「綺麗だが強さが足りない。」といわれ、「自分はこういうことは殆んどやらないのだが…」と自らの独唱された。「諸君の先輩である大中寅二君の、その先生である私が、その弟子(大中氏)の伴奏でその弟子の後輩達に歌ってきかせるのは悪くないでせう。」と満場を笑わせて唱われた。山田耕筰氏が公の場所で独唱されたことは、確かに珍事件に属することでした。大中氏も「あの歌は山田先生も得意だったので。快心の作だったのです。」とっておられた。

同志社校歌

同志社校歌

編 漢 吉 郎 作 詞
大 中 英 二 作 曲

楽 A:11

一、天地は神の創作と 記せる聖書の第一句
読みて校祖は畏くも 天つ父を発見しぬ
海外雄飛渡來して 苦学十年人の子を
神の像に育てんと 早くも思い立たれたり
守れ同志社 神國の大道

二、同志の造れる新学園 新天新地の心地して
智徳の並樹除清く 集い來る人の子等
日に麗わしい智識の果 味わうことを許されて
面に汗する人生を 永遠化する生命の樹
示せ同志社 神國の真理

三、天地に恥じざる良心を 手腕に運用する人を
社会に送り出ださんと 育て成ぐる我が学園
校庭家庭相和して 徽章の三つ葉花開き
薫る真正の愛國心 國際愛の香もふかし
展け同志社 神國の生命

昭和11年 (1936)

2月26日、いわゆる「2.26事件」皇道派青年将校が首相官邸、警視庁などを襲撃した。しかし、統制派軍部により鎮圧され、軍部が準戦時体制を固めた頃であった。

2月、第40回讃美礼拝(送別)をチャペルで行う。

6月20日、同志社混声合唱団の第1回発表会が栄光館で森本芳雄氏指揮によって行われた。グリークラブから松本、中野、太田、阿部、柳原の5氏が参加した。

7月に中国地方演奏旅行。一学期末に急に決定したので、演奏地は倉敷、広島の2ヵ所と倉敷教会の讃美礼拝を加えると3回だけの演奏であった。

10月31日、創立61周年記念イヴ音楽会において「Beati mortui」(メンデルスゾーン)と「巡礼の歌」(ヴェルディ)の二曲を合唱した。

昭和12年 (1937)

この年は日華事変(1937.7.7蘆溝橋事件)の始まった年で、音楽の方においても軍国色が色濃く出だした。学園では、夏にチャペル籠城事件で予科生全員がとじ込められ、学生ストライキが行なわれた。

1月23日、同志社混声合唱団第2回発表会(京都朝日会館)に参加。合唱曲は聖譚曲「ユダス・マカベウス」(ヘンデル)、交響曲「第40番(K.V.550)」(モーツァルト)、カンタータ「神の子現われ給いしは(B.W.V.40)」(バッハ)。森本芳雄氏指揮、宝塚交響楽団であった。

6月19日、第41回讃美礼拝(同胞教会)。有賀鉄太郎教授の説教があった。20日、大阪高麗橋の浪花教会で讃美礼拝。

10月30日、創立62周年音楽会が栄光館で開かれ、伝統のイヴ音楽会が時節柄、「全同志社学園愛国音楽会」と改名され、プログラムに“日の丸”、“国威彌栄”、“皇軍万歳”等の軍国調が色ざりされた。グリーは「Largo」(ヘンデル)、「我国兵士」(キューケン)を合唱。

11月14日、神戸教会にて第42回讃美礼拝を行なった。説教鈴木浩二牧師、奏楽水谷央氏。「詩篇98」、「諸々の民よ、エホバにねぎまつれ」、「主の御名によりて来る者は幸なり」など数曲を合唱、先輩今西善次郎氏は「讃美歌264番」を独唱された。

昭和13年 (1938)

2月18日、第43回讃美礼拝(送別)をチャペルで開く。5月15日、全関西合唱連盟結成記念愛国大合唱祭に、同志社混声合唱団として参加(大阪中央公会堂)。森本氏の指揮で、ヘンデルの「ユダス・マカベウス」より「凱旋」を歌った。10月28日には、同志社創立63周年記念音楽会に出演した。「Schäfers Sonntagslied」(C.Kreutzer)、「An Sanct Raphael」(F.Gerusheim)の2曲を合唱。漢口陥落の当時に、全聴衆とともに愛国行進曲が歌われた。なお、この年に近衛文磨内閣により国家総動員法が成立し、国民の権利は全く制約されていった。

昭和14年 (1939)

2月6日、第44回讃美礼拝(送別)をチャペルで開く。4月、新入部員17名を加え部員数は42名であった。6月19日、同志社混声合唱発表会にも参加。この年は、グリークラブ創立35周年にあたるため、9月26日に琵琶湖畔の青柳Y.M.C.A.キャンプ地で合宿練習を行なった。

11月4日グリークラブ創立35周年記念音楽会(栄光館)。勝俣敏子嬢(ピアノ独奏)、同志社混声の讃助出演を加え、当日のプログラムは次のとおりであった。

同志社グリークラブ創立35周年記念音楽会

プログラム

国家黙祷「海ゆかば」を合唱	……………	英霊に捧ぐ
校歌		
部歌		
1. 合唱		
1. 春を惜みて		ハウプトマン
2. 御恵の主よ		ク
3. 御使来り給う		ク
2. 合唱		
1. 獵人の別れ		メンデルスゾーン
2. 夏の歌		ク
3. 混声合唱		
美はしく碧きドナウ		シュトラウス
4. 合唱(先輩合同)	指揮 千葉昌良	
1. 詩篇 98		平田甫 編
2. 御栄ぞいと高し		モーツアルト
5. ピアノ独奏	勝俣敏子	
奏鳴曲嬰ハ短調 作品27第2番		ベートーヴェン
6. 合唱祈願 (Invocation)		メンデルスゾーン

昭和15・16年 昭和12年より日華事変が始まり、翌年、国家総動員法の成立へと日本は次第に果てしもなく知らぬ戦乱の泥沼の中に入っていった。やがて「人類の平和」という崇高な行方をさえぎって、軍国主義が力をつたのみ帝国主義侵略の方向に進んでいったのである。(1940・1941)

そのような状況下において、社会的にはもとより学園内においてもその影響は大であり、軍事色が色濃く影を落していった。激変する実際社会にあまり足場のない同志社ボーイの苦悩は絶頂に達しつつ、もてあました若き身体が、軍閥と官僚によってはどのような自由行動も非国民にみえ、弊風のレッテルをはられ、たのみとする学園までもが「国家的制約に於てのみ、学園と学徒の立場があり…」と訓示する様になった。学生は総武装させられ、やがてくり上げ卒業、学徒出陣で祖国を離れ、見も知らぬ遠い戦場へと追いやられていった。こうして、キリスト教精神に基く同志社は世間からの風当たりも強く、どうしても学園軍国主義化を徹底せざるを得なくなったのである。

学内においても、応援団、スポーツ部の大半、軍事研究会、射撃部等がはばをきかせ、合唱団に対する風当りは強かった。そこで、「グリークラブ」と「プリムローズクラブ」の合併問題が起って来た。

学校当局からすると、合併無条件賛成の理由は極めてはっきりしていた。翼賛体制として、すぐにでも役立つという射撃部、運動部等に多くの予算が必要だし、この戦時体制下によく似たコーラス団体が2つもある必要がないというのであった。当局の天下り式的な命令を受け入れることはいとも簡単なことである。しかしながら、「その動機はともかく、これを機会にお互いに必要なところをとり入れ、歩みよって一体となり、同志社のためにつくそうではないか、母校から音楽の灯を絶やす事は同志社の歴史のすたれる時だ。」という行き方と、「いやそう

*昭和16年(1941)6月7日、栄光館にパイプオルガン設置



第1回 同志社大学男声合唱団発表音楽会 指揮 岸田 耕一氏
 (プリムローズ・クラブとグリークラブ合併直後) 於 栄光館 昭和16年10月25日

ではなく、あくまでも先輩達の残してきた貴重な伝統は断じてつぶすべきではない。」という二つの賛成、反対派に別れ、なかなか折合がつかなかった。

だが、人間としての試練のまっただ中で、軽率な決定はさけようと根気強く互に話し合いが行なわれ、今までのグリークラブも脱皮して広い行き方をするということで(反対派の人達を残したが)昭和16年初、「グリークラブ」と「プリムローズクラブ」は合併した。かくして新しい合唱団が生まれたが、その名が何と「同志社大学学友会修練団修文部音楽班同志社大学男声合唱団」という、いかめしいものになった。そして、昭和16年10月25日、岸田耕一氏(昭16卒)指揮のもとに第1回発表会(於栄光館)が行なわれたのである。

存候 閣下佳適の候費下には慈々御清祥に被為涉慶賀の至に奉
 陳者今度同志社大学修練団成立に際し大学々友会は解散し、従
 来長き歴史を有せし同志社グリークラブ、同志社プリムローズ
 クラブは解散するに至り、此処に同志社大学修練団修文部音楽
 班(音楽班)として当合唱団の誕生を見るに至候
 御案内申上候 御幸万障御癒合御在野御清鑑の榮を賜り度此段
 昭和十六年十月 櫻具
 同志社大学男声合唱団

昭和17年 (1942)

7月7日、朝日会館で男声合唱団第2回発表会が行なわれた。指揮は前窪一雄氏(昭18卒)で、欧米の作曲家のものや欧米を主題にしたものは全くいけないとされ、レパートリーは極めてせまくなった。

昭和18年
(1943)

太平洋戦争で破竹の勢だった日本も、この年に入ってガダルカナルをはじめ負け戦が
続くようになった。この年は戦時編成で、卒業が半年くり上げられることになったため、
第3回の発表会を送別演奏会として6月27日栄光館で行なった。

同志社大学男聲合唱團第3回発表会

プログラム

國民儀禮

曲目 第一部

- | | | |
|-----|-------------|-----------|
| I | 1. 英靈に捧ぐ | 岸田耕一曲 |
| | 2. 特別攻撃隊 | 東京音楽学校曲 |
| II | 1. 美はしき死 | メンデルスゾーン曲 |
| | 2. 雲雀のうた | 々 |
| III | 1. 希望の島 | ジョーンズ |
| | 2. 流浪の民 | シューマン曲 |
| IV | マンドリン合奏 | |
| | 1. (イ)メヌエット | 武井守成曲 |
| | (ロ)村 里 | ガルゲーノ曲 |
| | 2. 村の組曲 | ガルジアー曲 |

第二部

- | | | |
|-----|-------------------|---------|
| I | 絃楽合奏 | |
| II | “独逸彌撒”曲より | シューベルト曲 |
| | 序 曲 | |
| | 栄 光 頌 | |
| | 信 経 | |
| | 頌 栄 | |
| | 神の子羔 | |
| | 終 曲 | |
| III | 1. うきよのたび | 作者不詳 |
| | 2. 新しき歌をエホバに向いて唱え | |
| | 詩篇九十八 | 平田甫編 |
| IV | パイプオルガン独奏 堀内敏子 | |
| V | 1. 獵人の合唱 | ウエーバー曲 |
| | 2. 兵士の合唱 | グノー曲 |
| | 3. 送別の歌 | |

9月に卒業生を送り出したあと、内山正作氏(昭21卒)を指揮者として、22名の部員数ながらも輝かしき歴史と
伝統を継がんものと練習に励んだ。

しかし、9月23日には学徒にも出陣の命が下った。



学 徒 出 陣 壮 行 音 楽 會 (この音楽会を最後に合唱活動は中絶さる)
同志社大学報国団音楽部合唱班 指揮 内山正作氏 於 栄光館 昭和18年11月14日

11月14日、栄光館において、学徒出陣壮行音楽会が(併せて愛国機献納運動に資す)と銘うって開催された。臨時徴兵検査や勤労奉仕等でメンバーが揃わず、全員で練習ができたのは発表会の5日前であった。そして、その年の12月1日、ペンを捨て本を投げうち、銃をとった学徒達はそれぞれ入営、入団していった。

昭和19年 (1944)

年明けて19年はすべて戦争一色に塗りつぶされ、大東亜戦争もますますその熾烈さを極め、残った部員も農村に、工場へとそれぞれ分散して、勤労働員に長期にわたり奉仕すると共に、次々と戦の庭に巣立ちゆき、時代のもたらした変遷の風は部員の上に容赦もなく吹き荒れて、その活動も一時途絶のやむなきに至ったのであった。

V 昭和編(戦後)

昭和20年

(1945)

8月15日終戦。

グリークラブ復活の努力をされた野沢盛次氏(昭21卒)は次のように語っている。「敗戦宣告をうけた瞬間は実に奇妙なものでした。多数の兵士の前で体をふるわせながら、正直に心は京都に走ったわけです。自失の兵隊を前にして『学校へ帰れる。』、『また唱える。』というほくそ笑みがこみあげてどうしようもなかった。その瞬間、赤い煉瓦とチャペルのイメージが浮かんだことは事実で、今から考えると自分でも作り話のような気がするのです。今までささえていたものが崩壊し、最後まで崩れないものが心に焼きついてたのかも知れない。これは私の忘れ得ない印象の一つです。」



野沢盛次氏

そして、その10月学園復興の学生大会で、合唱団がグリークラブの名で新しく創られるべきだとの話が行なわれ、わずか13名の同志で発足した。しかし、名称はまだ「同志社男声合唱団」であった。復活第一回目の同志社イヴに先輩の応援を求めて、わずか20名で参加した。指揮者も先輩の岸田耕一氏(昭16卒)であった。



昭和20年11月26日

同志社創立70周年記念運動会のグリークラブ仮装行列

昭和21年

(1946)

11月3日、日本国憲法が公布された。日本の新しい門出であった。この年に入っても、まだ戦後の混乱期であり、歌等のん気に歌っては居られなかった。4月29日の第1回関西合唱聯盟創立記念合唱大会にもわずか12、13団体が参加したのみだった。

11月3日、戦後第1回関西合唱コンクール(関西合唱聯盟主催、朝日新聞社後援)が大阪朝日会館で催された。参加団体は女声合唱4、男声合唱10、混声合唱9の計23団体。審査員は長井齊氏ら16名であった。同志社はリーダークラウンツコールと合流し、「同志社男声合唱団」として出場した。

審査の結果、女声は1位、2位がなく、3位明響女声合唱団、男声は1位関西学院グリークラブ、2位同志社

男声合唱団、3位大阪商大グリークラブ(現大阪市大グリークラブ)、混声は1位京都コーラス(現京都混声合唱団)、2位明石音楽同好会合唱団、3位豊中混声合唱団であった。そして**総合で1位関西学院グリークラブ、2位同志社男声合唱団、3位京都コーラス**と決った。

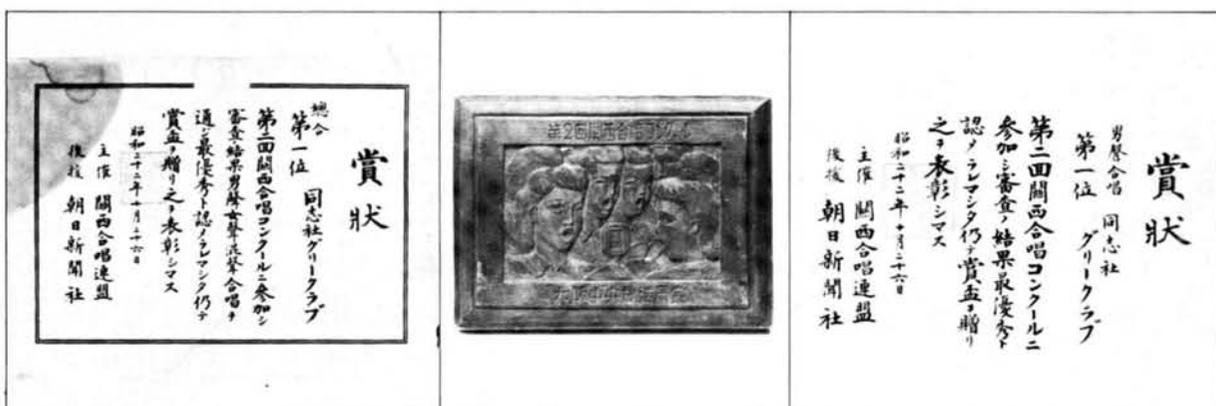
この年、「東京リーダーターフェルフェライン」の創始者山口隆俊先輩(大13卒)より、多年苦心して収集された合唱曲の楽譜を寄贈していただいた。そして12月には正式に「同志社グリークラブ」と改名された。

この年の同志社イヴに、片桐氏を始め、東京より山口隆俊氏、山田基男氏、名古屋より平田甫氏、神戸より水谷央氏、各先輩、それに有賀鉄太郎(大11卒)、民秋重太郎両教授等約30名が森本芳雄氏の指揮で讃美歌551番他2曲を合唱した。その時のメンバーは実にうれしそうであった。

この時のプログラムに“男声合唱クローバークラブ”とあり、まさにこれがクローバークラブの初ステージであった。しかし、以後、昭和29年(1954)グリークラブ50周年記念演奏会まで活動は中断する。

昭和22年

4月になって、部員は60名になっていた。織田幹雄氏が指揮をとっておられた。比叡山で合宿を行い、基礎練習に力を入れ、今年こそはと合唱コンクールに備えた。10月26日、大阪朝日会館で**第2回関西合唱コンクール**が開催された。女声の部2団体、男声の部8団体、混声の部10団体、計20団体が参加した。



昭和22年 第2回関西合唱コンクール 総合第1位の同志社グリークラブ

同志社グリークラブは、織田幹雄氏の指揮で課題曲「葡萄収穫の唄」(メンデルスゾーン)、随意曲「Beati mortui」(メンデルスゾーン)を歌った。審査員は、林雄一郎氏、西邨辰三郎氏、藤堂顕一郎氏、永井齊氏、朝比奈隆氏、水谷央氏、森本芳雄氏ら15名であった。審査の結果、同志社グリークラブが**総合第1位**を獲得したが、宿敵の関西学院グリークラブが不出場だったので、優勝はしたものの物足りなさを禁じえなかった。

戦前行なわれていた「立教・同志社交歓演奏会」の復活を計画したのもこの年で、まずその手始めとして、11月11日、東京毎日会館で行なわれた「立教グリークラブ第38回定期演奏会」に賛助出演という形で12名が上京。戦後初めて、東京へ遠征した。第1テナー…西村隆三氏(昭24卒)、織田幹雄氏(昭25卒)、岩城恵一氏(昭26卒)、第2

テナー田村孝一氏(昭24卒)、小松昭氏(昭25卒)、山中和三郎氏(昭25卒)、バリトン…長島俊司氏(昭24卒)、青山宏氏(昭25卒)、中井正和氏(昭27卒)、バス…田村桂市氏(現吉田圭逸・昭24卒)、岡本俊夫氏(昭25卒)、井上隆之氏、指揮前窪一雄氏(昭18卒)らであった。何分食糧も宿舎も不自由な時代で、蒲団を筵にくるんで大道を測歩していた。これが翌年の交歓演奏会への足がかりとなった。

この年の4月、正式に「同志社学生混声合唱団(C.C.D.)」が発足した。

C.C.D. C.C.D.

同志社学生混声合唱団(C.C.D.)

——「同志社グリークラブ創立50周年記念誌」より——

同志社学園に於ける 混声合唱団の起源

片 桐 哲(大正2年卒)

(注 この原稿は昭和13年に書かれたものです。)

第一次大戦が連合国の大勝利に終了し、巴里の講和締結に日本国民使節として出席された海老名弾正先生が、帰朝と共に大正9年4月1日同志社に迎えられ、同志社総長に就任せられて以来、同志社学園に著しく世界主義(インターナショナリズム)の思想が鼓舞せられ、欧米の風潮が漸次滲透し、従来東洋の男女間の障壁も段々に薄らぎ、ダンスも流行して来る傾向にあった。

同志社に於ける音楽は、従来男女別々に合唱団を組織しているのみで、教会や創立記念式又卒業式等の宗教的な集会以外には混声合唱をやる機会がなかったのであるが、進歩主義の海老名総長就任と同時に、米国の留学より帰って同志社大学に就任した小生が総長の理解と支援の下に、女子部の女声合唱団(ミリアムクワイヤー)と男子部の男声合唱団(グリー、プリムローズ)とが合流して、学園内に混声合唱を開始する準備を進めたが、一番の難関は女子部教職員主脳部の了解を得る事が出来ない事であった。兎角、女子部は長い間男子から被害を蒙っているからである。

その後度々交渉の結果、小生が全責任を負って男子学生を監視し、女子学生の被害のない様にするとの誓約をなし、漸く試験的に混声合唱の練習を許可されたのである。

最初の指導者は、当時女子部の音楽講師をされていたアルト歌手の柳兼子先生であり、それも熱心に而も楽しく指導され、男女学生共に真面目で熱心であり、技術も著しい進境をみせて来た。女子部の主脳者も見事な混声合唱の素晴らしさに感動して以来、急に混声を熱心に支持し出し、愉快極まりないものであった。

次に柳兼子先生が去られた後、引き続いて講師に竹内禎子先生が任じられ、合せて混声の指導者となられた。合唱に対する世間一般の関心も高まり、同志社に於ける混声合唱はやがて関西にひびき渡った。

殊に男女の学校を持つ総合学園としての性格は、他の追従を許さぬ混声合唱団育成の最適の地盤であった。

森本芳雄君が昭和4年に米国エール大学留学を終え帰朝されるや、同君の熱心な指導の下に益々合唱熱は高揚されるに到ったのである。

同君の力によって、昭和10年11月29日の同志社創立60周年記念式に、同志社交響楽団伴奏の下に大混声合唱団を編成出演し、ヘンデルの「ハレルヤコーラス」を演奏したが、これは実に画期的な事にし

て特筆すべきものであった。

遂に翌11年1月に永年夢みつゝけた「同志社混声合唱団」の正式な結成が出来上った。之は同志社卒業の校友同窓生を主体となし、それに男女の在學生を補足したものである。

(会長) 片桐 哲

(理事) 奥村龍三、森本芳雄、片桐 哲、大石保明、宮本光夫、和田すき

(幹事) 阪野安夫

(副幹事) 蟹江 博、柳原一男

この第一回の発表会は11月20日(土)、午後7時半より栄光館に於て開催された。東京より大中寅二氏を迎えパイプオルガン独奏を、又宮本政雄君はヴァイオリン独奏を、又ピアノ独奏者には勝俣敏子女史を加えて盛大に行はれた。発表会は大成功であった。

尚この合唱団は校友同窓生が中心となっている性質上、創立第2年度に於ては理事に校友会長の堀内清氏を、又同窓会長の武間富貴氏をも加え、組織を益々強化し対社会的にも著しい発展を示し、早くも12年1月23日(土)に、朝日会館に於て第二回発表会を開催するに到った。今回は宝塚交響楽団を招聘した。

同志社混声合唱団 第二回発表会
プログラム

- | | |
|----------------------------|----------|
| 一、大協奏曲(コンチェルトグロッソ)第6番 | ヘンデル作曲 |
| 二、聖譚曲「ユダス・マカベウス」全曲 | ヘンデル作曲 |
| 三、交響曲第40番ト短調 | モーツァルト作曲 |
| 四、交声曲(第40番)「神の子の現はれ給ひしは」全曲 | パッサ作曲 |
- 指揮は森本芳雄君、ピアノ伴奏は中瀬古和嬢、ソリストに杉原道女史、加藤貞女史、水野康孝氏、小代義雄氏であった。

「C.C.D.」設立の思い出



長島 俊司(昭和24年卒)

(注 この原稿は昭和29年に書かれたものです。)

昨今のグリー生活には一層その想ひ出の数々と情緒の花をそへるものとして「C.C.D.」の大いなる存在を忘れることは出来ない。と云っても、古い先輩諸兄には一体何の事だか見当も付かないことであらう。

グリークラブは男性ばかりに依る合唱団である事は創立以来50年の歴史が物語る処であるが、然しこゝ数年来、グリーの演奏会その他の諸活動の蔭に常に一連の女性群の有る事に御気付の方も多しと思う。彼女達はグリーの演奏会の際等まるで自分達の会の様に協力し、実に甲斐々々しく、かゆい処に迄手の届く女房振りに、世間一般のお客様の中には「さすが同志社のグリークラブやなあ！手伝ってはるのは、あら皆彼女かいなあ…。」位に思つて、しよわせてくれる方も無きにしもあらずの有様。然し仲々悲しいかな、あれ丈居るグリーの面々に自称彼女はいざ知らず、忠実に手助けしてくれる様な彼女等とは思ひも依らぬ事は50年来の歴史故？このけなげな奉仕者は皆吾等が「C.C.D.」の女性達なのである。

丁度7年前の昭和22年1月、校祖の墓前で「庭上の一寒梅」の歌をグリーと当時の女専クワイヤー有志の人々とで歌った事があった。その前年頃よりEVE等のステージで校歌を歌ふ時には致し方なく、臨時にクワイヤーと混声を組んでいたののであるが、その都度学生に依る混声合唱団の必要を痛切に感じ、又一方関西は勿論全国でも同一学園内に学生の混声合唱団を組織出来るのは我が同志社の誇りだとして、兼々吾々の念願としていた。その計画の具体化を進め、先づ第一歩として始めて女専クワイヤーの代表者を招き、学生会館の火の気の全く無いストーブを囲んで寒さに震へながら、第1回設立準備会を開いて、こちらの意志を伝え、意見を交換してプロポーズした日の様子が浮んで来るのである。その時集ったのは女専側児玉、湯浅、松田、長島(森)等の諸姉に、グリー側は田村、西村、岡本、織田、山中の諸兄達約10名ばかり。戦後の耐乏生活のどん底で、やたらに寒さが腹にこたへた事が印象的に残って居る。

その後何度も何度も委員会を重ねた後、一応規約等も作成し、愈々新学期より練習開始の運びに迄は至ったもの、「新しい様で旧いのは同志社の常」とか、勿論未だ未だそう簡単には女専側の公認は得られず、片桐校長のもとへ何度も足を運んで了解を求める一方、森本先生を指揮者兼監督者にお願ひして強引にその名も「同志社学生混声合唱団」として昭和22年4月に発足したのである。

何しろ始めの内は女声部の委員との連絡に、なれぬ女専へ行っては、年取った独身らしき女の先生に「何の御用ですか？」と睨まれて、御用も達せず、驚いて帰って来たり、心臓の弱い我々は相互の連絡にもほとんど困り果てたものである。又練習場所にも事欠く有様で、離れた場所では勿論女声部が集まらず、喜ばせたりおどしたり、練習の雰囲気と興味を湧かせる事に苦心惨膽、男の連中はグリーを放っておいても「C.C.D.」の練習には出て来て出席率は上々、ふだんサボりがちの者までこの日はやって来るが、女声部の団員の出席は悪く、掌握はまるで出来ず、バランスは取れず、委員達は随分女性心理の研究にもなったのである。そうこうしながらも森本先生の献身的な御指導に依り、又女専側も誠意有る我々の努力を次第に理解頂き、その結果、女子部の音楽室を練習場として使用出来る様になった頃からは、次第にその基礎が固まって来た様に思はれた。

昭和23年10月、森本先生に、「C.C.D.(Collegiate Choral Doshisha)」と命名頂き、大阪朝日会館に大挙200名の出演で、大阪ッ児をアッ!と云はせたり、又EVEのステージでこの大合唱団が立往生するやら、苦勞も楽しみも全て懐しい想ひ出として数限り無く脳裏に残って居る。

然し乍らグリー自体がコンクールに破れ、大いに自己批判のあげく「C.C.D.」の存在がグリーの負担であり、グリーの役員は「C.C.D.」の役員を兼ねる可からずとか、一時は邪魔者にもなりかねない有様に、全くの危機に陥った事も再三再四、消滅の運命にすら立到ったものである。

昨年暮、「C.C.D.」創立5周年記念音楽会に招かれ、単独でこゝまで立派に演奏会が持てる様になった「C.C.D.」を目の当りに見て、まるで立派に成人した我が子を見る如く



同志社学生混声合唱団(C.C.D.)の創立当時(昭和22年秋 栄光館横にて)

万感胸に込み上ぐるものがあつたのは私一人では無く、創立当初を知る諸兄弟全ての感激であり、又育ての親森本先生を亡くして以来、こゝ迄立派に育て上げて下さった諸君に、唯「有難う」と心の中で感謝を申す以外に言葉が見当らないのである。

今日吾が「C.C.D.」の存在は全国学生合唱団の羨望的である事はもとより、グリーに取っても、凡ゆる面に於て大きなプラスとなって現はれて居る事は、我々創立の任に当たった者が等しく喜びとし、又誇りと思っている所である。

今日グリークラブ創立50周年を機会に、古い諸先輩にも「C.C.D.」の存在を充分御理解頂くと共に、現在の諸君は、これを更に立派に成長させて後輩に残し、今後グリーの続く限り永久に、グリー生活の良き想ひ出に、良き伴侶として花をそへられる様、心から希望する次第である。

——故森本芳雄先生の霊来りて「C.C.D.」をお導びきあらん事を。

「C.C.D.」昨今

元「C.C.D.」マネージャー

小門 君子(昭和30年同志社女子大卒)

(注 この原稿は昭和29年に書かれたものです。)

「庭上の一寒梅」に端を発し、色々なもめごとの末、昭和22年めでたく産声をあげた学生混声も以来幾星霜を経て、その間泣いたり、笑ったり、努鳴ったりしながらも大成功のうちに第2回発表会を行う事が出来る迄に成長して参りました。

さて、この八年間「C.C.D.」(Collegiate Choral Doshisha 昭和23年10月森本先生により命名)も幾多の試練に遭遇して参りました。最も大きな打撃は昭和24年11月20日、私達を愛しみ育て、導いて来て来て下さった森本芳雄先生の御急逝。その後しばらくは余りにも大きな痛手に、部員一同なす術も知らぬ有様でしたが幸いにも湯浅永年教授、並びにE.B.ウエンガー教授を顧問にお迎えし、グリーの日下部吉彦兄に指揮棒をとって戴いて、ようやく練習を再開する事が出来る様になりました。

斯くして悲しみの年を乗り越え、次に「C.C.D.」にとっては真に劃期的な年、とでも云うべき昭和28年度を迎えました。(指揮・寺本和市兄、幹事長・大橋兄、幹事・宇野兄、岡本兄、小島姉、大西姉、中島兄、野口姉、北村姉、小門)即ち、部員相互のメンタル・ハーモニーの強化を目標に、キャンプを、又技術的な面では発表会を、それぞれ新しい試みとして計画致しました。

何しろはじめての事とて、何度も相談し、随分と取越苦勞もしましたが、兎に角9月3、4、5の3日間、琵琶湖畔、唐崎同志社キャンプハウスで「C.C.D.」第1回キャンプを行う事に致しました。湯浅先生とウエンガー先生御一家と過したこの3日間は、参加した者一人一人が「こんな楽しいキャンプは初めてや。」と口々に云った程、素晴らしいものでした。歌い、泳ぎ、踊り疲れて、お台所へつまみ食いに行つてはKPにつまみ出された事等々。一つ屋根の下に同じ釜のめしを食べたという思い出は、唯夏雲の様に跡もなく消えさってしまうものでは決してありません。キャンプに加つた一人一人の胸の一隅に、永遠に消えやらぬ何かを築き上げました——そうでなければ、このキャンプの意義はないのですが——。そしてその結実したものが12月19日に行つた「C.C.D.」第1回発表会であつたのだ、と云えましょう。

東大コールアカデミー、同志社グリークラブ、フレンドリーコーラスに賛助出演をお願いして、私共はフォーレのレクイエムを中心に、クリスマス・キャロルや、アメリカ民謡を配しました。レクイエムの最後の指揮棒がおろされ、客席からの拍手をあげた時の感激と興奮は、フォーレのレクイエム

という大曲と取組んで、とにかくものにした指揮の寺本和市兄の絶大な熱意、並びに先輩の暖い御支援、現部員の自覚と意欲があつてこそと身に沁みて感じたゞけに一入深いものがありました。

翌20日には総会、委員改選後(指揮・河上文久兄、幹事長・大橋兄、幹事・中路兄、稲田姉、北村姉、朝倉兄、小野寺兄、井上姉、小門)後、盛大にクリスマスパーティを行い、引き続きキャロリングに出発し、喜びにみちて新しい年を迎える事が出来ました。

総じて誕生時代とは反対に、男声メンバーの少なさに頭を悩まされていた折も折、宇野兄の御努力によって復刊された「The Collegiate Choral Doshisha(C.C.D.部報)」第5号の渋谷兄による一文、「同志社学生混声合唱団に思う」が一つのセンセーションをまき起し、臨時総会を開くに到りました。それは「本合唱団は、同志社グリークラブに籍を有する男子学生、及び同志社大学、同志社女子大学に籍を有する女子学生を以て組織する」という規約第3章、第4条に対する批判、ことに男声部に対する批判でありました。これについて、何度か委員会で話し合った結果「C.C.D.」は決してグリーに対して従属的立場にあるものではなく、一個の独立した団体であり、かつ男声部をグリーにのみ依存している現状には反省すべき余地がある。という見地から、「男声部を同志社大学に籍を有する全男子学生に門戸を開く」という、委員会案が作成され、1月20日、臨時総会を開きました。この総会は随分ごたつきましたが、結局反対一名、過半数賛成で、無事委員会案が通過。4月の新学期には同志社大学全体より募集する事に決定致しました。

そして4月、グリー以外の男声がどの程度入るか、と期待と不安のうちに蓋をあけてみると、これはしたり、宣伝が足らなかったせい、ほんの2、3人。あわててみても後の祭り、旧メンバーに数人の新たな男声新入生と、いう顔ぶれで河上兄に指揮をとってもらって練習を開始致しました。

何やかやと云いつ、も、次第に練習も進み、第2回発表会を目指して「C.C.D.」第2回キャンプを9月3、4、5日、昨年と同じく唐崎で開く事が出来ました。雨がしょぼしょぼ降る中でふらふらになる迄踊りまくり、畳の上での「オリンピックごっこ」に夜の更けるのも忘れて熱狂した総勢70余人の腕白連も、練習時間にはいとも神妙にアクビを咬み殺し、一生懸命に練習し、終止、なごやかなうちに3日間の過程を終えました。

一時は発表会さえあやぶまれましたが、秋頃より漸次男声部も出席率良好となり、女声部もまとまって参りました。これもキャンプの一成果でありましょう。

さて練習も高潮し、皆の気構えも演奏会に集中されて来た時、A.B.C放送から中継録音放送の申し入れがあり、一同益々はりきりました。さて当日の12月11日(日)、「800人も入るかしら…。」「赤字にさえならなければ…」とと思っていたところ、栄光館の下も上も満員「アッ!!」とこちらの方が気を吞まれてしまいました。プログラムは、リングワルド作曲の「クリスマスの歌」(本邦初演)を中心に、「アレレヤ」(トンブソン作曲、本邦初演)やキャロル等の外に、グリークラブ並びに小島まさ姉が賛助出演して下さいましたし、ナレーターとしてアメリカン・スクールのパット・ケイドウ嬢も懸命に御協力下さいました。伴奏者は小泉久代姉、初田英子姉でした。輝かしいチャイムの響きと共に「メリー・クリスマス・デー」と大曲「クリスマスの歌」を終えますと、客席からすさまじい爆雷の拍手。私達はしばし湧れる涙を禁じませんでした。こんなに素晴らしい成功のうちに発表会を終える事が出来たのも、実に故森本先生はじめ、諸先輩の終始変りなき御指導、御鞭撻、指揮の河上さんの寝食を忘れる迄の熱意並びに部員各自の努力の結実でありましょう。

終りに、「C.C.D.」が先輩諸兄姉の心暖まる憩いの場であり得れば、私達現部員として非常に嬉しい事でありまして、「C.C.D.」の諸行事にも是非御出席下さって、色々とお教え下さる様に、この場を借りてお願い申し上げます。決して煙たがったり、邪魔者扱いには致しません。大歓迎するつもりでいる事をつけ加えておきます。

庭上の一寒梅

新島 襄 作詩
 大中 寅二 作曲

ていじょうの いちかんばい わろうて

ふうせつをおかしてひらく あらそわず またつ - とめず お -

のすから しむ - ひゃかの さきが - け

のすから

寒 庭 笑 不 自
 梅 上 侵 争 占
 之 一 風 又 百
 詩 寒 雪 不 花
 梅 梅 開 力 魁



C.C.D C.C.D. C.C.D.

昭和23年
(1948)

前年来計画していた復活第1回立教・同志社交歓演奏会を、5月8日(土)大阪YMCA講堂、5月9日(日)京都(同志社)栄光館で開催した。しかし、大阪では予想外の不入りで完全に失敗だったが、京都では非常に盛会で、初めて演奏会らしき演奏会をもった。以後、東京と京都の一年交代で5回の交歓演奏会を開催した。

この年の合唱コンクールより、従来の「男声」、「女声」、「混声」の部門が「一般の部」、「職場の部」、「学生の部」に分類された。そして、全日本合唱コンクールが開催されることが決定された。これによれば、関東、東海、関西、西部の各合唱コンクールにおけるそれぞれの部の優勝団体が日本一を競うというものである。

復活第一回
立教大学 同志社大学
グリークラブ
交歓演奏会




1948年
5月8日(土)大阪YMCA講堂
5月9日(日)京都同志社栄光館

立教大学 Y.M.C.A. 東京
同志社大学 同志社栄光館

指揮 佐藤 哲一
合唱 同志社学生合唱団
伴奏 友成 Y. M. C. A.
立教大学オーケストラ

立教グリークラブ

— 部 員 —

第一 部
a 指揮 佐藤 哲一 (H. Stutz)
b 指揮 佐藤 哲一 (L. Wilke)
c 指揮 佐藤 哲一 (F. O. H. H. H.)
d 指揮 佐藤 哲一 (K. Zinner)
e 指揮 佐藤 哲一 (H. H. H. H.)

第二 部
a 指揮 佐藤 哲一 (H. Stutz)
b 指揮 佐藤 哲一 (L. Wilke)
c 指揮 佐藤 哲一 (F. O. H. H. H.)
d 指揮 佐藤 哲一 (K. Zinner)
e 指揮 佐藤 哲一 (H. H. H. H.)

MEMBERS

指揮 佐藤 哲一 (H. Stutz)
指揮 佐藤 哲一 (L. Wilke)
指揮 佐藤 哲一 (F. O. H. H. H.)
指揮 佐藤 哲一 (K. Zinner)
指揮 佐藤 哲一 (H. H. H. H.)

1st Ten 大 西 隆 二 田 村 正 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三
2nd Ten 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三
1st Bar 大 西 隆 二 田 村 正 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三
2nd Bar 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三

チョコレートハウス
喫茶 フロリタ

河原町四條と二筋目東

京都の名物 味の横町

社交喫茶 セントポール

同志社グリークラブ

— 部 員 —

第一 部
a Der Julestube (1874) ———— Schubert
b Mazurka ———— Bach
c Die Forelle (1845) ———— Wagner
d Die Heidenkinder (1845) ———— Wagner
e The Hunter Call (1845) ———— Emerson

第二 部
a Die Bruchstücke (1845) ———— Haydn
b Die Forelle (1845) ———— Wagner
c Die Heidenkinder (1845) ———— Wagner
d Die Heidenkinder (1845) ———— Wagner

MEMBERS

指揮 佐藤 哲一 (H. Stutz)
指揮 佐藤 哲一 (L. Wilke)
指揮 佐藤 哲一 (F. O. H. H. H.)
指揮 佐藤 哲一 (K. Zinner)
指揮 佐藤 哲一 (H. H. H. H.)

1st Ten 大 西 隆 二 田 村 正 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三
2nd Ten 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三
1st Bar 大 西 隆 二 田 村 正 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三
2nd Bar 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三 山 崎 隆 三

大合唱曲目

1. Zum Eingang (1845) F. Schubert
2. 終曲 (1845) F. Schubert

— 部 員 —

A 同志社グリークラブ 指揮 佐藤 哲一
1. 終曲 (1845) F. Schubert
2. 終曲 (1845) F. Schubert

B パイオニア合唱団 (1845) 指揮 中野 隆三
1. 終曲 (1845) F. Schubert
2. 終曲 (1845) F. Schubert

曲 目 解 説

同志社グリークラブ
第一 部 全曲とも同志社グリークラブで演奏されたものである。指揮 佐藤 哲一 (H. Stutz) 指揮 佐藤 哲一 (L. Wilke) 指揮 佐藤 哲一 (F. O. H. H. H.) 指揮 佐藤 哲一 (K. Zinner) 指揮 佐藤 哲一 (H. H. H. H.)
第二 部 全曲とも同志社グリークラブで演奏されたものである。指揮 佐藤 哲一 (H. Stutz) 指揮 佐藤 哲一 (L. Wilke) 指揮 佐藤 哲一 (F. O. H. H. H.) 指揮 佐藤 哲一 (K. Zinner) 指揮 佐藤 哲一 (H. H. H. H.)

復活 第1回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

そして11月3日(初めての文化の日)、大阪朝日会館で関西合唱連盟主催、朝日新聞社後援、大阪中央放送局協賛の**第3回関西合唱コンクール**が開催された。

ところで、関西学院グリークラブはコンクールにおいてOBも共に歌うという習慣だった。この年もOB共演であるにもかかわらず、「学生の部」に出演することになり、合唱連盟もこれを認めた形となっていたので、同志社グリークラブが発起人となり、大谷大、大阪商大(現市大)、浪高(現阪大)、神戸女子薬専、大阪薬専に呼びかけ、連盟に提訴した。連盟委員会は大もめにもめた。

(関西学院グリークラブは困惑した。5ヶ月前に「OB合同で一般の部に」と決めていたのにどういふわけか学生の部に出場となり、混乱を招いた。恐らく、キツネにつままれたような思いであったろう。関学グリーの意見としては「OBとの合同演奏は学院グリーの伝統である。これを変えるわけにはいかない。当方としてはどちらの部になってもかまわない。連盟で決めてもらいたい。」というものであった。……「関西学院グリークラブ80年史」より引用)

かくして、コンクールの前日連盟総会が開かれ、関学グリーは「一般の部」に出場することになった。このため、プログラムは再印刷する間がなく、関学グリーは学生の部に入ったままになっている。

**大阪府・市・芸術祭参加
第三回関西合唱コンクール**

◇ 課題曲
 戦曲合唱「秋のピエロ」 作曲 西沢 修
 女声合唱「山のあなた」 作曲 宇野浩吉
 混声合唱「うぐいす」作曲 エドワード
 武野燾天(現浪高)

と き 1948年11月3日午前9時
 と ころ 大阪朝日会館
 主 催 関 西 合 唱 連 盟
 後 援 朝 日 新 聞 社
 協 賛 大 阪 中 央 放 送 局

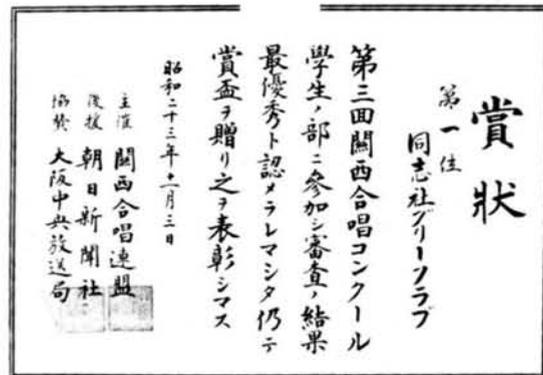
【学生の部】	【一般の部】
1. 大谷大学グリークラブ (混声) 2. 浪高高等女学校合唱部 (混声) 2, 3. 大阪商大グリークラブ (混声) 3, 1, 4. 同志社グリークラブ (混声) 5. 神戸薬専大学グリークラブ (混声) 6. 大阪薬専女子コーラス部 (混声) 7. 大谷大学女子部グリークラブ (混声) 8. 兵庫短期大学合唱部 (混声) 9. 大阪薬専グリークラブ (混声) 10. 関西学院グリークラブ (混声) 11. 大谷大学男声合唱部 (混声) 12. 京大男声合唱部 (混声) 13. 同志社リダーズコーラス (混声) 14. 神戸女子薬専コーラス部 (混声)	1. 堀口五段声合唱部 (混声) 2. 東洋合唱研究会 (混声) 3. 明石音楽同好会 (混声) 4. しんさき合唱部 (混声) 5. 高松短大合唱部 (混声) 6. アルママター・クワイヤ (混声) 7. 神戸市民合唱部 (混声) 8. 岸和田北オケラス (混声) 9. サンダーコーラス (混声) 10. 右衛門声合唱部 (混声) 11. 大津男声合唱部 (混声) 12. グリーン・エコー (混声) 13. 関西声合唱部 (混声) 14. 関西コーラス (混声) 15. 大津女声合唱部 (混声) 16. 大津混声合唱部 (混声) 17. 中央合唱部 (混声) 18. 京大混声合唱部 (混声) 19. 京大フロックエンコー (混声) 20. アイヴーコーラス (混声) 21. 秋田文化協会混声合唱部 (混声) 22. 関西合唱部 (混声) 23. 京大混声合唱部 (混声) 24. 神戸土曜合唱部 (混声)

【職場の部】

1. 大阪銀行本功合唱部 (混声) 2. 日立造船混声合唱部 (混声) 3. 武田混声合唱部 (混声) 4. 秋葉会混声合唱部 (混声) 5. 鶴見本音合唱部 (混声) 6. 塩野義興混声合唱部 (混声) 7. 日産混声合唱部 (混声) 8. 大日本セロイド新合文化部 (混声) 9. 日本生命女声合唱部 (混声) 10. 日本電産混声合唱部 (混声) 11. 三浦混声合唱部 (混声)

第三回 関西合唱コンクールのプログラム
(関学グリーが「学生の部」に入ったままになっている。)

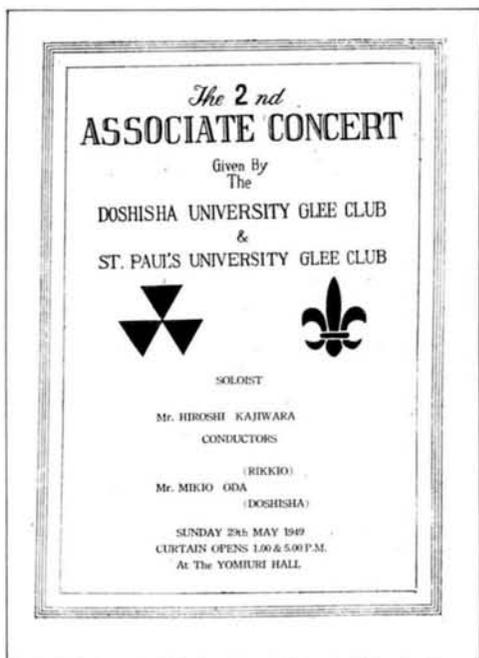
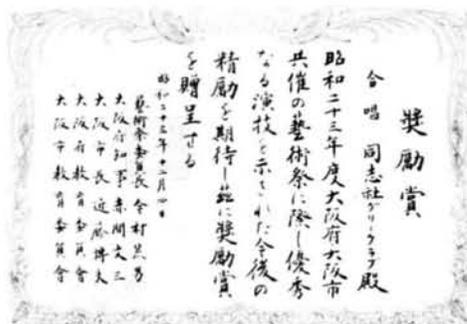
この第3回関西合唱コンクールには一般の部25団体、職場の部11団体、学生の部13団体計49団体が参加した。審査員は長井斉氏、朝比奈隆氏、伊達三郎氏、藤堂顕一郎氏、林雄一郎氏、須藤五郎氏、水谷央氏、吉村一夫氏、森本芳雄氏であった。同志社グリークラブは織田幹雄氏の指揮で、男声課題曲「秋のピエロ」(堀口大学詩・清水脩曲)と自由曲「O Bone Jesu」(Palestrina曲)を演奏した。審査の結果、一般の部では関西学院グリークラブ、職場の部では扶桑金属合唱団(現住友金属混声合唱団)、学生の部では同志社グリークラブが第1位となり、全日本合唱コンクールの出場権を得たのである。



11月23日、神田共立講堂において第1回全日本合唱コンクールが開かれた。各地区の代表12団体が参加。審査員は堀内敬三氏、外山国彦氏、岡本敏明氏、津川圭一氏、長井斉氏、山内常光氏、近衛秀磨氏、清水脩氏、平岡照章氏であった。同志社グリークラブは森本芳雄氏の指揮で、課題曲「秋のピエロ」、自由曲「O Bone Jesu」を歌った。審査の結果、一般の部では関西学院グリークラブ(関

西・男声)、職場の部では運輸省合唱団(関東・混声)、学生の部では福岡県立福岡女子高校(西部・女声)が優勝。同社グリークラブは学生の部で第2位であった。ちなみに、この結果について関学グリーの指揮者であった林慶治郎氏は、「同志社グリーはあがってしまつて音程をはずした。」と語っている。

さらにこの年、大阪府、市の芸術祭受賞者として、合唱関係では関西学院グリークラブが芸術祭賞、扶桑金属合唱団と同志社グリークラブが奨励賞を受賞した。



昭和24年

(1949)

年が明けてすぐ、グリー内部で分裂の問題が起きかけたが、それも納まり、5月29日、第2回立教・同志社交歓演奏会が東京読売ホールで行なわれた。

6月に入って、マンドリン私演会・学生合唱連盟演奏会に日下部吉彦氏(昭27卒)が副指揮者として初登場し、特に「荒城の月」の演奏が注目された。7月8日~10日まで、グリークラブ創立45周年演奏会のための合宿を比叡山延暦寺で行なった。食糧事情は末だ意に任せず、坂本まで、馬鈴薯を取りに行つておやつとした。また自由時間には、レコードをかけ、山中氏、日下部氏らがダンスをやり出し、皆でんでに講習を受けるという思い出もあった。

PROGRAMME
— 第一節 —

1 同志社グリークラブ
a) 羊飼いの日曜日.....アソビウツ
b) Der Liebesbote.....ライオン地方民謡
c) 船 唄 (ホフマン物語より).....オプスバワハ
d) 夜の居酒屋.....ウイスヘルム・ミンタンク

2 立教グリークラブ
a) ヨソワタム.....Polish Folk Song
b) オゾの種子.....Negro Spiritual
c) 深い河.....
d) Old Folks at Home.....S. C. Foster
e) My old Kentucky Home.....

3 セアノ間奏曲.....松原 定

(晝の部)

a) 狂詩曲 (ト短調).....ブームス
b) 聖典曲 (第2巻聖へ長調).....シヨパン
c) 幻想即興曲.....
d) 同音曲 (第一巻).....
e) 歌の響に委せて.....メンダスダン(リスト編曲)
f) ハンガリア狂詩曲 (第六巻).....リスト

(夜の部)

a) ヨンチェルト (二短調).....ワーグマンバウム
b) 夜想曲 (聖へ長調).....シヨパン
c) ハンガリア狂詩曲 (第六巻).....ブームス
d) ハンガリア狂詩曲 (第二巻).....リスト

◆ 休憩 ◆

— 第二節 —

1 立教グリークラブ
a) 水夫のセレナーデ.....Emerson
b) 涙に濡れた青函.....R. Schumann
c) Adieu, Sweet Anurilla.....J. Wilby
d) マトナの子.....Lamo
e) パターの若者の唄.....A. Adam

2 同志社グリークラブ
a) Requiem Aeternam.....ヨルネリウウス
b) 荒 城 の 月.....シムーベルト
c) オンヅラの船唄.....シムーベルト
d) 聖徳の合唱 (歌唄タンホイザーより).....ワーグナー

3 同志社立教 合唱演奏会
●「ドイワ・ソサ」全八曲.....シムーベルト
a) Zum Eingang (大聖に當つて)
b) Zum Gloria (聖光節に當つて)
c) Zum Credo (礼拝に當つて)
d) Zum Offertorium (右節に當つて)
e) Zum Sanctus (聖節に當つて)
f) Zum Agnus Dei (神聖節に當つて)
g) Nach der Wandlung (化體の後)
h) Schlussgesang (終のうた)

●詩集第九十八篇
新しき道をキホに對いて唱へ.....平田 清編曲

立教グリークラブ履歴

大正12年 創立、以後毎年春秋第二回定期演奏会開催
昭和6年 同志社グリークラブと第一回交歓演奏会開催
昭和18年 全日本學生合唱コンクールに優勝
同年12月 全メンバー出役のためむなく解散
昭和21年11月 復活、練習開始
昭和22年11月 復活第一回演奏会を開く、この際同志社グリークラブ
賛助出演 於、毎日ホール
昭和23年5月 復活第一回同、文、交歓演奏会開催 於、同志社聖光館
昭和23年11月 定期演奏会開催 於、毎日ホール

第2回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

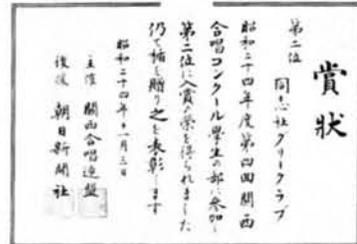
9月25日、戦後グリークラブ初の単独発表会として、45周年演奏会を栄光館で盛大に行なった。

11月3日、大阪朝日会館で第4回関西合唱コンクールが行なわれた。一般の部20団体、職場の部13団体、学生の部10団体、計43団体が参加した。

同志社グリークラブは日下部吉彦氏の指揮で、男声課題曲「悦ばしき逍遥」(メンデルスゾーン曲、飯田忠純訳)



と自由曲「Ich will die Fluren meiden」(ハウプトマン曲)を演奏した。審査の結果、一般の部では関西学院グリークラブ、職場の部では日本建設産業混声合唱団、学生の部では大谷大学男声合唱団が1位を得た。同志社グリークラブは学生の部で第2位であった。



P R O G		R A M M E	
I College Song		II ピアノ演奏	モネニ
I 挨拶	顧問 片岡 前	A 子供の唄	ドビュシイ
II 男聲合唱	指揮 飯田 幹雄	1. 子供の唄	
a. Deep River	Negro Spiritual	2. ロンゴの子守唄	
b. 野ばら	メンデルスゾーン	3. 人形のセレナーデ	
c. B A Ba	大中寅二	4. 雲が降つてゐる	
d. 剣と聖堂	ヘーゼ	5. 小さい羊飼ひ	
III 男聲合唱	指揮 飯田 幹雄	6. ざわめきの夜	(無人球の踊り)
a. 子守唄	ブラームス	B a. 2つのスペイン舞曲	グナナドス
b. べにばら	スーザン長篇	b. グラナディアナ	アルベニス
c. ばばい唄	リュベック	c. コロド	アルベニス
IV 男聲合唱	指揮 日下部 吉彦	III 男聲合唱 (先験)	指揮 飯田 幹雄
a. Ich will die Fluren meiden	Hauptman	a. There's the church in the valley	William
b. 狐のわざ	松本勝男	b. Maeter	Hans George Nagel
c. 悦ばしき逍遥の人	メンデルスゾーン	c. 除夜の鐘	ショパン
d. Going Home	A. Dvorak	ソプラノ 嶋崎 山川 藤英	
		ヴァイオリン 松本 若	
		ピアノ 作奏 松下 富士子	
		オルガン 作奏 飯田 幹雄	
		IV 男聲合唱	指揮 飯田 幹雄
		a. Chorus	F. Mendelsohn
		b. 感傷の夜へ	メンデルスゾーン
			作奏 四條教会ブラスバンド
		V 合同合唱	指揮 松本 芳雄
		新しい歌をみんなに向ひてうたへ	不田 重編曲

同志社グリークラブ創立45周年演奏会のプログラム

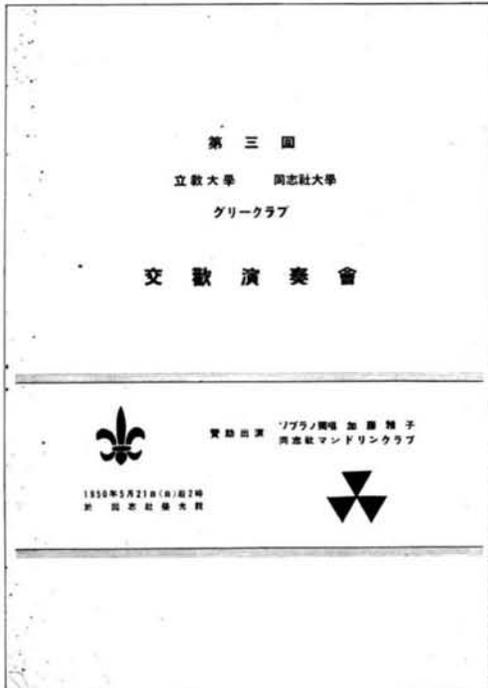
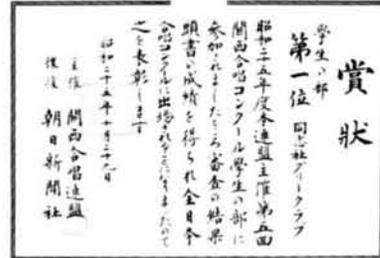
- ▽ 「BAba」(大中寅二曲)は昭和21年10月東京演奏旅行の際グリーに送られた曲で、作曲者自身の指揮でNHKから放送されたこともある。
- ▽ 「狐のわざ」(松本勝男曲)はグリークラブ当時現役部員(昭27卒)の作曲。歌詞は島崎藤村の「若菜集」よりとられた。現音楽評論家。

昭和25年
(1950)

5月21日、第3回立教・同志社交演奏会が栄光館で行なわれた。そして、この年はグリークラブが第3回全日本合唱コンクールで初めて優勝した年である。

当時幹事長の富永光雄氏(昭26卒)の手記によれば、コンクールに出るか否かさえもさんざん悩んだらしい。というのは、その年の卒業部員が20名近くの多さを数え、部員総数40名そこそこで全く心細いものであったようだ。第5回関西合唱コンクールの優勝の喜びの方が大きかったというのも、偽らざる心境であったと思われる。

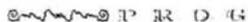
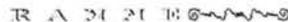
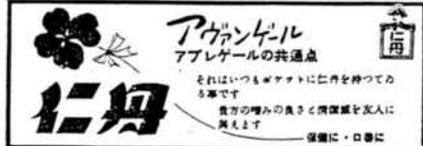
10月29日、大阪朝日会館で第5回関西合唱コンクールが行なわれた。一般の部17団体、職場の部14団体、学生の部11団体、計42団体が参加した。同志社グリークラブは日下部吉彦氏指揮で、男声課題曲「秋の日ぐれ」



(近藤吐愁詞、平井保喜曲)、自由曲「Requiem」(コルネリウス曲)

を歌った。審査の結果、一般の部では関西学院グリークラブ、職場の部では三菱男声合唱団、学生の部では同志社グリークラブが第1位となった。



			
<p>I 校歌交歓</p> <p>II メッセージ朗誦</p> <p>III 合唱 同志社グリークラブ</p> <p>a. あしたまで J. A. Parks</p> <p>b. Sraletingrud F. W. Bomer</p> <p>c. 読みの調ベ</p> <p>d. 乾杯の泉 マンダリンクラブ</p> <p>e. Abschied von der Geliebten G. F. Haackl</p> <p>IV マンドリン合奏 同志社マンドリンクラブ 指揮 大八木達彦</p> <p>a. アンネッタ E. ブーシュマン</p> <p>b. 塔きの天徒 M. マスター</p> <p>c. 暁のへの讃歌 M. ブオオト</p> <p>V 合唱 立教グリークラブ</p> <p>a. O Sacrum convivium L. G. Viduus</p> <p>b. Jous dilois memoria Th. L. de Vittoria</p> <p>c. Austria Al. T. Gretchaninov</p> <p>d. Ocaute Domini I. Hailer</p>	<p>VI 合唱 同志社グリークラブ</p> <p>a. Firebird (豊) シリア 民族</p> <p>b. Turn Ye to Me (彼に告ぐ) ママコランド民族</p> <p>c. Galway Piper (ガムウェイの笛吹き) アイアランド民族</p> <p>d. Good Night (おはやす) ドイツ 民族</p> <p>VII ソプラノ独唱 加藤 雅子 ピアノ伴奏 加藤 雅子</p> <p>a. ガムラ アラビヤイ</p> <p>b. オクタヴィアン」より オクターブ</p> <p>VIII 合唱 同志社グリークラブ</p> <p>a. Bossi Mottai F. Mendelssohn</p> <p>b. よろこび アイアランド民族</p> <p>c. Going Home A. Jervak</p> <p>d. Die Posten Minge F. Ilger</p> <p>IX 合同合唱 立教グリークラブ 同志社 指揮 辻花一教授</p> <p>Desubito Mene F. Schubert</p>		
<p>加 田 店 コニーアイランド</p> <p>河津町三番 TEL 23820</p>			
(4)		(5)	

第3回立教・同志社交演奏会のプログラム

11月23日、東京日比谷公会堂で第3回全日本合唱コンクールが開催された。参加は各部とも、北海道、東北、関東、東海、関西、西部の各地区代表6団体、計18団体であった。同志社グリークラブは日下部氏の指揮で、課題曲「秋の日ぐれ」、自由曲「Requiem」を歌った。第1回の全日本合唱コンクールでは、全員がたたくて日頃の実力が出しきれず、福岡女子高校の「水とんぼ」(Bargiel曲・伊藤武雄訳)にしてやられたが、この第3回において再び東京で、校名が変わった福岡中央高校の女声と相まみえた。審査の結果、一般の部では関西学院グリークラブ(関西・男声)、職場の部では日本国有鉄道合唱団(関東・混声)、

学生の部では同志社グリークラブ(関西・男声)が第1位となり、全日本優勝の栄誉を獲得したのである。当日の新聞評、野呂信次郎氏(音楽評論家)によれば、「コルネリウスのRequiemはスフォルツアンドの用い方が多いように思ったが、これだけきれいにまとめあげれば申し分ない。」とあった。

また、11月に立教グリークラブ定期演奏会(東京読売ホール)に特別出演した。



第3回全日本合唱コンクール優勝記念
(昭和25年11月26日 神学館前 前列中央片桐先生 その左森本氏)



賞状

第一位

同志社グリークラブ

右は第三回全日本合唱コンクール学生之部に
関西合唱連盟代表として
参加して優秀なる成績を
おさめました更に今後の
努力を期待してその名譽を
表彰します

昭和二十五年十一月二十二日

全日本合唱連盟

理事長 小松耕輔

文部大臣奨励賞

同志社グリークラブ

諸君は全日本合唱連盟
主催第三回全日本合唱
コンクールに参加して
学生の部の第一位の最後
秀団体として推せられた
ます今更努力すること
を期待して奨励のために
賞する

昭和二十五年十一月二十五日

文部大臣 天野貞祐

昭和26年 前年頃よりグリークラブの発達は著しく、その発展には驚くべきものがある。戦前のグリー(1951)には思いもよらぬことであった。

5月25日、第4回立教・同志社交歓演奏会が日比谷公会堂で行なわれた。



8月25日から9月8日まで、30名のメンバーで東北・北海道演奏旅行を行った。仙台、弘前、函館、小樽、札幌の5都市を訪問し、19回の演奏会を行った。これは戦後初の長期演奏会旅行で、資金や宿舎など困難を伴ったが、全日本合唱コンクールで優勝した同志社グリークラブの演奏は、地方の合唱愛好者にも大きな刺激を与えたのであった。

当時の思い出話を紹介してみますと――

仙台1 立派な公会堂で当旅行最初のステージを終え、ホットして、例のごとく場外で「カレッジソング」と「ワン・ツー・スリー」をやっていた。すると、ようやく陶酔から覚めて会場から出て来た「こけしライク」の「ルモ」(女の子のことか?)共がグルーッと我々の周囲を取りまいた。そして夜空に響く「スペシャル・サービス」の演奏に気をよくして拍手を送っていたが、やがてその中の一人が、サイン帳を出すや、我も我もとサイン攻め。勿論、日頃

P R O G R		A M M E	
Ⅰ 校歌交歓		Ⅰ 男 聖 会 唱	立教グリークラブ
Ⅱ メッセージ朗読			伊藤 雅子
Ⅲ 男 聖 会 唱	同志社グリークラブ	A. The Lord's Prayer (主の祈り)	Albert Hay Malotte
A. Hunter's Call (狩の歌)	L. O. Emerson	B. Sun and Moon (日と月)	A. T. Gretchaninov
B. Mitternacht (夜明け)	Oswald Kreutzer	C. Far over the bay (with Soprano Solo) (入道と舟)	Cesar Frank
C. Ave Maria (アヴェ・マリア)	H. Czetzschmar	Ⅱ ピアノ独奏	梶原 文
D. Schwert und Leiter (剣と杖)	Friedrich Hegar	A. トンガール・バラッド	伊 東 一
Ⅳ ソプラノ独唱	伊藤 雅子	B. キエチの燈台	伊 東 一
A. マリアマター	伊藤 雅子	C. ヨンゾー・ワグネル 第三番 (夜と風)	伊 東 一
B. 聖歌『オホソラ・アキカネ』より	伊藤 雅子	D. アダ・マリア	伊藤 雅子
【毎とも毎とも】	伊藤 雅子	E. ハンター・ワグネル第15番 (オホソラ・アキカネ)	伊 東 一
Ⅴ 男 聖 会 唱	立教グリークラブ	Ⅲ 男 聖 会 唱	同志社グリークラブ
A. Malona, lovely maiden (マリアの歌)	Orlando di Lasso	A. El Durado (赤 旗)	伊藤 雅子
B. Fire, fire, my heart (我が心燃えよ)	Thomas Morley	B. Joshua Fought the Battle of Jerico (デモイの歌)	Negro Spiritual
C. On the plains fairer trains (比類の語り)	Thomas Woolke	C. Tigranes (通りやんせ)	日下新吉彦編
D. Spring returns (春はかえり)	Luca Marenzio	D. Gals' Home (家来さまして)	A. Dorak
		Ⅳ 同志社・立教グリークラブ合同会唱	
		A. 新しき歌とメロディに向けて	伊藤 雅子
		B. Arise, O Ye servants of God	Jan Pieterse van Swolck

洋薬 邦薬
レコード 楽器
五十鈴堂薬店
池袋西口二丁目

池袋のオアシス!
鍼灸の気分ドラグストア
スナック・バー
池袋最大の
お家族向 大食堂

第4回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

「鼻下長炎」に悩む面々、この機を逸せざりしは論を待たずであった。

仙台2 ジャン・ギャバデンことS君。ステージを控え、第1種正装に整えるべく、やおらトランクから1枚のランニングシャツを取り出し、着用に及んだ。ところが周りの者がよくよくみると、少々長目でおまけに襟元に飾りがついている。何とこれはどう紛れこんだものか、妹君のシュミーズであった。我々が抱腹絶倒たるはいうまでもない。東三番町教会での出来事である。

【札 幌】 ビール会社でのことである。一部の者は寸暇を見つけ、当地在住の藤井清先輩(昭12卒)の案内で、いそいそと有名なエントツのそびえる煉瓦造の工場の門をくぐった。いふなれば“ビール”にひかれての工場見学である。製造工程を一巡して、さて本来なら「ここで一杯を…。」という建物の前へ来るや、そこは先輩の思いやり? 「これからの放送の録音にさしつかえるからいただくのは遠慮しよう。」である。その時の極左党の面々の残念そうな顔。我々の期待は“ビールの泡”と消えたのであった。

Friday 19th Oct. Osaka Mainichi Kaikan

Associate Concert

Keio Wagner Society Chorus
Doshisha Glee Club



昭和26年8月25日～9月8日、東北・北海道旅行の際持参した「運賃割引証」と「外食券」
(昭和27年卒・都木直文氏提供)

10月19日、慶応義塾ワグネルソサエティー合唱団・同志社グリーンクラブ交歓演奏会が大阪毎日会館で開催された。

この交歓会と前年の立教の定期演奏会で上京した際、ワグネルや早稲田、関学の代表者が話し合い、東西四大学交歓演奏会実現への足掛りとなっていた。

P R O G

I 校歌交歓

I 合唱 慶應義塾ワグネルソサエティー
指揮 松原秀一

- a. 自由人の誓……………メンダルスゾーン
- b. 狩人の別荘……………メンダルスゾーン
- c. 酒宴の歌……………フェルスター
- d. マリアの歌……………(op. 30 No. 9)……………グラーテ
- e. 勇歌こゑ……………(op. 30 No. 12)……………グラーテ

II ピアノ獨奏 杉原節子

- a) Rapsody……………J. Brahms
- b) Polonaise Aflat major……………F. Chopin

III 合唱 同志社グリーンクラブ
指揮 日下部吉彦

- a. O Sacrum Convivium……………Viadana
- b. O Bone Jesu……………Palestrina
- c. Kyrie……………A. Duhaupas

休 息

Coffee House ナイフオン式に依る
香り高さコーヒー

い こ い

堺筋平野町電停前

(2)

R A M M E

V 合唱 慶應義塾ワグネルソサエティー
指揮 松原秀一

- a. All through The night……………ウエーホルス民謡
- b. 春色のサラファン……………コレヤ民謡
- c. 母なる河グオルゴ……………コレヤ民謡
- d. The Erie Canal……………アマタキ民謡
- e. Home Sweet Home……………H. Bishop

VI ピアノ獨奏 杉原節子

- a) Prelude……………S. Rachmaninob
- b) Suits……………B. Bartok

VII 合唱 同志社グリーンクラブ
指揮 日下部吉彦

- a. 通りやんせ……………日本童謡
日下部吉彦編
- b. 中園地方子守歌……………山田耕筰
日下部吉彦編
- c. Listen to the Lambs……………R. Nathaniel Latt
- d. Joshua Fought the Battle of Jerico……………Negro Spiritual

VIII 合同合唱 慶應義塾ワグネルソサエティー
同志社グリーンクラブ

- a. 山 の 朝……………中村仁策
- b. Requiem Aeternam……………P. Colerius

高級婦人服

リヲ洋装店

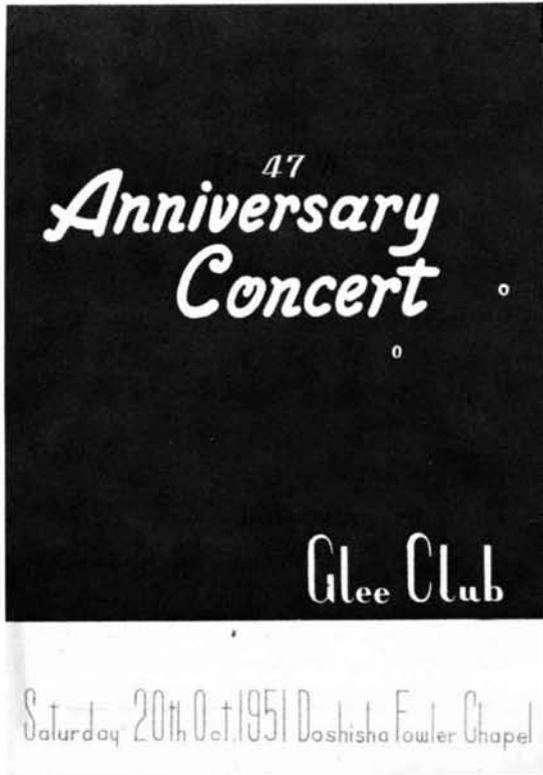
大阪戎橋筋 電話南(75)1415番

(3)

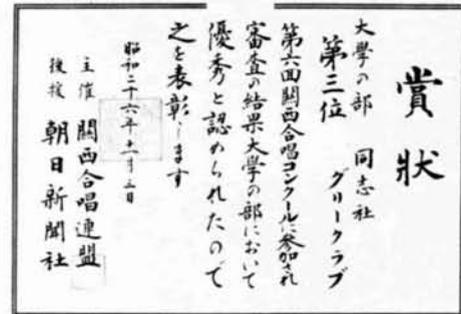
慶応義塾ワグネルソサエティー合唱団・同志社グリーンクラブ交歓演奏会のプログラム

10月20日、創立第47回発表演奏会が慶応義塾ワグネルソサエティの賛助出演を得て栄光館で行なわれた。

11月3日、大阪朝日会館で第6回関西合唱コンクールが行なわれた。この年から学生の部が高校と大学の部に分かれた。高校の部6団体、大学の部9団体、職場の部11団体、一般の部14団体、計40団体が参加した。



同志社グリークラブは日下部吉彦氏の指揮で、課題曲「山の朝」(潮 彰二詞・中村仁策曲)、自由曲「Kyrie」(A.Duhaupas)を歌った。審査の結果、同志社グリークラブは大学の部で第3位となった。なお、高校の部では関西学院高等部グリークラブ、大学の部では関西学院グリークラブ、職場の部では新扶桑金属混声合唱団、一般の部ではグリーン・エコーがそれぞれ1位であった。



<p>PROG</p> <p>I College Song</p> <p>II 挨拶</p> <p>III 合唱 同志社グリークラブ 指揮 日下部吉彦</p> <p>a. O Sacrum Convivium.....Viadana b. O Bone Jesu.....Palestrina c. Kyrie.....A. D. haupas</p> <p>IV バイブオルガン独奏 同志社女子大学 グレース・ヘフセル夫人</p> <p>a. Pastorale.....C. Franck b. Toccata in D minor.....A. maitly</p> <p>V 合唱 同志社グリークラブ 指揮 日下部吉彦</p> <p>a. 山のあなた.....武川 寛海 b. 通りやんせ.....日下部吉彦編 c. 中国地方子守歌.....山田 耕彦 日下部吉彦編 d. 琴音節(九州地方伝説).....藤井清水編</p> <p>休 憩</p>	<p>RAMME</p> <p>VI 合唱 同志社グリークラブ 指揮 関 園 孝 志</p> <p>男声合唱のための組曲 月光とビネロ.....清水 修 1. 月 夜 2. 秋のビネロ 3. ビネロ 5. 月光とビネロとビネロワトのアラバスタ</p> <p>VII 合唱 慶応義塾ワグネルソサエティ 指揮 松原 秀一</p> <p>a. 自由人の誓.....メンダハスゲン b. 特人の別れ.....メンダハスゲン c. 酒宴の歌.....ワエルヨ d. ヨツアの歌.....(op. 30 No. 9).....グラーテ e. 男校こそ.....(op. 30 No. 12).....グラーテ</p> <p>VIII ピアノ独奏 杉原 節子</p> <p>a) Rapsody.....J. Brahms b) Polonaise A flat major.....F. Chopin</p> <p>IX 合唱 同志社グリークラブ 指揮 日下部吉彦</p> <p>a. Listen to the Lambs.....R. Nathaniel Dett b. Swing Low, Sweet Chariot.....Negro Spiritual c. Go Down, Moses.....Negro Spiritual d. Joshua Fought The Battle of Jerico.....Negro Spiritual</p>
---	--

珈琲店
六 曜 社

河原町三條下通 比治2820

佛蘭西風喫茶室
フランソワ

4JOKOBASHI NISHIZUME MINAMI
TEL. 4042

同志社グリークラブ創立第47回発表演奏会のプログラム

11月10日、森本芳雄氏が突如病床に倒れられ、同月20日、天に召された。森本氏は同志社グリー、同志社混声と、まさに、同志社の一時代の音楽を作ってこられた方であった。

12月16日、「森本芳雄先生追悼演奏会」が栄光館で行なわれた。



P R O G R A M		第 二 部	
第 一 部		聖 母 曲「救 世 主」-----ヘンデル 曲	
1 バイオルガン演奏	中 瀬 吉 和	ソ プ ラ ノ	加 藤 雅 子
2 混 聲 合 唱	同志社キリスト合唱団 指揮 中 瀬 吉 和	ア ル ト	松 田 さ か 江
A. 目覚めて四方はとく		テ ナー	保 科 一 雄
B. アヴェ・マリア	アルビダ	ベース	林 達 次
3 男 聲 合 唱	同志社キリスト合唱団 指揮 前 庭 一 雄	合 唱	同志社混聲合唱団 指揮 中 瀬 吉 和
A. 讃歌 531番		バイオルガン	中 瀬 吉 和
B. Besten mahn	インゲルゾーグ	指 揮	前 庭 一 雄
4 混 聲 合 唱	京都混聲合唱団	— —	
A. Introit and Kyrie		1 序 曲	宮 貝 潤
B. In Paradisum	ツォルン	2 ア ー ト	宮 貝 潤
*レクイエム、2部		3 合 唱	宮 貝 潤
5 混 聲 合 唱	キリストキリストキリスト 指揮 日 下 武 吉 直	4 ア ー ト	宮 貝 潤
A. Ernteden drei Reben	森本芳雄編曲	5 4 - 3	宮 貝 潤
B. へそみはいとるむし	森本芳雄編曲	6 合 唱	宮 貝 潤
6 混 聲 合 唱	大 阪 混 聲 合 唱 団	ソ 唱	
(1) 懐しのキアージュへ (Händel作曲)		ソ 唱	
(2) ひそかな祈り (無人歌)		ソ 唱	
(3) 懐 い 河 (無人歌)		ソ 唱	
(4) しびしの西條 (アノキア民謡)		ソ 唱	
7 男 聲 合 唱	同志社キリスト合唱団 指揮 日 下 武 吉 直	ソ 唱	
A. Requiem	Charpin	ソ 唱	
B. O bone Jesu	Palustris	ソ 唱	
C. Kyrie	Alfred Dubois	ソ 唱	
8 ア ル ト 獨 唱	加 藤 雅 子	ソ 唱	
Ave Maria	Liszt	ソ 唱	
9 混 聲 合 唱	同志社混聲合唱団 指揮 前 庭 一 雄 バイオルガン 中 瀬 吉 和	ソ 唱	
A. まよみとにもかへずらん	森本芳雄編曲	ソ 唱	
B. 輝夜の森に 森本先生が輝く	丹村芳雄作曲	ソ 唱	
C. ねれらぬしつひさびさつて思のうらなむとよ	A. M. パワ *マヨイ夜歌集、2部	ソ 唱	
— 休 憩 —		ソ 唱	

森本芳雄先生追悼演奏会のプログラム

～ 森本芳雄先生略歴 ～



明治35年1月8日 森本得三氏並に順夫人の間に長男として神戸に生れる。

大正9年 神戸第二中学校卒業。東京音楽学校に入学、在学一年の後退学。

大正11年4月 同志社大学予科に入学。母君逝去と共に叔父君芦田慶治先生の許に身を寄せる。傍ら同志社グリークラブの仕事に専念し、非凡な働きをする。

大正14年 同志社大学卒業。

昭和3年3月 渡米。エール大学神学校に入学。

昭和4年6月 同校卒業。バachelor・オブ・デヴィニティーの学位を受ける。

昭和8年6月 エール大学大学院の課程を修了。マスター・オブ・アーツの学位を受ける。在米5年の間ラテン・グリーの教父達の古典を学び、且つ宗教音楽の研鑽に励まれる。

昭和8年9月 帰朝。同志社大学部に奉職、傍ら神学部、専門学校、女専、中学に於ても講師として教鞭を取られる。

昭和8年11月 梅原正太郎氏長女芳子姉と結婚。

昭和10年 同志社創立60周年にあたり記念事業の一つとして、全同志社の音楽部を糾合し、その指導、指揮によって第一回の『メサイア』全曲目を発表。(この全同志社音楽部の団結こそ、現在の同志社混声合唱団の母体となったものである。)

昭和15年11月 第二回の『メサイア』演奏を発表し、その後も引続いて同志社混声合唱団の育成に尽力される。然し戦争は先生とこの合唱団とを引き離し、メンバーは戦場に或は遠方に四散した。

昭和18年8月 同志社を退職し、東京の日本女子神学校に教頭として招かれる。

昭和20年春 東京で戦災をこうむられ、研究された書籍、論文その他家具財産すべてを失われ、その後神学校の教鞭をすて、終戦と共に帰洛。

昭和20年10月 曾て薫陶を受けた子弟も、ぞくぞく帰洛し、同志社混声合唱団再建の意欲みなぎる。

昭和21年春 高野山大学に通われキリスト教史を講ぜられる。

昭和21年11月 戦後第一回の『メサイア』演奏を発表、思わしくない健康状態をおして『ハレルヤ』の指揮台に立たれ、感激的な指揮棒を振られる。

昭和22年2月 同志社学生混声合唱団(C.C.D.)を組織。

昭和22年5月 第二回『メサイア』発表。

昭和22年11月 第三回『メサイア』発表。

昭和23年4月 高野山大学を辞任され、同志社高等学校に教鞭をとられる。

昭和23年11月 第四回『メサイア』発表。

昭和24年12月 第五回『メサイア』発表。

昭和25年11月 京都合唱連盟主催の『マタイ受難曲』、発表演奏会を練習指導。

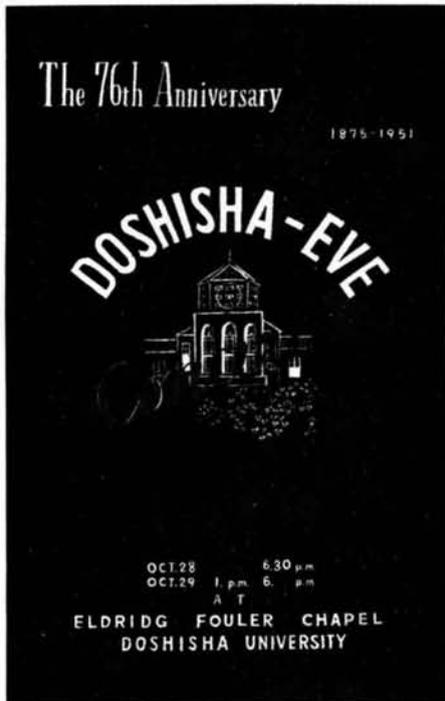
昭和25年12月 第六回『メサイア』発表。

昭和26年5月 京都合唱連盟主催のベートーベン曲『第九交響曲』の合唱部を指導。其の後学校教職の傍ら京

都コーラス、大阪放送合唱団をも指導され、先生の余り健康でない身体を文字通り教職と関西の合唱音楽の上につぎつぎと与え尽して行かれた。

昭和26年11月10日 突如病床に倒れられ病状思わしくなく、同月20日午前7時、夫人並に三男一女を遺し神の御召しの儘昇天された。

然し先生の真実、沸るような合唱音楽への熱情は、今も生きて我々の内にある事を、先生の亡びざる最後の履歴としてここに書き留めておく。――



同志社創立75周年記念イヴ音楽会 プログラム		第 二 部	
第 一 部		1. 器楽合奏 同志社協奏隊	
校 歌 Collegiate Choral Doshisha		2. マンドリン合奏 同志社大学マンドリンクラブ	
1. 混声合唱 1. Wer hat dich so geschlagen? J.S. Bach 曲 Collegiate Choral Doshisha 2. Swedish Folksong Earhart 編		1. 歌劇「ヘルムの魂はしき娘」の中の行進曲 指揮 大八木 徳基 ビゼー 曲 西田 貞吉 編	
2. バイオリン独奏 葛原順子(女子大3年)		2. 都枝の唄 武井守成 曲 3. ベネチアの太守 序曲 ボワムディエール 曲 マチヨブ 編 4. 同志社校章による七つの変奏曲と終曲 編 廣 田 曲	
ソ ナ タ ビルマン 作		3. 男声合唱 同志社長友会チアローバークラブ	
3. 男声合唱 同志社合唱団合同部		1. 詩劇「聖しきキリストに於いて」 守田 貞吉 曲 2. 詩劇「聖しきキリストに於いて」 守田 貞吉 曲	
1. 生よみめぐみを求め給え ヌーナ 曲 指揮 西郷 三郎 2. 野はら ヴェルディ 曲		4. 男声合唱 同志社チアローバークラブ	
4. 女声合唱 女子高校フレンドリーコーラス		1. Kyrie ドウハウバス 曲 指揮 山下 吉雄 2. 山の嶺 中村 仁 曲	
1. 行く道は高か(西島新自歌) 野村芳華 詞 指揮 野村 芳華 2. エス・サーナ ショパフ 曲 指揮 谷 口 良 三 バイオリン独奏 宮川 とも		5. アルト独唱 女子大3年 池田 吟子 歌劇「アスカトより」"定石の唄" デーナー 曲 伴奏 伊 藤 康 子	
5. 混声合唱 短期大学部アーバントークス		6. 男声合唱 同志社チアローバークラブ	
1. My Bonnie H. J. Fuller 曲 指揮 谷 口 良 三 2. 愛なる神 P. Schubert 曲		1. 都々のお家 本 岡 長 秋 曲 指揮 大 白 空 2. ア・マ・ラ・マ アスカト 曲	
6. 交 響 楽 同志社ジュニア・シンフォニー・オーケストラ		7. ピアノ独奏 女子大2年 黒 岩 樹 子	
おもい交響楽 J. Haydn 曲 指揮 本 宮 賢		1. ムジカ・ダ・バレー 聖へ長調 ショパン 曲	
1. アンデマンントロワゴ 2. メヌエット 3. フィナーレ		8. 混声合唱 同志社混声合唱団	
7. 女声合唱 女子中学校ジュニアコーラス		1. (マイイキ)より ヘンデル 曲 指揮 森 本 芳 雄 2. かくて主の栄光は見るべし 3. ハレルシャ	
1. 聖百合 ダイア民謡 指揮 林 眞 子 2. 愛のよろこび マルティニ 曲 津川 圭一 編 3. コム・ド・サン・ジャン・ヌヴェル 高木 東 六 編		9. 二 重 唱 同志社大学神学教授ウレンガー夫妻	
8. 混声合唱 高等学校イヴコーラス		1. O Thou Sublime Evening Star Eugene B. Wenger (Opera Taunhauser) Richard Wagner 2. My Heart at Thy Sweet Voice Dorothy Wenger (from "Samsonet Dalila") C. Saint-Saens 3. The Lord is my Light Dudley Buck	
1. いざ生れおほすつれ George Job Elvey 曲 2. Volleendet ist das groze werk J. Haydn 曲		Alto Dorothy Wenger Bass Eugene B. Wenger	
9. 女声合唱 同 窓 会 合 唱 団		10. 吹 奏 楽 同志社高校ブラスバンド	
1. たのしき歌 2. ホム・スイート・ホーム		1. ラアキー行進曲(マーチ) コハントラス 曲 指揮 森 本 芳 雄 2. ドナウ川の漣(ワルツ) イヴァノヴィッチ 曲 3. ワンテンボストマーチ スーザ 曲	
10. 交 響 楽 同志社交響楽団		11. College Song	
アルムの女 組曲 ビゼー 曲 指揮 山 田 忠 男 1. エロリン 2. メヌエット 3. アラントニス			

森本先生最後の「第76回同志社EVE CONCERT」のプログラム(昭和26年10月28日、29日、栄光館)

森本芳雄先生追憶



柳原 一男(昭和15年卒)

森本先生との出逢いは昭和8年、秋のある日曜日の午後、栄光館
ファウラー講座で開かれていた讚美歌講習会においてであった。

この会場で、グリーのマネージャーをしていた宮本光夫先輩に先
生と引き合わせてもらったのが初対面であった。これで私もグリー
メンの仲間になったと言う意識が確かなものとなった。爾来、昭和

26年11月20日、先生を天に送るまで20年近くの親しい交りをさせていただいた。

昭和8年、先生はアメリカから帰国、同志社に奉職されたが、一番やりたい音楽の受皿が当時の同
志社にはなかったらしい。いつも神学館の一室にこもって神学関係の研究とそれ等の書籍の整理に携
って居られた。しかし、昼休みにはグリーの練習にしばしば出て来られ、指導されるようになった。
後に神学部の学生に、「教会音楽の講義」をされるようになったが、グリーの指導については先生の
同志社における本務でなかったので、グリーのことで先生の研究室を訪ねて行くにはずい分気をつか
ったものである。この様にグリーの指導や同志社混声の再起結成など、先生の音楽活動は次第に拡が
り多忙な日々が続く様になった。健康上の負担も大きくなり、家族の方々にも大変な犠牲となっては
ねかえていることは、学生の我々にさえうかがわれひそかに心配していた。しかし、先生の音楽へ
の情熱と、楽しくまた厳しい指導に思わずついて行った。

「ハモ」と言うニックネームが先生に付けられたのはたしか昭和10年の夏、四国演奏旅行をした時で
あったと思う。由来は、「ハモ」と言う魚は身体が細長くひよろひよろしているが、それでいて鋭い歯
を持ちなかなか精悍なところがある。先生はそれによく似ていた。グリーの練習でも食いつかれん様
にしようとの意味もあった。高松の演奏会を終えて旅館に帰ると、一番上等の先生の部屋に案山子が
立っていた。箒を心棒に高松名物の団扇を顔にして、目鼻の代りにハモの字が書かれ、襟を折り返し
背広に見立てた学生服を着せられていた。一足先に宿に帰った連中の仕業であった。これには先生も
大笑い。我々も気をよくして今治、松山に向けハモリながら愉快的演奏旅行を続けたのであった。し
かし、このニックネームもいつとはなしに消えてゆき、やがて一層親しみのある「森本さん」と呼ばれ
るようになった。

演奏会の聴衆は、女性の数が男性より圧倒的に多数であった。合唱を聴きに来るのか、「森本さん」
の後姿を見に来るのかと思えた程である。瘦軀長身の割に足が短かく、当然胴長ではあったが髪をふ
り乱す指揮ぶりに女性たちは魅かれていたらしい。

今出川通りの女子部東角に「サモワール」という小さなレコード店があった。主人は大沼魯夫という
70才位の人で、若い頃ハリスト教会の伝道師の経験があり、ロシアにも行ってたことがあり、洋楽畑
ではかくれた大評論家であった。「森本さん」もこの人のザックバランな批評を「なかなかたよりに
なる。」ときいておられた。同志社混声の昭和11年の発足は、この店を根城にして出来たもので、「森本
さん」は時間のゆるす限り店先に入りびたっていた。女専の学生たちがガラス戸越しに店内を見流し
て、何やらさ、やきながら通りすぎる姿もよく見かけたものである。

やがて学生は戦地に又は軍需工場などに動員となり、学校の講義もま、ならぬ状態となって音楽活
動もさんたんたる有様になってしまった。昭和18年、先生は同志社を辞めて一家は東京に移り、日本
女子神学校の教頭として迎えられた。そして昭和20年の空襲で蔵書を始め論文実財等全てを焼失し、

敗戦と共に無一物の状態で京都に帰って来られた。先生夫妻と三男一女が下鴨に間借りして再び京都の生活を始められたが、戦中戦後の心労で心身共にずいぶん弱っておられたようであった。やがて嘗て薫陶を受けた人々も次第に帰洛し、互の無事を喜び再び合唱への意欲を取りもどし、先生の許に集って来た。そして混声の練習が開始された。昭和21年秋、戦後第一回のメサイア発表に思わしくない体調をおして指揮棒を持たれた。また、この年の春から高野山大学の講師として月に数日泊りがけで京都から高野山に通い、キリスト教史の講義をしておられた。高野山への途すがら堺市に住む私の宅に立寄り泊って行かれたり、夏には涼しい山まで私の家族も共に出かけて、静かな宿坊で夜の更けるまで語り合った思い出もある。

2年間で高野山大学を辞め、23年から同志社にもどり、高等学校で教鞭をとられることになった。

戦後第1回メサイア指揮を最初に、25年余までに6回を数える発表会に棒を持たれている。その他にも京都合唱連盟主催のマタイ受難曲、ベートーベンの第9の合唱指揮、京都コーラス、大阪放送合唱団にもかかわり、関西合唱音楽の指導育成に精力的な活動を続けられた。生来余り健康には恵まれなかった身を教職と合唱のため燃焼しつつ、10日間の病臥の後、昭和26年11月20日静かに天に召された。翌月16日同志社混声合唱団が主催して「森本芳雄先生追悼演奏会」を栄光館で開き、お世話になった混声、グリー、クローバー、CCD、ホザナ、京都混声、大阪放送合唱団がそれぞれステージを持ち、最後に「メサイア」を同志社混声、CCDの合唱、加藤雅子、松田さかえ、保科一雄、林達次のソロ、パイプオルガンを中瀬古和らで演奏、永年にわたる先生の指揮を感謝し、魂の平安を祈った。

「先生、有難うございました」



織田 幹雄 (昭和25年卒)

昭和26年11月。イーブも近い20日の夕刻、今西政弘君から「今朝、森本先生が亡くなりました。」との電話をいただいた。お通夜やお葬式の時間も同時に聞いたと思いますが、私は当時病後静養中でしたので失礼する旨を伝えた事を覚えています。しかし先生に申し訳なく、12月16日に栄光館で行われた――

「故森本芳雄先生追悼演奏会」には出かけて行きました。

一部は大阪放送合唱団や京都混声合唱団、及びグリークラブをはじめ同志社の全コーラス団が出演し、二部は同志社混声合唱団とC・C・D合同の「メサイア」が演奏され、指揮台にはいつも見なれた先生の姿の無いのが淋しい限りでした。その時のプログラムに中瀬古和先生の、

――私共は先生が居て下さることを

當り前と思い過ぎていた――

と言う追悼の辞が表紙の裏面に載せられ、多くの人達が同じ思いで居られるであろうと思い、先生の偉大さを今更乍ら感じ哀悼の念を禁じ得ませんでした。

グリークラブの練習を見に来て下さる様をお願いしたのは昭和22年からだと思います。はっきり思い出すのは、この年の秋の合唱コンクールの随意曲を決める為相談に行きました。当時は楽譜も無く、先生と話をしても、先生があれこれと曲目を思い出されるのを待っている様な状態で、結局メンデルスゾーンの「ベアティ・モルツウイ」に決ったのですが、それとて楽譜を探すのに一苦勞で、先生

から「誰々が持ってるやろ。」と二、三の先輩の名前を聞いて、やっと入手する様な次第でした。この年のコンクールは最初からこの様ないきさつもあり、練習には先生から積極的に出て来て下さった。課題曲は余り練習をされると言われず、メンデルスゾーンを自分でピアノを奏いて、各パートの音程を合すのにほとんど時間をかけました。練習場も定かならずで、夜間の練習には他の学校(確か府一?…現在の鴨浜高校)も使いました。これもこの時、先生は週3～4日は高野山大学へ行かれて、見に来ていただく時間が仲々取れなかった為だったと思います。

昭和23年5月、立教大学グリークラブと戦後復活第一回の交歓演奏会を開くことになりました。場所は大阪と京都は栄光館でした。その時の曲目にタンホイザーの巡礼の合唱があり、その伴奏を京都で演る時、「ピアノにパイプオルガンも使ったら…」と先生からすすめられたと思います。そしてそのアレンジを「部員の松本勝男君に頼んだら…」と。出来上りを先生に見せた所、じっくりと見ながら「まあ、こうするしか仕方がないやろな。」とおっしゃった。ピアノは部員の竹下登美雄君に、パイプオルガンは神学生の飯清さんをお願いした。この時のプログラムは大曲難曲ばかりやったものだと冷汗ものだった。これも先生が居て下さるから私自身困ったら、先生にお願いすれば何とかなると言う安易な気持ちがあったからであった。

立教との第二回交歓会は翌年東京であった。その時にシューベルトの「墓と月」を曲目に入れたが、仲々ものにならず私には荷が重かった。曲も難しかったが、東京行ともなればメンバーに制限があり、25名前後では何とも仕様なく、先生に泣きついた。もうこの頃は岩倉の高校に居らっしゃったので2、3回来て下さって、「さすが先生。」、うまくまとめて下さった。東京での演奏はこの曲が一番立派に出来たと思っている。

先生有難うございました。思い出はまだまだ尽きませんが、どうか先生、天国でグリークラブの歌声を聞いていて下さい。

若王子のお墓へ又参ります。

昭和27年
(1952)

5月25日、第5回立教・同志社交歓演奏会が栄光館で行なわれた。

7月25日から8月10日までの18日間、中国・四国・九州地方へ演奏旅行に出かけた。豊岡・倉敷・広島・徳山・宇部・山口・小倉・博多・長崎・熊本・大分・松山・今治・高松の14都市を訪問し、24回の演奏会をもった。この年になって年来の望みであった部室が確保された。



— P R O G R A M M E —	
<p>I 社交 交 歓</p> <p>I 会 場 栄光館 1. Menuet Max. G. Haupt 2. 牧童の歌 Gounod 3. Canon Dance H. L. Heller</p>	<p>II 会 場 栄光館 4. 静かな心 (With heart uplifted) Constant Schindler 5. 静かな心 (Fin. Fire, my heart) Thomas Morley 6. 静かな心 (Adieu Sweet America!) John Willby 7. 静かな心 (Chorus, let us rest) Felix Aron</p>
<p>III キターニ 重 奏</p> <p>4. 静かな心 5. La Tota Decca Italiana 6. 静かな心</p>	<p>IV マンドリン 重 奏</p> <p>4. 静かな心 5. 静かな心 6. 静かな心</p>
<p>V 会 場 栄光館 7. 静かな心 (3 Years) Swan Park song 8. 静かな心 (Sleep while the soft evening) Henry R. Bishop 9. 静かな心 (Sweet Morning) Franz Liszt 10. 静かな心 (The Love Song) Franz Liszt</p>	<p>VI 会 場 栄光館 Negro Spiritual 1. Nobody knows the Trouble I've seen 2. My soul is Lord 3. Lonesome on the Lonesome</p>
<p>1. 静かな心 2. 静かな心</p>	<p>VII 立教同志社交歓演奏会 Deutsche Messe Franz Schubert</p>

第5回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

9月22、23日栄光館と大阪産経会館(現サンケイホール)で第1回東西四大学合唱音楽会が開催された。



昭和27年9月23日、第1回東西四大学合唱音楽会の合同演奏、大きさをそろえたベナントが目をついた。
(大阪・産経会館～現サンケイホール)

ペナントの変遷

- 昭和11年（1936）頃のペナント



- 昭和14年頃のペナント



- 東西四大学で統一されるまで使用されたペナント



- 昭和27年、第1回東西四大学合唱音楽会を機会に、関西学院グリークラブOBの尾田義行氏（昭27年卒）がデザインしたペナント。現在も使われている。



リークラブ、大学の部では関西学院グリークラブ、一般の部では中央合唱団がそれぞれ1位となり、同志社グリークラブは大学の部で第2位であった。



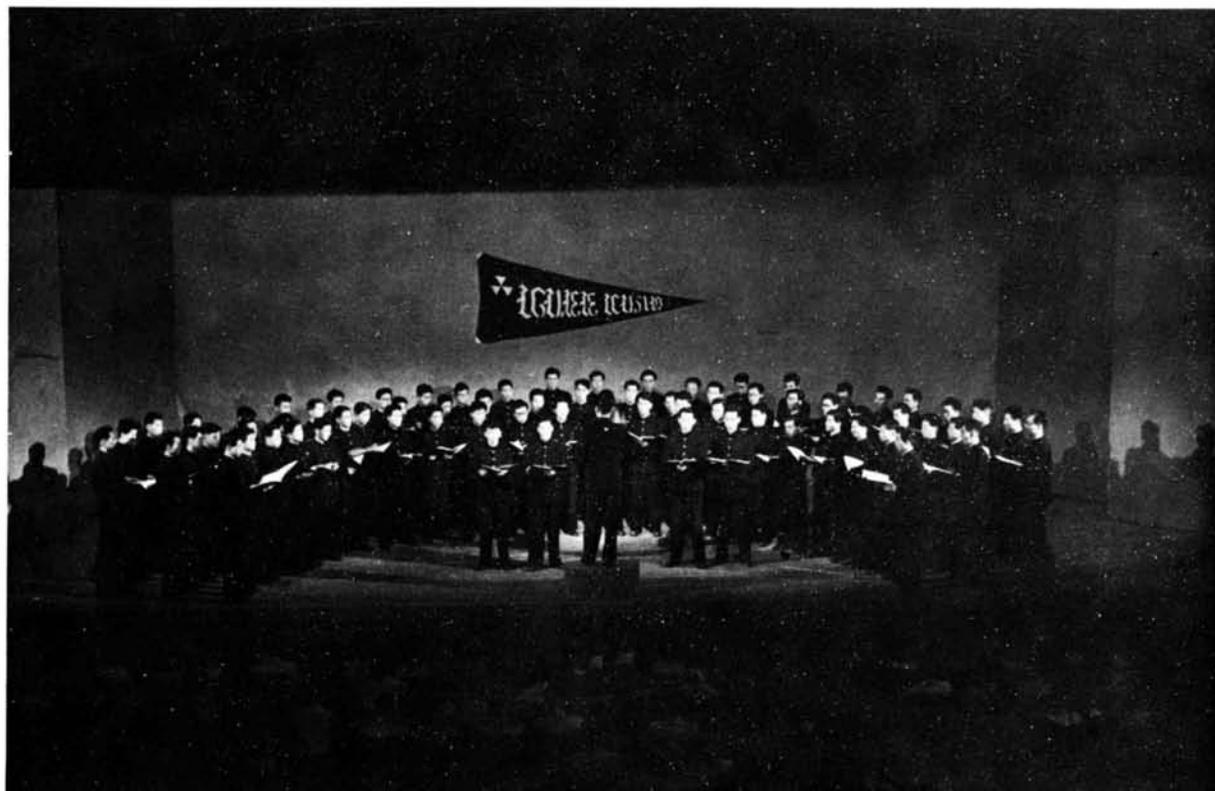
昭和29年

1月23日、栄光館で創立49年度卒業生のための送別演奏会が行われた。この演奏会でカルテットがデビューした。(1954)

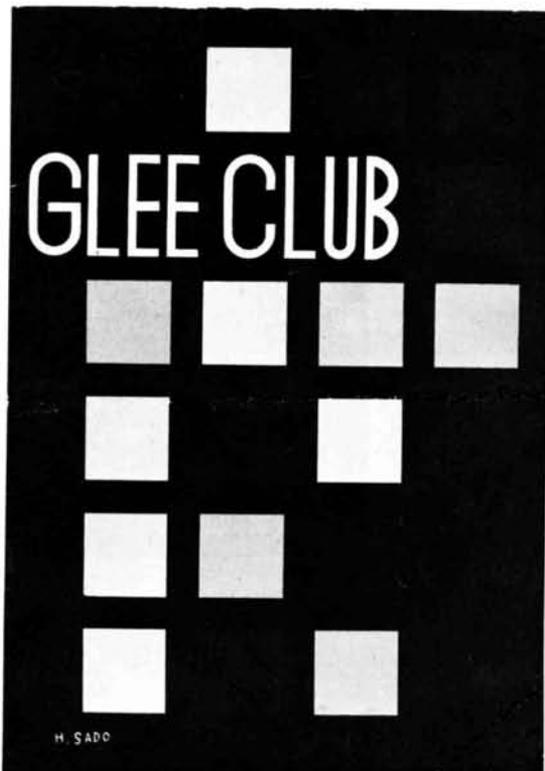
「Silver Gate Quartet」(初代)である。1st Ten.・中島完治氏(昭30卒)、2nd Ten.小山欣一氏(昭29卒)、Bar.野村秀治氏(昭29卒)、Bass小田泰弘氏(昭31卒)であった。「ゴールデンゲート」をもじったこのカルテットは以後、同志社グリークラブの伝統カルテットとして引き継がれていった。

この年、同志社グリークラブは創立50周年を迎えた。

6月25日大阪産経会館、6月26日同志社栄光館において、創立50周年記念演奏会が行なわれた。両日の入場者は4000人を越え、大阪では入場券(¥ 100)にプレミアがついたという話さえあった。50周年を記念して、聴衆全員に「GLEE CLUB 50TH ANNIV.」ペナントを無料配布した。



同志社グリークラブ創立50周年記念演奏会 (昭和29年6月25日大阪産経会館)



H. SADO

PROGRAM

Hail Our Glee Club

arr. by Outside Glee Club

Popular Songs

UNTIL THE DAWN

J. A. Parks

SHENANDOAH

arr. by Y. Fukunaga

B. A. BA.

T. Ōsaka

DIE BEREDSAMKEIT

Joseph Haydn

Quartet (Silver-gate)

WELL BEHOLD

Golden Gate

LIVING HUMBLE

"

I HAD A DREAM

Barber Shop Melody

NOW IS THE HOUR

"

Sacred Music

PASTORAL PRAYSP

Henry A. Sykes

WE BOW, O ALMIGHTY

Joseph Berby

FRIEND AFTER FRIEND DEPARTS

Albert J. Holden

LORD, THOU HAST BEEN OUR DWELLING-PLACE

— Intermission —

Negro Spirituals

WADE IN DE WATER

HUMBLE

LET US BREAK BREAD TOGETHER

KEEP IN THE MIDDLE OF THE ROAD

Clower Club

TŌYAKE KŌYAKE

arr. by Y. Kusakabe

DE WIND BLOW OVER MY SHOULDER

Negro Spiritual

GOOD BYE, I'M GOING HOME

"

U-BOY

Serbian Battle Song

Popular Songs

GOING HOME

Anton Dvorak

DIE BEIDEN SÄRGE

Friedrich Hegar

Grand Chorus

REQUIEM

Pietro Corbelli

I'M BUT A STRANGER HERE

W. H. Poston

PSALM 99

arr. by M. Mizuta

同志社グリークラブ創立50周年記念演奏会のプログラム

6月27日、先輩現役が一堂に会し、共に50年の歴史を歩んだ者として、グリーを語る園遊会が岡崎の京都市公会堂大ホールで開催された。約500名近くの参加者があり、まさにグリークラブユニオンの感があった。なおこの席で東西四大学渉外マネージャークインテット」が演奏した。松下早稲田グリー、吉田慶応ワグネル、州脇(指揮者)・山下関西学院グリー、河上同志社グリーの5人で、演奏はさておき、前代未聞と大好評であった。



同志社グリークラブ創立50周年記念園遊会 (昭和29年6月27日 岡崎公会堂)

50周年記念事業の一つとして記念レコードを出している。10月7日、西宮の日本マーキュリーK.K.で吹き込みを行った。曲目は、

- | | | |
|---|----|-----------------------------|
| A | 1面 | (1) Doshisha College Song |
| | | (2) Doshisha Cheer Song |
| | 2面 | (1) 通りゃんせ |
| | | (2) 夕やけ小やけ |
| B | 1面 | 牡鹿の溪水をしたいて(グノー) |
| | 2面 | 新しき歌をエホバに向いて歌え |
| C | 1面 | ヴォルガの船唄 |
| | 2面 | Let Us Break Bread Together |
| | | (指揮：渋谷昭彦) |

であった。

グリーのバインダーをデザインした豪華なアルバムと共にSP10インチ盤3枚におさめられ、900円で売り出された。

そして、河上文久氏(昭30卒)が苦心してまとめられた「創立50周年記念誌」が年末に発行されている。224ページに及ぶグリークラブの歴史の集大成であった。



河上 文久 氏

9月18日栄光館、9月19日大阪産経会館で第3回東西四大学合唱音楽会が開催された。今回のプログラムから初めて「東西四大学合唱連盟」という名称が使用され、以後、この音楽会を「四連」と略称するようになった。

11月3日、大阪朝日会館で第9回関西合唱コンクールが開かれた。高校12、大学12、職場13、一般21の計58団体が参加した。同志社グリークラブは野村忠氏の指揮で、男声課題曲「家路の歌」(武井つたひ詞、平井康三郎曲)、自由曲「O Sacrum Convivium」(L.Viadana曲)を歌った。また、今回からOB合唱

団のクローバークラブが参加、日下部吉彦氏の指揮で、課題曲「家路の歌」と自由曲「Joshua Fought the Battle of Jerico」(Negro Spiritual)を歌った。審査の結果、高校の部では関西学院高等部グリークラブ、大学の部では同志社グリークラブ、職場の部では大和銀行合唱団、一般の部では神戸中央合唱団がそれぞれ第1位となった。関西学院グリークラブは前年まで3年連続1位だったので招待出場であった。初参加のクローバークラブは一般の部第3位で、まさに慧星の如く現れ、聴衆を驚かせたのであった。

11年23日、小倉市体育館で第7回全日本合唱コンクールが開催され、24団体が参加した。審査の結果大学の部で同志社グリークラブが第1位となった。高校の部は福岡女子学院高校合唱団(西部)、職場の部は農林省合唱団(関東)、一般の部は横浜木曜会(関東)、がそれぞれ1位であった。

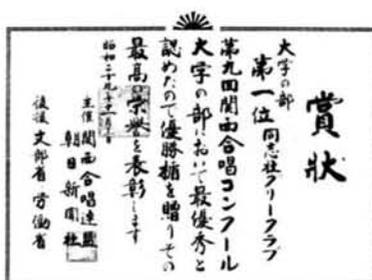
昭和29年頃の練習

火曜日 午後1:30~5:00 幼稚園
水々 午前11:00~午後1:00 精思館

〔現今出川キャンパス西南スミ、明德館の西側〕

木々 午後4:00~7:00 中学チャペル
土々 午後1:00~5:00 精思館

コンクールや演奏会が近づくと月、水曜日に夜間練習をし、また500円程の借用料を払って栄光館をお借りしていた。



第9回関西、第7回全日本合唱コンクール優勝記念祝賀会
(昭和29年11月28日 栄光館)



第7回全日本合唱コンクールに出発する同志社グリークラブ(昭和29年11月京都駅)



HAIL OUR GLEE CLUB

HAIL OUR GLEE CLUB

グリークラブが創立50周年を迎えた時、記念演奏会のプログラムに部歌のないことが問題になった。50年もの歴史を有するグリーに部歌がない筈がないというわけでいろいろさがしたところ、昭和9年(1934年)、三輪源造作詞・大中寅二作曲の「グリークラブの歌」の楽譜が見つかった。が、残念なことにそれは、歌詩、メロディー共に今一つのところがあり、これを部歌として復活させることに難色を示すものが多かった。そこでグリーの部歌にふさわしい曲をさがしているうちに、アーモスト大学歌集の中の1曲を採用することになった。

もちろん歌詩でAmherstやCollegeとなっているところを、適当にGlee Clubと置きかえて50周年のステージにのせた。それ以来、何の因果か、この曲が今日までグリーの部歌として歌われているのである。

部歌の原曲名は「Alma Mater」アーモスト大学を1902年に卒業したJ.N.Pierceの作詩作曲である。

出典はW.P.Bigelow,ed,「Amherst College Songs」Massachusetts, 1932, PP.42~45

渋谷昭彦(昭和31年卒)

グリークラブよ永遠なれ

よろこびたまえ なんじらGLEEMENよ
今われらがここに集えることを
熱い歌声と喝采で
われらの心の女神を たたえるために
よろこびたまえ なんじら
そして今 声高らかに
ああ GLEE CLUB
こよなく愛するその名を われらは歌う
われらは歌う
その名の永遠に賛美されんことを
GLEE CLUBよ 永遠なれ
はえある GLEE CLUB
われらは その気高さをほめたたえる
栄光のGLEE CLUB 敬意を胸に
GLEE CLUB われらはその名をこよなく愛す

(中村洋子・訳詩)

The image shows a musical score for the song "Hail Our Glee Club". It is written in a standard musical notation with a treble and bass clef. The lyrics are written below the notes. The score includes the following lyrics: "with spirit Hail Our Glee Club Re-joice re-joice ye Glee-men That we now as-semble To hail the queen of all our hearts here- The queen our hearts With rous-ing song and Let eve-ry son- And now up cheer- Each son re- joice- Oh! Glee Club cheer- thy name re Up-lift his voice so dear Oh! GLEE CLUB We sing May thy prais-es ev-er ring dear! thy name we sing so dear we sing May thy prais-es ev-er ring slower Hail Our- GLEE CLUB Gio-mous old GLEE CLUB We thy sons greet thee with cheer Fair-est old GLEE CLUB Thine be our hom-age Thine be our true love GLEE CLUB adieu".

☆☆☆ シルバー・ゲイト・カルテット ☆☆☆

シルバー・ゲイト・カルテットは、昭和29年にはじめて結成された。その名の由来は、ちょうどその年に日本公演のため来日していたアメリカのジャズ・ゴスペルボーカルグループ「ゴールデン・ゲイト・カルテット」から来ている。ボーカルカルテットの中でも神様の存在のこのグループにあやかって、ゴールデンをシルバーにかえて命名された。

そもそもグリークラブはコーテット(カルテット)が基本構成で、多くても数人~10数人まででミサをやり、又演奏活動が行なわれていたのである。

シルバー・ゲイト・カルテットは、定期演奏会や、演奏旅行などで一ステージを持つようになり、その名は、代々受け継がれフェアウェルでは、卒業生が次のシルバー・ゲイト・カルテットを指名するというセレモニーまで行っていた。それも昭和39年頃までで、以降は徐々に自主的なものになり、昭和46年には、その名を受け継ぐことすら途絶えた。

しかし、それから、定演でこそステージのチャンスはなくなったが、演奏旅行や、諸々の催しには、好きな者がシルバー・ゲイト・カルテットの名を受け継ぎ、又、別の名をなめるグループも現れ、カルテットの楽しさを披露した。

ここ数年は、一覧表をご覧頂ければ分かるように、その存在がゼロに等しくなっている。非常に寂しい限りである。現役諸君の中に再度カルテットの火が点燈して燃え続けることを願ってやまない。

歴代シルバー・ゲイト・カルテット

定期	年	トップ テナー	セカンド テナー	バリトン	ベース
第50回	昭和29年(1954)	中島 完治	小山 欣一	野村 秀治	小田 泰弘
51	30 (1955)	中路 明	中島 完治	渋谷 昭彦	渡辺謙之助
52	31 (1956)	三上 直夫	長谷部 勇	辻 義彦	香川 紀
53	32 (1957)	山崎 拓	河原林昭良	辻 義彦 柳瀬 一輝	香川 紀
54	33 (1958)	長谷川邦男	柳瀬 一輝	坪井 高国	早嶋 英治
55	34 (1959)	長谷川邦男	田中 忠男	原 良之祐	早嶋 英治 松村 時男
56	35 (1960)	河村 時孝	道幸 寿夫	佐藤 道雄	花谷 豊
57	36 (1961)	河村 時孝	鳥井 武彦	佐藤 道雄	花谷 豊
58	37 (1962)	井阪 絃	鳥井 武彦	丸山 増幸	松永 洋一
59	38 (1963)	井阪 絃	坂下 義紀	西川 紀行	後藤 健夫
60	39 (1964)	山田 至孝	松原 毅	磯部 俊英	堀部 勝也
61	40 (1965)	藤 英夫	吉田圭一郎	丸山 創作	木村 忠文
62	41 (1966)	沢井 清一	石黒 武	吉田 孝昭	椎村 尚平
63	42 (1967)	村岡 健二	中嶋 晩	久野 春雄	中根 敏雄
64	43 (1968)	上野 成一 林 信夫	松本 公郎	桑山 博	坂下 知司
65	44 (1969)	上宮 五郎	福島 稔	金澤 良二	大崎 高俊
66	45 (1970)	春成 博	高田 英生	岡山 滋	大西 秀孝
67	46 (1971)	—	—	—	—
68	47 (1972)	—	—	—	—
69	48 (1973)	萩原 潤三	金子 悦文	亀島 久和	中村 徹夫
70	49 (1974)	吉川 克次	大島 功	池田 周一	今藤 恵証
71	50 (1975)	—	—	—	—
72	51 (1976)	小林 茂	井口 仁	高谷 博次	山下 裕司
73	52 (1977)	—	—	—	—
74	53 (1978)	—	—	—	—
75	54 (1979)	—	—	—	—
76	55 (1980)	—	—	—	—
77	56 (1981)	—	—	—	—
78	57 (1982)	—	—	—	—
79	58 (1983)	—	—	—	—
80	59 (1984)	—	—	—	—

(その他のカルテット)

- 昭和47年フロックンシンガーズ……中辻 隆(1st.) 平井雅則(2nd.), 橋尾 輝(Bar.), 永田 裕(Bas.)
- 昭和50年ニューブリンズリーダーズ……山口 正(1st.), 山口 薫(2nd.), 高田 正(Bar.), 山内規生(Bas.)

ジミーカルテット



ジミーカルテット (～昭和3年)

……現役時代にカルテットを組んで活躍

(Top Tenor) 森本 芳雄 }
 (Ind Tenor) 上家 照 } 昭和3年卒
 (Bariton) 市田 勇 }
 (Bass) 油谷 栄 }



モダニアーズ



モダニアーズ (昭和38年～昭和39年)

……もう少しでプロの道を……。それ程本格的な音作りをやっていた。ご覧の通り、フォー・フレッシュメンとも親交があった。

(Top Tenor) 井阪 紘(昭和39年卒)

(IInd Tenor) 野村伸吾(阪大理学部卒)

(Bariton) 坂下義紀(昭和39年卒)

(Bass) 堀部勝也(昭和40年卒)

フォー・バイ・フォー



フォー・バイ・フォー (昭和51年5月～)

……現在OBカルテットではNo.1の技量と巾広い活動を行なっている。プロとの交流も活発。

(Top Tenor) 長谷川邦男(昭和35年卒)

(IInd Tenor) 田中 忠男(昭和35年卒)

(Bariton) 西垣 喜光(昭和35年卒)

(Bass) 西村 義之(昭和41年卒)

ワイルド・ローバース



ワイルド・ローバース (昭和58年～)

……年令的にも中堅で、大先輩フォー・バイ・フォーを目標に意欲的な活動をしている。

(Top Tenor) 萩栗潤三(昭和49年卒)

(IInd Tenor) 平井雅則(昭和48年卒)

(Bariton) 金子悦文(昭和49年卒)

(Bass) 中村徹夫(昭和49年卒)



バッジとバインダー

同志社グリークラブ創立50周年記念のため作製。デザインは佐渡秀昭氏（昭31年卒）。

「バッジはA₂₂教室で、数点の中から投票で決めた。(昭33卒福島義二氏談)」



「黒い表紙のものを使用していた。」

——昭5卒 松本 淳 氏談

「現在と同じものがその頃すでにあった。」

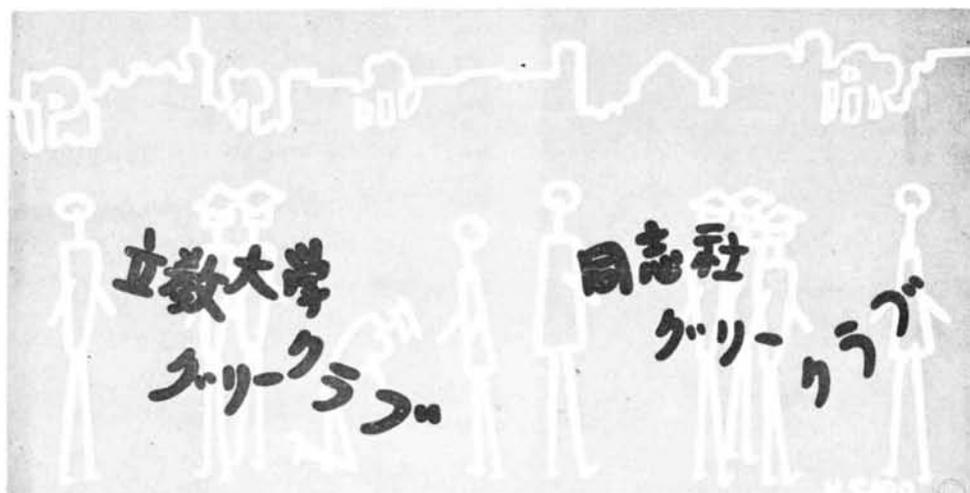
——昭7卒 山田 基男 氏談



昭和30年
(1955)

5月28日、栄光館で第7回立教・同志社交歓演奏会が催された。つづいて6月26日、栄光館で同志社混声合唱団、クローバークラブ、同志社グリークラブ、同志社学生混声合唱団共催による合唱交歓演奏会が行われた。

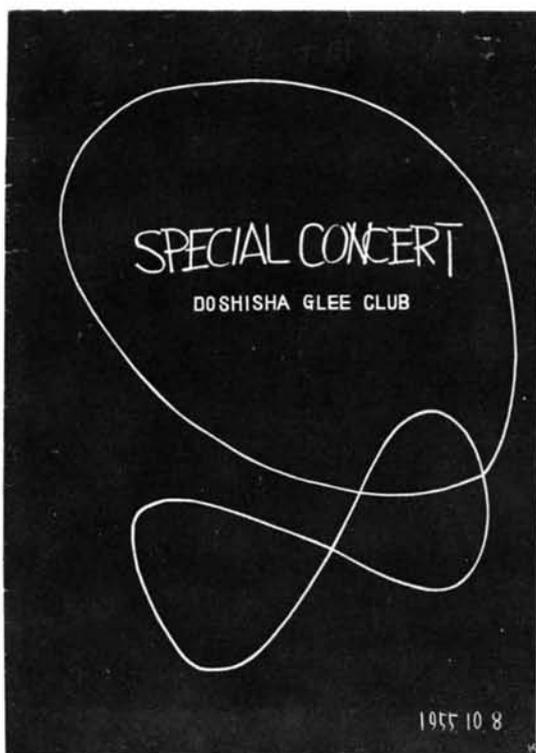
9月18日、19日と東京日本青年館で第4回東西四大学合唱音楽会が行なわれた。



PROGRAMME			
エール交歓		I 宗教曲.....立教大学グリークラブ	
榮光の立教		Christus Factus	Palestrina
DOSHISHA COLLEGE SONG		Cantata Domino	Hasler
		Adoramus te	Palestrina
		悪人の謀	Fachev
II 一般曲.....同志社グリークラブ		III 黑人聖歌.....同志社グリークラブ	
Serenade	Mendelssohn	Nobody know the trouble I've seen	
Evening Song	Billetter	It's me O Lord	
Shenandoah	北米民謡	If I got my ticket, can I ride	
Holy Mountain	Rhodes	Oh, de Lan' I am Bound for	
INTERMISSION			
IV メンデルスゾーン曲集.....立教大学グリークラブ		V フェルスターアソジウム.....立教大学グリークラブ	
牧草の歌		スワニー河	おの スザンナ
船 歌		キッド良辰さふ	ネラー・ブライ
別れの空		もういっせだ	ネラーよき人
ライオン山の歌		草 鞋 馬	夢 見 る 人
VI 宗教曲.....同志社グリークラブ		VII 合同演奏.....立教大学グリークラブ 同志社グリークラブ	
The Lord is my shepherd	Bridgeman	兵士の合唱	Gounod
Incline Thine Ear to me	Himmej	送りの合唱	Wagner
Beati Mortui	Gounod		
Miserere	Beethoven		
PROGRAMME			

第7回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

10月8日、同志社創立80周年記念特別演奏会が栄光館で行なわれた。この年は定期演奏会と称した演奏会がなかったため、この演奏会がそれに当たるものである



11月3日、大阪朝日会館で第10回関西合唱コンクールが開かれた。職場15、高校11、大学16、一般18の計60団体が参加した。同志社グリークラブは野村忠氏(昭31卒)の指揮で、男声課題曲「船」(猪狩満直詞・清水脩曲)と自由曲「Christ und der Tod」(Gustav Adolf)を歌った。また、クローバークラブは、日下部吉彦氏の指揮で課題曲「船」、自由曲「Wade in de Water」(Negro Spiritual)を歌った。審査の結果、職場の部では住友金属合唱団、高校の部では関西学院グリークラブ、一般の部ではクローバークラブがそれぞれ第1位となった。同志社グリークラブは大学の部第2位であった。



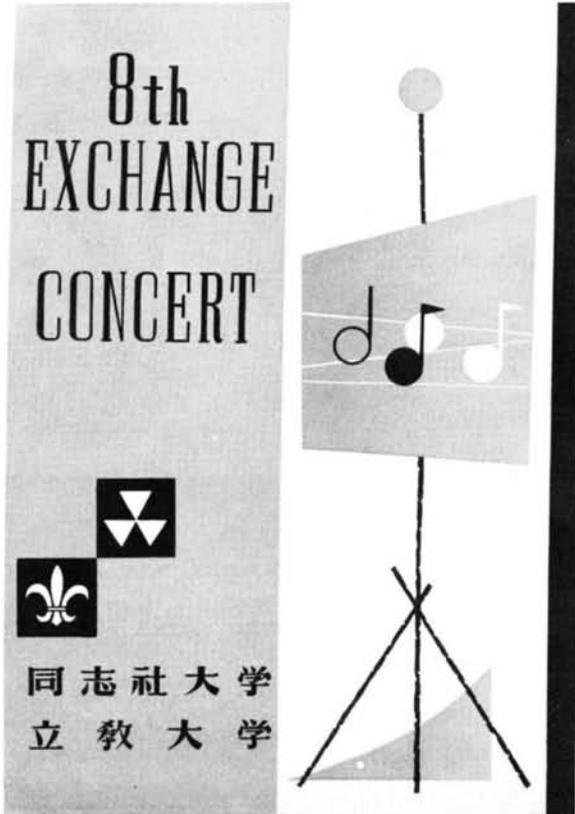
PROGRAMME			
— 第一部 —		— 第二部 —	
目 録	指揮 野村 忠	目 録	指揮 野村 忠
船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団	船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団
Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ	Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ
Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ	Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ
八 重 塔	指揮 野村 忠	八 重 塔	指揮 野村 忠
船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団	船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団
Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ	Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ
Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ	Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ
Negro Spirituals	指揮 野村 忠	Negro Spirituals	指揮 野村 忠
Wade in de Water	クローバークラブ	Wade in de Water	クローバークラブ
I got shoes	クローバークラブ	I got shoes	クローバークラブ
Go down Death	クローバークラブ	Go down Death	クローバークラブ
クローバークラブ (自由曲)	指揮 野村 忠	クローバークラブ (自由曲)	指揮 野村 忠
船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団	船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団
Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ	Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ
Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ	Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ
第二部	指揮 野村 忠	第二部	指揮 野村 忠
船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団	船 (猪狩満直詞・清水脩曲)	住友金属合唱団
Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ	Christ und der Tod (Gustav Adolf)	同志社グリークラブ
Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ	Wade in de Water (Negro Spiritual)	クローバークラブ

同志社創立80周年記念特別演奏会のプログラム

11月23日、名古屋市金山体育館で第8回全日本合唱コンクールが開かれた。審査の結果、職場の部では農林省合唱団(関東・混声)、高校の部では横浜桜丘高校(関東・女声)、大学の部では関西学院グリークラブ、一般の部ではクローバークラブがそれぞれ第1位となった。

昭和31年
(1956)

5月21日大阪産経会館、5月27日京都弥栄会館でクローバークラブ第1回演奏会が開催された。林雄一郎氏は次のように語っておられます。



クローバークラブという男声合唱団は、関西におけるC Bの男声合唱団の中で最もよく統制された、というよりは最もよく気の合った仲間のグループであります。

メンバーは、その中に老若かなりの年齢差が見られますが、すべてファイトの固りという感じ。

その演奏は、常に迫力に富み、美しい声とハーモニーそしてダイナミックな表現が特徴であります。

優秀な指揮者、日下部氏の統御力が大きな役割を演じていることもつけ加えなければなりません。

昨秋の全日本合唱コンクール一般の部において、堂々優勝されたのも当然のことでありましょう。

6月9日、第8回立教・同志社交歓演奏会が東京の立教大学タッカーホールで行なわれた。

PROGRAMME		PROGRAMME	
第一部		第二部	
エール交歓 Doshisha College Song		百男声合唱 同志社大学コーラス	
榮光の立教		宗教曲	
【男声合唱】 立教大学コーラス		Ave Maria Stella Edward Gieg	
宗教曲		Go not far from me, O Lord Haydn Morzan	
Motets Vittoria		Laudamus Te Carl F. Murler	
Ave Verum Corpus Vittoria			
Confitebor tibi Domine J. Mitterer		【男声合唱】 立教大学コーラス	
O Sacram Communion Vidana		「ソナタ」ヨハン・セバスティアン・バッハ 作品30より Edward Grieg	
【男声合唱】 同志社大学コーラス		私は歌にいつとよした	
聖人讃歌		子供の歌(ホルン)	
Deep River		小さなフォーカ	
Don't touch my garment		雷天の鼓	
Brother, is yo' Bekalidin?		こんな世界は無い	
How long have I got to linger		我が国を去る	
【混声合唱】	石丸 重編曲	【男声合唱】 同志社大学コーラス	
メロディ		日本歌曲	
秋		志士伝	坂本龍一 編曲
メロディ		竹馬はらば	〃
英雄の歌		五ツ木の字歌	岡本豊光 編曲
ヴォルガ河下り		神	黒川武彦 編曲
ドモウラの歌			
		第三部	
		【男声合唱】 同志社・立教合同部	
		ドイツ民謡	
		クレーン、グー	
		メロディ	
		別	

第8回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

創立者であり、指揮者であるジョン・F・ウィリアムスン博士と共に45名の団員が同志社を訪問。グリーらの歓迎演奏の後、彼らは得意の宗教曲を披露した。さらにこの合唱団の特色は、メンバーがすべて優れた楽器演奏者でもあることで、曲によっては4、5人の歌い手が楽器を演奏するという楽しい交歓会であった。

11月23日、東京都体育館で第9回全日本合唱コンクールが開催された。クローバークラブは日下部吉彦氏の指揮で、課題曲「風」、自由

曲「月光とピエロ」の中の『ピエロ』を歌った。審査の結果、職場の部では日立製作所日立工場合唱団(関東・混声)、高校の部では関西学院高等部グリークラブ、大学の部では関西学院グリークラブ、一般の部ではクローバークラブがそれぞれ第1位であった。

グリークラブのステージコートは創立以来、「詰襟」にグリーバッジをつけた姿(第一種正装)であったが、夏場は白ワイシャツに棒タイの時代を経て、この年、ワイシャツに濃紺の蝶ネクタイをつけた姿(第二種正装)も使われはじめた。

この年は数回にわたり、新日本放送(NJB・現毎日放送MBS)の公開録音「レナウン歌のつどい」にも出演している。



「レナウン歌のつどい」第5回公開録音 昭和31年5月26日、NJB(新日本放送)第1スタジオ
独唱：三上貞夫氏(昭32卒)、指揮：河原林昭良氏(昭33卒)

昭和32年 (1957)

5月25日、クローバークラブが第2回演奏会を栄光館で行なった。グリークラブは賛助出演した。

6月16日、カリフォルニア大学グリークラブ演奏会が栄光館で行なわれた。本格的な訪日海外合唱団との交歓演奏会をもったのは戦後初めてであった。「我々は『米とつけ物』を主食としているのに対して、彼らは『ピフテキ』を食べる大男達だから、ボリュームを出す練習をしておかなければ…」と練習に励んだ。そしてその日、50名のメンバーのうち40名が栄光館に現われた。10名は連日の強行スケジュールと梅雨のため倒れているとのことであった。

「前奏」は日米合唱団による各々の国歌演奏。第2部で同志社グリークラブは多田武彦作曲、男声合唱組曲「雪と花火」全曲を本邦初演し、汗だらけの熱演でカリフォルニア大以上の拍手をうけた。

アメリカ人の美しいホワイトのステージコートに対し、同志社は暑苦しい黒の詰襟であった。これを機に翌年から日本で初めて同志社がステージコートを着用し、各大学に波及していった。また、カリフォルニアが残っていたものの一つは、「relaxation」をもたらしたことであった。初めて接した外人ボーカルの大きなゼスチャー入りの身のこなしに、これでも学生なのかと驚きもし、またその陽気さをうらやましく感じた次第であった。

私と同志社グリークラブ

——組曲「雪と花火」作曲の頃——



多田 武彦

私が同志社グリークラブの合唱をはじめて聴いたのは、昭和22年の秋、関西合唱コンクールのとき(第2回関西合唱コンクール・同志社グリー総合第1位)であった。

その年、旧制大阪高等学校に入った私は、1年上の田中信昭氏(現、東京混声合唱団常任指揮者)等に勧誘され、はじめて男声合唱を経験した。しかし、合唱の何たるかも知らず、(ましてハーモニーの美しさなどというのもよく判らず)時折、合同混声合唱をする相手の府立女専(現、大阪女子大学)や帝塚山女学院のお嬢さんたちの近くに何となくいるのが楽しくて、拙劣にアプローチしては失恋するのが関の山だった。

今でもそうだが、その頃も、同志社グリーは、関学グリーと並ぶ合唱界の雄で、詰襟の学生服でズラリとステージを埋め尽す壮観に圧倒された。

昭和25年、京大合唱団に入った私は、先輩に誘われ、切符も買わされて、栄光館通いをはじめた。日下部吉彦氏率いるあの深遠な藍色のハーモニーが、数々の「ニグロ・スピリチュアル」や「日本歌曲」や「宗教曲」を奏でる。いぶし銀のソロが胸を打つ。

今から考えると、メンバーの一人一人が、各パート内のピッチを合わせながら歌い、また「今、どういふ和音が鳴っているか」を知り尽くして、一つ一つ生れてくるハーモニーをかみしめて歌っていたのではないかと思う。

昭和28年、社会人になってから、清水脩先生の助言もあって、私は、無伴奏男声四部合唱の作曲をはじめた。昭和32年に東京へ移った直後、北原白秋の詩集「雪と花火」(別名「東京景物詩」)を題材に組曲を作った。私の2番目の弟が同志社グリーに入れていただいていたので、弟を通じて、同志社グリーに初演してもらうことにした。特に終曲の「花火」を作るときに、あの藍色の音色を終始思い浮かべながら書き綴ったことを思い出す。

その年の四連で、名生指揮者河原林氏によって、演奏され、日本青年館に、「東京景物詩」がひろがった。

この年、同志社グリークラブは、全日本合唱コンクールの部で、第一位の栄光に輝いた。

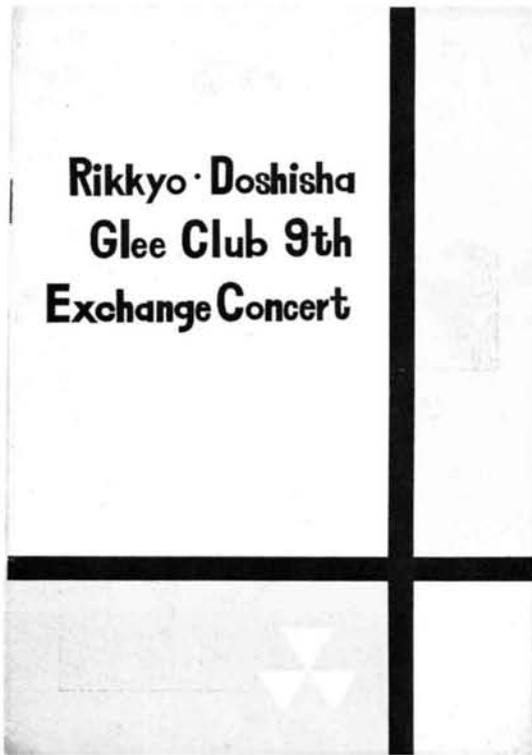
＃ 』 ＃

創立80周年、ほんとうにおめでとうございませう。多くの人たちが、その生涯のあるとき、同志社グリークラブの名演奏をきいて、感動して来たことと思います。今後も、ますます発展され、活躍され、更に多くの人たちに感動の波を伝えて行って下さい。

(1985.12.)

6月19日、大阪毎日会館11階ホールで、新日本放送の公開録音があり、クローバークラブ、関学グリーと共に出演した。

6月23日、第6回東西四大学合唱音楽会が東京日本青年館ホールで開催され、6月29日には第9回立教・同志社交歓演奏会が栄光館で行なわれた。



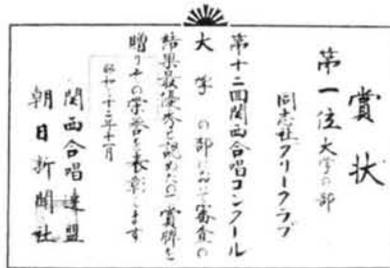
8月7日からの東海・東北への演奏旅行で、「白ワイシャツ」にかえて「ブルーの細い網目プリント模様のカッターシャツ」の左胸に、校章とGLEEの文字の刺繍を入れたユニフォーム」を新調した。

この新しいユニフォームの下に行なわれた1957年夏の演奏旅行中、8月10日、東京日本青年館にて客演指揮に福永陽一郎氏をお招きして「第1回東京演奏会」が好評のうちに持たれた。

P R O G R A M		A R R A N G E	
— I —		— II —	
エール交響 栄光の立教 DOSHISHA COLLEGE SONG		混声合唱 ヴォーカリーズ 主はヨシより此の力を授け給へん (1912) 109 新なる世を求めて我共に進む (1912) 143 鳥雲の舟を知らぬは船なり (1912) 88	立教グリークラブ 指揮 岡原 研 貞 本島モリアスキー作曲
男声合唱 Miss Pacis Kyrie Benedictus Gloria Agnus Dei Sanctus	同志社グリークラブ 指揮 岡原 研 貞 G. Ravanello	四重唱 Singing The Blues Young Love Tennessee Train If You Love Me On London Bridge	Silver Gate Quartet 伴 小 泉 五 代
混声合唱 日本古謡歌曲集 今 様 子 守 歌 置 巻 持らばうけ 中国地方の子守歌	立教グリークラブ 指揮 岡 原 研 貞 日本古謡 日本古謡 山田新祥作曲 山田新祥作曲 山田新祥編曲	男声合唱 雄 空 謡 大 塚 船 小 さい 船 霧 小 舟 三つの小笠原新調 びいでびいで 船 物 行てば舟の	立教グリークラブ 指揮 岡 原 研 貞 清水 繁 作曲 清水 繁 作曲
男声合唱 男声合唱の爲の小組曲「雪と花火」 片 恋 桜 空 花 香 子 の 涙 花 火	同志社グリークラブ 指揮 岡原 研 貞 藤田武雄作曲	男声合唱 Negro Spirituals Deep River Swing Low Sweet Chariot Little innocen Lamb	同志社グリークラブ 指揮 岡原 研 貞
男声合唱 Sacred Music Plerai, fili Israel Crucifixus Vere Languores Nostra Cherubic Hymn Miserere	立教グリークラブ 指揮 岡 原 研 貞 G. Carissimi A. Lotti A. Lotti G. Allegri G. Allegri	合同合唱 林 田 三 三 三 編曲「月光とロゼッタ」より かきつばた 編曲「朝風新編」より	立教グリークラブ・同志社グリークラブ 指揮 岡原 研 貞 清水 繁 作曲 藤田武雄作曲
— INTERMISSION —			

第9回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

第12回関西合唱コンクールは、11月3日、大阪朝日会館で職場・一般の部、11月9日、尼崎市文化会館で高校・大学の部が行なわれた。職場15、一般19、高校11、大学18の計63団体が参加した。クローバークラブは日下部吉彦氏の指揮で、男声課題曲「旅路」(津川圭一詞・ツェルナー曲)と自由曲「Kyrie」(A. Duhaupas 曲)を歌った。同志社グリークラブは河



原林昭良氏の指揮で、課題曲「旅路」と自由曲「Gloria」(A. Duhaupas 曲)を歌った。審査の結果、職場の部では住友金属混声合唱団、一般の部ではクローバークラブ、高校の部では関西学院高等部グリークラブ、大学の部では同志社グリークラブがそれぞれ第1位となった。宿敵関西学院グリークラブを堂々と破っての快挙であった。



同志社グリークラブ(指揮：河原林昭良氏) 第10回全日本合唱コンクール(大学の部)優勝(昭和32年11月23日・大阪府立体育館)

つづいて11月23日、大阪府立体育館で第10回全日本合唱コンクールが開催された。審査の結果、職場の部では住友金属混声合唱団、一般の部ではクローバークラブ(3年連続優勝)、高校の部では関西学院高等部グリークラブ、大学の部では同志社グリークラブがそれぞれ第1位となった。なお、クローバー、グリー共、審査員一致しての第1位であった。満票優勝はコンクール史上初めてで、未だ例をみない。この年同志社は兄弟相並んでの優勝を飾った。



受賞式の同志社グリークラブ

同志社グリークラブ、クローバークラブ合唱コンクール成績一覧表

年	関西合唱コンクール		全日本合唱コンクール		クローバークラブ(一般)	
	第1回	(男声の部) ② (同志社男声合唱団として出場。①関学)	—	—	位	位
22	2	① (関学不出場)	—	—		
23	3	(学生の部) ① (関学は一般の部①)	第1回	② (①福岡女子高)		
24	4	② (①大谷大学男声 関学は一般の部①)	2	—		
25	5	① (関学は一般の部①)	3	①		
26	6	(大学の部) ③ (①関学 ②京大)	4	—		
27	7	② (①関学)	5	—		
28	8	② (①関学)	6	—	関西合唱コンクール	全日本合唱コンクール
29	9	① (関学招待)	7	①	③ (①神戸中央 ②グリーニューコー)	位
30	10	② (①関学)	8	—	①	①
31	11	② (①関学)	9	—	①	①
32	12	① (②関学)	10	①	①	①
33	13	② (①関学)	11	—	全日本招待	
34	14	② (①関学)	12	—	不出場	
35	15	不出場	13	—	② (①新月会)	—
36	16	② (①関学)	14	—	③ (①神戸中央 ②新月会)	—
37	17	不出場	15	—	③ (①神戸中央 ②新月会)	—
38	18	↓	16		不出場 ↓	

コンクールで関学グリーと競う

——昭和20年代のグリークラブ——

日下部吉彦



(昭和27年卒団まで学生指揮者、卒業後は、OBのクローバークラブ指揮者。現在は、全日本合唱連盟常務理事、同関西支部長、合唱指揮者、音楽評論家。朝日放送解説委員)

私たちのころ、というのは、昭和20年代だが、そのころのグリー生活は、いわばコンクールが軸になっていた。いまの現役グリーのように、テレビ出演やホテルのディナー・ショウなんて。“お座敷”はないし、定期演奏会すらなかった。決ったコンサートといえば、立教グリーとの交歓演奏会くらいのもので、慶応ワグネルとの交歓も私が卒業(昭和27年)した直後から始まった。現在の四連などは、ずっとあとのことである。

演奏旅行も、戦後は、食糧事情が悪く、どこへ行くにも、おコメや外食券を持ってゆかないと旅行できない社会だったから、思うにまかせなかった。昭和26年に、東北、北海道へ行ったのが、戦後で初めての、大規模な演奏旅行であったと思う。それも、宿泊は、行く先々の教会のお世話になり、礼拝堂のイスをかたづけて、その板の間にふとんを敷いて寝た。食事は外食券で、駅前の屋台でコロッケを買って食べたりした。それでも、実に楽しい旅行だった。飛行機



函館少年刑務所へ慰問

も新幹線もない時代だから、在来線のドン行列車の、それも夜行にゆられて、移動した。函館の少年刑務所へ慰問に行ったとき、駅前にトラックが迎えに来たので驚いた。ふだんは、木炭などを運こんでいるらしく、荷台に炭の粉が積っていて、走り出すと風に舞い、荷台に立ちん棒の私たちの眼やハナを襲ったのには悲鳴をあげた。一流旅館に泊り、バスで送迎という現在のグリーンメンには、想像もつかないお話である。

そういうわけで、例年のコンクールが、なんとといっても、年間の最大の目標であった。戦後の関西合唱コンクールは、昭和21年に始まり、2年おくれて全日本コンクールがスタートした。その成績は、別表の通りだが、第1回大会から出場し、関学グリーンと、まさにデッドヒートを演じた。全国の“合唱のメッカ”といわれる関西の、そのリーダーが、同志社、関学であるとの世評が、この時期に定着する。両校ともコンクールから別れを告げる30年代後半までの間、現役グリーンをはじめ、それぞれのOBであるクローバークラブ、新月会をふくめて、コンクールの場でしのぎを削り、日本一を争った。現在コンクールの功罪が評論されるが、この時期に、両校がコンクールの場でよきライバル関係にあったことが、互いの実力を高め、さらには、全国の合唱運動の索引車の役割を果たす結果を生んだことは、疑う余地のないところである。コンクールなくしては、両校グリーの、今日がなかったといってもいい。

昭和23年の、初の全日本コンクールで、森本芳雄先生指揮の同志社グリーンが課題曲「秋のピエロ」の“月のようなるおしろいの……”のPPを、Pが4つくらいに歌って、審査員席まで聞こえなかったことや、このためか1位を福岡女子高校に奪われた(当時は、高校・大学が、同じ「学生の部」と呼ばれた)ことが忘れられない。

関西コンクールの会場は、例年、大阪中之島の朝日会館(34年まで)で、本番前の発声練習は、狭い屋上の渡り廊下の手すりにもたれて行なうといった状態だった。いまはプロ合唱界の大御所、田中信昭氏が、当時は、旧制大阪高校合唱団の指揮者で、全員がハウバのゲタをはき、腰から手拭いをぶら下げて、ガラランと舞台上に登場、“ムシデン、ムシデン…”と、ドイツ語の合唱を演じていたのも印象に残る。

自由曲も、いまのような大難曲を歌うことはまずなく、「オー・ボネ・イエズ」(パレストリーナ)といった、楽譜にして1・2ページの小品が主であった。私は、24、25、26年の3回のコンクールの棒をふったが、25年の全日本(日比谷公会堂)で、コルネリウスの「レクイエム」を歌って初優勝した。私事で恐縮だが、当時、関学の松浦周吉(現、大和銀行指揮者、関西合唱連盟理事)、京大男声の多田武彦(作曲家)が、それぞれ学生指揮者であり、私をふくめて“三羽鳥”などと呼ばれた。

しかし、正直いって、関学のカベは厚かった。別表(前ページ成績一覧表)のごとく、同志社が1位のときは、関学が、別の部門か、招待演奏などで出ていない、つまりは“鬼のいない間の洗たく”のケースが多く、正真正銘、関学を破って1位になれたのは、32年、ただ一度きりである。この年は、河

この夏の演奏旅行から、ついに「クリーム色のブレザーコート、紺色の蝶タイ、黒ズボン、黒靴」といったステージコートを定め、以後、同志社グリーンを元祖として、大学合唱界に服装革命が広まっていった。四大学の各校がステージコートを着用するのは、翌年(昭和34年)の第8回四連からであった。



第3回クローバークラブ演奏会(昭和33年6月26日大阪産経会館) 指揮:日下部吉彦氏
伴奏:小泉久代嬢



初めてステージコートを着た夏季演奏旅行の同志社グリーンクラブ(昭和33年7月福井にて指揮:市島章三氏)

第13回関西合唱コンクールは、大阪朝日会館で10月26日に職場・一般の部、11月3日に高校・大学の部が開催された。職場15、一般19、高校14、大学21の計69団体が参加した。(クローバークラブは3年連続第1位だったので、郡山市で行なわれた第11回全日本合唱コンクールに招待演奏された。)同志社グリーンクラブは市島章三氏の指揮で、男声課題曲「月夜」



(小林知詞・平井康三郎曲)と自由曲「酒宴の歌」(ケルシイ詞・安田二郎訳詞、コダーイ曲)を歌った。昨年につづいて優勝せねばならないという重荷を背負い、内心の焦燥と絶望感を隠し出場した。審査の結果、同志社グリーンクラブは大学の部第2位となった。ちなみに、職場の部では大和銀行合唱団、一般の部では新月会、高校の部では羽衣学園高校合唱班、大学の部では関西学院グリーンクラブがそれぞれ1位であった。

関学グリーンとは次のようなエピソードが残されている。

『コンクール終了後、梅田新道のピアホール・ミュンヘンで祝賀会を開いた。ほどよくビールがまわったころ、突然、同志社グリーのメンバー約20人が祝賀会場に現われた。(若狭富士雄氏、寸田達氏ら)そのときの模様を当時の指揮者・根津弘氏は次のように記している。「すわつ、荒神山か、とグリーン一同、色めきたったが、彼らのうちのひとりが『関学グリーの優勝おめでとう。実はここに1年生部員を連れて来ました。優勝するということがどんなに素晴らしいことか、その美酒がいかにうまいものか、その雰囲気をも1年生(浅井敬一氏、中島英嗣氏、佐藤道雄氏、民秋言氏、河村時孝氏ら)に見せてやってほしいと思い大挙つれて来ました。上級生は昨年経験しているけ

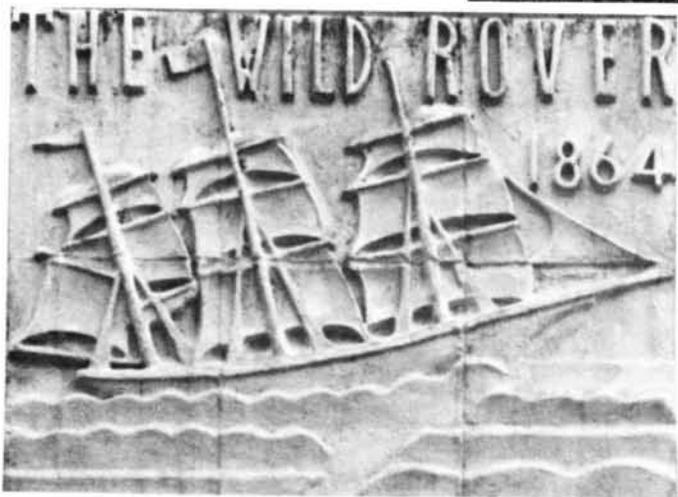
*安田二郎は福永陽一郎氏のペンネーム。

れども1年生はそれを知らない。迷惑だろうけど、よろしく』という趣旨のことを述べ、私たちの輪の中に入り、なごやかに歓談した。これは学院グリー4年生の福井三郎氏(現姓堀岡)が京都の人で、その友人が同志社グリーに何人かいたことにもよるが、それよりも、東西大学合唱音楽会以来の友情から生れたものだと思う。その同志社グリーの人たちは、私たちが全日本大会のため郡山へ向う日も、早朝にかかわらず大阪駅まで大挙して見送りに来てくれた』……「関西学院グリークラブ80年史」より引用——。

関学グリーは第11回全日本合唱コンクールでも1位となった。



明徳館 (同志社大学今出川学舎)



明徳館にはめ込まれた「ワイルド・ローバー号」の陶板レリーフ(新島襄がアメリカへ密航した際乗った帆船)

ステージコートの起源



塩路 良一（昭和35年卒）

1958(昭和33年)日本経済は神武以来の好景気に浮かれ、人々は戦後の飢餓の時代から脱して新しい生活様式を求めテレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫の三種の神器が持てはやされた。しかし精神の飢餓は未だ修復されず、労使対立の中、やがて迎える安保騒動の芽をはらませていた。一方文化面では大阪にフェスティバルホールが落成

し、第一回大阪国際フェスティバルがこの年開かれた。京都会館落成の2年前である。

グリークラブではこの年、四回生の就職活動時期が年々繰上がってきていることを考慮してクラブ規約を一部改正し、6月に委員会の改選を行なった。そして第55期委員会が発足して直ぐの7月、まず手がけた仕事がステージコートの採用であった。

当時の同志社の大学生は大半が「詰襟(つめえり)」と称された金ボタンの学生服を常用し、襟には校章(大学生協などで市販)と学部のイニシャル(Eなど)を装着していた。また伝統の「座布団帽子」といわれる角のどがった角帽も(減ってはいたが)健在で、ポマードで固めた髪を包んでいた。セーター姿などのフリー派もいたが、衣類が高価で品ぞろえも今日のように多様でない状況の下では少数派とされた。

こうした中、グリーンメンは創立以来「詰襟」をステージスーツと定め、当時は黒上下学生服の襟にグリーブッジだけ左につけて、バインダーを左に抱え、黒靴黒靴下といったいでたちを「第一種正装」と呼んでいた。この正装は、学生は学生らしくという世論に支えられて以後も定着するかに思われた。(写真①)

ただ夏場はどうしようもなく、上着を脱いで白ワイシャツに棒タイの時代を経て、19

56年(昭和31年)から濃紺の蝶ネクタイをつけ「第二種正装」と称した。しかし正装とはいい難く評判も今一つであった。

ステージコート採用の一年前1957年(昭和32年)の夏季演奏旅行に際して、第53期委員会(香川紀幹事長)の手で、白ワイシャツに代えて、ブルーの細い網目プリント模様のカッターシャツの左胸に、校章とGLEEの文字のししゅうを入れたユニフォームを新調した。

この年は旅行としては14日、11箇所という当時としては短かい行程であったが、途中で「第一回東京演奏会」という同志社グリー単独の東京での史上初のステージがあり、これを意識して特に途中ま



で60名セレクトで出発、この者の分60着を誂えて着用し各地で演奏した。(写真②③)

このシャツは東京演奏会の好演にもマッチした。しかし、旅行メンバー以外にオーダーされることなく運命を閉じている。なおこの旅行の2ヵ月前にカリフォルニア大学グリークラブが、ブレザーコート姿で栄光館に来演している。

さて1958年6月26日、クローバークラブが大阪産経会館で第三回定期演奏会を開き、白ブレザーコート(オンワード樫山製)に蝶タイの見事なステージ衣装を披露した。こ

の時、現役学生の13名がすでにクローバークラブのメンバーとしてコートを新調してステージに立っていた。

その頃、グリークラブでは夏季演奏旅行メンバー41名のセレクトが発表された。誰いうとなく、今度の旅行では指揮者の市島氏に白コートを着せたら、それなら全員に白コートを作ったという事から、庶務マネージャーに選ばれたばかりの二回生の山田英二氏(昭和36年卒)が奔走して、より安価でより見映えのするコートを新調することになった。見本にはクローバーの

白ブレザーを持参した。山田氏の回想によれば、一着の予算を切り詰める余り、白生地のもものでは芯が弱くステージ映えしないので薄いクリーム色とし、襟の形も映えるよう見本帳から選んでヘチマカラーとした由である。一着2千数百円を各自負担。当時、東京大阪間運賃が学割で495円であったから値段のほどがよくわかる。

縫製は丸物(現在の京都近鉄百貨店)で、メンバー41名のうち31名について1人、1人オーダーメイドで新調した。

したがってこの旅行先のステージでは、白とクリームが混じって並ぶこととなり(クローバーで作った者はそれを着用した。二着作るとは当時では考えもつかなかった)、「白はソリスト用ですか?」などと尋ねられたものである。

ところでステージコートを着用した歴史的な初回ステージは、演奏旅行二日目の1958年(昭和33年)7月25日(金)、午後6時30分福井市公会堂での、カレッジソングにつづく市島章三氏(34年卒)指揮によるデュオーバのキリエであった。余談ながら、この夜は大雨になり翌日は大水害に見舞われ国鉄は不通、校友の西出志朗京福電鉄福井支社長のご好意により差し廻されたバスで次のステージの金沢への突破を試みたが、道路冠水で福井へ戻り、あきらめたところへ国鉄が開通し、金沢へは開場寸前にスベリ込みといったハプニングがあった。コートを大切に持ち廻ったことはいうまでもない。結局この旅行21日、17個所のうち、彦根、一ノ関をのぞく15個所でステージコートを着用した。福井、金沢、



1957(S.32)年8月某日 場所不明(多分静岡市駿府会館)

演奏旅行ステージ前の一とき。セカンド一同勢揃い。胸マーク入特製のシャツを着ている。このカッターシャツの導入が一年後のステージコート採用の引き金となった。

後列左から、楠原氏、塩路氏、山田武氏、加藤格氏、長沼氏、畑氏、多田氏、若狭氏、河原林氏

前列左から、村橋氏、野口氏(故人)、高瀬氏



1957(S.32)年8月14日(休)

一ノ関小学校講堂、椅子がなく床にゴザを敷いて座っている。昼夜2回公演のうち、昼の部のプログラムにNo.5 シルバゲイトカルテット、曲目はシンギング・ザ・ブルース他、メンバーは、I T 山崎拓、II T 河原林昭良、バリトン柳瀬一輝、ベース香川紀、ピアノ塩路良一(向って右がハイパートである)特製シャツを着用、地方色豊かな演奏旅行の一コマ、当日は地元の熱気に押され最高の出来だったと記録されている。

高岡、大垣、名古屋、浜松、静岡、前橋、宇都宮、塩釜、仙台、盛岡、小樽、札幌、函館（行程順）である。また着用に合わせて、ノーバインダー（暗譜）を試みたのは画期的な出来事であった。（写真④）

第55期委員会の幹事長大谷九二男氏（35年卒）が、創立60周年記念誌に寄稿された文を次に引用させていただく。

「我々委員会の初仕事として印象に残っているのは、ステージで着用するユニフォームをきめた事です。これは委員就任の御挨拶に片桐先生宅へお伺いして種々御教示を受けた時、先生より、これからコーラスは、視覚にも訴えるように云々とヒントを与えられ、早速委員会に諮ってクリーム色のスマートなスーツを作り、これに紺色の蝶タイ、黒ズボン、黒の靴といった現在に見られる服装を定め、これを「特別第二種正装」、ちぢめて「特二」と称しました。当時この事に対し、賛否相半ばし、上級生諸兄よりは随分非難の声を聞きましたが、仲々ステージ効果は良く、演奏の出来もこの特二を着た方がいつも良かったようです。そして、我がグリーを元祖として全国の大学合唱界に服装革命が広まっていった事は、一寸愉快な事でした。」

注目されるのは当時の顧問片桐哲先生の名であろう。創立者で初代指揮者の先生は当時70才とは思えないお元気さで、演奏旅行には必ず全行程を同行され寝食を共にされていた。保守の最右と思われがちな先生が、実は革新の理解者であり指導者だったわけである。片桐先生ご自身も同志社グリークラブ時報第11号（1958年11月発行）に次のように寄稿されている。

「今回の演奏旅行での記念すべきことの一つに、初めて正式なホワイトスーツを新調して舞台上に立った事と、階段式配列によって演唱したことをあげねばならない。学生らしくないとの評判が起るかも

も知れないと云う一抹の危惧もあったが、グリーメンのステージマナーが良かった為か、意外に好評であり、今後各大学の合唱団体も競って模倣することと確信する。」（原文のまま）

なお京都での初ステージは、演奏旅行から帰った翌月の1958年（昭和33年）9月19日（金）、午後7時からヤサカ会館での京都大学合唱団とのジョイントコンサート



1958(S.33)年8月某日、場所不明(多分前橋市群馬会館ホール)演奏旅行ステージ終了後の一とき。新調のステージコートで有志が勢揃い、1名のみクローバー用白色あとはクリーム色のグリークラブ用を着ている。

後列左から、森本潔氏、小林氏、竹之内氏、島津氏、中村氏。前列左から、塩路氏、吉岡氏、野村氏(クローバー用白を着ている)



1958(S.33)年9月19日(金) 京都ヤサカ会館、京大合唱団とのジョイントコンサート(京都でのステージコート初舞台)指揮 森本 潔、曲 清水 脩「三つの俗歌」



1960(S.35)年1月16日(土) 同志社栄光館 フェアウェルコンサート

左側ステージコート(特二)姿が卒業部員、右側黒服(第一種正装)が現役部員、対比がよくわかる。中央でペナントを渡しているのは片桐哲先生、受けているのは小生(塩路)。

中のプログラム「六」で、旅行メンバー40人だけのステージで、森本潔氏(36年卒)指揮による清水脩作曲「三つの俗歌」であった。(写真⑤)

このメンバーの外にはコートを補充しなかったので(当時、部員全員で146名いた)、他のステージは全て第一種正装で通し、当時のホームグラウンドであった栄光館では、ブレザーコートは似合わないため、初見参は1960年(昭和35年)、1月16日(土)のフェアウェルコンサートまで操り下がる。しかもこのステージは、コートゆかりの第55期委員会メンバーのほとんどを含む、卒業部員26名のみのプログラム「五」で、最初の曲目は西垣喜光氏指揮によるヴィアダーナのオーサクルム・コンヴィヴィウムであった。(写真⑥)

さて、1959年(昭和34年)春期の演奏旅行に際し、セレクトメンバー45名の内、昨年夏旅行に参加しなかった16名に対し、はじめてステージコートの補充を行なった。こうして、夏季以外でも演奏旅行に「特二」を着用する方針が定着し、その後もステージの折につけて新しいメンバーにコートを譲ってもらい、1959年6月21日(日)、東京神田共立講堂での第八回四連では、期せずして早慶同関の各校が個性豊かなステージコートを着用して、大学合唱界に新しい時代を迎えることになったのである。



クローバークラブが作った「白」のステージコート



グリークラブが作った「クリーム」のステージコート

昭和34年
(1959)

1月17日、栄光館でグリークラブ創立54年度卒業生のためのフェアウェルコンサートが行なわれた。この年の卒業生から「グリー会館建設基金」を積立てることとなった。60周年記念誌に「次回の記念誌は、グリー会館建設記念特集と願いたい。」との記述があるが、残念ながらそれから20年経過した今、実現されていない。80年にわたる同志社の音楽文化、日本の合唱文化を担ってきた同志社グリークラブも今一度、グリー会館建設への歩みを進める必要があるように思われる。

6月13日、大阪毎日ホールで、また7月25日神戸国際会館で創立55周年記念演奏会が開催された。



PROGRAMME	
第一 部	第二 部
<p>I 聖 歌 曲</p> <p>Even, quando moritur Soprano: Imanai Agnes dei O Sanna Crucifixus</p>	<p>II 聖 歌 曲</p> <p>G. Palestine W. Byrd W. Byrd L. Vindana</p>
<p>III 日 本 民 歌</p> <p>あまのこころ あまのこころ あまのこころ あまのこころ</p>	<p>IV 日 本 民 歌</p> <p>あまのこころ あまのこころ あまのこころ あまのこころ</p>
<p>V クローバークラブ</p> <p>アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム</p>	<p>VI クローバークラブ</p> <p>アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム アムステルダム</p>
<p>— Intermission —</p>	<p>VII 異 国 民 歌</p> <p>「月夜と静けさ」より 竹 林 謙 吾 日 本 民 歌 の 聲 竹 村 文 子 あまのこころ あまのこころ あまのこころ</p>
	<p>VIII ロシア 民 歌</p> <p>緑色のマフラー ソフィアのソフィ 夕 陽 の 鐘 プスコフ作家の歌</p>
	<p>IX 西 蘭 民 歌</p> <p>When you and I were young Maggie Come Prins Round the Bay of Mexico Island</p>
	<p>X 異 人 曲 歌</p> <p>I couldn't look nobody gray of grey robe Holy mountain Wade in de water</p>
	<p>XI 異 人 曲 歌</p> <p>志 摩 公 輔 詩 手 塚 武 彦 詩 堀 本 隆 一 郎 編 堀 本 隆 一 郎 編 Sergel Jaros 編 Sergel Jaros 編 American Folk Song Hit Song American Folk Song Hit Song M. Berchlesonow 編 F. H. Hantrey 編 Roy V. Rhoads 編 Arthur Hall 編</p>

創立55周年記念演奏会のプログラム

5月31日、栄光会館で第11回立教・同志社交歓演奏会が行なわれた。

第11回 交歓演奏会



Akto

立教大学同志社グリークラブ

PROGRAMME

エール交歓

第一部

同志社グリークラブ	指揮 森本 康
聖 歌 曲	
Foce quando moritur	G. Palestrina 曲
Sacerdotes Domini	W. Byrd 曲
Agnus Dei	W. Byrd 曲
O Sacram Communion	L. Viadana 曲

立教大学グリークラブ (女声合唱)	指揮 平尾 民保
伴奏 船川 哲朗	
『東 西 花 と 我』	江 崎 幸 子 詞
運 送 草	清 水 謙 曲
手 紙	
初夏の夜	
新 歌	

同志社グリークラブ	指揮 森本 康
男声合唱のための組曲	北 原 白 秋 詞
『月夜五等の区』より	多 田 武 謙 曲
竹 林 綱 策	
竹 に 交 り て	
あ て の な い 男 娘	
か は え こ ち	

立教大学グリークラブ	指揮 市 谷 勝 也
聖 歌 曲	
Regnum Aerream	P. Cornelius 曲
De Coelo Veniet	J. Handl 曲
Confirma hoc	J. Handl 曲
Miserere	G. Allegri 曲

第二部

立教大学グリークラブ (混声合唱)	指揮 平尾 民保
伴奏 船川 哲朗	
フリスホルン曲集	R. Frimie 曲
やさしい人	
レザンデン王	
胸の鼓動	
ロザムンド・ピア	

Silver Gate Quartette	
Go Down Moses	Negro Spiritual
Tim Dooly	Hit Song
Come Prins	Hit Song
Round the Bay of Mexico	America Folk Song

立教大学グリークラブ	指揮 市 谷 勝 也
伴奏 石 丸 俊 嗣	
ソング民謡集	
トウイカ	
赤いサウザン	
狂	
モリス・ロビンソン (コーカサスの踊りと闘争)	

同志社グリークラブ	指揮 森本 康
聖人聖歌集	
I couldn't hear nobody pray	M. Betholmew 編
Of gray Robe	F. H. Huntray 編
Holy Mountain	Roy v. Rhodes 編
Wade in de Water	Arthur Hill 編

第三部

合 同 演 奏	指揮 森本 康
おとんぼ	船川 哲朗 詞
夕やけ小やげ	石丸 俊嗣 編

第11回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

6月21日、第8回東西四大学合唱音楽会が東京の共立講堂で開催された。合唱の交歓もさることながら、翌日には、四大学対抗野球大会を神宮前グラウンドで行ない、親交を深めた。対戦した慶応などは、ユニフォームもさっそうとしていたが、同志社ボーイは「シャツにはだし」といういでたちであった。試合の結果は……？

9月9日から14日までの夏季合宿は小豆島で行った。海辺の旅館を借りきって、練習、パート対抗ポートルース、夜のコンクール、洗礼式など、恒例の合宿行事となっていた。なかでも、演芸会で見事な女形を披露するグリーンメンもあった。

第14回関西合唱コンクールは、大阪朝日会館で11月1日に職場・一般の部、11月3日に高校・大学の部が行なわれた。職場17、一般19、高校15、大学25の計76団体が参加した。クローバークラブは出場しなかった。同志社グリークラブは大学の部で第2位であった。

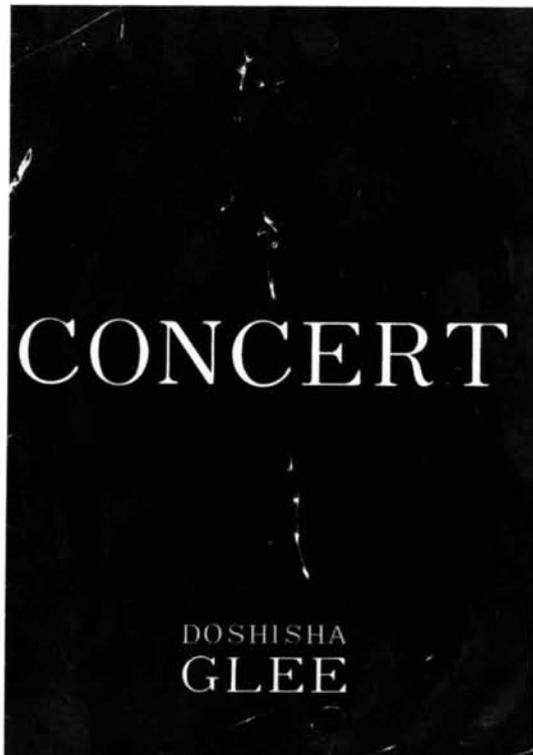


昭和34年6月22日 東西四大学対抗野球大会（神宮前グラウンド）



小豆島合宿の演芸会 寸田 達氏(昭36卒)





昭和35年 (1960)

3月5日から20日まで、中国・四国・九州地方に演奏旅行。広島では、原爆病院を訪問。重症患者の方々のために病院内のスピーカーで放送した。「赤とんぼ」(福永陽一郎編曲)を聴きながら涙を流している老人もあった。また原爆で孤児となった子供達のいる「新生園」にも訪問した。子供達の前で童謡を歌ったグリーンメンは、感慨に声もとぎれがち……「里の秋」(福永陽一郎編曲)の“あ、母さんの……”では、グリーンメンの眼に涙があふれていた……。

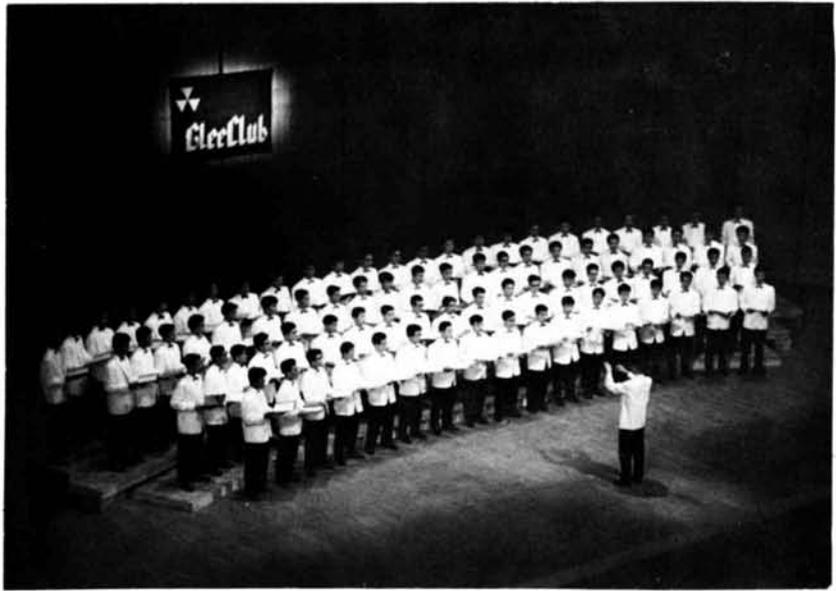
6月1日、新しく落成した京都会館第一ホールで、**第56回定期演奏会**が開催された。「第〇回定期演奏会」という言葉が使われたのはこの年からであった。(これまで「創立〇〇周年定期演奏会」)

6月11日、**第12回立教・同志社交歓演奏会**が東京の文京公会堂で催された。

P R O G		R A M M E	
HAIL OUR GLEE CLUB			
イミサ曲 十長調	Charles Gounod	古 聖声合唱のための四つの行儀詩	辻 浩 一
Kyrie		足 ぬ す み	■ 口 大 学 詩
Gloria		グランド聖歌	■ 聖 託 宣 告 詩
Credo		聖 の 上	■ 三 好 連 歌 詩
Sanctus		あ も と	■ 中 原 中 也 詩
Benedictus			
Agnus Dei			
子 供 謡 の 四 季	福永陽一郎編	Y. 西 貢 唱	SILVER GATE QUARTET
かぞえうた		Shadrack	
牧 歌 の 歌		When the Saints Go Marchin' in	
春 の 小 川		Good night Sweet Heart, Good night	
お け ち 月 夜		Luna Llana	
あ つ み			
夏 は 涼 風		第「西 太 平 洋」より	Richard Rodgers
星 の 歌		Some Enchanted Evening	
		Younger than Spring Time	
		Happy Talk	
		Bali Hai	
■ 異 人 童 歌			
Mary Had a Baby			
Calvary			
Didn't Lord Deliver Daniel			
Set Down Servant			
----- Intermission -----			

第56回定期演奏会のプログラム

6月25日には京都会館第一ホールで、6月26日にはフェスティバルホールで第9回東西四大学合唱音楽会が開かれた。



第56回定期演奏会（1960年.6.1 京都会館第一ホール）
京都で初めて全ステージ「ステージコート」を着用した。

長かった演奏旅行



林田 慎也（昭和38年卒）

私の手元に、35年夏から37年春迄の、4回の演奏旅行の記録が残っている。37年夏も参加したのだが、東海地方を一週間程度というもので、記録を残していない。

この夏は当初、遠藤先生の御尽力で、戦後合唱界初の海外旅行、韓国演奏旅行を実現寸前迄運んで頂き乍ら、韓国の政情不安により、中止のやむなきに至った。その為、急ごしらえの旅行となり、担当の中野君には、大変気の毒な事をしたと、今でも思っている。

35年夏	19日間	21演奏会	2サービス
36年春	19日間	15演奏会	3サービス 2ラジオ録音
36年夏	19日間	12演奏会	1サービス 1ラジオ録音
37年春	24日間	20演奏会	6サービス

長期間の旅行といえば、37年春になるが、私の体験した最も内容の充実した旅行となると、35年夏（担当・民秋 言兄）である。これらの旅行の思い出をピックアップしてみたい。

35年夏は、7月29日出発。四日市・名古屋・岐阜（昼夜）、浜松（昼夜）、静岡（昼夜）、水戸と、6日間に9演奏会という強行軍であった。当時、岐阜、浜松、静岡の各公会堂には冷房設備などなく（水戸、茨城会館は失念）、しかも出発以来各地の最高気温を追いかける結果となり、最初のステージが終る頃にはユニフォームの上まで汗が浸み出し、ヒナ段では卒倒する者が続出する、という現在では想像もつかない前半戦だった。しかし、翌日の伊香保温泉における休養日は、温泉地には必ずある芸術劇場の特別観劇会に参加する者多数という、若者らしい回復の速さも示した。前橋、新潟、喜多方会津若松（昼夜）、郡山、仙台、盛岡（昼夜）と、また6日間8演奏会をこなしたが、盛岡では諸先輩から伺い、楽しみにしていたもの以上の歓待を受けた。主催して下さった生活学園の細川泰子園長（片

桐先生の教え子とっております)の陣頭指揮による、家庭科の先生方総出の腕にヨリをかけたすばらしい御馳走に、それ迄の粗食による衰えを一気に恢復する思いでした。翌日は浅虫温泉での休日の為、夜は解禁。私はおとなしくエコノミック・キャバレーで浅丘ルリ子さんとお話しをして過ごしました。最後の3日間は函館、小樽、札幌(昼夜)の他、札幌北光教会の日曜礼拝におけるのサービスを務めた。初日から8月15日定山溪温泉での休養、解散まで、私の経験した演奏旅行の中では最も満足出来るものであった。私の手元に残っている周遊券の料金は3,673円、残念乍ら、いくらのお返し金があったのか記録を残していない。

36年春の旅行は、広島迄の7日間、片桐先生が同行下さった最後の演奏旅行となり、文字通り生活を共にしたグリーンメンに深い感銘を与えて下さったことを記しておきたい。

37年春は私が担当させて頂いたものだが、24日間という日程は内容としては不満足なものであった。頭と終りの演奏会から決ってしまい、その間の日程を埋めるのに苦労した。峰俊俊二兄の御協力で琴平、善通寺の中・高校で2日間4回のサービスを組んでもらっても、まだ4日間の空欄が出来るものであった。苦肉の策で組んだ日程として、佐世保米軍キャンプ演奏会(於・ショーボート)というのである。クリスマス・イブに米軍キャンプへ飛び込み、司令官に面会を求めて決めたものだ。こちらのカタコトの説明を気嫌よく聞いて、即座にOKをくれた。昼は子供を中心に、夜は大人相手の演奏会ということだった。「駄目モト」でぶつかったこちらとしては、その場のOKに驚いたが、こちらはギャラ(旅費分担金と称し、金額は忘れたが)の安さに驚いたのを覚えている。

37年春の旅行は3月4日出発、3月27日の別府、南明荘での解散迄に、舞鶴(昼夜)、綾部、鳥取、福山、岡山(昼夜)、今治、新居浜、広島、門司(昼夜)西南グリーンとジョイント、佐世保、佐世保米軍(昼夜)、長崎、大分、熊本——といった演奏会を持った。(人員50名、旅費4,278円)。

当時、各地の演奏会の主催者は、主として県人会であった。彼等は数ヶ月の準備を通じて県人会内部の親睦をはかり、演奏会であげる幾許かの収益でスキヤキコンパ等を開くことを大きな喜び、楽しみとしていた。

後年、演奏旅行が行いにくく、なっていた最も大きな原因は、各地で主催してくれていた学生達の、エネルギーの発散の仕方が変わり、経済的にも豊かになり、他の楽しみ方がいくらでもある世の中になつていた事があるのではないかと思っている。

練習、合宿、定期、四連、同関、同立、フェアウェル——それぞれが忘れられないグリーンライフを作りあげてくれたが、もし演奏旅行がなかったら……。

昨年まで、グリークラブも合唱コンクールに出場し、輝かしい成績をおさめてきたが、この年、次のような理由から、コンクールの出場をとりやめた。「グリークラブを成長させ、その技術水準を高め、一つの事に向って全員が一同となって感激を味わうためには、確かにコンクールに出場するという手段が非常に有効であることに疑いはない。しかし、我々にとって、もっと重要なことがある。それは審査とか、ある一つの枠にとらわれない自由な音楽探求活動である。限られた期間である学生時代の、しかも、秋という絶好の活動時期に勝敗のために喜びを見出すよりも、もっと自由に合唱活動をやることこそ重要なのである。」と。やがて関学グリーも昭和39年(1964)からコンクールの出場をとりやめた。

コンクール不参加により、この年の秋は次のように充実した演奏会をもった。

11月12日、大阪フェスティバルホールで同志社創立85周年記念「イヴ大音楽会」

11月26・27日、京都会館第一ホールで京都「イヴ音楽会」

12月3日、大阪毎日ホールで大阪特別演奏会

12月8日、京都会館で京都音楽家同盟主催「邦人作品の夕べ」出演

12月16・17日、ノートルダム女学院と合同でフォーレの「レクイエム」演奏。

昭和36年
(1961)

福永陽一郎先生とのつながりは昭和28年、第2回東西四大学合唱音楽会の合同演奏を指揮されたことから始まる。



福永陽一郎氏

当時の幹事長野村秀治氏(昭29卒)と福永先生とが意気投合し、先生が関西に来られた時は同志社に立ち寄られるようになった。しかし、それ以後は、河原林昭良氏などが曲や練習について相談をする程度であった。(昭和32年合唱コンクールのデュオパの「グローリア」、昭和33年合唱コンクールのコダーイの「酒宴の歌」のいずれも福永先生の選曲、推薦によるものであった。)ところが、昭和35年、すでに高度な水準に達した学生合唱にあっては学生指揮者のみの指導では限界に来ているとの判断から、指揮者・浅井敬一氏、幹事長・中島英嗣氏、渉外・民秋言氏(いずれも昭和37年卒)らが上京、福永先生に正式に技術顧問として就任を依頼した。

1月16日、京都会館第一ホールで行なわれた「創立56年度卒業生のためのフェアウエルコンサート」で、技術顧問としてはじめて福永陽一郎先生の指揮で「赤とんぼ」(福永陽一郎編曲)を歌った。

福永陽一郎先生との出会い



浅井敬壹(昭和37年卒)

私と福永先生との出会いは、(私から先生をながめたにすぎない)今から約35年前、私が中学生だった頃です。当時の日本合唱界と云えば、福永陽一郎指揮する、「東京コラリアーズ」だけが合唱団と云っていいほど、絶対の人気を博していました。私は労音で「東コラ」が八坂会館に来るたびに欠かさず聴きに行きました。スラリと長身の指揮者福永氏を真中に居並ぶ「東コラ」の面々は、これぞ男声合唱というものを、私に聴かせてくれました。

レパートリーの中でも、特に私は戦争で片手を失なわれたというバスのソリストの歌われた「郵便馬車のギョ者だった頃」を聴いて、体がぞくぞくした事を今もはっきり覚えています。

私が同志社グリークラブの第31代指揮者をお引受けした時、グリークラブは180名の、大世帯になっていました。30代指揮者の森本先輩から「浅井、お前には音楽は期待せんから、団の規律を立て直すよう頑張ってみないか」というお言葉を頂き、音楽無しで規律を立て直すだけでいいのなら頑張れば何とかなるだろう。無責任にも、こうして伝統ある同志社グリークラブの第31代指揮者をお引受け致しました。

本当なら2年生の鳥井君が第31代指揮者になっていたはずなのに。

いくら音楽無しでいいと云われたにしても、やはり何とかしていい指揮者になりたい。私としては初めて猛勉強を始めました。声楽を中川牧三先生、指揮法を京響副指揮者の先生に。合唱団はグリークラブ以外に5団体に入りました。

精一杯努力したつもりでも、はっきり限界がありました。私は幹部会を開き「どなたかグリークラブの面倒を見て下さる専門の先生を探そうではないか」の提案し、幹部4名で東京へ人探し、指揮者探しに出かけました。慶応はすでに木下保先生を常任指揮者にお迎えしていました。

ビクターセアル、多田武彦両先生を始め、一人でも多くの先生にお会いしたいと思っていた矢先、日本最高位の指揮者福永陽一郎先生にもお会い頂けるかも知れないという情報が入りました。

福永先生にお会いする場所は池袋の楽講店と決まりました。池袋駅に降りた私達4名はドキドキし

ながらタクシーに乗り、住所を運転手に云って笑われました。「君達、乗ってくれるのは構わないけど君達の行先は向側ののあの店だよ。」

私にとって日本の音楽家と出会う瞬間が今おとずれました。椅子に座っておられた福永先生をこの目でひと目見て「アッ!」と驚きました。足を組まれたその足がぐるぐると二重に反対の足にまつわりついているのではないかと。私はこれを見てさすが日本最高の指揮者は偉大なものだと感じ入りました。

「君達は知らないだろうけれど、私は今日まで同志社グリークラブとは大変親しくしてきた。君達の大先輩から最近ではカンタ君(河原林昭良先輩。関西で関学グリーを破り、全日本で15人の審査員に一位をつけさせた歴史上の人物)、森本潔君もよく知っている。」この瞬間、直立不動でお話をお聞きしていた私の頭の中に、何としても福永先生を同志社グリークラブに来て頂こうと決心した。

「もし君達が来てみると云うのなら、同志社に行ってもいいよ。」考えてもみなかった「福永陽一郎、同志社に来る」奇跡が起った。

同志社グリークラブ幹部会は「福永陽一郎先生をグリークラブにお招きする件」を7対4で可決した。

お引受け頂いた福永先生が、初めてグリーに来て下さった日は寒い冬の夕方だった。今もはっきり眼ぶたに焼きついている。期待と緊張感一杯で、グリーメン180名が居並ぶ平安教会の練習場に、3色からなる横じまのハイネックのセーターをカッコよく着こなし、赤と黒の手袋をはめ、長い長い足での入場である。京都会館第一ホールを満員にして、無料で行う4回生を送り出すフェアウェルコンサートの練習においで頂いたのであった。お振り頂く曲目はたった一曲、「赤とんぼ」。グリーメンの前に立たれた先生は、夕日が教会のステンドグラスを通してさし込む光の中で、全身これ全て音楽という指揮をして下さった。それから今日までの24年間、ただひたすらグリークラブに素晴らしい音楽を注ぎ込んで下さいました。グリーを率いて日本全国、そして世界へと同志社の名を高めて下さいました。先生のこのご苦勞に同志社グリークラブ及び同志社クローバークラブは、どれだけお報いする事ができたでしょう。

先生は2年前から腎臓を悪くされ現在一週間に2度人工透析を受けておられます。

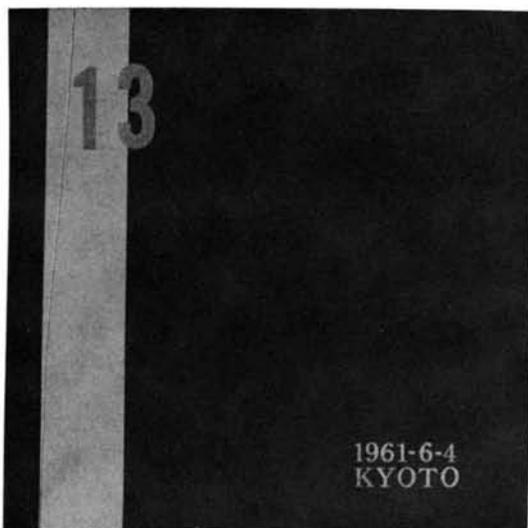
人の云う事を絶対に受け入れられなかった福永陽一郎先生、どうかこれだけ聞いて下さい。もしかしたら先生は「もういつ死んでもいいよ」と、お感じかもしれませんが。でも先生、死なないで下さい。命ながらえて下さい。福永陽一郎でなければ出来ない仕事が多く残っています。どうか日本の音楽界の為、一日も長く元気に御活躍頂く事を心から願っております。

※当時は中京区烏丸通三條上ル西側に在った。

4月28日、大阪産経会館で関西学院グリークラブ、神戸女学院コーラス、同志社グリークラブの3つの合唱団によるジョイントコンサートが催された。これをきっかけとして、この年12月から開始された関学グリーとの交歓演奏会の礎がつくられた。



関学グリー、神戸女学院、同志社グリーの交歓演奏会
(1961.4.28 大阪産経会館)



<p>プログラム I</p> <p>エール 交歌 立教大学グリークラブ 同志社グリークラブ</p> <p>プログラム II</p> <p>レクイエム ビクトリア作曲 立教大学グリークラブ混声合唱 指揮 竹内 弘</p> <p>Miss Pro defunctis</p> <p>Intrositus (入祭讃) Kyrie Sanctus Benedictus Agnus Dei (神五讃) Responsorius (応 讃)</p> <p>イタリア歌曲集</p> <p>立教大学グリークラブ女声合唱 指揮 竹内 弘 伴奏 細川 哲朗</p> <p>君われにつら(とも) カムドラ 作曲 誇りし君の胸 ロッティ 作曲 われを見捨てて モンテヴェルディ 作曲 睡れや睡れ スカラツタイ 作曲</p> <p>ドイツミサ コーペルト作曲 福永第一編曲 同志社グリークラブ 指揮 浅井 敬一</p> <p>Zum Intrositus Zum Gloria Zum Credo Zum Offertorium Zum Sanctus Nach der Communio Zum Agnus Dei Schlussgesang</p>	 	<p>プログラム III</p> <p>組曲「きびだんご」 石 丸 寛作曲 ねやまひろし作詞 立教大学グリークラブ混声合唱 指揮 中川 庄一</p> <p>きびだんご きんぎら 羊 羹 きつま羊</p> <p>ロシア民謡 福永第一編曲 同志社グリークラブ 指揮 浅井 敬一</p> <p>十二人の英雄 鐘の音は半調に鳴り響く グイムギの舟唄 船 34 夜</p> <p>プログラム IV</p> <p>合同演奏 立教大学グリークラブ 同志社グリークラブ</p> <p>指揮 福永第一 聖史曲 Op 51 No. 5 ナチコフスキー作曲 福永第一編曲</p> <p>幸なり遊ばれし者 津 田 圭一 作曲</p>
---	---	---

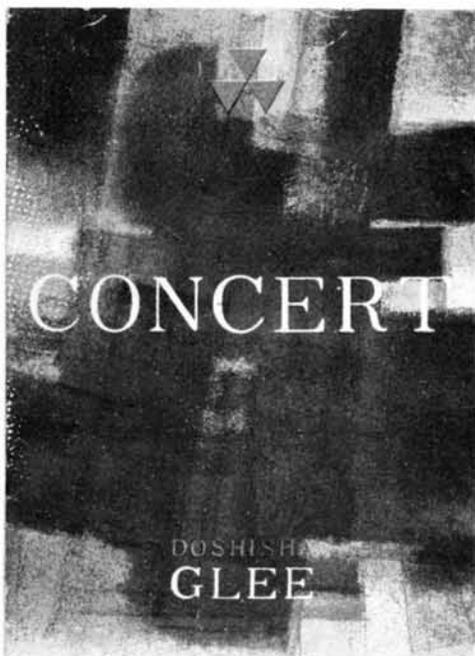
第13回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

6月4日、第13回立教・同志社交歓演奏会が京都会館第一ホールで行なわれた。

6月17日・18日には東京文化会館大ホールで第10回東西四大学合唱演奏会が開催された。四連10周年を記念し、プログラムには四大学の校歌と演奏曲の楽譜が掲載された。

つづいて京都の姉妹都市であるボストンから、ハーバード・グリークラブ60名がエリオット・フォーブス教授と共に来日した。宿泊は彼等の希望で、京都ボストン姉妹都市委員会の手配により全員、同志社グリーメンバーや同大、京大教授校友等の家庭に泊まり、日本の家庭生活をも楽しみ勉強していった。

演奏会は、6月24日、高山義三市長夫妻も列席され、京都会館第一ホールで行なわれた。第1部、3部がハーバードで、終始宗教曲などをやわらかく、清楚に歌ったのに対し、同志社グリークラブは第2部で、浅井敬一氏の指揮で「おてもやん」、「こしき島船唄」、「島原の子守唄」を歌い、バイタリティに富んだ演奏で、2,500人の聴衆をわかせた。



翌日は、市内観光で円山の料亭「さあみ」にて、スキヤキパーティーを催し歓迎した。

7月1日、京都会館第一ホールで第57回定期演奏会が開催された。

9月7日から13日まで夏期合宿、野尻湖ハウスにて。合宿で野尻湖ハウスを利用する第1回目であった。(以後、夏季合宿は野尻湖が恒例となった。)福永陽一郎、畑中良輔両先生に来ていただいた。

P R O G	R A M M E
<p>DOSHISHA COLLEGE SONG</p> <p>I 日本民謡</p> <p>夜宮・夜神楽 鳥屋の子守歌 おてもやん こしき島舟唄</p> <p>II 子供の歌</p> <p>豆は米ぬか 海 砂山 村祭り 里の秋</p> <p>III 宗教曲</p> <p>Zum Introitus Zum Gloria Zum Credo Zum Offertorium Zum Sanctus Nach der Communio Zum Agnus Dei Schlussgesang</p> <p style="text-align: center;">----- Intermission -----</p>	<p>IV 四重唱 SILVER GATE QUARTET</p> <p>John Henry You'll Never Know North To Alaska Lover Come Back To Me</p> <p>V 男声合唱のための組曲 中原中也作詩 多田武彦作曲</p> <p>「在りし日の歌」 米子 早春の嵐 閑寂 骨 また来ん春</p> <p>VI 黒人聖歌</p> <p>Swing Low Sweet Chariot This ol' hammer Sometimes I Feel Like A Motherless Child Little Innocent Lamb</p>

第57回定期演奏会のプログラム

ごあいさつ

(第57回定期演奏会プログラムより)

技術顧問 福永陽一郎

本夕、御来場の皆様に、心からのごあいさつをお送り申し上げます。

今さら私から申すまでもなく、同志社グリークラブは、京都が日本に誇る一流合唱団であります。その同志社グリークラブが、今までも増して満たすべき、すぐれた音楽をうたい出すために、今年のはじめに、フエアウェルコンサートのとき発表されましたように、私がお手伝いをいたすことにな

りました。その最初の定期演奏会が本日であります。

当今、非常な発達をとげました、日本の学生合唱活動の中で、一流と称せられる団体に於きましては、アマチュアであることは、単にその精神的な基盤と申しますか、立脚する場の問題でありまして、音楽の内容や表現の技術については、既に専門の音楽家をしのぐものが出てきております。このような時代にありまして、長く学生指揮者による演奏を伝統としてきました関西の大学合唱団の中から、同志社グリークラブが先頭を切って指導者を専門家にもとめたという、決断と勇気とに最大の敬意を表します。

しかしながら、この仕事には、東京から定期的に人を呼ぶ学生諸君にとっても、またわずかな時間を見つけてかけつけます私にとっても、大きな困難がつきまっております。この困難を乗り越すことは、決してたやすいことではありません。けれども、学生諸君の、そして私の、同志社グリークラブに対する愛情が、その困難さを溶かしてくれるものと、固く信じております。

本夕御来場の皆様にとりまして、今日の音楽会がいくらかでも満足すべきものとして終わりましたならば、それは私どものグリークラブへの愛情が実を結んだと申せましょうし、また、皆様の御声援が私どもの胸にひびきましたときに、私どもは一層前進する勇気をふるいおこさせられることでありましょう。

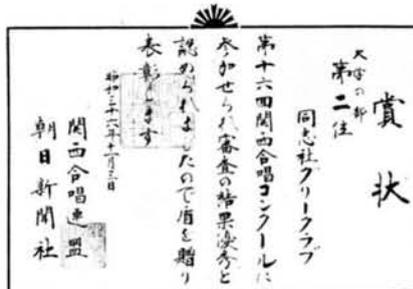
この音楽会が、音楽と同志社グリークラブを愛するすべての人にとりまして、素晴らしいものであるように。本夕、御来場の皆様に、心からのごあいさつをお送り申し上げます。

第16回関西合唱コンク

ールが大阪朝日会館で11月3日、高校・大学の部、11月5日、職場・一般の部が開催された。高校15、大学26、職場17、一般20の計78団体が参加した。

同志社グリークラブは浅井敬一氏の指揮で、男声課題曲「波」（奥野椰子夫詞・石河清曲）と自由

曲「Gloria」（C.Gounod 曲）を歌った。審査の結果、同志社グリークラブは大学の部 第2位であった。このコンクールを最後に、グリークラブは合唱コンクールに全く出場しなくなった。ちなみに、1位となったのは大学の部では関西学院グリークラブ、高校の部では兵庫県立神戸高校合唱部、職場の部では大和銀行合唱団、一般の部では神戸中央合唱団であった。





大久保昭男氏

5月3日から5日まで、春季合宿として大谷婦人会館で、フレッシュメンの実力養成対策を行った。そしてこの時から福永先生の紹介でヴォイストレーナーとして“ダグ先生”こと大久保昭男先生が来られることとなった。現在に至るまで、同志社グリーの声を作ってくださっている熱意に敬意を表する次第です。

「いま、よみがえる“ダグ先生” ——大久保昭男先生——語録」

大畠 功（昭和50年卒）

「あなた、のどでセミ飼ってんじゃないの、ミーミーいって！」

「手をやめなさい。耳にあてると、うまくなった錯覚に落ち入るんだから。」

「便器またいでいるような格好しないの。ちゃんと立ってごらん。」

「いま何回生？4回生？もう時間ないよ、早くやらないと。」

「あなたたち、言えばできるんだから、もったいつけないで1回でやんなさいよ。」

「色々あったけど、思ったよりよかった。」

「トップ、びっくりこいたような声出さないの。」等々……。

大久保先生のにこやかな顔、真剣な眼差しとともに、たくさんの^①大久保語録、が脳裏に蘇ってくる。当時、そんな言葉ばかりを私は覚えていたような気がする。でも、その1つ1つの言葉が、それ以外のどんな表現よりも的確で、しかもメンバーに最大のインパクトを持って投げかけられたように思う。その素材で、私は発声練習を楽しく、それなりに有意義に消化できたのである。ダグ先生、いつも楽しい時間をありがとうございました。

さらにそれから約1ヵ月後、6月に入ってから、テナー系のヴォイストレーナーとして“ヒロタン先生”こと中村博之先生を迎えることとなった。



中村博之氏

“ヒロタン”先生 ——中村博之氏——の思い出

大熊政次（昭和40年卒）

烏丸三条の教会での練習後は近くの中華料理屋で、ヤキソバ、ライスで腹ごしらえをして、河原町へ直行…。独身だし若いし、まるで学生気分、グリーンメンにとっては良き兄でありました。中村先生と申し上げるより「ヒロタン先生」と呼びかけた方がピンとくる。

ヒロタンという、まことにカドのない響きにふさわしいお人柄、そしてすばらしいテノールです。昔から、どちらかといえば、張りあげて歌っていたグリーンメンにとって、肩の力を抜いて歌う、いくなれば日本歌曲的指導で、荒削りな声にまろみを与えて下さったのが、我らがヒロタン先生だったと記憶いたしております。

合宿で寝起きを共にしたり、横浜の下宿へも泊めていただいたり、ずいぶんお世話になりました。グリーの歴史の中で、本格的ヴォイストレーナーの創始者の先生として、その教えは、現在まで脈打っております。

九州男子、ヒロタン先生、万歳!!

また、ほぼ同時期に関学グリーンは二期会の中村義春氏を、早稲田では城須美子氏を、慶応も大久保昭男氏をヴォイストレーナーとして招いている。

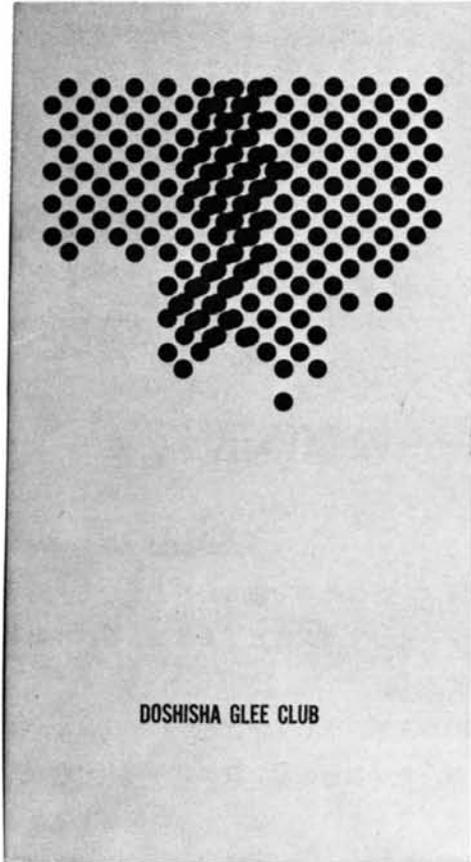
さらに関学グリーンはこの年、北村協一氏を指揮者として迎え、技術指導を開始されている。

6月9日、**第14回立教・同志社交歓演奏会**が東京の文京公会堂で行なわれた。

6月23日、京都会館第一ホールで、6月24日には大阪 フェスティバルホールで**第11回東西四大学合唱演奏会**が開催された。同志社グリーンクラブは、リスト作曲「男声合唱のためのミサ曲ハ短調」を本邦初演した。

11月25日、日比谷公会堂で、同志社創立87周年記念EVE音楽会「東京演奏会」が行なわれた。福永陽一郎氏指揮で「リストのミサ曲ハ短調」、「J. シュトラウス作品集」などを歌った。クローバークラブも日下部吉彦氏の指揮で、「大中恩・男声合唱曲集」を歌い賛助出演した。

12月20日、京都会館第一ホールで第58回定期演奏会が開かれた。



PROGRAM II

「男声合唱のためのミサ曲 ハ短調」 F. Liszt 作曲

オルガン伴奏 鷲 河 紹 子

Kyrie

Gloria

Credo

Sanctus

Agnus Dei

PROGRAM III

See Chantv

The Erie Canal

High Barbaree

Shenandoah

Blow the Man down

作曲 同志社大学ハーモニカ・ソサイエティ
Harmonica 堀沢和芳 Accordion 永谷彰男
Guitar 大谷多朗 Base 林 行雄

PROGRAM IV

四 重 唱

Silver Gate Quartet

You better run

Sleepy time gal!

Georgia on my mind

I can't stop loving you

Quartet のこと

Silver Gate も今年は8代目に成長しました。

学生らしさを失わず、また、あまり軽薄な曲をさげようと意識をしようと思っておりますが、どうかきびしい御批判を下されば幸いです。

今夜はゴールデンゲートでおなじみの黒人音楽より You better run そしてスタンボード・ナンバーより一曲、自分のふるさとジョージア州を恋人にたとえて、うたった Georgia on my mind、さいごにヒット曲より「愛さずにはいられない」をお送りします。

メンバーは Top T. 井 阪 隼 Lead T. 倉 井 武 彦
Baritone 丸 山 勝 幸 Bass 松 永 洋 一
ピアノ 伊 達 寛 ギター 松 原 毅
です。

PROGRAM V

ウイナーワルツ

J. Strauss 作品集

塩 永 潤 一 郎 編 曲

ウィーンの森の物語

ピチカート・ポルカ

美しく翫きドナウ

PROGRAM VI

男声合唱のための組曲「月光とビエロ」

神戸大学作
高木 藤 右 衛 門

月 夜

秋のビエロ

ビエロ

ビエロの嘆き

月光とビエロとビエレットの樹草模様

第58回定期演奏会のプログラム

昭和38年
(1963)

6月5日、第15回立教・同志社交歓会演奏会が京都会館第一ホールで開かれた。

6月9日、第2回同志社・関学交歓演奏会が大坂フェスティバルホールで行なわれ、つ

づいて6月22日、23日と東京文化会館で第12回東西四大学合唱演奏会が行なわれた。

11月3日、京都会館第一ホール、11月4日大阪毎日ホールで第59回定期演奏会が下記プログラムで開催された。

本年から、シルバーゲイトカルテットの定期演奏会でのステージはなくなった。主に演奏旅行で歌うことになった。



Programme

DOSHISHA COLLEGE SONG

DOSHISHA COLLEGE SONG
Words by W.M. Yarrow Music by C. Wilhelm

1. One Purpose Doshisha, thy name
Dosh signify our lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for God and native land
Dear Alma Mater was of thee
Shall be as branches to the vine;
Thou' stilt' the world we wander far and wide
Still in our heart thy presence shall abide.

2. Still broader than our land of birth
we've learned the lessons of our worth
Still higher than will love we find
The love and service of our kind
Dear Alma Mater was of thee
Would strive to live the life divine
That we may with increasing years have need
For God, For Doshisha and Brotherhood

第一 部

I. Messe Solennelle 上行
"Credo" A. Duhaupas 曲

43

Programme

I. 「山田耕筈作品集」

からたちの花
かやの木山
待ちぼうけ
この道
夕やけの歌

II. イタリア古典歌曲集 編者 岡田 隆

Assenti mia bella G. Casini
Cia' il via del Gazzo A. Scialoi
Largo G.F. Handel
O belen del Ardor Ch. W. Gluck
Ch' non la inagella G. Pavesini
Pover d' amor G. Martini

Intermission

42

Programme

第二 部

II. Robert Shaw Choral Series 上行
Choral Series 合唱曲集

Sing Nettle Home
Stars of the Summer Night
Wait for the Wagon
Grandfather's Clock
Let Us Join

III. 清楽合唱の乃の和声
「中絶絶の詩」から

43

第59回定期演奏会のプログラム



PROGRAM		第 1 部		第 2 部	
立教大学グリークラブ	指揮 後 藤 貞	同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
SONGS OF THE CHURCH (遊奏会唱)	作曲 リファルツィノ	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
O Come, Let Us Worship		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Gladium Balaam		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Ave Maria		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Lead Us The Name Of The Lord		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Gloria In Excelsis		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
小学生の詩による男声合唱組曲	作曲 多 田 武 彦	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
1 土 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
2 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
3 し 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
4 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
5 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
6 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
7 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
8 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
9 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
10 山 山 山	作詞 伊 藤 五 郎	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
立教大学グリークラブ	指揮 後 藤 貞	同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
イタリア歌曲集 (女声合唱)	ピアノ伴奏 新 井 若 吾	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Amorilli, mia bella	作曲 G. Cappone	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Cia ti amo dal Gange	作曲 A. Scarlatti	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
La vedette	作曲 A. Scarlatti	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Se te muori, se tu muori	作曲 G.R. Pergolesi	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Chi vuol la Dogaretta	作曲 G. Paisiello	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
荘厳ミサ曲	指揮 中 川 浩	同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作曲 アーノルト・シェンケル		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Kirie		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Gloria		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Credo		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Sanctus		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
Agnus Dei		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
立教大学グリークラブ	指揮 後 藤 貞	同志社大学グリークラブ	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
大中原作品集 (男声合唱)	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩
作詞 大 中 恩 氏		指揮 中 川 浩	指揮 中 川 浩	指揮 後 藤 貞	指揮 中 川 浩

第16回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

6月13日神戸国際会館、14日大阪フェスティバルホールで第13回東西四大学合唱演奏会が催された。同志社グリークラブは、創立60周年を記念して、先輩である大中寅二氏(大正9年卒)のご令息である大中恩氏に作品を委嘱した。作詞も、大中恩氏の従兄弟の阪田寛夫氏がひき受けて下さった。そして、同志社グリークラブは、この四連で福永陽一郎氏の指揮により男声合唱組曲「わが歳月」を本邦初演した。関西の地ことばの語り口で、当時の世相をすどく、かつ巧妙にとらえた内容は、ユーモラスに、またペーススにあふれた詩として表現され、曲と一体となったすばらしい名曲で、大好評であった。

なお、これまでの四連では関東はプロ、関西は学生の指揮者であったが、今回から、同志社が福永陽一郎氏、関学が北村協一氏の指揮で初めて出演し、慶応の木下保氏、早稲田の石井欽氏とともに四大学がすべてプロの指揮者で演奏、以後もプロの技術指導のもとに、より高度な音楽創造に切磋琢磨していった。



私の「わが歳月」

1964年、同志社グリークラブ60周年記念事業の一つとして、福永陽一郎氏を通じて作曲の委嘱を受けたものがこの「わが歳月」です。詩は阪田寛夫(私の従兄弟にあたります。)によるもので、そのころまででも彼との共同作品は可成り数多くなっていました、それでも男声合唱曲の分野では、組曲が一つあっただけでした。それまでの私の男声合唱作品は、北原白秋・三木露風・三好達治等の詩によるもので、自分ではけっこう気に入っていたものが多かったのですが、作風の根幹となる抒情性や和音の構成が、それまでの“男声合唱”という観念に合わなかったようで、大変不評をかっていたように思われます。

福永氏は特にその最先鋒だったのですが、その福永氏がどうしても大中に新しい男声合唱を書かせたいと思われたことに対して、20年前の私が挑戦しないでいられるはずもありません。しかも同志社グリークラブが唱ってくれるという、若き日の私としては熱く燃えて受けて立ったものです。

阪田寛夫の詩が、身内ながらなかなか立派なものになったものだとは賞めてやりたい気持です。面白いのは、全6曲(1年間のうちの偶数月をとりあげています。)の中で、第1曲、第3曲、第5曲が文語体の詩であり、第2曲、第4曲、第6曲が口語体の詩であることです。それによって既に組曲として音楽の構成が創られていたといっても過言ではありません。更に言えば、現在でこそ珍らしくもなんともありませんが、第4曲「葉月のお月」が徹底した大阪弁で書かれていたので、極力その特徴を生かして音楽化することは、ほんとうに楽しいことでした。そのことを含めたいろいろな作業が一応は実って、結果としては同志社グリークラブの好演を生んだばかりでなく、福永氏が期待して下さった以上に、多くの男声合唱団のレパートリーとして生きつづけているようなので、福永氏と同志社グリークラブの関係各位には、そういう機会を与えて下さったことに対して、心から感謝を表さねばならないと思っています。

あれから20年以上を経たわけですね。

栄光ある同志社グリークラブの永遠の発展を祈らずにいられません。

(1985.11.)

わが歳月 阪田寛夫

一 我が二月
 歩みきて
 ラーメン屋台の裏背地に
 シヤム猫の首こがれり
 ひげ長き首をけとせせば
 青白き火花ばらばら
 とふかと見えて
 かき、とくだけね
 風吹き星落つ
 我が二月

二 春
 文学士ボアントン
 文学士ボアントン
 お待ち遠さま きあ参りましよ
 口笛を
 口笛色に
 ミネトンカ・トンカ・トンカ
 トンコロリン
 文学士ボアントン
 文学士ボアントン
 何にもないよ もち春つきり
 南豆の
 宙返り
 プラントタン・カ・タンカ・タンカ
 タンコロリン
 文学士ボアントン・トン
 文学士ボアントン・トン
 きみと靴の下 たんばばが死んでる

三 空 谷
 しめやかな五月は去り
 はや六月 潮は満ち
 河辺に寄せるささなみに
 葉深き地球の、今なお
 廻りつ、あるを知る
 ビルに棲む彼女たちの白き腕は
 余命なき夏の蝶
 電線をゆすぶり、遠き山をゆすぶり
 白らの重みに屈しつ
 満員電車は走る
 あわれ六月の都大路は砂漠にて
 彼女の睫毛は死せる草
 衆たちよ
 隊伍を組みつて空谷を歩め
 歩め

四 葉月のお月
 こんやは二時間も待つんに
 なんでも来てくれなんなのか
 おれはほんまにつらい
 あんまりつらいから
 関西線にとびこんで死なたいわ
 そやけどあんたをうらみはせんぞ
 あんたはやさしい
 ええひとやから
 ころしたりせえへん
 死ぬのんはわしの方や
 あんたは心がまっすやして
 おれは大まがり
 さりながら
 わいのむねに穴あいて
 風がすかすか抜けんねん
 つべとつて
 まるでろうやにはりこまれて
 電気ばちんと消されたみたいや

五 十月
 十月に生れし者は 幸なるかな
 そのひとは 空を見ん
 十月に生れし者は 幸なるかな
 そのひとは 悲しみを得ん
 十月に生れし者は……

六 音立てて
 音を立てて、
 今年が崩れて行く
 もうあと少しで
 のぼりつめるところだったのに
 月と日が崩れ
 明日と昨日が崩れ
 がらからと音立て、崩れ
 互隣の街を
 おれは走る
 走る



第60回定期演奏会が、11月18日大阪毎日ホール、11月23日京都会館第一ホール、11月30日神戸国際会館、12月4日東京文化会館で開催された。

この定期演奏会でも福永陽一郎先生の編曲作品「CHANSONNIER FRANCAIS」(9つの古いフランス民謡による男声合唱のための小曲集)を、福永氏の指揮で本邦初演した。フランスらしい明るさとシャレた味わいのある曲で、伴奏も当時の最新楽器「エレクトーン」を使ったユニークな名曲で、日本の合唱界に一つの新しい分野を提供した。

そして、この定期演奏会で福永氏は次のようなメッセージをグリークラブに対し贈られた。

Programme	Programme
<p>DOSHISHA COLLEGE SONG</p> <p>W. M. Varley Carl Wilhelm</p> <p>PROGRAMME</p> <p>I. MESSÉ SOLENNELLE en re mineur</p> <p>Pour quatre voix d'hommes Albert Dubuissat</p> <p>Kyrie Gloria Credo Sanctus - O Salutaris Agnus Dei</p> <p>— intermission —</p> <p>II. Ausgewählte Werke für Männerchor Franz Schubert</p> <p>Der Gondlbauer Op. 28 Nachtbelle Op. 134 Gott meine Zuversicht Op. 112 Widerspruch Op. 715 Nr. 1</p> <p>III. FIVE NEGRO SPIRITUALS 福永陽一郎編</p> <p>Sometimes I feel like a motherless child Honor! Honor! Steal away to Jesus There is a babe in Gilead Ain't that a good news?</p> <p>— intermission —</p>	<p>II. CHANSONNIER FRANCAIS</p> <p>Neuf chants traditionnels harmonisés pour chœur d'homme 福永陽一郎編</p> <p>(60周年記念録音作品一冊録)</p> <p>Après de ma blonde Frère Jacques Il était un bergerie Abaette Fau dodo, Colas J'ai du bon tabac Sur le pont d'Avignon Au clair de la lune Vive l'amour</p> <p>V. 男声合唱組曲「おが歳月」 福永陽一郎編 大伴 謙 原 啓</p> <p>(60周年記念録音作品一冊録)</p> <p>おが 二 月 春 夏 月 おが 月 月 おが 月 月 おが 月 月</p> <p>指揮 福永陽一郎 エレクトーン 小川 浩 森 健 治 福永 陽 一 郎</p> <p>(ヤマハ・エレクトーン製・1型使用)</p>

第60回定期演奏会のプログラム

60周年のグリーに

(第60回 定期演奏会のプログラムより)

福永陽一郎

敬愛する同志社グリークラブ、アナタとボクが知り合った10年以上も前の頃、ボクはボクなりに青春の日々を持っていました。そうして数多くの顔と顔が「思い出の一頁」にきざみこまれて、過ぎた日の語り草になった今日、ボクのアナタに対する情熱は、すべて60周年に賭けられてきたといっても、過言で

はないようです。この4年間、3人の指揮者と5組の幹事会が、惜しまずボクに協力してくれました。今、すべての現役メンバーは、入部した最初から、ボクとのふれあいで「うた」をうたってきた諸君ばかりです。嬉しかったことも、悲しかったことも、すべて60周年のための試行錯誤だと考えて、ボクはつとめて感情のたかぶりをおさえてきました。60周年に、ボクが夢みたアナタの美しい勇姿。アポロでありディオニソスである同志社グリークラブの「音楽」。来場のみなさんを前に、アナタのために幕が上ります。

安定した技術の上になつて、無限の宇宙に翼をひろげる情感。確保されたものを、完全に自由にするという二律背反を宿命とする20世紀の演奏芸術を探求して、ボクたちは一応の目的を達したようです。そして日本の如何なる合唱団も、めったにこの高みに達したことがないことを思うと、ボクは、理想を実現した芸術家としての喜びをかくせません。

そして、アナタは60才。ボクが仰ぎ見るような年令で、たとえこの4年間が「同志社グリークラブのY・F時代」と呼ばれようとも、アナタは最初からアナタであり、未来もずっとアナタであつて、「同志社グリークラブ」の名の下で、福永陽一郎なんか、ごく小さなゴマツブでしかないことは、やがて判明するでしょう。

けれども、今日の高らかな凱歌は、アナタ自身のものであると同時に、ボクにとつても、一生にいく度許されるか知れない、めったにない勝鬨である筈です。そして今夜のステージで、アナタの創りだす音楽によって、ボクは人生の花を味わいます。この歓びがきいて下さる人たちすべてを、しあわせにすることができれば、と切に祈ります。

さらに60周年の記念事業が次のように行なわれた。「記念誌」…105頁で、300部発行(定価200円にて販売)。「名簿の再編集」…当時、確認のOBは535名であった。「レコーディング」…各所の演奏会の録音の中から抜粋し、限定版で500枚発行(東芝～現東芝EMI～LP30cmモノラル版、1,000円)。曲目は、カレッジソング・大学歌・HAIL OUR GLEE CLUB・荘厳ミサ曲(アルペール・デュオバ曲)・シューベルト歌曲・フランス民謡(福永陽一郎編曲)・黒人霊歌(福永陽一郎編曲)・組曲「わが歳月」(大中恩作曲)。

12月13日、栄光館で創立60周年記念グリークラブ・クローバークラブ合同演奏会、つづいて岡崎公会堂で園遊会が催された。

12月17日、京都会館第一ホールで第1回関西六大学合唱演奏会が開かれた。関西学院グリークラブ、神戸大学グリークラブ、京都大学男声合唱団、関西大学グリークラブ、立命館大学メンネル・コール、同志社グリークラブの6大学であった。後には、神戸大学、京都大学に代って甲南大学グリークラブ、大阪大学男声合唱団が参加し、現在に至っている。



創立60周年記念グリークラブ・クローバークラブ合同演奏会
(1964.12.13 栄光館)

昭和40年 (1965)

6月13日、京都会館第一ホールで第3回同志社・関学交歓演奏会が開かれ、6月19日・20日には、第14回東西四大学合唱演奏会が東京文化会館大ホールで開催された。この演奏会で、グリークラブはドミトリ・ショスタコヴィチ作曲、福永陽一郎編曲「十の詩曲による六つの男声合唱曲」を本邦初演し、時あたかもベトナム戦争のさ中で、演奏の前「今は亡きベトナム兵に捧ぐ」とアナウンスされ、また歴史に残る非常な名演で聴衆に多大な感銘を与えた。

6月下旬、エール大学グリークラブ(Yale Glee Club)60名が、Fenno Heath氏と共に来日、6月28日、京都会館第一ホールで交歓演奏会を行なった。「同志社 College Song」とエールの College Song「Bright College Years」



が、ドイツの同じ「ラインの守り」に基づいた曲であり、エールグリーのメンバーは歓声をあげて喜こんだ。

10月31日、第17回立教・同志社交歓演奏会が栄光館で行われた。

そして、第61回定期演奏会は、11月18日、大阪毎日ホール、12月3日、京都会館第一ホールで催された。

第61回定期演奏会のプログラム

Programme		Programme	
DOSHISHA COLLEGE SONG		W. (M. Varley) Carl Wilhelm	
PROGRAMME			
I	ルネッサンス名歌集	II	ロバート・shaw ヨーロッパ民謡集
Miserere	Gregorio Allegri	Die Lorelei	German traditional
Cantate Domino	Hans Leo von Hader	La Tarara	Spanish traditional
Ave Maria	Jacob Arcadelt	Marianina	Italian traditional
Jubilate Deo	Giovanni Gabrieli	Stodole Pampa	Czech traditional
III	東土部の四つの詩	Loch Lomond	Scotch traditional
五ヶ月の森の子	作曲 堀本 隆一郎	Vive L'Amour	French traditional
花の歌	作曲 堀本 隆一郎		
朝の歌			
星の歌			
IV	Zigeunerlieder	V	「十の詩曲」による六つの異声合唱曲
作曲 中野 実	編曲 堀本 隆一郎	作曲 堀本 隆一郎	
ピアノ 堀本 隆一郎	作曲 J. Brahms	作曲 堀本 隆一郎	
He / Zigeuner /	編曲 堀本 隆一郎	作曲 堀本 隆一郎	
Hochgetraute Rima Rai		作曲 堀本 隆一郎	
Himmelgäbe Liebe		作曲 堀本 隆一郎	
Einat / im Kirschen gab		作曲 堀本 隆一郎	
Der Tau		作曲 堀本 隆一郎	
Ledig Möhen Sünde wir /		作曲 堀本 隆一郎	
Helgen Erde		作曲 堀本 隆一郎	
Absendwäken		作曲 堀本 隆一郎	
	intermission		

この演奏会でも「十の詩曲」を演奏し、この時のプログラムの解説は次のようなものであった。

「十の詩曲」は、主として19世紀末から20世紀はじめにかけて作られた、ロシア革命詩人の詩によって、ソビエト革命前後の、ロシア民衆の生活、緊張、感情、精神を合唱集団的な力によって表現しようとしたものである。この曲を、現在鑑賞するに当たって大切なことは、単に、革命をうたった詩に曲がつけられているということだけでなく、革命期の人びとの、はげしい情熱、専制への憎しみ、自由への深い愛、そして人間の未来への大きな希望が完全に音楽的なものとして、かたちづくられていることである。共産革命そのものは、我々の日常的テーマでありえないとしても、今日なお、世界の平和と人



第62回定期演奏会は12月5日、京都会館第一ホール、
12月9日、大阪毎日ホールで行われた。

お詫びと訂正

やむをえぬ事情のため
指揮者および伴奏ピアニストが変更になりましたので、お詫びして訂正いたします。

指揮者
全ステージ 福永 昭一郎
ピアノ伴奏
岡田 哲也 (東京芸術大学ピアノ科卒)

12月2日をもって同志社ブリーチクラブ指揮者は大田 龍也になりました。

同志社ブリーチクラブ

Programme		Programme
DOSHISHA COLLEGE SONG	W. (M) Vorles Carl Wilhelm	
PROGRAMME		
I MESSA ALLA CAPELLA	指揮 西 谷 和 彦 作曲	II SEA SHANTY
Kyrie		指揮 西 谷 和 彦 編曲 Alice Parker and Robert Shaw
Gloria		Haul away, Joe
Sanctus		Bound for the Rio-Grande
Benedictus		What shall we do with the Drunken Sailor
Agnus Dei		Good-bye, Fare Ye well
		The Drummer and the Cook
III おじさんの子守歌	指揮 西 谷 和 彦 作曲 福 永 昭 一 編曲 福 永 昭 一 ピアノ 西 谷 七 穂	III NEW MOON
おじさんの子守歌		指揮 福 永 昭 一 編曲 - ピアノ 西 谷 七 穂
マオオオオームの歌		Softly as in The Morning Sunrise
いたちと秋		Funny Little Sailor Men
お祝を打つよ		Wanting you
おやすみなさいおじさま		Lover come back To Me
		Stout-Hearted Men
IV 此 處 に て	指揮 福 永 昭 一 作詞 田 中 孝 二 作曲 多 田 武 彦	
さつねにつままれた男		
蟹の森とまきおきさん		
みぞれのするすきな物		
えすの花		
ふるさとにて		
此處にて		
-Intermission-		

第62回定期演奏会のプログラム

昭和42年 (1967)

5月6日、京都会館第一ホールで(再編第1回)関西六大学合唱演奏会が開かれた。

今回から京都大学男声合唱団が脱退し、甲南大学グリークラブが参加、このため、今回を再び出発点として、回を改めて行なわれることになった。

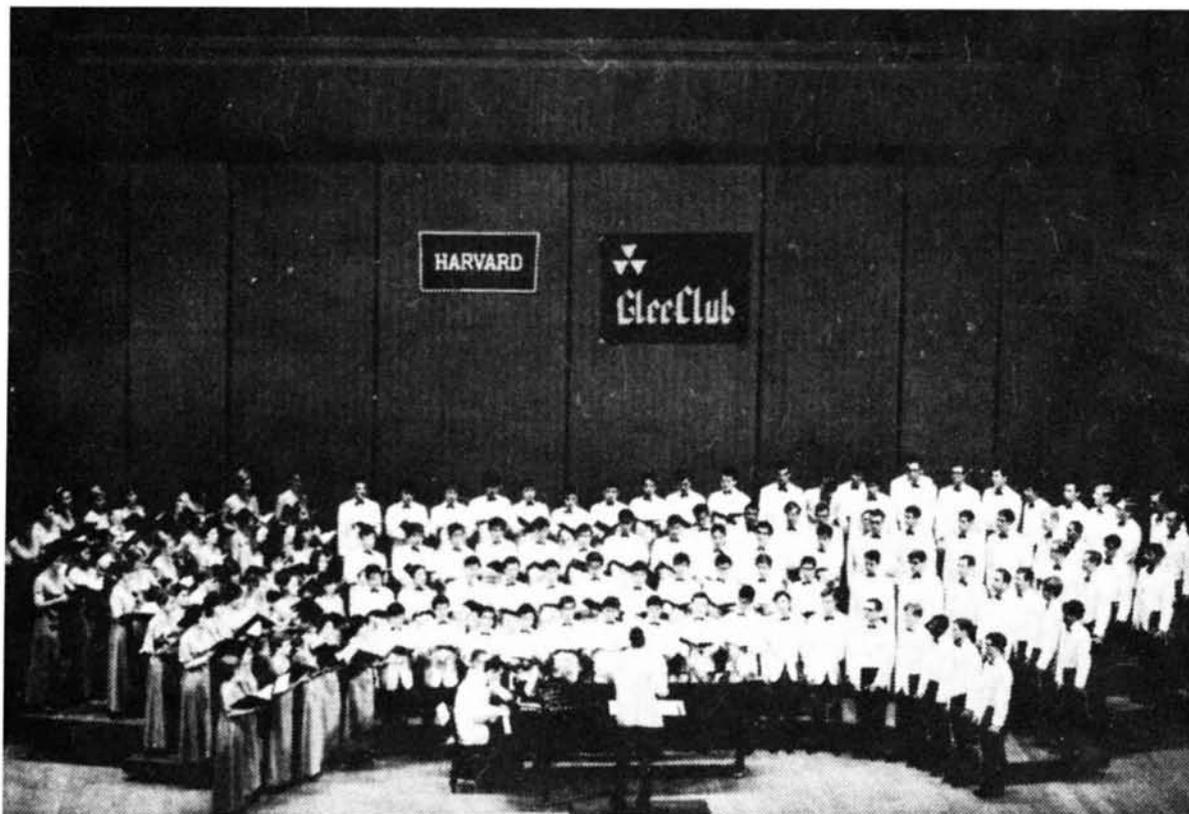
6月18日、第4回同志社・関学交歓演奏会がフェスティバルホールで行なわれた。この演奏会で関学グリーは「中原中也の詩から」(多田武彦作曲)を本邦初演した。

つづいて6月24日、25日、東京文化会館で第16回東西四大学合唱演奏会が開催された。

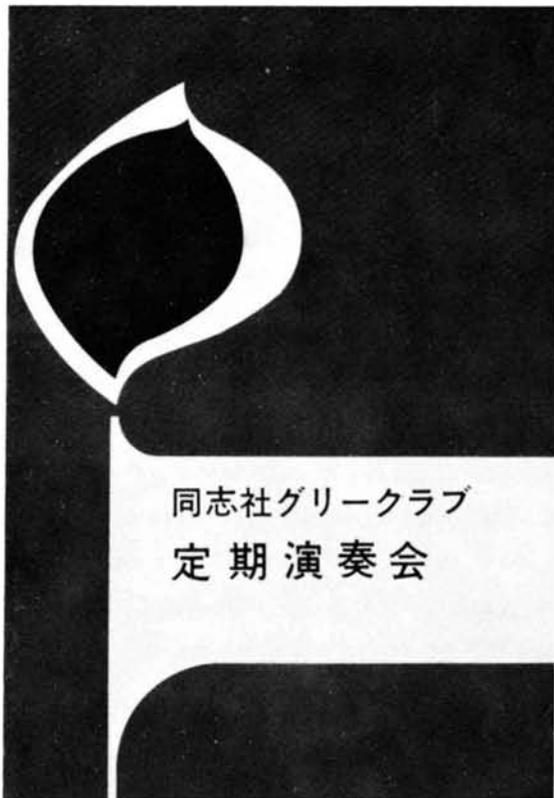
6月、ハーバード・グリークラブが昭和36年(1961)につづいて来日した。しかも今回はハーバード・グリークラブ単独ではなく、ラドクリフ女子大学の合唱団と合同で、指揮者エリオット・フォーブス教授と共に、「Harvard Glee Club-Radcliff Choral Society」の名で91人が来日した。

同志社グリークラブは7月4日、京都会館第一ホールで交歓演奏会を催した。

9月16日、西宮市民会館で、関学グリーと合同でレコーディングが行なわれた。この録音は、日本ビクターから発売される予定のレコード「日本の合唱」(LP30cmステレオ6枚組)のためのもので、この日は福永陽一郎指揮、三浦洋一ピアノ伴奏で「枯木と太陽の歌」(石井歎曲)を録音した。このレコード「日本の合唱」はわが国初の大規模な合唱アルバムで、第一級の指揮者(荒木宏明氏、池田明良氏、大中恩氏、北村協一氏、田中信昭氏、中村仁策氏、畑中良輔氏、福永陽一郎氏、水谷昌平氏、三宅洋一郎氏、森正氏、若杉弘氏、)と日本の最高レベルの合唱団(関学グリー、同志社グリー、慶応ワグネル、早稲田グリー、日本女子大合唱団、東京リーダータフェル・フェライン、東海メール・クワイア、アルベルネ・ユージェント・コール、東京混声合唱団、神戸中央合唱団、日本女声合唱団、コールMeg、二期会合唱団)が選ばれた。



Harvard Glee Club-Radcliff Choral Society・同志社グリークラブ交歓演奏会(1967.7.4. 京都会館第一ホール)



11月24日、第63回定期演奏会を京都会館第一ホールで催した。

11月26日、フェスティバルホールで朝日新聞厚生文化事業団主催の「全同志社・関学グリークラブ合同演奏会」が催され、新月会、関学グリー、クローバークラブ、同志社グリー、が出演した。

Programme		Programme	
<p>Doshisha College Song</p> <p>W. M. Veries Carl Wilhelm</p> <p>I. 男声合唱による聖典曲五章</p> <p>第一章 主よわれをあわれみ給え 第二章 栄光の旗 第三章 聖なるかな 第四章 神の子羊 第五章 アーメン</p> <p>指揮 広野 寛 作曲 大 中 寅 二 作词 守山ふみか</p>		<p>VI 日本民族集</p> <p>ソーラン節 北海道民謡 指揮 広野 寛 牛道い唱 岩手県 > 葛上川舟唱 山形県 > 五木の子守歌 熊本県 > おてもやん 熊本県 ></p>	
<p>II 夜 の 歌</p> <p>夜 の 星 空 の 行 姿 心 の 聖 典 音楽の終り 月 光</p> <p>指揮 広野 寛 作曲 福永隆一郎 作词 事田 保 一</p>		<p>V 黒人聖歌集</p> <p>Chain Gang Song 指揮 福永隆一郎 Let Away 作词 藤川 哲朗 De Glory Road Dry Bones Set Down Servant</p>	
<p>III 聖の詩集</p> <p>Alleseeelen Heimliche Aufforderung Traum durch die Dämmerung Morgen! Ich trage meine Minne Caelilie</p> <p>指揮 福永隆一郎 ピアノ 藤川 哲朗 作曲 R. Strauss</p>			
— Intermission —			

第63回定期演奏会のプログラム



昭和43年
(1968)

この頃から、日本の大学に吹き荒れた学園紛争の嵐が深刻化して

いった。

5月9日、第2回(再編)関西六大学合唱演奏会が神戸国際会館で開かれた。

5月15日MBS毎日放送TVに、来日中の西ドイツのミュンスター大学マドリガル合唱団が出演、同志社グリーと関学グリーが賛助出演した。さらに、その夜、栄光館において、同志社グリーと交歓演奏会をもった。

6月22日、京都会館第一ホール、6月23日大阪フェスティバルホールで第17回東西四大学合唱演奏会が催された。

12月14日、第64回定期演奏会を京都会館第一ホールで開催した。

Programme		Programme	
Doshisha College Song	W. M. Varney Carl Wilhelm	III 男声合唱のためのコンポジション III	指揮 福永 剛一郎 作曲 関宮 芳生
I Messe Solennelle de Sainte Cecile	指揮 桑 山 博	■ (と6)	
Kyrie	ピアノ 福永 剛一郎	■ 群 (かっこ)	
Gloria	ソプラノ 高乃 尚 穂子	引き 悠 弘	
Credo	作曲 Charles Gounod		
Osoretory (Organ)	編曲 福永 剛一郎		
Sanctus			
Benedictus			
Agnus Dei			
II Glee's, Madrigals and Airs	指揮 桑 山 博	IV 十の詩句 による六つの男声合唱曲	指揮 福永 剛一郎
How Merrily We Live	Michael Fair 編曲 M. Bartholomew	雄々しく進もう	リ 河 安 田 二 郎
The Bells In The Steeple	Joseph Sebastian	軍てなき花野	作曲 D. Shostakovich
Which is the Properest Days to Drink	Thomas Aire	地 理 の 戦 七	編曲 福永 剛一郎
Punch	Thomas Aire	怒 り の 日	
We Be Soldiers Three	Freeman	新 編 歌	
Fare, Amantill, To Thy Swan	Thomas Brown	歌	
— Intermission —			
4		5	

第64回定期演奏会のプログラム

昭和44年

(1969) この年も学園紛争がますます激化し、全国で封鎖解除のための機動隊の学内出動、上半期162回、下半期776回にも及び、逮捕学生1万628人。この間学内での大衆団交、教員カン詰め、反日共・日共両系学生の武装闘争が頻発、学園封鎖による授業停止校続出、大学の管理・運営能力への批判が高まっていった。このため、グリークラブに入学する学生数も減少の一途をたどっていった。さらに、昭和37年以来、技術顧問として指揮されていた福永先生が過労から病床に臥せられた。昭和45年7月の東京演奏会でステージに立たれるまで病床につかれた先生にかわって、日下部吉彦氏(昭27年卒)が迎えられた。

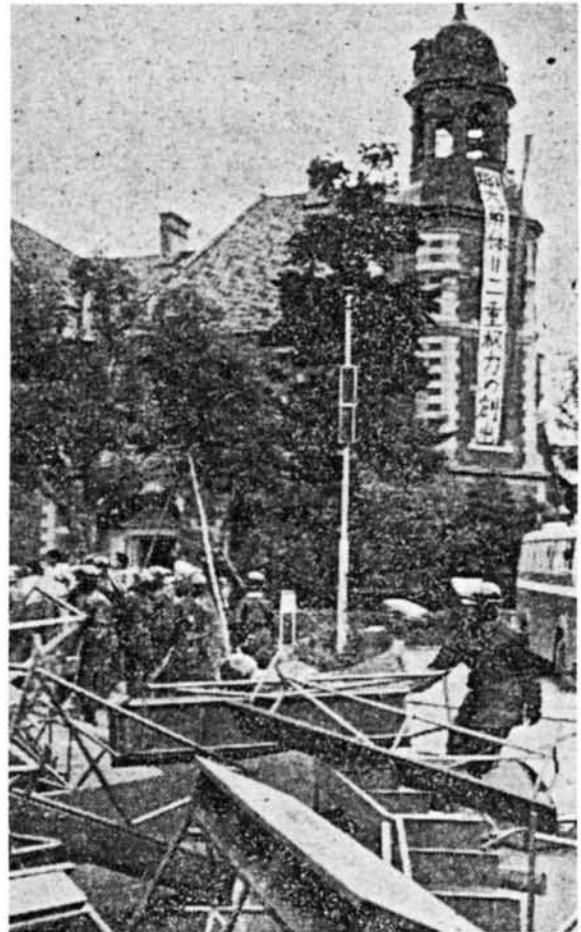
日下部氏はグリーの先輩で、学生指揮者時代から、卓越した才能を発揮、戦後グリークラブの礎を築かれると共に、クローバークラブの常任指揮者として全日本合唱コンクールで3年連続優勝へ導かれた。

5月8日フェスティバルホールで**第3回関西六大学合唱演奏会**が開かれたが、プログラムのあいさつ文にも「私達6大学の中にも、学園紛争のためにクラブ活動をあやぶまれる事がありました……。」と危機感が現われている。

6月21日、22日東京文化会館で**第18回東西四大学合唱演奏会**が行われた。関西で開催されるはずの同志社・関学の交歓演奏会は行われなかった。

10月21日、大阪サンケイホールで西南学院グリークラブ創立50周年記念演奏会が開かれ、同志社グリー、関学グリーが賛助出演した。

11月30日、**第65回定期演奏会**を同志社栄光館で催した。この時指揮者の日下部氏はプログラムの中で次のように語られている。



学園紛争時の同志社大学(©読売新聞提供)

「17年ぶりのグリー」

日下部 吉彦

私が同志社グリーの棒をふるなんて、実に17年ぶりのことである。最近棒ぶりよりも、字を書く仕事の方が多くなって、さびしい思いをしていたが、はからずも福永陽一郎さんの病臥のために、おハチがこちらに回ってきた。病気のあいだ、よろしく頼むと福永さんにいわれたとき、福永さんには悪いが、私の体内に血がたぎってきた。もちろんグリーは私の出身母体だし、その後も生成発展するさまを、絶えず見守ってきた。とくに近年、福永さんの手によって音楽性が飛躍的に高まってきたのを見て、私にも一度やらせてくれないかな、などと羨ましく思ったこともある。

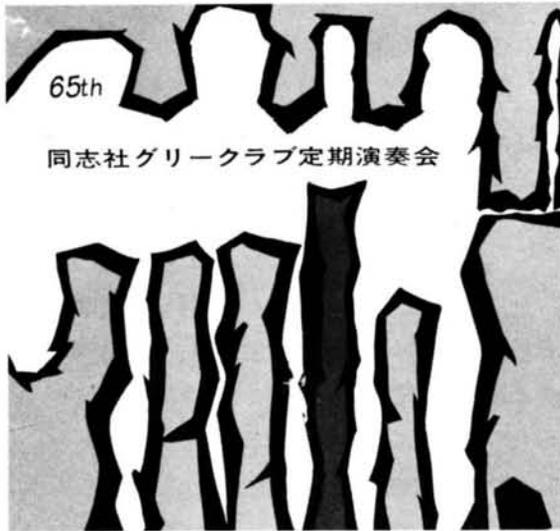
団員の数、練習量、出席率、規律のきびしさ、個々のメンバーの音楽的水準など、あらゆる点で大学合唱団は一般アマチュア合唱団のなかで最も条件に恵まれている。日本のアマチュア音楽の水準は、大学合唱団が支えているとさえ思われた。そんな恵まれた条件のもとで、自分の音楽を心ゆくまで創りあげてみたい、とは、指揮者なら誰しも抱く望みであろう。私に後事を托してくれた福永さんに、

ひそかに感謝した。ところが、そんな私の気持ちの出鼻をくじいたのは厳しい現実であった。去る5月、私をはじめグリーの指揮台に立ったとき、私の眼前には、僅か20数名のメンバーしかいなかった。そして私が2度目の指揮に向いたときは、練習所のある大学キャンパスの正門前には、バリケードがうず高く積まれていた。私はこのとき、私の夢みていたものが、あまりにも甘いものであることを知ったのである。

大学はいま悩んでいる。大学の悩みそのまま、グリークラブも幾多の悩みを抱えて苦しんでいるのだ。全学封鎖のため、練習所はたんびたんび場所を変更した。一方、キャンパス内のムードはどうかというと、フォークソングやグループサウンズが大流行している割には、男声合唱の人気は高くなかった。私がいたころとは、まるで様子が変わってしまっていたのである。

やや落胆した私は、やがて、それが全く杞憂であることに気がついた。彼らの音楽への情熱が、昔とちっとも変わっていない、いや昔に倍する意欲が脈打っていることを感じたのである。人数の点で、ひところの半分くらいまで減ってはいるが、やる気は倍にふえている。

6月の東西四連定期、夏の合宿、そして今夜の定期と、実に楽しい半年であった。学生純粋な情熱にふれて、私自身の音楽がリフレッシュされる思いだ、と慶応ワグネルを指揮している 畑中良輔氏がいていたが、私もいま同じ思いでいる。私と学生たちとの間で激しくぶつかり合うエネルギーの燃焼が、今夜の演奏会を素晴らしいものにしてくれるように。



第65回定期演奏会のプログラム

PROGRAM		PROGRAM	
Doshisha College Song	W. M. Young Curt Wilhelm	Ⅱ Mass of The Immaculate Conception	指揮 山下正彦 指揮 西野正典 作曲 Abel L. Gilbert
Ⅰ イギリス民謡	指揮 西野正典 編曲 坂本肇一郎	Kyrie	
Green Sleeves		Gloria	
Oh, dear! What can the matter be?		Credo	
Molly Malone		Sanctus	
Scarborough Fair		Benedictus	
Comin' Thro' The Rye		Agnus Dei	
Annie Laine			
Ⅱ 「四つの仕事帳」	指揮 山下正彦 作曲 山口洋生	Ⅲ 「字帳の舞」より	指揮 山下正彦 指揮 西野正典 作曲 西野正典
● 山 田		まよっているのじ	2年 山本みゆ子
石 空 城		あじはらまら	1年 大石まゆ子
新 興 寺		やんせー	2年 はらみ みるこ
西 岡 城		あかあかやんのえんぞう	3年 高木美穂
		うま	5年 竹田 謙一
		あかあかやんのあまやん	3年 藤平 しょうこ
		じ	4年 松田 薫子
— Intermission —		やんせー	2年 丸根 悠希

昭和45年

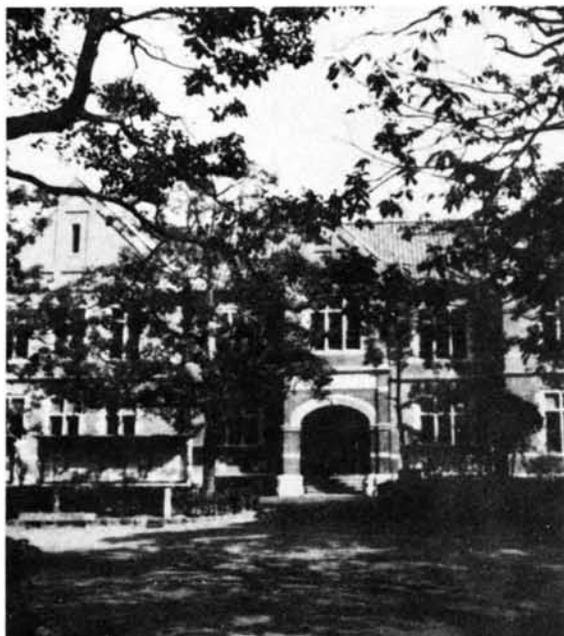
(1970) 前年から病床に倒れた福永陽一郎先生が、7月27日、東京虎の門ホールで行なわれた東京演奏会から復帰された。1年に及ぶ闘病生活であった。つづく29日、日本ビクターのレコーディングを世田谷区民会館で行なった。若杉弘氏指揮による合唱組曲「山に祈る」(構成・作詞・曲清水脩)で、河内桃子女史の語りで録音されている。この曲は1960年3月23日、神戸国際会館でダークダックスにより初演されたが、日下部吉彦氏が大編成合唱用編曲をクローバークラブのために清水脩氏にお願いした。その初演は1960年7月、大阪毎日ホールでクローバークラブが演奏した。10月26日大阪フェスティバルホール、27日同志社大学学生会館ホールで第19回東西四大学合唱演奏会が催された。



「山に祈る」のレコードジャケット

そして、12月10日、第66回定期演奏会が京都会館第二ホールで開催された。

12月15日、広島公会堂で広島女学院、広島YMCA、広島キリスト教会連盟共催による「メサイア」演奏会が開かれ、指揮平瀬雄子女史、独唱ソプラノ瀬尾敦子女史、アルト山本恵子女史、テナー西尾優氏、バス三原寿氏、合唱が、同志社グリークラブ、広島女学院大学クワイヤ、広島女学院高校合唱団、ピアノ秋吉章子女史、長松令子女史、オルガン安藤喜代子女史で演奏した。



ハリス理化学館

(明治3年7月竣工)

新島襄は理学を得意とし、アーモスト大学でも理学系の科目を中心に学んだ。そういうことと無関係ではあるまいと思われるが、彼の大学構想には、神学・文学・政治学などと並んで理学部が含まれていた。

ハリス理化学館は、アメリカのJ.N.ハリスから、「キリスト教主義によるScience Schoolを創るのならば」と10万ドルの寄附がえられ、その一部で建設された。明治23年9月に開校したハリス理化学校(初代校長は下村孝太郎)の校舎で、玄関上部にはめこまれた大理石に「SCIENCE 89」と刻まれている。1889

は定礎の年代である。設計は、神戸にすぐれた洋風住宅をのこしている英国人A.N.ハンセル。施工は小島佐兵衛。建築当初は中央部に八角平面の天文台があった。

建築中に永眠した新島の柩をかついだ木材を、記念のために階段の一部に用いたという言い伝えがある。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ レコーディング ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

昭和4年(1929)	「同志社カレッジソング」、メンデルスゾーンの「鶯」(混声)竹内禎子女史指揮(同女専講師) 東京ビクタースタジオ(S P)
昭和29年(1954)	10月7日 「同志社グリークラブ創立50周年記念レコード」渋谷昭彦指揮、日本マーキュリー(西宮)会社(10インチ盤3枚・900円)(S P)
昭和39年(1964)	「60周年記念演奏会」11月18日大阪毎日ホール・11月23日京都会館第一ホール・11月30日神戸国際会館、福永陽一郎・中川清指揮、東芝音楽工業、(レコードNo.LR-35・1,000円・LPモノラル)
昭和40年(1965)	「同志社グリークラブ'65定期演奏会」12月3日京都会館、「ジプシーの歌(ブラームス)」中野皓夫・福永陽一郎指揮、東芝音楽工業、(レコードNo.LR-59・1,000円・LPモノラル)
昭和42年(1967)	9月16日 日本ビクター「日本の合唱シリーズ」・「枯木と太陽の歌」福永陽一郎指揮・ピアノ三浦洋一、西宮市民会館(関学と合同)(LPステレオ)
昭和45年(1970)	7月29日 日本ビクター「山に祈る」若杉弘指揮、世田谷区民会館 (レコードNo.SUX-1010・1,800円・LPステレオ)
昭和46年(1971)	2月25日 日本ビクター「雪と花火」日下部吉彦指揮、箕面市民会館(レコードNo.SJX-1021・1,800円・LPステレオ)
昭和50年(1975)	2月12日 東芝EMI「現代合唱曲シリーズ・多田武彦作品集」・男声合唱組曲「草野心平の詩から」福永陽一郎指揮、箕面市民会館(レコードNo.TA-60016・2,000円・LPステレオ) 10月1日・2日 東芝EMI「同志社歌集」京都シルクホール(TD-10011~12・30cmLP2枚1組・4,000円・ステレオ)
昭和51年(1976)	3月10日・11日 東芝EMI「グリークラブアルバムI・II」福永陽一郎指揮、高槻市民会館(TA-60050~51・各2,000円・LPステレオ) 「帰ろ帰ろ」「青蛙」「婆やのお家」「白百合」「Kyrie eleison」(Duhaupa) 「I Couldn't Hear Nobody Pray」「Lord, I Want To Be A Christian」 「Steal Away」「It's Me, O Lord」「U Boj」
昭和52年(1977)	6月26日 東芝EMI「夕やけの歌」福永陽一郎指揮・ピアノ久邇之宜、東芝EMIスタジオ (レコードNo.TA-72096・2,300円・LPステレオ) 9月21・22日 東芝EMI「グリークラブアルバムIII・IV」福永陽一郎指揮・大津市民会館 (レコードNo.TA-60088~89・各2,000円・LPステレオ)
昭和56年(1981)	7月31日 東芝EMI「現代合唱曲シリーズ・多田武彦作品集」・男声合唱組曲「わがふるき」のうた」「海に寄せる歌」福永陽一郎指揮、池田市民文化会館アゼリアホール (レコードNo.TA-72077・2,300円・LPステレオ) 9月14日 東芝EMI「グリークラブアルバムV・VI」福永陽一郎指揮、池田市民文化会館アゼリアホール(レコードNo.TA-72074~75・各2,300円・LPステレオ)
昭和57年(1982)	3月4日 東芝EMI「現代合唱曲シリーズ・多田武彦作品集」・男声合唱組曲「冬の日の記憶」福永陽一郎指揮、池田市民文化会館アゼリアホール 9月18日 東芝EMI「現代合唱曲シリーズ・新実徳英作品集」・男声合唱とピアノのための「ことばあそびうたII」北村協一指揮・ピアノ久邇之宜、池田市民文化会館アゼリアホール (レコードNo.TA-72092・2,300円・LPステレオ)
昭和58年(1983)	9月28日・29日 東芝EMI「現代合唱曲シリーズ」・男声合唱組曲「北陸にて」「三崎のうた」北村協一指揮、池田市民文化会館アゼリアホール (レコードNo.TA-72111・2,300円・LPステレオ)

◀定期演奏会は各年ライブレコードになっています▶



昭和46年

2月25日、箕面市民会館で日下部吉彦氏指揮により、ビクターレコード「現代日本合唱曲選」シリーズNo.9. 多田武彦作品集のためのレコーディングを行なった。曲目は「雪と花火」(北原白秋詞)であった。このレコードには、北村協一氏指揮・関学グリー録音の「中勘助の詩から」、畑中良輔氏指揮・慶応ワグネル録音の「草野心平の詩から」、北村協一氏指揮・上智大学グリークラブ録音の「父のいる庭」(津村信夫詞)がある。

5月16日、京都会館第一ホールにおいて、**京都三大学交歓演奏会**がはじめて開催された。立命館大学メンネルコール、京都女子大学女声合唱団、同志社グリークラブが参加した。

PROGRAM
PROGRAM

エール交歓

<p>I 立命館大学メンネルコール 指揮 金尾光三 男声合唱とエレクトーンのための組曲 (マツトン君) ・雪と花火 北原白秋 ・雪のふるり 北原白秋 ・父のいる庭 ・おとこめ</p>	<p>II 同志社グリークラブ 指揮 山本 隆 男声合唱曲「大手稲次の三つの詩」 ・おとこめ ・おとこめ ・おとこめ</p>
<p>III 京都女子大学女声合唱団 指揮 坂 明久 女子合唱曲「紀の国の歌」 有楽 山田 深</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌の道に———山本 永人 ・おとこめ———坂門 人定 ・くさくさも———松田 博樹 ・おとこめ———坂門 人定 ・おとこめ———山本 永人 ・おとこめ———山本 永人 ・おとこめ———山本 永人 	<p>IV 合同演奏 指揮 山本 隆</p> <p>萬人堂歌より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Stand away to Jesus ・All is that a good news ・None will be done ・Set down, Sergeant

— 休 息 —

京都三大学交歓演奏会のプログラム



6月20日、第5回同志社・関学交歓演奏会が大阪厚生年金会館大ホールで開催された。

6月26日・27日、東京文化会館大ホールで第20回東西四大学合唱演奏会が行われた。

プログラム	
エ ー ル 交 歓	
● A SONG FOR KWANSEI	
● DOSHISHA COLLEGE SONG	
----- Intermission -----	
Ⅰ 同志社グリークラブ	Ⅱ 同志社グリークラブ
男声合唱組曲「大手前次の三つ白鐘」	Messe Solennelle de Sainte Cecile
モリス・ラヴェル	Kyrie
ルネ・サリュエ	Gloria
モリス・ラヴェル	Offertory
	Credo
Ⅲ 関西学院グリークラブ	Ⅳ 関西学院グリークラブ
男声合唱組曲「子供の詩」	Seven Beatles Numbers
モリス・ラヴェル	Day Tripper
ロバート・シュミット	Here, There and Everywhere
フレデリック・モリス	Girl
ポール・モリス	Ob-la-di, Ob-la-da
ポール・モリス	Michelle
ポール・モリス	Eleusa Rigby
ポール・モリス	Yesterday

第5回同志社・関学交歓演奏会のプログラム



そして12月2日には、第67回定期演奏会が京都会館第一ホールで行なわれた。

12月11日には、広島メサイア演奏会が広島市公会堂で行なわれ、昨年にひきつづいて2回目の参加となった。

12月24日第7回全同志社メサイア演奏会が京都会館第一ホールで催され、この年も終了した。

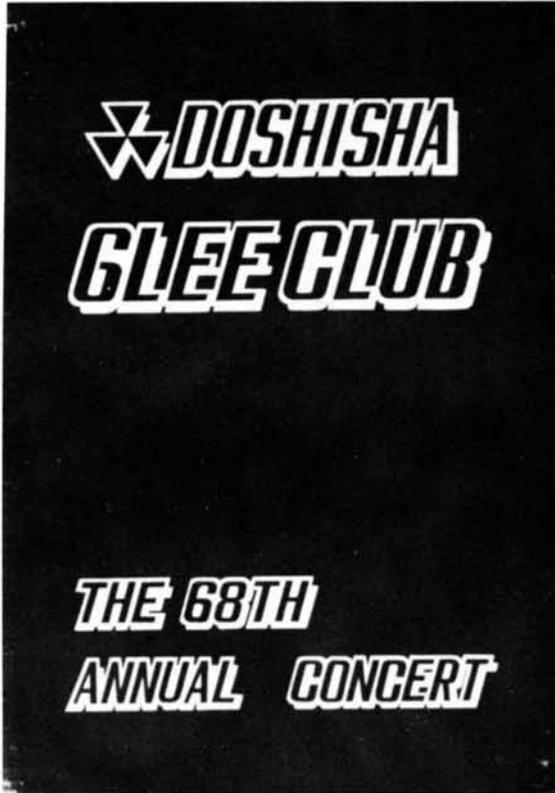
第67回定期演奏会のプログラム

PROGRAM		PROGRAM	
Doshisha College Song			
I 雪明りの路	指揮 江 島 重 作詞 伊 藤 孝 作曲 木 田 武 彦	III 走れわが心	指揮 坂本 昭一郎 ピアノ伴奏 豊 田 通 作詞 伊 藤 尚 彦 作曲 大 中 啓
II 黒人聖歌集より	指揮 坂本 昭一郎 編曲 坂本 昭一郎	IV 聖チェリアのための荘厳ミサ	指揮 岸 谷 光 夫 ピアノ伴奏 西合 泰 雄 作曲 J. S. バッハ
This of hammer Nobody knows de trouble I see Jesus had a mother like mine Listen to the Lamb Soon a will be done		Kyrie Gloria Offertory Credo	
Intermission			

昭和47年 (1972)

5月13日、吹田市民会館大ホールで関西五大学合唱交歓会が行なわれた。昭和44年5月、第3回関西六大学合唱演奏会がフェスティバルホールで開かれて後、神戸大学グリークラブが解散したため、関西六大学合唱連盟も解散してしまった。それで、今回、残った5大学で演奏会をやるということになったが、この交歓会には一般聴衆を入れず、交互に演奏、批評しあった。参加大学は、関西学院グリークラブ、関西大学グリークラブ、立命館大学メンネルコール、甲南大学グリークラブ、同志社グリークラブの5校であった。

7月1日京都会館第一ホール、2日大阪フェスティバルホールで第21回東西四大学合唱演奏会が行なわれた。この時グリーククラブは、29人というかつてない人数で「三つの抒情」(立原道造・中原中也詞・三善晃曲、福永陽一郎編曲)男声版を福永陽一郎氏の指揮で本邦初演した。



7月22日、毎日放送ラジオの「ヤングタウン」に出演した。

11月15日には、栄光館で行なわれた同志社女子大学音楽学科第4回定期演奏会に賛助出演し、今城淳行氏の指揮でモーツアルトの「レクイエム」を演奏した。

12月10日*、第68回定期演奏会が大阪厚生年金会館大ホールで開催された。この演奏会の第1ステージで、モーツアルト作曲「フリーメーソンカンタータ」(K.623)を本邦初演した。独唱の黄耀明氏(現在は高丈二氏)のリリックテナーは聴衆を魅了した。また、第4ステージではOBの協力参加を得て、福永陽一郎氏指揮でショスタコヴィチの「十の詩曲による六つの男声合唱曲」を演奏し、昭和40年(1965)の第14回東西四大学合唱演奏会、昭和43年(1968)の第64回定期演奏会について3回、この大曲を好演し、非常な好評を拍した。

12月16日、昨年ひきつづき広島メサイア演奏会が広島市公会堂で行なわれ、3回目の参加となった。

12月25日には第8回全同志社メサイアが京都会館第一ホールで開催され、この年の活動が終った。

Program	Program
Doshisha College Song	
I. フリーメーソン カンタータ	指揮—福永陽一郎 ピアノ伴奏—三好 道 ソプラノ独唱—黄 耀明 作曲—モーツァルト
Dir Seele des Weltalls(宇宙の魂に)	
Dir Maurerfreude(フリーメーソンの喜び)	
II. シューベルト男声合唱曲集より	指揮—福永陽一郎 ピアノ伴奏—三好 道 作曲—シューベルト
1. Der Gondelfahrer(ゴンドラを漕ぐ人)	
2. Nachthelle(夜の明るみ)	
3. Gott meine Zuversicht(神はわが救者なり)	
4. Nachtgesang im Walde(森の夜の歌)	
INTERMISSION	
	指揮—高次 健 作詞—東野 心子 作曲—黄 耀明
	III. 蛙の歌
	小 唄 恋 慕 蛙 と 蛙 紙野り行進 秋の夜の会談
	指揮—福永陽一郎 作詞—高次 健 作曲—D. Shostakovich 編曲—福永陽一郎 <OB賛助>
	IV. 「十の詩曲」による六つの男声合唱曲
	嬉々しく遊ぼう 来たなり威勢 死神の騎士 怒りの日 讃 揚 歌 歌

第68回定期演奏会のプログラム

* 第68回定期演奏会は定演が大阪のみで行なわれた最初。

昭和48年
(1973)

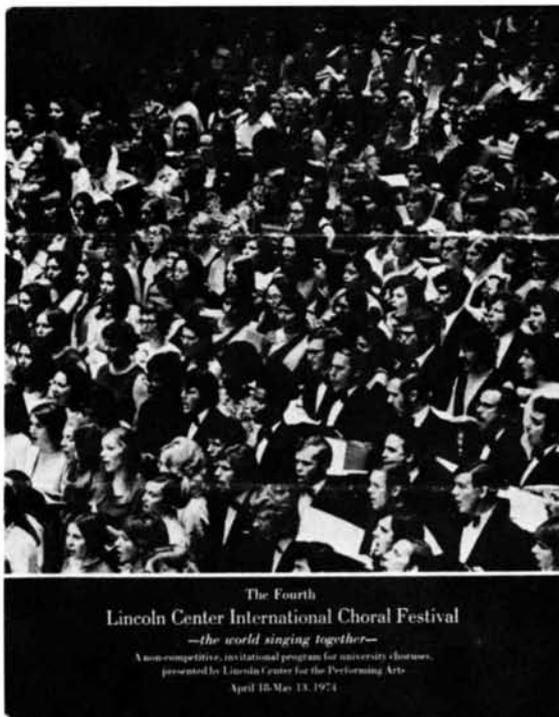
この年の1月、ニューヨークのリンカーンセンター(LINCOLN CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, INC.) から一通の航空便がグリークラブに届いた。内容は「第4回

世界大学合唱祭」(The 4th International Choral Festival)に、日本代表として同志社グリークラブを招聘したいというものであった。そのため、グリークラブの演奏会のテープと、参加の意思の有無について返事を欲しいということも書かれていた。この手紙を受けとった当時の現役幹事長、中村徹夫氏(昭49卒)は天にも昇る気もちであった。というのも、中村氏が2回生の時(昭和46年・1972年)、第3回世界大学合唱祭の日本代表として候補に上りながら、早稲田大学グリークラブにとられ、無念の涙をのんでいたからであった。さらに、第1回世界大学合唱祭(昭和40年・1965年)の時から、関学グリーと同志社グリーの名が上っていたことも知っていた。

ただ、今回も楽観はできなかった、後に、日本女子大学女声合唱団、法政アカデミー合唱団、中国短大フラウエンコールも候補に上っているらしいとの情報をつかんだからである。

さっそく、中村氏は遠藤教授に相談し、「現役の参加意思の確認と共に、参加するのであれば、OBに援助を要請する必要がある。そのために神戸女学院中等部長の松本寛二氏(昭15卒)に会うよう」指示を受けた。

松本氏は、共同通信の記者から請われて教育界に身を投じ、各界から尊敬を集めた大人物であると共に、クローバクラブの発足以来、幹事長としてその合唱団を育てて来た。そしていつも、現役の同志社グリークラブを暖かく見守ってきた人物であった。



リンカーンセンターから送られて来た「第4回世界大学合唱祭」の案内

LINCOLN CENTER FOR THE PERFORMING ARTS, INC.

1885 BROADWAY (AT 81 STREET) NEW YORK, N.Y. 10023 (212) 763 5160

CABLE: LINCENTARTS

March 1, 1973

Lincoln Center for the Performing Arts takes pleasure in inviting the Doshisha University Glee Club, directed by Mr. Yoichiro Fukunaga and the Student Conductor, to represent Japan in the fourth Lincoln Center International Choral Festival, April 18-May 13, 1974.

The Festival will include an individual fifteen-day concert tour for each foreign chorus to a number of universities and schools; a concert by all the choruses, during three days in Washington, D. C., at The John F. Kennedy Center for the Performing Arts; and seven days in New York City. While in New York, the choruses will perform at Lincoln Center individually and, during the final concert, as an ensemble chorus under the direction of the Festival Music Director. There will also be a visit to the United Nations, conductors' seminars, exchanges of repertoire, and various other educational and social events.

Each chorus may bring not more than forty singers and two others, or a maximum of forty-two persons. The choruses will be the guests of Lincoln Center from 3:00 p.m., Thursday, April 18 until 3:00 p.m., Monday, May 13, 1974, while following the Festival schedule. They must, however, provide their own round-trip transportation to New York.

To accept this invitation, the chorus and its university are asked to sign one copy in the places indicated, and to return this signed copy to Lincoln Center by May 1, 1973. Should the chorus not have returned the accepted invitation by that date, the Festival may invite another chorus in its place.

James R. D'George
James R. D'George, Director
Lincoln Center International
Choral Festival

We accept the foregoing invitation, and tentatively plan to bring 42 men and 0 women to the Festival. We agree that Lincoln Center may record, publish, broadcast, televise, film, or make other use of the Festival concerts and other events, and that the income from all Festival activities shall belong to Lincoln Center.

ACCEPTANCE BY THE CHORUS

Name: Doshisha University Glee Club
Signed by: *Tetsuo Nakamura*
Title: The chief manager
Date: April 6, 1973

ACCEPTANCE BY THE UNIVERSITY

Name: Doshisha University
Signed by: *Kozi Yamamoto*
Title: The president
Date: April 6, 1973

「第4回世界大学合唱祭」への招聘を受諾した手紙

また、平行して遠藤教授は大学側にこの旨を伝え、協力を要請していた。2月に入り、中村氏は昨年の定期演奏会のテープ4巻を、大阪中央郵便局からリンカーンセンターのディレクター・ボルギー氏(Mr. James R. Bjorge)宛送付した。さらに、松本氏との面会の約束をとりつけ、2月上旬、遠藤教授と中村氏は現役数名と共に神戸女学院の松本氏を訪問した。松本氏は現役への協力を快諾し、援助を約束した。そして、その席上、酒井美智男氏(昭6年卒)を紹介した。後に渡米の団長となったその人であった。

この松本氏と中村氏の面会をきっかけとして、OB達の協力と現役の熱意が「渡米を成功させよう！」という方向へと動き出し、3年後の昭和51年10月の同志社グリークラブOB会発足の足がかりとなったのである。

3月25日、リンカーンセンターから正式の招待状が届いた。27日、特別部員総会が行なわれ、参加を決定した。さっそく、リンカーンセンターへ受諾の返事をするため、大学長(山本浩三氏)に正式に協力を願い出た。山本大学長は、「大変名誉なことである。」と68年に及ぶグリークラブの歴史を讃え、リンカーンセンターへの返事に快よくサインした。4月6日のことであった。まさに、同志社グリークラブのOB達が68年間永々と築き上げてきた功績のたまものであった。翌年の渡米に向け準備は着々と進んでいった。

参加実現に向けて「派米実行委員会」の組織づくりが始まった。

4月29日、京都洛陽教会において第1回派米実行委員会が開催された。名誉顧問片桐哲氏、松本寛二氏、酒井美智男氏、日下部吉彦氏、寺本和市氏、小田泰弘氏、渋谷昭彦氏、西邨辰三郎氏、遠藤彰氏、小室泰司氏(昭41卒)、小亀豊氏(昭41卒)、横尾修氏(昭48卒)と現役が出席した。

そして、この壮挙を成功させるためには、約1,300万円の資金を要し、うち、500万円を募金目標とすること、派米実行委員会の組織を決定し、募金後援会をつくるための発起人候補者を列挙した。さらにOB各年代の代表者会議も開催することを決定した。



酒井美智男氏

6月23日・24日、東京文化会館で第22回東西四大学合唱演奏会が行なわれた。そして、この後、現役の執行部が交替し、実際に渡米するメンバーによって、委員会が構成され、幹事長に吉川博氏(昭50卒)をはじめとして、渡米実行委員に小糸徹氏(昭50卒)、伏村淳二氏(昭51卒)、村上利行氏(昭51卒)、高田正氏(昭51卒)らが任命された。つづいて5月20日、京都社会福祉会館、6月6日・15日、学生会



笠原進氏

館で派米実行委員会が開かれ、内容を煮つめると共に、6月29日、学生会館でOB各代表者会議が開催された。この会議でOBの学年幹事会が発足し、渡米予算の募金目標額の承認がなされた。そして、団長に酒井美智男氏、指揮者に福永陽一郎氏、伴奏者に笠原進氏を決定した。

7月12日、13日フェスティバルホール、15日神戸国際会館大ホール、16日京都会館第一ホールで大阪フィルハーモニーオーケストラと共に「海の交響曲」(ヴォーン・ウィリアムス曲)の演奏会に出演した。渡米への準備と平行して、日常の活動も休みなく行なわれていたのである。

8月に入り、派米後援会の組織づくりがいよいよ本格化し、その発起人24名が次のように決定した。(役職名は当時)千宗室氏(茶道裏千家家元・発起人代表)、池坊専永氏(華道家元)、右田徳次郎氏(大日本スクリーンKK社長)、今藤繁氏(元阪急百貨店常務)、上田昌三郎氏(上田善KK専務)、大倉敬一氏(大倉酒造KK副社長)、大沢善朗氏(大沢商会KK社長)、大宮隆氏(宝酒造KK社長)、片桐哲氏(元同志社女子大学長、グリークラブ名誉顧問)、滋賀辰雄氏(京都府議、西陣織物工業組合理事長)、鈴木謙介氏(大丸百貨店常務)、住谷悦治氏(同志社総長)、田島弘一郎氏(日東不動産KK社長)、巽悟朗氏(光世証券KK社長)、田辺哲崖氏(弁護士)、露口四郎氏(大丸百貨店顧問)、納屋嘉治氏(KK淡交社社長)、西出志郎氏(京福電鉄KK社長)、原田健氏(元宮内庁式部局長)、藤井正三氏(藤井大丸KK会長)、船橋求己氏(京都市長)、松山義則氏(同志社大学長)、山口泰弘氏(宇治観光取締役・同志社校

友会々長)、横浜礼吉氏(御木元パールKK常務)であった。そして、この発起人会が動き出し、9月には趣意書を関係各位に送付して募金活動が始まった。同時に京都の伝統文化を紹介するパンフレット(プログラム兼用)の制作をする、「プログラム制作委員会」が発足した。

また9月16日には、リンカーンセンターのディレクターJ.R.ポルギー氏が来日、同志社を訪問した。

10月には渡米演奏曲目が次のように決定した。

◇ 渡米演奏曲目 ◇

I. ニューヨーク・リンカーンセンター演奏会〈単独ステージ〉

指揮=福永陽一郎・富岡 健/伴奏=笠原 進

1. “三声のミサ”より「サンクトゥス」…作曲=アンドレ・カブレ
 2. “おでこのこいつ”より「夢」……作詞=蓬莱 泰三・作曲=三善 晃
 3. “四つの仕事唄”より「囃し田」……………作曲=小山 清茂
 4. “草野心平の詩から”より「さくら散る」…作詩=草野心平・作曲=多田武彦
- 〈合同ステージ〉指揮=ジョン・ネルソン

1. Spem in alium nunguam habui,
Motet in 40 parts 作曲 トーマス・タリス
2. Ave Maria, for Male Chorus 作曲 グレゴリア聖歌
3. Ave Maria 作曲 アントン・ブルックナー
4. Friede auf Erden 作曲 アーノルド・シェーンベルク
5. Kyrie, from “Missa Luba” 編曲 ギードハーゼン
6. Gloria, from “Misa Criolla” 作曲 アリエル・ラミレ
7. Chichester Psalms-First Movement 作曲 レナード・バーンスタイン
8. Hallelujah, Amen from
“Judas Maccabeus” 作曲 ジョージ・F・ヘンデル

II. ワシントン・ケネディセンター演奏会〈単独ステージ〉 指揮 福永 陽一郎

1. “四つの仕事唄”より「囃し田」 作曲 小山 清 茂
 2. “日本民謡集”より「おてもやん」 編曲 福永 陽一郎
- 〈合同ステージ〉

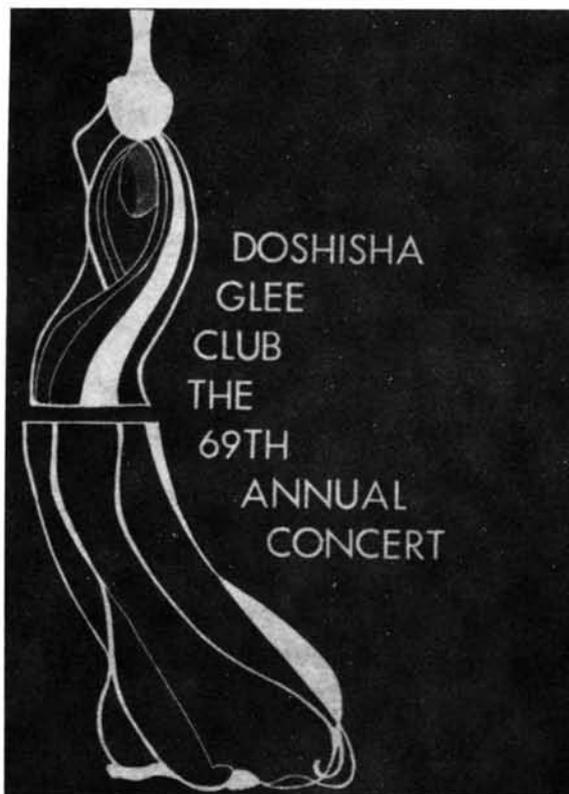
1. Gaudeamus igitur 作曲 ドイツ学生歌
2. Ave Maria, for Male Chorus 作曲 グレゴリア聖歌
3. Ave Maria 作曲 アントン・ブルックナー
4. Chichester Psalms-First Movement 作曲 レナード・バーンスタイン
5. Hallelujah, Amen, from “Judas Maccabeus” 作曲 ジョージ・F・ヘンデル

III. コンサート・ツアー

1. (A) 三声のためのミサ 作曲 アンドレ・カブレ
- (B) シューベルト男声合唱曲集 作曲 シューベルト
2. ロバート・ショー男声合唱曲集 編曲 ロバート・ショー
3. (A) 草野心平の詩から 作曲 多田 武彦
- (B) 合唱組曲「オデコのこいつ」 作詩 蓬莱 泰三
作曲 三善 晃
4. 日本民謡集
 1. ソーラン節 (北海道)
 2. 囃し田 (広島)
 3. おてもやん (熊本)
 4. 五木の子守唄 (熊本)
 5. こしき島舟唄 (鹿児島)

11月12日、大阪毎日ホールにおいて同志社グリークラブ派米記念第18回クローバークラブ定期演奏会が開催され、グリークラブも出演し、富岡健氏(昭49卒)の指揮で「阿波祈禱文」(清水脩曲)、「智恵子抄巻末のうた六首」(高村光太郎詩・清水脩曲)と「草野心平の詩から」(多田武彦曲)を歌った。

12月10日、京都会館第一ホールで第69回定期演奏会が行なわれた。ちょうどこの頃、世界中を第1次オイルショック、がかけ抜けた。日本の社会は、高度経済成長期から急激に低成長期へと移行し始め、一時物不足、のバ



ニック状態に陥った。

そんな中で、予定した航空運賃も2度の改訂ではね上っていた。派米実行委員会募金委員長の野村忠氏(昭31卒)は、この頃のことを次の様に語っている。「48年12月中旬、募金状況が目標額の半分にも達していない



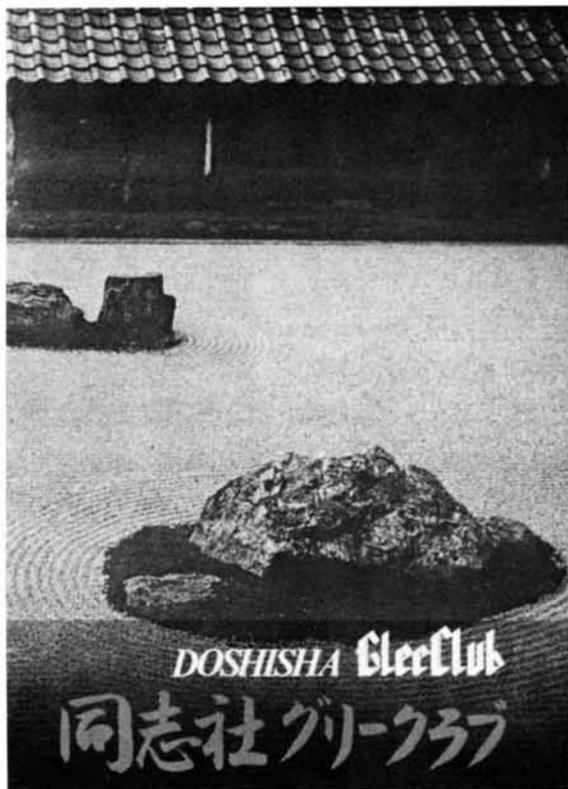
野村 忠氏

のみで、矢張、この役は引き受けるべきでなかった。とてもこの大役に対しては力不足で、来春のグリークラブ出発には誤算が生ずるのではないかと、とても心配な日がつづきました。」しかし、とに角、もう一度グリークラブOBに呼びかけようと、年度別幹事諸氏の精力的な活動や、校友、同窓、一般法人への働きかけが再度始まり、翌年の2月、3月と募金の成績は目を見張るものがあり、遂にクラブ出発直前の4月上旬に目標額を達成する目途がつくのである。

PROGRAM	
Doshisha College Song	作詞 W.M.Vorrey 作曲 Carl Wilhelm
I MESSE A TROIS VOIX(三声のためのミサ)	作曲 Andre Caplet 指揮 福本隆一 氏
Kyrie eleison	
Gloria in excelsis Deo	
Sanctus	
Agnus Dei	
O Salutaris	
II 草野心平の詩から	作詞 草野心平 作曲 多田武彦 指揮 高岡 健
石家荘にて	
天	
金 魚	
雨	
さくら散る	
III 合唱組曲「オデコのこいつ」	作詞 遠藤幸三 作曲 三 島 寛 指揮 福本隆一 氏 ピアノ伴奏 荒 道
おまえはだれだ	
なんだったっけ	
ゆ め	
けん か	
なぜ?	
Intermission	
IV 男声合唱組曲「南風の歌」(沖縄民謡より)	作曲 福本隆一 氏 指揮 高岡 健 ピアノ伴奏 荒 道
V ロバート・ショー編曲による「ヨーロッパ民謡集」	編曲 Alex Parker Robert Shaw 指揮 福本隆一 氏
Die Lorelei	
La Tarara	
Marianina	
Stodole Pumpa	
Loch Lomond	
Viva L'Amour	

第69回定期演奏会のプログラム

12月14日、広島メサイア演奏会に出演。4回目の参加となり、続いて12月16日、西宮市民会館で神戸女学院メサイアに出演、さらに12月25日、京都会館第一ホールでの第9回全同志社メサイアに出演し、この年の活動を終了した。



昭和49年 (1974)

年が明けて1月10日、いよいよ現役渡米メンバー38名が決定した。

この3月に卒業する予定の4回生わずか4人の内、富岡健氏は従来から情熱を注いでいた指揮法の勉強も兼ね合唱祭へ参加を希望、指揮者として同行することになった。またこれをきっかけとして、現在に至るまでグリークラブの指導にあたっている。他の3人は様々に内心葛藤していたが、結局、就職の道を選んだ。これも一つの「めぐりあわせ」であった。この年は渡米を控え、フェアウェル演奏会は行なわれなかった。

2月から渡米の強化練習が始まり、3月13日～17日にかけて滋賀県希望ヶ丘青年の城で強化合宿を終え、3月30日、渡米壮行演奏会を京都会館第二ホールで行った。

昭和34年(1959年)以来、京都市とボストン市は姉妹都市であった。今回、グリークラブは校祖新島先生が学ばれたアーモスト大学(ボストン)を訪問する予定があったので、船橋求己京都市長からボストン市長宛の親書を受

CONCERT TOUR PROGRAM

<p>I. Classical Choral Music</p> <p>A program Messe A. Tosti: Voix Andre Caplet</p> <p>B program From Schubert's Male Choral Series 1. Der Gondelfahrer 2. Gott meine Zuversicht 3. Nachtagung im Walde</p>	<p>II. Our Favourite Repertoire of Robert Shaw Album</p> <p>1. Lich Lomond 2. La Taras 3. Vive L'Amour 4. Marianne 5. If I got my ticket, can I ride?</p>	<p>III. Japanese Contemporary Choral Music</p> <p>A program From poems of Shingei Kusano 1. Ai, Sekaseo 2. Heaven 3. Goldfish 4. Rain 5. Falling Cherry Blossoms Composed by Takahiko Tada</p> <p>B program The Child in my heart 1. Who are you? 2. What was it? 3. Dream 4. Fight 5. Why? Composed by Akira Miyoshi Poem by Taijo Hora</p>	<p>IV. Japanese Folk Song</p> <p>1. Soran Bushi 2. Tsue Bayashi 3. Otomoyan 4. Itzuki no Komeruta 5. Koshijima Fune Uta</p>
--	--	---	--

「第4回世界大学合唱祭」へ持参したプログラム

けとり、日米親善友好使節としての役割も大きくなった。

4月に入り、渡米パンフレットが完成した。

4月7日、茶道研修会館で結団式壮行会が行われた。また10日には、朝日放送の「プラスα」(日下部吉彦氏がニュースキャスター)に出演し、第4回世界大学合唱祭に日本代表として参加することが紹介された。



ボストン市庁舎▶

「第4回世界大学合唱祭」スケジュール表

4月17日	羽田空港発, サンフランシスコ空港着(ホノルル経由)
18日	カリフォルニア大学バークレー(コンサート)
19日 } 20日 }	ミネソタ大学モーリス(コンサート)
21日	ミネソタ大学リバーフォールズ(コンサート)
22日	ウイコンシン大学オークレア(コンサート)
23日	ギフォード・ジュニア・ハイスクール(コンサート)
24日 } 25日 }	ウェイン州立大学, デトロイト(コンサート)
26日 } 27日 }	アーモスト大学(コンサート)
28日	ハーバード大学(訪問), エール大学(コンサート)
29日 } 30日 }	オーシャンサイド公立学校ニューヨーク州(コンサート)
5月1日	プリンストン大学(訪問)
2日 } 3日 }	ワシントン滞在
4日 } 5日 }	合同曲リハーサル
6日 } 7日 }	ケネディーセンター合唱祭(グリー出演)
8日 } 9日 }	ファミリーピクニック
10日 } 11日 }	第4回世界大学合唱祭開会式, ニューヨーク, リンカーン・センター
12日 } 13日 }	合同曲リハーサル, 指揮者セミナー開始
14日 } 15日 }	コンサートⅠ, (アベリーフィッシャーホール)
16日 } 17日 }	国連公式訪問, 夕食会
18日 } 19日 }	コンサートⅡ, (グリー出演)
20日 } 21日 }	ニューヨーク市内見学
22日 } 23日 }	ファイナルコンサート(グリー出演)合唱祭閉会
24日 } 25日 }	ワシントン大学シアトル(コンサート)
26日 } 27日 }	シアトル空港発
28日 } 29日 }	羽田空港着
30日 }	(ニューヨーク以外民泊)

「感動の30日間」

第4回世界合唱祭ツアーレポート

伏村 淳二 (昭和51年卒)

4月17日(水)

松本寛二委員長(当時)初め、多数のOBの見送りを受け、京都駅を14:44の「ひかり76号」で、まずは東京国際空港へ。羽田では、松本淳氏、橘守氏等グリークラブOBを中心に、法政大学アカデミー合唱団のメンバー全員や、東京の各大学合唱団のマネージャー達の盛大な見送りを受け、21:40ノースウェスト010便にて、一路アメリカへ出発した。機中では、これから始まる30日間のツアーへの期待と不安で、胸が高鳴るばかりであった。同時に、グリークラブOBを中心とした、今回の大プロジェクトに携わられた関係者の方々に対して、感謝の気持ちでいっぱいであった。

途中、ホノルルを経由して、19:15ついにサンフランシスコに到着した。空港から市内に行くバスの中で見た夕焼けは、今でもはっきりと憶えている。

4月18日(木)

2～3人づつに分かれてHome Stayした我々は、夕方のコンサートまでは自由時間。或る者は、Homeの人達と車でゴールデンゲイトへ行ったり、或る者は、メンバー同志で恐る恐る街へ出かけた。私もメンバー2人と、ケーブルカーに乗りフィッシャーマンズ・ウォルフへ出かけた。

午後、いよいよ一回目のコンサート会場であるUCLAのバークレー校へ。会場はホールと云うよりは、豪華なロビーのような所で天井が高いせいか、残響が非常に長かった。同時にとてもハモラセ易く、渡米第一回目のコンサートは上出来であった。演奏会終了後、会場はレセプションホールに早変わり。オレンジパンチで乾杯。そのスマートなレセプションに、やはりここはアメリカだなと感じたものである。

4月19日(金)

11:25ノースウェスト154便にて、サンフランシスコを離れて、次の目的地ミネソタへ。セントポール空港からミネソタ州立大学モーリスへは、バスで約5時間。ひたすら広大な合衆国中西部の旅であった。

4月20日(土)

とにかく広い。ウェストコーストや、ニューヨーク等の知識しか持たなかった我々には、そこに本当のアメリカを見たような気がした。

夕方のコンサートに思わぬゲストが現われた。編曲で有名なアリス・パーカー女史である。

女史は今回のフェスティバルの役員の一りで、はるばるニューヨークから、我々のコーラスを聞くため、駆け付けてくれたのだ。

演奏は、今回のツアーの中でも最も出来のよいものの一つであった。拍手が鳴り止まずアンコール曲の数をもう少し増やさねばと、本当に考えたものだった。

4月21日(日)

早朝、ミネソタから、ウィスコン州立大学のリバーフォールズへバスで移動。今日はマチネコンサートだ。昼前、目的地に到着。

ホスト側の学生と共に昼食。この頃になると、アメリカでのツアーにも慣れて来たせいか、英語で話すのも苦痛でなくなってきた。ここの会場が、なんと今日が、「こけら落とし」。音響の良さにつられて、旅の疲れもなんのその、非常にいい演奏が出来た。

4月22日(月)

昨日のリバーフォールズから同じウィスコンシン州立大学のオークレールに移動、宿泊した我々は、次第に演奏への自信と、ツアー生活の慣れも手伝って、非常に意気軒高であった。ただ、ここでの会場が体育館のような所であった事と、ピアノが古かったせいか、やや調律がうまくできていなかったようで、ピアニストの笠原先生も苦勞されていた。

4月23日(火)

オークレールからバスでミシガン湖畔のラシーンへ移動。今日は、中学校でのコンサートである。Gifford 中学と呼ばれるこの私学は、いわゆる「上流階層」の子供達が多く、今回のツアーの Home Stay でも、最もリッチな家庭訪問であった。そして何よりも、我々日本の学生にとって、一番話が合ったのは、アメリカの中学生であった……。

4月24日(水)

ラシーンから、バスでミルウォーキー空港へ。14:40 ノース・セントラル機にて、デトロイトに到着。4日連続のコンサートの疲れからか、移動のバス・飛行機の中ではほとんどのメンバーが、ぐっすり眠っている。今日で日本を出てから、ちょうど一週間であった。

4月25日(木)

デトロイトでのホスト校はウェイン州立大学。校内での昼食レセプションでは、酒井団長のウィットの効いたスピーチで、会場に居た人々から盛んに拍手拍手。リハーサルでは準備体操から始まる我々の発声練習に、ウェイングリークラブのメンバー達は目を白黒。

彼等とのジョイント・コンサートと云う事もあって、緊張感のある演奏会であった。

4月26日(金)

今日はいよいよアーモスト大学でのコンサートだ。早朝、デトロイトを出発した我々はアメリカン航空機にてニューヨークに到着。空港からバスで、マサチューセッツ州アーモストへと向う。西海岸で始まったツアーも、いよいよ東部アメリカのボストンまで来たかと思うと感慨も新たであった。同時に江戸の最末期に新島襄先生が、はるか離れた日本から、よくぞここまで来られたものと、胸にせまってくる思いであった。ジョンソン・チャペルの正面右側に掲げてある新島先生の肖像画を見た時、思わず頭を下げたのは、私一人ではなかったと思う。夕刻バレンタインホールにてコンサート。アーモスト大学では、ちょうど試験中と云う事もあって、会場は満席にはならなかったが、我々一人々々の新島先生に対する思い入れからか、演奏内容はすこぶる付きの上出来であった。



アーモスト大学ジョンソンチャペル

4月27日(土)

今日は移動もなく、一日中アーモスト大学でのんびりした日を送った。酒井団長は、京都市長からの親書を姉妹都市であるボストン市の市長に渡すべく、大学を離れた。夕方、近郊のスミス・カレッジや、マウント・ホリヨーク大学の女学生達を迎えて、アーモスト大学で大きなパーティが催された。我々も参加したが、彼等の遊び方には非常に感心したものである。

4月28日(日)

後髪を引かれる思いでアーモストを出発。今日は、ハーバード大学を訪問した後、エール大学でのコンサートである。東部8大学の中でも最も知名度の高いこの両校を1日で訪問すると云うのは、い

かにも時間がなく残念であった。ハーバード大学では、ほんの数時間の滞在であったが、ハーバード・グリークラブのメンバーとの交歓、ベナントの授与等、お互いの親睦を深めた。

エール大学でも、グリークラブのメンバー達が、我々のマネージメントを引き受けてくれた。演奏会が始まると、会場からざわめきが聞こえる。それもそのはず、オープニングで歌うカレッジソングが、エール

大学の校歌と曲が同じであるからだ。エールグリークラブの名士フェノ・ヒース氏も会場に姿を現わした。演奏もリハーサルの時から、福永先生と我々の間で火花飛び散ると云った緊張感の持続で、特に三善晃作「おでこのこいつ」は、たぶんツアーを通して、最高の演奏だったと思う。

4月29日(月)

エール大学での興奮もそこそこに、バスにてニューヨーク州の北のはずれ、ロングアイランドにあるオーシャンサイド・パブリックスクールへ向う。その名の通り、大西洋に突き出た半島にある街であったが、やはりここでの演奏会も拍手の嵐の中で終わった。アンコールも終わりメンバーが退場したにもかかわらず、拍手が鳴り止まないで、急いで、舞台へ引き返し、またアンコールを歌うと云うありさまであった。

4月30日(火)

終日フリータイム。今回のツアーで思う事だが、メンバー各自 Home Stay の経験が、どれほどすばらしいものであったろうか。私自身現在も、このオーシャンサイドでお世話になったキャンベル夫妻とは、手紙などを通して、親交を保っている。感謝してもしきれない程の深さである。

5月1日(水)

大西洋の潮の香るオーシャンサイドの街を後にして、今日はプリンストン大学訪問だ。

東部アイビーリーグの名門の1つであるプリンストンには非公式での訪問となったが、我々にとって非常に強い印象を残した数時間だった。学内にあるコンサートホールが、なんと石造りなのである。教会のチャペルの様式を型取ったそのホールに入った時、メンバー全員が「ミサ曲を歌ってみたい」と思ったのだった。早速、今回の手持のレパートリーの1つ、アンドレ・カブレの「三声のミサ」を皆が皆、自然発生的に歌ったのだった。こんな経験は、はじめてであった。



ハーバード大学



プリンストン大学「石のチャペル」

5月2日(木)

昨夜、ワシントンに入った。いよいよ今日から6日まで、世界合唱祭のワシントン編である。今日はフリータイム。ホスト・ファミリーの人達に連れられて、ホワイトハウスや、リンカーン・メモリアル等、観光させていただいた。私は幸運にも合衆国国会の上院会議を観覧することができた。当時ワシントンは、ニクソン大統領のウォーターゲイトスキャンダルで、大揺れしていた事を思い出す。

5月3日(金)

午後、いよいよ世界13ヶ国から集まった学生達が一同に会して、合同練習である。練習会場に当てられた長老教会には、国際色も豊かに500人を越えるメンバーが集まり、言葉の障害も乗り越えて、あちらこちらで、軽い挨拶や握手をくり返している。私は、京都で別れて以来、久し振りにディレクターの Bjorge 氏と感激の再会をした。彼は、目の廻るような忙しきで会場を飛び廻っていた。

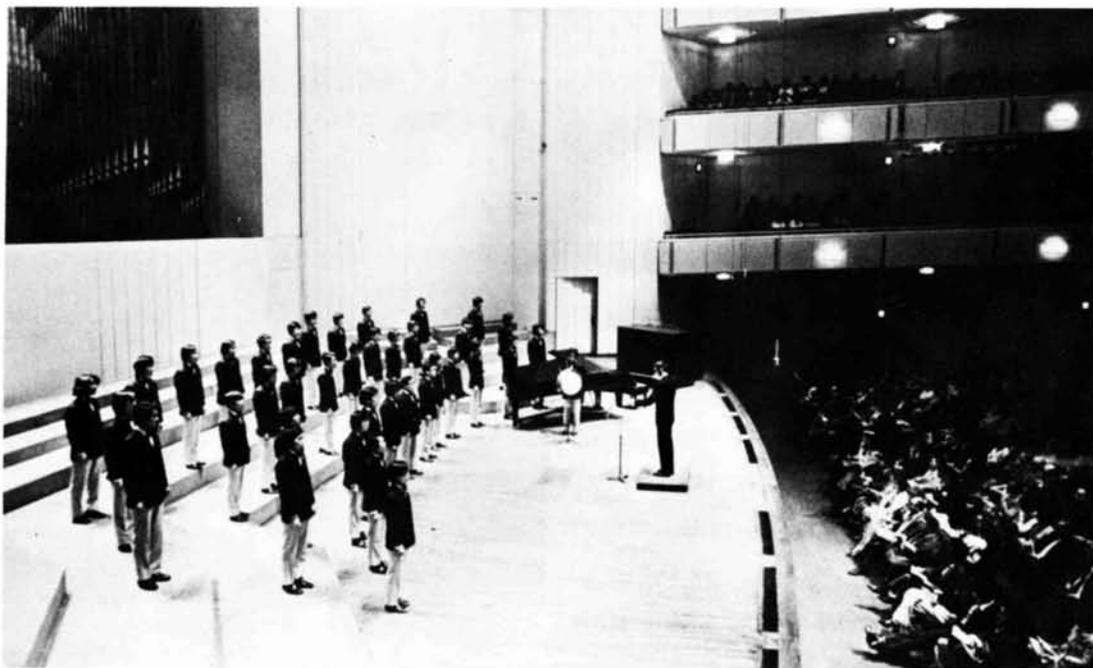
合同指揮の J. Nelson 氏が登場。ここに500人の大合唱が始められたのだった。

5月4日(土)

J. F. ケネディセンターでのガラ・コンサートの日である。夕方5:00までステージリハーサル。会場の楽屋からステージまで迷路のような所を通って舞台へ。ホールは長方形の箱のような形をしていた。舞台奥には大きなパイプオルガンがある。リハーサルを終えて6:00からホールの外で500人全員による夕食会が始まった。私は福永先生と共に立食していたのだが、そこへ安川駐米大使(当時)夫人と御令嬢が、御挨拶に来て下さり、先生共々、大変恐縮してしまった。8:30から始まったコンサートは各代表の持ち歌を1~2曲と、後の大合同演奏である。出演は国のアルファベット順でオーストリアから始まり、我々は5番目であった。ステージに上がる時、舞台の袖にいる Bjorge 氏に「この日を待っていた」と言うと、彼は「私もそうだ」と答えてくれた。いよいよ本番、心なしか福永先生の手が震えている。曲は小山清茂の「四つの仕事歌」と「おてもやん」。

大きな空間なのに、なんとよく響くホールだろうか。本当に気持ちよく歌える。「やった、うまく歌えた。」と云う気持ちでいっぱいだ。

代表演奏を終え、合同演奏となった。広い舞台にパート別にステージに立つ訳だから、我々のメンバーがどこに居るかわからない程であった。「ガウデアムス」から始まったこの夜の合同演奏が大成功であった事は間違いない。



J. F. ケネディーセンターのコンサート

5月5日(日)

一夜明けて今日は、全ホストファミリーの人達を混えて2000人の大ピクニック大会。ワシントン郊外のバージニアにある Wolf Trap Farm 公園へ集合。天候が悪かったせいもあったが、誰がどこに居るかわからないと云った広々とした場所であったので、中には途中で帰る人もあったり、



よくわからない遠足であった。しかし、ホストファミリーの人達とは、ますます親交が深まり、明日別れるかと思うと、悲しくなったりしたものである。

5月6日(月)

5日間居たワシントンに別れを告げ、今回のツアーの最大イベントのあるニューヨークのリンカーンセンターへ向う。ハドソン川を越え、マンハッタン の摩天楼の谷間をくぐりぬけて午後1:30ブロードウェイの一角にあるリンカーンセンターに到着した。メトロポリタン・オペラハウスを正面に見て、左側にシティホール、そして右手にあるのが、今回の会場であるアヴェリーフィッシャーホールだ。その中央広場で歓迎式典が行われた。これから12日のファイナル・コンサートまでニューヨークでの生活が始まる。

リンカーン・センター

リンカーンセンター(Lincoln Center for the Performing Arts)は、ニューヨーク市の中心にあり、新しい劇場、コンサート・ホールや教育関係の建物を含む芸術公演機関の殿堂であります。

これらの加盟機関は

- (1) The New York philhamonix
(1842年創立)
- (2) The Metropolitan Opera(1883年創立)
- (3) The New York Public Library
(1901年創立)
- (4) Julliard School (1905年創立)
- (5) The City Center of Music and Drama,
New York City Ballet (1948年創立)
と New York City Opera(1944年創立)
を含む。
- (6) The Repertory Theater of Lincoln
Center

(7) The Music Theater of Lincoln Center
建設が1959年に始まり、1969年に完成したこのセンターは、芸術公演のあらゆる分野を代表します。こゝでは、音楽・ドラマ・オペラ、そして映画が披露され、それらの芸術に関する図書、資料が展示されています。そしてこゝで若い芸術家たちが育成されるのであります。



左：メトロポリタン歌劇場
右：アヴェリーフィッシャーホール
(旧フィルハーモニックホール)

5月7日(火)

ニューヨークでのスケジュールは、各々の演奏会やリハーサル、また国連訪問と云った公式行事の他は、比較的フリータイムが多かった。或る者はニューヨークフィルハーモニーのコンサートに行ったり、また或る者は、ブロードウェイでミュージカルを観ると云った具合である。しかし今日は、朝から練習時間がびっしり。夕食を終え、ホテルのバブから見たブロードウェイの夜景は、今回のツアーに思いをめぐらすにはうってつけのながめであった。

5月8日(水)

今日も朝からリハーサル。どうもアンサンブルがうまくいかない。堅固なハーモニーを保ってきたのにどうしたことか。旅の疲れがある事は当たり前なのだが、そんな事よりも、ドレミファがうまく歌えないのである。これはまずい。なぜなら我々がファイナルに歌うのは多田武彦曲の「草野心平の詩から」の終曲で、この曲の上の「ド」から下の「ド」まで半音づつ下りてくるのだから。とうとう学指揮の富岡建が、個人レッスンを始めた。夜、1回目のコンサート。我々の出番は10日なので、今日は客席にて他の代表合唱団の演奏を聞く。現代曲を取り上げる合唱団が多かったように憶えている。

5月9日(木)

昼前、国連を訪問。世界から集まった合唱団が、一同に会して国連の会議場へ。事務局の代表者からメッセージを我々に伝え、返礼に500人で合唱すると云うものであった。テレビを見ていたら、その場面をニュースで映していたので、皆で喜んだものである。

この夜、私はブロードウェイでミュージカルを観た。演目は「Little Night Music」。何とも豪華で、洒落れたものだった。

5月10日(金)

リンカーンセンターでのフェスティバルでは、コンサートだけでなく、各国の指揮者が集まって、「コンダクターセミナー」と云う会議も催された。日本からは、もちろん福永先生が出席されたが、関西学院の林雄一郎氏も参加されていた。

夜、いよいよ我々の単独演奏会である。曲目は、①カブレ「三声のミサ」より^レサンクトゥス、②三善晃「おでこのこいつ」より^レ夢、③小山清茂「四つの仕事歌」から^レ囃し田、以上である。

5:30よりステリハ。一時崩れかけていたアンサンブルも、ほとんど立ち直り、演奏が始まる頃には、すっかり自信を取り戻していた。

ケネディセンターでの舞台経験が物を言っただけか、この夜のステージは、指揮者、コーラスメンバー共、実にのびのびとした演奏であった。コンサート終了後、センターの中央広場を歩きながら、私は日本に居る多くの先輩や友人達に、この夜の演奏会を聞いてもらいたかったと、しみじみ思ったものである。

5月11日(土)

単独演奏会の翌日、今日は1日中フリータイムであった。しかし翌日のファイナルコンサートの事もあるので、我々はホテルのロビーを借りて^レさくら散る^レのリハーサルに余念がなかった。

話が前後するが、ニューヨークでの宿泊はリンカーンセンターの向いにあるエンパイアホテルと云う場所であった。世界から集まった500人のメンバーが6日間、ほとんど貸し切りの状態で宿泊していた。ニューヨークに居るのもあと1日。メンバーの中には、土産物を捜しに5番街のデパートやショッピングセンターに出かける者も多い。私も例に漏れず、ショッピングをしたが、夕刻メンバーと連れだって、グリニッジ・ヴィレッジにあるジャズのライブハウス^レヴィレッジ・バンガード^レに出向いた。知る人ぞ知るジャズの巨匠達が巣立っていったと呼ばれるこのジャズのメッカには、ぜひ立ち寄って見たかった所である。その夜のライブもさる事ながら、やはりニューヨークの下町には、ジャズが生まれてくる雰囲気がある所にあるものだと感じいった。

5月12日(日)

リンカーンセンター世界大学合唱祭の最大イベント「ファイナルコンサート」の日がやってきた。夕方5:00のリハーサルから、我々は演奏会に向けて集中力で充満していた。今夜の我々のプログラムは、多田武彦「草野心平の詩から」の「さくら散る」、この一曲だけである。あとは、500人の大合同演奏が待っている。入念な発声練習から始まって、気持も体も、ひたすら「この一曲にかける」と云う意気込みで、メンバーの集中心がいやおうなく高められていった。メンバー全員、いつもより寡黙である。いよいよ本番。ステージに上がった我々の前で福永先生が深々とおじぎをしている。そして学指揮の富岡健を聴衆に紹介した。客席から、驚きと同時に非常に暖かく感じる拍手が起った。しんと静まり返ったアヴェリー・フィッシャーホールの空間に、「さくら」が散った。大歓声、ブラボー、40人のメンバーと指揮者、そして聴衆をも巻き込んだ。緊張感の圧縮は気化し、そして爆発した。気が付くと私は舞台袖のボイラー室で泣いていた。振り向くと、私と同じように涙を流している仲間が大ぜいそこに居た。「ようやくなあ。」この一言で皆、理解し合えた。

合同演奏では、今回のフェスティバルの最後と云う事もあって、500人全員の顔が、喜びと感動でキラキラ輝いている。客席の人達もいっしょに歌っている。この感動を、どんな風に伝えたらよいだろうか。最後のアンコール曲「ガウデアムス」は、ほとんど舞台も客席も関係なく歌われた。終了後、ホールのロビーでシャンペンによる大打ち上げ会が行なわれた。オリンピックの閉会式で見られる、国籍を越えた選手同志のつながり、それと同じ光景が、ここで始まった。まして我々には歌がある。或る者はペナントの交換、また或る者は肩を組み歌う。中にはシャンペンを飲み過ぎて、すっかりでき上がっている者もいる。

私は Biorge 氏やアシスタントの Paula Kann と握手そして抱擁。長いようで短かったフェスティバルの饗宴は、今宵アヴェリーフィッシャーホールで幕を閉じた。

参加大学一覧表

- オーストリア……………インスブルック大学合唱団
- ハンガリー……………デブリセン音楽院コダーイ合唱団
- ポーランド……………グダニスク薬科大学合唱団
- ルーマニア……………シブリアンポランベスク合唱団
- スウェーデン……………ルンド大学男声合唱団
- ユーゴスラヴィア……………ザクレブ大学イワンゴラン合唱団
- リベリア……………リベリア大学合唱団
- マダガスカル……………タナナリブ大学アンポーランペオ合唱団
- 日 本……………同志社グリークラブ
- フィリッピン……………フィリッピン大学合唱団
- ブラジル……………パライバ大学合唱団
- コロムビア……………サンタンデル工業大学合唱団
- アメリカ合衆国……………合衆国大学合唱団

5月13日(月)

昨夜の興奮がまだメンバーの顔に残っている。しかし我々は早朝リンカーンセンターを後にして、ケネディ国際空港へ向った。11:00ノースウェスト007便にて、多くの思い出を積んでニューヨークを飛び立った。最後の訪問地シアトルへ向う。再び西海岸に戻って来た訳だ。空港ではワシントン州立大学の関係者の方々が出迎えに来てくれた。カナダ国境に近いこの街は、森と湖がふんだんに有る、とてもきれいな所であった。

5月14日(火)

いよいよ今回のツアー最後のコンサート。ステリハも終わり、本番が始まる1時間程前に、福永先生がメンバー全員を前にして話をされた。「今回の経験を、ぜひ同志社グリークラブの発展に生かすように……。」メンバーの皆も同じ思いだったに違いない。演奏会終了後、ホスト・ファミリーの御主人に「日本に帰らずに、ここで生活したい。」と言ったら、彼等は本気で留学の手続きを考えてくれた。明日、いよいよ帰国の日である。

5月15日(水)

13:45シアトル国際空港からノースウェスト007便に搭乗。本当にいろんな思い出や経験をさせてもらったアメリカ合衆国に別れを告げた。月並な言葉だが、「ありがとう」としか言い様がない。

5月16日(木)

日付変更線を越えて、夕方16:05羽田に到着した。税関を通り過ぎ、空港ロビーで待っていたのは、出発時と同じ笑顔を満面にたたえた松本淳氏であった。

「ご苦労さん。」「ありがとうございました。」……………。



「第4回世界大学合唱祭」のレコードジャケット(表と裏)

第23回東西四大学合唱演奏会が昭和49年(1974)6月16日にはフェスティバルホールで、6月17日には京都会館第一ホールで開催された。

11月1日、大阪厚生年金会館大ホールで第1回関西六大学合唱演奏会が行なわれた。しかし、3度目の「第1回関西六連」であった。というのも昭和39年(1964)12月、同志社グリー、関大グリー、立命メンネル、神戸大グリー、

京都大合唱団が第1回演奏会を開き、昭和41年(1966)5月には第2回演奏会を開いた。その後京大合唱団が脱退、かわって甲南大グリーが加わり、昭和42年(1967)5月、再度第1回演奏会を開催、昭和43年5月、第2回、昭和44年5月、第3回を開催したが、その後神戸大グリーが解散したため挫折し、昭和47年(1972)5月、残った5大学で交歓会をもったが、昭和49年大阪大学男声合唱団が加盟し、ようやく、今回の第1回演奏会にこぎつけた。合同演奏は北村協一氏の指揮で、「Credo」(A. Duhaupas 曲)を歌った。



3度目の第1回関西六大学合唱演奏会のプログラム

PROGRAM	
エール交歓	甲南大学 関西大学 立命館大学 関西学院大学 大阪大学 同志社大学
第1部	
※甲南大学グリークラブ 東北地方の民謡による七つの男声合唱曲	指揮 長 藤 乃 典 作曲 小 倉 潤
1. きんぎょ	
2. おたけもち	
3. 田舎の音	
4. お話のききま	
5. 赤いまは	
6. ふくやう	
7. 雨の唄	
※関西大学グリークラブ 男声合唱組曲「月光とピエロ」	指揮 赤 森 隆 作曲 関 西 大 学 作曲 清水 積
1. 月 夜	
2. 秋の夕日	
3. ピエロ	
4. 月夜に唄え	
5. 月光をとりよせよ(ピエロ)の唄の序	
※立命館大学メンネルコール 男声合唱組曲「水のいのち」	指揮 赤 井 成 久 作詞 岡 野 茂 彦 江 作曲 高 野 秀 久 藤 作曲 高 田 三 郎
1. 出	
2. 水たまり	
3. 川	
4. 海	
5. 海 へ	
Intermission	
第2部	
※関西学院グリークラブ Negro Spirituals	指揮 桂 本 英 明
Set Down Servant	
Swing Low Sweet Chariot	
Dish My Lord Deliver Daniel	
Nobody Knows De Trouble I See	
Soon Ah Will Be Done	
※大阪大学男声合唱団 合唱のためのコンポジション III <男声合唱のためのコンポジション>	指揮 小 寺 隆 作曲 関 西 大 学
I. 鐘	
II. 船 鈴	
III. 引き念機	
※同志社グリークラブ 男声合唱曲「智慧子抄」より 飛る夜のことろ 智慧子神楽のうた六首	指揮 大 島 功 伴奏 芝 原 運 作詩 高 村 光 太郎 作曲 清水 積
第3部	
※合同演奏 デュオバのミサより「クレド」	指揮 北 村 協 一

11月3日、同志社グリークラブは第1回長井賞を受賞した。これは、この1年、関西合唱界においてめざましい活躍をし、合唱文化に貢献した団体に送られる栄誉ある賞で、関西合唱連盟により創設された。

12月6日、京都会館第一ホールで第70回定期演奏会を行った。

つづいて12月14日には、広島市公会堂で広島メサイアに出演、5回目の参加となり、12月25日には第10回全同志社メサイアが京都会館第一ホールで行なわれ、記念すべき1974年が終わった。



第1回長井賞

PROGRAM		PROGRAM	
Doshisha College Song		Doshisha College Song	
	作 W. M. Veries 作 Carl Wilhelm		
I 辨太郎の四つの詩	作 森原 純太郎 作 清水 敏 作 坂本 龍一郎 作 大 塚 浩	IV ミュージカル「南太平洋」より	作 Oscar Hammerstein II 作 Richard Rogers 作 坂本 龍一郎 作 大 塚 浩 作 坂本 龍一郎
1. 五月の真白子		1. Some Enchanted Evening	
2. 孤 舟		2. There is nothing like a dame	
3. 幽 谷		3. Younger than spring time	
4. 緑 色 の 詩		4. "Sweetie"	
II 在りし日の歌	作 中 塚 中 也 作 藤 岡 武 彦 作 坂本 龍一郎	5. Happy talk	
1. 水 子		6. Bari-Hu	
2. 早 春 の 風			
3. 閑 寂			
4. 日			
5. また来ん春			
III LIEDER EINS FAHRENDEN GESELLEN (さすらい者の歌)	作 Gustav Mahler 作 坂本 龍一郎 作 坂本 龍一郎 作 坂本 龍一郎	V NEGRO SPIRITUALS	作 Leonard de Paul 作 Alice Parker 作 Ferno Heath 作 坂本 龍一郎
1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht (君がとつて日)		1. JEREMY	
2. Ging bei'morgens ubers Feld (露しげな朝の野原に)		2. SOMETIMES I FEEL	
3. Ich hab' ein gluhend Messer (灼熱せる短刀もて)		3. Didn't My Lord Deliver Daniel	
4. Die zwei blauen Augen (君が青きひとみ)		4. My Lord, What a Mornin'	
		5. In That Great Gettin' Up Mornin'	
INTERMISSION			

第70回定期演奏会のプログラム

昭和50年
(1975)

2月12日、箕面市民会館で東芝レコード「現代合唱曲シリーズ・多田武彦作品集」のためのレコーディングを行った。グリークラブは福永陽一郎氏指揮で、男声合唱組曲「草野心平の詩から」を歌った。この録音は福永陽一郎氏指揮で、小田原男声合唱団が録音した男声合唱組曲「雨」、関西学院グリークラブが録音した男声合唱組曲「雪明りの路」とともにレコードに収録された。



6月17日、大阪厚生年金会館大ホールで第6回同志社・関学交歓演奏会が行なわれた。

つづいて6月21日、東京厚生年金会館大ホールで第24回東西四大学合唱演奏会が催された。

この年は同志社創立100周年であった。それを記念して10月1日、2日と東芝レコード「同志社歌集」のレコーディングを京都シルクホールで行った。

10月28日、第2回関西六大学合唱演奏会を大阪厚生年金会館大ホールで開催した。合同曲は福永陽一郎氏の指揮で、男声合唱組曲「富士山」(草野心平詩・多田武彦曲)を演奏した。

第6回同志社・関学交歓演奏会のプログラム

PROGRAM	
<p>エール交歓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同志社グリークラブ ●関西学院グリークラブ 	
<p>I 関西学院グリークラブ</p> <p>Missa "Sursum Corda"</p> <p>作曲 FRANZ HAMMA</p> <p>指揮 宇野 野一 男</p> <p>I Kyrie</p> <p>II Gloria</p> <p>III Credo</p> <p>IV Sanctus</p> <p>V Benedictus</p> <p>VI Agnus Dei</p>	<p>III 関西学院グリークラブ</p> <p>男声合唱組曲「水のいのち」</p> <p>作詞 高野喜久雄</p> <p>作曲 高田 三 郎</p> <p>I 雨</p> <p>II 水たまり</p> <p>指揮 北村 隆 一</p> <p>III 川</p> <p>IV 海</p> <p>V 海よ</p>
<p>II 同志社グリークラブ</p> <p>男声合唱組曲「雪と花火」</p> <p>作詞 北 塚 百 枝</p> <p>作曲 多 田 武 彦</p> <p>I 雪 恋</p> <p>II 雪 厚 花</p> <p>III 芥子の葉</p> <p>IV 花 火</p>	<p>IV 同志社グリークラブ</p> <p>男性合唱曲「古典イタリア歌曲集」</p> <p>編曲・指揮 福 永 陽 一 郎</p> <p>指揮 宇野 野 一 男</p> <p>I Amarilli, mia bella 「アマリリ麗し」</p> <p>作曲 ジョヴァンニ・カステッリ</p> <p>II Già il sole dal Gange 「太陽は昇りぬガンジスより」</p> <p>作曲 マルコ・メッサーナ</p> <p>III Ombra mai fu (Largo) 「永遠に花る木陰よ」(ワーグナー)</p> <p>作曲 ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト</p> <p>IV O del mio dolce arder 「おお、やさしい恋人よ」</p> <p>作曲 ジョヴァンニ・カステッリ</p> <p>V Chi vuol la zingarella 「ジプシー娘を好むのは誰ぞ」</p> <p>作曲 ジョヴァンニ・カステッリ</p> <p>VI Piacere d'amor 「愛のよろこび」</p> <p>作曲 ジョヴァンニ・カステッリ</p>
<p>Intermission</p>	<p>V 合同曲</p> <p>男声合唱のための「アイヌのツボボ」</p> <p>作曲 池 藤 謙 二 郎</p> <p>指揮 清 水 謙 一</p> <p>I くらげ祭り</p> <p>II イヨウナシ(地祭り)</p> <p>指揮 北村 隆 一</p> <p>III セリカヒリカ</p> <p>IV 日食月食に相もつた</p> <p>V 恋 歌</p> <p>VI 編 曲</p>



12月1日京都会館第一ホールで、また12月5日には大阪毎日ホールで第71回定期演奏会を行った。この演奏会では、北村協一氏を客演指揮者に迎え、「蛙の歌」(草野心平詩・南弘明曲)を演奏した。関学グリーの指揮者はもとより、外部の客演指揮者を招いたことは同志社グリー史上初めてであった。

12月9日には神戸国際会館ホールで神戸女学院メサイア演奏会に参加、また12月13日には広島メサイア演奏会にも招かれ、6回目の参加となった。

12月25日、第11回全同志社メサイア演奏会が京都会館第一ホールで行なわれた。

PROGRAM		PROGRAM	
Doshisha College Song	作曲 W. M. Vories 作曲 Carl Wilhelm	Ⅲ 男声合唱のための組曲「蛙の歌」	作曲 草野心平 作曲 南弘明 指揮 北村協一
I MASS IN D op.86 (ミサ曲二長調)	作曲 A. Dvořák 指揮 福永 隆一郎 ピアノ/伴奏 笠原 進	1. 小 曲	
KYRIE		2. 亡 霊	
GLORIA		3. 鱷 と 蛙	
CREDO		4. 蛇祭り行進	
SANCTUS		5. 秋の夜の会話	
BENEDICTUS			
AGNUS DEI			
II OLD FAVORITES OF GLEE CLUB	指揮 山 口 正	IV <ヨハン・シュトラウス生誕150周年記念>	
Whiffenpoof Song		Söngerlust	作曲 J. Strauss 指揮 福永 隆一郎 ピアノ/伴奏 笠原 進
Old Tom Wilson		ポルカ 歌い手の喜び(詞: Weill)	
Oh! Aik! A-Moverin'		Wein, Weib und Gesang	
De Animals A-Camin'		ワルツ 酒、女、歌(詞: Weill)	
Shall I, wosting in despair?		An der schönen blauen Donau	
Twilight		ワルツ 美しく青きドナウ(詞: V. Geneslth)	
INTERMISSION			
ステージの出来映えを変えるコート 本日のステージコート 作成の店 司 屋 株 式 会 社 大阪マーチャンダイズマート11階 TEL 06 (943) 3100		ブルマンテン 荒びき珈琲  出町 輸入食品店 京・河原町 今出川角 TEL 075 221-1111	

第71回定期演奏会のプログラム

昭和51年 (1976)

1月18日、フィンランドから来日したヘルシンキ大学男声合唱団とアーモスト館で交歓会を行い、翌19日、学生会館ホールで演奏会がもたれた。

グリークラブ名誉顧問片桐哲先生が3月3日で満88才を迎えられ、3月7日、京都国際ホテルで米寿の祝賀会が催された。お祝いにつけつけたOBは100余名に達した。この席上、片桐先生が「グリークラブOB会」の正式発足を提案され、満場の賛同を得た。これを受けて、世話人代表には小田泰弘氏(昭31卒)が指名され、約15名が設立準備作業に入った。

3月10日、11日の両日、高槻市民会館で東芝レコードの東西四大学合唱連盟25周年記念「グリークラブアルバムⅠ・Ⅱ」のためのレコーディングを行った。これは同志社グリー、関学グリー、慶応ワグネル、早稲田グリーがそれぞれ北村協一氏と福永陽一郎氏の指揮で演奏し、30cmLP2枚に収録しようというものであった。このアルバムのうち、「詩篇98」を北村協一氏指揮、関西学院グリークラブが歌い、「U Boj」を福永陽一郎氏指揮、同志社グリークラブが歌っており、互いに釈然としない感じがした。なおこのレコードは6月の東西四大学合唱演奏会に合わせて発売された。

6月20日大阪フェスティバルホール、6月21日京都会館第二ホールで第25回東西四大学合唱演奏会が開催された。

つづいて6月30日には、東京文京公会堂で第19回立教・同志社交歓演奏会が行なわれた。昭和41年(1966)以来途切れていたが、実に10年ぶりの復活であった。

この間、OB会設立準備世話会が何度も開催され、OB会の組織や会則案を検討していた。そして9月5日(旧)新島会館において学年別代表者会が催され、即「OB会発起人会」を結成し、楠本英雄氏(昭40卒)の会則案説明につづき、会費、行事、運営方針などが審議され、来たる10月17日にOB会設立総会を行う事を決定した。

10月16日、福永先生を同志社グリークラブに技術顧問としてお迎えして15周年となるのを記念して、「福永先生に感謝する会」を京都グランドホテルで開催した。昭和36年(1961)1月16日のフェアウェル・コンサートで「赤とんぼ」を指揮された時から、同志社グリークラブの技術顧問としての歴史が始まり、まさにグリーの音楽づくりを共に情熱をもって歩んでくださったのであった。グリーメンも「陽ちゃん先生」と慕い、またよく語らい、音楽以上のものも感じとっていた。

翌10月17日、午後2時から京都産業会館で同志社グリークラブOB会設立総会が開催され、正式にOB会が結成された。全国各地からはせ参じたOBは200余名に達した。OB組織、会則、などが審議されたあと、同会館内のツーリストグリルで祝賀パーティーが行なわれた。

「HAIL OUR GLEE CLUB」に始まり、グリー72年の歴史をひもとくように次々となつかしい歌や話が披露され、「詩篇98」、「College Song」、「Doshisha Cheer」でしめくられるまで、実に感激的な一時であった。



同志社グリークラブOB会設立総会 (1976.11.17. 京都産業会館)

OB会設立によせて

同志社グリークラブ名誉顧問 片桐 哲

一粒の種子が地に落ちて発芽し、70年の歳月を終ると、空の鳥を宿す程の大木に成長したような歴史を辿ったのが吾が愛する同志社グリークラブの姿なのではあるまいか。顧みれば発芽した土壌が同志社学園と云う恵まれた環境であった事が何よりも幸運であった事を、先づ神に感謝したい。次に発芽したものを入念に手入れを成し、施肥をして立派に育て上げたのは、歴代のグリーメンの素晴らしい愛情と努力の賜物と云わざるを得ない。同志社グリークラブの実力は既に日本全土を制覇し、今や国際的レベルにまで発達して来ている。洵に感謝感激に耐えない。此の光栄あるグリーメンの数も既に700名を超える多数に達して来た。此の光輝ある歴史を生み出したグリーメンが期せずしてOB会を正式に形成し発足する事が決定し、茲に同志社グリークラブOB会創立総会が開催されます事は、洵に感謝感激の至りに耐えない。700余名のクラブ愛に溢れたメンバーが、協力一致団結して強固な団体を形成し相互の親交を増々深めると共に、後進の現役のグリークラブを後援して之を強化し、後顧の憂なからしめ光栄ある将来を築く根底と致し度いものである。乞い願くば将来はグリークラブ会館が創立せられ、クラブの記録や記念品を永久に保存すると共に、グリーメンの親交のセンターとして、宿泊設備もそなえたいものである。今後のOB会の繁栄と発展とを祈って一言御祝詞まで。

OB会設立について



小田 泰弘 (昭和31年卒)

小生は昭和31年の卒業ですが、グリークラブを去って先づ不思議に思ったことは、既にその時グリークラブ設立50周年を迎えていたにもかかわらず、OB会なるものが無かったことです。かくも伝統あるクラブなのにどうしてOB会がないのであろうかと単純な疑問を持ったままOBとなり、クローバークラブに所属したのであります。

そもそもクローバークラブは小生等が現役在部中に行った50周年記念事業をきっかけに、OBも再び歌おうと言う気運が高まり結成され、現在OB会々長の松本寛二氏を中心に先輩達が集まって出来たもので、やがてOB会の役割を持つようになりました。しかし、これはどうしても歌うメンバーが中心になり、全国に散らばるOBに迄、キメの細かい連絡はととても無理で、又、会則、会費等も定まらず、演奏会の収益等をもって運営されておりましたが、当時の松本氏の活躍はすさまじいものがあり、一人で何役もこなしておられ、まさに人間機関車の様を呈しておりました。

かくして年月は、あつと言う間に20年が流れ、小生も歳40を迎えた時、現役グリークラブがアメリカのリンカーンセンターに招待されることが実現し、グリークラブ創立以来、戦後初めての海外演奏

旅行の機会がやってまいりました。OBにとっても「エライコッチャ。」と言うことになり、急遽連絡のとれ合うOBが松本氏を中心に何名か集り、訪米のための援助対策を講じたのであります。

丁度その頃、毎日放送の京都支局長だった野村忠氏(小生と同期)を中心に大々的な募金活動を行い、そのために何回もOBが寄り集まり相談を重ねるうちに、今迄知らなかったOB達との輪もだんだん広がって行きました。かくして無事訪米が大成功に終り、やれやれと一段落ついた時、これを機会にOB会を作ろうと言う声が上がって来ました。

小生も卒業と同時にOB会がないことを不思議に思っていた一人なので、これには大賛成でありました。

しかし、今迄皆の前でOB会のことを発言すれば何かをやらされそうだったので、それが嫌さに20年だまって来たのですが、事態はそんなことを言っておれない方に発展し、今この機会を逃せばOB会発足も当然無理なように思えました。そして、誰が言うともなくOB会発足へ進むようになり、再び松本氏を中心に規約の草案や、会の方針等が何回も検討され、やがて、初代幹事長に誰がなるかが問題になりましたが、悪い予感が的中し、京都在住の小生が指名されたのであります。そこで先づ頼りになるのは同期生しかありませんでしたので、野村・渋谷・渡辺の各氏と相談し、会長、副会長等は年輩者をお願いし、執行部を幹事会と称し、若手OBで固めようと言うことになり、今まで全く面識のなかった人々と知り合うことが出来ました。その中には現役時代にグリー60周年記念を経験した連中(彼等は現役時代よく小生宅に色々相談に来ていました。)も何人かいて、いささか心強く感じたものです。そして、昭和51年ようやく第1回OB会設立総会に漕ぎつけたのであります。その日迄費やしたOBの時間と費用はかなりなものになったと思います。又、そうまでして来られたのは、皆がOB会結成に並々ならぬ決意を燃していたからだだと思います。

発会当時の幹事諸兄が、如何にOBの為を思っていたかを証明する事件があったかを、OBの皆様にお知らせしておきたいと思います。

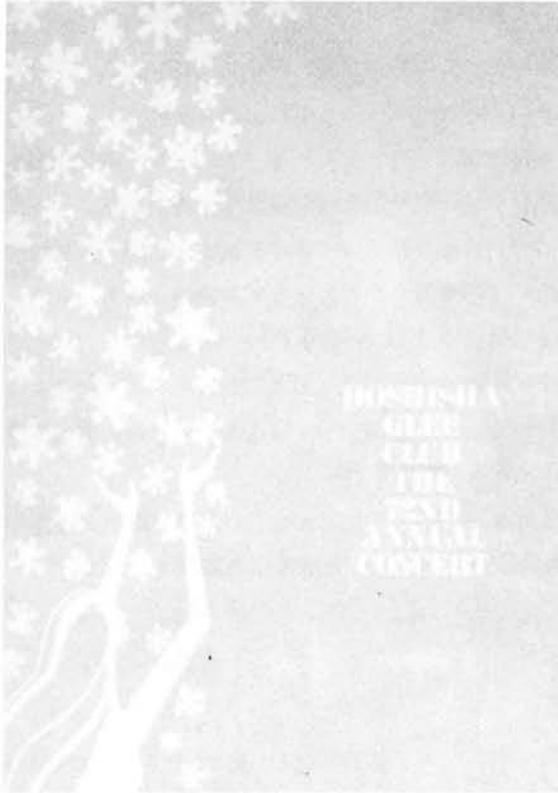
それは、OB会が発足し会費の徴集も順調に行き始めた頃、不幸にして盗難事件にあい、150万円もの会費が盗まれてしまいました。全国のOBから送られて来た大切なお金です。簡単に盗られましたではすまされないことでした。早速、幹事会を何回も開いて対策を考えた末、約20名の幹事が全員責任を負うことにし、大体頭割りこれを全額補填致しました。OB会のために貴重な時間を費やして、その上この大きな経済的負担は大変なことであります。しかし、諸兄はこの困難を負ってなおOB会発展のための協力を惜しまれなかつたのであります。

この事件以来、会計の実務は小生が預るようになり、今は専ら家内の手を煩わしている次第であります。

10月19日、第3回関西六大学合唱演奏会がフェスティバルホールで行なわれた。合同演奏は関屋晋氏指揮により、男声合唱組曲「海の構図」(小野純一詩・中田喜直曲・福永陽一郎編曲)を演奏した。

OB会発足と相前後して、東西四大学演奏会をOB仲間でも歌おうではないかとの声が上がった。これを受けて11月28日、四大学OB第一回打ち合せ会が行なわれた。同志社からは松本寛二氏、小田泰弘氏が出席し、次のことが決定された。①東西四大学OB合唱連盟(クローバークラブ、新月会、稲門グリークラブ、ワグネルOB合唱団)の設立。②2年に一度、東京と関西交替で演奏会を開催する。③昭和52年7月3日、第一回演奏会を行う。——等の内容であった。

12月14日、京都会館第一ホールで第72回定期演奏会が開催された。



第72回定期演奏会のプログラム

PROGRAM	
<p>Doshisha College Song 作詩 W.M.Vories 作曲 Carl Wilhelm</p>	<p style="text-align: center;">II</p> <p>合唱組曲 「光る砂漠」 作詩 矢津 幸 作曲 萩原英彦 編曲 福家謙一郎 指揮 福家謙一郎 ピアノ 長原優子</p>
<p style="text-align: center;">I</p> <p style="text-align: center;">Messe Solennelle (荘厳三曲)</p> <p>作曲 Albert Duhaupas 指揮 山下和昭</p> <p>Kyrie Gloria Credo Sanctus O. Solutaris Agnus Dei</p>	<p>再 会 恋の結でも 話んだあとのように 空 青 船で ほたるは 星になつた 道 石 秋の午後 さびしい道 ふるさと</p>
intermission	<p style="text-align: center;">III</p> <p style="text-align: center;">Sea Shanties</p> <p>編曲 福家謙一郎 Alice Parker & Robert Shaw 北村 英一 指揮 山下和昭</p> <p>Sailing Sailing 出帆だ、出帆だ Bound For The Rio Grande リス・グランパに向かつて What Shall We Do With The Drunken Sailor 酔いどれ水夫 Homeward Bound 家に向かひ The Drummer And The Cook ドラマーと料理師 Spanish Ladies スペインの貴婦人</p>
	<p style="text-align: center;">IV</p> <p>男声合唱組曲 「月光とビエロ」 作詩 若口 大孝 作曲 清水 梧 指揮 福家謙一郎</p> <p>月 夜 秋のビエロ ビエロ ビエロの唄 月光とビエロと ビエレットの貴婦人様</p>

12月17日、広島メサイア演奏会に招かれ、7回目の参加となった。

12月20日、大阪毎日ホールで日本ライトハウス主催の第1回チャリティーショー「関学・同志社グリークラブ演奏会」が行なわれた。

12月25日、第12回全同志社メサイア演奏会が京都会館第一ホールで行なわれ、この年も終わった。



昭和52年 (1977)

この年の春にはテレビの出演が
あいつぎ、4月2日朝日放送テレビ
「土曜の朝に」、4月18日関西テレビ「奥様リビング」、5月
21日「八木治郎ショー」などに出演した。

6月19日、大阪フェスティバルホールで第7回同志社
・関学グリークラブ交歓演奏会が開催された。

つづいて6月25日には東京文化会館、26日新宿厚生年
金会館で第26回東西四大学合唱演奏会が行なわれた。ま
たその日、東芝レコード・男声合唱とピアノのための「
夕やけの歌」(川崎洋詩・湯山昭曲)のレコーディングを
指揮福永陽一郎氏、ピアノ伴奏久邇之宜氏と共に東芝E
MIスタジオで行った。

7月3日、昨年来計画されていた第1回東西四大学O
B合唱演奏会が東京の九段会館で開催された。

第7回同志社・関学交歓演奏会のプログラム

Program

エール交歓
Doshisha College Song
A Song For Kwansai



ロシア民謡集

ガリンカ
鐘の音は甲斐に響く響く
ボルガの市街
赤いサラファン
コサックの子守唄
カチユーシヤ

指揮 横関啓夫



組曲「夕やけの歌」より

宝 石

作 詩 関 根 栄 一
作 曲 湯 山 昭
編 曲 福 永 陽 一 郎

指揮 横関啓夫



男声合唱組曲
「雪明りの路」

春を待つ
船ちゃん
月夜を歩く
白い雫子
夜まわり
雪 夜

作 詩 関 根 栄 一
作 曲 多 田 武 彦
編 曲 林 聖 之



休 憩



合唱組曲
「日 曜 日」
—ひとりのぼつらの新ワッ
—朝

街 で
か え り 道
て が み
あ や ぎ み

作 詩 湯 山 昭 三
作 曲 南 安 雄
指揮 北 村 隆 一
ピアノ 久 邇 之 宜



東洋合唱とピアノのための
ゆうやけの歌

作 詩 川 崎 洋
作 曲 湯 山 昭
指揮 福 永 陽 一 郎
ピアノ 久 邇 之 宜

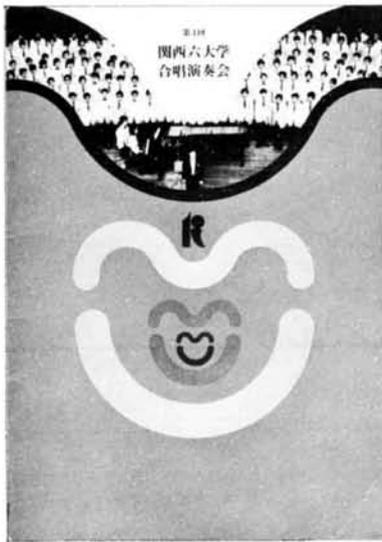
Sea Chanties
Spanish Ladies
Swansea Town
What shall We do
with the drunken sailor
Whup! Jamboree

指揮 横関啓夫
林 聖 之

グリークラブのテレビの出演は春につづいて、7月23日、毎日放送の「オーケストラがやって来た」、さらに9月4日には大阪のNHKスタジオで、TV番組「NHK近畿'77-歌だ若さだ、にしひがしー」の録画が行なわれ、新月会・関西学院グリークラブ・クローバークラブ・同志社グリークラブが出演した。この番組は、日本合唱界に貢献した関学・同志社の現役とOBを紹介しようというもので、それぞれのファンも登場した。新月会は「この道」、関学グリーは「U Boj」、クローバークラブは「希望の島」、同志社グリーは「Ride the Chariot」を歌い、合同で「最上川舟唄」を演奏した。



「NHK 近畿'77年-歌だ若さだ、にしひがし-」
(1977.9.4.)



9月21日、22日の両日にかけて、大津市民会館で東芝レコード「グリークラブアルバムⅢ・Ⅳ」のためのレコーディングを行った。

11月3日、大阪フェスティバルホールで第4回関西六大学合唱演奏会が開かれた。

第4回関西六大学合唱演奏会のプログラム

★ PROGRAM ★	
★ エール交換	
<ul style="list-style-type: none"> 関西学院大学 大阪大学 同志社大学 関西大学 立命館大学 	
★ 第1部	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 関西学院グリークラブ ミュージカル「南太平洋」より 1. 戦場の海 2. 友の予け歌 3. わたしに告げて 4. 勇ましく歩め 5. 友の心で 6. 勝利の歌 	<ul style="list-style-type: none"> 作詞・O. ハーマズタイン 作曲: 田代百合子 合唱指揮: 北村 隆一 伴奏指揮: 西 田 浩 指揮: 梅 岡 正 ピアノ: 山 本 寛 平
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 大阪大学男声合唱団 合唱による風土記「阿波」 1. 阿波の島 2. 阿波の島 3. 阿波の島 4. 阿波の島 5. 阿波の島 	<ul style="list-style-type: none"> 作詞: 北 村 隆 一 作曲: 北 村 隆 一
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 同志社グリークラブ 男声合唱組曲「沙羅」 1. 序 2. 阿波の島 3. 阿波の島 4. 阿波の島 5. 阿波の島 6. 阿波の島 7. 阿波の島 8. 阿波の島 	<ul style="list-style-type: none"> 作詞: 北 村 隆 一 作曲: 北 村 隆 一 編曲: 梅 岡 正 指揮: 梅 岡 正 ピアノ: 山 本 寛 平
★ 第2部	
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 甲南大学グリークラブ 男声合唱組曲「おしとん子守唄」 1. おしとんの子守唄 2. おしとんの子守唄 3. おしとんの子守唄 4. おしとんの子守唄 5. おしとんの子守唄 	<ul style="list-style-type: none"> 作詞: 北 村 隆 一 作曲: 北 村 隆 一 編曲: 梅 岡 正 指揮: 梅 岡 正 ピアノ: 山 本 寛 平
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 関西大学グリークラブ 男声合唱組曲「道徳の意」 1. 道徳の意 2. 道徳の意 3. 道徳の意 4. 道徳の意 5. 道徳の意 6. 道徳の意 	<ul style="list-style-type: none"> 作詞: 北 村 隆 一 作曲: 北 村 隆 一 編曲: 梅 岡 正 指揮: 梅 岡 正 ピアノ: 山 本 寛 平
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 立命館大学メンネルコール 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」 1. 枯木は知りながら 2. 枯木は知りながら 3. 枯木は知りながら 4. 枯木は知りながら 	<ul style="list-style-type: none"> 作詞: 北 村 隆 一 作曲: 北 村 隆 一 編曲: 梅 岡 正 指揮: 梅 岡 正 ピアノ: 山 本 寛 平
★ 合同演奏	
<ul style="list-style-type: none"> 1. 「阿波の島」(合唱団の合唱) 2. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 3. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 4. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 5. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 6. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 7. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 8. 「阿波の島」(男声合唱団の合唱) 	



12月10日には、大阪毎日ホールで同志社グリークラブ・クローバークラブジョイントコンサートを行った。

さらに12月14日、京都会館第一ホールで第73回定期演奏会を開催した。

そして、12月24日、京都会館第一ホールで第13回全同志社メサイア演奏会に参加し、この年も終了した。

PROGRAM

Doshisha College Song
 作詞 W.M. Vorhes
 作曲 Carl Winsett

12月14日
 京都会館第一ホール

INTERMISSION

3. Cole Porter 名曲集より

NIGHT AND DAY 編曲 福永隆一郎
 IN THE STILL OF THE NIGHT 編曲 林 武之
 BEGIN THE BEGIN 作曲 福永隆一郎

4. 聖歌の類とピアノのための

風の中で歌う空っほの子守唄
 作詞 藤原伸太郎
 作曲 中村茂隆

聖歌の類とピアノのための

ゆうやけの歌
 作詞 川崎 洋
 作曲 藤山 崇
 編曲 福永隆一郎
 ピアノ 久遠辺 真

1. 聖歌の類編曲

沙 羅

作詞 森 山 公
 作曲 山崎 実
 編曲 福永隆一郎
 作詞 林 武之
 作曲 福永隆一郎
 作詞 丸山 和雄
 作曲 丸山 和雄

2. CHANTS D'AUTOMNE
 秋の歌 詩 聖 SAEGHO
 SÉRÉNADE DHILVER
 夜歌のレナード 詩 H. SAZAKI
 HYMNE AU PRINTEMPS
 春の讃歌 詩 J. ROSENOT
 作曲 © SAINT-SAËNS
 編曲 福永隆一郎

PHOTO 記録・舞台写真

(株)大阪フォト サービス カンパニー

大阪市西区船場3-5-8(第3番内)111
 PHONE 06(4)4317608-7609

第73回定期演奏会のプログラム

昭和53年
(1978)

3月23日、ウイスコンシン州立大学演奏会が同志社大学学館ホールで行なわれ、グリークラブも賛助出演した。



この年も、テレビの出演が相つぎ、4月19日、関西テレビ「ミュージックフェア」(大阪厚生年金会館大ホール) 4月21日、関西テレビ「奥様リビング」、6月23日、朝日放送「プラスα」などに出演した。

6月25日には大阪フェスティバルホールで第27回東西四大学合唱演奏会が開催され、11月3日にもフェスティバルホールで第5回関西六大学合唱演奏会が行われた。

PROGRAM

エール交歓 同志社グリークラブ
関西学院グリークラブ
大阪大学男声合唱団
立命館大学メンネルコール
甲南大学グリークラブ
関西大学グリークラブ

第1部

甲南大学グリークラブ
男声合唱組曲「北斗の海」
1. Bering-fantasy
2. 窓
3. 風景 作詞 草野心平
4. 海 作曲 多田武彦
5. エリモ岬 指揮 橋上隆人

関西学院グリークラブ
Robert Shaw 愛唱曲集
1. Seeing Nellie Home 編曲 Robert Shaw
2. Aura Lee 指揮 宇都宮義章
3. Lili Liza Jane
4. Love's Old Sweet Song
5. Good Night, Ladies

立命館大学男声合唱団
合唱のためのコンポジション第6番
— 男声合唱のためのコンポジション —
○ 第I楽章 作曲 関宮芳生
○ 第II楽章 指揮 藤井豊史
○ 第III楽章

— Intermission —

第2部

立命館大学男声合唱団
男声合唱組曲「青い照明」
I. 暮春天子
II. 未来園からの影
III. 森 作詞 宮沢賢治
IV. 閑壁 作曲 清水信雄
V. 高原 指揮 米山卓男

甲南大学グリークラブ
運命の歌 — SCHICKSALS LIED —
作詞 F. Hölderlin
作曲 J. Brahms
編曲 北村協一
指揮 古黒純一
ピアノ 森本恵子

関西大学グリークラブ
男声合唱組曲「雪明りの路」
1. 春を待つ
2. 梅ちゃん
3. 月夜を歩く
4. 白い種子 作詞 伊藤 豊
5. 夜まわり 作曲 多田武彦
6. 雪夜 指揮 松川 昭

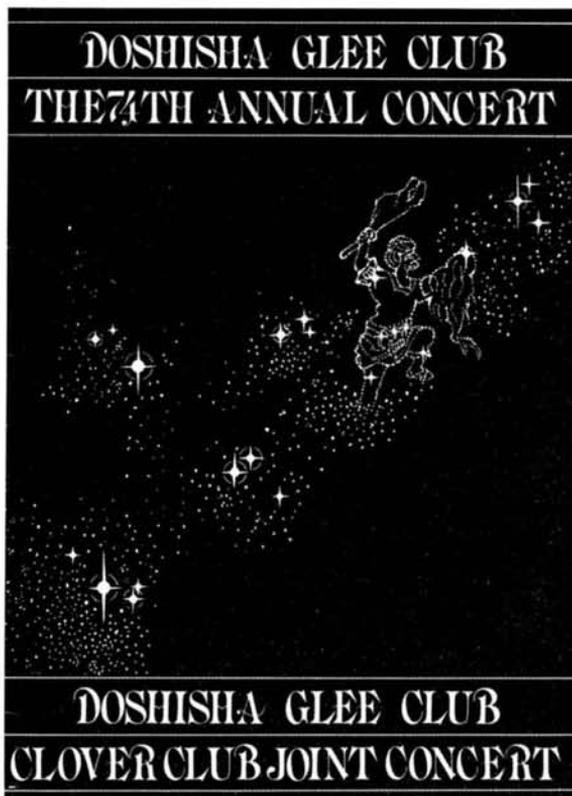
第3部

合同演奏
男声合唱のための「おおさか」
— 関西六大学合唱連盟本年度委嘱作品 —
作曲 外山雄三
指揮 外山雄三
ピアノ 加藤八千代

司会 キダ・クロウ

- 4 -

第5回関西六大学合唱演奏会のプログラム



12月14日、大阪毎日ホールで昨年にひきつづき同志社グリークラブ・クローバークラブジョイントコンサートが催され、12月20日には京都会館第一ホールで第74回定期演奏会が開催された。この定期演奏会から、富岡健氏(昭49卒)が正式に指揮者としてグリークラブに迎えられ、技術指導にあたることになった。



富岡 健氏

12月25日には、京都会館第一ホールで第14回全同志社メサイア演奏会が行われ、この年の活動を締めくくった。

PROGRAM		PROGRAM	
<p>同志社グリークラブ・クローバークラブ ジョイントコンサート</p> <p>12月14日(木) 大阪毎日ホール</p> <p>Doshisha College Song 作詞 WM Vories 作曲 Carl Wilhelm</p>		<p>「北斗の海」</p> <p>1. Being Fantasy 2. 空 3. 風景 4. 海 5. エリモ岬</p> <p>作詞 草野 心平 作曲 幸田 武彦 指揮 橋上 雅人</p>	
<p>Mass in honor of Saint Sebastian</p> <p>1. KYRIE 2. GLORIA 3. CREDO 4. SANCTUS 5. BENEDICTUS 6. AGNUS DEI</p> <p>作曲 Hector Villa Lobos 編曲 堀内隆一郎 指揮 堀内隆一郎</p>		<p>INTERMISSION</p> <p>Negro Spirituals</p> <p>1. Ev'ry Time I Feel the Spirit 2. Mary Had A Baby 3. My Lord, What a Mornin' 4. Ain't That Good News?</p> <p>指揮 山下 裕司</p>	
<p>四つの仕事唄</p> <p>1. 築し 田 2. 石切 唄 3. 羽 織 き 4. 酒 屋 唄</p> <p>作曲 小山 清次 指揮 富岡 健 太鼓 三輪 勇</p>		<p>Seven Beatles Numbers</p> <p>1. DAY TRIPPER 2. HERE, THERE AND EVERYWHERE 3. GIRL 4. OB LA DI, OB LA DA 5. MICHELLE 6. ELEANOR RIGBY 7. YESTERDAY</p> <p>編曲 宮崎 巧郎 指揮 富岡 健 ドラム 高橋 孝子</p>	

第74回定期演奏会のプログラム

指揮者 富岡 健氏を迎えた経緯

千代沢 修一（昭和55年卒）

昭和54年の夏、学生指揮者の樋上さんが、74回の定演で健先生に指揮をお願いすることを決めました。そしてそれをきっかけに、夏合宿中に幹事の間で、今後もずっとグリーの指導をお願いするべきかどうかについて、福永先生もまじえて話し合いました。福永先生から、現在の合唱界における指導者の高齢化と若い世代への移行の遅れについてのお話を伺いました。慶応の木下、畑中両先生、関学の北村先生、そして同志社の福永先生といった具合に、いつかは下の代の指導者に移譲せねばならぬ時が来るのに、指導者にも学生にもそれをできるだけ引き伸ばしたい、少なくとも自分達の代にはそうした変化が起こってほしくないとの考え方が支配的であり、どの合唱団でも決断しかねているのではないかと。今、幸い我々には富岡先生という若い優秀な指導者に恵まれており、他の合唱団に先駆けて、先生をお迎えし、ご指導いただくとの主旨の下に意見は一致しました。さて、そこで就任いただくポジションの名称について、様々な案が出ましたが、実質的な常任指揮者である「技術顧問」の福永先生との関係もあり、最終的には最もシンプルな「指揮者」とすることで決定した次第です。

「同志社グリークラブ指揮者 富岡健」のデビューは、昭和53年12月14日、大阪毎日ホールで行われたクローバークラブとのジョイントコンサートの第5ステージ「セブン・ビートルズナンバー」でした。その後、昭和54年の東西四連、中国演奏旅行と次々に大舞台をこなしていかれました。

こうして福永先生とともに同志社グリーの二枚看板としてご活躍いただくことになった訳です。



昭和56年11月9日に発行された同志社礼拝堂の切手
(近代洋風建築シリーズ)



グリークラブ歴代指揮者氏名



- | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 片桐 哲
(明治44年9月—大正2年3月) | 21. 内山 正作
(昭和21年5月—昭和21年11月) | 42. 富岡 健
(昭和46年12月—昭和48年12月) |
| 2. 浜田 格
(大正2年4月—大正3年12月) | 22. 織田 幹雄
(昭和21年12月—昭和24年11月) | 43. 大畠 功
(昭和48年12月—昭和49年12月) |
| 3. 平田 甫
(大正4年1月—大正7年3月) | 23. 日下部 吉彦
(昭和24年12月—昭和26年11月) | 44. 山口 正
(昭和49年12月—昭和50年12月) |
| 4. 水谷 央
(大正7年4月—大正7年7月) | 24. 間淵 孝志
(昭和26年12月—昭和27年3月) | 45. 山下 裕司
(昭和50年12月—昭和51年12月) |
| 5. 露口 四郎
(大正7年9月—大正7年12月) | 25. 寺本 和市
(昭和27年4月—昭和28年11月) | 46. 林 宏之
(昭和51年12月—昭和52年12月) |
| 6. 湯浅 永年
(大正8年1月—大正9年12月) | 26. 渋谷 昭彦
(昭和28年12月—昭和29年10月) | 47. 樋上 雅人
(昭和52年12月—昭和53年1月) |
| 7. 山口 隆俊
(大正10年1月—大正11年12月) | 27. 野村 忠
(昭和29年10月—昭和30年10月) | 48. 千代沢 修一
(昭和53年1月—昭和54年1月) |
| 8. 三輪 雅夫
(大正12年1月—大正13年4月) | 28. 河原林 昭良
(昭和30年11月—昭和33年1月) | 49. 池尻 隆弘
(昭和54年1月—昭和55年1月) |
| 9. 森本 芳雄
(大正13年5月—大正15年11月) | 29. 市島 章三
(昭和33年1月—昭和34年1月) | 50. 芦田 直幸
(昭和55年1月—昭和56年1月) |
| 10. 山田 基男
(大正15年12月—昭和5年11月) | 30. 森本 潔
(昭和34年1月—昭和36年1月) | 51. 楠 敏也
(昭和56年1月—昭和57年1月) |
| 11. 岸田 治夫
(昭和5年12月—昭和7年11月) | 31. 浅井 敬壹
(昭和36年1月—昭和37年1月) | 52. 須藤 彰治
(昭和57年1月—昭和58年1月) |
| 12. 今西 善治郎
(昭和7年12月—昭和9年1月) | 33. 中川 清
(昭和38年11月—昭和39年11月) | 53. 高橋 圭二
(昭和58年1月—昭和59年1月) |
| 13. 太田 三郎
(昭和9年1月—昭和13年3月) | 34. 中野 皓夫
(昭和39年11月—昭和40年12月) | |
| 14. 千葉 昌良
(昭和13年4月—昭和14年3月) | 35. 渋谷 和彦
(昭和40年12月—昭和41年12月) | |
| 15. 大槻 彰
(昭和14年4月—昭和15年11月) | 36. 太田 睦夫
(昭和41年12月—昭和42年3月) | |
| 16. 遠藤 彰
(昭和15年12月—昭和16年4月) | 37. 広野 寛
(昭和42年3月—昭和42年11月) | |
| 17. 岸田 耕一
(昭和16年4月—昭和16年12月) | 38. 桑山 博
(昭和42年11月—昭和42年12月) | |
| 18. 前窪 一雄
(昭和16年12月—昭和18年8月) | 39. 西野 正教
(昭和42年12月—昭和43年11月) | |
| 19. 内山 正作
(昭和18年9月—昭和18年11月) | 40. 高田 英生
(昭和43年11月—昭和45年12月) | |
| 20. 沖口 優
(昭和20年10月—昭和21年4月) | 41. 目 秀雄
(昭和45年12月—昭和46年12月) | |

昭和54年 (1979)

この年はグリークラブ創立75周年にあたっていたため、それを記念して、昨年より中国演奏旅行が計画されていた。上海、南京、西安、天津、北京などの都市で演奏会を開く企画で、現役の中に「訪中実行委員会」(メンバー米津吉和氏、河相誠之氏、山下秀幸氏、—以上昭55年卒、荒井宏之氏、多々清爾氏、改正将夫氏、大下信雄氏—以上昭56年卒)を結成し、準備をすすめていた。しかし、中国で

演奏会ができるのかどうか、資料が皆無で、試行錯誤をくりかえしながらも、情報集めとOBへの協力を要請していた。OBもこれに応え、募金活動を開始した。

また、時を同じくして、OB会も11月に台湾演奏旅行を計画しており、準備に入っていた。

5月30日、大阪フェスティバルホールで第8回同志社・関学交歓演奏会を行った。



第8回同志社・関学交歓演奏会のプログラム

PROGRAM

エール 交歓
 * 同志社グリークラブ
 * 関西学院グリークラブ

I. 同志社グリークラブ
日本民謡集
 1. 大漁祝い
 2. 牛追い唄
 3. 八木節
 4. 五つ木の子守唄
 5. おてもやん
 指揮 千代沢 修一

II. 関西学院グリークラブ
Negro Spirituals
 1. Every Time I Feel the Spirit
 2. Swing Low, Sweet Chariot
 3. Ain't-a That Good News?
 4. There Is A Balm In Gilead
 5. Soon Ah Will Be Done
 編曲 WILLIAM L. DAWSON
 指揮 広瀬 康夫

III. 同志社グリークラブ
 男声合唱と打楽器のための
もぐらの物語
 1. 目覚めの挨拶
 2. 遠い星に
 3. 地底の傷み
 4. 東の間のやすらぎの中で
 5. 闇から闇を
 作詞 小田切清光
 作曲 三木 雄
 指揮 富岡 健
 打楽器伴奏 松永 吉明
 永井麻利子

IV. 関西学院グリークラブ
 “フランスの詩による男声合唱曲集”
月下の一群
 1. 小 曲 (フィリップス・シヤヴァネックス)
 2. 輪踊り (ゴール・フォール)
 3. 人の言ふことを信じるな
 (フランクス・ジヤム) 訳詞 堀口 大 豊
 4. 海よ (催眠歌) (アンドレ・エビール) 作曲 南 弘 明
 5. 秋の歌 (ゴール・ヴェルレーヌ) 指揮 北村 操一
 ピアノ伴奏 塚田 佳 男

V. 合同曲
ミュージカル名曲集より
 1. “オクラホマ”より オクラホマ
 2. “学生王子”より セレナーデ 指揮 千代沢 修一
 3. “サウンドオブミュージック”より ドレミの歌 広瀬 康夫
 4. “南太平洋”より 女の子が一番 ピアノ伴奏 廣瀬 康夫

つづいて、6月24日東京文化会館、25日新宿文化センターで第28回東西四大学合唱演奏会が行われ、6月30日には、京都大谷ホールで第20回立教・同志社グリークラブ交歓演奏会を開催した。

また、第2回OB四連が今年は関西での開催で、同志社(クローバー)が幹事校であった。7月15日、京都会館第一ホールで第2回東西四大学OB合唱演奏会が開催され、大成功であった。



PROGRAM	
エール文歌 立教大学グリークラブ 同志社グリークラブ	
I 立教大学グリークラブ 「瀬河風俗詩」	II 同志社グリークラブ 「蛙の歌」
1. 柳河 作詞 北原白秋	1. 小曲 作詞 藤野心平
2. 柳河みち 作詞 北原白秋	2. 小曲 作詞 藤野心平
3. 柳河みち 作詞 北原白秋	3. 柳河みち 作詞 藤野心平
4. 柳河みち 作詞 北原白秋	4. 柳河みち 作詞 藤野心平
5. 柳河みち 作詞 北原白秋	5. 柳河みち 作詞 藤野心平

III 立教大学グリークラブ 「アーン歌曲集」より	IV 同志社グリークラブ 「もぐらの物語」
1. D'une prison (牢獄から)	1. 目覚めの夜明け
2. Infinité (無限)	2. 遠い星に
3. Si mes vœux avaient des ailes (わたしの願いが翼があれば)	3. 地底の痛み 作詞 小園純子
4. Quand je suis près de partir (わたしが去るとき)	4. 夏の夜のやみぐら 作詞 三木 隆
5. Passage (夢遊) 作詞 北原白秋	5. 夢の夜のやみぐら 作詞 三木 隆
6. Mai (五月) 作詞 北原白秋	

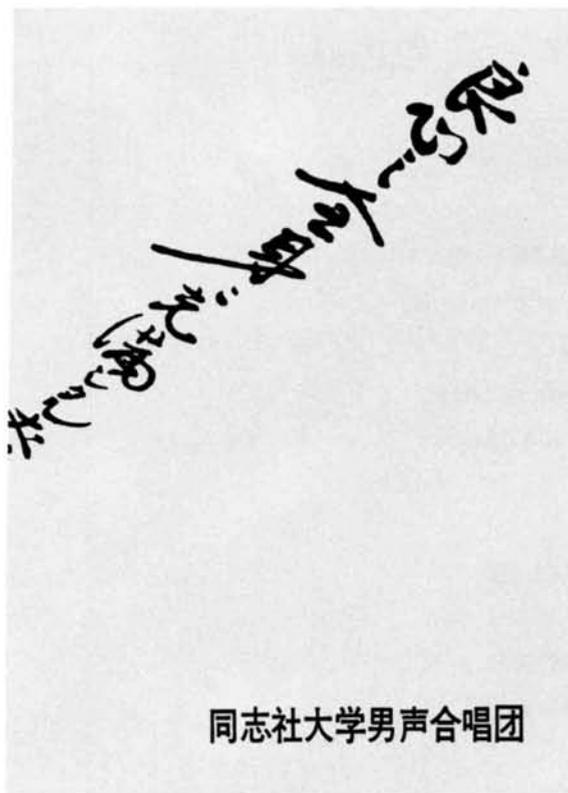
V 合同曲 「富士山」	
1. 作品発表	
2. 作品発表	
3. 作品発表	
4. 作品発表	
5. 作品発表	

第20回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

7月20日、現役はいよいよ中国演奏旅行の出発を迎えていた。ところが、現役訪中実行委員会のメンバーは少なからず不安を抱いていた。というのも、今になっても「いつ、どこで、何回位演奏会が開けるのか、日程が全くわからなかった。」からであった。(後日談「各都市について、はじめてそれがわかるという具合でした。')と
はいうものの、音楽を通して、両国民の心の交りを深め、文化の交流と国際親善の決意を新たにして、午後2時成田空港を出発した。

訪中旅行日程表

- 7月20日 京都駅 7時29分発「ひかり」にて東京へ 成田空港15時45分発 18時50分 上海着
- 7月21日 上海市青年宮にて演奏会
- 22日 豫園公園見学「青年宮」の人達と懇談会
- 23日 「少年宮」訪問、南京着
- 24日 「中山陵」観光、南京芸術劇場にて演奏会
- 25日 「長江大橋」観光、「江蘇省歌舞団」と懇談会「泪血桜花」観劇
- 26日 「去武湖」、「南京動物園」観光 昼食後、西安へ出発
- 27日 午後10時12分 西安着、「大雁塔」・「陝西省博物館」見学、西安市革命委員長主催レセプション
- 28日 「始皇陵」見学、西安市立「五・四劇場」にて演奏会
- 29日 「西安京都友好人民公社」訪問、「陝西省歌舞団、西安市歌舞団」と交流会、「三鳳」観劇
- 30日 北京着、「頤和園」見学、天津着
- 31日 天津市青年宮で天津市歌舞団と交歓演奏会
- 8月1日 北京着、「天安門」・「故宮」見学
- 2日 「万里長城」見学、崇文区工人倶楽部にて演奏会
- 3日 午前7時45分北京発 帰国



訪中団は団長・遠藤彰、副団長・山下秀幸、秘書長・米津吉和、指揮者・富岡健、ピアニスト・山本優子、アシスタント・長島多美子、日中友好協会・吉田与和、岸本敏子、随員・東百合枝外40名であった。今回の演奏旅行を大成功に終えることができたのも、OBはじめ、京都府日中友好協会(会長依田義賢氏)、日中友好京都婦人文化会議(議長松井かつえ氏)、学校法人同志社らの多大な後援や、京都市長船橋求己氏から西安市革命委員会主任、陳元方氏への親書を託されたこと、また、京都府日中友好協会の常任理事吉田与和氏が随行して下さったことなどがあげられよう。

节目单	
+ 第一部 +	
日本之抒情	
1. 北斗之海	作曲 多田武彦 作词 草野心平
2. 富士山	作曲 多田武彦 作词 草野心平
3. 卖东西的	作曲 多田武彦 作词 中 熟助
4. 雨 声	作曲 多田武彦 作词 八木重吉
5. 樱花谢	作曲 多田武彦 作词 草野心平
	指挥 富岡 健
+ 第二部 +	
为男声合唱和钢琴演奏 鼯鼠的故事	
1. 觉醒时的问候	
2. 向遥远的星星	作词 小田切清光
3. 地底中的痛苦	作曲 三木 聡
4. 在瞬时的安慰中	指挥 富岡 健
5. 从黑暗到黑暗	钢琴伴奏 山本优子
+ 第三部 +	
世界的歌曲	
1. 美丽的阿马立力	作曲 GIULIO-CACCINI(1545?-1618)
2. 矛 盾	作曲 F.SCHUBERT(1797-1828)
3. 洛克洛梦	美国民谣 编曲 ROBERT SHAW
4. 申喃多亚	美国民谣 编曲 同上
5. 冬天的小夜曲	作曲 Saint-Saens(1835-1921)
	指挥 富岡 健
	钢琴伴奏 山本优子
+ 第四部 +	
日本民谣和童谣	
1. 拉网小调	(北海道)
2. 五木摇篮曲	(熊本县)
3. 阿提木姑娘	(熊本县)
4. 七个小孩子	(鹿 冈)
5. 沙 山	(新潟县)
6. 红 蜻 蜓	(鹿 冈)
7. 最上川舟歌	(山形县)
	指挥 富岡 健
	千代津藤一

中国演奏旅行のプログラム

コンサート・ツアー演奏曲目

第1ステージ「世界のうた」

指揮 富岡 健 ピアノ伴奏 山本優子

1. シューベルト男声合唱曲集より
Widerspruch 作曲 FRANZ SCHUBERT
2. Amarili mia bella 作曲 Giulio Caccini
3. Shenandoah 米国民謡
編曲 Robert Shaw
4. 冬のセレナーデ 作詩 H.CAZALIS
作曲 C.SAINT - SAËNS

第2ステージ「日本の抒情」

指揮 富岡 健

1. 男声合唱組曲「北斗の海」より
Bering-fantasy 作詩 草野心平
作曲 多田武彦
2. 男声合唱組曲「富士山」より
作品第拾捌 作詩 草野心平
作曲 多田武彦
3. 男声合唱組曲「中勘助の詩から」より
ふり売り 作詩 中 勘助
作曲 多田武彦
4. 男声合唱組曲「草野心平の詩から」より
さくら散る 作詩 草野心平
作曲 多田武彦
5. 男声合唱と打楽器のための「もぐらの物語」より
地底の傷み 作詩 小田切清光
作曲 三木 稔
ピアノ伴奏 山本優子

第3ステージ「日本民謡・童謡集」

1. そうらん節 北海道民謡 作曲 清水 脩
編曲 福永陽一郎
2. 五つ木の子守唄 熊本地方民謡 編曲 福永陽一郎
3. おてもやん 熊本地方民謡 編曲 福永陽一郎
4. 七つの子 作詩 野口雨情 作曲 本居長世
編曲 福永陽一郎

以上 指揮 千代沢修一

5. 村祭り 小学唱歌
6. 赤とんぼ 作詩 三木露風 作曲 山田耕筰
編曲 福永陽一郎

7. 最上川船唄 山形県民謡 作曲 清水 脩
以上 指揮 富岡 健

アンコール

1. 火車向着韶山砲 作詩 張 秋生
作曲 程金元・薄三谷
編曲 藤井俊之

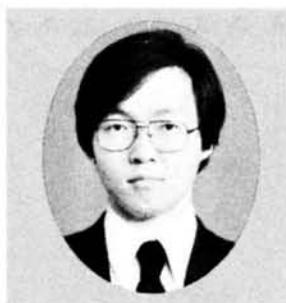
2. タやけ小やけ 作詩 中村雨紅 作曲 草川 信
編曲 福永陽一郎

3. 我愛北京天安門 作詩 金果臨 作曲 金 月苓
編曲 藤井俊之

訪中記念ペナント贈呈先

上海市青年宮 上海市少年宮 南京大學
南京市歌舞団 西安市革命委員会 西安京都友好人民公社
西安市歌舞団 陝西省歌舞団 中国音楽協会天津支部
天津市歌舞団 天津市芸術学院 天津市青年宮合唱団
天津市革命委員会 北京放送協会 楊元忠(全日程随員)
金伏来(全日程随員) 中日友好協会

「ホンロン」—中国演奏旅行—



山下 秀幸 (昭和55年卒)

5年を経た今でも、表紙に新島襄先生の「良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ」と書いた中国語のパンフレット（現地で配ったもの）を見ると、いつも、熱いものがこみ上げてきます。「あれは、私の青春だったのだ。」と断言できる程、自分が燃焼した時間でした。

創部75周年の記念事業として計画した中国への演奏旅行は、日本で最初ということもあって、実現するまでの過程は試行錯誤の連続であったからです。計画してみたものの、訪中の為の資料が殆んど無いため、京都市の外事課へ行き、その方法・手段などを聞いたり、渡米時のマネージャー氏を東京まで尋ねて、演奏旅行のマネジメントを伺うなど、積極的に動いて、多方面に働きかける以外、実現への道はありませんでした。そんな矢先の日中友好協会の方々との出会いは、非常に幸運でした。訪中が実現へ向かって、急速な進展を見たからです。ただ、見通しはついたものの事前に、いつ、どこで、何回位、演奏会が開けるのか、日程が全くわからず、ましてや、宿泊先すら不明ということで、マネージ面での不安は、一向に無くなりませんでした。

そんな苦しい状況の中で、挫けそうになる私達を、精神面で、また募金活動で、支えて下さったOBの皆様の励ましは、どんなに私達を勇気づけたかわかりません。また、故片桐先生宅を訪問した際に、「自分達が、企画して実現させようと精一杯頑張ることは、とても尊い。学生らしい真摯な態度で、

是非成功させてきなさい。」と大きな手で握手していただいた時の、あのぬくもりを私は生涯忘れません。そうした各方面からの多大なご支援を受けて、とうとう、日本の合唱団として初めて中国の大地を踏むことが出来たわけですが、その行く先々で、非常に熱烈な歓待を受け、演奏内容は高い評価を得ました。

上海青年宮、南京芸術劇場、西安「五・四劇場」、天津・青年宮、そして北京の崇文区工人倶楽部での演奏会はピンとした緊張感にみなぎり、中国の人々の真剣な眼差しには、なみなみならぬ音楽への熱意が、ひしひしと私達に伝わってまいりました。

また、歌舞団との交流も随所で設けられ、60年代の不幸な時代を乗り越えたハイレベルな演奏は、私達のど肝を抜きましたし、音楽というカテゴリーをこえて、政治にまで及んだ討論会は、意義深く、かけがえのないものになりました。私達は、演奏会の他、空港、公園、学校、中山陵などの観光地で、盛んにデモストを行いました。特に「ホンロン」と名付けた「火車向着韶山砲」(藤井俊之先輩編曲)を中国語で歌うと、大きな喝采をうけ、人垣が幾重にもふくれあがり、その聴衆との大合唱は、あたかも中国を越えて日本まで届いたかのようでした。

当時、海外への演奏旅行、特に欧米諸国へのそれは、一種のブームの感がありました。現に、時を同じくして、関西学院、慶応、立教、早稲田も福永先生と共にヨーロッパに出かけて好評を博していました。そんな中で、私達が政治色の異なる中国を選んだのは、誰も行っていない地で、演奏を聞いてもらいたい、力を試したいという発想からでした。

それだけに多くの困難を伴ったわけですが、訪中の成功は、部員50名が、いい演奏をして、高い評価を得たという事実だけでなく、自由なる音楽が復興して間もなかった中国で、彼らの心に些かでも深い感動を残せたという満足感であるように思われます。

その年の定演での終曲に「見果てぬ夢」を歌いましたが、訪中という「見果てぬ夢」を自分のものに昇華させた、部員の一人一人の心の中に、永久にその満足感は消えることがないでしょう。



同志社グリークラブ訪中記

訪中記録担当

梶浦 義人 (昭和55年卒)

7月20日(金) 出発

午後7時20分、OB諸氏、日中友好協会諸氏らに見送られ、京都をあとにする。待ちに待った我々の旅がいに始まったのだ。この演奏旅行は、我々自身のためにも、支援して下さった多くの人々のためにも是非とも成功させねばならない。

午後3時45分、雨にけむる成田を離陸、6時50分に上海着。広大な飛行場には、飛行機の姿も人の姿もあまり見えない。飛行場の真中には畑があり、滑走路を自転車で走っているおじさんも見える。何とものんびりした風景だ。空港前でさっそく「カレソン」と「ホンロン」を歌い、氣勢をあげる。そのあとホテル「錦江飯店」に入り、夜は早速練習。

7月21日(土) 泗塘新村訪問 演奏会

朝から餃子が出るようなボリュームたっぷりの食事でお腹ごしらえをしたのち、泗塘新村を訪問した。ここは解放後相次いで建設された工場の労働者のための住宅地で、この中には百貨店、食品店、家具店、病院、銀行、学校等、ひととおり都市の機能が備えられている。今日はこの中で、病院と幼稚園、それに一般家庭を訪問した。各々について詳しく書いている余裕がないから割愛するが、ただ、真赤なドレスを身につけ、民族舞踊で我々を歓迎してくれた幼稚園の子らのかわいい姿が印象的だった。我々も、この子達の歓迎に応じて「ホンロン」、「夕やけ小やけ」等を歌った。

夜は、中国で初の本格的演奏会。上海市青年宮の野外ステージだ。我々の演奏に先がけて、青年宮合唱団の演奏を聞いたが、結成2ヶ月にもならないのにすばらしいまとまりを見せていた。特にテナーとソプラノがすばらしく、中国にも凄い合唱団があると認識した次第。我々の演奏はあまりよいできとは言えない。特に歌詞のうろ覚えの所が多く、冷や汗の連続だった。終了後指揮者らから、もう一度訪中の意義を各自考え直して反省せよとお叱りを受けた。演奏会では途中からの降雨にもかかわらず、多くの人が耳を傾けてくれた。

7月22日(日) 豫園公園見学 懇談会

午前中、約400年前に作られたという豫園公園を見学した。建築物と庭園が複雑に入り組んだ公園で、この中にある築山は高さ18mだが、山のない上海市で、かつて最も高い所だったという。午後からは青年宮の人達との懇談会、主に、中国での音楽、特に合唱音楽の現状、などについて話を交わした。音楽に限らず、中国の文化は四人組によって壊滅的打撃を受けたようである。懇談会終了後、青年宮合唱団の女声メンバーを加えた「混声合唱団」で、ホンロン、天安門、赤とんぼ等を歌い、友好の気運が大いに高まった。

7月23日(月) 少年宮訪問 南京へ出発

少年宮とは少年達が放課後の課外活動を行う所で市内に11ある。ここには毎日400人程の子供達が来て、興味、能力にあわせて、合唱、舞踊、合奏、絵画、書道等を行なっている。絵画や書道は大学生のものだとしても通用しそうなもので、このような、のばせる能力を大いにのばすといった教育は日本も見習わなければならない。この少年宮では子供達のために小演奏会を開き、日本の民謡童謡を歌う。昼食後、次の訪問地南京に向かって出発。

7月24日(火) 中山陵参観 演奏会

午前中孫文(孫中山)の陵墓である中山陵を観光した。その入口から、山の中腹にある祭堂までは、まっすぐ参道を通じ、そこにある階段は全部で392段。競って登ったが、日頃の運動不足のため、上に着く頃には息もたえだえであった。南京市を見おろすここで3曲ほど歌ったところ、この時配ったチラシが取りあいとなってケンカまでおこるといふハプニングがもち上がった。チラシひとつに対するとらえ方も日本とは違うのだということを感じた。

午後からは南京工学院で練習し、夜演奏会。今日の会場は芸術劇場といって、南京で一番のホールで、クーラーも完備されていた。演奏自体はまだ満足できるものではないが、今日特筆すべきことは、「ふり売り」の「さばよしかね」というかけ声を米津君が中国語でやり、喝采を博したことだ。それと中国では、低声で歌うことが珍らしいらしく、ベースのパートソロがあると笑い声が上がったりした。



南京工学院での演奏会

7月25日(水) 長江大橋参観 懇談会 観劇

午前中、揚子江にかけられた中国一の長江大橋を参観。この橋は当初ソ連の援助を受けて作る予定だったが、ソ連の技術撤退にもかかわらず国家の総力をあげて独力で完成させたという。中国人民の誇りとするものである。

午後は江蘇省歌舞団との懇談会。歌舞団はプロの音楽家達であるが、その実力はたいへん高く、ここのテナーの方は、イタリアのテナーと比べても、決してひけをとらないような立派なものだった。我々はこの席で「雨」を

はじめ、数曲を歌ったが、ソロをした小林君に人気が集まり、彼は質問攻めにあっていた。なお、友好の記念として歌舞団より、中国の歌曲の楽譜をいただいた。練習して定演で披露できればと思う。夜は、日本人女性と中国の青年を主人公にした劇「泪血桜花」を観た。

7月26日(木) 玄武湖参観 西安へ

玄武湖では、いくつかある島のうちのひとつを観光し、次に南京動物園を訪れた。ここで本場のパンダと対面したが、カメラを向けると、恥ずかしがって尻を向けてなかなか写真を撮らせてくれなかった。

ホテルで昼食の後、西安へ向けて出発、西安までは22時間の汽車の旅で、この時間を待っていたかのように、麻雀、トランプがえんえんくりひろげられたのである。

7月27日(金) 西安着 大雁塔 晩餐会

午前10時12分ようやく西安に到着、市革命委員会の出迎えを受け、そのまま宿舎大西安大廈に入った。さすがに22時間の旅はこたえたようで皆ぐたっとしていた。午後からはあの三蔵法師が建てたという、高さ64mの大雁塔を見、それから、王羲之、顔真卿らをはじめ、数千本の碑が林立する陝西省博物館を訪れた。この碑林は書道の心ある人ならば、なにもものにもかえがたい貴重なものである。

夜は西安市革命委員長(こちらでいう市長)主催のレセプションに出席、文字通り中国料理のフルコースで、最初は遠慮しながらももりもり食べたが、どんどんと料理が運ばれて来るため、ペース配分を誤って、後の方の料理が食べられなかった。残念である。それにしてもこれほどの歓待を受けるとは。明日の演奏会は頑張るぞ。

7月28日(土) 始皇陵参観 演奏会

22時間の汽車旅、それに昨夜の晩餐会で体調を崩したものがかなりいる。疲労も今がピークか。とまれ、今日午前は、始皇陵の東にある遺跡発掘現場を見た。バスケットコートが数十面もとれようかという広大な発掘地から全部で8,000体もの等身大の人形が出土するという。始皇帝の権力の大きさがうかがわれる。

午後練習をし、今夜はこの訪中でもメインの演奏会を迎える。場所は五・四劇場。このホールは今までの中でいちばんよく響き観客もざわつくことなく熱心に聴いてくれた。歌う側は、体調を崩す者が続出するなかで、精



西安市「五・四劇場」での演奏会

一杯気力をふりしぼって歌った。その気迫が表に出たのか、第3ステージの民謡童謡のステージから大いに雰囲気盛り上がり、アンコールでホンロンと天安門をやると曲の随所で拍手が起こった。そして富岡先生が皆で「我愛北京天安門」を歌いましょうと客席に呼びかけると、観客全員が起立し、ステージ、客席一体となった合唱がホールにこだました。この時、歌に国境はないのだなということを感じた。中国に来てよかったと思った。

7月29日(日) 人民公社訪問 懇談会 観劇

午前中、西安京都友好人民公社を訪問。ここは中国の人民公社の中ではじめて外国の名がつけられた所で、それが我が京都であるというのはいへん名誉なことである。ここでも小演奏会を開く。曲目はいつもの童謡民謡。それに先がけて公社の中学生が日本の「富士山」、「汽車の歌」を歌ってくれたのだが、その「富士山」を最後に、いっしょに歌ってくれと頼まれた。歌詞を正確に覚えている者が少なく、遠藤先生らの即席の教授で何とか歌った。冷や汗が出る。

午後からは陝西省歌舞団、西安市歌舞団との交流会。夜は観劇で中国の古典喜劇「三鳳求凰」を見た。皆、中国古来のきらびやかな衣装、美しい女優に魅せられたようだった。

7月30日(月) 頤和園参観 天津着

午前中の参観は疲れが激しいため中止。予定を繰り上げて飛行機で北京に向う。北京ではまず、金の皇帝の別荘であった頤和園を見学した。さすが首都、美しい湖のほとりには多くの観光客が出ていたが、その人並に向けてデモストの連発。商店の人に請われてカルテットで歌い出す者もいた。このあと、北京市の市街をドライブ。北京駅から今日の宿泊地天津に向った。

7月31日(火) 演奏会 懇談会

今日も午前の参観をとりやめて休養にあてる。午後は天津市青年宮で、天津市歌舞団との交歓演奏会。天津側からは「木曾節」、「ソーラン節」、「春が来た」等の日本語の曲と「サンタルチア」、「ドレミの歌」、蝶々夫人より「ある晴れた日」などが披露された。特に男声カルテットの「サンタルチア」は、我々など、及びもしないようなすばらしいものだった。中国の音楽のレベルは我々が日本で考えているよりも数段上を行っているというのが、この旅行でよくわかった。演奏会終了後、いつものように懇談会を行った。

8月1日(水) 故宮参観 ショッピング

午前5時オーダー。グリーン史上に残る早朝オーダーではなかろうか。天津市をあとに北京に戻る。北京では念願の天安門を訪れる。中国演奏旅行が決まってから、ここで歌うということはひとつの宿願のようなものだった。上海から各都市を歌い次ぎ、ついにここに至ったのだ。歓びもひとしおである。まず「カレ



天安門広場にて

ジソング」、そして「ソーラン節」、最後に「我愛北京天安門」を歌った。たいへん晴ればれとした気分になった。このあと「皇居」であった故宮を見学し、午後からは友宜商店で、土産物の選別に余念がなかった。

8月2日(木) 万里長城参観 演奏会

今日は、中国での最後の参観地「万里の長城」に出かける。秦の始皇帝が整備したこの長城は全長 6,000km。これだけのものをこの山間によくも築きあげたものだ。ここからながめればはるかかの平野がかすんで見える。次に明の十三陵のうち定陵の地下宮殿を見て、昼すぎホテルに帰着。

夜、中国で最後の演奏会を、崇文区工人倶楽部で行った。今日の演奏は北京放送局が録音し、後日、日本語放送に流すという。演奏自体も、これまでのなかで、いちばん充実していたのではなかろうか。今日も大いに盛り上がり、最後の「天安門」は会場と一体になって歌った。ステージトームの「Ride the Chariot」ではホール全体に手拍子が鳴り響き、曲が終わると嵐のような拍手をもらった。同志社グリーの訪中演奏旅行はここに大成功のうちに幕を降ろした。



万里の長城

8月3日(金) 帰国

ついに今日という日が来てしまった。今となっては2週間は短いものだった。中国の雄大な風土と歴史、人々の暖かい持てなしをしっかりと心にきざみつけ、中国の友人達との再会を期して午前7時45分、雨にけむる北京空港を飛び立った。



中国演奏旅行で配ったパンフレット





11月3日、大阪フェスティバルホールで第6回関西六大学合唱演奏会が開催された。

<p>PROGRAM</p> <p>エール交歓</p> <p>大阪大学男声合唱団 同志社グリークラブ 関西学院グリークラブ 関西大学グリークラブ 立命館大学メンネルコール 甲南大学グリークラブ</p> <hr/> <p>第1部</p> <p>大阪大学男声合唱団 「DAS LIEBESMAHL DER APOSTEL」より</p> <p>作詞作曲 R. WAGNER 指揮 渡田 桂樹</p> <p>同志社グリークラブ 「MASS No.2 IN G」より</p> <p>Kyrie Gloria Sanctus Benedictus Agnus Dei</p> <p>作曲 C.F. GOUNOD 指揮 千代沢 博一</p> <p>関西学院グリークラブ 男声合唱組曲「蛙の歌」</p> <p>1. 小曲 2. 心算 3. 梨と餅 4. 蛭祭り行進 5. 秋の夜の会話</p> <p>作詞 草野心平 作曲 南 弘明 指揮 広 瀬 浩 夫</p> <p style="text-align: center;">Intermission</p>	<p>第2部</p> <p>関西大学グリークラブ 男声合唱組曲「富士山」</p> <p>I. 作品第壹 II. 作品第肆 III. 作品第拾陸 IV. 作品第拾捌 V. 作品第貳壹</p> <p>作詞 草野心平 作曲 多田武彦 指揮 松井 博</p> <p>立命館大学メンネルコール 男声合唱組曲「わがふるき日のうた」</p> <p>I. 袋のうへ II. 湖水 III. Entance finie (過ぎ去りし時代) IV. 木兎 V. 郷愁 VI. 鐘鳴りぬ VII. 雪はふる</p> <p>作詞 三好達吉 作曲 多田武彦 指揮 藤原 昌 成</p> <p>甲南大学グリークラブ 「MISSA in honorem Sancti Huberti」</p> <p>Kyrie Gloria in excelsis Sanctus Benedictus Agnus Dei</p> <p>作曲 FRANZ NECKES 指揮 林 純一郎</p> <p>第3部</p> <p>合同演奏 「SEA SHANTY」より</p> <p>編曲 ROBERT SHAW 他 指揮 北村 浩一</p>
---	---

第6回関西六大学合唱演奏会のプログラム

11月11日東京早稲田奉仕団ホールで、今度は同志社グリーOBが「台湾演奏旅行」の結団式を行った。「全同志社大学男声合唱団」として、11月23日～25日までコンサートツアーを行った。この内容は、以下、団長松本淳氏の「台北演奏旅行記」を掲載したい。



台北演奏旅行記

団長 松本 淳 (昭和5年卒)

(参加人員) 団員49名 随行者8名 随行員中には、同志社理事、校友会副会長津下統一郎氏夫妻、同志社東京事務所長小出力三郎氏夫妻が参加。

(旅行日程)

11月23日(金) 成田発、G、CX便で37名。 大阪発、CX便 20名。

正午前後に三便共、台北国際空港到着。一同元気一杯で台北の土を踏む。この日台北の気候は曇時々小雨、気温15度(この天候が滞在中続いた)。空港ロビーには3m余の歓迎横幕のもと、台北支部校友の皆さん方の出迎を受け、お互いに親交を暖めることが出来、感激の一瞬。

バス二台に分乗、皇冠大飯店に着いて驚いた。表玄関に歓迎花籠が二つ(台北西ロータリークラブ寄贈)飾られている。徹底した歓迎ぶりに頭が下がる。

本番に備えて総練習を双連教会会堂で始める。この教会の陳名誉牧師はグリーの先輩。音響効果満点の600名収容の素晴らしい会堂で、一同旅の疲れも忘れて練習に励む。

夜、校友会台北支部主催の歓迎宴に全員招かれて出席。カレッジ・ソングで幕をあげ、朱江淮支部長の歓迎の辞、津下副会長の答辞、そして全員の自己紹介と和やかな宴が続く。双方から記念品の交換、勿論、私共の合唱も披露し、時間の経つのも忘れる。

11月24日(土)

「故宫、を見ずして台北は語れない。」ということで、早朝宿舎を出る。中国文化の素晴らしさに目をみはる。

正午には、台北西ロータリーの総会に招かれて、メンバーの一部が出席。北京料理に舌鼓を打ち、私共も台湾歌曲、日本民謡を披露して大喝采を受ける。残留組は飲茶で楽しみ、お互いに料理の話で花が咲く。

午後3時には、演奏会場である国立台湾大学体育館に勢揃い、本番の準備が始まる。この演奏会には、台大合唱団(混声)70名が賛助出演をして下さる。感謝である。

開演7時、1,700名の聴衆が会場を埋めつくしている。私共もこれに刺激されて、近來にない最高の演奏をもってこれに応えた。終演となっても会衆は去らず、いつものとおりストーム、台大合唱団もこれに加わり、夜空に歌声は響く。友好親善、文化交流の使命はここで完全にはたせたと感ずる。興奮して寝つき悪し。

11月25日(日)

双連教会日曜礼拝に奉仕。礼拝後、数曲を披露し、新しき歌、でしめくり大喝采。昼食は教会で準備され、和やかに歓談。以後の数時間は自由時間とし、ショッピングや山岳民族の棲む景勝地、烏来、をおとずれるものなど、お互いに有利な時間を過ごした。この日、一部のメンバーが帰国した。

夜は、サヨナラパーティーを四川料理で開催。その席には台大合唱団幹部、アナウンサー嬢など加わって音楽談議に花が咲く。

「来年も又、是非、台北に来て下さい。」との声をあとにして宿舎にもどる。

11月26日(月)

今日は台北を離れる日。最後まで時間の許すかぎり交流を深めようと張切る。8時には津下、松本両氏はお礼廻りに出かける。午前中は、日本人学校を訪問、小中学生を対象にミニコンサート、森本指揮者の軽妙な司会に、子供達が無心になって合唱を聴いている。その顔々が今でも忘れられない。

まだ時間はある。最後の奉仕だ。在留日本人で結成するママさんコーラスとの交歓。短かい時間であったが祖国を離れて生活しておられる方々の顔が、私達を本当に懐しがっていられる気持ちがわかったような気がした。

以上で凡ての行事が終った。

この度の演奏旅行は、準備期間中には種々雑多な苦勞があったが、「実現して良かった。」と思ったのは、恐らく参加者全員であると思う。その蔭には、母校同志社、校友会本部、そして、校友会台北支部、亜東関係協会、中日文化経済交流協会、中華民国音楽会、国立台湾大学、台北西ロータリークラブ、在留日本人会の方々の力があつたことを忘れてはならない。

又、参加した一人一人が、夫々の能力をフルに發揮してくれたことに、心からの敬意を表したい。



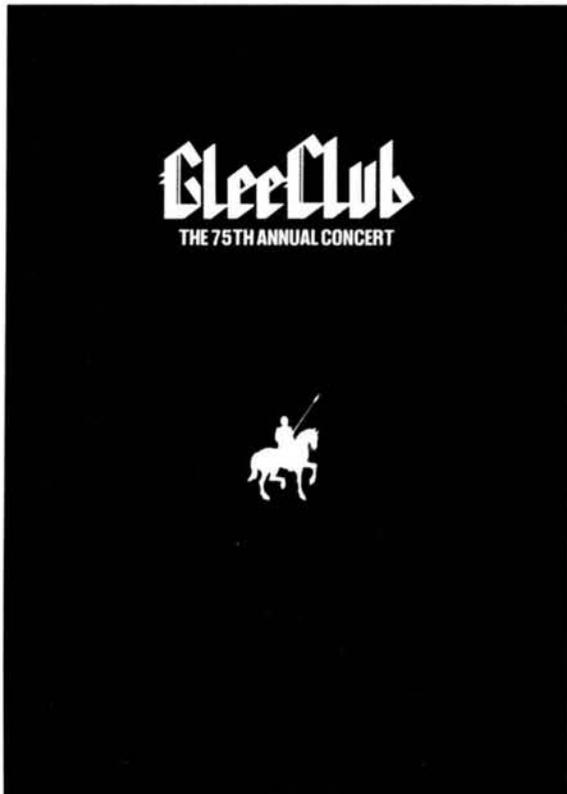
台湾演奏旅行



12月24日、第15回全同志社メサイア演奏会が京都会館第一ホールで行われ、第75回定期演奏会は翌年1月の開催となった。

昭和55年
(1980)

1月8日、京都会館第一ホールにおいて第75回定期演奏会が行われた。従前は12月に行っていたものが、会場確保難のため1月の開催となった。



PROGRAM	PROGRAM
<p style="text-align: center;">DOSHISHA COLLEGE SONG</p> <p style="text-align: right;">作 詞 W.M.Vories 作 曲 Carl Wilhelm</p> <p>I Mass No.2 in G</p> <p style="text-align: right;">作 曲 C.F.Gounod 指揮 千代沢 舞 一</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kyrie 2. Gloria 3. Credo 4. Sanctus 5. Benedictus 6. Agnus Dei <p>II 男声合唱曲「島よ」</p> <p style="text-align: right;">作 詞 伊 藤 海 彦 作 曲 大 中 原 編 曲 橋 永 隆 一 郎 指揮 橋 永 隆 一 郎 ピアノ 山 本 優 子</p> <p style="text-align: center;">— INTERMISSION —</p>	<p>III 男声合唱組曲「日曜日」～ひとりぼっちの祈り～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朝 2. 街で 3. かえり道 4. てがみ 5. おやすみ <p style="text-align: right;">作 詞 蓮 實 孝 三 作 曲 南 安 雄 指揮 富 岡 雄 ピアノ 山 本 優 子</p> <p>IV ミュージカル「Man of La Mancha」より</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Man of La Mancha (I, Don Quixote) 2. Dulcinea 3. Little Bird, Little Bird 4. Golden Helmet of Mambrino 5. The Impossible Dream <p style="text-align: right;">作 詞 Joe Darion 作 曲 Mitch Leigh 編 曲 橋 永 隆 一 郎 指揮 橋 永 隆 一 郎 ピアノ 山 本 優 子</p>

第75回定期演奏会プログラム



6月13日東京日比谷公会堂で、第21回立教・同志社交歓演奏会が開催された。

つづいて6月22日大阪フェスティバルホールで第29回東西四大学合唱演奏会が行われた。

第21回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

PROGRAM	PROGRAM
<p>エール交歓 同志社グリークラブ 立教大学グリークラブ</p> <p>I. 「Negro Spirituals」同志社グリークラブ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Mary Had A Baby — 作曲・William L. Dawson 2. Let us break bread together — 編曲・榎永隆一郎 3. Keep in the Middle of the Road — 作曲・Marshall Bartholomew 4. All my trials — 編曲・榎永隆一郎 5. Didn't My Lord Deliver Daniel — 作曲・Franc. Heath <p>指揮・池尻隆弘</p> <p>II. 男声合唱組曲「草野心平の詩から」立教大学グリークラブ 作詞・草野心平 / 作曲・多田武彦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 石室柱にて 2. 天 3. 金魚 4. 雨 5. さくら散る <p>指揮・高坂 薫</p> <p style="text-align: center;">— intermission —</p>	<p>III. 男声合唱組曲「雨」同志社グリークラブ 作曲・多田武彦</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雨の来る前 — 伊藤 豊・作詞 2. 武蔵野の雨 — 大木博夫・作詞 3. 雨の日の遊園地 — 大木博夫・作詞 4. 十一月にふる雨 — 堀口大学・作詞 5. 雨の日に足る — 大木博夫・作詞 6. 雨 — 大木博夫・作詞 <p>指揮・榎永隆一郎</p> <p>IV. 男声合唱組曲「オーヴェルニュの歌」立教大学グリークラブ Chants d'Auvergne 原作曲・Joseph Canteloube 訳詞・中山知子・清水 薫 合唱編曲・清水 薫 / 編曲・保延裕史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BAILERO — フバイレロ 2. CHUT CHUT — シュツツ シュツツ 3. LOU COUCUT — コウコウ 4. BREZAIROLA — 千守歌 5. PASSO PEL PRAT — 野原ちゆ <p>指揮・保延裕史</p> <p>V. 男声合唱組曲「月光とピエロ」合同演奏 作詞・堀口大学 / 作曲・清水 薫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 月夜 2. 映のピエロ 3. ピエロ 4. ピエロの囁き 5. 月光とピエロとピエレットの青春模様 <p>指揮・保延裕史</p>

6月23日、プリンストン大学室内混声合唱団43名が来日。7月7日まで滞在する間、各地で演奏会を催した。そのうち7月3日に、プリンストン大学招待演奏会を同志社大学学館ホールで開催した。同志社グリークラブは、Ⅱ部で男声合唱組曲「月光とピエロ」を演奏した。また合同で、「詩篇第124篇」とメサイアから「ハレルヤ・コーラス」を演奏した。



プリンストン大学招待演奏会 (1980.7.3学館ホール)

7月22日には、92歳となられていた名誉顧問片桐哲先
 先が、現役の練習場(新町別館内)を訪問された。高齢の
 ため、外出を自重

されている昨今で、
 現役は一度も先生
 とお会いしないま
 ま卒業する状態が
 続いていた。OB
 会は、先生の肖像
 写真を現役に贈呈
 した。この日、先



古くから代々受け
 継がれているクラブの表札



現在のグリークラブの部室 (BOXと称している)

生の潤いに満ちた、人を魅了せずにはおかない語りかけが、現役の胸に浸みていった。グリークラブの部室には、
 先生の写真と色紙が飾られることになった。

同志社グリークラブ規約

- 第1章 総則**
- 第1条 (名称) 本合唱団は同志社グリークラブと称する。
 第2条 (所属) 本グリークラブは、同志社大学学生会に所属する。
 第3条 (趣旨) 本グリークラブは、同志社精神を載し、メンバー相互の協調・親睦を計り、情操を高め、文化の向上に資する。
 第4条 (資格) 本グリークラブは、同志社大学に籍を有する男子学生を以って組織する。但し、大学院生を含まない。
 第5条 (顧問) 本グリークラブ維持の為に、同志社大学教職員、校友より顧問若干名を置く。
 第6条 (事業) 本グリークラブは、発表演奏会、演奏旅行、合宿、研究会、その他本グリークラブの趣旨に従い、之を行う。
- 第2章 機関**
- 第1節 総会**
- 第7条 (最高決議機関) 総会は本グリークラブの最高決議機関である。
 第8条 (総会成立要件) 総会は、出席者及び委任状の合計が全部員の3分の2以上に達した場合成立する。
 第9条 (総会の決議) 総会の決議は、本規約に別段の定めある場合を除くほか、出席者の議決権の過半数を以って之を為す。
 第10条 (定期総会) 定期総会は毎年6月、1月の2回、委員会がこれを招集し、本グリークラブ事業報告、会計報告の承認、重要事項の決議を行い、6月総会には新委員を選出し、委員会の引き継ぎを行う。(但し、学生指揮者、学生副指揮者、メサイア実行委員、パートリーダー、サブパートリーダー、副幹事長、文連常任委員は1月に選出)
 第11条 (臨時総会) 臨時総会は、幹事長、委員会、或いは全部員の4分の1以上の要請がある場合、招集することができる。
- 第2節 委員及び委員会**
- 第1款 委員**
- 第12条 本グリークラブに下記の委員を置く。
- | | | | |
|---------|-----|-------------|-----|
| 幹事長 | 1名 | 外政 | 3名 |
| 副幹事長 | 1名 | 外政サブ | 3名 |
| 内政 | 1名 | 会計 | 2名 |
| 会計サブ | 2名 | サブパートリーダー | 各1名 |
| ステージ | 1名 | メサイア実行委員 | 4名 |
| ステージサブ | 1名 | 資料・OB担当委員 | 1名 |
| 演奏旅行 | 1名 | 資料・OB担当委員サブ | 1名 |
| 演奏旅行サブ | 1名 | | |
| 文連常任委員 | 1名 | 学生指揮者 | 1名 |
| パートリーダー | 各1名 | 学生副指揮者 | 1名 |
- *委員の一切の兼任は認めない。
- 第13条 (委員の義務) 委員は規約及び総会の決議を遵守し、本グリークラブの為、忠実にその職務を遂行する義務を負う。
 第14条 (職務分掌) 委員の職務分掌においては、委員会において、その内規を設けることができる。
 第15条 (選挙) 全て委員は総会に於て部員の互選により選出する。なお、幹事長および外政チーフは、6月定期総会において前年度委員会の推薦する候補者及び部員中の候補者より、またパートリーダー、サブパートリーダー、学生副指揮者は1月定期総会において、委員会の推薦する候補者及び部員中の候補者より、それぞれ部員の互選により決定す。
- 第16条 (任期) 委員の任期は6月の定期総会以後1ヵ年とする(但し、学生指揮者、学生副指揮者、パートリーダー、サブパートリーダー、文連常任委員、メサイア実行委員は1月の定期総会以後1ヵ年、また副幹事長は、1月の定期総会以後半年を任期とする。)
- 第2款 委員会**
- 第17条 (委員会の構成) 第12条に規定する委員を以て委員会を構成する。
 第18条 (招集) 委員会は委員の要請により幹事長が之を招集する。
 第19条 (成立要件、議決) 委員会は全委員の3分の2以上の出席により之を行い、過半数以上の賛成を以て議決する。
 第20条 (事業決定) 委員会は本グリークラブの趣旨に基づく事業について決定を行う。
 第21条 (解任) 委員会又は委員は、何時でも総会の決議により解任することが出来る。解任決議は、部員の3分の2以上の出席により、その議決権の3分の2以上に当る多数を以て之をなす。
 第22条 解任された委員は、すみやかに第15条の規定により新たに選任することを要する。
 学生指揮者、学生副指揮者、パートリーダー解任された時は、新たに委員会において選任されねばならない。
- 第3章 維持**
- 第23条 (部費、入会金) 本グリークラブ部員は維持費として毎月800円(1981.6.27改正)を納め、新入会員は入会金として1,500円(1981.6.27改正)を納む。
 第24条 (経費) 本グリークラブの経費は、之等維持費、学友会副当及び寄附金その他を以て之に当てる。
- 第4章 賞罰**
- 第25条 本グリークラブ部員にして出席常ならざる者、本グリークラブの名誉を失墜せし者、本グリークラブの趣旨に反せし者は、委員会の決議により、之を処分することが出来る。所項の施行に関して、委員会は内規を設けることができる。
- 第5章 入部、休部、退部**
- 第26条 (休部) 休部者は、書面により休部の理由、期間を幹事長に提出し、委員会の承認を求めるものとする。
 第27条 (退部) 退部者は退部に際し、幹事長に退部届を提出し、所持のバッジ、バインダーを返却する。
- 第6章 内規**
- 第28条 委員会において第14条及び第25条に規定する内規を設ける時は、全部員に之を公示せねばならない。
- 第7章 改正**
- 第29条 本グリークラブ規約の改正は、総会の出席者の議決権の3分の2以上の賛成を以て之を為す。
- 第8章 補則**
- 第30条 本改正規約は、昭和59年7月28日より施行する。

以上



第7回
関西六大学合唱演奏会

8月2日、名古屋市民会館中ホールで同志社グリークラブ・上智大学グリークラブ交歓演奏会が初めての試みとして行われた。

11月3日、第7回関西六大学合唱演奏会が大阪フェスティバルホールで開催された。

PROGRAM

エール交歓
甲南大学
関西大学
立命館大学
関西学院大学
大阪大学
同志社大学

第1部

甲南大学グリークラブ
ZIGEUNERLIEDER (ジプシーの歌)
Nr. 1 He, Zigeuner, greife in die Saiten 作曲 Johannes Brahms
Nr. 2 Hoches ihrems Rima-flut 指揮 加島 謙
Nr. 3 Wagt ihr, wann mein Kindchen 指揮 加島 謙
Nr. 4 Lieber Gott, du weisst 指揮 加島 謙
Nr. 5 Brauner Bursche führt zum Tanne 指揮 加島 謙
Nr. 6 Röslein dreie in der Reihe 伴奏 山本 美子
Nr. 7 Kommt dir manchmal in den Sinn
Nr. 11 Rote Abendwolken ziehn

関西大学グリークラブ
男声合唱組曲「吹雪の街を」
I. 忍 路 作曲 伊藤 賢
II. また月夜 作曲 多田 武彦
III. 夏になれば 指揮 加島 謙
IV. 秋の恋びと
V. 夜 の 露
VI. 吹雪の街を

立命館大学メンネルコール
月下の一群 フランスの歌による男声合唱組曲
1. 小曲 フェリックス・シャヴァンクス 作曲 西 弘 明
2. 輪廻り ポール・フォーレ 指揮 山口 大 幸
3. 人の懐ふことを懐ける フランシス・ジャム 指揮 加島 謙
4. 海よ (船歌) アンドレ・スビール 伴奏 山本 美子
5. 秋の歌 ポール・ヴェルレーヌ

Intermission

- 4 -

PROGRAM

第2部

関西学院グリークラブ
Negro Spirituals
1. Ain't That Good News? 指揮 神田 明 文
2. Were You There?
3. If I Got My Ticket, Can I Ride?
4. Nobody Knows De Trouble I See
5. Didn't My Lord Deliver Daniel

大阪大学男声合唱団
男声合唱と二台のピアノのための「レクイエム」より
第一楽章 作曲 三木 良
第二楽章 指揮 宇佐 正 隆
第三楽章 伴奏 加島 謙 中 野 利雄 十

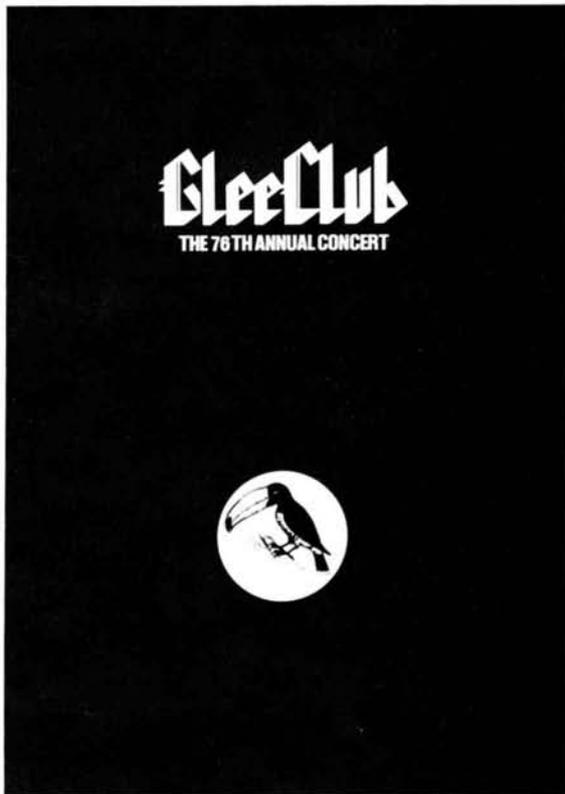
同志社グリークラブ
男声合唱組曲「雪と花火」
I. 序章 作曲 本 原 自 明
II. 彼岸花 作曲 多田 武彦
III. 芥子の露 指揮 加島 謙
IV. 花火

第3部

合同演奏
「十の詩曲」より
● 聖々しく進めよ 作曲 家 田 二 郎
● 判例の戦士 作曲 小 川 幸 次
● 旗幟歌 編曲 橋 本 謙 一郎
● 歌 指揮 浅 井 昭 堂

- 5 -

第7回関西六大学合唱演奏会のプログラム



つづいて12月8日、京都会館第一ホールで第76回定期演奏会が行われた。この演奏会では、福永陽一郎氏はスケジュールの都合で出演されなかった。しかし、そのメッセージの中で、「同志社グリークラブは、私がいなくても、ちゃんとしたレベルに達する音楽を創造してくれる合唱団になっている。」と、淋しさと共に安心している思いを述べておられるのであった。

12月23日、京都では恒例の第16回全同志社メサイア演奏会が京都会館第一ホールで行われ、年末を迎えた。

PROGRAM	PROGRAM																																												
<p style="text-align: center;">DOSHISHA COLLEGE SONG</p> <p style="text-align: right;">作詞 W.M.Vories 作曲 Carl Wilhelm</p> <p>I 男声合唱組曲「雪と花火」</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 片恋</td> <td>作詞 北原白秋</td> </tr> <tr> <td>2. 彼岸花</td> <td>作曲 多田武彦</td> </tr> <tr> <td>3. 芥子の葉</td> <td>指揮 池尻隆弘</td> </tr> <tr> <td>4. 花火</td> <td></td> </tr> </table> <p>II Messe in G-dur</p> <table border="0"> <tr> <td>1. Kyrie</td> <td>作曲 F. Schubert</td> </tr> <tr> <td>2. Gloria</td> <td>指揮 富岡 健</td> </tr> <tr> <td>3. Credo</td> <td>独唱 Sop. 田中千恵子</td> </tr> <tr> <td>4. Sanctus</td> <td>Ten. 船川 謙</td> </tr> <tr> <td>5. Benedictus</td> <td>Dr. 金丸 七郎</td> </tr> <tr> <td>6. Agnus Dei</td> <td>楽団長 京都東内管弦楽団 コンサートマスター 原花 輝代光</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">INTERMISSION</p>	1. 片恋	作詞 北原白秋	2. 彼岸花	作曲 多田武彦	3. 芥子の葉	指揮 池尻隆弘	4. 花火		1. Kyrie	作曲 F. Schubert	2. Gloria	指揮 富岡 健	3. Credo	独唱 Sop. 田中千恵子	4. Sanctus	Ten. 船川 謙	5. Benedictus	Dr. 金丸 七郎	6. Agnus Dei	楽団長 京都東内管弦楽団 コンサートマスター 原花 輝代光	<p>III アイヌのウポポ</p> <table border="0"> <tr> <td>1. くじら祭り</td> <td>作曲 清水 博</td> </tr> <tr> <td>2. イヨマンテ (熊祭り)</td> <td>指揮 富岡 健</td> </tr> <tr> <td>3. ビリカ ビリカ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 日食月食に祈る歌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 恋歌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. リムセ (輪舞)</td> <td></td> </tr> </table> <p>IV アメリカ民謡</p> <table border="0"> <tr> <td>1. Red River Valley</td> <td>編曲 福永 陽一郎</td> </tr> <tr> <td>2. The Old Chisholm Trail</td> <td>指揮 富岡 健</td> </tr> <tr> <td>3. On The Top Of Old Smoky</td> <td>ピアノ 山本 優子</td> </tr> <tr> <td>4. Skip To My Lou</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. Black Is The Color Of My True Love's Hair</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. I've Been Workin' On Duh Railroad</td> <td></td> </tr> </table>	1. くじら祭り	作曲 清水 博	2. イヨマンテ (熊祭り)	指揮 富岡 健	3. ビリカ ビリカ		4. 日食月食に祈る歌		5. 恋歌		6. リムセ (輪舞)		1. Red River Valley	編曲 福永 陽一郎	2. The Old Chisholm Trail	指揮 富岡 健	3. On The Top Of Old Smoky	ピアノ 山本 優子	4. Skip To My Lou		5. Black Is The Color Of My True Love's Hair		6. I've Been Workin' On Duh Railroad	
1. 片恋	作詞 北原白秋																																												
2. 彼岸花	作曲 多田武彦																																												
3. 芥子の葉	指揮 池尻隆弘																																												
4. 花火																																													
1. Kyrie	作曲 F. Schubert																																												
2. Gloria	指揮 富岡 健																																												
3. Credo	独唱 Sop. 田中千恵子																																												
4. Sanctus	Ten. 船川 謙																																												
5. Benedictus	Dr. 金丸 七郎																																												
6. Agnus Dei	楽団長 京都東内管弦楽団 コンサートマスター 原花 輝代光																																												
1. くじら祭り	作曲 清水 博																																												
2. イヨマンテ (熊祭り)	指揮 富岡 健																																												
3. ビリカ ビリカ																																													
4. 日食月食に祈る歌																																													
5. 恋歌																																													
6. リムセ (輪舞)																																													
1. Red River Valley	編曲 福永 陽一郎																																												
2. The Old Chisholm Trail	指揮 富岡 健																																												
3. On The Top Of Old Smoky	ピアノ 山本 優子																																												
4. Skip To My Lou																																													
5. Black Is The Color Of My True Love's Hair																																													
6. I've Been Workin' On Duh Railroad																																													

第76回定期演奏会のプログラム

昭和56年 (1981)

2月15日ホテルサンフラワー京都において、福永先生をグリークラブにお迎えして20周年となるのを記念して、「感謝する会」を開催した。

3月20日、21日の両日、大阪ABCホールで行われた「ミス・ユニバース日本大会」に招かれ演奏したが、日本の美女を前にグリーメンも思わず上ってしまった様子であった。

6月7日、第9回同志社・関学交歓演奏会が大阪フェスティバルホールで開催された。



6月20日東京厚生年金会館大ホール、21日東京文化会館大ホールで第30回東西四大学合唱演奏会が開催された。

7月31日、東芝レコードの現代合唱曲シリーズのレコーディングを、池田市民会館アゼリアホールで行なった。福永陽一郎氏指揮で、男声合唱組曲「海に寄せる歌」(三好達治詩・多田武彦曲)と男声合唱組曲「わがふるき日のうた」(三好達治詩・多田武彦曲)を録音した。9月14日も、つづけてアゼリアホールで、「グリークラブアルバムV、VI」のレコーディングを福永陽一郎氏の指揮で行った。

OB達も8月2日、東京新宿厚生年金会館大ホールで第3回東西四大学OB合唱演奏会を開催し、クローパークラブは、上下純白のTシャツ、スラックス、スニーカー姿で「SEA SHANTY」を演奏、カーテンコールまででる程好評を博した。

第9回同志社・関学交歓演奏会のプログラム

PROGRAM	PROGRAM
<p>エール交歓</p> <p>関西学院グリークラブ 同志社グリークラブ</p> <p>関西学院グリークラブ I Robert Shaw Choral Series</p> <ol style="list-style-type: none"> Vive L'Amour 編曲 ロバート・ショウ Aura Lee 指揮 河本 晴光 Du, du liegst mir im Herzen Marianina Stodole Pumpa <p>同志社グリークラブ II 男声合唱組曲「わがふるき日のうた」</p> <ol style="list-style-type: none"> 麓のうへ 作詞 三好 達治 湖水 作曲 多田 武彦 Enfance finie 指揮 多田 武彦 木 葉 郷 愁 鐘鳴りぬ 雪はふる <p style="text-align: center;">— Intermission —</p>	<p>関西学院グリークラブ III 男声合唱組曲「月光とピエロ」</p> <ol style="list-style-type: none"> 月 夜 作詞 坂口 大 學 秋のピエロ 作曲 清水 博 ピエロ 指揮 北村 信一 ピエロの囁き 月光とピエロとピエレットの唐草模様 <p>同志社グリークラブ IV チャイコフスキー歌曲集</p> <ol style="list-style-type: none"> WARUM? 編曲 福永 陽一郎 NICHT WORTE, GELIBTER 指揮 福永 陽一郎 Inmitten des Balles ピアノ 山本 俊子 Wieder-wie früher Nur wer die Sehnsucht kennt Ständchen des Don Juan <p>V 合同演奏 「十の詩曲」より六つの男声合唱曲</p> <ol style="list-style-type: none"> 雄々しく進む 作曲 デ・ミトリ・シ・スタコヴィッチ 果てなき荒野 編曲 福永 陽一郎 死刑の戦士 指揮 福永 陽一郎 怒りの日 鐘鳴歌 歌

10月、ヨーロッパのキリスト教ミッションとして最も密接な関係をもつ「スイス東亜ミッション」から、会長以下10名が同志社を訪問した。神学館チャペルで歓迎会を行い、その席でグリークラブが演奏した。すると、ただちに会長のクーン氏から「来夏、スイスにぜひ招きたい。」との言葉を頂戴した。グリークラブ初の、ヨーロッパ演奏旅行実現の可能性を探る活動が一方で始まった。しかし、それが実現するのは、2年後の1983年まで待たなければならなかった。

11月3日、大阪フェスティバルホールで第8回関西六大学合唱演奏会が開催された。



11月22日、OB会発足5周年を記念して京都府立勤労会館でクローバークラブと共に演奏会を行った。

12月23日、京都会館第一ホールで第17回全同志社メサイア演奏会が行われ、定期演奏会は翌年1月の開催となった。

第8回関西六大学合唱演奏会のプログラム

PROGRAM		PROGRAM	
エール文獻 立命館大学メンネルコール 甲南大学グリークラブ 関西大学グリークラブ 同志社グリークラブ 関西学院グリークラブ 大阪大学男声合唱団		第 2 部 同志社グリークラブ ルネッサンス合唱曲集 I. MATONA MIA CARA II. ECCEDIO III. AVE MARIA IV. CANTATE DOMINO	
第 1 部 立命館大学メンネルコール 男声合唱組曲「海鳥の詩」 I. オロロン鳥 II. オホシワキ III. 海鳥 IV. 北の海鳥 作 詞 岸村 吉雄 作曲・編曲 三浦 夏子 指揮 藤村 幸弘 ピアノ 山本 真子		関西学院グリークラブ 合唱による風土記「阿波」 I. 土のいのち(阿波) II. 赤杉 III. 赤杉(阿波) IV. 赤杉 V. 土のいのち(阿波) 作 詞 三木 繁 指揮 河本 雄大	
甲南大学グリークラブ 「さすらう若人の歌」 Lieder eines fahrenden Gesellen I. Wenn mein Schatz Hochzeit macht II. Ging heut' morgen idem Feld III. Ich hab' ein glühend Messer IV. Die zwei blauen Augen 作 詞 作曲 Gustav Mahler 編 曲 橋本隆一郎 作 詞 加納 進 ピアノ 森本三恵子		大阪大学男声合唱団 男声合唱組曲「光のうた」 I. 日の出 II. 海 III. 日の出 IV. 夕陽 V. 夕陽 作 詞 川崎 洋 作 曲 大中 基 指揮 藤村 健次 ピアノ 橋本 孝也	
関西大学グリークラブ 男声合唱組曲「若しもかの聖に」 I. 若しよかの聖に II. 光 III. 樹のぼり IV. 母の夢 V. 海 夢 VI. 遠いところで子供達を歌ってふる 作 詞 吉田 幸弘 作 曲 多田 文子 指揮 日崎 玄		第 3 部 合同演奏 MESSE DE L'ORPHEON I. Kyrie II. Credo III. Gloria 指揮 藤村 玄	
Intermission			



昭和57年

(1982)

昭和55年1月同様、前年12月に
京都会館第一ホールが確保できな
かったため、よぎなく1月23日、**第77回定期演奏会**が京
都会館第一ホールで開催された。

3月4日、東芝レコード「現代合唱曲シリーズ」のレコ
ーディングを池田市アゼリアホールで行った。福永陽一
郎氏指揮で、男声合唱組曲「冬の日の記憶」(中原中也詩・
多田武彦曲)を録音した。

5月29日、西陣ホールでエール大学ウィッフェンブ
ーフ合唱団(The Whiffenpoofs)とジョイントコンサート
を行った。この演奏会に、グリークラブOBのクワルトテッ
ト「フォー・バイ・フォー」(長谷川邦男氏・田中忠男氏・西
垣喜光氏～以上昭和35年卒～、西村義之氏～昭和41年卒
～)が賛助出演した。

6月20日、大阪フェスティバルホールで**第31回東西四
大学合唱演奏会**が開催された。さらに6月29日には、同
志社大学学館ホールでハーバード大学グリークラブ招待
演奏会を催した。今年は、次々と遠来の友が来日、共に
素晴らしい交歓会をもった。

PROGRAM	PROGRAM																								
<p>DOSHISHA COLLEGE SONG</p> <p>作詞 W.M.Vories 作曲 Carl Wilhelm</p>																									
<p>I. 男声合唱とピアノのための「ことばあそびうたII」</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. かっぱ</td> <td style="width: 40%;">作詞 谷川 純太郎</td> </tr> <tr> <td>2. うとてとこ</td> <td>作曲 新 真 穂 真</td> </tr> <tr> <td>3. たそがれ</td> <td>指揮 岸 田 廣 幸</td> </tr> <tr> <td>4. さ る</td> <td>ピアノ 長 田 賢 忠</td> </tr> </table>	1. かっぱ	作詞 谷川 純太郎	2. うとてとこ	作曲 新 真 穂 真	3. たそがれ	指揮 岸 田 廣 幸	4. さ る	ピアノ 長 田 賢 忠	<p>Ⅲ. 「オーベルニュの歌」</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. BAILÉRO (バレーロ)</td> <td style="width: 40%;">原作曲 Joseph Castelloube</td> </tr> <tr> <td>2. CHÛT, CHÛT (シャット)</td> <td>編曲 福 永 陽 一 郎</td> </tr> <tr> <td>3. LOU COUCUT (ルーコウ)</td> <td>指揮 富 岡 健</td> </tr> <tr> <td>4. BREZAIROLA (ブレザイロラ)</td> <td>チェレスタ 山 本 佳 子</td> </tr> <tr> <td>5. PASSO PEL PRAT (パスペルプラ)</td> <td>コントラバス 三 宅 謙 司</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オーボエ 城 石 賢 明</td> </tr> </table>	1. BAILÉRO (バレーロ)	原作曲 Joseph Castelloube	2. CHÛT, CHÛT (シャット)	編曲 福 永 陽 一 郎	3. LOU COUCUT (ルーコウ)	指揮 富 岡 健	4. BREZAIROLA (ブレザイロラ)	チェレスタ 山 本 佳 子	5. PASSO PEL PRAT (パスペルプラ)	コントラバス 三 宅 謙 司		オーボエ 城 石 賢 明				
1. かっぱ	作詞 谷川 純太郎																								
2. うとてとこ	作曲 新 真 穂 真																								
3. たそがれ	指揮 岸 田 廣 幸																								
4. さ る	ピアノ 長 田 賢 忠																								
1. BAILÉRO (バレーロ)	原作曲 Joseph Castelloube																								
2. CHÛT, CHÛT (シャット)	編曲 福 永 陽 一 郎																								
3. LOU COUCUT (ルーコウ)	指揮 富 岡 健																								
4. BREZAIROLA (ブレザイロラ)	チェレスタ 山 本 佳 子																								
5. PASSO PEL PRAT (パスペルプラ)	コントラバス 三 宅 謙 司																								
	オーボエ 城 石 賢 明																								
<p>Ⅱ. 「月下の一群」 ～フランスの詩による男声合唱曲集～</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. 小 曲 (フィリップス・シヴァ・ホックス)</td> <td style="width: 40%;">作詞 堀 口 大 夢</td> </tr> <tr> <td>2. 輪廻り (ポール・フォーレ)</td> <td>作曲 岸 弘 明</td> </tr> <tr> <td>3. 人の云ふことを信じるな (フランシス・ローム)</td> <td>指揮 福 永 陽 一 郎</td> </tr> <tr> <td>4. 海よ (催歌) (アンドレ・メビール)</td> <td>ピアノ 久 廣 之 宝</td> </tr> <tr> <td>5. 秋の歌 (ポール・ヴェルレーヌ)</td> <td></td> </tr> </table>	1. 小 曲 (フィリップス・シヴァ・ホックス)	作詞 堀 口 大 夢	2. 輪廻り (ポール・フォーレ)	作曲 岸 弘 明	3. 人の云ふことを信じるな (フランシス・ローム)	指揮 福 永 陽 一 郎	4. 海よ (催歌) (アンドレ・メビール)	ピアノ 久 廣 之 宝	5. 秋の歌 (ポール・ヴェルレーヌ)		<p>Ⅳ. NEGRO SPIRITUALS</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. DO-DON'T TOUCH-A MY GARMENT</td> <td style="width: 40%;">指揮 福 永 陽 一 郎</td> </tr> <tr> <td>2. CALVARY</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. IF I GOT MY TICKET, CAN I RIDE?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. MARY HAD A BABY</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. SET DOWN SERVANT!</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. THAT LONESOME VALLEY</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. MY GOD IS A ROCK</td> <td></td> </tr> </table>	1. DO-DON'T TOUCH-A MY GARMENT	指揮 福 永 陽 一 郎	2. CALVARY		3. IF I GOT MY TICKET, CAN I RIDE?		4. MARY HAD A BABY		5. SET DOWN SERVANT!		6. THAT LONESOME VALLEY		7. MY GOD IS A ROCK	
1. 小 曲 (フィリップス・シヴァ・ホックス)	作詞 堀 口 大 夢																								
2. 輪廻り (ポール・フォーレ)	作曲 岸 弘 明																								
3. 人の云ふことを信じるな (フランシス・ローム)	指揮 福 永 陽 一 郎																								
4. 海よ (催歌) (アンドレ・メビール)	ピアノ 久 廣 之 宝																								
5. 秋の歌 (ポール・ヴェルレーヌ)																									
1. DO-DON'T TOUCH-A MY GARMENT	指揮 福 永 陽 一 郎																								
2. CALVARY																									
3. IF I GOT MY TICKET, CAN I RIDE?																									
4. MARY HAD A BABY																									
5. SET DOWN SERVANT!																									
6. THAT LONESOME VALLEY																									
7. MY GOD IS A ROCK																									
<p>INTERMISSION</p>																									

第77回定期演奏会のプログラム

かねてから病氣療養中であったグリークラブ名誉顧問片桐哲先生の容態が悪化、7月3日午前、ついにご昇天された。93歳であった。この悲報はすぐさま、グリークラブ、グリークラブOB、関係者に伝えられた。

『4日夜、7時からの前夜式は、同志社教会・山本文雄牧師(女子大総務部長)の司式に始まり、夕やみ迫る片桐邸に、OB会員60名が集い、故人愛唱の賛美歌を歌い、献歌として、クローバークラブ指揮者山下裕司氏(昭52

卒)の指揮でコルネリウスの「レクイエム」を先生の柩に捧げた。5日の密葬は好天に恵まれ、先生の安けきご召天をさし示すかと思えた。司式は同志社教会佐伯幸雄牧師。同志社教会名誉牧師茂義太郎師の式辞の後、教会代表の久永省一師と共に、OB会、グリークラブを代表して、遠藤副会長が追思の辞を述べられた。在りし日の先生と、グリークラブとにふれるその一言一言は、参会者の心を深く打つものがあった。

7月18日午後3時から、同志社女子大学葬が栄光館で行われた。鷺淵紹子女子大教授の奏楽に始まり、女子大教職関係者により司式・式辞等がとり行われた。音楽をこよなく愛された先生の告別式とあって、今城淳行教授を始めとする教員の方々の四重唱(故中瀬古和教授の作品)、石村(加藤)雅子教授の独唱、同志社教会ゆかりの西邨辰三郎氏(昭7卒)の独唱など、音楽葬ともみえるプログラムであった。故人を熟知される同志社教会長老老松井七郎師(前同大教授)の弔辞が、一際心迫るものであった。そして、OB会員、現役計160名の富岡健氏指揮による献歌2曲、「レクイエム」(コルネリウス)と「ペアティ・モルトウイ」(メンデルスゾーン)とが捧げられ、参集者の多くから、「近年にない精神性あふれる絶唱」とのお言葉をいただいた。願わくば、先生のみ霊の安らかであられんことを……。(グリークラブOB会報1982.10.VOL9より引用)



片桐 哲先生 同志社女子大学葬

弔 辞 巨人はその道を走ってゆく

松 本 寛 二

ハイドンのオラトリオ「天地創造」は、いうまでもなく、旧約聖書の創世記から作られたものだが、そのはじめに、ウリエルの歌うレシタティーヴに、こんな歌詩がある。

今や輝きに満ちて
太陽は光を放ちながら昇る
喜びに溢れた花婿
誇らかに楽しげな巨人は
その道を走ってゆく
そして、果しない大空は
聖なる歌をもって
御力を声高く知らせた

(中・後略)

私は、このレシタティーヴが好きだ、そして、これこそ正に片桐哲先生ではないか、と思うのです。今夏、このオラトリオが、カラヤンの指揮で、8月18日、ザルツブルグの大ホールで演奏された。わざわざ聞きに行った、と言ったらウソになるが、今夏のザルツ行の目的のひとつに、「天地創造」があったことはたしかだ。しかも、この演奏には、いまヨーロッパで、若手テノールの第一人者といわれるアライザ(Francisco Araiza)がウリエル役で、このレシタティーヴをうたうのだから……。

私は、その美しい声で、静かに、しかも高々とうたわれる場面に来たとき、本当に、先生のことを、いまアライザが歌ってくれている、という錯覚にとらわれたのである。

先生は、正に輝きにみちて、光を放ちながら天に昇っていった。そして、その巨人は、大空に向い、

聖なる歌をもって、主の御力を声高く知らせたのだ。

片桐先生は、実に94才で天に昇られた。そして、その間に、同志社にグリークラブを創り、初代の指揮者となられた。同志社グリークラブに対する私の自慢のひとつは、そのことであった。

四大学のグリークラブは、いずれもそれなりの長い歴史と伝統、そして、それぞれが誇るすばらしいハーモニーをもっている。しかし、その歴史の中で、初代の指揮者がなお現存している、という事実は、恐らく同志社だけだ、と、そのことを自慢のタネにしていたのだ。

たまたま、先生が長命だったから、と言ってしまえばそれまでだが、私はそうは思いたくない。

同志社グリークラブに対する先生の大きな愛、そして願いが、先生を94年間も、私たちに与えて下さったのだ、と信じ、かつ思いたいからだ。

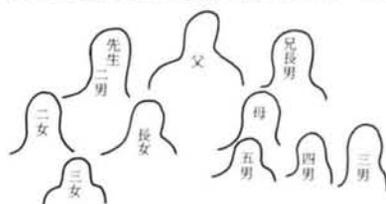
その片桐先生が、1982年7月3日、ついに光輝きながら天に昇っていった。創世記にあるように、巨人はいまもその道を走っている、と信じたい。

その知らせをうけた翌日、東京からかけつけた私は、はせ参じた多くのグリーメンとともに、心からレクイエムをうたい、先生の平安を祈った。本当に有難うございました、と叫びながら……。

片桐先生写真でつづる思い出……。



昭和40年 同志社女子大学長室(栄光館)にて



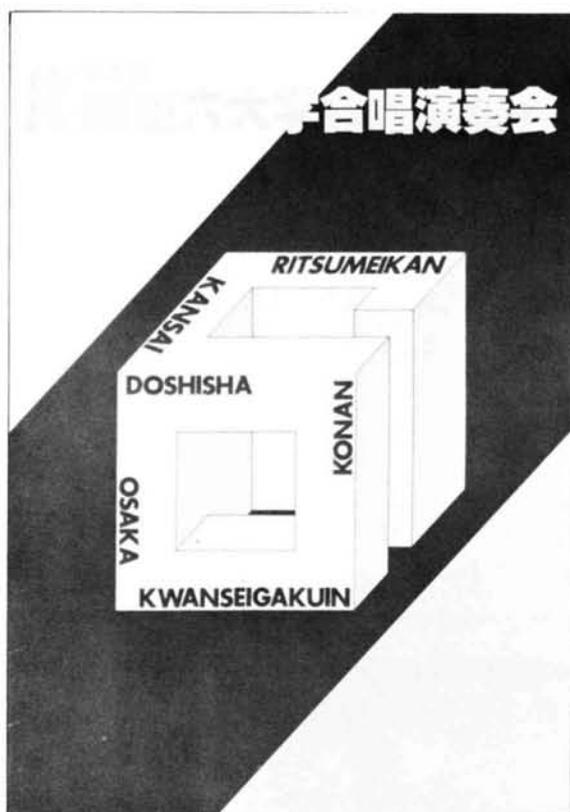
明治40年 普通科卒業記念



奥様と



1953(昭和28)7.4
グリークラブ東北・北海道演唱旅行
松島遊覧記念



9月18日、東芝レコード「現代合唱曲シリーズ」の「新実徳英作品集」から、男声合唱とピアノのための「ことばあそびうたⅡ」を、指揮北村協一氏、ピアノ久邇之宜氏で池田市民文化会館アゼリアホールにおいてレコーディングした。

11月3日、大阪フェスティバルホールで第9回関西六大学合唱演奏会が開催された。

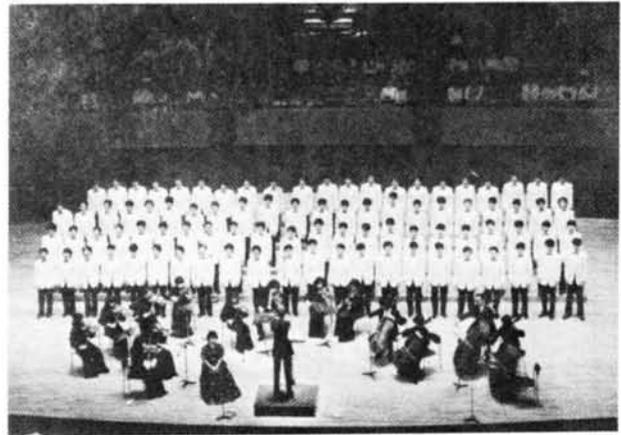
プログラム		プログラム																																	
<p>■エール文歌</p> <p>関西大学グリークラブ 立命館大学メンネルコール 甲南大学グリークラブ 大阪大学男声合唱団 同志社グリークラブ 関西学院グリークラブ</p>		<p>—— 第2部 ——</p> <p>■大阪大学男声合唱団 「男声合唱のための 祝歌・悲歌・恋歌」</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 祝歌</td> <td>作曲 萩原 美彦</td> </tr> <tr> <td>2. 恋歌</td> <td>作詞 松田 幸雄</td> </tr> <tr> <td>3. ブレック</td> <td>指揮 坂田 裕二</td> </tr> </table>		1. 祝歌	作曲 萩原 美彦	2. 恋歌	作詞 松田 幸雄	3. ブレック	指揮 坂田 裕二																										
1. 祝歌	作曲 萩原 美彦																																		
2. 恋歌	作詞 松田 幸雄																																		
3. ブレック	指揮 坂田 裕二																																		
<p>—— 第1部 ——</p> <p>■関西大学グリークラブ 男声合唱組曲「水墨集」 昭和57年度委嘱作品</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 雲</td> <td>作曲 多田 武彦</td> </tr> <tr> <td>2. 山寺の鐘</td> <td>作詞 北原 白枝</td> </tr> <tr> <td>3. 雲</td> <td>指揮 林 伸二郎</td> </tr> <tr> <td>4. 夕日風より</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 風の来る山</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 時雨</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 雲</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 雨の丘</td> <td></td> </tr> </table>		1. 雲	作曲 多田 武彦	2. 山寺の鐘	作詞 北原 白枝	3. 雲	指揮 林 伸二郎	4. 夕日風より		5. 風の来る山		6. 時雨		7. 雲		8. 雨の丘		<p>■同志社グリークラブ ZIGEUNERLIEDER Op. 103 (ジプシーの歌)</p> <table border="0"> <tr> <td>No. 1 He, Zigeuner, grüße in die Saiten</td> <td>作曲 Johannes Brahms</td> </tr> <tr> <td>No. 2 Hochgenante Bama-Da</td> <td>指揮 橋 勉也</td> </tr> <tr> <td>No. 3 Wert ihr, wenn mein Kindechen</td> <td>指揮 西山 勉</td> </tr> <tr> <td>No. 4 Lieber Gott, du weißt</td> <td>詞 木 義夫</td> </tr> <tr> <td>No. 5 Brauser-Datsche fährt zum Tausch</td> <td>指揮 長田 貴也</td> </tr> <tr> <td>No. 6 Brücken dreie in der Höhe</td> <td></td> </tr> <tr> <td>No. 7 Kommt ihr manchmal in des Saun</td> <td></td> </tr> <tr> <td>No. 8 Gute Abendruhe sich</td> <td></td> </tr> </table>		No. 1 He, Zigeuner, grüße in die Saiten	作曲 Johannes Brahms	No. 2 Hochgenante Bama-Da	指揮 橋 勉也	No. 3 Wert ihr, wenn mein Kindechen	指揮 西山 勉	No. 4 Lieber Gott, du weißt	詞 木 義夫	No. 5 Brauser-Datsche fährt zum Tausch	指揮 長田 貴也	No. 6 Brücken dreie in der Höhe		No. 7 Kommt ihr manchmal in des Saun		No. 8 Gute Abendruhe sich	
1. 雲	作曲 多田 武彦																																		
2. 山寺の鐘	作詞 北原 白枝																																		
3. 雲	指揮 林 伸二郎																																		
4. 夕日風より																																			
5. 風の来る山																																			
6. 時雨																																			
7. 雲																																			
8. 雨の丘																																			
No. 1 He, Zigeuner, grüße in die Saiten	作曲 Johannes Brahms																																		
No. 2 Hochgenante Bama-Da	指揮 橋 勉也																																		
No. 3 Wert ihr, wenn mein Kindechen	指揮 西山 勉																																		
No. 4 Lieber Gott, du weißt	詞 木 義夫																																		
No. 5 Brauser-Datsche fährt zum Tausch	指揮 長田 貴也																																		
No. 6 Brücken dreie in der Höhe																																			
No. 7 Kommt ihr manchmal in des Saun																																			
No. 8 Gute Abendruhe sich																																			
<p>■立命館大学メンネルコール 男声合唱組曲「隠岐四景」</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 夕日</td> <td>作曲 堀 悦子</td> </tr> <tr> <td>2. 夕陽の光</td> <td>作詞 岡本 あさみ</td> </tr> <tr> <td>3. 夕空の光</td> <td>指揮 村松 清美</td> </tr> <tr> <td>4. 夕空</td> <td></td> </tr> </table>		1. 夕日	作曲 堀 悦子	2. 夕陽の光	作詞 岡本 あさみ	3. 夕空の光	指揮 村松 清美	4. 夕空		<p>■関西学院グリークラブ 「Sea Shanty」より</p> <table border="0"> <tr> <td>1. Swallow Tails</td> <td>指揮 坂口 和彦</td> </tr> <tr> <td>2. Homeward Bound!</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. I'm not Sir Peter</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. Rolling Home</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. The Drummer And The Cook</td> <td></td> </tr> </table>		1. Swallow Tails	指揮 坂口 和彦	2. Homeward Bound!		3. I'm not Sir Peter		4. Rolling Home		5. The Drummer And The Cook															
1. 夕日	作曲 堀 悦子																																		
2. 夕陽の光	作詞 岡本 あさみ																																		
3. 夕空の光	指揮 村松 清美																																		
4. 夕空																																			
1. Swallow Tails	指揮 坂口 和彦																																		
2. Homeward Bound!																																			
3. I'm not Sir Peter																																			
4. Rolling Home																																			
5. The Drummer And The Cook																																			
<p>■甲南大学グリークラブ 「アーン歌曲集」より</p> <table border="0"> <tr> <td>1. Infidelité (30.53.1)</td> <td>作曲 Reynaldo Hahn</td> </tr> <tr> <td>2. O Use Pèson (11.41.5)</td> <td>編曲 保坂 裕史</td> </tr> <tr> <td>3. Si mes très-aimés des ailes (18.01.0)</td> <td>指揮 北村 協一</td> </tr> <tr> <td>4. Quand je fus pris au Percillon (18.01.0)</td> <td>指揮 西尾 健司</td> </tr> <tr> <td>5. Passage (18.01)</td> <td>伴奏 森本 恵子</td> </tr> <tr> <td>6. Mai (18.01)</td> <td></td> </tr> </table>		1. Infidelité (30.53.1)	作曲 Reynaldo Hahn	2. O Use Pèson (11.41.5)	編曲 保坂 裕史	3. Si mes très-aimés des ailes (18.01.0)	指揮 北村 協一	4. Quand je fus pris au Percillon (18.01.0)	指揮 西尾 健司	5. Passage (18.01)	伴奏 森本 恵子	6. Mai (18.01)		<p>—— 第3部 ——</p> <p>■合同演奏 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 枯木は静かに唄う</td> <td>作詞 中田 浩一郎</td> </tr> <tr> <td>2. 枯木と太陽の会話</td> <td>作曲 石井 勲</td> </tr> <tr> <td>3. 冬の夜の枯木と太陽の合唱</td> <td>指揮 関 聖一</td> </tr> <tr> <td>4. 枯木は太陽に告る</td> <td>指揮 山本 篤子</td> </tr> </table>		1. 枯木は静かに唄う	作詞 中田 浩一郎	2. 枯木と太陽の会話	作曲 石井 勲	3. 冬の夜の枯木と太陽の合唱	指揮 関 聖一	4. 枯木は太陽に告る	指揮 山本 篤子												
1. Infidelité (30.53.1)	作曲 Reynaldo Hahn																																		
2. O Use Pèson (11.41.5)	編曲 保坂 裕史																																		
3. Si mes très-aimés des ailes (18.01.0)	指揮 北村 協一																																		
4. Quand je fus pris au Percillon (18.01.0)	指揮 西尾 健司																																		
5. Passage (18.01)	伴奏 森本 恵子																																		
6. Mai (18.01)																																			
1. 枯木は静かに唄う	作詞 中田 浩一郎																																		
2. 枯木と太陽の会話	作曲 石井 勲																																		
3. 冬の夜の枯木と太陽の合唱	指揮 関 聖一																																		
4. 枯木は太陽に告る	指揮 山本 篤子																																		
Intermission																																			

第9回関西六大学合唱演奏会のプログラム

同志社グリークラブ第78回定期演奏会



12月4日、大阪府立労働センター大ホールで行われたクローバークラブ演奏会に賛助出演し、続いて、12月11日この年落成なった大阪の「ザ・シンフォニーホール」で第78回定期演奏会を行った。



第78回定期演奏会 (1982.12.11. ザ・シンフォニーホール)

4 プログラム

I. MISSA BREVIS IN HON. ST. JOANNIS DE DEO In B dur 小オルガン・ミサ曲

1. Kyrie
2. Gloria
3. Credo
4. Sanctus
5. Benedictus
6. Agnus Dei

作曲 Joseph Haydn

—生誕250年記念—

編曲 Ferdinand Habel

指揮 福永隆一郎

ソプラノ 坂口菜里

オルガン 津田龍人

オーケストラ アムジー室内合奏団

II. 「合唱のためのコンポジションⅢ」

1. 鐘
2. 鐘 詠
3. 引水歌唄

作曲 関宮芳生

指揮 富岡 健

— INTERMISSION —

プログラム 5

III. 男声合唱組曲「川よとわに美しく」

1. 柳の葉子
2. 水鏡の舟
3. 雲雀の恋草
4. 緑の川
5. 田よとわに美しく

作詞 米田栄作

作曲 三枝成章

指揮 橋 敏也

ピアノ 長田真忠

シンセサイザー 新町峰雄

IV. 「コダーイ男声合唱曲集より」(全4曲)

1. Hely Csodája
2. Fölzárkált a Péva
3. Mulato Gajt
4. Karác-Nóták

作曲 Kodály Zoltán

—生誕100年記念—

指揮 富岡 健

第78回定期演奏会のプログラム

12月22日、京都会館第一ホールで第18回全同志社メサイア演奏会が行われるとともに、片桐先生も念願されていた、グリークラブのヨーロッパ演奏旅行が来夏実現することが決定されて、この年も終了した。



クローバークラブハワイ演奏旅行

昭和58年

(1983)

1年の計は元旦にあり。この

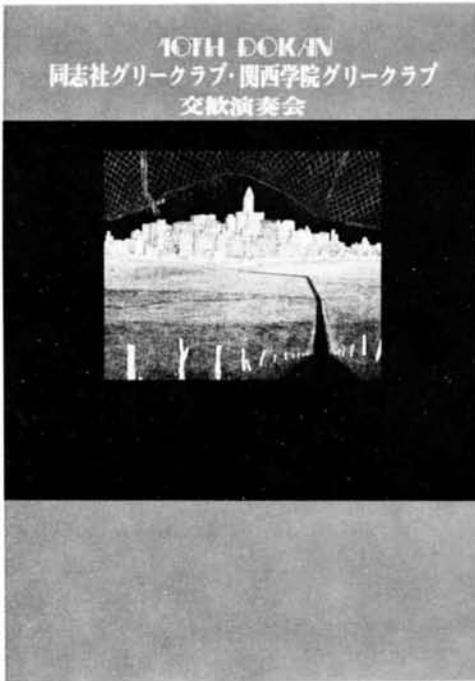
年は、1月1日から活動が始まった。朝日放送テレビの新春番組「おはよう地球さん」に出演、ABCホールで歌った。さらに、1月7日には京都市交響楽団のニューイヤーコンサートに出演、「森の歌」を京都会館第一ホールで演奏した。

クローバークラブも昨年来準備をすすめていたハワイ演奏旅行に4月28日出発した。夫人や家族の同伴者もあわ

せ100名近くの参加となった。ハワイでは、ラジオ出演をはじめ、ハワイ大学でのコンサートなど、計6回の演奏を行い、好評のうちに5月4日帰国した。OB会ではさらに、8月の現役ヨーロッパ演奏旅行を支援するため、5月から募金活動に入っていた。現役は幹事長諸江修氏(昭59卒)らが演奏旅行委員会を結成していたが、その準備の追い込みに入っていた。

6月20日、大阪フェスティバルホールで第10回同志社・関学交歓演奏会が開催された。

6月21日、同志社大学学館ホールでアーモスト大学グリークラブと交歓演奏会を行った。ヨーロッパ演奏旅行前に、次々と大きな演奏会が待ちうけていた。



第10回同志社・関学交歓演奏会のプログラム

PROGRAM エール交歓 同志社グリークラブ 関西学院グリークラブ		同志社グリークラブ Ⅲ.「MISSA MATER PATRIS」 1. Kyrie 作曲 Jossain des Prez 2. Gloria 編曲 Eliot Forbet 指揮 樋口 一徳 3. Credo 4. Sanctus-Benedictus 5. Agnus Dei	
同志社グリークラブ Ⅰ. 三嶋のうた (讃歌社訳) 1. 石の三角城 作曲 北原 白樹 2. 白明庵楽高風 作曲 今田 武雄 指揮 樋口 一徳 3. 海城 4. 関中讃歌 5. 船組		関西学院グリークラブ Ⅳ. キルガメシュ叙事詩(後篇) (其戸合嶋とアレーナーのための1983) 大島文夫の歌による「新編」 1. 光をのびして 作曲 梶野 広志 2. 岩神歌 指揮 北村 昭一 3. 帆 海 4. ノアの箱船の物語 5. 証 録 6. 神話のおわり 7. 終末の合唱	
関西学院グリークラブ Ⅱ. JAZZ STANDARD NUMBERS 1. Moon Light Serenade arranged by Masaki Endo 2. In the Mood conducted by Hidaka Kosugi 3. Misty 4. Take the "A" TRAIN 5. Star dust		合唱演奏 Ⅴ. 聖母マリアの歌「ゆうやけの歌」 作曲 川崎 洋 作詞 藤山 昭 編曲 梶野 広志 ピアノ 大次郎信子	
Intermission 4		5	

第22回
同志社グリークラブ・立教大学グリークラブ
交歓演奏会



1983年7月10日(日) / 大谷ホール

6月25日には、東京文化会館大ホールで、26日には同じく都内五反田の簡易保険ホールで第32回東西四大学合唱演奏会が開催された。

さらに、7月10日には、京都大谷ホールで第22回立教・同志社交歓演奏会を行った。

7月3日、OB達も第4回東四大学OB合唱演奏会を大阪のザ・シンフォニーホールで開催した。

PROGRAM

エール交歓

同志社グリークラブ  立教大学グリークラブ

I. 立教大学グリークラブ
「NEGRO SPIRITUALS」

- | | |
|----------------------------------|---------|
| 1. Soon Ah Will Be Done | 指揮 油井秀司 |
| 2. Go Down Moses | |
| 3. Ain't That Good News! | |
| 4. There Is A Balm In Gilead | |
| 5. Were You There | |
| 6. Didn't My Lord Deliver Daniel | |

II. 同志社グリークラブ
男声合唱組曲「三崎のうた」

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 丘の三角畑 | 作詞 北原白秋 |
| 2. 白南風黒南風 | 作曲 多田武彦 |
| 3. 海雀 | 指揮 須藤彰治 |
| 4. 雨中小唄 | |
| 5. 蘭組 | |

— Intermission —

2

PROGRAM

III. 立教大学グリークラブ
男声合唱組曲「水のいのち」

- | | |
|---------|----------|
| 1. 雨 | 作詞 高野嘉久雄 |
| 2. 水たまり | 作曲 高田三郎 |
| 3. 川 | 指揮 保証裕司 |
| 4. 海 | |
| 5. 海よ | |

IV. 同志社グリークラブ
「宗教曲集」より

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. Ave Verum Corpus | 指揮 富岡健 |
| 2. Salve Regina | 作曲 W.A.Mozart |
| 3. Locus iste | 編曲 福永隆一郎 |
| 4. Alleluia | 作曲 F. Schubert |
| | 作曲 A. Bruckner |
| | 作曲 R. Thompson |

V. 合唱演奏
「日本民謡」より

- | | |
|----------------|----------|
| 1. 齊太郎節(宮城民謡) | 指揮 富岡健 |
| 2. 音戸の舟唄(広島民謡) | 編曲 竹花秀昭 |
| 3. おてもやん(熊本民謡) | 編曲 福永隆一郎 |
| | 編曲 福永隆一郎 |

3

第23回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

7月16日、ヨーロッパ演奏旅行壮行演奏会を学館ホールで行い、演奏曲を披露した。そしてついに、7月19日ヨーロッパ演奏旅行出発の日を迎えた。今回の演奏旅行を実現に導き、努力されたのは、グリークラブ顧問遠藤彰教授(昭17卒)の努力に負うところが大きい。

団長=遠藤彰 副団長=諸江修 指揮者=福永陽一郎・富岡健・須藤彰治 ピアニスト=山本優子 カメラマン=中倉仁 添乗員=近藤直美 ほか部員54名。演奏旅行委員会=長谷川恵一(S59卒)、諸江修(S59卒)、仲貴司(S59卒) 内野直樹(S60卒)、梶原昌彦(S60卒)、中小路智一(S60卒)、大嶋誠司(S60卒)、山中光(S60卒)

SCHWEIZERISCHE OSTASIEN-MISSION
 Missionhaus:
 Weberstrasse 13
 8134 Adliswil
 Telefon 01 / 710 74 81
 Postfach 80 - 2882

SWISS EAST ASIA MISSION
 ARBEITSGEBIETE: JAPAN, INDOONESIEN

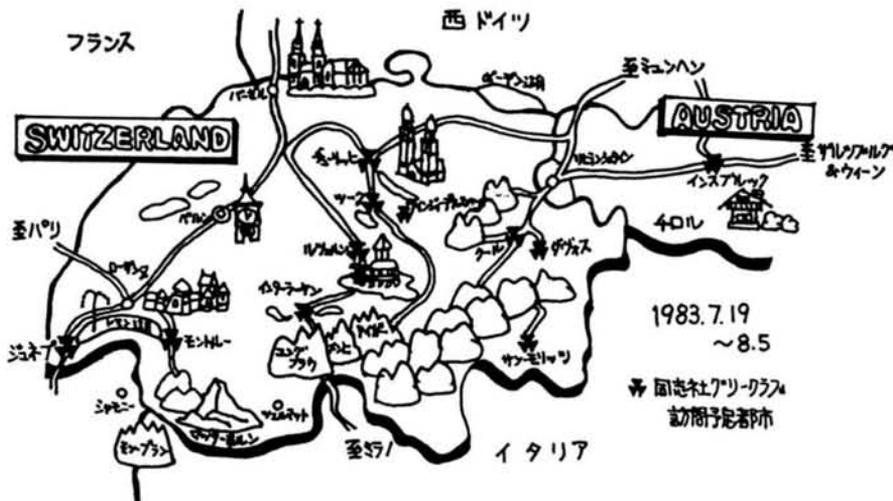
Pfr. W. Kuhn, President
 Hofstrasse 16
 6300 ZUG / SWITZERLAND

President Prof. Dr. Yoshinori Matsuyama
 Doshisha University
 602 KYOTO

Zug, 6./8./82

Dear President,
 on occasion of a visit to the Doshisha University the board of Swiss East Asia Mission could listen to the excellent choir. Professor Akira Endo told us about the the plan of concert tour to Switzerland in the next year. Now the Swiss East Asia Mission would like to invite the Doshisha Glee Club to Switzerland for two weeks, July 20th - August 5th 83. We are looking forward to the concerts in our countryhoping for a successful enterprise.

Yours sincerely
 W. Kuhn
 Willem Kuhn, President
 Swiss East Asia Mission



1983年ヨーロッパ演奏旅行コンサート一覧表

回	月日	会場	都市	国
第1回	7月21日	クロースター教会	アインジーデルン	スイス
第2回	7月22日	屋外公演	ホッホ・ユープリック	スイス
第3回	7月23日	プロテスタント教会	リヒタースヴィル	スイス
第4回	7月24日	グロースミュンスター教会	チューリッヒ	スイス
第5回	7月25日	ブダイビガドー	ブダペスト	ハンガリー
第6回	7月28日	アウエルスベルク宮殿	ウィーン	オーストリア
第7回	7月29日	ザンクト・ブラジウス教会	ザルツブルク	オーストリア
第8回	7月31日	リュシュリコン教会	リュシュリコン	スイス
第9回	8月1日	パーク・イン・グリューネン	リュシュリコン	スイス
第10回	8月2日	ザンクト・ルーカス教会	ルツェルン	スイス

原点への回帰

——ヨーロッパ演奏旅行——



諸江 修(昭和59年卒)

同志社グリークラブのヨーロッパ演奏旅行、それはまさにグリークラブの原点への回帰ともいえるべき出来事であった。80年前、同志社の礼拝堂で初めて歌われた歌は、その源をヨーロッパに発するものであったことだろう。

同志社グリークラブの80年の歴史は、西洋音楽を歌い続けてきた歴史であり、創立より79年を経て、初めてグリークラブの精神の故郷ともいえるべきヨーロッパに旅したことは、天草の島々に隠れ住んでいたキリシタンたちが、明治になりカトリックの宣教師によって発見され、感動的な出会いを果たしたことに通ずるものがあるように思われる。ヨーロッパの人々の私たちの歌に対する感想は、「なぜあなた方は、私たちの歌(西洋音楽)をこんなに美しく歌うのか。」という驚きであった。

私たちグリークラブが79年の歴史の中で、守り育んできた音楽が、日本の中で自己満足的に歪曲されたものでなく、ヨーロッパの人々の耳をも納得させるものであったことが、この演奏を通して証明された。

演奏曲目

- | | | |
|---------------|----------------------------------|--------------------------------|
| ■宗教音楽 | 1) Missa Mater Patris | 作曲/Josquin Des Prez |
| | 2) Ave Verum Corpus | 作曲/Wolfgang Amadeus Mozart |
| | 3) Salve Regina | 作曲/Franz Peter Schubert |
| | 4) Locuste-Graduale | 作曲/Anton Bruckner |
| | 5) Alleluia | 作曲/Randall Thompson |
| | 6) Wohl mir, dass ich Jesum habe | 作曲/Johann Sebastian Bach |
| ■ドイツ男声合唱名曲集より | 1) Die Nacht | 作曲/Franz Peter Schubert |
| | 2) O Täler weit, O Höhen | 作曲/Felix Mendelssohn Bartholdy |
| | 3) In stiller Nacht | 作曲/Johannes Brahms |
| ■コダーイ男声合唱曲集より | 1) Isten Csodája | 作曲/Kodály Zoltán |
| | 2) Fölszállott a páva | |
| ■日本現代合唱曲 | 1) 「合唱のためのコンポジションⅢ」 | 作曲/間宮芳生 |
| | 2) 男声合唱とピアノのため「ゆうやけの歌」 | 作詩/川崎洋・作曲/湯山昭 |
| | 3) 男声合唱組曲「草野心平の詩から」より“さくら散る” | 作詩/草野心平・作曲/多田武彦 |
| ■日本民謡 | 1) おてもやん | 熊本地方民謡 編曲/福永陽一郎 |
| | 2) 音戸の舟唄 | 広島県民謡 編曲/福永陽一郎 |
| | 3) 斎太郎節 | 宮城県民謡 編曲/竹花秀昭 |
| | | |
| ■アンコール | 1) 夕やけ小やけ | 作詩/中村雨紅・作曲/草川信・編曲/福永陽一郎 |
| | 2) 砂山 | 作詩/北原白秋・作曲/中山晋平・編曲/福永陽一郎 |
| | 3) Tritsch - Tratsch - Polka | 作曲/Johann Strauß Sohn |



渡欧レポート19日間



記録担当 梶原昌彦 (昭和60年卒)

7月19日(火) 出発 (大阪→東京20時30分成田空港出発)

13時 大阪空港ロビーに集合。全員揃いのエンブレムに大きなスーツケース。部員の多くは飛行機に乗るのは初めてとか。見送りの1回生と御土産の約束をし福永先生と合流する成田へ。空港で見た日本の夕陽。印象的だった。

7月20日(水) グリーメン欧州に入る (アンカレッジ→ロンドン→ウィーン→チューリッヒ・ホッホ・ユブリック)

17時間もの長旅。アンカレッジでは外国で初めての買物。ロンドンでは、3時間の待ち時間を利用しタクシーで市内見物。どのグループも St.Paul 寺院の前で St.Paul (立教のカレッジソング) を歌ったとか。みんな考えることは同じ!! 午後4時、チューリッヒ着。美しい風景、澄んだ空気。しかし、開口一番「日本より暑い」回りの風景はまるで絵本のように。宿舎ホッホ・ユブリックへ向かうバスの中で何枚写真を撮ったのだろうか。やっとゆっくり寝ることが出来る。

7月21日(木) 欧州初めてのコンサート (アインジーデルン・クロスター教会)

午前中は自由行動。長旅のせいか随分歌っていないような気がする。山の斜面を苦勞して登り自然の反響板(岩?)を利用して御座敷をしている10数名のグループも。それが50人もの合唱に聞こえるから自然はすばらしい。まだ日は高いが夜8時。残響が6~7秒もあろうかという教会でコンサート。自分の声が遠ざかるのが目に見えるようである。

初めての体験で他のパートを聞く余裕など全く無くあっという間に終わってしまった。聞いて下さったのは夕拝に出席していた人達だが、熱心に聞いて下さり感激。外に出て沢山の人の前で歌ったリジョイス。感動し過ぎて全て # だった。宿舎へ戻る途中、ヨーデルを歌ってくれた父娘さんと共にミニミニコンサート。みんなどんな気持ちで「砂山」を歌ったのだろうか。

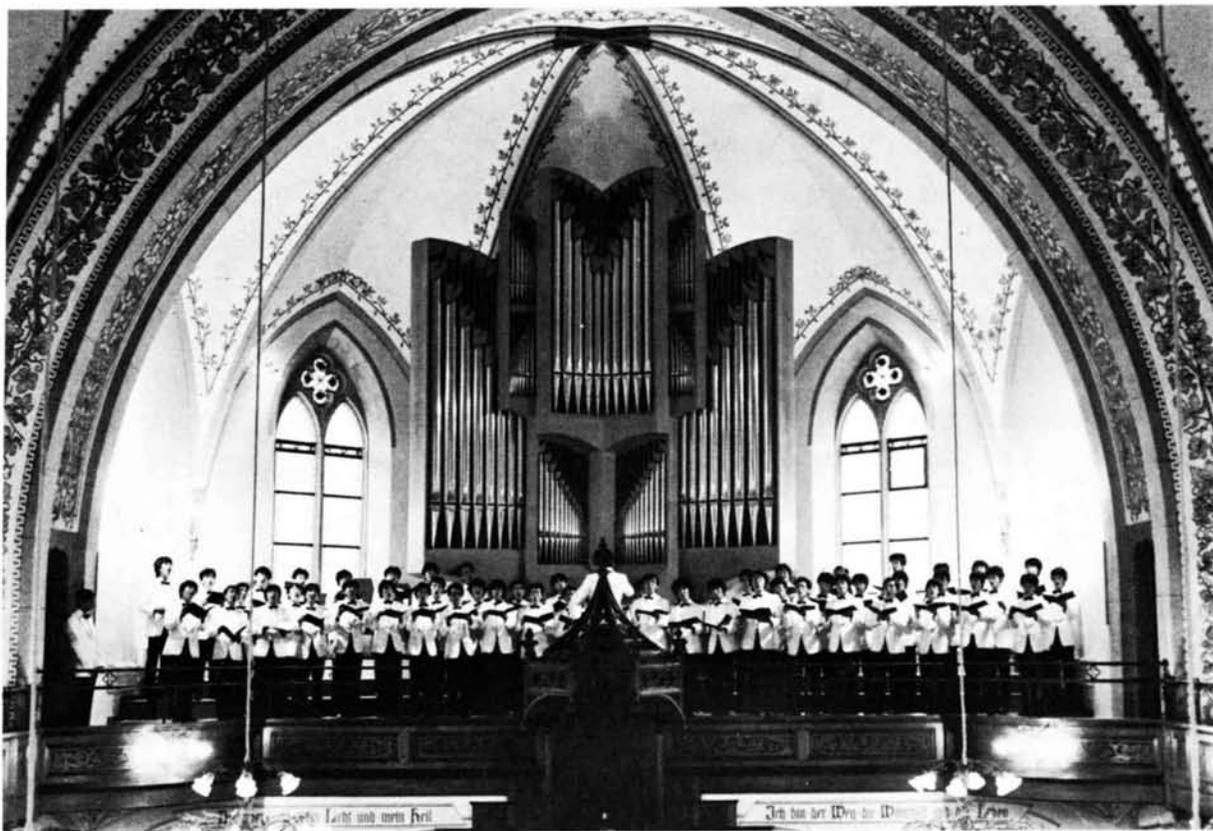
7月22日(金) ホッホ・ユブリック屋外コンサート

朝から解放感一杯。そのせいか昼食時間に遅れる部員も。午後2時から避暑に来ている人達を前にし大自然の中で歌う。曲目紹介はドイツ語で諸江さん。努力の甲斐あってか、歌う前から歓声が上がった。ツェーガーベ(アンコール)を数回受け山の演奏会は盛り上がった。

ここでの生活も今日が最後。アルプスを見ながら飲んだビールは本当に美味しかった。



▲ ホッホ・ユブリックでの屋外コンサート



リヒターズヴィル・プロテスタント教会

7月23日(土) 第1回ホームステイ・コンサート (リヒターズヴィル・プロテスタント教会)

大自然に惜しみつつも別れを告げホストファミリーと対面する教会へ。この教会は素朴な美しさを持っており、心が安らぐ。ファミリーとの対面。名前が呼ばれる毎に歓声上がる。運良く？1人でホームステイすることになった学指揮須藤さんの引き寄せた笑顔。

夜8時、各自各家庭で夕食をとった後、教会でコンサート。1ステージ宗教曲を終えると福永先生がアンコールを数曲用意しようとおっしゃる。グリーンメンの顔もほころんでいる。残響を自分のものとして歌えるようになったのである。アンコール4回、最後はリジョイス。すばらしい演奏会だった。喜びを共に味わったファミリーと再び各家庭へ散って行く。みんなどんな話をしたのだろう。ブリッツと呼ばれる稲光はすごかった。

7月24日(日) 日曜礼拝奉仕 (チューリッヒ・グロースミュンスター教会) 寝台列車でブダベストへ出発

朝7時半。たった1日だったが、家族のように親しくなったファミリーの人達と別れを告げチューリッヒへ向う。これから礼拝に出席して歌うというのに、バスの中でも興奮まだ冷めきらず、福永先生の叱責が飛びやっとな落ち着きを取戻す。10時礼拝が始まり、説教の合間ごとにミサ曲を歌ってゆく。疲れのためか居眠りをする者も。せめて説教の内容が理解できればと思う。無惨な出来であった。一軒も店が開いていないチューリッヒの街を歩き回った後、夜9時半、寝台列車ウイナーワルツ号でブダベストへ向け出発。ブダベストに着くのは明日の昼過ぎとか。退屈な長旅。

7月25日(月) ブダベストの合唱団とジョイントコンサート (劇場ヴィガド)

ハンガリーに入ると今までとは打って変わって窓の外には一面力強さと重苦しさを覚える畑が広がる。国境では少し緊張したが別に何事もなく、安心。昼2時過ぎブダベストへ着き、そのまま宿泊所のヒルトンホテルへ。ジョイントする相手が昨日行なわれたハンガリーの合唱コンテストで優勝した合唱団(混声)と聞き、今までとは異った雰囲気に戸惑いつつも、練習に熱が入った。夜8時、コンサートが始まる。日本民謡、日本の現代曲と各々好評であったが、やはり日本人が歌うコダーイに最も興味が寄せられた様であった。

歌い終わった後は私達の方が驚いた。残響はほとんど無い劇場に拍手が鳴り響くのである。演奏の良し悪しを言う前に拍手に圧迫されてしまった。そんな雰囲気の中でいつの間にかコンサートが終わってしまった。終了後行な

われたレセプションにおいては、相手の合唱団と言葉を越えた合唱での交流が夜遅くまで行なわれた。

7月26日(火) ブダペスト市内観光 自由行動

午前中、日本語を上手に話される Frank Tibor さんの案内で市内の遺跡などをバスで回る。午後から聞き慣れないハンガリーのお金フォリントを持ち、買い物にみんな散って行った。誰が1番に買ったか知らないが、グリーの誰もが手にコダーイのレコードを持っている。後からレコード店に行ってもコダーイは1枚も無いと言う。どうやらグリーンメンがレコードを買い占めたらしい。疲れているにも抱らず、1日中、本当によく歩き回った。遠藤先生、諸江さんはブダペスト市長を表敬訪問。

7月27日(水) ブダペスト→ウィーン 自由行動

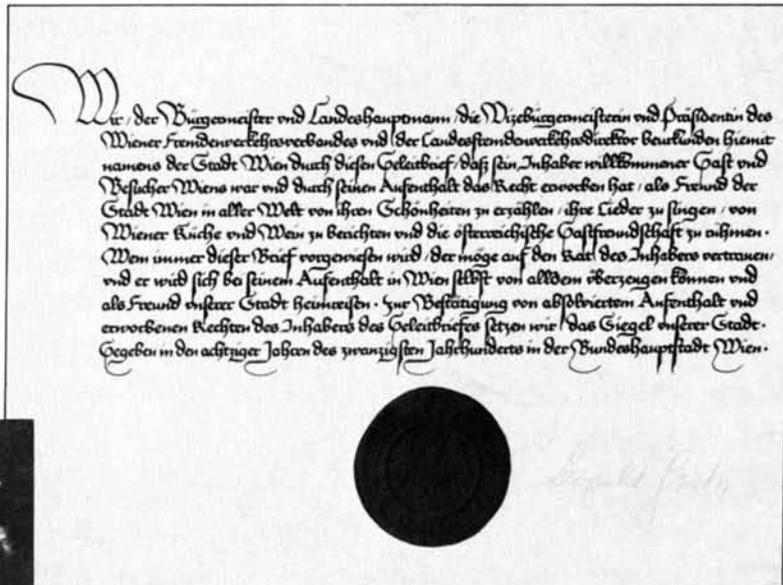
バスで5時間かけウィーンへ。途中、ハンガリーの小さな村で昼食をとったが、フォリントは国外持出禁止ということでみんな躍起になって使い果たそうとしている。中にはワインが美味しいということで1人で5、6本も買った人も。昼2時にウィーンに着き、夕方からは時間無制限の自由行動。流石に日本人が多く、外国という感じがしない。夜中まで飲み歩いた人もいれば、早々とベッドについた者も。それにしてもグリーンメンよく歩き回る。

7月28日(木) コンサート (ウィーン・アウエルスベルク宮殿) ウィーン市長主催午餐会出席



▲ アウエルスベルク宮殿でのコンサート

午前中ウィーン市の御案内で市内観光。モーツァルトのお墓の前で“アヴェ・ヴェルムコルプス”を歌い感激にひたる。諸江さんと須藤さん2人はオーストリア国営放送に出演。同志社グリークラブの歌声がオーストリアの電波に乗る。夜7時半、大理石造りの古い宮殿でコンサートを行う。演奏旅行中唯一、日本と同じ演奏会形式のコンサートで主な曲全てを歌った。聴衆との間は僅か2メートルで小さな反応までこちらに伝わる。中には始終さかんに拍手して下さった老婦人も。又、石井欽氏、皆川達夫氏が会場にいらっしゃり、緊張と共に全力を使い果



—ウィーン市長署名の証書—

本証書の所持人はウィーンで歓待を受けた賓客である事を証する。また善くウィーンの名を語り、賞讃の歌を歌い、美食と美酒を讃え、客人をもてなすオーストリアの厚き情を詳言する権利を、その滞在中を通じて取得した事を証する。 '83.7.28

ウィーン市よりグリーンメン一同に贈られる



▲ ウィーン市庁舎にて、市議会議長と握手を交わす

たして歌った。音楽の都、ウィーンでの演奏会、拍手の中に成功を確信した。又、遠藤先生、諸江さんは、日本大使館、日本カルチャーセンターを表敬訪問。

7月29日(金) ウィーン→ザルツブルク ミサ・コンサート (ザルツブルク・ザンクト・ブラジウス教会)

ザルツブルクへ向う途中、ブルックナーのお墓があるザンクト・フローリアン教会でパイプオルガンの演奏を鑑賞する。午後3時ザルツブルクに到着。教会で演奏会の準備をしていると、何と昨年ジョイントコンサートを行なったハーバード大学の学生2人と会い共に驚く。6時からミサ・コンサートを行なうと言ったところ聞きに来てくれた。コンサートでは「砂山」を歌ったが、「さよなら」という歌詞が出てくると或老婦人の顔が和いだ。「さよなら」は既に、国際語となっているのだろうか。

7月30日(土) ザルツブルク→リュシュリコン 第2回ホームステイ

朝10時、列車に乗りチューリッヒへ向け出発。アルプスの山々を見ながらの移動は快適であった。午後4時、チューリッヒ着。6日ぶりなのだが、「戻って来た」という思いがどことなく感じられるのが不思議である。今日から3泊4日のホームステイ。1回目とは違いみんな余裕を持っておりファミリーと会うのを楽しみにしている。リュシュリコンの教会でファミリーと対面。1回目の時、たった1人でホームステイをした学指揮須藤さん。又もや1人となる。運はついてまわるようだ。中には神学校の寮に泊まるグループも。どんな生活をするのだろうか。

7月31日(日) エキュメニカル日曜礼拝奉仕 (リュシュリコン教会)

朝10時、礼拝に出席して歌う。この教会にはカトリック、プロテスタント両方の信者が来ているようで、小さな村の教会という感じがしてとても和いだ雰囲気を持っている。礼拝の中で出席している人達が輪唱で合唱を始め大変驚いた。とても自然な歌声ですばらしかった。午後は自由行動でほとんどのメンバーが近くの湖で泳いだ。外国で泳げるとは思っていなかったが、中には3年ぶりに泳いだという人も。夕方はホームステイの人達と、各々食事をとり、なかなか暮れないスイスの夜を楽しんだ。



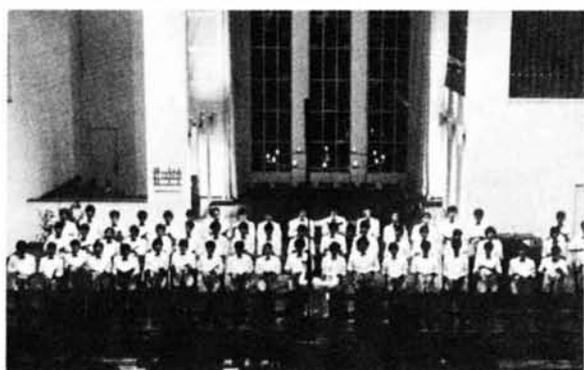
▲ 日曜礼拝奉仕・リュシュリコン教会

8月1日(月) コンサート (スイス独立記念日の行事に参加) (リュシュリコン)

各自朝食を各家庭でとった後、ミグロース・パーク・イン・グリュエネンという広場に集合。この広場でスイス独立記念日の行事の一環として屋外コンサートをする予定だったが歌う寸前に大雨。行事は中止という情報が流れはしたが、集まった人々も帰ろうとはしない。グリーンメンも歌いたい気持ちで一杯。雨やどりしている木の下で歌い出す者達も。小雨になった時「歌おう、歌おう」と誰となく言い出し、傘をさしている大勢の人達の前に集合。日本民謡を中心にカ一杯歌った。突然歌い出した我々に一瞬人々は驚きはしたが、うれしいほどの拍手を贈ってくれた。聞いている人の顔が雨にも抱らず明るくなり、その顔が私達の歌心を掻きたてた。いつの間にか雨も上がり、私達の心にはすがすがしいものがあつた。聞いてくれた大勢の人の心もきっとそうであつたらう。

8月2日(火) 欧州、最後のコンサート (ルツェルン・ザンクト・ルーカス教会) インターラーケンへ

朝9時、初めてファミリーと対面した教会へ集合。お別れの時がやってきた。涙を流している人もいる。別れが本当につらい。送別の歌を歌ったのだが、みんな声が震えて…… 雨の中、別れを告げバスに乗りルツェルンへ向う。夜8時、欧州最後のコンサートを行う。控え室ではいつになくみんな緊張している。すばらしい演奏を、それしか頭の中になかった。客席には、ホストファミリーの方もいらっやっている。宗教曲、日本民謡、アンコール。全ての曲を歌い終えた。終わったことが信じ



▲ ザンクト・ルーカス教会でのラストコンサート

られないような気持ちで。体の力が一遍に抜けてしまい、一瞬の中に様々な事が去来した。深夜、インターラーケンに着いたが、なかなか眠ることができなかった。

8月3日(休) ユングフラウに登る

演奏会も無くなり解放感というよりも空虚な気持ちがある。すばらしい景色を期待していたが、朝から雨、ユングフラウの頂上はなんと吹雪。気温は零下5度。昼食の時、あまりの高い値段に富岡先生が真剣に交渉。結果は少し値段が下がりスープが付いた。そのかわり、グリー全員同じ物を食べることになってしまった。ユングフラウ、印象は寒さと1万円近くかかった登山電車。宿泊所は荷物の整理、御土産の確認で、ごった返し足の踏み場もない程であった。荷物の重量オーバーが気に懸る。

8月4日(休) インターラーケン→ジュネーブ

高速道路を通りバスでジュネーブへ。常に、100km程のスピードを出しているの速い速い。途中レストランで昼食をとったがフランス語圏ということでメニューは解読不可能。午後2時頃ジュネーブに着き自由行動となる。みんな最後の買物に精を出す。夕食のオーダーに4回生3人遅れ、食事が終わった頃出現。なんと警察でレストランを捜してもらったそうである。夜、昨夜と同様みんな荷物の整理に忙しい。どうも変わった宿舎だと思ったら、何と核シェルターであった。道理で扉が部厚い。

8月5日(金) グリーメン欧州を離れる (ジュネーブ→ロンドン→アンカレッジ)

ついに来たこの日が、空港で今までずっとお世話になったスイス東亜ミッションのシャウブさんと1人1人握手をかわしヨーロッパの地を離れた。アンカレッジでは予約していた酒、タバコなどの御土産を受け取り、心は完全に日本の方に。

8月6日(土) 帰国 (成田着15:45 大阪着18:30)

帰って来た。演奏旅行が終わった。重くなったスーツケース、沢山の御土産、そして西洋音楽の源泉にふれた喜びを持って。

ヨーロッパ演奏旅行大成功、万歳!!



OB合唱団クローバークラブは、「関西クローバー」と「東京クローバー」の2つで活動をつづけていたが、この年の8月27日名古屋地区に「東海クローバークラブ」(会長齊藤隆之氏～昭25卒)が発足した。

9月15日、大阪のザ・シンフォニーホールで「関西合唱フェスティバル20」が開催された。これは、関西6府県合唱連盟創設20周年(1946年関西合唱連盟創立、1963年関西6府県合唱連盟設立)記念事業の1つで、大阪から「いずみコーラス」、「豊中混声合唱団」、滋賀から「市民合唱団コールライゼ」、兵庫から「宝塚音楽学校合唱団」、「神戸中央合唱団」、奈良から「陽声たまゆら会」、京都から「同志社グリーククラブ」、「京都女声合同合唱団」、「合唱団京都エコー」の9団体が出演した。



9月28日、29日の両日、東芝レコード現代合唱曲シリーズのレコーディングを池田市民文化会館アゼリアホールで行った。北村協一氏指揮で、男声合唱組曲「北陸にて」(多田武彦曲)と「三崎のうた」の録音であった。

11月3日、大阪フェスティバルホールで第10回関西六大学合唱演奏会を開催した。

11月25日、学生会館でスイスミッション招待レセプション。

12月17日、大阪のザ・シンフォニーホールで第79回定期演奏会が開催された。そして12月20日、恒例の第19回全同志社メサイア演奏会が京都会館第一ホールで行われた。

第79回定期演奏会のプログラム

プログラム		プログラム
<p>DOSHISHA COLLEGE SONG 作詩 W.M. Varies 作曲 Carl Wilhelm</p> <p>I. 男声合唱組曲「わが歳月」 1. わが二月 2. 春 3. 空の音 4. 五月のお月 5. 十月 6. 再立て下 作詩 飯田寛夫 作曲 大中 忠 指揮 須藤彰治</p> <p>II. 男声合唱組曲「花之伝言」 ——男声版初演—— 1. 神童い 2. 水と風の音 3. 土の響 4. 花之伝言 作詩 中村千栄子 作・編曲 石井 敏 指揮 富岡 健</p>		<p>III. 「コダーイ男声合唱曲集」より (全5曲) 1. HUSZET 2. KIT KENE ELVENNI 3. ESTI DAL 4. HELI-BUNGOSZOKI BANDI 5. BORDAL 作曲 Kodaly Zoltan 指揮 富岡 健</p> <p style="text-align: center;">— INTERMISSION —</p> <p>IV. MASS IN D op. 86 1. Kyrie 2. Gloria 3. Credo 4. Sanctus 5. Benedictus 6. Agnus Dei 作曲 Antonin Dvorak 編曲 福永隆一郎 指揮 福永隆一郎 オルガン 大代 恵</p>

昭和59年 (1984)

2月19日、ホテルサンフラワー京都でヴォイストレーナの久保昭男先生就任20周年感謝記念パーティーが催された。昭和37年5月以来、同志社グリーのヴォイストレーニングに情熱を注いでいただいた「ダグ先生」こと久保昭男先生に感謝し、今後のためみない指導もお願いした。

6月16日、大阪フェスティバルホールで第31回東西四大学合唱演奏会が開催された。つづいて7月8日、東京中央会館ホールで第23回立教・同志社交歓演奏会が行われた。



11月3日、大阪フェスティバルホールで第11回関西六大学合唱演奏会が開催された。

この年は同志社グリークラブ創立80周年の年であった。OB会を中心に記念事業実行委員会が組織され、準備をすすめていた。そして、その事業の1つ創立80周年記念クローバークラブ演奏会が11月4日、京都シルクホールで開催された。そしてその後、からすま京都ホテルで祝賀会が行われた。その模様を「OB会報VO1.13」から引用すると、

『80周年記念のメイン・イベントの二つ、記念演奏会と祝賀会は秋天好日の11月4日、京都、四條烏丸のシルクホール、引続き、からすま京都ホテルで盛大に挙行された。

演奏会の開幕はグリークラブのロシア民謡。若々しい歌声が満員の聴衆の拍手を受ける。次いで、十全の練習を積んだクローバークラブ。東京、東海、関西の“老・

第23回立教・同志社交歓演奏会のプログラム

プログラム

エール交歓
同志社グリークラブ
立教大学グリークラブ

**1. 同志社グリークラブ
シベリウス男声合唱曲集**
作曲・J. Sibelius
1. Soturaz ilin
2. Tove Kuu
3. Vainio
4. Tydrot luopasaatu
5. Mielonien laulu
6. Sydänni laulu
指揮・宮田 隆

**2. 立教大学グリークラブ
Sea Chanty**
作曲・Alan Crompton/Fred Shant/Robert
1. Shanties
2. Shanties
3. We'll sing 'em Do With The Drunken Sailor
4. Calling 'em
指揮・宮田 隆 / ピアノ・宮田 隆

intermission

**3. 同志社グリークラブ
コダイク男声合唱曲集**
作曲・Rimsky Korsakov
1. POLSKALLAHTI A PÄVA
2. MEJ EDVÄRDELI BANDI
3. MURKY
4. ESTRI DAL
5. KAPPAKIN KIRKOST
指揮・宮田 隆

**4. 立教大学グリークラブ
月下の一群**
フランスの詩による男声合唱曲集
訳詞・同志社大学 / 作曲・宮田 隆
1. 小曲
2. (無題)
3. 人々の心はつながるな
4. 舟よ
5. 秋の歌
指揮・北村 隆一 / ピアノ・中島 隆枝

**5. 合同演奏
Missa O Magnum Mysterium**
作曲・T. L. Victoria
1. Kyrie
2. Gloria
3. Sanctus
4. Benedictus
5. Agnus Dei
編曲・指揮・菅川 達夫

壮・青” 精鋭75名がR・ロジャース「南太平洋」よりの6曲を山下裕司氏(S.52)の指揮、山本優子さんの伴奏で演奏した。立見を含め一千余の聴衆の中、緊張、ときめき、そして優美でかつリズム感あふれる音楽が会場を充たした。1977年、新生クローバークラブ発足以来の最高の名演奏とあえて自賛したい。第二部は、「80年の散策—8人の指揮者」(作・構成大畠功、舞台監督岡本俊夫)のタイトルで、グリークラブ80年の歴史を飾った名曲の数々が、長老山田基男氏(S.6)を筆頭とする8名の指揮者により、演奏された。レギュラーに加えて、この日のためにと全国よりはせ参じたOBを併せ90余名の大合唱は、その一時間余の舞台を瞬時のものと思わせる力があつた。フォー・バイ・フォーのドゥーアップ「シュ・ブーン」の軽快なリズムは、客席と舞台上のメンバーの暖い手拍子に包まれた。新鋭ワイルド・ローバーズの「Swing Down Chariot」も満場の共感の拍手を呼んだ。が、中でも当日の圧巻は、金剛流職分、今井清隆氏(S.42)の演能であつた。面、能装束を整え、メルシュナー「小夜曲」に合せて舞うという大胆な試みは、東西の伝統ある二つの芸術の華麗な対決と合体、と各方面の賛辞を頂いた。アンコールは現役と共に、福永陽一郎氏を舞台にお迎えしての「赤とんぼ」。近年最も充実したクローバークラブの音楽会であつた。

会場を「からすま京都ホテル」に移しての記念祝賀会は、来賓、OB、家族、現役と、330名もの大パーティとなり、グリークラブ史上最大のものとなつた。藤浩和現役幹事長の開会宣言、松本寛二OB会会長の挨拶の後、新月会理事長、今川安雄氏よりお心のこもる祝辞をいただき、はからずも、次いで登壇された日下部吉彦氏(S.27。関西合唱連盟理事長)との同関両校エールの交換となつた。片桐芳子夫人への記念品贈呈に次ぎ、五十年余の星霜をOBとして過ぎられた富本武則氏(T.12)他5名の長老に、感謝の品が現役の手により贈られた。

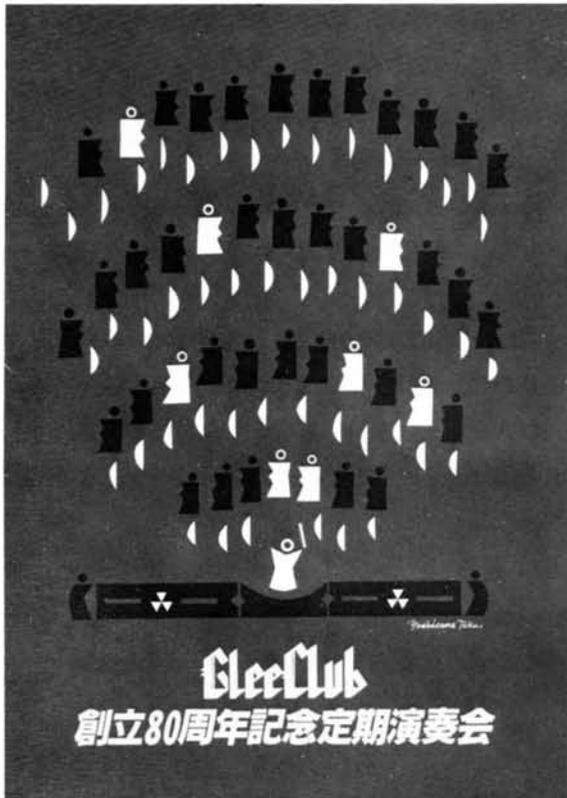


同志社グリークラブ創立80周年記念「クローバークラブ」演奏会
(1984.11.4.京都シルクホール)

遠来は札幌よりの藤井清氏(S.12)の乾盃の挨拶の後、なごやかな歓談に移り、懐旧のスピーチ、美声のソロ、軽妙な四重唱、超オールドボーイズの名合唱、ヤングエイジのパワフルな合唱と、宴を心ゆく迄楽しんだ。中でも現役の力強い歌声は、未来への確かな手ごたえを一同に与えた。長島俊司OB会副会長の閉会の辞の後、わき起った讃美歌「神ともにいまして」の合唱は、近い日の再会と、百周年へ向っての躍進を約束する如く響きわたった。そして、朝比久雄氏(S.36)のクロージング・メッセージのうちに、「グリークラブ80年の一番長い日」の幕が、

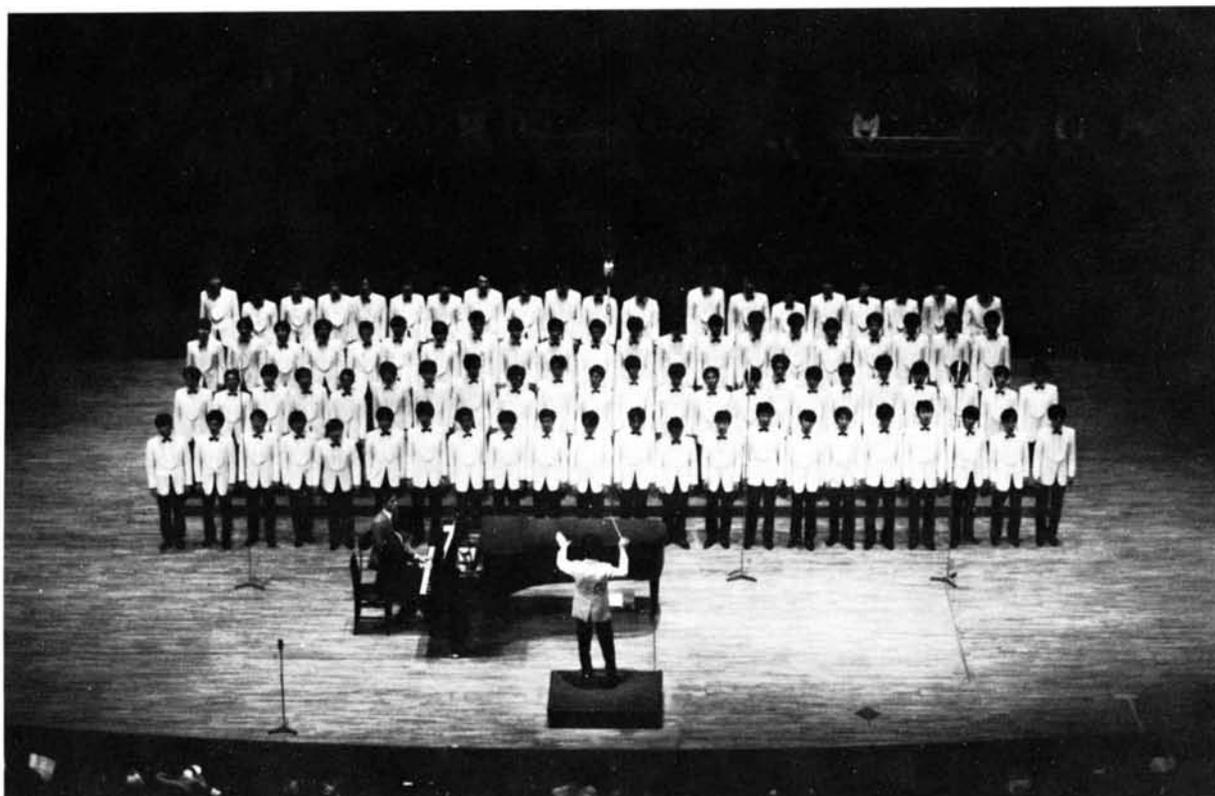
静かに降りていった。』

現役も80周年を記念して12月17日、東京新宿文化センター大ホールと、21日、大阪のザ・シンフォニーホールで同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会を開催した。



<p>プログラム</p> <p>DOSHISHA COLLEGE SONG 作詩 W.M.Vories 作曲 Carl Wilhelm</p> <p>I. MESSE SOLENNELLE 'SAINT CECLIA' 1. Kyrie 2. Gloria 3. Credo 4. Sanctus 作曲 C. F. Gounod 指揮 富岡 健 ピアノ 長田育忠 ソプラノ 宮城律子 オルガン 住山咲梨子</p> <p>II. Zigeunermeloden(ジプシーの歌) 1. Mein Lied ertönt 2. Ei was mein Triangel 3. Ringo ist der Wald 4. Als die alte Mutter 5. Reingestimmt die Saiten 6. In dem weiten breiten luftigen Lernerlande 7. Darf des Falken Schwärze 作詞 Adolf Heyduk 作曲 Antonin Dvorak 指揮 高橋圭二 ピアノ 長田育忠</p>		<p>プログラム</p> <p>INTERMISSION</p> <p>III. Lieder eines fahrenden Gesellen (さすらい若人の歌) 1. Wenn mein Schatz Hochzeit macht 2. Ging heut Morgen über's Feld 3. Ich hab ein glühend Messer 4. Die zwei blauen Augen 作詩・作曲 Gustav Mahler 指揮 福永隆一郎 ピアノ 久瀨之宜</p> <p>IV. 男声合唱曲「峠の墓」 作詩 堀田善衛 作曲 團伊玖磨 指揮 浅井敬章 ピアノ 久瀨之宜</p> <p>————— 全編曲 福永隆一郎 —————</p>
---	--	---

同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会のプログラム



同志社グリークラブ創立80周年記念定期演奏会
(1984.12.21. 大阪ザ・シンフォニーホール)

80周年シンボルマーク



「同志社グリークラブ」80年の歴史は、大河の如き、人の歴史である。

その人々の人生がそこにはある。

その人々のドラマがそこにはある。

その人々と共に生きた人達がそこにはある。

その人々が愛したものがそこにはある。

そして、——その人々の命が、そこにはいつも息づいている……。

❖ GleeClub

東西四大学合唱演奏会

第1回
東西四大学合唱演奏会



昭和27年 9月21日／同志社栄光館
◇ 9月23日／大阪産経会館

【第1部】

- 牡鹿の淡水をしたひて
..... C. Gounod
- Kyrie..... A. Gabert
- Beati..... F. Mendelssohn

【第2部】

- 野ばら..... Welner
- 剣と堅琴..... F. Heger

指揮者：寺本和市

《合同演奏》

- Ave maria..... J. Arcadelt
- 愛でし友..... Silcher

指揮者：長井斉

第2回
東西四大学合唱演奏会

昭和28年 9月20日／日本青年館

【第1部】

(Sacred Songs)

- Pie Jesu..... N. A. Montani
- Adoramus te..... J. Clement
- Surrexit Bouns
..... G. P. da Palestrina

【第2部】

《Russian Folk Songs》

指揮者：寺本和市

(合同演奏)

- いざ起て戦さびと
- Oh morn of Beauty
- のぞみの島

指揮者：福永陽一郎

第3回
東西四大学合唱演奏会

昭和29年 9月18日／同志社栄光館
◇ 9月19日／大阪産経会館

【第1部】

(Sacred Music)

- O Sacrum Convivium
..... F. Heckenlively

東西四大学合唱

「四連」それは、現在日本の合唱界に於いて秋の全日本合唱コンクールと双壁に位置する春のビッグイベントである。その輝かしいイベントを関西学院グリークラブ、慶応義塾ワグネルソサエティ男声合唱団、早稲田大学グリークラブの三校と共に我々同志社グリークラブは四つに組んで、今日の隆盛にまで育んできたのである。そこで「第1回四連」以来30数年を経た今日、その歴史を常に陰から支えてきた四連マネージャーの声を通して振り返ってみたい。

i) 四連誕生の経緯

昭和26年 9月23日 弥栄会館のプルニエにおいて東西四大学合唱連盟の結成のための会がもたれた。同志社、関学それに早稲田の全権を委任された慶応とによって連盟結成の公式声明がなされた。早稲田は当時、慶応の全権委任を受け東京六大学合唱連盟の結成に全力を上げていたのである。

声明によればその骨子は東西四大学の技術的精神的交流を目的としていた。

当時の各校間の交流の状況を見ると、早稲田と関学がコンクールを仲介としてミーティングで親睦を深め、25年には大隅講堂で第1回の交歓会を開くに至っていた。また慶応も、12年には関学と交歓演奏会を持ち終戦後もミーティングで親睦を計っていたが、結成当時はむしろ同志社との交歓が多く行われ、26年の9月には同志社栄光館、大阪旧毎日会館で交歓演奏会を持つに至った。

演奏会終了後、関学の幹事を招いてのプルニエ声明となったのである。しかし時期的に、またスケジュールの点でその年度に第1回演奏会を開くことは不可能だったので各責任者マネージャーが責任を持って次代の幹事に申し送ることになった。

「四連」縁起

山田 孝彦 (昭和28年卒)

「東西四大学合唱音楽会」は、昭和27年 9月21日・23日、同志社栄光館と大阪産経会館において、盛大にその第1回公演がおこなわれた。

その当時グリー幹事会としては「庶務日誌」として後日の為にかなり克明な記録をしていたはずだが、それらの資料はどうなったのであろうか。今となっては昔の記憶や、古いアルバムをたどってつなぐしかない。

(1) 慶応ワグネルと同志社グリー。

昭和26年10月19日、大阪毎日会館における交歓演奏会が両校の戦後交流の始めである。遡って5月には、日比谷公会堂で伝統の立教グリーとの交歓演奏会が満員の大盛況をおさめているが、この頃から慶応とのコンタクトが具体化したように思う。翌27年 5月1日宝塚大劇場で慶応ラリー（慶応義塾のキャンペーン行事）が開催された。フィナーレに服部正作曲・指揮による男声合唱とオーケストラの為の「慶応讃歌」が発表され、友情出演としてワグネルと共演した。これを機に両校の交流は一層親密になった。

(2) 関学グリーと早稲田グリー。

同じ頃関学・早稲田両グリーも交歓演奏会を持つなど友好関係にあった。

演奏会の歴史

(3) 関学グリーと同志社グリー

関西の両校はというと、毎年合唱コンクールで覇を競うという宿年のライバルであり、対抗意識ばかりが前面にでてクラブとしては友好的な雰囲気ではなかった。

(4) 四大学の交流実現

この様な状況の中で東西を代表する四大学の合同という話が起ったのは、誰が何時と行って定かでないがごく自然な経過であったと思う。ただ、ワグネルの高橋君からの連絡で、わが戸所義雄君を東京に派遣したことを思い起こすと、やはり東京側からの呼び掛けであったのかもしれない。

(5) 関学と同志社の協力と四連の成功。

ともかく第一回は関西でと言うことになった。これは大変なことになったと思ったが、当時の社会情勢や聴衆動員力から考えて、関学・同志社協力しての開催というのは妥当な結論ではあった。また、それまで何となくしっくりしなかった関西両グリーが、これによって親密になるならば幸いとも考えて、この大プロジェクトに取り組むことになった。

企画全般のアレンジと大阪演奏会を関学が、京都演奏会と東京勢の宿舎それに食糧の確保は同志社という分担がきまった。両校の総力を挙げ、更に在関西の四大学OBの支援も得て「四大学合唱音楽会」は大成功を収める事ができたのだが、今日「四連」と呼ばれて30年を越える伝統的行事になっているのを見るにつけ、感慨深いものがある。

かくて27年度各校幹事によって、第1回演奏会の計画は数次の会合を重ね、27年度卒の土肥通夫氏等を中心とした先輩諸兄の授助、指導を受けつつ、具体化していった。

連盟結成からほぼ1年、計画は順調に進み、昭和27年9月21日同志社栄光館、23日大阪産経会館において第1回東西四大学合唱演奏会が開かれた。第2回四連は、昭和28年9月20日、所変わって東京日本青年館で行なわれたが、聴衆の入りはきわめて悪く昼夜共半分に満たない程であった。第2回四連を終えて、一部にはこれ以上演奏会を続ける事に対する危惧の念すら出たが、この有意義な演奏会は是非とも続けなければならぬと言う4校部員の熱意によって、昭和29年9月再び同志社栄光館、大阪産経会館で第3回四連が開催された。第3回は、第2回の不入に比べて大変な盛況であった。

「エピソード」

第5回四連マネージャー 長谷部 勇 (昭和32年卒)

月日のたつのは早いもので、私達がコンクールに、定期演奏会に、四連に、春、夏の演奏旅行に、それらが全てである様に打込んでいた学生時代は、もう30年も前のこととなってしまいました。

当時私は名マネージャー河上文久、小田泰弘両先輩の後をついで渉外をやっ

- Blessed is he that readeth
..... C. S. Colburn
- 主の祈り..... D. S. Bortiansky

【第2部】

(一般曲)

- Let us break bread together
..... Negro Spiritual
- Die Beredsamkeit..... J. Haydn
- To Joy..... K. Greger

指揮者：渋谷昭彦

(合同演奏)

- Zum Gloria } シューベルト
- Zum Sanctus }
- 秋のピエロ..... 清水脩

指揮者：長井齊

第4回 東西四大学合唱演奏会

昭和30年9月18日 / 日本青年館

【第1部】

《宗教曲集》

- Beati Mortui メンデルスゾーン
その他

指揮者：野村忠

【第2部】

- 聖なる山(黒人霊歌) 他
その他

指揮者：野村忠

《合同演奏》

- Die Nacht シューベルト
- 詩編103編「わがたましいよ」
- Media Vita プルッフ

指揮者：福永陽一郎

第5回 東西四大学合唱演奏会

第5回
東西四大学合唱演奏会



昭和31年9月15日 / 宝塚大劇場

◇ 9月16日 / 同志社栄光館

【第1部】 (山田耕筰 作品集)

【第2部】

(Double Chorus of Eight Voices)

- Villanella..... di Lasso
- De Profundis..... P. Yon

指揮者：河原林昭良

《合同演奏》

- 通りゃんせ

- おどりうた
 - 夕やけ
 - 水夫の歌
- 指揮者：林雄一郎

第6回 東西四大学合唱演奏会

昭和32年 6月23日 / 日本青年館

【第1部】

- Missa Pacis……………O.Ravanello

【第2部】

- 「雪と花火」……………詞 北原白秋
曲 多田武彦

指揮者：河原林昭良

《合同演奏》

- 夏が来たかと……………大中恩
- ふるさと……………磯部俣

指揮者：磯部俣

第7回 東西四大学合唱演奏会

昭和33年 6月21日 / 同志社栄光館
* 6月22日 / 大阪毎日ホール

【第1部】

(世界民謡集)

- カチューシャ
- ヴォルガの船唄
- 嘆きの川
- 最上川舟唄

指揮者：市島章三

【第2部】

- 「自由の契約」…………… R. Thompson

指揮者：Pierce. A. Getz

《合同演奏》

- Rock-a my soul
- What kind a shoes ?
- He never said a mumblin' Word
- Joshua fit de battle of Jericho

指揮者：David Larson

第8回 東西四大学合唱演奏会

昭和34年 6月21日 / 神田共立講堂

【第1部】

(宗教曲)

- Ecce, quomodo moritur
…………… G. Palestrina
- Sacerdotes Domini…………… W. Byrd
- Agnus Dei……………W. Byrd
- O Sacrum Convivium… Viadana

【第2部】 《ロシア民謡集》

指揮者：森本潔

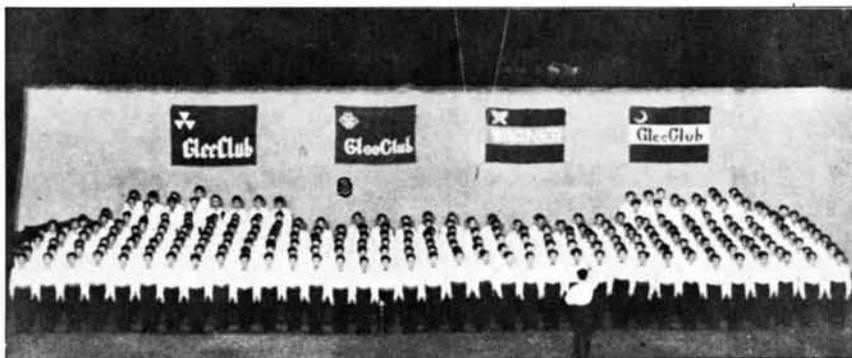
《合同演奏》 山田耕筰 作品集

指揮者：木下保

ておりました。30年の歳月は長いものです。四連に関するマネジメントでも特に苦労した事などにもなかった様で思い出すことが出来ません。特に当時のグリークラブは演奏会をやれば、いつも満員で経済的に非常に恵まれていて会場費など今の現役ほど苦労していなかったと思います。ある意味で先輩諸氏の苦労が実ってマネジメントの上で成熟期に入っていたのかも知れません。ただ既存のレールの上を走ったにすぎません。

そんな事で四連に関する苦労話や演奏会のエピソードは思い出せないのですが、つまらない事だけを鮮明に覚えているのが不思議です。

私が2年生の時、四連演奏会の前に行なわれた歓迎レセプションで曲名は覚えていませんが慶応「ダークダックス」と関学「ムーングロー」両カルテットの演奏を聞きました。その新鮮なハーモニーは今でもはっきり脳裏にこびりついていますし、ある意味でショックでした。以後同志社グリーン内にも小山さん、中嶋完ちゃんなどを中心に「シルバーゲート」なるカルテットが誕生し以後数年にわたって、演奏会には必ずワンステージつとめる事になるのです。



第5回四連

私が慶応の太田さんなどとマネジメントした4年生の四連は、学生生活最後と言う事もあってかなり頑張った記憶がありますが、やっぱりはっきり覚えているのは、ステージやマネジメントの事ではなくて演奏会打ち上げ後のことなのです。演奏会が終って早稲田の一部のメンバーからの強い要望で、当時まだまだ盛んだった祇園2部に乗り込みました。名実ともに親睦を計ったわけです。そのメンバーの中に今も大活躍中の「ボニージャックス」のメンバーが2人いた事も記憶にあります、時々テレビで見かけますと、1人で顔がほころびるので、ともあれ非常に喜ばれた事も事実です。マネージャーの仕事はいろいろあって忙がしいものでした。

今日あるのも、4年間の楽しかったグリーン時代があったからだと思います。

従来演奏会は9月に行なわれて来たが、各校のスケジュールの都合によって第6回以後は6月に開催することになり、第6回四連は昭和32年6月23日、東京日本青年館で開催された。レパートリーも、この頃になると同志社、関学は宗教曲、早稲田は黒人霊歌、慶応は邦人作品等と定まって、各校の特有カラーを持った演奏を聴かせるようになった。第8回になると、各校それぞれ白いブレザーコートで歌うことになった。

「京都会館がオープンした頃」

第9回四連マネージャー 寸田 達 (昭和36年卒)

(1) 第9回四連マネージメントの思い出

私が渉外マネージャーを務めたのは、副渉外マネを含め33年から35年の2年間でした。

当時渉外マネの仕事は、四連・立教交歓と春夏の演奏旅行がそれぞれ約三週間(十数回の公演)その他を含めて年間数十回の大小ステージをマネージメントしていました。遠征費用は勿論、クラブの運営費まで賄える程でしたから良き時代であったと言えます。

この渉外マネとしての経験は、私のその後の人生に大きな力と財産を与えてくれました。グリー2年目で、当時目立ない存在であった私を後任として推薦して頂いた若狭富士雄(34年卒)、早嶋英治(35年卒)両先輩マネージャーに、25年後のいま感謝する次第です。

さて、第9回四連は昭和35年6月、京都、大阪で開催しました。この頃も今日と同様、互いに凄まじいファイトとライバル意識を抱かせる演奏会で、数ある演奏の中でも、この1ステージに懸ける意気込みは大変なものでした。

指揮者並びにメンバーも無意識のうちに他校に負けない演奏を目指す気持ちが感じられたものです。

マネージャーとしても、「各校同志」「早稲田と慶応、同志社と関学」あるいは「東京と関西」などいろいろな組合せでの対抗意識が常に頭の中にあっただと思います。

さてこの年の春、建設中だった京都会館が完成し、同志社グリーにとっても待ち望んでいた本格的なホールが誕生しました。

実はその前年のうちに、関学の福本マネージャーから「大阪公演は、関学いや関西の面目にかけてフェスティバルホールを使うから…」と宣言されていました。

私はこの時、同志社の面目を保つにはどうしても京都会館第一ホールで、それも出来れば「こけら落とし」として公演すべきだと決意した次第です。



1959. 6 共立講堂 合同演奏リハーサル

第9回 東西四大学合唱演奏会

昭和37年6月23日/
京都会館 第一ホール
◇ 6月24日/
大阪フェスティバルホール

【第1部】

●² Second Mass in G₂より
……………C.Gounod

【第2部】

●² South Pacificより R.Rodgers

指揮者：森本潔

〈合同演奏〉

●巡礼の合唱…………… R. Wagner

●兵士の合唱…………… C.Gounod

指揮者：長井斉

第10回 東西四大学合唱演奏会



昭和36年6月17・18日/

東京文化会館

●「在りし日の歌」…詞 中原中也
曲 多田武彦

指揮者：浅井敬堂

〈合同演奏〉

●「枯木と太陽の歌」…詞 中田浩一
曲 石井歎

指揮者：木下保

第11回 東西四大学合唱演奏会

昭和35年6月25日/
京都会館 第一ホール
◇ 6月26日/
大阪フェスティバルホール

●ミサ曲ハ短調…………… F. Liszt

〈合同演奏〉

●Listen to de Lambs…………… N. Dett

指揮者：福永陽一郎

第12回 東西四大学合唱演奏会

昭和38年6月22・25日／
東京文化会館

●古典イタリア歌曲集

指揮者：福永陽一郎

〈合同演奏〉

●「若者の歌」……詞 藪田義雄
曲 清水 脩

指揮者：木下保

第13回 東西四大学合唱演奏会

昭和39年6月13日／神戸国際会館
◇ 6月14日／
大阪フェスティバルホール

●「わが歳月」……詞 阪田寛夫
曲 大中 恩

指揮者：福永陽一郎

〈合同演奏〉

Missa Solennelleより

●「Credo」……A. Duhaupas

指揮者：北村協一

第14回 東西四大学合唱演奏会

昭和40年6月13・14日／
東京文化会館

●「十の詩曲」による六つの男声合
唱曲より
……曲：D. ショスタコヴィチ

指揮者：福永陽一郎

〈合同演奏〉

●「蛙の歌」……詞 草野心平
曲 南 弘明

指揮者：木下保

第15回 東西四大学合唱演奏会



昭和41年6月13日／
京都府会館第一ホール
◇ 6月14日／
大阪フェスティバルホール

完成前のかなり早い時期から、新たに設置された会館事務局と折衝しましたが、何しろ事務局員は経験のない素人のお役人ですし、また市主催のオープニング記念行事のスケジュールリングが捗らないため難行苦行、いらいらの連続でした。

結局、一般初公演として6月1日に「56回定期演奏会」京都府会館開館記念に花を添え、続いて6月25日四連演奏会を開催しました。

いずれにしても、京都、大阪の両ホールとも満員の盛況であったことは、早慶両メンバーの度肝を抜き、それ以降の四連が東京文化会館などいわゆる大演奏会志向への道を歩む発端になったのかも知れません。私も涉外マネージャー最後の仕事として、過去8回の四連を凌ぐ最大のイベントを全うすることが出来たのも、この様な条件に恵まれ、まさに幸運であったわけですが、グリー時代最高の思い出として印象に残っています。

(2) 演奏会のうら話

その1、当時、国鉄自慢の東京・大阪間を6時間で結ぶ初の特急電車が走り始めた時代…。

学生が遠征するのに急行列車でも贅沢と言われていたのに、早慶両メンバー百数十名が何んこの「花の特急列車」で意気高からに京都へ乗り込み、我々を驚かせたのであります。これは早慶両マネージャーの意地でした。

「演奏会場のスケールで完敗した」のでは東京の面目が立たないという気持ちからでしょう。

さらに面白い話。京都駅ホームに降り立つ両校のメンバー…。何んと！慶応ワグネルのみ全員例のグレーのブレザーによる第一種正装で勢揃いしたのは「さすが…。京都に到着直前、前もって打合せ通り一斉に着替えた由。これも早慶マネージャーの対抗意識の現われと言えましょうか…。

その2、第9回四連のわがグリーの演奏曲はあの「南太平洋」…。

この時もやはり照明効果で演奏を盛り上げるべく、西垣先輩の指導で趣向をこらしました。さてフェスティバルホールも事前に照明担当と打合せて演奏当日の準備を済ませたところ、関学の福本マネージャーが頭をかかえて「この照明代高いんや、何んとかしてくれ…」。この演奏会、フェスティバルホールも満員盛況でしたが、実のところ大阪分経費としては赤字覚悟。マネージメントでは京都の黒字で埋め合わせ全体でトントンの予定でしたから私の方は強気です。「そんなもん心配すんな！」のひと言で済ませられました。

それにしてもこの公演は破格の収支でした。私も福本君もマネージャー冥利に尽きる仕事をさせてもらいました。

(3) 素晴らしき仲間……四連マネージャー

関学福本喬氏、京都紫野高校で私の一年先輩で奇遇…。実に温厚・真面目な人ですが、ドスの効いた声で当時の部長杉本氏と関学グリーを掌握していた人物です。マネージャー会議のあと、彼の自宅で4人でひと晩飲み明した楽しい思い出があります。

早稲田館野美久氏、よく飲み、よく笑いそして話上手、母校とグリーをこよなく愛する情熱家。在学中、マネージで上京した際自宅に招かれ寝食の面倒を見てもらったりしました。

慶応関口信行氏、湘南在住のいかにも慶応ボーイを感じさせた人物。彼とは卒業後特につき合いが深かった。私が東京勤務になった42・43年頃、しばしば

彼の自宅を訪ね、御家族あるいは地元の仲間達とも親しくしてもらいました。

4人の出会いから4半世紀、顔を合わせる機会は少ないですが、今なお交流を続け「オレ、オマエ」の間柄を保っています。四連OB演奏会が生まれてから隔年毎に出会えるチャンスが出来ました。この「素晴らしい仲間の友情」が四連と共に不滅であることを願っています。(完)

昭和36年6月17・18日、第10回は、新装の上野、東京文化会館にて開催された。一般公開として東京文化会館を使用したのは、この時が初めてであった。また従来、各校2ステージ制であったのを、この年から1ステージに縮小された。このためいきおい内容が濃くなった。合同演奏もそれまでの簡単なプログラムから、大曲、難曲に移り変わっていったのも第10回からであった。

「十の詩曲」の頃

第14回四連マネージャー 滝沢 裕人 (昭和41年卒)

その日、グリーンメン 80数名は、秘かに期するものがあり、静かに燃えていた。初日の演奏がハーモニーの面で、いま一步であったこともあって。演奏が始まった。初めの数小節目がfで一瞬切れる時、残響がホールにワーンと気持よく響いて思わず身震いした。時には聴く者の背筋をなでるようにベースの柔らかいパートソロが響き、バリトンの艶のある音は安定し、高音のFのppもうまく歌えた。トップは鮮やかに高音部をクリアし疲れを知らない。セカンドのメロディー部分も光っていた。そして何より、フレッシュ時代からほとんど落伍者を出すことなく歌い続けた四回生30数名を中心に、全員の気迫、集中力が素晴らしく、最後まで乱れることなく歌いきった。

今尚、語り草となっている、ショスタコヴィッチの「十の詩曲」が終わった後、楽屋では福永先生の回りには、メンバーが自然に集まりお互いに握手をし、その夜の成功を喜びあったのだ。その夜、故木下保氏も「ワグネルでも今度原語で歌うんだ」と、話しておられた。その後実際取り上げられたか否かは、知らないが。残念な事に、この2日目の演奏は録音の用意もされていなかった為テープは残されていない。初日のものは、一部レコーディングされている。

この四連では、木下先生が合同曲「蛙の歌」に、大変意欲的で、盛んに「四連でしか出来ない合同曲を歌おう」と、言っておられた。この2週間前の同関にも、先生に上洛いただき、合同曲として取り上げさせていただいた。同関で四連の合同曲をその指揮者で歌ったのは当時としては、新しい試みであったように記憶している。

四連レベルでの団員の交流は、地域的な問題等で、どうしても指揮者、マネージャーに限られていたが、同関では、高校時代の同級生が双方に居たりしたこともあって、可成り盛んであったように思う。5月の天気の良い日曜日に、数十名が関学のキャンパスに出向き野球を楽しんだこともあった。

ところで、東海道新幹線の開通したのが、この四連の前年、昭和39年10月。この年の12月は、四連と同じ上野文化会館で、グリークラブ60周年の記念定期

- 「月光とビエロ」…詞 堀口大学 曲 清水 脩
指揮者：福永陽一郎
- 《合同演奏》
- 「枯木と太陽の歌」……………
詞 中田浩一郎 曲 石井欽
指揮者：福永陽一郎

第16回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和42年6月24・25日／
東京文化会館
- 「愛の詩集」……………R.シュトラウス
指揮者：福永陽一郎
 - 《合同演奏》
 - 囚人の合唱……………ベートーヴェン
 - 水夫の合唱……………R.ワーグナー
 - 幽霊船の合唱……………R.ワーグナー
指揮者：畑中良輔

第17回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和43年
6月22日 京都府会館第一ホール
23日 大阪フェスティバルホール
- 「合唱のためのコンポジションⅢ」
……………曲 関宮芳生
- 鱈 ● 羯鼓 ● 引き念仏
指揮者：福永陽一郎
 - 《合同演奏》
 - 「阿波折鶴文」 ● 「黙示」
……………曲 清水脩
指揮者：北村協一

第18回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和44年6月21・22日／
東京文化会館
- 「四つの仕事歌」
……………曲 小山清茂
指揮者：日下部吉彦
 - 《合同演奏》
 - 「デュオハのミサ」より
 - 「Kyrie」 ● 「Credo」 ● 「Agnus Dei」
指揮者：浜田徳昭

第19回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和45年10月26日／
大阪フェスティバルホール
10月27日
同志社大学学生会館ホール
- 「わが歳月」……………詞 阪田寛夫 曲 大中 恩
指揮者：高田英生
 - 《合同演奏》
 - 「海の構図」……………詞 小林純一 曲 中田喜直
指揮者：北村協一

第20回
東西四大学合唱演奏会

東西四大学合唱演奏会
20回

DOSHISHA KEIO KWANSEI
ASAEDA DOSHISHAKETU KWA

昭和46年 6月27・28日 /
東京文化会館

- Messe Solennelle de Sainte Cecillie…………… 曲 C. Gounod
指揮者：守宿允人
- 管弦楽：ヴィエール室内オーケストラ
《合同演奏》
- Hymne An Die Musik
…………… 曲 Lauchner
指揮者：木下保

第21回
東西四大学合唱演奏会

昭和47年 7月1日 /
京都会館 第一ホール
7月2日 /
大阪フェスティバルホール

- 「三つの抒情」…………… 曲 三善晃
指揮者：福永陽一郎
《合同演奏》
- 水夫の合唱…………… R. ワグナー
- 幽霊船の合唱……………
- 囚人の合唱…………… ベートーヴェン
指揮者：畑中良輔

第22回
東西四大学合唱演奏会

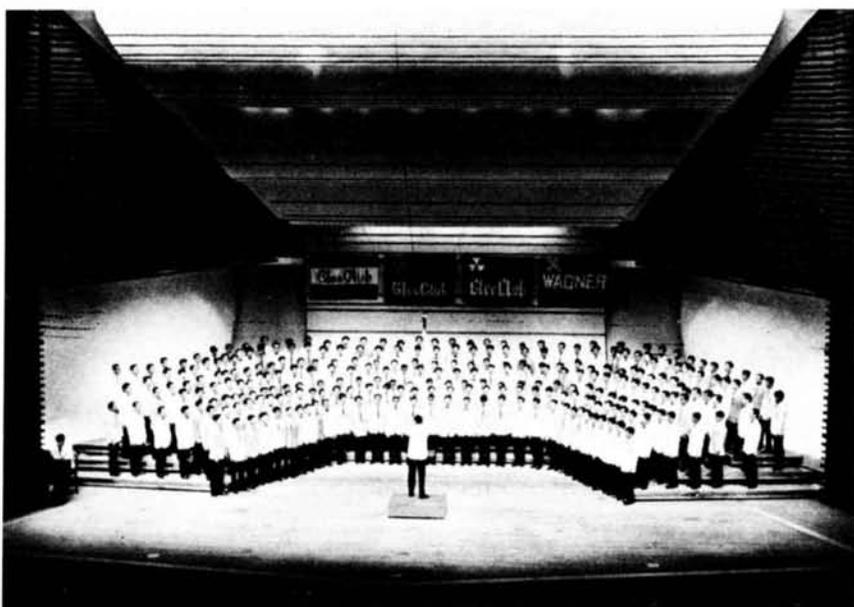
昭和48年 6月23・24日 /
東京文化会館

- 「三声のミサ」…………… A. カブレ
指揮者：福永陽一郎
《合同演奏》
- 「海の構図」…………… 詞 小林純一
曲 中田嘉直
指揮者：福永陽一郎

第23回
東西四大学合唱演奏会

昭和49年 6月16日 /
大阪フェスティバルホール
6月17日 /
京都会館 第一ホール

演奏会を持つことが出来たが、この時は、在来線で東上した。メンバー全員が往復新幹線のお客様となったのは、この時が最初である。



第14回東西四大学合唱演奏会 於東京文化会館大ホール '65.6.13.14

「四連」のネームバリューは年毎に高まり、アメリカ合衆国ニューヨークで催された世界合唱祭に第1回関学、第2回慶応、第3回早稲田、第4回同志社と、文字通り“四連独占”と言う形で参加した。各校の指導者も多彩を極め、木下保、福永陽一郎、畑中良輔、林雄一郎、北村協一、小林研一郎、手塚幸紀等錚々たる顔ぶれが指揮台に立った。

「全てがグリーだった15年前の思い出」

第20回四連マネージャー 高橋 博 (昭和47年卒)

● 忘れられないOB諸兄の心——。

「四連」が35回目を迎えると聞き、私の最上級生の時が20回目の節目であった事を思うと確かな時の流れに、なつかしさと驚きが交錯します。

当時の同志社のキャンパスは、70年安保闘争の末期でありようやく学園紛争も鎮静化の兆の見える頃と記憶します。とにかく私達の4年間の大学生活の中で“デモ”“学園封鎖”は日常茶飯事であり、事実多くのグリーメンがこの学園紛争の葛藤の中でクラブを去って行きました。

そして長いグリークラブの歴史にとっても私たちの時代は多くの問題をかかえた苦しい時代であったと言えます。それは、多くの先輩諸氏の努力にもかかわらず悪化した財政、学園紛争のあおりを受けて減少する部員数、さらに技術面の柱であった福永先生のご病気などでありました。

特に活動の全ての基礎となる財政問題は、多くの諸先輩の夢であるグリー会館建設の基金(グリー基金)にまでその救済をあおがねばならなかった程切迫していました。

しかしながら、こうしたクラブの危機を乗り越えられたのは、やはりグリー

クラブに愛情を持つ多くの先輩諸氏の支援とアドバイスでした。忘れられない出来事として、東京演奏会やレコーディングにご支援いただいた当時の東京クローバーの皆さん。印象的なステージでは、日下部吉彦先輩の指揮による「四つの仕事唄」の熱演。さらに残念ながら実現はしませんでした。初回の渡米演奏旅行(卒業2年後に実現)の話など枚挙にいとまがありません。

●グリーにとって新しい時代の始まり“四連”

こうした時代を経て迎えた20回目の“四連”は、新しいグリーの出発であったと、今でも私は思っています。それは、この四連を契機に多くのOB諸氏の支援のもとに、病氣静養中であつた福永先生に再びグリーのステージにお呼びできるきっかけとなった事です。残念ながら夏前の四連のステージには病気の回復が間に合なかつたものの、その年の定演には復帰のステージをお願いすることが出来ました。

さて、今から思えばこうした同志社グリーの激動の時代の最中、20回目の記念すべき四連のステージで何を演奏すべきか悩みました。そして多くの論議の末、私たちが1年生の時の定演で感動的だった福永先生編曲の男声用ミサ曲、C・グノーの「聖チェチリアの荘厳ミサ」をやろうと決め、当時福永先生に電話で報告した事を思い出します。そして病気のいえなかつた先生に替って、当時の学生指揮者・目秀雄君の努力により、宇宿允人氏指揮のヴィエール室内オーケストラ伴奏による四連のステージが実現した訳です。

関学がOB編曲の「ビートルズナンバー」(指揮北村協一氏)、慶応が「コダーイ」(木下保氏)、早稲田が「ピクトリアのミサ」(浜田徳昭氏)と、それぞれに意欲的なレパートリーだったと記憶します。こうした中でオーケストラ付の同志社のステージは注目の的で、あの上野文化ホールの緞帳のないステージへオーケストラをともなつて上る気分は最高でした。多分クラブ史上最少の36名で上つた四連のステージだったと思いますが、演奏終了後の鳴り止まない拍手は今も耳に残っています。



第20回東西四大学合唱演奏会 於東京文化会館大ホール'71. 6. 26. 27

●「沙羅」……………詞 清水重道
曲 信時 潔

指揮者：福永陽一郎

〈合同演奏〉

「十の詩曲」による六つの男声合唱

曲より…曲 D.シヨスタコヴィチ

●「怒りの日」●「歌」●「鎮魂歌」

指揮者：小林研一郎

第24回 東西四大学合唱演奏会

昭和50年6月21日／

東京厚生年金会館大ホール

●「古典イタリア歌曲集」

指揮者：福永陽一郎

〈合同演奏〉

●男声合唱のためのアイヌのウホホ

…採譜 近藤鏡二郎 作曲 清水銘

指揮者：北村協一

第25回 東西四大学合唱演奏会



第25回
東西四大学
合唱演奏会

昭和51年6月20日／

大阪フェスティバルホール

◇ 6月21日／

京都会館第二ホール

R.シュトラウス「愛の詩集」から

●方楽節 ●ひそやかな誘い

●たそがれの夢 ●あしたの朝

●愛を抱きて ●ツェチーリエ

指揮者：福永陽一郎

〈合同演奏〉

「歌劇タンホイザー」から

……………曲 R.ワーグナー

指揮者：福永陽一郎

第26回 東西四大学合唱演奏会

昭和52年6月25日／

東京文化会館大ホール

◇ 6月26日／

東京厚生年金会館大ホール

●組曲「葡萄の歌」より「宝石」……

詞 関根栄一 曲 湯山昭

男声合唱とピアノのための

- 「ゆうやけの歌」……………
詞 川崎洋 曲 湯山昭
- 指揮者：福永陽一郎
- 〈合同演奏〉
- 「オペラ合唱名曲集」より
- 「僧侶の合唱」他
- 指揮者：Erwin Born

第27回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和53年6月25日／
大阪フェスティバルホール(昼夜)
- 「わが歳月」……………詞 阪田寛夫
曲 大中 恩
- 指揮者：福永陽一郎
- 〈合同演奏〉
- 「富士山」……………詞 草野心平
曲 多田武彦
- 指揮：北村協一

第28回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和54年6月24日／東京文化会館
6月25日／
新宿文化センター
- 男声合唱と打楽器のための
- 「もぐらの物語」……………
詞 小田切清光 曲 三木稔
- 指揮者：富岡健
- 〈合同演奏〉
- 「蛙の歌」……………
詞 草野心平 曲 南弘明
- 指揮者：福永陽一郎

第29回 東西四大学合唱演奏会

- 昭和55年6月22日／
大阪フェスティバルホール(昼夜)
- Die Tageszeiten
……………曲 R.シュトラウス
- 指揮者：福永陽一郎
- 〈合同演奏〉
- 男声合唱とオルガンのための
「ミサ曲」ハ短調……………曲 F.リスト
- Kyrie ●Gloria ●Credo
- 指揮者：林雄一郎

こうして、様々の苦勞を克服して四連のステージを無事に終え、確かその帰りに藤沢の福永先生を訪ねた次期幹事の後輩幹部諸君が、その年の定期に出演OKとの福永先生の返事をもって来てくれた時、この四連の準備段階から望んでいた事が叶い、さらに私自身も外政マネージャーとして全ての仕事が終わったとホッとした事を今もおぼえています。

今は、諸々の事情で歌う事が出来ませんがこの同志社グリーこそ私の原点であり、歌は一生の夢であります。

いつか皆さんと昔のようにハモれる事を夢に見つつ、70年代前後の時代に様々の苦樂を共にした仲間を代表して20回目当時の四連の時代の報告とします。

1960年代後半から70年前半にかけての学生運動の拡がりは、「四連」にも影響を及ぼし、各校共、メンバー不足に悩まされた。特に同志社グリークラブの場合極端に少人数で参加した時期がこの頃であった。第21回はメンバー29人。第22回は27人と言う有様であった。大阪フェスティバルホールや、東京文化会館と言った大ホールに2列で歌った事もあった。しかし少人数故に音楽性の面でのデリカシーを突き詰めると言う点では個々のメンバーの実力は高いレベルに達していった。

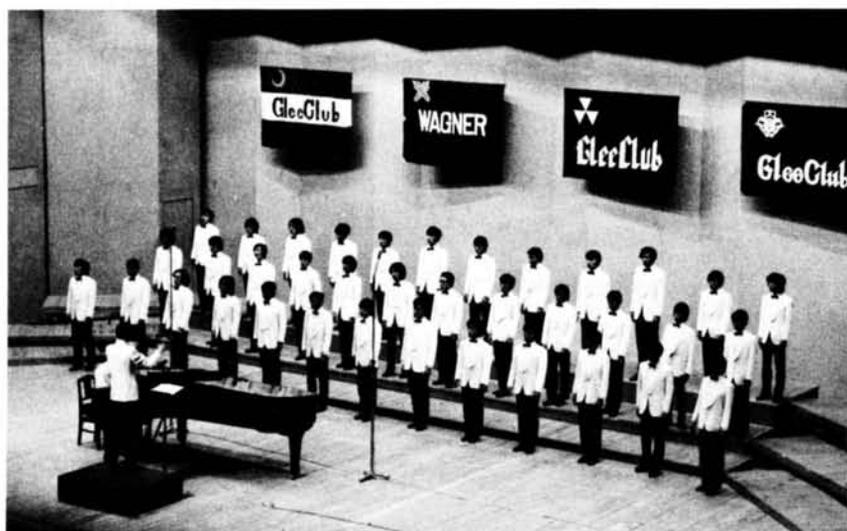
「アイヌのウポポにビールを賭けて…」

第24回四連マネージャー 河村 淳 (昭和51年卒)

私達が入部したのは、68年から続く全共闘の学園紛争の終息期であった。それまで150名からの大所帯だったグリーも部員の急激な減少に見舞われ、又終息に向かっていたとは言え、未だ紛争は続き学内ストは頻繁に行なわれ、試験も幾度かレポートになる状態であった。当然の如く旧新町練習場は使えず、マネージャーが練習場の確保に飛び回っておられたのを覚えている。そんな頃私の脳裏に今でも鮮明に焼きついているもののひとつが、第21回の四連である。この年は関西校の当番で京都第一ホール、大阪フェスティバルホールでの開催であった。グリーのステージは学園紛争のあおりを受け約30人弱であった(曲目は三善晃の三つの抒情)。福永先生は当時のプログラムにこう書いておられる。「同志社グリークラブはこのところかって無かったほど限定された人数でコーラスをしているのだが、それだけで可能な、デリカシーとリリズムの追及の場として、あえて、この磨きぬかれた音楽とぶつかってみることを強行した。」

この文章こそ正に当時のグリーであった。そしてその演奏は、素晴らしい一言であった。これが私の四連の初めての経験であり、グリーライフの幕明けとなった気がする。以後定期演奏会を初めとし、楽しかった演奏旅行や、3回生の春に第4回世界大学合唱祭への参加、グリー70周年と続き最後の年に自ら四連のマネージャーとなれたのは幸福であった。私の在学中の四連マネージャーは島橋さん、吉川さん、平瀬さんといずれ劣らぬ名マネージャーであり、又四連という歴史ある演奏会のマネージャーが出来るということで張り切ったものである。当時一緒に仕事をしたのは関学の鬼ヤンこと鬼塚くん、慶応の慎介こと高林くん、早稲田の薩摩隼人こと肥後くんの3人である。担当マネと会計

マネ（グリーは井上誠）は関西でのマネはもちろん、東京でのマネ会と飛び回り張り切ったものである。ところが第10回から会場として使用している上野の文化会館が使えないということになりあわてて会場探しに走り、新宿厚生年金会館を確保したが、ここで又一問題、日曜日の一日しか取れず、昼夜2回公演となった。その上、何とホールの外で恒例のストームが出来ないことが解り、ストームのない四連なんて……ということになり、これも異例のステージでのストームとなった次第である。何から何まで従来と180度転換の四連であった。当日のグリーのステージは我々が、古典イタリア歌曲集、早稲田が四季、関学が水のいのち、慶応がコダーイ男声合唱曲集で合同演奏は北村先生指揮によるアイヌのウポポであった。この時北村先生からのご提案で演奏中、自発的ソロ（即ち突び出し）がなければ、皆にビールを一杯御馳走しようということになった。ビールがきいたのかどうかは定かではないが、当日のステージは四連の為にふさわしいステージであり、又ステージでのストームも又一興であったと記憶している。幕が下りると次は打ち上げである。これも、袴を脱いだステージの様なものであるが、ここでもマネージャーはやはりマネージャーである。本当に大変な四連であったが、高田馬場で飲んだビールや部員からのオツカレサンの一言が、今でも大事に胸にしまっている、マネージャーていいもんだ。



第24回東西大学合唱演奏会 於東京厚生年金会館大ホール'75. 6. 21

学生運動の波も次第に小さくなり、再び「四連」にメンバーが戻り始め、同志社グリークラブもステージ4列、60～80人に増えた。以後音楽面に於いても、より高度な水準に達すべく、今日までの隆盛を誇っている。

第30回 東西四大学合唱演奏会

第30回記念 東西四大学合唱演奏会



主催・東西四大学合唱連盟

昭和56年 6月20日／

東京厚生年金会館大ホール

◇ 6月21日／東京文化会館

●「チャイコフスキー歌曲集」より
…………… 曲 チャイコフスキー

指揮者：福永陽一郎

《合同演奏》

●「十の詩曲」より六つの男声合唱
曲…訳詩 安田二郎
曲 D. ショスタコヴィチ

指揮者：福永陽一郎

第31回 東西四大学合唱演奏会

昭和57年 6月20日／

大阪フェスティバルホール(昼夜)

●Vespergesang Opus121……………
曲 メンデルスゾーン

指揮者：福永陽一郎

《合同演奏》

●男声合唱のためのアイヌのウポポ
…………… 採譜 近藤鏡二郎
作曲 清水 脩

指揮者：山田一雄

第32回 東西四大学合唱演奏会

昭和58年 6月25日／東京文化会館

◇ 6月26日／

五反田簡易保険ホール

●「Missa Mater Patris」……………
曲 J. デ・ブレ

指揮者：福永陽一郎

《合同演奏》

男声合唱とピアノのための

●「ゆいやけの歌」……………
詞 川崎洋 曲 湯山昭

指揮者：関屋晋

第33回
東西四大学合唱演奏会

昭和59年6月16日／
大阪フェスティバルホール(昼夜)
(Four Afro-American Songs)
指揮者：福永陽一郎
〈合同演奏〉
シベリウス六つの合唱曲Op.18
指揮者：渡辺暁雄

「フィンランド語に悩まされた日々」

第33回四連マネージャー 西尾強志 (昭和59年卒)

此度同志社グリーンクラブ80周年記念誌編集にあたり、東西四連の思い出話を書かせて頂ける事を非常に光栄に思っております。

私がマネージャーとして東西四連に関わったのは第33回の時で、それは我が同志社グリーン80周年前半の最大のイベントであり、部員の気迫も凄まじかった様に思います。前準備の段階では例年の如く、ホール確保と合同指揮者選出の問題が挙がりました。ホール問題では同志社の“復権”をかけた京都会館での公演が企画されましたが抽選により一発で没、大阪フェス土曜昼夜2回公演となり、合同指揮者選びでは、財政的な問題で四連各学指揮と同関会計の間で熱い議論になりましたが、結局渡辺暁雄先生にシベリウスを振って頂くという幸運な機会に恵まれました。

シベリウスを演奏するのは良いのですが、肝心のフィンランド語の発音がわかりません。京都五条にあるフィンランド料理専門店へ行って教わったりもしました。また渡辺先生の御紹介により、フィンランド大使館や、果ては滋賀県にあるフィンランド人学校にまで情宣を行ったりもしました。今から考えるとずい分厚かましい事をやったものです。

四連当日は観客動員の方も上々で、同志社単独、また合同共好評を博した様でしたが、四大学合同のレセプションの後、早稲田との“同早会”なる飲み会も圧巻で懐しい思い出の一つとなっております。

何やらつまらない事ばかり書いてしまいましたが、今後も同志社グリーンが四連の中で演奏的にもマネージ的にも光り輝いていく事を心より期待しております。

最後に慶応ワグネルOBで第10回「四連」マネージャーを担当された白石昭氏 (昭和37年卒) から寄せられた「声」を聞いて「四連」の項の締めくくりとしたい。

「東京文化会館に「四連」初登場…」

慶応義塾ワグネルソサイエティー 男声合唱団OB
第10回四連マネージャー 白石昭 (昭和37年卒)

当時は学生運動が盛んで、政治運動のみならず、スポーツ、文学、音楽等色々な分野で中心的役割を果たしておりました。合唱界に於いても例外でなく、同志社グリーン、関学グリーン、早稲田グリーン、それに日本女子大学合唱団等の大学合唱団が合唱コンクールの大学の部で上位を独占したり、又一般の部をおさえて総合優勝をかざったものでした。慶応ワグネルも、コンクールこそ出場しなかったものの、指揮者に木下保先生に加え、畑中良輔先生を常任指揮者にお迎えし、独自に芸術としての合唱音楽の道を歩んでおりました。

かくて、同、関、早、慶の各校が己れの合唱団が学生一、いや、日本一と自負しておりました。この様な背景で催される四連の演奏会は他の合同演奏会にみられる様な、なごやかさはあまりなく、各校のテクニックと芸術性を競う事に重点がおかれておりました。

第9回四連が関西で開催された後、第10回四連の新担当マネージャー、民秋言(同志社グリー)、藤岡弘信(関学グリー)、加藤晴生(早稲田グリー)、それに私(慶応ワグネル)は初会合を持ちました。10周年記念として四連を北海道から九州迄演奏旅行する等の壮大なアイデアも出たものでした。

結論として第10回の四連のコンセプトは個別曲偏重(コンクールムード)だけでなく合同演奏重視(四校で新しく何かを創り出す)の方向づけを行いました。

当時は新しくよい演奏会場はほとんど関西に集中し、東京では共立講堂や日比谷公会堂位で数が少なく、予約を取る事さえ大変な仕事でした。

そんな折、東京上野に待望のコンサートホールが計画されている事を聞き込み、未だブループリント上の東京文化会館を予約しました。翌36年の春、N響に始まった長いコケラ落としの演奏月間があり、一般公開としては四連が最初のものとなったのです。

曲目の決定がいつもの事ながら大変でした。まず、単独演奏の曲目を出し合わせました。ところが、HEGAR—早稲田、宗教曲—関学、多田武彦—同志社、宗教曲—慶応と言う世にも重い曲目が目立ちました。

さて、合同演奏曲。

合同演奏を重視する事がまず確認され、指揮者には木下保先生との提案は直ちに承認されました。合同演奏曲として色々な候補が出されましたが、最後にワグナーと石井欽が残り、決定は指揮者との調整に委ねられました。形式的でなく、10周年にふさわしい内容のある合同演奏との我々の熱意に先生は感激され、心よく指揮を引き受けて下さったのです。

36年6月16日(金)、東西四大学合唱連盟創立10周年記念祝賀会を三田の校舎で行い、それに先立ち合同演奏の初練習が行われました。木下先生のおうでにかかると最初こそ粗けずりだった枯木が、男性400名のアンサンブルと絶妙なピアノシモにより、正に「生きた枯木」に変身して行くのでした。この時程、指揮者のリーダーシップの偉大さにうたれ、又、歌う楽しみを味わった事はありませんでした。

演奏会二日間の前売券は、他の合唱団やプレイガイドでの売れ行き——あまり広告はしませんでした——も好調で、指定席、自由席共に約4,000枚を売りつくしていました。

初日、チケットは既に完売しているとは言え、当日の客の集り具合は、正にマネージャーとしての一番の関心事。開演一時間前は、「新宿歌舞町のサエナイボンピキ、よろしく、ステージの上と会場とでウロチョロ。

ついに意を決してブレザーを私服にかえて、会場の入口の偵察に行くと言う事になりました。すると、白いムギワラ帽子のまわりについたりボン飾りの様に、開場待ちの人々が、日本の城壁を思わせる文化会館の外壁にぐるりとはりついていました。夕方とは言え、初夏の残り日の中で談笑する人々は皆、美人にみえ、芸術を解するナイスガイにみえてくるのでした。

各校及び合同演奏について、当時の「合唱界」や「音楽の友」は次の様に述べています。

「粗けずりながら重厚な響きを聞かせた早稲田HEGAR。アンサンブル重視の伝統的な響きの関学宗教曲。ハスキーとも思われる発声で「中也」を歌い上げた同志社。

大人の声色を求めた「畑中発声」と「木下宗教観」の結晶の慶応。400名が創り出す荘大な響きと絶妙なピアノシモ。枯木に生命を吹き込んだ木下芸術。

今でも担当マネ達、いやステージにのぼった400名全員が名演奏をして、四連史上、一つのエポックを画したと確信しています。

昭和66年の四連50周年記念演奏会は、今から企画し半世紀の歴史を飾るにふさわしいものにしたいと思います。

メサイアの歩み

メサイアの歩み

「メサイア」との出会い(戦前)

同志社グリークラブとG. F. ヘンデルのオラトリオ「メサイア」(救世主)との出会いは、大正14年(1925年)の秋のことで、進歩的キリスト者としてその名も高かった海老名弾正総長時代である。同志社創立50周年に当る。当時同志社女専(現在の同志社女子大学)で教鞭をとっていた、恩賜賞の榮に浴したアルト歌手の柳兼子(民芸運動の祖柳宗悦夫人・昭和59年没)女史が、総合学園同志社に、社会状況のためとはいえ混声合唱のできないことを残念に思い、ミス・デントンや、当時女専校長であった松田道女史への説得を行ない、また大学側は、キリスト教音楽の発展に

力を注いだ神学部片桐哲教授(昭和58年没)を名監督に仰ぐことになった。免角、女子部は長い間男子から被害をこうむっていたので、片桐教授が全責任を負って男子学生を監視し、女子学生への被害のでないようにするとの誓約を行ない、試験的に混声合唱の練習の許可をとりつけたのである。この二人の努力のかけがえがあり創立50周年の記念イブ音楽会には男声(大学側)は同志社グリークラブ、プリムローズクラブ、そして女声(女専側)はミリアムクワイヤーで結成された同志社混声合唱団なるものが、このメサイアの「ハレルヤコーラス」をもってデビューしたのである。柳女史のその指揮ぶりは、非常にすばらしく、混声の湧き上がる歓呼の声は、海老名総長はもとより、あのむずかしい松田校長もデントンさんも、一様に顔をほころばせて、「混声合唱とはいいいものですナ」と言わしめた記録に残っている。

これをきっかけに、混声合唱団やシンフォニーオーケストラ(現同志社交響楽団)が「メサイア」の中から数曲抜粋演奏を行なうようになったのである。

昭和6年(1931年)には同志社チャペルにて、西邨辰三郎によって「メサイア」より数曲抜粋の演奏会が行なわれた。翌年(1932年)、混声合唱団は一時解散するが、片桐教授の女専校長就任とともに再建され、昭和8年(1933年)には、同志社宗教音楽協会(運営難に苦しむ同志社シンフォニーオーケストラ

ラがその経済的窮乏を解決するためにグリークラブや混声合唱団にも参加を求めて作った団体。会長に名目上、片桐教授を推し、年間3円也の会費で会員を一般から募り、年二回宗教音楽を主とする定期演奏会を開くいわゆる予約演奏会制度。しかし、かえって出費がかさみ四回演奏会を開いただけで二年後に解散した。)の第2回演奏会で、



大正14年 初めてハレルヤコーラスを歌う
指揮 柳 兼子女史、京都市岡崎公会堂



昭和7年 京都コーラス発表会(メサイア抜粋演奏)
指揮 西邨辰三郎、同志社チャペル

米国組合教会から音楽専門教師として初めて同志社に迎えられたクラブ女史の指揮で、ソプラノをビバード女史、バスをシャイプリー教授により、「メサイア」の抜粋演奏が行なわれた。この演奏会の様子は「曲目はメサイアの中の“*And the glory of the Lord*”と“*Hallelujah*”であったが、救世主の如くあらずして閻魔大王の如き感があった」とされている。このような一連の抜粋演奏会が、昭和10年(1935年)の本格的な「メサイア」演奏会へとつながるのである。

同志社創立60周年を迎えた昭和10年(1935年)、何か同志社学園にふさわしい音楽行事をやろうという計画がも



昭和9年 同志社イブ演奏会にて
指揮 クラブ女史、栄光館



昭和10年10月28日 同志社イブ演奏会にて
指揮 森本芳雄、栄光館

ちあがり、当時グリークラブや混声合唱団の指揮者でありエール大学留学から帰国したばかりの森本芳雄（神学部講師・昭和26年没）が中心となり、幸い同志社シンフォニーオーケストラがあるから、混声合唱と共演でこのメサイア全曲の上演を行なおうということになった。練習は、女子部の音楽教室や栄光館で行なわれた。四名の独唱者は、同志社学園の出身でわが国の音楽界のトップレベルの音楽家で、母校の壮挙に駆けつけた。演奏会は二回公演となり、何れも立錫の余地もない盛況であり、各新聞社はこぞってこの一大行事（男女共学ではなかった当時、一つの学園で混声合唱がしかも管弦楽伴奏で行なわれたということは大変な出来事である。）を報じ、演奏はNHKを通じ約一時間全国中継放送されたほどであった。時間の都合で、第二部の終曲を飾るハレルヤコーラスまでで終わったが、同志社音楽部の歴史的行事として、また宗教音楽の精髓と良さを学内外に周知せしめた業績として特筆すべきものと言えるであろう。なお、歌詞はドイツ語訳でうたわれた。「メサイア」をはじめて全曲に近い形で演奏するという難事を可能にした最大の功労者は、この演奏会の指揮をつとめた前出の森本芳雄である。彼は音楽とキリスト教の両面において、「メサイア」を演奏するにふさわしい資質を持つ人であった。東京音楽学校（現東京芸術大学）を中退して同志社大学神学部に進み、渡米、エール大学神学校で神学を修め、宗教音楽の研鑽をつんだ。帰国後は同志社大学等で教鞭をとるかたわら、混声合唱等の指揮者をつとめた。そして「メサイア」の実現にあたっては、その中心となって、合唱指導はもちろん、オーケストラのパート譜の写譜を不眠不休で一人でやりとげるなど、あまり頑強な身でなかったにもかかわらず超人的な献身を惜しまなかった。こんなにも彼を「メサイア」へ駆りたてたものは、音楽的な魅力のみならず、彼自身の厚い信仰心であった。当時を知る人の次のような証言がある。「森本先生は、練習前にいつも祈りをささげられた。」クラブ女史の再来により、森本氏は暫らく手をひいた形となったが、昭和15年(1940年)11月、いわゆる「紀元二千六百年奉祝音楽会」にて、日本語歌詞による「メサイア」を上演している。場所は栄光館。この時は練習も不十分で、全曲を完奏できず、第三部及び、その他も数曲省略し、演奏規模も第1回とほぼ同じぐらいであったが、「君が代」「紀元二千六百年頌歌」「寒梅」の合唱などの演奏がまず先に行なわれるという戦時色のきわめて濃いものとなっている。戦前のメサイアはこれを最後に中断され、翌年(1941年)に日本は、太平洋戦争に突入することになった。

「メサイア」の復興(戦 後)

戦争により休止状態になっていたメサイア演奏は、昭和21年(1946年)の11月に、イブ音楽会で、前窪一雄、森本芳雄の指揮により「メサイア」から九曲が演奏され、再スタートをきった。昭和22年(1947年)には、5月と11月の二回、「メサイア」が演奏された。内容的にはだんだんと充実されて、ほぼ全曲に近い形の演奏会になった。翌昭和23年(1948年)には、同志社交響楽団も加わり、モーツァルト版による全曲演奏がついに実現した。この頃は、まだまだ戦後の混乱期で、被服食糧の欠乏に苦しんだ時代で、暖房設備などなく、底冷えのする栄光館に進駐軍の兵隊がG I服姿で大勢来聴して、一般の人たちと共に平和への願いを誓い合ったのである。つづく昭和24年(1949年)も同響と協演し、前年とほぼ同じ形でメサイア演奏が行なわれた。特にプログラムなどは、内容的にまるで判を押した



昭和22年5月25日 戦後第2回演奏会
指揮 森本芳雄、栄光館

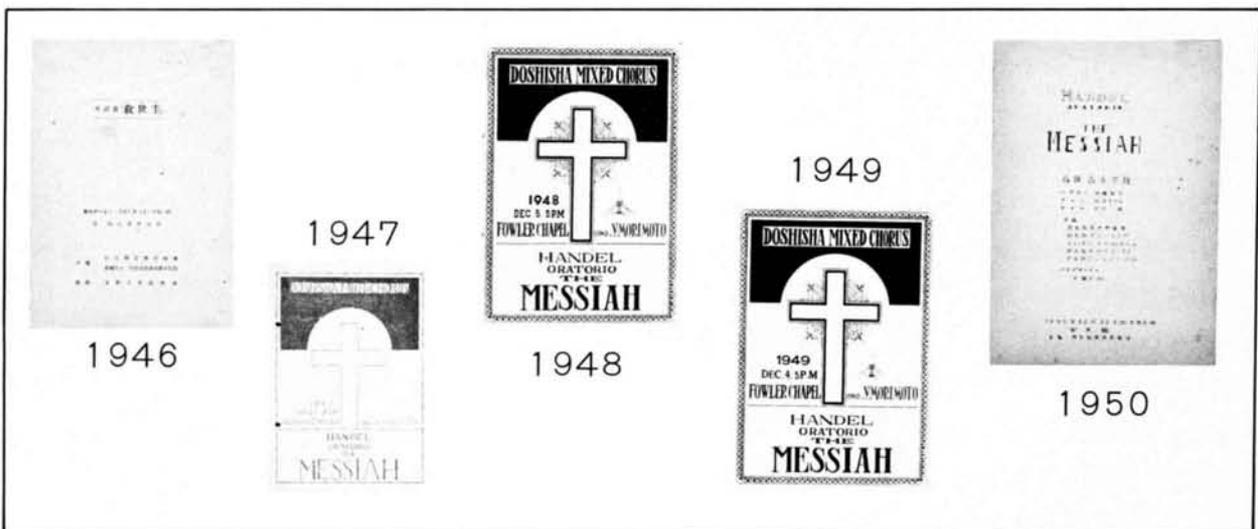


昭和24年12月4日 戦後第5回演奏会
指揮 森本芳雄、栄光館

ように同じで、ただ前回に比べて紙質が良くなっているのが世の中の落ちつきを示している。翌年の「メサイア」では、バスアリアを抜いて演奏が行なわれた。こうしてメサイア演奏会が同志社のみならず、京都市民の年中行事として定着しようとしていた矢先の昭和26年(1951年)の11月、誠に不幸な出来事が起きた。森本芳雄の急逝である。元来頑強ではなかったのだが、様々の合唱指導のため多忙となり、その疲労からついた不帰の客となったのである。森本兄の後輩にして、同じ平安教員である前窪一雄が故人の遺志を受けて、第7回、第8回、第9回の演奏会を指揮し、



森本芳雄 前窪一雄



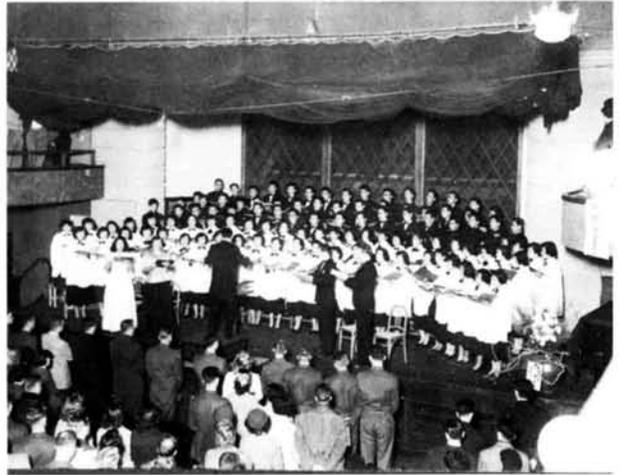


昭和26年12月17日 戦後第7回演奏会
指揮 前窪 一雄、栄光館



昭和27年12月14日 戦後第8回演奏会
指揮 前窪 一雄、栄光館

「メサイア」のほぼ全曲を演奏した。その後、グリークラブ、クローバークラブ、学生聖歌隊、C・C・D等の多忙に加え、独唱者ユージン・ウェンガー夫妻の帰米、中瀬古和、鷺渕紹子、加藤(石村)雅子、西邨辰三郎らの海外留学のため、ようやく京都の年中行事となりかけていた同志社メサイアは、同志社創立80周年の記年事業として同志社当局からの要請があったにもかかわらず、中断のやむなきに至ったのである。この中断の間、同響及び、そのOBから「メサイア」復活の声があがり、同志社外の合唱団と同響によるいわゆる三大学メサイアが昭和30年(1955年)行なわれ、その成功をうけて、翌昭和31年(1956年)、「メサイアを同志社人の手で」の声がおこり、再び合唱は、同志社内のいくつかの合唱団により編成され、第11回の演奏会が、12月4日大阪産経会館と12月8日栄光館とで、二回行なわれた。指揮は、同響常任指揮者・同響OBの宮本政雄、独唱者もできるだけ同志社人を集めて、同響が主催となり、開催された。しかし、メサイア演奏行事のリーダーシップをとっていた同響の中心人物が卒業してからは、その後継者も育たず、同志社メサイアは以後10年近く、中断してしまうのである。



昭和28年12月13日 戦後第9回演奏会
指揮 前窪 一雄、栄光館

指揮は、同響常任指揮者・同響OBの宮本政雄、独唱者もできるだけ同志社人を集めて、同響が主催となり、開催された。しかし、メサイア演奏行事のリーダーシップをとっていた同響の中心人物が卒業してからは、その後継者も育たず、同志社メサイアは以後10年近く、中断してしまうのである。

1951: 同志社聖歌隊 追悼演奏会 (Cover with a large cross)

1952: HANDEL THE MESSIAH (Cover with text)

1953: THE MESSIAH (Cover with text)

1954: THE MESSIAH (Cover with text)

1956: THE MESSIAH (Cover with text, crossed out with a large 'X')

年表(戦前・戦後)

〈戦前〉

第1回 (昭和10年)
1935年10月29日(栄光館)
10月30日(中之島公会堂)

指揮	森本芳雄	オルガン	水谷 央
	ソプラノ	竹内 禎子	テノール
	アルト	齊藤 静子	バス
			内田 栄一
			ピアノ
			中瀬古 和

第2回 (昭和15年)
1940年11月23日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	水野康孝
	ソプラノ	杉原 みち	テノール
	アルト	加藤 貞	バス
			安田 尚熙
			ピアノ
			中瀬古 和

〈戦後〉

第1回 (昭和21年)
1946年11月23日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	堀内敏子
	前 窪一雄	ソプラノ	山川 満喜
		アルト	松田 さか江
			テノール
			押 鴨 文 夫
			バス
			沖口 秀夫

第2回 (昭和22年)
1947年5月25日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	新 實 愛 子	テノール
	アルト	加藤 貞	バス
			民秋重太郎

第3回 (昭和22年)
1947年11月23日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	福 森 淳 子	テノール
	アルト	加藤 貞	バス
			ジェームズ・マーチン
			ピアノ
			加藤 博子

第4回 (昭和23年)
1948年12月5日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	加藤 貞	バス
			佐藤 清
			林 達次
			ピアノ
			有賀のゆり

第5回 (昭和24年)
1949年12月4日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	加藤 貞	バス
			保科 一雄
			林 達次
			ピアノ
			森 順子

第6回 (昭和25年)
1950年12月23日(栄光館)

指揮	森本芳雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	松田 さか江	バス
			保科 一雄
			バス・アリアは演奏されませんでした。

第7回 (昭和26年)
1951年12月16日(栄光館)

指揮	前 窪一雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	松田 さか江	バス
			保科 一雄
			林 達夫

第8回 (昭和27年)
1952年12月14日(栄光館)

指揮	前 窪一雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	加藤 貞	バス
			西 邨 辰 三 郎
			林 達次

第9回 (昭和28年)
1953年12月6日(大阪女学院講堂)
12月13日(栄光館)

指揮	前 窪一雄	オルガン	中瀬古 和
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	ダレイ・ウェンガー	バス
			ユージン・ウェンガー

第10回 (昭和29年)
1954年12月19日(栄光館)

指揮	前 窪一雄	オルガン	鷺淵 紹子
	ソプラノ	松田 京子	テノール
	アルト	松田 さか江	バス
			岩 城 恵 一
			野 村 忠

第11回 (昭和31年)
1956年12月4日(大阪産経会館)
12月8日(栄光館)

指揮	宮本政雄	オルガン	片岡通昭
	ソプラノ	加藤 雅子	テノール
	アルト	黒田 ナミエ	バス
			ポール・グリーシー

〈キャンドルサービスの起源〉

戦後間もない昭和23年(1948年)の第4回演奏会でのことである。衣食住に苦しんだ時代で、電力事情も悪く、十分な電力が供給されていない状態であった。予め電力会社に停電は避けてもらいたいと要請していたにもかかわらず、突然の停電の為、演奏会はやむなく中断となった。誰かがライターを灯し、「きよしこの夜」のハミング



が会場に流れた。これをきっかけにライターを持っていた者が次々と灯をつけ、「きよしこの夜」の歌声が栄光館いっぱいに広まった。この年の「メサイア」以来「アーメンコーラス」のあとキャンドルで歌われる「きよしこの夜」は、こうして生まれるに至ったのである。まことに天与の出来事というべきか。

〈三大学メサイア〉

同志社合唱団の不参加メサイア

森本芳雄の死後、前窪一雄によって四回続けられたメサイアも一年のブランクの後、昭和31年(1956年)、指揮宮本政雄による演奏会を最後に、以後十年間中断されたのであるが、そのブランクの昭和30年(1955年)に同響及びそのOBたちの主唱でオケつきメサイア復活運動が起った。しかし、合唱団の方が当時多岐に分かれて別に活動していたので、数回の交渉で意見の一致を見ず、交渉決裂となり、物別かれに終わった。同響の方では、言い出したからには面子にかけてもこれを遂行するとの意気に燃え、滝宣正らが中心となり、急挺奔走した結果、関西学院グリークラブと神戸女学院音楽部コーラスと組んで混声を編成し、指揮は女学院音楽科教授の若き米人、ディビッド・ラーソン、独唱者はソプラノ野崎住子(神戸女学院音楽部出身、アメリカに留学、音楽教師として活躍)、アルト別所恵子(東洋音大講師)、片岡通昭(NHK専属歌手)、水谷堅(大阪プール学院教授)で、練習はラーソン氏自从来京してオーケストラパートの練習に当り、総練習は同女学院講堂で行なわれ、昭和30年(1956年)12月14日夕、大阪産経会館で盛大な公演を行なった。合唱約200名、オーケストラ50名という規模のものであった。この演奏会は、主催は同志社交響楽団と関西学院グリークラブ、協賛は神戸女学院音楽部、そして後援は朝日新聞社と全関西アマチュア交響楽団連盟となっている。



復活メサイア

現在行なわれている「全同志社メサイア演奏会」は、昭和40年(1965年)が第1回となって復活し、今日まで続いているのである。この一連の同志社におけるメサイア演奏を「復活メサイア」と呼ぶ。その理由は、長年中断されていた同志社メサイアを蘇らせたことによる。その時のいきさつは、本紙編集委員でもあり当時のグリークラブ四年でマネージャーとして奔走した小室泰司の手記をそのまま次に引用する。

「同志社90周年前夜」

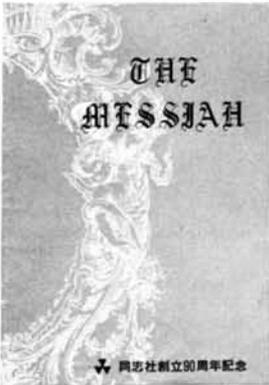
昭和41年卒 小室泰司

その電話がなったのは、昭和39年12月24日の夕方であった。電話の主は同志社学生交響楽団の上田マネージャーだった。「是非会いたい。」という。用件は想像がついた。早速承諾して、河原町蛸薬師あたりにあった喫茶店「ルーチェ」へ出かけた。予想どおり、翌年の同志社90周年のイベントについてであった。内容は、90周年の事業として、ベートーヴェンの第9をやりたいという。趣旨には、即刻賛同した。しかし曲目は「メサイア」を提案した。理由は、同志社は、日本で最も古くからメサイアを演奏してきたこと。近年京都に於て「メサイア」が演奏されていないこと。90周年の事業としても、同志社の学風からいっても、第9よりも「メサイア」がふさわしく、第9ならば、他の団体も演奏しており、同志社が継続していく意義も少ないこと等をあげた。同響の連中も曲目については、その場で賛成してくれた。また、私がある場でそのような提案をしたのは伏線があった。その年グリーは創立60周年の記念演奏会を神戸、京都、大阪、東京で行ない、OBの協力もあってその他の事業も成功裡に終わった。次になすべきこととして、同志社創立90周年の事業として、全同志社で「メサイア」を演奏しようというのは、部内のコンセンサスになりつつあったのである。



昭和40年12月20日 第1回全同志社復活メサイア大演奏会
指揮 金子登、京都会館第一ホール

年表(復活メサイア)

第1回	第2回
 <p>1965年 昭和40年12月20日</p> <p>指揮 金子登 ソプラノ 石村雅子 アルト 田中万美子 テノール 板橋勝 バス 高橋修一 オルガン 鷺淵紹子</p>	 <p>1966年 昭和41年12月23日</p> <p>指揮 ロベルト・ブリューゲン ソプラノ 石村雅子 アルト 田中万美子 テノール 角地正純 バス 木川田誠 オルガン 鷺淵紹子</p>

学年末試験終了とともに早速行動に移った。同響との確認事項は次の通りであった。

1. 主催団体は全同志社メサイア実行委員会とする。
2. オーケストラは同響が担当する。
3. 合唱団は、男声をグリーが唱い。女声部は今後編成する。
4. 指揮者は、後日協議の上決定する。
5. 大学、女子大の全面協力を貰うようにする。



昭和45年12月25日 第6回復活メサイア演奏会

指揮 秋山和慶

1、2の点は問題はなかった。混声を編成する為に文連の各団体及び基団連方面の合唱団に呼びかけた。結果は全団体ともにことわってきた。並行して住谷総長、大学長、女子大学長にも直接お願いに伺った。大学の方には、資金的援助を、女子大には、音楽部の御協力をお願いした。各方面とも、我々が心配していたより好意的で、順調に話はすすんだ。しかし、我々の気配りの不足の点や一部妨害の動きがないでもなかった。その一つは、女子大の故中瀬古先生からお叱りをこうむったことであった。私は、女子大の音楽学科の御協力がほしいのに、音楽学科を飛びこえて、学長に直接お願いした訳である。音楽学科の協力ならば、先生に先づお話しすべきことだったのである。今ならすぐ理解できることも、当時は若気のいたりで、配慮が足りなかった。すぐその場で先生にはお詫びをし、先生も即刻御了解下さった後、協力を約束して下さった。また妨害というのは、某基団連関係の内部分裂によってできた。パーム・クワイヤーという団体があった。しかし、この団体は同志社の大学生による団体であったが、誕生のいきさつから、学内団体に加入できずにいた。このパーム・クワイヤーがメサイアに対し全面協力を申し入れてきた。我々は感謝とともに協力をお願いした。このことに対し、先述の団体が、学内団体にないものを加えるのは、全同志社とは認められない、ということだった。話し合いは二度だけもたれた。一致点はなかったし、それ以上の努力は我々も、しようとはしなかった。あとは一般参加の公募を行なうことだった。四月以来学内掲示を行ない、加入者をもとめた。



昭和46年 第7回復活メサイア演奏会

練習風景(同志社女子大学) 指揮 渡辺 暁雄

らお叱りをこうむったことであった。私は、女子大の音楽学科の御協力がほしいのに、音楽学科を飛びこえて、学長に直接お願いした訳である。音楽学科の協力ならば、先生に先づお話しすべきことだったのである。今ならすぐ理解できることも、当時は若気のいたりで、配慮が足りなかった。すぐその場で先生にはお詫びをし、先生も即刻御了解下さった後、協力を約束して下さった。また妨害というのは、某基団連関係の内部分裂によってできた。パーム・クワイヤーという団体があった。しかし、この団体は同志社の大学生による団体であったが、誕生のいきさつから、学内団体に加入できずにいた。このパーム・クワイヤーがメサイアに対し全面協力を申し入れてきた。我々は感謝とともに協力をお願いした。このことに対し、先述の団体が、学内団体にないものを加えるのは、全同志社とは認められない、ということだった。話し合いは二度だけもたれた。一致点はなかったし、それ以上の努力は我々も、しようとはしなかった。あとは一般参加の公募を行なうことだった。四月以来学内掲示を行ない、加入者をもとめた。

第 3 回



1967年
昭和42年12月24日

指揮 秋山和慶
ソプラノ 石村雅子
アルト 桂 斗伎子
テノール 金谷良三
バス 木川田 誠
オルガン 鷺淵 紹子

第 4 回



1968年
昭和43年12月24日

指揮 福永陽一郎
ソプラノ 石村雅子
アルト 藤田みどり
テノール 藤沼昭彦
バス 木川田 誠
オルガン 嘉乃海隆子

人数は少なかったが、この参加者も加わり、一応の形態がととのい、メサイア実行委員会がその歩みを始めたのは昭和40年6月頃のことであった。

次に大きな問題は指揮者を、どなたに依頼するかであった。同響は、彼等の師事する先生を主張し、グリーも福永先生を主張した。ところが、女子大学の音楽科としては、大学の正規の時間帯でコーラスを行なうのであるから指揮者は一任してほしいと申し入れてきた。クラブの方は当時福永先生で、60周年や「十の詩曲」の好演をした時もあり、福永先生支持の意見が強く、私も板ばさみの状態になっていた。その時福永先生が誰からその状態をきかれたのか、私に「今メサイアを復活するのが大前提であり、自分が指揮するしないは小さな問題だ。」といい、これを頼りに私も部員を説得した。 以上のような経緯で指揮者は金子登氏に決定した。

次に上田マネジャーと予算をくみ、次年度以降の基金を残すために音楽会の切符を400円、700円、1,000円の3段階にすることにした。千円の切符をつくったのは、700円の切符を売るために、「特上」があれば「上」が売れるだろうという単純な発想である。これは当時としては少し冒険だったように思う。大学卒の初任給が23,000円位で、下宿生の平均仕送りが12,000円位の時代だから、初任給と比較すれば、現在の5,000円位の感覚だろうと思う。しかし、意外にも切符は千円からよく売れはじめた。当日の聴衆も、それ迄グリーの定期や、交歓演奏会と異なり、市民のより広い人々が聴いてくださったように思う。

今思い起しても、演奏会当日のことはあまり憶えていない。ただ「ハレルヤコーラス」の時、客度の多くが起立してくれた時の感激だけが、今も鮮明に残っている。 (終)

このように昭和40年(1965年)は、同志社創立90周年の年であり、これを記念して、同志社交響楽団から何か演奏会をやろうという提案が合唱サークルになされ、それに同志社グリークラブが応じたのであった。同響からの提案はベートーベンの「第九」であったが、コーラスが第四楽章にしかないことと、過去に「メサイア」の連続演奏が

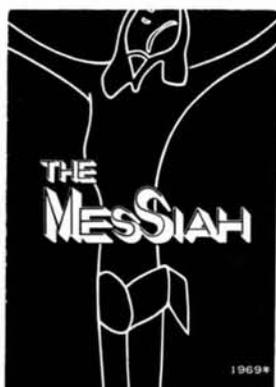


昭和48年12月25日 第9回復活メサイア演奏会
指揮 朝比奈 隆、(管弦楽京都芸大有志)

なされていたことなどから「メサイア」の復活となったのである。しかし、混声合唱団との交渉はうまくいかず、女声パートについては、同志社女子大学音楽学科に依頼、そして音楽学科総体での参加が実現し、12月20日、約10年ぶりに全同志社による「メサイア」の復活が実現したのであった。

同響の主唱で諸団体の新メンバー10名余により、「全同志社メサイア実行委員会」なるものが結成され、初代顧問に、女子大音楽科の参加を可能にした、当時の女子大講

第 5 回



1969年
昭和44年12月23日

指揮 宇宿 允人
ソプラノ 石村 雅子
アルト 広沢 節子
テノール 金谷 良三
バス 東 保
オルガン 笠原 進

第 6 回



1970年
昭和45年12月25日

指揮 秋山 和慶
ソプラノ 石村 雅子
アルト 秋葉 京子
テノール 金谷 良三
バス 八木 宣義
オルガン 鷺淵 紹子

師の今城淳行氏を推し、委員長に、グリークラブの鹿毛民雄が就任した。これにより、プロの演奏家の助演は得ているものの、「復活メサイア」が学生による完全自主的な演奏会になったということと、困難を伴いながらも毎年連続して演奏が行なわれるようになったということは、復活前の演奏会が中断をくりかえしていたことを思えば、非常にすばらしいことである。昭和10年



昭和56年12月23日 第17回復活メサイア演奏会

指揮 デビッド・ラーソン

(1935年)同志社創立60周年を記念して始められた本格的な演奏から、昭和59年(1984年)の第20回復活メサイア演奏会まで、通算して33回を数えたのである。

復活後の20年の歴史の中で二つの試練があった。一つは第9回の同響の不参加である。これは団内の混乱が原因で、メサイア実行委員会の努力により京都芸術大学学生有志の協力を得たため、事なきを得た。もう一つは、同志社女子大学音楽学科の不参加である。これはグリー・同響がサークルである一方、同女は一つの学科として参加していることに問題があった。第16回演奏会時に、「同志社大学メサイア女声合唱団」、第17回演奏会時に、「同志社女子大学メサイア研究会」がそれぞれ結成され(ただし、幹事団体としてのメサイア研究会の参加は第18回から。メサイア女声合唱団は第19回演奏会をもって解体。)、それまでの「学科としての総体参加」から「サークルによる自主参加」への移行がなされたのであった。

このような試練を乗り越え、メサイアが復活して20年間毎年続けられたのも、プロの先生方、学生達、歴代実行委員会顧問の先生方の熱意が一つの大きな力、光となって燃え続け、輝き続けているからであろう。又、あたたかく見守って下さる聴衆の方々のこと忘れてはならない。そして、第11回復活メサイア演奏会では京都新聞社が後援者となり、以後、京都府・京都市教育委員会、NHK、学校法人同志社、と次々と後援者が増え、これはもう「全同志社メサイア大演奏会」が京都市民の年中行事と化したことを示している。日本の音楽史にその輝かしき足跡を着実に一歩ずつ刻みこんでいるのである。これから、30年、50年、100年と、同志社の、京都の、日本の音楽行事を代表し、象徴化されることを願ってやまない。

第7回



1971年
昭和46年12月24日
指揮 渡辺 暁雄
ソプラノ 斎藤 昌子
アルト 秋葉 京子
テノール 金谷 良三
バス 木川田 誠
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

第8回



1972年
昭和47年12月25日
指揮 山田 一雄
ソプラノ 大川 隆子
アルト 秋葉 京子
テノール 金谷 良三
バス 斎 求
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

第 9 回



1973年
昭和48年12月25日
(管弘楽・京都芸大有志)

指揮 朝比奈 隆
ソプラノ 石村 雅子
アルト 秋葉 京子
テノール 金谷 良三
バス 蔵田 裕行
オルガン 鷺淵 紹子

第 10 回



1974年
昭和49年12月25日

指揮 延原 武春
ソプラノ 市川 蓉子
アルト 上辻 静子
テノール 金谷 良三
バス 蔵田 裕行
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 宮島 登美子

第 11 回



1975年
昭和50年12月25日

指揮 小泉ひろし
ソプラノ 大川 隆子
アルト 菊池 洋子
テノール 河瀬 柳史
バス 西 義一
チェンバロ 山田 貢

第 12 回



1976年
昭和51年12月25日

指揮 佐藤功太郎
ソプラノ 石村 雅子
アルト 小泉 彌生
テノール 金谷 良三
バス 芳野 靖夫
チェンバロ 有賀のゆり

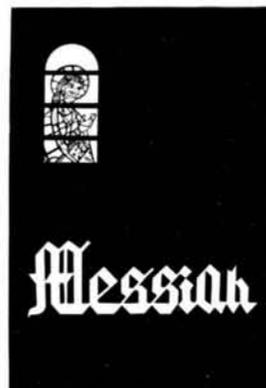
第 13 回



1977年
昭和52年12月24日

指揮 早川 正昭
ソプラノ 嶺 貞子
アルト 広沢 節子
テノール 金谷 良三
バス 高橋 修一
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

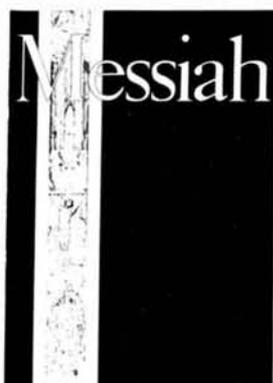
第 14 回



1978年
昭和53年12月25日

指揮 黒岩 英臣
ソプラノ 川本 愛子
アルト 木村 宏子
テノール 金谷 良三
バス 渡辺 明
チェンバロ 有賀のゆり

第 15 回



1979年
昭和54年12月24日

指揮 遠山 信二
ソプラノ 田中千恵子
アルト 吉 安 信子
テノール 金 谷 良三
バ ス 三 室 堯
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 井 岡 み ほ

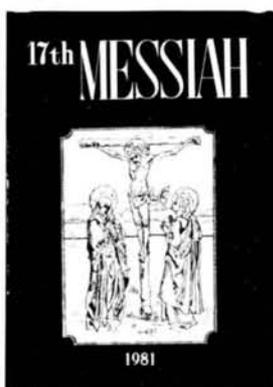
第 16 回



1980年
昭和55年12月23日

指揮 黒岩 英 臣
ソプラノ 大川 隆 子
アルト 井 上 和 世
テノール 金 谷 良 三
バ ス 高 橋 修 一
チェンバロ 有賀のゆり

第 17 回



1981年
昭和56年12月23日

指揮 デビット・ラーソン
ソプラノ 田中千恵子
アルト 菊地 洋子
テノール 金 谷 良 三
バ ス 高 橋 大 海
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

第 18 回



1982年
昭和57年12月22日

指揮 早川 正 昭
ソプラノ 秋山 恵美子
アルト 井 上 和 世
テノール 金 谷 良 三
バ ス 高 橋 大 海
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

第 19 回



1983年
昭和58年12月20日

指揮 小泉ひろし
ソプラノ 中村千恵子
アルト 井 上 和 世
テノール 布 瑩 秀 助
バ ス 高 橋 大 海
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

第 20 回



1984年
昭和59年12月26日

指揮 早川 正 昭
ソプラノ 日 比 啓 子
アルト 井 上 和 世
テノール 金 谷 良 三
バ ス 蔵 田 裕 行
オルガン 鷺淵 紹子
チェンバロ 有賀のゆり

会場は全て京都会館第一ホール・管弦楽は同志社交響楽団(第9回のみ京都芸大有志)

〈広島メサイア〉

同志社グリークラブの広島メサイアへの参加は、昭和45年(1970年)12月15日の第11回演奏会が最初で、以降昭和51年(1976年)12月17日の第17回演奏会まで七年間続けられた。



昭和47年12月16日 広島メサイア演奏会

指揮 平瀬雄子、広島市公会堂

広島メサイアのそもそもの初演は、昭和25年(1950年)に

広島女学院で行なわれた。市内教会クワイヤ、コーラス団、YMCA、女学院クワイヤによって約十年間毎年続けられ、昭和35年(1960年)からは、会場を広島市公会堂に移して、新たに第1回メサイア演奏会とした。広島女学院が中心となり、広島大学グリークラブ、広島国鉄合唱団、東洋工業コールエコー、関西学院グリークラブ他など、第10回まで色々なサークル、団体が演奏会をもちたてている。同志社グリーは、関学グリーのあとを受けたもので、旅費や宿泊費が全く広島サイドのマネ費からで、同志社サイドは全くの身体だけという非常に恵まれた条件での参加であった。参加の二・三年目には女学院とグリーメンとの恋の花も二つ三つ開花したようで、当時のグリーメンにとっては、ほんとうに楽しい思い出に残る演奏会だったようである。

1970



1971



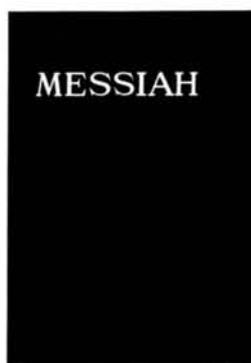
1972



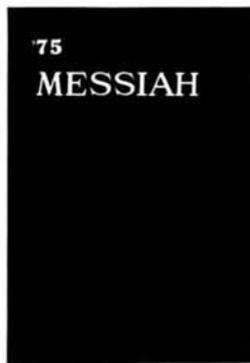
1973



1974



1975



1976



参考資料

- 同志社グリークラブ創立50周年記念誌 ●同志社グリークラブ創立60周年記念誌 ●同志社メサイアの軌跡
- 同志社交響楽団五十年誌 ●メサイア演奏会プログラム

クローバークラブ

クローバークラブ 絶えることなき、男のロマンの集い



昭和21年(1946)

11月同志社イヴ音楽会に片桐哲氏、山口隆俊氏、山田基男氏、平田甫氏、水谷央氏等全国から集ったグリークラブOB約30名が、森本芳雄氏の指揮で「讃美歌551番」他2曲を合唱した。この時のプログラムに「男声合唱——クローバークラブ」とあり、これがクローバークラブの初ステージであった。

昭和25年頃から京阪神在住者を中心に、わずかな人員で練習を始めたのが、クローバークラブとしての活動の第一歩となった。しかし、その後しばらく活動が途絶えクローバークラブの声を聴くのは、昭和29年のグリークラブ50周年記念演奏会迄待たなければならなかった。

昭和29年(1954)

6月25日大阪産経会館、6月26日同志社栄光館で同志社グリークラブ創立50周年記念演奏会が行なわれ、クローバークラブも賛助出演、好評をうけた。このことが契機となり合唱団としての形が整えられ新発足した。

11月には関西合唱コンクール(一般の部)に出場、初出場3位入賞を果たした。

昭和30年(1955)

3月「第一回五大男声合唱の夕」に出演。参加団体は、アルマータ・クワイアー、クローバークラブ、ジュピターコール、新月会、六甲男声であった。5月名古屋地方演奏旅行、10月には同志社グリークラブ定期演奏会に賛助出演した。しかし、この年の白眉となったのはコンクール優勝であった。11月出場2度目の関西コンクールでとうとう1位をとり、引続いて初出場した全日本大会(名古屋)でも、優勝した。この夜おそく“日本一”の栄誉を満載した観光バスは、真夜中の東海道を大変な勢いでガイセンした。

昭和31年(1956)

3月には「長井齋先生楽壇生活40周年記念演奏会」に出演、5月にはコンクール優勝を記念して、クローバークラブ第一回演奏会を大阪産経会館、京都一弥栄会館で開いた。9月には岡山演奏旅行、10月には同志社グリークラブ定期演奏会に賛助出演。11月には前年に続き、関西合唱コンクール、全日本合唱コンクールに第一位をとり、黄金時代となった。12月には、全同志社合唱団による「メサイア」に出演した。

PROGRAM

第 一 部	第 二 部
<p>I a Die Nacht F. Schubert</p> <p>b Grab und Mond *</p> <p>c Das Dörfchen *</p> <p>II ピアノ独奏 柳原 遅子</p> <p>スヘイン組曲より アルベニス</p> <p style="padding-left: 20px;">グラナダ</p> <p style="padding-left: 40px;">セウイラ</p> <p style="padding-left: 40px;">カデイス</p> <p>III a Heidenröslein Mendelssohn</p> <p>b Wasserfahrt *</p> <p>c Wandererslied *</p>	<p>IV a 中国地方の子守歌 日下部吉彦 編曲</p> <p>b 弘前地方の子守歌 *</p> <p>c 五つ木の子守歌 岡本俊夫 編曲</p> <p>d お江戸の子守歌 日下部吉彦 編曲</p> <p>V a ドングリコロコロ 市川仁三 編曲</p> <p>b 山寺の和尚さん 日本古謡</p> <p>c モン パ パ 高木史郎 編曲</p> <p>VI a Let de Heb'n-light shine on me Negro Spirituol</p> <p>b How long have I got to Linger? *</p> <p>c Joshua fits the battle of Jerico *</p>
..... intermission	指揮 I-IV, V, M. 日下部吉彦 II 織田幹雄

第一回演奏会 昭和31年 5月21日 大阪産経会館 / 5月27日 彌栄会館



大阪教会にて

昭和32年(1957)

1月同志社グリークラブ卒業演奏会に出演、3月には日紡平野工場にて演奏会、4月には岩国で演奏会を開いた。5月には大阪、京都で、6月には名古屋演奏会を開き、いずれも好評を博した。8月にはO TV (大阪テレビ現在のテレビ大阪とは関係なし)にテレビ初出演、9月には犬山、岐阜方面演奏旅行、10月には関西、全日本コンクールに優勝。コンクールは関西、全日本ともに優勝、みごと3連勝の偉業をたてた。とくに全日本では現役のグリークラブとともに完全優勝を地元、大阪で飾れたことは意義深かった。

P R O G R A M

<p style="text-align: center;">第 一 部</p> <p>I ロバート・シヨウ合唱曲</p> <p>Seeing Nellie Home J. Fletcher Aura Lee G. R. Poulton Li'l Liza Jane America Folk song Grandfather's clock Henry C. Work</p> <p>II ピアノ独奏 柳原 豊彦</p> <p>奏鳴曲 交響長調 作品 570 モーツァルト 第一楽章 アレグロ 第二楽章 アダテオ 第三楽章 アレグレット</p> <p>III 男声合唱のための三つの日本民謡 (初演) 清水 橋作曲</p> <p>—— 合唱クラブのために ——</p> <p>佐渡おけさ 新島風民謡 機織唄 埼玉県歌 豊上川船唄 山形県歌</p> <p style="text-align: center;">..... Intermission</p>	<p style="text-align: center;">第 二 部</p> <p>IV Invocation (祈願) メンデルスゾーン曲</p> <p>伴奏 オルガン 柳原 豊彦 ピアノ 黒岩 樹子</p> <p>コラール アレグロ モデラート アレグロモルト コラール</p> <p>(大阪)</p> <p>V オルガン独奏 柳原 豊彦</p> <p>聖母マリアへの祈り レオン・ネエルマン曲 祈 禱 曲 ジヤコフ・レメンス曲</p> <p>(京都)</p> <p>Negro Spirituals 黒人霊歌 同志社グリークラブ 指揮 河原林 昭良</p> <p>1 Deep River 2 Swing Low Sweet Chariot 3 Little Innocent Lambs 4 Listen to the Lambs</p> <p>VI ロシヤ民謡 セルゲイ・ヤエロフ編</p> <p>ヴォルガの船唄 タベの鐘 十二人の盗賊 ブラトフ將軍の唄</p> <p style="text-align: right;">指揮 I. I. M. 日下部 吉彦 N 黒田 幹雄</p>
--	--

昭和32年 5月20日 大阪産経会館 5月25日 同志社栄光館



最長距離演奏旅行“岩国、錦帯橋にて”



本拠地大阪体育館での全日本コンクール 1957.11

昭和33年(1958)

3月大日紡本社にて演奏会。第三回定期演奏会を大阪産経会館にて開いたあと、コンクール3年連続優勝を記念して、初めて東京に進出した。地元東京の一流合唱団でさえ、会場を満員にすることはむずかしいというのに、クローバーの演奏会は産経の大ホールを超満員にし、関係者を驚かせた。そのためか演奏にも力が入り、大成功だった。9月京都演奏会、11月のコンクールには関西、全日本とも招待演奏の栄によくし、遠く東北の郡山市まで出かける。とくにその前夜には、クローバークラブを中心とした前夜祭が開かれた。

P R O G R A M

I 柳河 風俗詩 北原白秋詩 多田武彦曲
 柳 河
 柳屋のおろく
 かきつばた
 梅雨の晴れ間

II アルト独唱 森 実子
 フォーレ歌曲より 伴奏 小林 純介
 リ デ イ ア
 この世に
 夢のあとに
 悲しき

III Negro Spirituals
 Set Down Servant
 Nobody Knows de Trouble I see
 Soon-a will be done
 intermission

IV 枯木と太陽の歌 中田嘉一郎詩 石井敏作曲
 "Gesang von Welkerbaum und Soone"
 伴奏 小泉 久代
 枯木は独りで歌う
 花と太陽の会話
 冬の夜の木枯の合唱
 枯木は太陽に祈る

V 四重唱 ハイ・ジャザックス クワルテット
 "百貨店"
 日下部吉彦詞 水谷良一曲
 フォスト ナイール 赤井和夫
 リード * 中島定治
 パリトシ 野村秀治
 パ ス 大河内謙之
 ビアナ 佐谷克己 ベース 中川 健一

VI クローバークラブ思い出曲集
 Kyrie Albert Duhaupas
 Wade in de Water Negro Spiritual
 月光とビエロ 清水 耕曲
 指揮 I IV VI 日下部吉彦
 III 阿原林昭良

大阪演奏会 昭和33年6月26日 大阪産経会館

P R O G R A M

I 男声合唱のための三つの日本民謡 清水 耕作曲
 橋 織 引.....新潟県民謡
 殿上川船唄.....埼玉県 *
 牛 追 い 唄.....南部地方 *

II 混声合唱 ワクネル ソサイター OV
 R. ロジャース作品集より 指揮 田中 孝
 伴奏 田川チエ子
 With a Song in my heart
 Blue Moon
 Oklahoma

III Negro Spirituals
 Set Down Servant
 Nobody Know's de Trouble I see
 Soon-a will be done
 intermission

IV 枯木と太陽の歌 中田嘉一郎詩 石井敏作曲
 "Gesang von Welkerbaum und Soone"
 枯木は独りで歌う
 花と太陽の会話
 冬の夜の木枯の合唱
 枯木は太陽に祈る

V ロジャ民謡 セルゲイ・ヤロフ編
 ヴォルガの船唄
 タペの舞
 十二人の盗賊
 プラトフ将軍の唄
 指揮 I IV V 日下部吉彦
 III 阿原林昭良

東京演奏会 昭和33年7月6日 東京産経会館

P R O G R A M

I 柳河 風俗詩 北原白秋詩 多田武彦曲
 柳 河
 柳屋のおろく
 かきつばた
 梅雨の晴れ間

II 「三つの俗歌」 北原白秋詩 清水 耕曲
 同志社マリアクラブ 指揮 市島 章三
 1 追 分
 2 ど ぎ ま ぎ
 3 旗 本 若 郎 の 歌
 ビエロの囃子 堀口大祐詩 清水 耕曲
 「月光とビエロ」より

III Negro Spirituals
 • Set Down Servant
 • Nobody Knows de Trouble I see
 • Sister Mary wore three lengths of chain
 • Soon-a will be done
 intermission

IV 枯木と太陽の歌 中田嘉一郎詩 石井敏作曲
 伴奏 佐谷克己
 枯木は独りで歌う
 花と太陽の会話
 冬の夜の木枯の合唱
 枯木は太陽に祈る

V 四重唱 ハイ・ジャザックス クワルテット
 "百貨店"
 日下部吉彦詞 水谷良一曲
 トップ ナイール 赤井和夫
 リード * 中島定治
 パリトシ 野村秀治
 パ ス 大河内謙之
 ビアナ 佐谷克己 ベース 中川 健一

VI クローバークラブ思い出曲集
 Kyrie Albert Duhaupas
 Wade in de Water Negro Spiritual
 月光とビエロ 清水 耕曲
 指揮 I IV VI 日下部吉彦
 III 阿原林昭良

京都演奏会 昭和33年9月28日 同志社栄光館

昭和34年(1959)

コンクールを休んで久しぶりにのんびりした年だった。それでも6月には大阪で第4回演奏会、7月には東京と名古屋でそれぞれ第2回目の演奏会を開いた。東京も名古屋もなかなかの盛会。

P R O G R A M

<p>I Deutsche Messe</p> <p>Zum Eingang Zum Gloria Zum Credo Zum Sanctus Nach der Wandlung Schlussgesang</p>	<p>F. Schubert</p> <p>指揮 日下部吉彦</p>	<p>IV Negro Spirituals</p> <p>See that babe in the lowly manger You Gotta Cross the River Jordan Deep River Rock-A-Ma-Soul.</p>
<p>II アルト独唱</p> <p>アーン歌曲より 牢獄より 私の歌に翼があれば 嵐 歌劇「ニエロシ」より……………トーマ作曲 ニエロシの詠唱</p>	<p>森 実子 伴奏 小林鉄介</p>	<p>V 四重唱</p> <p>「テレビジョン・クラブ」</p> <p>トッブアノール 赤井和夫 リードアノール 中島元治 リードアノール 長谷川邦男 バリトン 辻 義彦 バス 大河内謙之 ピアノ 十川千江子</p>
<p>III American Populer Song</p> <p>Wanting You The Bill Song Just a Cottage Small Night and Day</p>	<p>指揮 岩城志一 ピアノ 十川千江子</p>	<p>VI 日本の歌</p> <p>古い歌 宮永恒雄詞 佐藤理一郎曲 焚火 竜野映人詞 中田喜直曲 まつり 中田浩一郎詞 石井 敦曲 球根 岡本忠司詞 清瀬保二曲</p>

第4回定期演奏会 昭和34年6月26日 大阪産経ホール/ 7月12日 東京産経ホール/ 7月26日 名古屋愛知文化会館

昭和35年(1960)

6月27日毎日ホールで第5回記念演奏会を開催、この年の演奏会には、とくに東京コラリアーズの常任指揮者福永陽一郎氏を客演指揮者に招き、われわれだけではできない「南太平洋」をいまは亡き斎藤超とニューサンズの伴奏で演奏した。演奏会後の7月末信州に演奏旅行、「美ヶ原」の山ろく丸子の演奏会で歌った“山に祈る”は絶賛を博した。演奏を終えて、全員そろって観光バスで“美ヶ原”登山、すばらしい山の一日を過ごす。

P R O G R A M

<p>I Negro Spirituals</p> <p>This Old Hammer Lonesome Valley Little David Play on Yo' Harp</p>	<p>指揮 福永陽一郎</p>	<p>IV 「南太平洋」より</p> <p>あわくの音 船員入船一暮 あまらもさく とても哀愁なひと おれはなれ 美しい歌 あの人を忘れたい ハ・リ・イ</p>
<p>II 子供の四季</p> <p>かきまうた 秋のやま 春の小川 おぼろ月夜 あつみ 夏のはな 雪の夜</p>	<p>演奏 毎日オーケストラ 指揮 福永陽一郎</p>	<p>Richard Rodgers</p> <p>指揮 福永陽一郎 伴奏 斎藤超とニューサンズ 共演 ジョニー・スワグ</p>
<p>III ミサ曲</p> <p>Kyrie Gloria Sanctus O Salutaris Agnus Dei</p>	<p>Dufay 指揮 日下部吉彦</p>	<p>V 合唱組曲「山に祈る」</p> <p>山の歌 トッブアノールの歌 山小屋の夜 山を懐く 歌の歌 お待さん、ごめんさん</p>

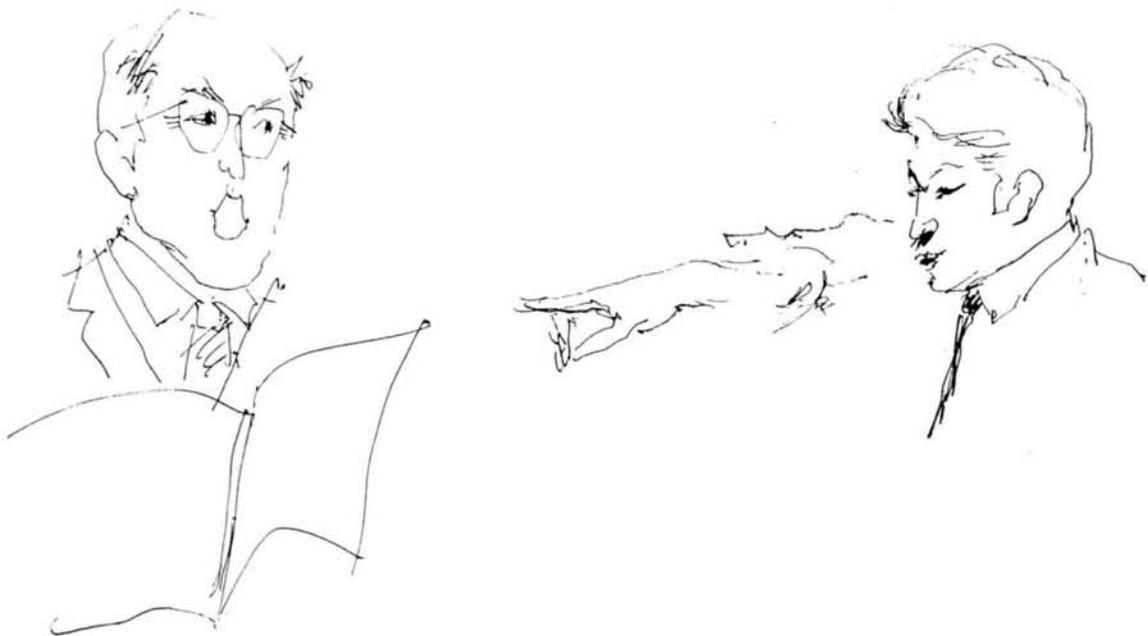
第5回記念演奏会 昭和35年6月27日 毎日ホール

昭和36年(1961)

5月29日毎日新聞社主催の大阪芸術祭に關学OBの“新月会”と初の合同演奏会を行なった。新月会との合同演奏はかねてからの夢が実現したもので意義深い会であった。昨年(1960)に初演をし、この年も演奏した「山に祈る」は清水脩氏が、ダークダックスの為に書いたものであるが、クローバークラブの為に多数の男声合唱用に移調し、再編したものである。引きつづき7月3日第6回定期演奏会を毎日ホールで開く。難曲といわれるメンデルスゾーンの“芸術の使徒に捧ぐる祝祭歌”はじめスペイン、イタリアの民謡や山の歌など新しい曲をとり入れた。部員100名をこす。

PROGRAM		プログラム	
第一部 ふるさとに歌ありき		クローバー・クラブ	
新月会		合唱組曲「山に祈る」	編曲・作曲 清水 脩
ミサ曲 指揮 洲崎 元一		山 田 実	指揮 日下部 吉彦
MISSA in honorem Sancti Huberti. Franz Neyes, Op. 18		リュック・デュワの歌	ピアノ 新井 晋吾
Kyrie eleison		山小屋の夜	朗読 寺島 真知子
Gloria		山を想う	
Sanctus		秋の夜	
Benedicus		おほさんごめんなさい	
Agnus Dei			
クローバー・クラブ			
スペイン民謡とイタリアの山の歌 指揮 岩城 忠一			
さえずり……………バネゴニア民謡 J. Guridi 編曲			
どこへ行く……………アストゥリアス民謡 R. Benedito 編曲			
アストゥリアス……………アストゥリアス民謡 J. L. Tejon 編曲			
私のマリエスティーナ……………Dove Ti Vai J. Robbone 曲			
アルプスへの別れ……………Il Mio Ben L. P. Bonsignore 曲			
アルプスのセレナーデ……………Nocturno Alpine Dante Rava 曲			
第二部 わが胸のそこにひびくは……………		第三部 歌は世界を結ぶ虹	
新月会		新月会 クローバー・クラブ合同	指揮 林 達 一 郎
こいの鼓動唄 編曲 中村 茂 彦		ふるさと……………	ピアノ 山本 寿 太郎
日元和楽集 指揮 洲崎 元一		陸地を見いでて……………	林 英 大 郎 詞 曲
野良草正清節			Edvard Grieg, Op. 31
阿波集			パトリック フロ 野村 忠
テナーソロ 山中 敏、ピッコロ 赤井正義、大鼓 海堀和夫、拍子 井ノ口吉彦			

クローバークラブ 新月会JOINT Recital 昭和36年 5月29日 毎日ホール



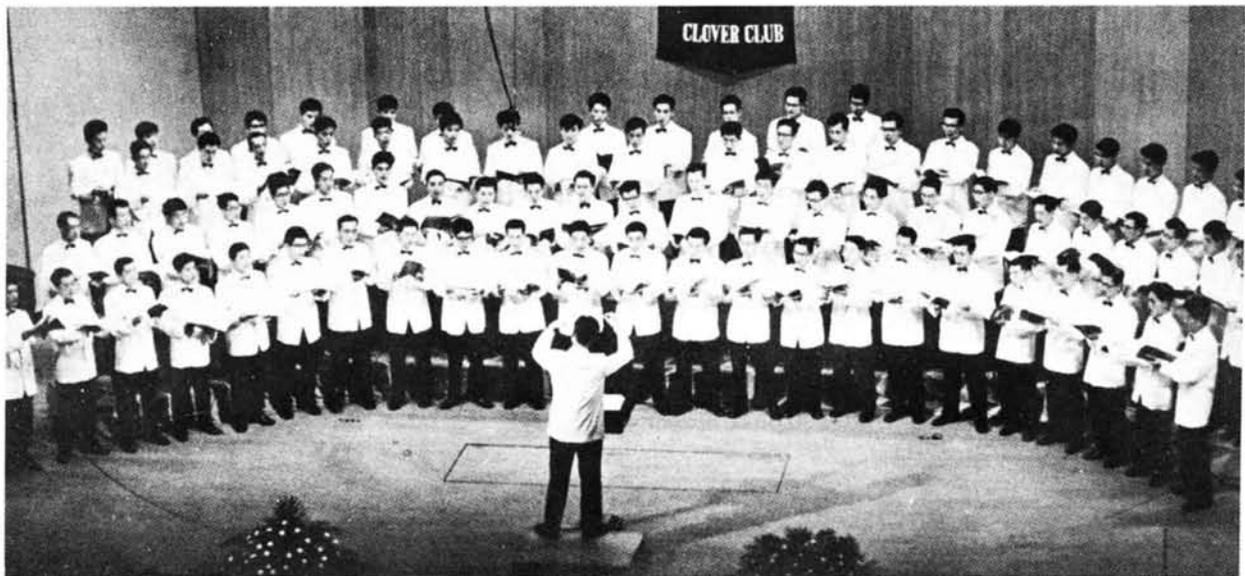
昭和37年(1962)

創設以来の指揮者日下部氏が東京勤務となり心配されたが大放唱の中心メンバーであり同時にクローバーの支柱である岩城恵一氏はじめ、河原林昭良氏、それに新指揮者脇地駿氏の指揮で7月9日第7回の定期演奏会を毎日ホールで開いた。曲目も日本では初演奏の“イギリスの古い世俗的合唱”(Ten Gleeより)をはじめロバートショウ合唱曲、黒人霊歌などこれまでとは変わったプログラムとなり、これに羽衣学園OGの松園会合唱団が明るいムードを加えた。

Program

<p>I 宗教曲より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ O Sacrum Convium L. G. da Viadana ・ Surrexit Pastor bonus G. P. da Palestrina ・ Ave Maria J. Arcadelt ・ Cantate Domino H. L. von Hassler <p>II バリトン独唱</p> <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">野村 忠 ビタノ 河内道太郎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌劇「仮面舞踏会」より レナートの詠唱 グエルデイ ・ イタリア歌曲 可愛い口もと トニチイ ・ スロイン歌曲 なつかしのガラナダ アルバレス <p>III Ten Glee より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Happy Are We Met Anonymous (1764) ・ The Captive Lover Henry Lawes (1653) ・ How Merrily We Live Michael Este (1600) ・ The Bells In The Steeple Giuseppe Sammartini (1693-1750) ・ Turn, Amarillis, To Thy Swain Thomas Brewer (1667) <p>IV 女声合唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春風 深尾須磨子 作詩-橋本昌彦 編曲 ・ 天竺 橋岡涼子 訳詞 -A.ルビンシュテイン 作曲 ・ アンゴンの船 鳥羽俊三 訳詞-高木東六 作曲 ・ 円舞曲 深尾須磨子 作詩-橋本昌彦 編曲 ・ 祭りと花と娘 鳥羽俊三 作詩-高木東六 編曲 	<p>IV-1 ロバートショウ合唱曲から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ When You And I Were Young, Maggie Arr by A. Parker & Robert show ・ Wait For The Wagon * R. Hunter & Robert show ・ Seeing Nellie Home * A. Parker & Robert show <p>IV-2 南米の歌 Ernesto Lecuona より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Andalusia Arr. by Henri Eikan 高志邦三 訳詞 ・ Malaguena * Clag Warnick 高志邦三 訳詞 <p>V 黒人霊歌より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Couldn't Heah Nobody Pray Arr. by Marshall Barlowmew ・ Soon One Mawn'n * ・ Lawd I Cannot Stay Away * ・ Steal Away H. T. Burleigh
--	--

第7回定期演奏会 昭和37年7月9日 毎日ホール



昭和38年(1963)

3月同志社グリークラブの大阪公演の賛助出演(大阪産経ホール)引きつづき7月1日第8回定期演奏会を毎日ホールで開く。この演奏会には常任指揮者の日下部氏をはじめ野村忠氏、河原林氏、脇地氏ら、初めて4人が指揮した。5年前、日本にきたハワイ大学合唱団からとくにクローパークラブに寄せられたStehle 曲“Missa Salve Regina”は本邦初演。9月23日4年ぶりに東京に進出、神田の共立講堂で第3回目の東京演奏会を開く。この演奏会は東京在住のクローパークラブ員の努力によるもので演奏も東京、大阪合同という大メンバー、聴衆もほぼ満員の入りに大いに気をよくして帰阪した。

Program

<p>黒人霊歌</p> <p>Soon One Mawnin Set Down Servant My Lord What a Mornin Soon ah will be done</p>	<p>指揮 脇地 駿</p>	<p>組曲「雪と花火」</p> <p>片 恋 彼 岸 花 芥 子 の 葉 花 火</p>	<p>指揮 河原林昭良 作詩 北原白秋 作曲 多田武彦</p>
<p>組曲「山に折る」</p>	<p>指揮 日下部吉彦 構成・作詩・作曲 清水 脩 ピアノ 新井省吾 朗読 寺島真知子</p>	<p>ロシアの歌</p> <p>Hospodi Pomilui わが魂よ オレーク公の行進 コサックの子守唄 カチューシャ</p>	<p>指揮 日下部吉彦</p>
<p>憩</p>			
<p>組曲「私の動物園」</p> <p>てんとうむし 河 童 マンモス おのこ・おみな か ら す ひ よ っ こ</p>			

第3回東京定期演奏会 昭和38年9月23日 神田共立講堂



昭和39年(1964)

創設10周年を迎え、7月6日毎日ホールで記念演奏会(第9回定期)を開催。これより先、3月にはキリスト教大学グリーの京都公演に賛助出演シューベルト曲を歌う。久々の京都のステージでメンバーは少なかったが、なかなかの力演で好評だった。なおこの年は同志社グリークラブの創立60周年に当たったため、12月6日京都会館でグリークローバー合同の記念演奏会を開いた。

Program			
I Missa Pacis	O. Ravanello 曲	IV Mitch In Japan	編曲 服部 公一
Kyrie	指揮 河原林 昭良	Sing Along	指揮 日下 部吉彦
Gloria		Anniversary song	独唱 上 阪 京子
Sanctus		The Yellow Rose of Texas	
Benedictus		Let Me Call You Sweet Heart	
Agnus Dei		Aitsu	
		Wonderful, Sky-Diving	
		The Longest Day	
II シューベルト合唱曲より	指揮 協地 駿		
ゴンドラを漕ぐ人	ピアノ 長 嶋 順子	V 男声合唱のための組曲	作曲 小 山 清 茂
夜		※四つの仕事唄より	指揮 日下 部吉彦
わ が 村		唄 し 田	タイコ 一 色 治 義
		唄 嶋 き	
III 黒 人 霊 歌	指揮 河原林 昭良	唄 塚 明	
Jesus had a Mother Like Mine.....arr. by. J. Doloph			
In Dat New Jerusalem.....arr. by. S. Wakiji			
Poor Wayfaring Stranger			
Wade in de Water.....arr. by A. Hall			
.....Inter Mission.....			

第9回定期演奏会 昭和39年7月6日 毎日ホール



昭和39年7月 毎日ホール

昭和40年(1965)

オリンピックの関係でおくれた1964年度の東京公演(第4回)を1月16日文京ホールで開催。大阪から50人が大挙して上京、東京クローバーの20名を加えて70名の大ステージとなった。

7月6日、大阪毎日ホールで第10回記念定期演奏会久方ぶりの織田幹雄氏はじめ、日下部、河原林、脇地の4人が指揮、とくにクローバーのために書かれた寺山修司詩、服部公一作曲“白いクレオン”は十川千江子ピアノクインテットと協演という大がかりなもので大好評、またこのプロは11月22日東京日比谷公会堂の第5回東京公演で再演奏・大好評のうちに終わった。この日の日比谷は超満員、音楽会で同公会堂が満員になったのはその年はじめてのことだったという。

Program

Missa Pacis O. Ravanello 曲
 Kyrie 指揮 脇 地 毅
 Gloria
 Credo
 Sanctus
 Benedictus
 Agnus Dei

黒 人 聖 歌 指揮 河 原 林 昭 良
 Jesus had a Mother Like Mine.....arr. by J. Doloph
 In Dat New Jeruaalem.....arr. by S. Wakiji
 Poor Wayfaring Stranger
 Wade in de Water.....arr. by A. Hall

男声合唱のための組曲「四つの仕事唄より」 作曲 小 山 清 茂
 雄 し 田 指揮 日 下 部 吉 彦
 制 弘 き
 酒 屋 町

-----Inter Mission-----

IV Mitch In Japan ⑧ 天安三由聖 編曲 服 部 公 一
 ① Sing Along ⑨ 幸せな手をたたこう 編曲 堀 本 篤 一 郎
 ② Anniversary song ⑩ The Longest Day 増 田 順 平
 ③ The Yellow Rose of Texas 指揮 日 下 部 吉 彦
 ④ Let Me Call You Sweet Heart 独唱 上 原 京 子
 ⑤ Do Re Mi Song 伴奏 モダン・ブルーネッツ
 ⑥ Aitau 司会 島 崎 登
 ⑦ Wonderful Sky Diving

第4回東京演奏会 昭和40年1月16日 文京公会堂

Program

I Missa brevis Joseph Haydn 曲
 Kyrie 指揮 脇 地 毅
 Gloria ピアノ 賀 藤 新 子
 Credo
 Sanctus
 Benedictus
 Agnus Dei

II 想 出 の 曲 集 指揮 脇 田 幹 雄
 セレナーデ.....A. E. Marachner
 愛の使い.....ライン地方の民謡
 苔 松 樹.....F. Schubert
 野 ば ら.....H. Werner
 愛 の 夢.....Foster
 希望のささやき.....Howthorne

III 黒 人 聖 歌 指揮 河 原 林 昭 良
 Joshua Fought the Battle of Jerico.....Traditional negro spiritual
 Let us break bread together.....J. H. Montague
 Sometimes I feel like a motherless child.....arr. by F. Heath
 Didn't My Lord Deliver Daniel.....arr. by F. Heath

-----Intermission-----

IV 男声合唱のための組曲「白いクレオン」 作詩 寺 山 修 司
 ひとつかみのひなげしも 作曲 服 部 公 一
 い つ も の よ う に 指揮 日 下 部 吉 彦
 好 物 朗読 田 中 実
 小 さ な 美 (A B C 児童劇団)
 か く れ ん ぼ 十川千江子ピアノクインテット協演
 死んだ子のための子守唄

第10回定期演奏会 昭和40年7月5日 毎日ホール



昭和40年7月 毎日ホール

昭和41年(1966)

例年どおり7月11日大阪毎日ホールで第11回定期を開催、日下部、河原林、脇地の常任指揮者の3人に中川清氏を加えた4君の指揮、曲目はケルビーニの“レクイエム”やこれまたクローバーのために書かれた落語ミュージカル“30石船”など5ステージ、ケルビーニがこれまでにない難曲だったため演奏会前2回も合宿して猛練習をした。

当日のプログラムに落語ミュージカル“おとこはおとこ”について、作曲者と詩人の大中恩氏、阪田寛夫氏は次のように寄稿している。

落語ミュージカル“おとこはおとこ”

大 中 恩 (作曲者)

同志社大学は私のおやじの出た学校である。それだけのことで、私には何の関係もなかったのだが、一昨年、大学グリークラブの60周年を記念して阪田寛夫と組曲「わが歳月」を作曲した。それでも私は、京都には度々立ち寄っているが同志社大学を外側から眺めたことしかない。クローバークラブの皆さんはその同志社のOBであり、長い歴史に於て合唱界に立派な足跡を刻んでこられたのだから、同志社ということとを離れても私の印象にのこっているのだが、畏友日下部吉彦氏なくしては何の結びつきも得られなかったであろう。

本日その日下部氏の指揮により演奏される私の作品はまことにおかしなものであるが、日頃、日下部、阪田、大中の怪しげな関係が生んだ一作品として、私共の一端をのぞいていただき度く、また、いただけるのではないかと思うのである。敬愛するクローバーの諸氏に、いずれは美しく格調高い一曲も贈りたい所存である。

阪 田 寛 夫 (詩 人)

私の母親は明治の末に同志社女専を卒業しました。彼女は同志社を大変誇りとしており、その誇りがまた甚しく、私も小さいときから同志社びいきにされてしまいました。

例えば私がいちども会ったことのない、ミス・デントンというおばあさん先生のこと、何度も聞かされるうちに、古い知人のように思えるから不思議。「ミス・オネケ。キモチタイラケク」というのが、私の母がしばしば聞かせてくれたデントさんの口まねです。(母は旧姓大中)

花園のラグビー場へも母によくつれてゆかれました。宿敵京大を打破って「ワン、ツー、スリー、……」というエールが始まると、母もまた人前はばからぬ大声で、「ラ、ラ、ラ、同志社……」と応じるのでした。

「おとこはおとこ」という合唱落語(?)は、この母の精神とはいささか趣を異にしているようで、気がとがめないでもありません。しかし、強靱な女性の出現に対して、この際、男は仲違いや気兼ねなどしておれません。よって「おとこはおとこ」を書いた次第であります。作曲者は私の母のオイに当ります。

Program

I 日 本 民 謡

指揮 日下部吉彦

- 中国地方の子守唄
- ソーラン節
- 鳥原の子守唄
- おてもやん
- 刈子切唄
- 最上川船唄

II 黒 人 聖 歌

指揮 中川 清

- Deep river福永 陽一郎 編曲
- Ride the Chariotarr W. H. Smith
- He's Got the whole World in his Hand's.....arr F. Heath
- Mary's boy Child Jeses Christ福永 陽一郎 編曲

III 山 田 耕 筈 名 曲 集

クローバークラブ編曲

- 1 松 島 音 頭 協 演 大 阪 放 送 児 童 合 唱 団
- 2 む か し 唄 指 揮 河 原 林 昭 良
- 3 あ わ て 床 屋 ピ ア ノ 鷺 淵 紹 子
- 4 菱 球 沙 華
- 5 か や の 木 山
- 6 こ の 道

.....Intermission.....

IV REQUIEM

ケルビーニ 曲

- 1 Introitus und Kyrie 指 揮 脇 地 駿
- 2 Graduale オルガン 鷺 淵 紹 子
- 3 Dies irae

V 落 語 による 合 唱 組 曲

「おとこはおとこ」

阪 田 寛 夫 詩

- 1 プ ロ ロ ー グ 大 中 思 曲
- 2 第 一 舟 唄 指 揮 日 下 部 吉 彦
- 3 東 西 な ぞ な ぞ 合 戦 ソ プ ラ ノ 上 坂 京 子
- 4 夜 ふ け て 女 の 歌 え る ピ ア ノ 長 嶋 順 子
- 5 売 り 言 葉 に 売 り 言 葉
- 6 第 二 舟 唄
- 7 お と こ は お と こ

第11回定期演奏会 昭和41年7月11日 毎日ホール



昭和42年(1967)

第12回定期を7月10日毎日ホールで開く。昨年同様4君の指揮だが、この会の直前日下部氏が大阪勤務となって帰ってきたのはプラスだった。男声合唱曲の中でもとくに難曲といわれるヘーガーの“剣と竖琴”や“幻を追いて”は大変な熱演、このプログラムは引きつづいて10月6日東京文京公会堂(第6回)でも演奏された。

この他、この年は11月に同志社男声合唱の夕べ、12月にはフェスティバルホールで関学、同志社グリー、新月会、クローバーの4団体が合同演奏会を開くなど多忙だった。

Program			
I 異人童歌	指揮 中川 浩	IV ヘーガー合唱曲	指揮 河原林 照良
Dig my Grave.....arr. H.T. Burleigh		幻を追いて —Schlafwandel— Op. 18	Friedrich Hegar 土居 四郎・訳
This of hammer.....編曲 福永 陽一		剣と竖琴 —Die Besen Surge— Op. 9	Friedrich Hegar 山口 隆 俊・訳
Heav'n, Heav'n.....arr. H.T. Burleigh			
Anyhow.....from Golden Gate Quartet Series			
Soon-a will be done.....編曲 福永 陽一			
II コーラスメドレー “子供と歌おう。”	編 曲 高 橋 城	V フォークソング名曲から	編 曲 丹 波 純 指 揮 日 下 部 吉 彦
花まつり	ピアノ伴奏 *	七つのお水仙 “Seven Daffodils.”	ハルモニカ 小 幡 東 一
おもちゃのチャチャチャ	児童合唱 大阪放送児童合唱団	バラが咲いた	ホーナー 山 家 誠 一
ナム。ナム。ナムリー	指揮 河原林 照良	500マイル “500 Miles.”	フエゴ 伏 見 川 二
五匹のごぶたとチャールストン		44のおが家 “Home on the Range.”	ベース 芦 田 浩
海のマーチ		悲愴な戦争 “The Cruel War.”	アルト 松 浦 雅 子
		パフ “Puff.”	テノール 岩 城 忠 一
III 宗教曲より	指揮 橋 本 敏		
Requiem	P. Cornelius		
Die Ehre Gottes aus der Natur	L. van Beethoven		
社会の涙をしないで	Ch. Gounod		
Surrexit Pastor bonus	G. P. da Palestrina		
Go not far from me, O lord	H. Morgan		
.....Intermission.....			

第12回定期演奏会 昭和42年7月10日 毎日ホール



昭和43年(1968)

7月、第13回定期演奏会を毎日ホールで開く。グリークラブ時代指揮者だった寺本和氏がはじめて棒を振った。曲目はGabertのミサ、この演奏会のため6月中に3回にわたる合宿練習が行なわれた。12月、前年に演奏した“白いクレオン”がTV番組にのった。この他、大阪でも、東京でも、ラジオ放送やその他の活動が目立ち多忙な年となる。

「白いクレオン」について

服部 公一

この「白いクレオン」は一昨年、同志社大学OBクローバー合唱団演奏会のために作られたものです。そもそのプランナーであり、プロデュースをなされたのは、本誌の作曲家訪問でおなじみの日下部吉彦さんでした。皆さんよく御存知のように日下部さんはクローバークラブの黄金時代を作り上げた合唱指揮の名手でありますから、この曲の制作にあたっては実に明快な意図を示して下さいました。曰く――

クローバークラブのメンバーは合唱経験豊富で音楽性も充分であるが、本職が忙しい方ばかりなので充分練習がとれないから、そのような状況でもこなせる合理的な譜面であること。唱って楽しいと同時に客席にも感動を呼びおこせるものであること――というのでした。

簡にして要を得ており、さらに聞いても面白い曲を作ること、なのです。そこで日下部さんと作詩者寺山修司さんおよび私の三人でブレインストーミングをかきねて、ミッチ・ミラー・スタイルで少し程度の高い、伴奏付きの、朗読入り男声合唱曲を作ることにしたのでした。この組曲の構成には小学生の息子さんをお持ちのパパ、日下部さんが子なしの作詩者、作曲者に具体的なアイデアをいろいろお貸し下さいました。つまり日下部さんは根本的にはこの組曲の共同制作者の一人なのです。

さて、演奏上の助言を一つ二つ――

朗読のうちでAだけは他とまったく性格を異にします、これはこの組曲全体の状況を設定する基礎的ニュースなのです。このニュースをもとにしてこの詩も曲も出来ています。朗読者は大人でなければなりません。客観的に読める人、例えばニュース・アナウンサーなどが望ましいのです。朗読B以下は生き残った弟光昭氏の詩ですから、子供に読ませるかそれに近い発想で読まなければなりません。そして歌の部分は父親の発想です。つまりニュース・アナウンスで全景を俯瞰し、子供の詩の朗読と父の気持を唱った合唱とで織りなし、これは一つのドラマなのです。

次に伴奏はピアノでなされますがもしドラム奏者を得られるならば、ロカバラードの所とスウィングの所につけ加えても良いと思います。この伴奏部はクラシック的発想とジャズやロックのリズムが入りまじって出て来ますから上手にその変化を表現していただきます。

ダイナミックスは一応大まかに書き込んでありますが合唱団の性格その他を考えに入れて指揮者独自の発想がおありでしょうからさらにこまかく存分に表現していただければよろしいと思います。

(「合唱サークル」42年4月号より転載)

Program

I Sea Shanty

指揮 中川 浩

アコーディオン伴奏 富 岡 健

- Sailing Sailing井 阪 純 編曲
 The Boston Come All-Ye
 Shenandoaharr. Roger Wagner
 Blow the Man Down井 阪 純 編曲
 Lowland'sarr. Roger Wagner

IV Mass of The Immaculate Conception

Abel L. Gabert 曲

- Kyrie指揮 寺本和直
 Gloriaオルガン 加藤玉蓮
 Sanctus
 Benedictus
 Agnus Dei

II 組 曲 “雨”

多田武彦 曲

- 雨の来る前 (伊藤 悠 詩)指揮 日下部 吉彦
 武蔵野の雨 (大木 淳夫 詩)
 雨の日の遊動門木 (大木 淳夫 詩)
 十一月に降る雨 (堀口 大智 詩)
 雨の日に見る (大木 淳夫 詩)
 雨 (大木 重吉 詩)

V 男声合唱のための組曲 “白いクレオン”

作 詩 寺山 政司

- 作曲 服部 公一
 指揮 日下部 吉彦
 アナウンサー 土田 博章
 朗 読 菊島 浩孝
 ピアノ 加藤 玉蓮
 ひとつかみのひなげしも
 いっものように
 好 物
 小 さ な 歌
 か く れ ん ぼ
 死んだ子のための子守唄

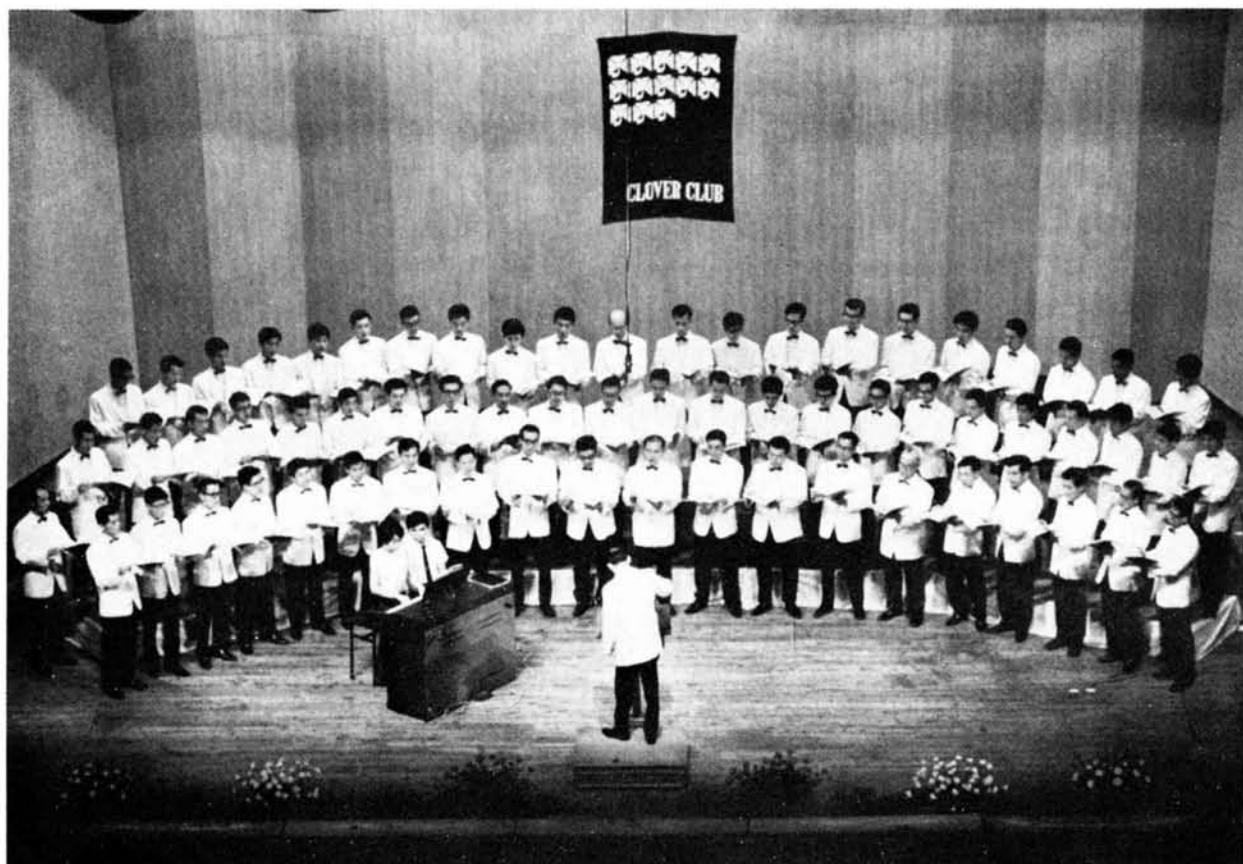
III テポア合唱曲より

指揮 河原林 昭 良

- Dry Bones
 Swing Low Sweet Chariot
 Marry a Woman Uglier than You
 The Lords' Prayer
 Fare ye Well

-----Intermission-----

第13回定期演奏会 昭和43年7月15日 毎日ホール



昭和44年(1969)

新年早々の1月20日東京文京公会堂で第7回東京公演を開く、昨年春の大阪公演のプロに「おじさまたちのグループ・サウンズ」を加えた新しいプログラム、不幸にして失神者は出なかったが、なかなかの好評。7月7日大阪毎日ホールで第14回公演。アンケートによるクローバーの印象は“家庭的”“プログラムの構成が面白い”そして“中年の魅力満点”というのが一番多かった。1月の東京演奏会を中心にクローバークラブ初のLPレコードが世に出た。

Program			
I Sea Shanty	作曲 井 坂 延 ハーモニカ伴奏 富 岡 健	IV おじさまたちのグループ・サウンド	構 成 ぼ ぼ こ う い ち 東 河 江 正
Sailing Sailing	井 坂 延 編曲	① マリアの泉	編 曲 井 坂 延
The Boston Come All-Ye	井 坂 延 編曲	② 東 城 の 塔	指 揮 日 下 部 吉 彦
Sherandeah	arr. Roger Wagner	③ シ ョ ー ル	作 者 中 村 英 夫 と ワールサウンズ・セレナーアス
Blow the Man Down	井 坂 延 編曲	④ お 母 さ ん	
Lowland's	arr. Roger Wagner	⑤ マリアの秘蹟	
II Mass of The Immaculate Conception	Abel L. Gabert 曲 指揮 河 原 林 昭 良 オルガン 雨 宮 敏 子	V 組 曲 “雨”	多 田 武 彦 曲 指揮 日 下 部 吉 彦
Kyrie		雨の来る前 (伊藤 整 詞)	
Gloria		武蔵野の雨 (大木 哲夫 詞)	
Sanctus		雨の日の遊戯園 (大木 哲夫 詞)	
Benedictus		十一月に降る雨 (堀江 大守 詞)	
Agnus Dei		雨の日に見る (大木 哲夫 詞)	
		雨 (大木 哲夫 詞)	
III テポア各種曲より	指揮 河 原 林 昭 良		総合司会 ぼ ぼ こ う い ち
Swing Low Sweet Chariot			
Marry a Woman Uglier than You			
The Lords' Prayer			
Fare ye Well			
Dry Bones			
-----Intermission-----			

第7回東京演奏会 昭和44年1月20日 文京公会堂



おじさまたちのグループサウンズ

昭和45年(1970)

この年も新年早々の1月26日東京文京公会堂で第8回東京公演を開く。レコード大賞を受賞したばかりの、売れっ子佐良直美との協演がきいて大変な人気。楽しくまた充実した演奏会となった。7月13日大阪毎日ホールで第15回記念演奏会。新しいレパートリーとして“映画音楽”ウエスタン・ナンバーが加わった。昨年の演奏会後のアンケート調査で映画音楽に対する希望が意外に大きく、驚かされたが、この演奏は、少しでもこたえたつもりである。

Program			
I 男声三声部のためのミサ 八長調	シャルル・ダナー曲	IV ウエスタンナンバー	指揮 河原林昭良 編曲 佐藤 道雄
Kyrie	指揮 寺本和幸	High Noon	映画「真夏の決斗」より
Gloria in Excelsis Deo	オルガン 笠川 義子	The Green Leaves Of Summer	＊「アラモ」より
Sanctus		Per Qualche Dolro in Piu	＊「夕陽のガンマン」より
A L'élévation		The Call Of The Far-away Hills	＊「シェーン」より
Agnus Dei		Rawhide	テレビ映画「ローハイド」より
II 黒人聖歌	指揮 河原林昭良 ピアノ 柳田 宗広	伴奏 同志社大学LMC Band Trumpet: 赤坂喜一郎 Guitar: 菅野正和	Contra-Bass: 西口幾久 Drums: 出原正幸
・Set Down ServantArr.by Robert Shaw	V 「子供の詩」より	指揮 山下 吉彦 ピアノ 西野 正教 作曲 山 安雄 作詩
・Were You There＊ Roy Ringwald	きまっているのに.....	2年 山本みき子
・Honor / Honor /＊ Hall Johnson	五じゅうまる.....	1年 大谷まつ子
・There Is A Balm In Gilead＊ Wiliam L.Dawson	せんせい.....	2年 はそみみちよ
・If I Got My Ticket, Can I Ride＊ Robert Shaw	おかあちゃんのエピソード.....	3年 高井 秀 男
III オペラ合唱曲より	指揮 脇 地 鞆 ピアノ 笠川 義子	うるせ.....	5年 佐藤 啓 一
水夫の合唱	R.ワグナー	おかねもちのおきやくさん.....	3年 ます田ようこ
(「さまよえるオランダ人、第3幕より)		じ.....	4年 松田 豊 子
巡礼の合唱	R.ワグナー	せんせい.....	2年 久保田 信 平
(「タンホイザー」より)			
兵士の合唱	C.ダナー		
(「ファウスト、第4幕より)			
.....Intermission.....			

第15回記念 昭和45年7月13日 毎日ホール



第8回東京演奏会 佐良直美とクローバークラブとの協演 昭和45年1月26日 東京文京公会堂にて

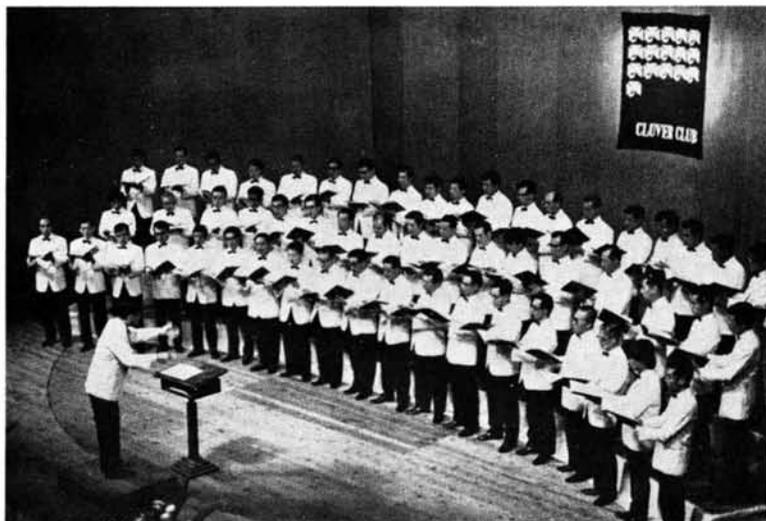
昭和46年(1971)

2月1日東京文京公会堂で第9回東京公演を開く。その年は歌謡界のベテラン、ペギー葉山の特別出演、曲目は“70年代のサウンド”といわれるバカラック。前年の佐良直美といいクローバーも時代にそった新風が吹きこまれた。大阪の第16回定期は今年からこれまでの7月公演を秋のシーズンに変え、11月公演となった。常任指揮者日下部氏の海外出張でその年は河原林、脇地両氏の指揮、神戸女学院高等部コーラス部が特別出演した。

この年10月、東京リーダーフェル、東海メール・クワイアー、弘前メンネル・コール、広島メンネル・コール、いらか会合唱団そしてクローバークラブの6つの名門男声合唱団が、日本男声合唱協会を設立した。

Program			
I Missa Brevis	Heinrich Lemacher, WK. 64	IV 「にほんのうた」より	作詩 永 六 輔
Kyrie	指揮 脇地 駿	君の故郷は(東京)	作曲 いずみたく
Gloria		女ひとり(京都)	編曲 井 阪 敏
Credo		銀杏並木(大阪)	指揮 河原林 昭良
Sanctus		フェニックス・ハネムーン(宮崎)	
Benedictus		十和田の底に(青森)	
Agnus Dei		別れた人と(兵庫)	
		筑波山麓男声合唱団(茨城)	
II 女声合唱	伊 藤 海 彦 作 詩	オランダ坂をのぼろう(長崎)	
組曲「蝶」より	中 田 喜 直 作 曲		
・灰色の雨	指揮 中 山 智 里		
・よみがえる光	ピアノ 内 藤 あい子		
III アメリカ合唱曲集より	指揮 河原林 昭良	V 合唱組曲「山に折る」	構成・作詩・作曲 清 水 脩
	ピアノ 新 矢 照 子	山 の 歌	指揮 河原林 昭良
・Lovely Evening	Claude Debussy	リュックサックの歌	ピアノ 大津寄 多美子
・The Crusader	Hugo Wolf	山小屋の夜	朗読 中 畑 道 子
・The "FINLANDIA" Hymn	Jean Sibelius	山を憶う	
・Cool Water	Bob Nolan	吹雪の歌	
・Rock-a My Soul	Negro Spiritual	お母さん、ごめんさい	
	Intermission.....	

第16回定期演奏会 昭和46年11月9日 毎日ホール





指揮者を見ているのは唯一人だけである。

昭和47年(1972)

定期は春に東京、秋は大阪と決まり、そのため第10回東京公演を4月10日東京文京公会堂で開催した。今年はフォークのベテラン歌手新谷のり子の特別出演、曲目は“フランス・レイを歌う”ゲスト出演も東京ではクローバーの名物となったようだ。大阪の第17回定期は11月14日これまで同様毎日ホールで開く。その年は常任指揮者の日下部氏はじめ河原林、脇地と久しぶりに3人の常連が指揮、シューベルトのミサ曲、ニグロ・スピリチュアル、それに男声合唱に編曲した高田三郎曲の“水のいのち”をうたう。今年も神戸女学院高等学部コーラス部が特別出演、花をそえた。

Program

I Messe in G-Dur

Kyrie
Gloria
Credo
Sanctus
Benedictus
Agnus Dei

FRANZ SCHUBERT

指揮 脇地 駿
ピアノ 大津寄 多美子
ソプラノ 足立 真知子
テノール 岩 城 恵 一
バス 木 下 利 彦

III 黒人霊歌

• Little Innocent Lamb 指揮 河原林 昭 良
• Were You There? ピアノ 柳 田 宗 広
• Soon one mawnin
• Hés Got the Whole World in His Hands
• Down by de Ribber Side

II 女声合唱

神戸女学院高等学部コーラス部

田の草取唄 秋田県民謡による
*日本民謡による
12のインベンション、より
大いなる神
雲の日に
「心の四季」より

問 宮 芳 生 作 曲
問 宮 芳 生 作 曲
F. Schubert
吉 野 弘 作 詞
高 田 三 郎 作 曲
指 揮 渡 辺 幸 子
ピアノ 稲 垣 昌 子

IV 合唱組曲「水のいのち」より

高 野 喜 久 雄 詩

高 田 三 郎 曲

雨

水たまり
川
海よ

指揮 日下部 吉彦
ピアノ 前中 明子

.....Intermission.....

第17回定期演奏会 昭和47年11月14日 毎日ホール



昭和48年(1973)

1971年10月に結成された、日本男声合唱協会第一回公演が東京で開かれ、クローバークラブは高田三郎曲の“水のいのち”をいらか会合唱団(ワセダOB)とともに演奏、好評を博した。参加団体は東京リーダーターフェル、東海メール、弘前メンネル、広島メンネル、いらか会とクローバーの6団体。

11月の第18回定期は第4回世界大学合唱祭に参加が決まった同志社グリークラブの派米を記念する特別演奏会とし、グリークラブと合同演奏する。クローバーは、1968年の第13回定期で演奏した名曲Gabertのミサ曲をはじめ、アメリカの歌ヨーロッパの歌などを唱った。

Program			
I 清水 脩 作品集から 阿波祈禱文 智恵子抄巻末のうた六集	同志社グリークラブ 指揮 富岡 健	IV Mass of The Immaculate Conception (No.8, inC) Kyrie Gloria Sanctus Benedictus Agnus Dei	Abel L. Gabert クローバークラブ 指揮 日下部 吉彦 オルガン 前 窪 恵
II アメリカの歌、ヨーロッパの歌 ・Joshua Fought the Battle of Jerico ・Mary's Boy Child Jesus Christ ・Wade In de Water ・Loch Lomond ・Shenandoah	クローバークラブ 指揮 河原林 昭良		
III 多田武彦曲「草野心平の詩」から 石家荘にて 天 金 魚 雨 桜 散 る Intermission.....	同志社グリークラブ 指揮 富岡 健		

第18回定期演奏会 昭和48年11月12日 毎日ホール(グリークラブと合同)

昭和49年(1974)～昭和51年(1976)

この年よりクローバークラブは昭和51年OB会設立迄離伏の時代を過す。

即ち、関西クローバークラブは、完全なる休眠の時代を迎え、その活動は昭和52年第1回東西四大学OB合唱連盟演奏会迄待たねばならなかった。

一方東京クローバークラブも正式な単独演奏会はもたなかったものの、毎年帝国ホテルにおける、同志社校友会東京支部の総会に出演するなど、東京における同志社村(?)とも云える、アットホームな組織を作り上げ、卒業生が関東へきたときけば、さがして電話するなど、その後の活動の源流となるきざしをつづけていった。

ともあれ、クローバークラブが低迷期に入ったことにより、関西ではOBと現役のハイブがなくなり、それがまたOB会設立の気運へとつながっていったことも一つの事実であろう。

昭和52年(1977)

7月3日(日)、第1回東西四大学OB合唱演奏会が東京・九段会館ホールで催された。東西四連OB諸氏が、長年希望していた事が実現の運びとなった。同時に約4年間、正式な演奏活動から遠ざかっていたクローバークラブの久々のステージ姿でもあった。

さかのぼって、昭和51年3月グリークラブ創設者片桐哲氏の米寿の祝賀会の席上、OB会設立の提案があり、松本寛二氏を会長に推し少数のメンバーを中心に組織を作り、順次その輪を拡大して名簿の整理作成、演奏活動等の活動を開始した。たまたまその年慶応のOBから四連OB会設立の提案があり、OB会総会の席上で直ちにこれに賛同、組織化のクローバークラブの新誕生となり、3月から東京、京都において練習を開始し指揮者には昭和50年同志社グリークラブ渡米時の若手の練腕、富岡健氏が指名され、この日に至ったのである。

12月、同志社グリークラブ定期演奏会が大阪毎日ホールで開かれ、ジョイントコンサートの形でクローバークラブが出演した。

PROGRAM		PROGRAM	
1. クローバークラブ ミサ曲・ト長調 I. キリエ II. グローリア III. クレド IV. サンクトエ V. パスカリアリス VI. アニウスデイ F. シューベルト 作曲 指揮 富岡 健 アブラム 松岡 洋子 マナー 宇野 実 オース 野村 忠 テルマ 日暮 勇 王 徳 ヒアノ 伴 長 島 悦子		4. 稲門グリークラブ Negro Spirituals 指揮 吉田 誠 1. Climbin' Up The Mountain 2. Hail Mary 3. Couldn't Hear Nobody Pray 4. Steal Away To Jesus 5. Ain't That Good News 6. In Dat Great Gittin' Up Mornin'	
2. 新月会 男声合唱組曲「草野心平の詩から」 石 家 莊 に て 天 金 魚 山 さくら散る からたちの花 山田 耕 作 作曲 草 野 心 平 作 詩 指揮 小 池 義 郎 山田 耕 作 作曲 北 原 白 秋 作 詩 林 謙 一 郎 編 曲 指揮 中 西 洋		5. 合同演奏 男声合唱組曲「月光とピエロ」 1. 月光 II. 秋のピエロ III. ピエロ IV. ピエロの夜 V. 月光とピエロの夜 清水 裕 作曲 堀 江 大 学 作 詩 指揮 足 村 謙 一	
3. ワグネルOB合唱団 男声合唱組曲「蛙の歌」 I. 小 曲 II. 亡 霊 III. 蝶 と 蜂 IV. 蛇 祭り 行 進 V. 秋 の 夜 の 会 話 南 弘 明 作曲 草 野 心 平 作 詩 指揮 境 田 正 徳		----- (ホール交響) -----	

第1回東西四大学OB合唱演奏会 昭和52年7月3日 東京九段会館ホール



昭和54年(1979)

7月15日(日)、第2回東西四大学OB合唱演奏会が京都会館第1ホールで催された。

地元と云う事もありクローバークラブは、OB会挙げてのバックアップの元で演奏会に対する意気込みは並々ならぬものがあった。時も時、京都で開く演奏会としては最高の舞台であった。祇園祭の宵々山コンサートであったのだから……。

PROGRAM		PROGRAM	
<エール文藝>			

1. 新月会		3. クローバークラブ	
「狂巖ミサ曲」	A. デューオーバ 作曲	男声合唱組曲「蛙」	草野心平 作詩 本田武彦 作曲
1. キリエ	指揮 小池義郎	1. 社殿高竹林の夜	指揮 高岡 健
2. グローリア		2. 黒い蛙	
3. アレグロ		3. 五匹のかえる	
4. サンクトス		4. 蛇祭り行進	
5. アニェスデイ			
2. 福門グリークラブ		4. ワグネルOB合唱団	
男声合唱組曲 カンタータ「土の歌」	大木伴夫 作詩 佐藤 真 作曲	「アメリカ民謡集」	指揮 山口健夫
1. 農夫と土	指揮 山本健二	1. Swing Nello Home	
2. 祖国の土	伴奏 森原照彦	2. I Had a Dream Dear	
3. 死の灰		3. Wait For The Wagon	
4. もぐらもち		4. Aura Lee	
5. 天地の怒り		5. Call John	
6. 地上の祈り		6. Love's Old Sweet Song	
7. 大地讃頌			
-----		5. 合同演奏	
休 息		男声合唱組曲	高野 寛久雄 作詩
		「水のいのち」より	高田 三郎 作曲
			指揮 日下部 吉彦
			伴奏 伊吹 元子

第2回東西四大学OB合唱演奏会 昭和54年7月15日 京都会館第一ホール



11月、かねてより準備していた台湾演奏旅行が実現した。松本淳氏を団長とした一行は国立台湾大学合唱団とのジョイントコンサートを行なった。クローバークラブとしては、事実上初の海外演奏旅行であった。この年現役گریークラブは中国演奏旅行を行ない、時ならぬ海外演奏旅行ブームとなった。



台湾の人達の心が伝わる、何と“手書き”ポスター。このポスターのおかげで満席の中での演奏会がもてました。

節目 PROGRAM		3. 國立台灣大學合唱團演唱	
(一) 中華民國國歌		Jeanie with The Light Brown Hair	(Foster 曲)
日本國國歌		Jamaica Farewell	(牙買加民謠)
總統蔣公紀念歌		快樂的聚會	(台灣民謠)
(二) 演唱歌曲		難忘的黃昏	(義大利民謠)
1. 彌撒曲 G長調 (讚頌聖母瑪麗亞)		櫻花	(日本民謠)
Missa Salve Regina in G major Josef Gruber 曲		Shenandoah	(美國船歌)
Kyrie			指揮者 森 孝 毅
Gloria		4. 世界民謠	
Credo		雙 春 風	(台灣民謠)
Sanctus		船 輪 地 帶	(日本名歌)
Benedictus		Die Lorelei	(西德名歌)
Aguns Dei		Sur Le Pont d'Avignon	(法國民謠)
指揮者 森 本 淳		Sailing, Sailing	(美國船歌)
2. 日本民謠		Aura Lee	(蘇格蘭民謠)
漁夫之歌 (北海道民謠)		Beautiful Dreamer	(美國民謠)
趕牛之歌 (岩手縣南部地方民謠)		Home On The Range	(英國民謠)
香戶船歌 (廣島縣民謠)		Grand Father's Clock	(英國民謠)
九州之小姑娘 (熊本地方民謠)		Love is a many splendard thing	(美國電影神曲)
五權樹搖籃歌 (熊本地方民謠)		紅 蜻 蜓	(日本名歌)
最上川船歌 (山形縣民謠)		茉莉花	(中華民國名歌)
指揮者 山 下 裕 岡			指揮者 森 本 淳
—— 休 息 10 分 ——		全體合唱	
INTERMISSION		願主賜福保護你	指揮者 森 孝 毅
		(The Lord Bless You and Leep You)	
		Ave Belm Corpus	指揮者 森 本 淳
		—— 終 止 ——	

台湾演奏会 昭和54年11月 双連教会禮拜堂(国立台湾大学合唱団とジョイント)

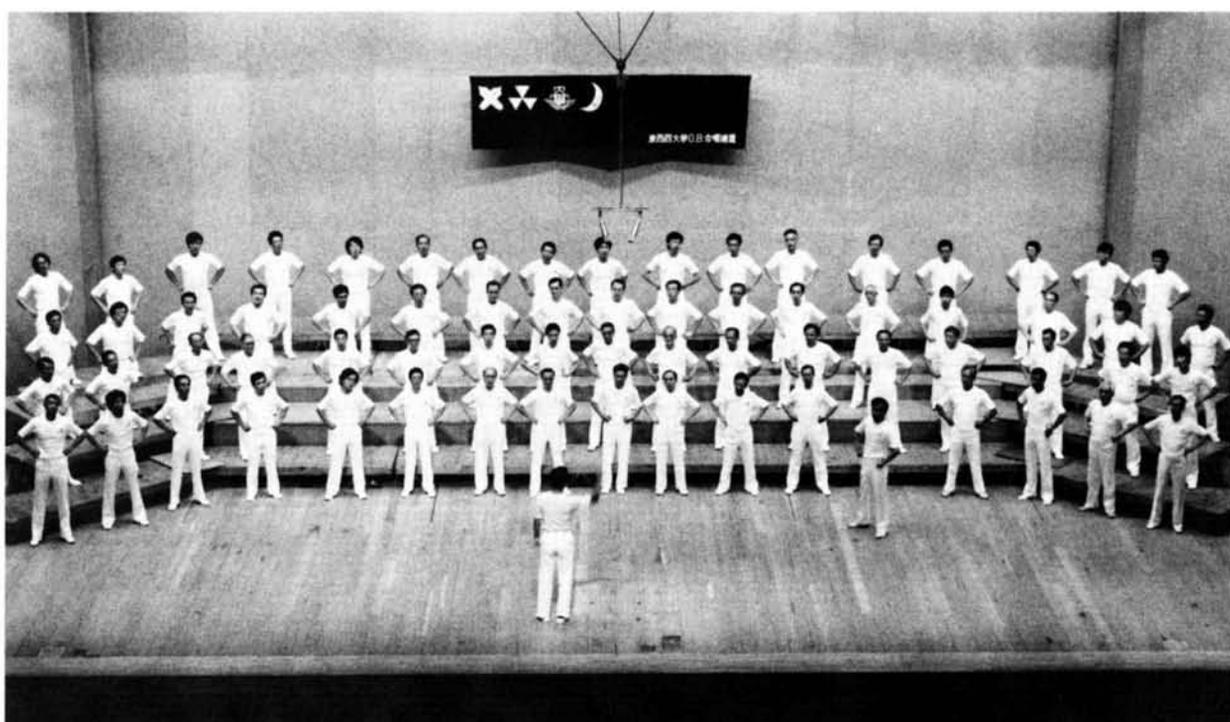
昭和56年(1981)

8月2日(日)、第3回東西四大学OB合唱演奏会が東京厚生年金会館大ホールで開かれた。

クローバークラブが選んだ曲は「Sea Shanty」。全員普段着慣れたステージコートを脱ぎ、白のスラックスに白のTシャツ姿で舞台狭しと軽い(?)ステップを刻んでは歌い、満場の喝采を浴びた。

PROGRAM	PROGRAM
<p><エール文藝></p> <hr/> <p>慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団 「シューベルト男声合唱曲集」より 1. Gott meine Zuversicht (主は我の救者なり) 2. Im Gegenwärtigen Vergangenes (過去今は) 3. Widerspruch (矛盾) 4. Nachtgesang im Walde (森の夜の歌)</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">作 曲：F. シューベルト 指 揮：木下 保 独 唱：三井 幹 夫 ピ ア ノ：藤 森 豊 彦 ホ ル ン：板 野 学 美 幸 部</p> <hr/> <p>新 月 会 男声合唱組曲「中助助の詩から」 絵 日 傘 楯 四 十 雀 ほ、じろの声 か も め ふ り 売 り 追 い 羽 根</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">作 詩：中 助 助 作 曲：多 田 武 彦 指 揮：小 池 義 郎</p> <hr/> <p style="text-align: center;">< 休 憩 ></p>	<p>クローバークラブ Sea chantyより 1. Blow the man down (やっかおれさ鬼はせ) 2. Eric canal (エリカー運河の突撃) 3. Rolling Home (ふるさとへ) 4. Sheandoah (愛するシエカンドー) 5. Sailing sailing (いさあ、船出しよう)</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">指 揮：森 本 孝 嗣</p> <hr/> <p>稲門グリークラブ Negro Spirituals 1. Deep River 2. Ride the Chariot 3. Nobody knows the Trouble I see 4. Listen to the Lambs 5. This o'l Hammer 6. Soonah Will be done</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">指 揮：森 本 孝 嗣</p> <hr/> <p>合 同 演 奏 「枯木と太陽の歌」</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">作 詩：中 田 浩 一 郎 作 曲：石 井 勉 指 揮：山 本 健 二 ピ ア ノ：金 井 紀 子</p>

第3回東西四大学OB演奏会 昭和56年8月2日 東京厚生年金会館大ホール



Tシャツ姿になるとオジサン達も5才は若く見えます。

11月22日、グリークラブOB会設立5周年記念演奏会が京都勤労会館で行なわれた。当日は、5周年記念と云う事もあり、全国各地からOB諸氏やその御家族も集まり、はなやいだ雰囲気の中にも、OB会そしてクローバークラブが着実に組織力を堅実なものとしてきた事を充分にうかがわせた。なお当夜京都ステーションホテルでOB会設立5周年記念パーティも盛大に行なわれた。

プログラム

ドイツ ミサ 作曲 シューベルト
指揮 森本 潔
全8曲
シューベルト作曲の讃美歌みたくはないもの。
しかし、肩のこるような曲ではありません。
豊かなハーモニーをお聴かせします。

男声合唱組曲「雨」 作曲 多田 武彦
指揮 山下 裕司

1. 雨の来る前
2. 武蔵野の雨
3. 雨の日の遊動円木
4. 11月にふる雨

5. 雨の日に見る
6. 雨
日本は非常に雨の多い国です。
しかし、その雨にもさまざまな情
があります。それを私達の人生
の歩みとして聞きます。

ちょっと休憩いただきます

男声合唱とピアノのためのことばあそびうたII 作詞 谷川俊太郎
同志社グリークラブが賛同 作曲 新美 徳栄
出演してくれます。 指揮 菅田 道幸
声の美しき、ハーモニーの 伴奏 長田 貴忠
良き、そして若さを十分に
お楽しみ下さい。

1. かつば
2. うとてとこ
3. たそがれ
4. さる

こちらは
平均毎年
21ヶ月前

こちらは
平均毎年
21ヶ月前

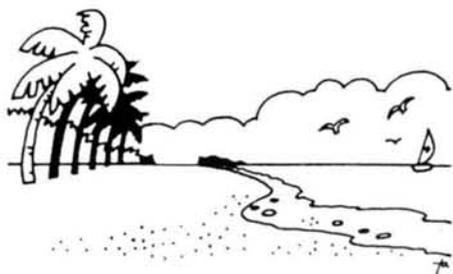
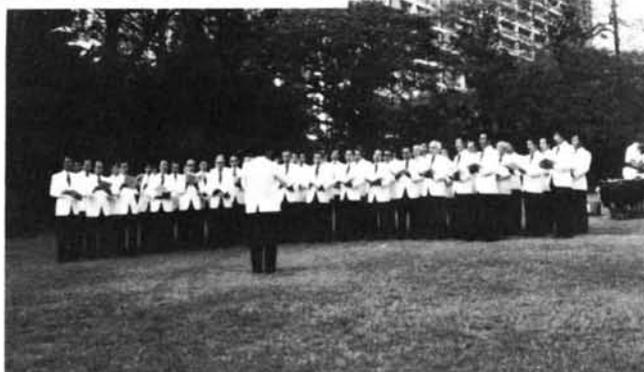
Sea chanty
ベスト5 (シエナ
あらくれ者の水夫達の気持
ヴァイタリティーとエネ

同志社グリークラブOB会5周年祝賀会

京都ステーションホテルにて

昭和58年(1983)

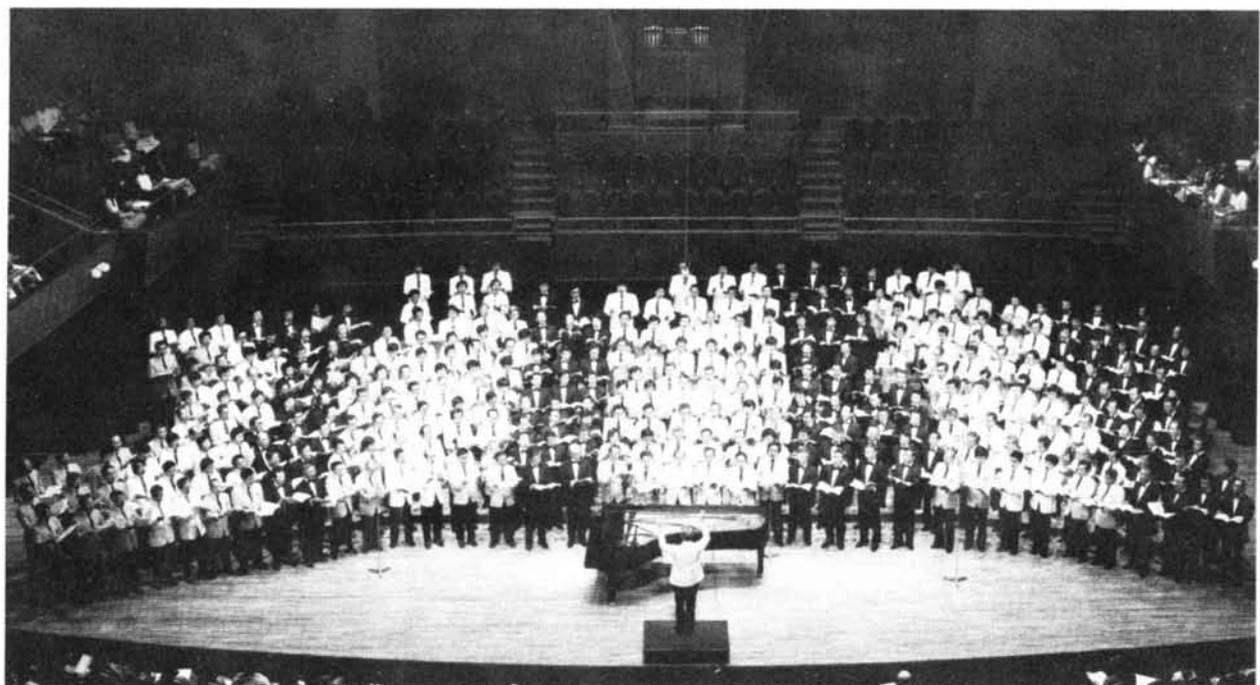
4月から5月のゴールデンウィークを利用して、クローバークラブ・ハワイ演奏旅行が実現した。



7月3日(日)、第4回東西四大学OB合唱演奏会が、新装の大阪ザ・シンフォニーホールで開かれた。日本はおろか世界の数多くの舞台上で歌ってきたクローバークラブのメンバー達も、シンフォニーホールの音響効果の良さには驚かされた。OB四連も今回で4回目を迎え幹事校も一巡した事になった。

プログラム		エール交歓		■ 種門グリークラブ	
I. ワグネルOB合唱団		指揮 藤田 敦彦		指揮 田代 隆則 伴奏 池田 梓子	
Jean Sibelius Mieskuorolauluja ジャン・シベリウス男声合唱曲集				神の墓	
Sortunut ääni (失われた声)				作詞 堀田 善雄 作曲 藤 伊勢雄 編曲 尾形謙一郎	
Finlandia Hymni (フィンランドの讃歌)				「ふるさと」	
Metsämiehen laulu (森の男の歌)				作詞 宮本 武彦 作曲 藤田 敦彦	
Sydämeni laulu (我が心の歌)				第 新 月 会	
Terve-Kuu (月よごきげんよう)				指揮 小池 隆則 伴奏 尾形謙一郎 指揮 尾形謙一郎	
Työnsä Kumpaselläki (島の火)				歌劇「TANNHÄUSER」より	
Venematka (舟の旅)				入場行進曲 冠礼の合唱 夕星の歌 牧師の歌	
				作曲 Richard Wagner 編曲 尾形謙一郎	
II. クローバークラブ		指揮 山下 明則		Intermission	
多田武彦名曲集		作曲 多田 武彦		V. 合 同 演 奏	
石室荘にて「お野ん子のあから」より		歌 藤野 心平		指揮 尾形謙一郎	
恋「ましの浜」より		歌 藤野 心平		MESSE SOLENNELLE」より	
頼どり「海にさぐる歌」より		歌 三好 謙治		作曲 Albert Dukaupas	
春を待つ「雪明りの路」より		歌 伊藤 肇		Kyrie Credo	
採唄行ぬ「おがふるまひのうた」より		歌 三好 謙治			
梅田の結れ間「朝風集」より		歌 北原 白朗			
Intermission					

第4回東西四大学OB合唱演奏会 昭和58年7月3日 ザ・シンフォニーホール



昭和59年(1984)

11月4日(日)、同志社グリークラブ創立80周年記念クローバークラブ演奏会が京都産業会館シルクホールで開催された。当日のプログラムは、グリークラブと共にステージを分け合ったが、なんとと言っても圧巻は、山田基男氏を初めとする、グリークラブ歴代の名指揮者達がステージでタクトを振った事であった。グリークラブがその時代々に最も愛唱した曲を綴り、さながらグリークラブの歴史をステージでそして歌で緋いて、聴衆や各代のOB、現役グリーンメンを魅了した。この年は、グリークラブの創立80周年の記念すべき年にあたったため、クローバークラブも今まで以上の結束力をもって、OB会ともども現役の大阪・名古屋・東京演奏会への支援活動に力を発揮した。又80周年を記念したクローバークラブの演奏会も大変な意気込みでのぞみ、大盛況、大成功のうちに終わることができ大変充実した年となったのである。これからもグリークラブと共にクローバークラブの発展はなくてはならないものである。

同志社グリークラブ創立80周年記念クローバークラブ演奏会プログラム

プログラム
グリークラブ
 I 「ロシア民族合唱曲集」より
 1. オレーク公の歌
 2. コサックの子守歌
 3. 鐘の音は華園に降り響く
 4. 増いさ
 5. カリンカ

クローバークラブ
 II レンガの「南太平洋」より
 1. Some Enchanted Evening
 2. There is nothing like a dame
 3. Younger than spring-time
 4. "Dile-moi"
 5. Happy talk
 6. Bari-Hai

同志社グリークラブ80周年のあゆみ

クローバークラブ 80年の歌集

指揮者紹介
 山田基男
 日下部 浩
 河野 敏夫
 高木 孝
 浅見 敏彦
 高橋 隆
 山下 敏司
 橋 敏彦



昭和59年11月4日 京都産業会館シルクホール

年 表

(グリー年表)

- 1903(明治36年) 当時の同志社学生は粗野蛮風を誇り、音楽等の関係人に対して圧迫を加えたが、**渡辺守成氏**(明42卒)は宗教音楽による学生の人格陶冶を高調し、讚美歌の合唱練習を始める。
- 1905(明治38年) 神学生を中心に讚美歌を歌い「クワイヤ」と呼んでいた。
- 1906(明治39年) 2月17日、東北地方飢饉救済慈善音楽会がチャペルで行なわれ、オルチン氏指揮の同志社学生30余名が「復活の歌」を大合唱し、絶賛をはくす。これが**京都における最初の洋楽音楽会**である。
- 1908(明治41年) 堀内清氏(明43卒)らが「ダヴィアクワイヤ」を組織讚美歌練習会を催す。
- 1911(明治44年)9月 片桐哲氏従来の合唱団を改革統一し、整備せる合唱団に再組織し、「同志社グリークラブ」と称す。讚美歌524番「花よりも愛でにし」がグリークラブの産声である。
- 1912(大正元年)12月 クリスマス記念音楽会
- 1913(大正2年)5月24日 全同志社演奏会
- 10月 柳島氏、川中氏らが聖歌以外のものを歌いたいという希望から「プリムローズバンド」を作る。
- 11月 同志社音楽会(同志社EVEの前身)
- 1914(大正3年) 平田氏が指揮され、めざましく前進する。
- 1915(大正4年) 名古屋に初の演奏旅行。
- 4月 女専にミリアム・クワイヤー誕生。
- 11月28日 「詩篇98」を同志社音楽会で初演。
- 1916(大正5年) 卒業式に初めて「春の調べ」を歌う。
- 4月 中学にジュニヤークリークラブが誕生。
- 11月28日 最初の「同志社EVE」がチャペルにおいて開催された。
- また、この年から「歌の夕べ」と称される**讚美礼拝**が行なわれ始めた。
- 1917(大正6年) 第1回満州・朝鮮演奏旅行。
- 11月28日 第2回同志社EVE。
- 12月1日 京都青年館において関西学生連合音楽会開催。
- 1918(大正7年)11月28日 第3回同志社EVEで、初めて混声合唱(ミリアムクワイヤー、グリー、プリムローズ、ジュニヤークリーの編成)が行なわれた。
- 1919(大正8年)7月4日~8月15日 第2回満州・朝鮮演奏旅行。
- 11月28日 第4回同志社EVE。
- 1920(大正9年) 卒業生送別音楽会
- 11月 神戸女学院で音楽会
- 11月28日 第5回同志社EVE。
- 1921(大正10年) 高知演奏旅行。
- 中学ホザナクラブ誕生
- 7月 東北・北海道演奏旅行。帰途東京霊南坂教会で歌い、これが**東京での第一声**であった。

(世相史)

- (明治35年) 第5連隊の八甲田山麓雪中行軍大惨事
日英同盟協約ロンドンで調印
- (明治36年) 東京市電 新橋一品川間で運転開始
滝廉太郎没、ライト兄弟飛行機で初めて飛び
- (明治37年) 日露戦争 ロシアに宣戦布告
三越呉服店開業
与謝野晶子詩「君死に給ふこと勿れ」発表
- (明治38年) 日本海海戦 日露の講和成立(ポーツマス条約)東北地方大凶作。夏目漱石「吾輩は猫である」発表
- (明治39年) 第1次西園寺公内閣が成立。鉄道国有法公布。サンフランシスコ大地震
島崎藤村「破戒」刊
- (明治40年) 豊田佐吉、自動織機の特許を受ける
泉鏡花「婦系図」連載
- (明治41年) 第1回ブラジル移民出発する
味の素発売される
- (明治42年) 伊藤博文/ハルピンで暗殺される
両国国技館開館
- (明治43年) わが国初の飛行機代々木で飛び
嵐山電車開通
白瀬中尉南極探險に出発、大逆事件
- (明治44年) 辛亥革命
帝国劇場開場「立川文庫」創刊
上野動物園にアフリカのカバ入園
- (明治45年)
大正元年) 中華民国成立
東海道線に特急列車が運転される
タイタニック号氷山に衝突
ジャパン・ツーリスト・ビューロー(のちの日本交通公社)創立される
東京市の人口162万人となる
- (大正3年) 第一次世界大戦起こる。東京駅開業
宝塚少女歌劇初公演、松井須磨子の力チューシャの唄評判となる
- (大正4年) 第1回全国中等学校野球大会(京都二中優勝)
三浦環ロンドンで「蝶々夫人」を歌い好評
日本楽器でハーモニカを製造
- (大正5年) インドの詩人タゴール来日する
夏目漱石逝く
「婦人公論」創刊
忍術映画「自雷也」人気を呼ぶ
- (大正6年) ロシア革命成る。活動写真流行
「主婦の友」創刊
沢田正二郎、新国劇を創立
- (大正7年) 米騒動起こる。第一次世界大戦終わる
「赤い鳥」創刊。スペイン風邪大流行
このころ中堅サラリーマンの月給30~40円
- (大正8年) ヘルサイユ条約調印
東京-大阪間に郵便飛行成功
「キネマ旬報」創刊

1922(大正11年)7月~9月 第3回朝鮮・満州・中国演奏旅行。
 11月28日 第7回同志社EVEにおいて、メンテルスゾーンの「芸術の使徒へ捧げる祝祭歌」(Festgesang an die Künstler)作品68を本邦初演した。

1923(大正12年)7月 第1回九州・台湾演奏旅行。
 森本芳雄氏指揮者となる。

1925(大正14年)1月 マンドリンクラブと共に九州演奏旅行。
 4月 東北・東海道演奏旅行。
 11月28日 第10回同志社EVEで初めて同志社混声合唱団が参加した。

1926(大正15年)7月 第4回朝鮮・満州演奏旅行。
 (昭和1年)

1927(昭和2年)3月 卒業生送別音楽会
 6月 「歌の夕べ」(第27回讚美礼拝)
 11月 同志社EVE。
 11月19日 京都混声合唱団第1回発表会(於同志社チャペル)指揮森本芳雄、太田黒養二、油谷栄、市田勇、山田基男各氏が参加。スーテルマン作曲「郊宴の歌」他。

1928(昭和3年)4月 マンドリン、ハーモニカ、プリムローズと共に上海演奏旅行。
 6月22日 「歌の夕べ」(第28回讚美礼拝)
 7月14日~8月6日 第5回満州・朝鮮演奏旅行。
 11月 この年の同志社EVEは中止された。プリムローズクラブ関西合唱コンクール優勝。

1929(昭和4年)2月5日 同志社混声合唱団(女専コーラス、グリーン、プリムローズ)80名、東京日本青年館にて演奏会。
 3月 沖縄演奏旅行。
 11月 同志社EVE。
 第31回讚美礼拝でシューベルトの「ドイツミサ」本邦初演。

1930(昭和5年)1月 送別音楽会。
 7月 第2回台湾演奏旅行。
 11月 同志社創立10周年記念音楽会。

1931(昭和6年)7月 北陸、北海道演奏旅行。
 9月 第1回立教・同志社交歓音楽会。(於東京)
 11月 同志社EVEでヘーガー作曲の「Schlafwandel」を本邦初演。

1932(昭和7年)2月15日 栄光館落成祝賀音楽会
 5月 第2回立教・同志社交歓音楽会(於栄光館)一時、同志社混声合唱団やむなく解散。
 7月 四国演奏旅行。
 11月 同志社EVE。
 12月3日 同志社宗教楽協会第1回演奏会(栄光館)賛助出演。
 12月26日 浪速少年院クリスマス祝祭。

1933(昭和8年)同志社混声合唱団(グリーン、ミリアムクワイヤ、女専コーラス)復活。

(大正9年) 東京上野公園で第一回メーター第一回国勢調査(総人口7698万余人)ベートーベンの第5交響曲本邦初演される

(大正10年) 原敬暗殺される(11月4日)

(大正11年) 日本最初の飛行機旅客輸送に成功
 アインシュタイン来日
 帝国ホテル全焼

(大正12年) ILO日本事務所設置される
 「文芸春秋」創刊。関東大震災
 「船頭小唄」流行する

(大正13年) 東宮(現天皇)ご成婚
 築地小劇場開場する。メートル法の実施。甲子園球場竣工

(大正14年) ラジオ放送開始
 米価1升1円を越える

(大正15年) 第2回国際女子競技大会(スウェーデン)で人見絹枝、走幅跳びで優勝

(昭和2年) 大西洋横断飛行成る。芥川竜之介自殺する。第1回都市対抗野球大会
 上野-浅草間に地下鉄開通。山東出兵

(昭和3年) 第1回普通選挙
 日本商工会議所設立される。アムステルダムでの第9回オリンピックで日本選手初優勝(鶴田義行 200メートル平泳ぎ 織田幹雄 三段跳)
 ラジオ体操はじまる
 野口雨情の「波浮の港」大ヒット(藤原義江 唄)

(昭和4年) ドイツの飛行船ツェッペリン1号飛来
 上越線清水トンネル開通
 犬養毅、政有会総裁に就任
 このころの給料
 男子事務員 月給20円~50円
 バスガール 日給96銭
 女工 日給50銭~70銭

(昭和5年) 金輸出解禁となる。伊豆地方大地震
 特急「燕」東海道線を走る
 (東京・大阪間8時間20分)

(昭和6年) 満州事変起こる
 大平洋無着陸横断飛行
 田河水泡の漫画「のらくろ」登場
 紙芝居「黄金バット」人気を集める

(昭和7年) 上海事変起こる。5.15事件(犬養首相暗殺)。第10回オリンピック(ロサンゼルス)三段とびに南部世界新で優勝。平泳ぎで前畑二位となる
 日本ダービー目黒馬場で創始
 チャップリン来日
 大学出初任給50円

(昭和8年) ヒトラー独首相に。日本、国際連盟を脱退。カフェー全盛期となる。
 小唄勝太郎「島の娘」大ヒット

- 2月15日 第3回歌の夕（讚美礼拝チャペル）
曲、ケルビーニ「レクイエム」他
- 3月21日 全同志社卒業式（栄光館）「春の調べ」合唱。
- 4月26日 新入部員歓迎会（出町スター）
- 4月27日 岩橋武夫氏講演会（YMCA）「主よ御許に近づかん」合唱
- 5月13日 石山舟遊会（部員親睦のため）
- 5月20日 全同志社新入生歓迎音楽会
曲、ハウプトマン「夕べの祈り」
- 6月10日 近江八幡小演奏旅行。
昼…勤労女学校及びサナトリウムにて合唱。
夜…グリーンクラブ音楽会（教育会館）
●「草木も人も」他2曲（合唱）
「夕べの祈り」「ネリーホーム」他6曲（四重唱）
- 6月14日 第3回立教・同志社交歓演奏会（立教大学）
- 6月24日 同志社宗教楽協会第2回発表会（栄光館）「メサイア」より数曲、混声にて歌う。
- 9月4日～9日 夏期練習（平安教会）
- 9月25日 合唱聯盟大音楽会（朝日会館）
- 10月6日 先輩並びに関係者歓迎会（於スター）
- 11月5日 奈良音楽会（育英高女）
「み栄ぞいと高し」他4曲（合唱）
「ローレライ」他3曲（複四重唱）
「夢の夢」他2曲（四重唱）
- 11月25日 同志社宗教楽協会第3回発表会（栄光館）混声合唱「天地創造」（ハイドン）より2曲
男声合唱「詩篇150」他2曲
（伴奏シンフォニーオーケストラ）
- 11月28～29日 同志社EVE大音楽会（栄光館）
「主に感謝せよ」
混声合唱「天地創造」より
- 12月11日 大中先生と歓談慰労会、混声合唱部員出席（於みかく）
- 12月13日 昭和9年度予算編成
- 1934(昭和9年)
- 1月18日 臨時総会（神学館）
- 2月10日 卒業生送別会（於東洋亭）
- 3月21日 卒業式（栄光館）「春の調べ」合唱
- 4月19日 新学期練習開始
- 5月2日 和田洋一音楽部長の後任に法学部教授田畑忍氏推薦
- 5月3日 新入部員歓迎会（出町スター）
- 5月14日 和田音楽部長送別会及び田畑新部長歓迎会（学生会館）
- 5月18日 宗教楽協会委員会協議の結果、グリーンは当協会を脱会。
- 5月19日 琵琶湖舟遊会（部員親睦）
- 5月24日 アーモスト館へ招待される。
- 6月25日 大中寅二氏による「オルガンによる聖楽演奏と講演会の夕べ（チャペル）
- 7月7日 30周年記念趣意書発送。

5月20日 大阪市地下鉄梅田・心斎橋間開通

6月19日 丹那トンネル貫通

8月 「東京音頭」全国に流行

10月14日 大阪中央放送局、学校放送開始
エノケン一座結成される

11月18日 東京府中競馬場開場
西条八十作詩「サーカスの唄」流行
バーナード・ショー、ブルーノ・タウト来日

12月13日 東京市中央卸売市場落成

12月24日 有楽町の日劇開場

(昭和9年)

3月16日 雲仙・瀬戸内海・霧島が国立公園となる

4月 日本初のスタイル・ブック「服装文化」が文化服装学院から出版される

6月20日 大阪・神戸間の阪神急行開通

7月9日 綾部に出発。夜、男子寮にて音楽会。
 7月10日 綾部より鳥取に至り、20日まで夏季合宿練習。
 7月14日 浦富神戸女学院キャンプ礼拝出席「詩篇98」合唱。
 8月15日 部報発行。
 8月27日 グリークラブの歌できる。
 9月15日 「グリークラブの歴史を語る会」（アーモスト館）
 10月11日 記念祝賀会（新島会館）
 10月13日 創立30周年記念音楽会（栄光館）
 「グリークラブの歌」（三輪源造作詞、大中寅二作曲）発表される。
 10月29日 学生週間音楽会出演
 曲「部歌」「幸よ悲しむは常に慰め与えられん」
 10月30日 致遠館にて展覧会開催（3日間）
 11月4日 Y M C A 歌新発表、外2曲歌う（三条青年会館）
 11月22日 関西合唱聯盟合唱音楽会、2曲歌う（大阪国民会館）
 11月28日 同志社E V E 大音楽会（栄光館）
 昼夜2回2曲づつ歌う
 大学シンフォニーと混声合唱「神の仔羊」
 11月29日 昭和9年度総会（新島会館）
 1935(昭和10年) 2月1日 第38回讃美礼拝（チャペル）
 5月28日 グリー・マントリン合同で近江八幡のサナトリウム訪問、音楽会（教育会館）
 7月16日 四国演奏旅行
 10月29日 同志社創立60周年記念音楽会（栄光館）
 「メサイア」（全曲）演奏。我国で初めて「メサイア」の全国放送がなされた。
 10月30日 「メサイア」演奏会（大阪中之島公会堂）
 11月22日 「メサイア」演奏会（和歌山公会堂）
 1936(昭和11年) 2月 第40回讃美礼拝（チャペル）
 5月2日 全同志社新入生歓迎音楽会
 「ガラリヤ懐古」(パルマー)、「今は若き子」(ベテリレッツ) 合唱
 6月20日 同志社混声合唱団第1回発表会（栄光館）
 7月 中国地方演奏旅行
 10月31日 創立61周年記念E V E 音楽会
 1937(昭和12年) 1月23日 同志社混声合唱団第2回発表会（京都朝日会館）
 6月19日 第41回讃美礼拝（同胞教会）
 6月20日 讃美礼拝（浪花教会）
 10月24日 京都放送局より放送
 曲「ラルゴ」(ヘンデル)他数曲
 10月30日 全同志社学園愛国音楽会（創立62周年イヴ音楽会のこと。時節柄改名された。）
 11月3日 明治節奉祝愛国大合唱の夕べ
 11月14日 第42回讃美礼拝（神戸教会）
 11月16日 関西合唱聯盟第8回公演愛国合唱音楽会（大阪朝日会館）

9月1日 竹久夢二 没
 9月21日 室戸台風（死者2,866人）

11月2日 ペープ・ルース来日
 12月1日 丹那トンネル開通（第1列車通過）
 この年藤原歌劇団第1回公演

(昭和10年)

9月1日 第1回芥川賞に石川達三「蒼氓」
 10月1日 第4回国勢調査、内地人口6925万人
 11月26日 日本ベングラブ創立される
 （会長 島崎藤村）

(昭和11年)

2. 26事件。阿部定事件。日独防共協定。巨人軍の初優勝。第11回オリンピック（ベルリン）田島三段跳金メダル。孫マラソン金メダル。棒高跳で西田2位、大江3位、前畑秀子 200メートル平泳ぎで金メダル。スペイン内乱 英国王シンブロン夫人と王冠をかけた恋。西安事件

(昭和12年)

文化勲章を制定
 7月7日 蘆溝橋事件、日中戦争始まる（日華事変）。日独伊防共協定成る
 日本軍南京占領
 ヘレンケラー女氏来日
 9月 文学座結成
 この年将棋名人戦はじまる（初代名人 木村義雄）キャノンカメラ、ニッカウイスキー発売。「綴方教室」がベストセラーになり映画化される

1938(昭和13年)2月18日 第43回讃美礼拝(チャペル)
 5月15日 全関西合唱連盟結成記念愛国大合唱祭
 に同志社混声合唱団として参加
 6月5日 音楽礼拝(近江八幡教会)
 10月28日 創立63周年記念音楽会
 11月27日 第9回関西合唱連盟合唱音楽会

1939(昭和14年)2月6日 第44回讃美礼拝(チャペル)
 5月6日 全同志社新入歓迎音楽会。陸軍病院で
 慰問音楽会。
 6月19日 同志社混声合唱発表会
 9月26日 青柳YMCAで合宿練習
 10月9日 グリークラブ創立35周年記念会(新島
 会館)
 11月4日 グリークラブ創立35周年記念音楽会
 (栄光館)

1940(昭和15年)2月 第45回讃美礼拝(チャペル)

1941(昭和16年) グリークラブとプリムローズクラブ合
 併。「同志社大学学友会修練団修文部
 音楽班同志社大学男声合唱団」となる。
 10月25日 上記合唱団第1回発表会(栄光館)

1942(昭和17年)7月7日 上記合唱団第2回発表会
 (朝日会館)

1943(昭和18年)6月27日 上記合唱団第3回発表会
 (栄光館)
 11月14日 学徒出陣壮行音楽会(栄光館)
 以後、活動一時途絶のやむなきに至る。

1944(昭和19年)

1945(昭和20年)10月 学園復興学生大会で、野沢盛次氏
 らが中心となり、グリークラブ復活の
 努力がなされる。

1946(昭和21年)11月3日 第1回関西合唱コンクール開
 催。同志社男声合唱団として男声の部、
 総合とも2位獲得。
 12日 正式に「同志社グリークラブ」と改名。

1947(昭和22年)4月 正式に同志社学生混声合唱団が発
 足。
 10月26日 第2回関西合唱コンクール。同志社グ
 リークラブ総合第1位獲得。
 11月 「立教グリークラブ発表演奏会」(東京
 毎日ホール)に賛助出演。
 復活「立教・同志社交歓演奏会」への
 第1歩となる。
 11月20日 読書週間記念京都学生合唱演奏会(華
 頂会館)
 11月28日 第72回同志社EVE音楽会(チャペル、
 栄光館)

1948(昭和23年)5月8日 復活第1回立教・同志社交歓
 演奏会(大阪YMCA)
 5月9日 復活第1回立教・同志社交歓演奏会
 (同志社学生館)
 6月20日 マンドリンクラブ第42回私演会に賛助
 出演(栄光館)
 10月27日 第73回同志社EVE音楽会(チャペル)
 10月28日 第73回同志社EVE音楽会(チャペル)
 11月3日 第3回関西合唱コンクール。この年よ
 り、一般の部、職場の部、学生の部と

(昭和13年) 国家総動員法成立。三菱重工、零式艦
 上戦闘機の試作に成功。ヒトラー独オ
 ーストリア併合

(昭和14年) 第二次世界大戦勃発
 双葉山69連勝でストップ
 さくらカラーフィルム発売される

(昭和15年) フランス、ドイツに降伏。紀元2,600年
 記念式典。大日本産業報告会結成され
 る
 1万円宝くじ(戦国債券)発売される

(昭和16年) 太平洋戦争始まる。戦艦大和竣工
 婦人はモンペ姿となる

(昭和17年) 日本軍シンガポール占領
 関門トンネル開通

(昭和18年) イタリア降伏。学徒出陣。ジャズレコ
 ード禁止される。法隆寺解体修理開始

(昭和19年) 学童疎開始まる。サイパン島玉砕
 連合軍パリへ突入。昭和山新山爆発

(昭和20年) ポツダム宣言受諾。終戦
 婦人参政権与えられる
 ビール1本2円に値上げ

(昭和21年) 天皇「人間宣言」。東京裁判始まる
 メーカー復活。吉田茂内閣成立
 日本国憲法公布(11月3日)
 文部省6・3・3制を発表
 NHK「素人のど自慢」はじまる

(昭和22年) 6・3制開始(新制中学校発足)
 共同募金はじまる。100万円宝くじを
 売り出す。第1回知事・市長村長選挙
 日本国憲法施行される
 社会党首班の片山内閣成立
 「鐘の鳴る丘」放送開始。インド独立
 古橋400m自由形で世界新記録
 この年「炭坑節」「星の流れに」
 「港が見える丘」「東京ブギウギ」流
 行

(昭和23年) 日米国際電話開通。ソ連引揚げ第1船
 舞鶴入港。主婦連合会結成される
 全学連結成される。東京裁判判決
 太宰治没
 ハガキ2円、封書5円
 映画入場料40円、銭湯10円に値上げ
 プロ野球初のナイター横浜ゲートバック
 球場で開かれる(巨人-中日戦)
 帝銀事件。新制高等学校発足
 この年

- 分類された。学生の部で第1位獲得。
- 11月23日 第1回全日本合唱コンクール。学生の部第2位。
- 11月28日 第73回同志社EVE
- 12月4日 大阪府・市芸術祭奨励賞授賞。
- 12月18日 感謝音楽会（華頂会館）
- 1949(昭和24)
- 4月30日 新入生歓迎音楽会（チャペル）
- 5月1日 関西合唱連盟第24回春期大合唱祭（大阪朝日会館）
- 5月29日 第2回立教・同志社交歓演奏会（東京読売ホール）
- 6月18日 マンドリンクラブ第43回私演会に賛助出演（栄光館）
- 6月25日 全京都学生コーラス祭（三高・新徳館）
- 7月8～10日 比叡山にて合宿練習。
- 9月25日 戦後グリーンクラブ初の単独発表会として45周年演奏会（栄光館）
- 10月30日 第74回同志社EVEホームカミングデー（チャペル）
- 11月3日 第4回関西合唱コンクール。学生の部第2位。
- 11月28日 第74回同志社EVE音楽会（栄光館）
- 1950(昭和25)
- 3月27日 同志社大学学生音楽会（金沢市中央公民館）
- 4月6日 同志社女子中学高校希望館竣工祝賀音楽会
- 5月15日 同志社平和週間音楽会（栄光館）
- 5月21日 第3回立教・同志社交歓演奏会（栄光館）
- 6月3日 マンドリンクラブ第44回私演会賛助出演（栄光館）
- 7月1日 同志社大学演劇研究会発表会（労働会館）
- 7月2日 京都合唱連盟第1回合唱まつり（円山音楽堂）
- 10月27日 第75回同志社EVE音楽会（栄光館）
- 10月28日 第75回同志社EVE音楽会（栄光館）
- 10月29日 第5回関西合唱コンクール。学生の部第1位。
- 11月23日 第3回全日本合唱コンクール。学生の部第1位。
- 11月 立教グリーンクラブ定期演奏会に特別出演（東京読売ホール）
- 12月14日 降誕節燭火讃美礼拝（チャペル）
- 12月22日 姫路東高校主催、同志社グリーンクラブ招待演奏会（姫路市公会堂）
- 1951(昭和26年)
- 1月28日 同志社創立75周年記念音楽会（大阪毎日会館）
- 5月25日 第4回立教・同志社交歓演奏会（日比谷公会堂）
- 7月14日 伽羅橋幼稚園後援会主催同志社グリーンクラブ演奏会（高石中学校）
- 8月23日～9月8日 東北・北海道演奏旅行

- 「異国の丘」「湯の町エレジー」
「憧れのハワイ航路」
映画「酔いどれ天使」
男性のアロハシャツ、リーゼント、
女性のロングスカート流行
- (昭和24年) 1ドル360円の為替レートを発表する
湯川秀樹ノーベル賞受賞発表
家庭裁判所発足。松川事件
第1回米価審議会を開催
ピヤホール復活、ジョッキ1杯130円
お年玉つき年賀はがき登場
NHK「とんち教室」放送開始
法隆寺金堂火災
東京芸術大学発足
下山事件
古橋広之進「フジヤマのトビウオ」と呼ばれる
毛沢東中華人民共和国の成立を宣言
この年
「銀座カンカン娘」「長崎の鐘」流行
映画「青い山脈」「哀愁」
- (昭和25年)
- 1月1日 年齢を満で数えることが始まる
- 1月7日 千円札を発行（聖徳太子）
- 1月15日 日本初の上級公務員試験実施
- 4月22日 山本富士子第1回ミス日本に
- 6月25日 朝鮮戦争始まる
- 6月26日 「チャタレイ夫人の恋人」わいせつ文書として警視庁が押収
- 7月2日 金閣寺放火で炎上
- 9月3日 ジェーン台風関西を襲う
ラザール・レヴィ来日栄光館でリサイタル
この年
「水色のワルツ」「ボタンとリボン」流行
日本映画「羅生門」「暁の脱走」
外国映画「情婦マノン」「赤い靴」
特需景気起る
アルバイトサロン大阪に登場
- (昭和26年)
- 1月 NHK第1回「紅白歌合戦」放送
- 3月 第1回アジア大会に日本参加（ニューアリー）
- 4月 マッカーサー元帥罷免。500円札登場
日本最初のLPレコード、コロムビアから発売
- 5月 児童憲章が成立
NHKラジオ体操復活
- 8月 日本交響楽団、NHK交響楽団と改称

- 10月16日 第3回奈良県高等学校連合音楽会
(奈良育英高校)
- 10月19日 慶応義塾ワグネルソサイエティ合唱団・
同志社グリーンクラブ交歓演奏会 (大阪
毎日会館)
- 10月20日 同志社グリーンクラブ第47回発表演奏会
(栄光館)
- 11月3日 第6回関西合唱コンクール。大学の部
第3位。(この年から学生の部が高校、
大学と分かれた。)
- 11月10日 同志社香里学園合併披露音楽会 (大阪
毎日会館)
- 12月16日 故森本芳雄先生追悼演奏会 (栄光館)
- 52(昭和27年)
- 1月14日 ラジオ京都にて録音
- 1月19日 卒業メンバー送別会。(京都朝日会館地
下グリル)
- 1月21日 ラジオ京都にて録音
- 1月26日 同志社グリーン音楽会 (滋賀県甲賀高校)
- 3月27日 大阪放送局(BK)より「私達の音楽」
放送。間淵孝志氏の指揮で宗教曲を10
数曲
- 4月19日 臨時総会。指揮者は間淵氏より寺本和
市氏に代る。
- 4月26日 新入生歓迎クラシックコンサートに出
演(栄光館)「誰も私の悩みを知らない」
と「カンターテ・ドミノ」の2曲
- 5月1日 慶応ワグネルと交歓パーティ(大阪堂
ビル)
- 5月2日 慶応ラリーに賛助出演(宝塚大劇場)
服部正指揮関西交響楽団の伴奏で「慶
応塾歌」と「ラブソティーKEIO」
を唱和す。
- 5月12日 関西大合唱祭(大阪朝日会館)
「カンターテ・ドミノ」、「夕月の丘」
- 5月24日 立教グリーンクラブと合同演奏会(姫路
市公会堂)
- 5月25日 第5回・立教・同志社交歓演奏会
(栄光館)
「モテット」、「牡鹿の溪水」らとニグ
ロスピリチャルを演奏。合同演奏は湯
浅永年氏指揮でドイツ・ミサ全曲
- 5月31日 同志社大学マンドリンクラブ私演会に
賛助出演(栄光館)
- 6月21日 関西学院グリーンクラブと交歓親睦会
野球交戦(御所球場)
ミーティング(明德館地下ホール)
- 6月22日 グリーンクラブ讃美礼拝(栄光館)
- 6月28日 京都大学男声合唱団との交歓会(京大
学生館)
- 7月2日 ABCより「音楽アルバム」に録音
- 7月11日~14日 合宿(西宮甲陽園神呪寺)
- 7月25日 中国・九州・四国演奏旅行に出発
豊岡演奏会(豊岡第1小学校)
- 7月26日 倉敷演奏会(倉敷青陵高校)
倉敷東中学オーケストラが賛出

- 9月 サンフランシスコ講和条約調印
(日米安全保障条約に調印)
民間航空再開。初の国産天然色映画
「カルメン故郷へ帰る」封切り
黒沢明監督の「羅生門」ベニス映画祭
でグランプリ獲得

- 11月9日 江藤俊哉カーネギーホールに出演
この年
アメリカジャズ流行
名古屋からパチンコの大流行始まる
女剣劇に人気

(昭和27年)

- 1月1日 東京の人口590万人に
- 1月29日 団伊玖磨作曲歌劇「夕鶴」初演
- 2月1日 ストレプトマイシン自由販売となる
- 3月16日 日劇ミュージックホール開場
- 4月1日 同志社香里中学校、高等学校開校
同志社オルフォイスグリーンクラブ誕生
- 4月10日 血液銀行発足
- 4月10日 NHK「君の名は」放送開始
- 4月28日 対日平和条約、日米安全保障条約発効
- 5月19日 白井義男、ボクシング世界フライ級タ
イトルマッチでマリノを破り、日本人
初の世界チャンピオンに
- 5月20日 トロリーバス東京で発足

- 6月1日 東京都の人口700万人をこえる

- 7月 全国住民登録実施
ヘルシンキの第15回オリンピックへ日
本復帰。アイゼンハワーアメリカ大統領
となる

7月27日 讚美礼拝（広島流川教会）
広島演奏会（広島女学院）
広島女学院大学聖歌隊が賛出

7月28日 高校生のための音楽会（徳山高校西校舎）
一般公開演奏会（徳山高校東校舎）

7月29日 宇部演奏会（宇部市民館）

7月30日 山口演奏会（山口大学経済学部ホール）
山口大学メンネル・コールと交歓演奏

7月31日 小倉演奏会（小倉西南女学院）
門鉄フオイエール・コールが賛出

8月1日 ラジオ九州にて録音
同志社ジョイント・コンサートに同響
マンドリン等と出演（博多電気ホール）

8月2日 長崎演奏会（長崎活水女子大学ホール）

8月3日 讚美礼拝（長崎馬町教会）

8月4日 熊本中央放送局にて放送
グリーンクラブ音楽会（患風園顯療養所）
熊本演奏会（熊本市公会堂）
九州女学院合唱団が賛出

8月5日 大分演奏会（大分市教育会館）

8月7日 松山放送局に録音
高校生のための音楽会（松山城南高校）
一般公開演奏会（松山城南高校）

8月8日 東洋紡今治工場にてサーブイス
今治演奏会（今治市日吉小学校）

8月9日 東洋紡サーブイス
所員のための音楽会（倉敷レーヨン西条工場）

8月10日 高松演奏会（高松明善高校）

9月21日 慶応ワグネル・早稲田大学グリーン・同志社グリーン・関学グリーンの交歓ミーティング（同志社地下ホール）

9月22日 第1回東西四大学合唱音楽会（栄光館）

9月23日 第1回東西四大学合唱音楽会（大阪産経会館）
「キリエ」 「牡鹿の溪水をしたい」
「ベアティ・モルトウイ」 「野バラ」
（シューベルト） 「剣と壺琴」

9月24日 オックスフォード大学チーム歓迎会に出演（アーモスト館）

10月24日 キリスト教音楽会に出演（栄光館）

11月3日 第7回関西合唱コンクール。
第2位（大阪朝日会館）

11月9日 嵐山ヘグリーンクラブ親睦遠足

11月16日 京都市内合唱祭（堀川高校）

11月20日 同志社EVE大阪音楽会（大阪産経会館）
「野はうるわし」 「牡鹿の溪水」

11月28日 第77回同志社EVE音楽会（栄光館）

～29日 「グローリア」 「牡鹿の溪水」

12月6日 定期総会（精思館）
委員選挙により 幹事長野村秀治
渉外黒川正彦 内政河上文久
先輩吉川悟一郎 庶務山県達雄
会計朝倉盛正の諸氏が任命される。

12月14日 メサイアに参加（栄光館）

8月14日 藤原歌劇団渡米初公演に出発
この年

「上海帰りのリル」 「芸者ワルツ」
「リンゴ追分」 「ベサメムーチョ」
「テネシーワルツ」 流行
外国映画
「天井桟敷の人々」 「風と共に去りぬ」 「第三の男」
日本映画
「生きる」 「西鶴一代女」
「真空地帯」 「三等重役」

12月17日 アメリカン・ハイスクール×マスベ
ジェントに出演（京都新聞ホール）

1953(昭和28年)

1月17日 グリークラブ送別音楽会（栄光館）

1月19日 アメリカン・スクール・サービス

1月31日 グリー音楽会（京都学芸大学附属中学
校）

2月11日 アーモスト大学総長コール博士歓迎会
に出演（栄光館）

3月21日 大学及び短大卒業式にサービス
（運動場）

4月9日 大学入学式サービス（運動場）

4月13日 短大入学式サービス（栄光館）

4月14日 同志社文化パレードに出演（円山音楽
堂）

4月18日 グリークラブ新入生歓迎会（精思館）

4月22日 スタンレー・ジョーンズ講演会にサー
ビス（栄光館）

4月25日 臨時総会（精思館）
副指揮者に渋谷昭彦を任命

5月3日 グリー部内対抗野球（御所球場）
東京男声合唱団演奏会を主催（栄光館）

5月5日 第28回関西大合唱祭（大阪朝日会館）
「勝ちませる君」(バレストリーナー)
「ソパリの若者の唄」

5月9日 同志社クラシック・コンサート（栄光
館）「サンクトウス」(ガベルト)
「ソパリの若者の唄」

5月12日 マリアン・アンダスン歓迎レセプシ
ョンに出演（アーモスト館）

5月15日 グリークラブ音楽会（京都米国陸軍病
院）

5月21日 京都放送局にて放送

5月29日 慶応ワグネルと交歓レセプション
（東京日本青年館ホール）

5月30日 第6回立教・同志社交歓演奏会（東京
日本青年会館）

5月31日 同志社グリー横浜演奏会（横浜国立大
学講堂）横浜国立大学グリーと交歓レ
セプション（国立大学学生ホール）

6月1日 立教・同志社交歓ミーティング
（立教大学学生ホール）

6月7日 関学グリークラブと交歓ミーティング
（関西学院ホール）

6月11日 同志社女子中高校アッセンブリーア
ワーに出演（栄光館）

6月15日 同志社グリー音楽会（京都米国陸軍病
院）

6月20日 「学園便り」に録音（ABC）

6月25日 朝鮮休戦促進大会にサービス（明德
館）

6月27日 グリー創立49周年定期演奏会（栄光館）

6月29日 グリークラブ音楽会（京都米国陸軍病
院）

6月30日 東北・北海道・演奏旅行出発

7月1日 音楽会（茨城県下妻第二高校）

2月1日 NHK、東京地区でテレビの本放送開
始

2月20日 NHKテレビ「ジェスチャー」番組開
始

2月7日 6大都市の銭湯 大人15円に

3月5日 スターリン死去

3月23日 中国からの引揚げ開始
興安丸、高砂丸、舞鶴入港

6月14日 ショスタコービッチ「森の歌」初演

7月3日 音楽会（仙台市尚綱女子学園）
 7月4日 讚美礼拝（仙台東北学院大学）
 音楽会（仙台ツツシガ丘米軍キャンプ）
 7月5日 讚美礼拝（仙台東三番町教会、二十人町教会）
 大讚美礼拝（仙台東北学院大学）
 7月6日 音楽会（岩手県一ノ関市一高）
 演奏会（一ノ関小学校）
 7月7日 音楽会（青森市明星女子学園）
 室内演奏会（青森大谷保育園大ホール）
 7月8日 音楽会（函館少年刊務所）
 演奏会（函館HBCラジオ劇場）
 7月10日 音楽会（小樽市東山中学校）
 音楽会（小樽市潮見台中学校）
 7月11日 音楽会（札幌市北星女学院）
 放送 グリー先輩西田氏指揮により札幌放送管弦楽団の伴奏、北大教授村井女史の独唱でアルト・ラブノティエを北海道全道中継す（札幌中央放送局）
 演奏会（北星女学院）
 7月12日 讚美礼拝（札幌北光教会）
 同志社グリーン、アボロ男声合唱団交歓
 演奏会（小樽市議事堂）
 7月13日 演奏会（旭川市大成小学校）
 7月14日 演奏会（夕張市労働会館）
 7月15日 音楽会（室蘭市鶴ヶ崎中学校）
 演奏会（室蘭富士製鉄知利別会館）
 7月16日 野外音楽会（洞爺湖畔）
 7月18日 音楽会（青森県大鰐小学校）
 音楽会（弘前市中央高校）
 音楽会（弘前大学附属病院看護婦学校）
 7月19日 音楽会（弘前市聖愛高校）
 讚美礼拝（弘前教会）
 7月21日 放送（仙台中央放送局）
 演奏会（仙台市公会堂）
 8月28日 合宿（琵琶湖佐波江キャンプ場）
 ~31日
 9月16日 ギテオン教会聖書授与式に出演（栄光館）
 9月19日 早、慶、同、関レセプション（東京慶応三田校舎ホール）
 9月20日 第六回東西四大学合唱音楽会（東京日本青年館）
 9月27日 同志社混声合唱団発表会に賛助出演（栄光館）
 10月14日 片山哲氏講演会に出演（栄光館）
 10月17日 ギテオン教会全国大会に出演（京都ミヤコホテル）
 10月24日 同志社県人大会に出演（明德館）
 10月28日 ラングーン国立大学ラ・ブー教授講演会に出演（栄光館）
 10月31日 同志社秋期大音楽会（栄光館）
 11月3日 第8回関西合唱コンクール大学の部 第2位
 第8回クローバークラブ一般の部第3位（大阪朝日会館）

7月18日 伊東絹子ミス・ユニバース3位に入り八頭身ブームを起こす

8月1日 公衆電話5円から10円に
 8月28日 初の民放テレビ（NTV）発足
 映画「君の名は」第3部大ヒット
 佐田啓二のプロマイドの売上躍進

- 11月21日 同志社EVE大阪音楽会（大阪産経会館）
- 11月22日 グリークラブ讃美礼拝（栄光館）
- 11月27日～28日 同志社EVE音楽会（栄光館）
- 12月5日 定期総会（精思館）
幹事長山県達雄、指揮者渋谷照彦、
渉外河上文久、内政本多省一、外政小
田泰弘、会計門田耕一、先輩橘守、
庶務下岡祥浩らが選挙さる
- 12月6日 メサイアに参加（大阪女学院）
- 12月13日 メサイアに参加（栄光館）
- 12月16日 同志社女子大学クリスマスに出演
（栄光館）
- 12月19日 同志社学生混声合唱団創立5周年記念
演奏会に出演（栄光館）

1954(昭和29年)

- 1月20日 同志社中学サービス（中学チャペル）
- 1月21日 初代シルバークリスマスコンサート
—
- 1月23日 グリークラブ送別音楽会（栄光館）
- 2月3日 テ・ポアー男声合唱団出迎え（京都駅）
- 3月8日～20日 演奏旅行の為に練習開始
- 3月19日 アメリカン・スクールにて音楽会
- 3月21日 同志社大学卒業式サービス（栄光館）
- 3月22日 山陰、山陽、九州方面演奏旅行
福知山演奏会（市公会堂）
- 3月23日 讃美礼拝（松江北堀教会）
- 3月24日 松江演奏会（松江市公会堂）
- 3月25日 小学生のための音楽会（浜田市松原小
学校講堂）
浜田演奏会（第二中学校講堂）
- 3月26日 高校生のための音楽会（防府高校講堂）
防府演奏会（防府高校講堂）
- 3月27日 下関演奏会（下関梅光女学院講堂）
- 3月28日 礼拝サービス（長府教会）
宇部演奏会（宇部市民館）
- 3月29日 八幡演奏会（八幡親和会館）
- 3月30日 直方演奏会（直方高校講堂）
- 3月31日 田川演奏会（田川西高校講堂）
- 4月1日 博多演奏会（博多電気ホール）
- 4月2日 讃美礼拝並びに音楽会（米軍博多キャン
プ）
- 4月3日 熊本演奏会（鶴屋テバート・ホール）
- 4月4日 讃美礼拝（熊本草葉教会・熊本バプテ
スト教会）
- 4月6日 井原演奏会（井原高校講堂）
福山演奏会（福山葦陽高校講堂）
- 4月7日 音楽会（倉敷紡績岡山工場）
音楽会（倉敷レーヨン岡山工場）
- 4月8日 音楽会（大日本紡績西総社工場）
- 4月9日 音楽会（大日本紡績西総社工場）
- 4月12日 同志社大学入学式サービス（栄光館）
- 4月18日 音楽会（京都米国陸軍病院）
- 4月24日 新入生歓迎音楽会に出演（栄光館）
東京コラリアーズ演奏会を主催
（栄光館）

- 11月25日 クリスチャン・ティオールのファッショ
ンショー東京会館で開く

- 12月 日本初のスーパーマーケット「紀ノ国
屋」が東京青山に開店
- 12月31日 NHK「紅白歌合戦」を日本劇場で初
の公開放送
この年
「街のサンドイッチマン」「五木の
子守歌」流行
日本映画「君の名は」「雨月物語」
「地獄門」「東京物語」
外国映画「ライムライト」「禁じら
れた遊び」「シェーン」「終着駅」

(昭和29年)

- 1月1日 50銭以下の小額貨幣廃止
- 3月1日 マリリン・モンローとジョー・ティマ
ジオが来日
- 3月1日 第5福竜丸、ビキニの水爆実験で被災
NHK大阪、名古屋テレビ局開局
- 4月7日 カラヤンN響を指揮
- 4月 第1回日本国際見本市大阪で開催
- 4月12日 NHK美容体操はじまる

5月5日 関西合唱祭に参加（大阪朝日会館）
 5月30日 音楽会（東洋レーヨン瀬田工場）
 6月6日 讃美礼拝（大阪扇町教会）
 子供のための音楽会（阪急百貨店大ホール）
 讃美礼拝（芦屋教会）
 6月25日 **創立50周年記念演奏会**（大阪産経会館）
 6月26日 **創立50周年記念演奏会**（栄光館）
 6月27日 創立50周年記念園遊会（岡崎公会堂）
 7月14日 東海道方面演奏旅行演奏会（大津滋賀会館）
 7月15日 音楽会（倉敷紡績津工場）
 7月16日 平塚演奏会（平塚農民会館）
 7月17日 静岡演奏会（静岡市公会堂）
 7月18日 讃美礼拝（静岡一番町教会）
 同志社名古屋校友会支部総会に出演（名古屋商工会議所）
 同志社デー大音楽会（名古屋金山体育館）
 7月19日 音楽会（倉敷紡績安城工場）
 音楽会（倉敷紡績木曾川工場）
 7月20日 音楽会（倉敷紡績木曾川工場）
 7月21日 神戸演奏会（神戸商工会議所）
 8月27日～30日 合宿（丹後由良同志社中学キャンプ）
 9月18日 東西四大学交歓レセプション（京都建仁寺）
東西四大学合唱演奏会（栄光館）
 9月19日 **東西四大学合唱演奏会**（大阪産経会館）
 10月6日 『ABCリサイタル』に録音放送（ABC）創立50周年記念レコード吹込（西宮マーキュリー）
 10月16日 国際ロータリークラブ全日本大会に出演（岡崎勸業会館）
 11月3日 **第9回関西合唱コンクール出場。大学の部第1位**（大阪朝日会館）
 11月6日 キリスト教音楽会に出演（栄光館）
 11月23日 **全日本合唱コンクール出場。大学の部第1位**（小倉市体育館）
 同支社校友会小倉支部主催
 グリークラブ優勝祝賀レセプション（小倉市グリラ『ワタセ』）
 11月27日～28日 同志社EVE音楽会（栄光館）
 11月29日 同志社大学2部文化祭出演（ヤサカ会館）
 12月4日 定期総会（精思館）
 12月11日 同志社学生混声合唱団第2回発表会（栄光館）
 『クリスマス音楽の夕』に出演
 12月15日 故魚木神学部長神学部葬に参加（チャペル）
 12月18日 新国民歌『我ら愛す』録音（新日本放送）NJB創立50周年記念兼全日本コンクール優勝。祝賀兼Xマスパーティー兼忘年会兼新年宴会兼卒業生送別を兼ねた大コンパ（建仁寺）

5月31日 麻薬取締法成立
 6月9日 自衛隊発足する

6月15日 皇居を一般参観者に解放

8月26日 日本刀の製造復活
 9月18日 東西四大学レセプションで慶応ワグネルメンバーの「ダーク・ダックス」、関学グリーンメンバーの「ムーングロー」両カルテット好評を博す。
 「ダーク・ダックス」プロ転向のきっかけとなる
 9月24日 第5福竜丸乗組員久保山愛吉死去
 9月26日 台風15号で洞爺丸転覆（1440人死亡）

11月3日 怪獣映画「ゴジラ」封切
 11月4日 清水楯の歌劇「修禅寺物語」初演
 11月16日 パチンコの連発式禁止となる
 12月8日 東京にヒロボン対策本部設置
 この年
 「お富さん」「オー・マイ・パパ」流行する
 伊藤整の「女性に関する12章」がベストセラーになる
 日本映画「七人の侍」「山椒大夫」
 外国映画「ローマの休日」（ハッピーバースデー）

1955(昭和30年)

- 1月21日 フェアウエルコンサート(栄光館)
 4月23日 ジョイントコンサート(栄光館)
 5月7日 関西合唱祭参加(中之島公会堂)
 5月28日 第7回立教・同志社交歓演奏会(栄光館)
 6月10日 大津演奏会(滋賀会館)
 6月19日 紫明混声合唱団発表会賛助出演(成安会館)
 7月1日 慶応・同志社文連交歓演奏会(大阪産経会館)
 7月4日~8月18日 東北、北海道演奏旅行
 8月27日~8月31日 合宿(松岡キャンプハウス)
 9月16日 富山演奏会
 9月18日 東西四大学合唱演奏会(東京日本青年館)
 9月19日 東西四大学合唱演奏会(東京日本青年館)
 11月3日 第10回関西合唱コンクール出場。学生の部第2位。クローバークラブ一般の部第1位(大阪朝日会館)
 11月6日 キリスト教音楽会出演(栄光館)
 11月23日 第8回全日本合唱コンクールにクローバークラブ出場。一般の部第1位(名古屋金山体育館)

1956(昭和31年)

- 1月19日 フェアウエルコンサート(栄光館)
 3月16日~4月6日 中国、九州方面演奏旅行
 4月28日 市主崔土曜コンサート出演
 5月21日 クローバークラブ第1回演奏会(大阪産経会館)
 5月27日 クローバークラブ第1回演奏会(京都弥栄会館)
 5月27日 関西合唱祭
 6月9日 第8回立教・同志社交歓演奏会(東京タッカーホール)
 6月23日 第52回定期演奏会
 7月20日~8月2日 南海、東海、関東方面演奏旅行
 9月15日・16日 第5回東西四大学合唱音楽会(15日、宝塚大劇場、16日、栄光館)
 10月28日 第11回関西合唱コンクール。大学の部第2位。クローバークラブ一般の部第1位
 11月14日 ウエストミンスターカレッジ・クワイアと交歓会(栄光館)
 11月23日 第9回全日本合唱コンクール。クローバークラブ一般の部第1位(東京体育館)
 11月28日 E V E 音楽祭出演
 12月4日・8日 メサイア出演
 この間数回にわたり新日本放送「レナウン歌のつどい」に出演

1957(昭和32年)

- 1月19日 フェアウエルコンサート(栄光館)
 2月23日 奈良高等学校サーブイス

(昭和30年)

- 1月 シネラマ、東京帝劇と大阪O S劇場で初公開
 2月23日 D.オイストラフ バイオリン独奏会
 4月1日 桐朋学園音楽短大開校
 4月1日 ハナ肇とクレージーキャッツ結成
 5月3日 「シンフォニー・オブ・ザ・エア」(元NBC交響楽団)来日
 6月 アルミの1円玉登場
 7月 石原慎太郎「太陽の季節」で芥川賞受賞
 8月1日 テューク・エイセス結成
 8月6日 第1回原水爆禁止世界大会(広島)開催
 8月18日 トランジスターラジオ誕生
 8月24日 森永粉ミルク中毒死事件おこる
 11月15日 自由、日本民主両党合同し、自由民主党結成
 12月17日 バントマイムのマルセル・マルソー来日
 12月21日 ウィーン少年合唱団NHKに出演
 この年
 神武景気はじまる
 マンボスボン、ボロシャツ流行
 電気釜発売
 ラッシュ・アワーに「押し屋」のアルバイト登場
 「月がとつても青いから」「しあわせの歌」「慕情」
 映画「夫婦善哉」「エデンの東」

(昭和31年)

- 2月19日 「週刊新潮」創刊(出版社による初の一般週刊誌として成功)
 3月10日 シュトゥットガルト室内オーケストラ演奏会
 4月9日 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団来日第1回演奏会(指揮バウル・ヒンデミット)
 5月9日 日本登山隊、ヒマラヤのマナスル初登頂
 5月18日 銀座で工事中に小判203枚他出る
 9月23日 日本フィルハーモニー交響楽団結成披露演奏会
 9月29日 NHKイタリア歌劇団第1回公演(指揮ヴェットリオ・グイ)
 10月11日 比叡山延暦寺大講堂焼く
 10月28日 大阪新世界の通天閣再建なる
 10月29日 スエズ動乱始まる
 11月16日 大阪に梅田コマスタジアム開場
 テレビ契約数30万突破
 12月13日 北海道で大量の人身売買手入れ
 12月18日 国連総会、日本の国連加盟案を全会一致で可決
 この年
 「哀愁列車」「ここに幸あり」

- 3月10日～30日 春季演奏旅行（山陰、九州方面）
 5月11日 新入生歓迎クラシックコンサート（栄光館）
 5月12日 関西合唱祭（栄光館）
 5月20日 クローバークラブ「男声合唱のための三つの日本民謡」（清水脩作曲）初演（大阪産経会館）
 5月25日 第2回クローバークラブ演奏会賛助出演（栄光館）
 6月16日 カリフォルニア大学グリーンクラブ演奏会賛助出演（栄光館）
 グリーンクラブ組曲「雪と花火」（多田武彦作曲）初演
 6月23日 第6回東西四大学合唱音楽会（東京日本青年館ホール）
 6月29日 第9回立教・同志社交歓演奏会（栄光館）
 7月19日～22日 グリーンクラブ合宿（淡路島）
 7月27日・28日 第5回同志社祭参加（高松・松山）
 8月7日 グリーンクラブ初めて清水脩「最上川船歌」を歌う、ユニフォームはブルーの細い網目プリントのカッターシャツだった
 8月10日 グリーンクラブ初の東京演奏会、福永陽一郎氏客演指揮で黒人霊歌を歌う
 8月7日～28日 夏季演奏旅行 東海、東北地方（浜松・静岡・東京・郡山・塩釜・仙台・一の関・盛岡・一戸・八戸・青森）
 10月7日 彦根東高校サーヴイス
 10月24日 梅花フェア出演（大阪産経会館）
 10月27日 慶応・同志社、文連交歓音楽会出演（栄光館）
 11月9日 第12回関西合唱コンクール（尼崎市文化会館）大学の部第1位。クローバークラブ一般の部第1位
 11月23日 第10回全日本合唱コンクール。大学の部第1位。クローバークラブ一般の部第1位（大阪府立体育館）
 11月24・25日 同志社EVE音楽会（栄光館）
 11月30日 同志社EVE音楽会（大阪産経会館）
 12月21日 全日本コーラス第1位招待演奏会出演（ヤサカ会館）

1958(昭和33年)

- 1月18日 フェアウエルコンサート（栄光館）
 1月23日 NHK海外放送録音
 3月11日～4月2日 春季演奏旅行
 中国、九州地方（津山・岡山・福山・尾道・防府・大分・延岡・鹿児島・熊本・佐賀・長崎・佐世保・博多・久留米・小倉・田川・下関・広島・姫路）
 4月19日 新入生歓迎音楽会（栄光館）
 5月24日 同大マンドリンクラブ演奏会賛助出演（産経会館）
 5月25日 関西大合唱祭（大阪府立体育館）
 5月31日 創立54周年定期演奏会（栄光館）

- 「若いお巡りさん」流行する
 冬季五輪に初の日の丸（猪谷回転に2位）
 日本映画「真昼の暗黒」「太陽の季節」「狂った果実」
 「太陽族」登場

(昭和32年)

- 1月13日 美空ひばりステージで少女に塩酸をかけられ3週間のヤケド
 1月22日 映画出演の学習院大生が放校処分
 3月13日 チャタレイ裁判、最高裁で訳者、発行者の罰金刑きまる
 3月26日 中山樑一「冬の旅」独唱会
 6月 テレビ受信者50万台を突破
 8月28日 ポリシヨイ劇場/バレエ団、日本初演
 10月1日 5千円札新登場
 10月4日 ソ連、人工衛星スプートニク打上げに成功
 10月31日 カラヤンとベルリンフィル来日
 11月19日 フロ代大人16円に値上げ
 12月11日 百円銀貨新登場
 12月24日 NHK FM放送開始
 この年
 「なべ底景気」
 南極観測隊「宗谷」にてオングル島に着岸（1.29）
 東海村に我国初の原子炉完成
 「ダイヤナ」「喜びも悲しみも幾年月」流行する
 家出ラッシュ
 外国映画「道」「戦場にかける橋」

(昭和33年)

- 2月8日 日劇で「ウェスタンカーニバル」開く
 3月9日 世界初の海底「関門トンネル」開通
 4月1日 売春防止法施行
 5月16日 テレビ受信契約数100万台突破
 8月1日 ビクター、初の国産ステレオレコード発売
 10月5日 栗林義信、ピオッティ国際声楽コンクールで金メダル受賞
 11月27日 皇太子殿下と正田美智子さんの婚約発表
 12月1日 1万円札発行
 12月23日 東京タワー開場

- R. Thompson 作曲「自由への契約」
邦人としての初演（指揮市島章三）
女子大音楽学科学生と共演で、J. S. Bach □短調ミサ曲より「クレド」
「パートレム、オムニポテンテム」を
歌う（指揮P. A. Getz）
- 6月7日 第10回立教・同志社交歓演奏会
（東京タッカーホール）
- 6月20日・21日 第7回東西四大学演奏会
（栄光館、大阪毎日ホール）
- 7月24日～8月13日 夏季演奏旅行
東北、北海道地方（彦根・福井・金沢・
富山・名古屋・浜松・静岡・前橋・宇
都宮・塩釜・仙台・盛岡・一の関・小
樽・札幌・函館）
- 8月19日 ハワイ大学合唱団京都公演（栄光館）
- 9月10日～14日 グリークラブ合宿
（琵琶湖畔北比良）
- 9月19日 京大男声合唱団と交歓演奏会
（ヤサカ会館）
- 9月20日 土曜コンサート（円山音楽堂）
- 9月28日 第3回クローバークラブ演奏会賛助出
演（栄光館）
- 10月27日～11月1日 読売テレビ出演
- 11月3日 第13回関西合唱コンクール（大阪朝日
会館）
- 11月28日・30日 同志社EVE音楽会（栄光館）
- 11月29日 同志社EVE音楽会（大阪産経会館）
- 12月13日 京都育英友の会音楽会（府立医大講堂）
- 1959(昭和34年)
- 1月17日 フェアウエルコンサート（栄光館）
- 2月24日 読売テレビ出演（難波府立体育館）
- 3月10日～22日 春季演奏旅行。四国・山陽・九州
（宇和島・松山・今治・広島・博多・
飯塚・下関・熊本・長崎）
- 5月31日 第11回立教・同志社交歓演奏会
（栄光館）
- 6月13日 創立55周年記念大阪特別演奏会
（大阪毎日ホール）
- 6月21日 第8回東西四大学交歓演奏会
（東京共立講堂）
- 7月25日 創立55周年記念神戸特別演奏会
（神戸国際会館）
- 7月26日～8月16日 夏季演奏旅行
東海、東北、北海道地方（彦根・武生・
金沢・富山・大垣・浜松・静岡・飯田・
前橋・仙台・盛岡・八戸・青森・倶知
安・小樽・札幌・函館）
- 9月9日～14日 合宿（小豆島）
- 11月3日 第14回関西合唱コンクール（朝日会館）
- 11月27日～29日 同志社EVE音楽会
（同志社栄光館、大阪産経会館）
- 12月12日 同志社此春寮創立20周年記念クリスマ
ス音楽会（栄光館）
- 1960(昭和35年)
- 1月16日 フェアウエルコンサート（栄光館）

この年

□カビリー旋風とフラフープ流行す
る
インスタントラーメン開発される
ゴールデンゲイトカルテット来日
「ラブミーテンダー」「オーイ中村
君」流行する
日本映画「檜山節考」
外国映画「大いなる西部」

(昭和34年)

- 1月1日 キューバ革命（カストロ政権樹立）
- 1月14日 第3次南極観測隊、1年間昭和基地に
残された。樺太犬「太郎」と「次郎」
の生存を確認
- 4月5日 ストラビンスキー来日
- 4月10日 皇太子、正田美智子さんと結婚
ミッチーブーム起こる
- 6月25日 天皇、皇后、後楽園で初のプロ野球
巨人-阪神戦ご見物
- 7月24日 児島明子 ミス・ユニバースに
- 8月11日 個人タクシー営業許可となる
- 9月12日 小沢征爾、プザンソン国際指揮者コン
クールで1位となる
- 9月15日 日本人の平均寿命男65歳、女69.6歳に
のびる
- 9月26日 伊勢湾台風で死者行方不明5,200余人
の大被害
- 11月 失業未亡人救済策として学童の交通整
理者「緑のおばさん」誕生
- この年
- 岩戸景気始まる
「黒い花びら」が第1回レコード大
賞となる
「有楽町で逢いましょう」「南国土
佐をあとにして」流行
カミナリ族登場
ソ連月の裏側撮影に成功

3月5日~20日 春季演奏旅行（中国、四国、九州地方）（綾部・豊岡・鳥取・松江・福山・三沢・呉・広島・宇部・下関・延岡・小倉・熊本・長崎）

4月30日 近江兄弟社演奏会

5月5日 医療施設「東大寺整肢園」慰問

5月6日 市民コーラスの夕べ（京都会館第二）

5月14日 ジョイントコンサート（栄光館）

5月22日 関西合唱祭（京都会館第一ホール）

6月1日 第56回定期演奏会（京都会館第一ホール）
京都会館第一ホールの一般ブルミエを新調のアイボリーユニフォーム着用の下、森本潔氏の指揮により「南太平洋」他を熱演、照明効果も相まって三千余人の聴衆を魅了する

6月11日 第12回立教・同志社交歓演奏会（文京公会堂）

6月25日~26日 第9回東西四大学合唱音楽会（京都会館第一ホール。フェスティバルホール）

6月27日 クローバークラブ定期演奏会賛助出演（大阪毎日ホール）
福永陽一郎氏を客演に迎え「南太平洋」を現役より二曲合唱を増やし、女声ヴォーカルグループ「ジョリースワンス」斎藤超とニューサンズと共にR. ロジャースの世界を大阪に出現させる。
正指揮者日下部吉彦氏は作曲者改訂版の「山に祈る」（清水脩）を指揮、ナレーター寺島真知子の見事な語りと共に満場の拍手を受ける

6月30日 神戸特別演奏会（神戸国際会館）

7月28日 大津特別演奏会（滋賀会館ホール）

7月29日~8月16日 夏季演奏旅行
東海、東北、北海道地方（四日市・名古屋・岐阜・静岡・水戸・前橋・新潟・会津若松・郡山・仙台・盛岡・函館・小樽・札幌）

9月7日~11日 琵琶湖畔北小松にて合宿

10月16日 市民コーラスの夕べ（京都会館第2ホール）

11月12日 大阪EVE音楽会（フェスティバルホール）
同志社創立85周年記念音楽会（フェスティバルホール）

11月25日 奈良県添上高校文化祭賛助出演

11月26日~27日 京都EVE音楽会（京都会館第一ホール）

12月3日 大阪特別演奏会（大阪毎日ホール）

12月8日 京都音楽家同盟主催「邦人作品の夕べ」（京都会館第二ホール）

12月16日・17日 ノートルダム女子大学と合同演奏「レクイエム」（ノートルダム女子大学）

(昭和35年)

1月5日 三池労組1214人の解雇通告返上
1月25日無期限スト突入（三池争議）

1月16日 岸首相渡米阻止のため羽田空港に全学連500人が警官隊と衝突

5月24日 チリ大地震で岩手、宮城に大津波

6月4日 ソ連国立レニングラードバレエ団初公演

6月15日 安保阻止の全学連7千人が国会突入をはかり警官隊と衝突、樺美智子死亡

7月1日 国鉄の「三等」なくなる

7月19日 池田新内閣成立。中山マサ日本初の婦人大臣に（厚生大臣）

8月29日 N響、海外演奏旅行に出発

9月10日 NHKほか8局がカラーテレビ放映開始

10月12日 浅沼社会党委員長刺される

10月16日 三浦みどり、岡村喬生ビオッティ国際音楽コンクールで金賞受賞

12月27日 閣議、国民所得倍増計画を決定
この年
ダッコちゃん大流行
インスタントラーメン・インスタントコーヒー発売
忘年会ラッシュ
「潮来笠」「黄色いサクラノボ」
「誰よりも君を愛す」「ありがたや節」流行
映画「太陽がいっぱい」「黒いオルフェ」「チャップリンの独裁者」

1961(昭和36年)

- 1月16日 フェアウェルコンサート(京都会館第一ホール)
福永陽一郎先生初めて、技術顧問として「赤とんぼ」を指揮
- 2月26日 甲賀特別演奏会(甲賀高校)
- 3月4日 奈良特別演奏会(あやめ池円形劇場)
- 3月5日~21日 春季演奏旅行。中国、九州地方(奈良・明石・相生・倉敷・福山・三次・広島・今治・延岡・大分・佐世保・博多・佐賀・長崎)
- 4月28日 同志社、関学、神戸女学院特別演奏会(大阪産経ホール)
- 5月23日 ジョイントコンサート(京都会館第一ホール)
- 5月27日 県人会主催演奏会(栄光館)
- 6月4日 第13回立教・同志社交歓演奏会(京都会館第一ホール)
- 6月17日~18日 第10回東西四大学合唱演奏会(東京文化会館)
- 6月24日 ハーバード大学グリークラブ演奏会に賛助出演(京都会館第一ホール)
- 7月1日 第57回定期演奏会(京都会館第一ホール)
- 7月29日 大津特別演奏会(滋賀会館ホール)
- 8月3日 夏季演奏旅行。東北、北海道地方
- 9月7日~13日 夏季合宿(長野県野尻湖畔野尻湖ハウス)
- 9月24日 奈良青々中学校新築記念音楽会出演
東大寺整枝園慰問
- 9月28日 同志社女子中高アッセンブリーアワーに出演(栄光館)
- 10月16日 京都市自治記念音楽会出演(京都会館第二ホール)
- 10月21日 京都青年会議所10周年記念祭出演(京都会館第一ホール)
- 11月3日 第16回関西合唱コンクール(大阪朝日会館)
- 11月11日 同志社創立86周年記念音楽会(フェスティバルホール)
- 12月16日 同志社創立86周年記念音楽会(栄光館)
- 12月3日 同志社グリークラブ特別演奏会(京都会館第一ホール)
- 12月9日 奈良特別演奏会(あやめ池円形劇場)
- 12月14日 関西六大学合唱団によるチャリティコンサート(大阪中之島公会堂)
- 12月19日 第1回同関(同志社・関西学院)グリークラブ交歓演奏会(京都会館第一ホール)

1962(昭和37年)

- 1月7日 クローバークラブ、グリークラブ合同新年会(京都国際ホテル)
- 1月16日 フェアウェルコンサート(京都会館第一ホール)
- 2月18日 ラジオ関西録音(ラジオ関西)
- 2月24日 ライオンズクラブソング録音(十字屋楽器店)

(昭和36年)

- 4月12日 ソ連宇宙船ウォストーク1号(ガガーリン少佐)地球1周飛行に成功
- 5月16日 韓国で軍事クーデター
- 6月26日 毎日マラソン出場のエチオピアのアベベ選手、大阪のカミナリ族の排気ガスに悩まされる
- 8月1日 大阪釜ヶ崎で群衆暴動、警官6千人、死者を出し、騒ぎは4日まで続く
- 9月16日 第2室戸台風近畿を襲う
- 10月15日 ヨーロッパ遠征の日紡貝塚女子バレーボールチーム帰国(24戦全勝「東洋の魔女」といわれる)
- 12月2日 第3回世界柔道選手権大会(パリ)でヘーシング優勝
- 12月7日 ニセ千円札WR券、秋田県で発見
この年
三島由紀夫作「宴のあと」のモデルと見なされた有田八郎元外相が東京地裁に提訴したことから「プライベート」が流行語となった。
レジャーブームおこる(レジャー時代の幕あけ)
都市銀行住宅ローンを開始
小児マヒ流行、ワクチン100万人分を輸入
女子学生亡国論起こる
「上を向いて歩こう」「スーダラ節」
「日曜はだめよ」流行する
日本映画「名もなく貧しく美しく」
外国映画「ウェストサイド物語」

(昭和37年)

- 1月1日 フロ代2円値上げで19円に
- 2月8日 南極昭和基地ついに閉鎖

2月27日 大阪東高校卒業音楽会（大阪東高校講堂）

3月3日 大阪特別演奏会（大阪産経会館）

3月4日～24日 春季演奏旅行（東舞鶴・西舞鶴・綾部・鳥取・福山・岡山・琴平・今治・新居浜・広島・門司・博多・佐世保・長崎・大分）

3月21日 同志社大学卒業式出席（栄光館）

4月6日 新校舎「尋真館」献堂式出席（尋真館）

4月9日 同志社大学入学式出席（栄光館）

4月20日 集団就職者激励会出演（京都会館第二ホール）

4月28日 同志社大学体育会リーダー養成会出席（光明寺）

5月3日～5日 春季合宿（大谷婦人会館）
この時からヴォイストレーナー大久保先生の指導が始まる。

5月19日 泉連主催新入生歓迎音楽会（栄光館）

5月23日 第46回京都市交響楽団定期演奏会賛助出演（京都会館第一ホール）

5月29日 同志社ジョイントコンサート（京都会館第一ホール）

6月3日 関西合唱祭（大阪朝日会館）

6月9日 第14回立教・同志社交歓演奏会（東京文京公会堂）

6月23日 第11回東西四大学合唱演奏会（京都会館第一ホール）

6月24日 第11回東西四大学合唱演奏会（大阪フェスティバルホール）

7月4日 下京PTAコーラス会賛助出演

7月11日～15日 夏季合宿（長岡光明寺）

10月28日～8月6日 夏季演奏旅行（豊岡・富山・高岡・四日市・津・名古屋・浜松）

10月4日 同志社女子高校アッセンブリー出演（栄光館）

10月16日 京都市自治記念音楽会（京都会館第二ホール）

10月18日 青年会議所主催慈善演奏会（京都会館第二ホール）

10月21日 ラジオ関西録音（枚方市開成小学校）

10月24日 国連DAY記念音楽会（京都新聞ホール）

10月27日 大阪看護学校生を励ます会出演（大阪朝日会館）

10月28日 フルブライト留学生歓迎会出演（上羽ビルホール）

11月5日 ABC放送録音（大谷ホール）

11月6日 文連交歓慶応ワグネル同志社グリーン交歓演奏会（京都会館第一ホール）

11月8日 神戸特別演奏会（神戸国際会館大ホール）

11月16日 同志社大阪EVE音楽会（大阪フェスティバルホール）

11月25日 同志社グリーンクラブ東京演奏会（東京日比谷公会堂）

5月3日 常磐線三河島駅の二重衝突事故で死亡160人、負傷325人の大惨事

6月10日 北陸本線北陸トンネル開通

7月3日 ブラハの第15回世界体操選手権大会で日本男子団体に初優勝

7月31日 台湾のコレラ騒動で、バナナ輸入禁止

8月12日 大阪の堀江謙一ヨットで93日カカリ、単独太平洋横断

9月1日 三宅島22年ぶりの大噴火

9月13日 奇形児問題でサリドマイド系睡眠薬の販売停止となる

10月10日 ファイティング原田、プロボクシング世界フライ級チャンピオンになる

10月22日 ケネディ、キューバにソ連ミサイル基地建設中と発表、海上封鎖を声明（キューバ危機）

この年
二セ千円札が大量に出回る
就職戦線は売り手市場で、求人難を反映し「青田刈り」が横行
東京都の人口1千万人突破
通信衛星によるテレビ中継成功
「思い出のサンフランシスコ」流行
「王将」「可愛いベイビー」流行する
日本映画「キューポラのある街」
外国映画「世界残酷物語」

- 12月2日 奈良特別演奏会（あやめ池円形劇場）
- 12月8日 大阪特別演奏会（関電ホール）
- 12月14日 NHK 海外向け放送録音
- 12月20日 同志社グリーンクラブ第58回定期演奏会
（京都会館第一ホール）

1963(昭和38年)

- 1月6日 O・Bとの合同新年会（京都国際ホテル）
- 3月1日 フェアウエルコンサート（京都会館第一ホール）
- 3月6日 大阪演奏会（柔道部主催）
（大阪産経ホール）
- 3月9日～25日 春季演奏旅行。山陽九州方面
（加古川・姫路・ラジオ関西録音・福
山・広島・久留米・長崎・宮崎）
- 4月8日 入学式出席（同志社栄光館）
- 4月30日 新入生歓迎演奏会（京都会館第二ホ
ール）
- 5月28日 関西TV出演
同志社ジョイントコンサート
（京都会館第二ホール）
- 5月29日～31日 強化合宿（大谷ホール）
- 6月5日 第15回立教・同志社交歓演奏会
（京都会館第一ホール）
- 6月9日 第2回同志社・関西学院交歓演奏会
（大阪フェスティバルホール）
- 6月22日～23日 第12回東西四大学交歓演奏会
（東京文化会館）
- 7月1日 クローバークラブ定期演奏会賛助出演
（大阪毎日ホール）
- 7月26日～8月11日 夏季演奏旅行。東海道、東
北、北海道方面（四日市・岐阜・浜松・
仙台・盛岡・函館・室蘭・帯広・旭川・
札幌・小樽）
- 9月10日～14日 夏季合宿（野尻湖畔）
- 9月28日 チャリティコンサート（栄光館）
- 10月3日 京都放送録音
- 10月10日 洛東高校記念祭出演（京都会館第一ホ
ール）
- 10月15日 京都自治65周年記念（京都会館第一ホ
ール）
- 11月3日 同志社グリーンクラブ第59回定期演奏会
（京都会館第一ホール）
- 11月4日 同志社グリーンクラブ第59回定期演奏会
（大阪毎日ホール）
- 11月10日 PTA音楽会賛助出演（京都会館第一
ホール）
大和郡山演奏会（郡山市役所）
- 1月16日 嶋本英夫教授の古稀記念祝賀会
（京都ホテル）
- 11月17日 福知山演奏会（福知山市民会館）
- 11月24日 同志社大学音楽祭出演（栄光館）
- 11月27日 同志社EVE大音楽祭出演（大阪フェ
スティバルホール）
- 12月7日 筑豊炭田救済クリスマスチャリティコ
ンサート（栄光館）

(昭和38年)

- 1月1日 「鉄腕アトム」の放映開始
- 2月10日 北九州市発足
- 2月28日 22年間服役の「昭和のがんくつ王」
吉田老、再審で無罪に
- 3月31日 吉展ちゃん誘拐い事件おこる

- 4月1日 果実酒の自家製造が自由となる
- 4月25日 大阪駅前に、わが国初の横断歩道橋完
成

- 9月1日 東宝ミュージカル「マイ・フェア・レ
ディ」上演
- 9月5日 東京の地下鉄京橋駅で「草加次郎」と
署名された手製の時限爆弾爆発し、乗
客10人が重軽傷
- 9月12日 松川事件14年目に全員無罪
- 9月18日 海老原博幸、プロボクシング世界フラ
イ級チャンピオンに
- 10月10日 初のアイ・バンク慶大、順天堂開業
- 10月21日 堤剛、フタバスト国際コンクールで1
位入賞
- 11月1日 ニセ札追放のため、伊藤博文の新千円
札登場
- 11月9日 国電鶴見事故で死者161人
- 11月9日 三池炭鉱の炭じん爆発で死亡458人
- 11月23日 初の日米テレビ中継で
ケネディ大統領暗殺を速報
- 12月8日 プロレスの力道山やくざに刺され死亡
この年
教科書無償措置法案成立する
「こんにちは赤ちゃん」
「おさななじみ」流行する
日本映画「天国と地獄」

1964(昭和39)

- 1月12日 クローバークラブ・グリークラブ合同
新年会(京都国際ホテル)
- 1月16日 送別演奏会(京都会館第一ホール)
- 3月7日~23日 春季演奏旅行。中国、九州地方
(姫路・福山・広島・岡山・尾道・因
島・小倉)
- 4月8日 入学式参加(栄光館)
- 4月25日 京都ライオンズクラブ総会出演
(京都会館第一ホール)
- 5月12日 同志社コーラス出演(新聞ホール)
- 5月30日 新入生歓迎演奏会(大谷ホール)
- 6月7日 第16回立教・同志社交歓演奏会
(神田共立講堂)
- 6月13日 第13回東西四大学合唱演奏会
(神戸国際会館)
グリークラブ「我が歳月」(大中恩作
曲)初演(指揮福永陽一郎)
- 6月14日 第13回東西四大学合唱演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 6月28日 京都合唱祭参加(西本願寺会館)
- 7月6日 クローバークラブ小山清茂「四つの仕
事唄」初演(指揮日下部吉彦)
- 7月17日 関西テレビ出演
- 7月20日~8月10日 夏季演奏旅行。東海、東北
地方(奈良・四日市・一宮・伊勢・静
岡・浜松・松本・長野・新潟・仙台・
福島・秋田・盛岡・函館)
- 9月7日~12日 合宿(野尻湖)
- 9月23日 京阪神教会高校生大会出演(栄光館)
- 11月2日 朝日放送出演
- 11月18日 創立60周年記念定期演奏会(大阪毎日
ホール)
- 11月23日 創立60周年記念定期演奏会(京都会館
第一ホール)
- 11月28日 同志社EVE大音楽会出演(栄光館)
- 11月29日 同志社EVE大音楽会出演(栄光館)
- 11月30日 創立60周年記念神戸演奏会(神戸国際
会館)
- 2月4日 創立60周年記念東京演奏会(東京文化
会館大ホール)
- 12月13日 創立60周年記念
グリー・クローバー合同演奏会
(栄光館)
グリー・OB園遊会(岡崎公会堂)
- 12月17日 第1回関西六大学連盟合同演奏会
(京都会館第一ホール)
- 12月18日 市民クリスマス音楽会出演(京都会館
第一ホール)

1965(昭和40年)

- 1月14日 フェアウェルコンサート
(京都会館第1ホール)
- 3月7日~18日 春季演奏旅行
(鳥取・福山・広島・下関・山口・大
牟田)
- 3月20日 卒業式出席(栄光館)

(昭和39年)

- 1月27日 タバコ肺ガン説に厚生省は対策会議開
く
- 3月24日 米ライシャワー大使少年に刺される
- 4月1日 「木島則夫モーニングショー」始まる
- 4月17日 米テルスター2号衛星で日本からフラン
スへテレビ中継に成功
- 6月16日 新潟大地震で死者25、倒壊1087戸
- 6月23日 タム建設に反対を続けていた熊本県津
江川の蜂の巣城が強制撤去で落城
- 8月20日 水キキンの東京に大雨で貯水池やっと
500万トン台に
- 10月1日 東海道新幹線開業
- 10月10日 第18回オリンピック東京大会開催
- 10月16日 ソ連フルシチョフ首相辞任
中共核実験
- 11月13日 佐世保で米原潜寄港反対デモ

この年

佐藤内閣成立
「ウナセラティ東京」「お座敷小唄」
「一晩中踊りあかそう」
「東京五輪音頭」流行
銀座にみゆき族登場
ツートンカラー車流行
コーヒー一杯70円
名神高速道路全通
海外旅行自由化

(昭和40年)

- 2月7日 米機、北ベトナムのドンホイを爆撃
ベトナム戦争エスカレート
- 3月6日 山陽特殊鋼負債500億倒産
- 3月15日 中村紘子、第7回シヨパン国際コンク
ールで4位に入賞
- 3月18日 ソ連のレオノフ飛行士、初の宇宙遊泳
に成功

- 4月6日 入学式出席（栄光館）
 4月17日 文学部自治会主催文化祭典 出演
 5月9日 県連主催・ミュージック・フェスティバル出演（京都会館第一ホール）
 5月23日 関西学院ブリーククラブとの親睦野球大会
 5月25日 文連主催・新入生歓迎演奏会（京都会館第二ホール）
 6月13日 第3回同志社・関西学院交歓演奏会（京都会館第一ホール）
 6月19日 第14回東西四大学交歓演奏会（東京文化会館大ホール）
 6月20日 第14回東西四大学交歓演奏会（東京文化会館大ホール）
 6月28日 エール大学との交歓演奏会（京都会館第一ホール）
 7月6日 -第10回記念クローバークラブ定演-クローバークラブ寺山修司詩、服部公一 曲「白いクレオン」を初演、指揮日下部吉彦、協演十川千江子、ピアノクインテット（大阪毎日ホール）
 7月29日～31日 夏季演奏旅行（浜松、静岡）
 9月9日～14日 夏季合宿（野尻湖畔）
 10月10日 中央大学創立80周年祭出演
 10月31日 第17回立教・同志社交歓演奏会（栄光館）
 11月2日 奈良県立生駒高等学校園祭出演
 11月6日 関西六大学連盟親睦レセプション（立命館大学衣笠校地）
 11月18日 第61回定期演奏会（大阪毎日ホール）
 11月25日 同志社女子中・女子高・アッセンブリー・アワー出演（栄光館）
 11月28日 同志社EVE大音楽会出演（同志社大学学館ホール）
 12月3日 第61回定期演奏会（京都会館第一ホール）
 12月8日 同志社創立90周年記念第1回（復活）メサイア演奏会（京都会館第一ホール）

1966(昭和41年)

- 1月17日 フェアウェルコンサート（京都会館第一ホール）
 3月8日～18日 春季演奏旅行（松江・出雲・博多・長崎・佐賀・熊本）
 3月20日 卒業式出席（栄光館）
 4月5日、6日 入学式出席（栄光館）
 5月1日 蜂ヶ岡中学同窓会出演（勤労会館）
 5月6日 県連ジョイントコンサート（京都会館第一ホール）
 5月7日 裏千家講演会出演（京都会館第一ホール）
 5月9日 第2回関西六大学合唱連盟合同演奏会（大阪フェスティバルホール）
 5月20日 文連合唱祭（同志社大学学館ホール）
 5月30日 梅花女子学園アッセンブリーアワー出演
 6月11日 第15回東西四大学交歓演奏会（京都会館第一ホール）

- 5月18日 ファイティング原田、ボクシング世界バンタム級チャンピオンに
 6月 東京のゴミ捨て場所「夢の島」にハエが異常発生し、江東区一帯を襲う
 6月12日 家永三郎、教科書検定を違憲として国を相手どり、民事訴訟をおこす
 7月12日 神戸の鹿島青年が小型ヨットで単身大西洋横断
 7月15日 米マリナー4号火星の写真電送に成功
 8月13日 池田勇人前首相、ガンで死亡
 9月24日 国鉄「みどりの窓口」開設
 10月21日 朝永振一郎博士ノーベル物理学賞受賞を発表
 11月1日 東海道新幹線、東京-新大阪間を3時間10分で走る
 12月25日 映画「黒い雪」製作者武智鉄二わいせつ罪で起訴される
 12月29日 山田耕祐 没
 第10回国勢調査総人口 9,828万余人となる。
 電気冷蔵庫9割に普及
 美智子妃、礼宮さまをご出産
 プロ野球ドラフト制度発足
 この年
 第10回国勢調査総人口9,828万人で世界第7位となる
 エレキギター、モンキーダンスブーム
 「夜明けの歌」「学生時代」流行する
 市川崑監督「東京オリンピック」

(昭和41年)

- 5月9日 こまどり姉妹、公演中にファンに襲われる
 5月28日 釜ヶ崎騒動

- 6月12日 第15回東西四大学交歓演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 6月17日 京都大丸職場コーラス出演
- 7月11日 クローバークラブ第11回定演-
阪田寛夫詩、大中恩作曲、落語による
合唱組曲「おとこはおとこ」初演(指
揮日下部吉彦、ソプラノ上坂京子、ピ
アノ長嶋順子)於・大阪毎日ホール
- 8月4日~8日 夏季演奏旅行(四日市・茨城・
群馬)
- 9月6日~10日 夏季合宿(野尻湖畔)
- 10月9日 グリー・クローバー合同演奏会
(栄光館)
- 10月13日 奈良育英学園創立50周年祭出演
- 10月15日 第18回立教・同志社交歓演奏会
(東京九段会館)
- 10月16日 早稲田大学コールフリユージュルとの交
歓会(東京早稲田ポウル)
- 10月30日 梅花女子学園大学祭出演(茨木校舎)
- 11月4日 梅花女子学園文化祭出演(豊中校舎)
- 11月17日 池坊短期大学同窓会出演(京都国際ホ
テル)
- 11月21日 66年度芸術祭参加のための録音
(朝日放送スタジオ)
- 11月26日 同志社女子大EVE出演(栄光館)
- 11月28日 同志社EVE大音楽会出演(学館ホー
ル)
- 12月5日 第62回定期演奏会(京都会館第一ホー
ル)
- 12月9日 第62回定期演奏会(大阪毎日ホール)
- 12月23日 第2回同志社メサイア演奏会(京都会
館第一ホール)

1967(昭和42年)

- 1月13日 フェアウェルコンサート(京都会館第
一ホール)
- 2月21日 毎日放送テレビ出演
- 3月9日 春季演奏旅行
14日 (安城・広島・四日市)
- 3月21・22日 卒業式出席(栄光館)
- 4月5日・6日 入学式出席(栄光館)
- 4月21日 藤川学園入学式出演(京都会館第二ホ
ール)
- 4月21日~24日 春季合宿(大谷ホール)
- 5月6日 関西六大学合唱演奏会(京都会館第一
ホール)
- 5月8日 文連音楽祭出演(学館ホール)
- 5月18日 県連ジョイントコンサート出演
(京都会館第一ホール)
- 6月18日 第4回同志社・関西学院交歓演奏会
(フェスティバルホール)
- 6月24日・25日 第16回東西四大学合唱演奏会
(東京文化会館)
- 7月4日 ハーバード・ラドクリフ・同志社グ
ークラブジョイントコンサート
(京都会館第一ホール)

- 6月30日 ザ・ビートルズ日本武道館で公演
- 7月1日 ハガキ7円、封書15円になる

- 8月6日 女子バレーボールでニチポー、ヤシカ
に敗れ259連勝ならず
- 8月18日 北京天安門広場で、文化大革命勝利祝
賀の紅衛兵ら100万人集会ひらく
- 9月18日 国産YS11機、東京・サンフランシス
コ間を初めて飛ぶ
- 10月17日 タバコ「パール」「みのり」販売停止
となる
- 12月9日 建国記念日を2月11日と決定
この年「いざなぎ景気」にわく
カー・クーラー、カラーテレビの3C
時代へ
ひのえうまの影響で出生数が大幅に減
る
「骨まで愛して」「バラが咲いた」
「君といつまでも」流行

(昭和42年)

- 3月4日 大鷗、柏戸ともに横綱在位33場所の新
記録。高見山外人初の関取となる
- 3月6日 4月より、スタンプ式BCGによる接
種実施きまる
- 4月10日 東京で精巧な二七五円札発見
- 7月1日 中高年のための「人材銀行」を労働省
が東、名、阪に開設

- 7月10日 クローバークラブ第12回定期演奏会
(大阪毎日ホール)
ヘーガー作品集「子供と歌おう」他
- 8月2日 池田小学校PTA音楽会出演
- 8月5日~17日 夏季演奏旅行(新居浜・高松・
松江・出雲・広島・博多)
- 9月9日~14日 夏季合宿(野尻湖ハウス)
- 9月16日 ビクターレコードレコーディング
(西宮市民会館)
- 10月3日 彦根東高校文化祭出演
- 10月19日 学内コンサート(学館ホール)
- 10月21日 芦屋高校創立5周年記念祭典出演
- 10月25日 同志社男声合唱の夕べ(大阪毎日ホー
ル)
- 11月2日 同志社女子大学邦楽部演奏会出演
(京都会館第二ホール)
- 11月3日 梅花学園祭出演
- 11月11日 同志社大学邦楽部演奏会出演
- 11月12日 京都市PTAコーラス交歓演奏会出演
(京都会館第一ホール)
- 11月12日 生野ライオンズクラブ出演
- 11月18日 朝日全日本合唱祭(新宿厚生年金会館)
- 11月24日 第63回定期演奏会(京都会館第一ホー
ル)
- 11月26日 朝日新聞社主催チャリティーコンサ
ート。全同志社・関学グリーンクラブ合同
演奏会(大阪フェスティバルホール)
- 11月27日 92nd EVE大音楽祭(学館ホール)
- 12月24日 第3回全同志社メサイヤ大演奏会
(京都会館第一ホール)

1968(昭和43年)

- 1月11日 63rd 同志社グリーンクラブ卒業生のた
めの送別演奏会(京都会館第一ホール)
- 3月4日~6日 春季演奏旅行(豊橋・札幌)
- 3月20日・21日 卒業式出席
- 4月5日・6日 入学式出席
- 5月8日 米国国務省派遣文化使節
カリフォルニア室内合唱団演奏会主催
- 5月9日 (再編) 第2回関西六大学合唱演奏会
(神戸国際会館)
- 5月15日 同志社グリーンクラブ・ミュンスター
マドリガルクワイヤー交歓演奏会
(栄光館)
- 6月19日 藤川学園海外派遣学生選抜コンテスト
出演
- 6月22日 第17回東西四大学合唱演奏会(京都会
館第一ホール)
- 6月23日 第17回東西四大学合唱演奏会(大阪フ
ェスティバルホール)
- 6月26日 奈良一条高校音楽会出演
- 7月15日 クローバークラブ第13回定期演奏会
(大阪毎日ホール)
多田武彦組曲「雨」服部公一「白いワ
レオン」再演他

- 10月31日 吉田茂元首相没、戦後初の国葬
この年 テレビ一家に一台時代倒来
グループサウンズ、ミニスカート、
サイクリング流行
ヒッピー、フーテン族出現
藤猛、世界チャンピオンとなる
美濃部亮吉、東京都初の革新知事に
当選
怪獣映画ブーム
「ブルーシャトール」「世界は二人の
ために」流行

(昭和43)

- 4月12日 東大入学式で学生が安田講堂を占拠
- 5月8日 イタイイタイ病が公害病と認定される
- 6月26日 小笠原諸島が23年ぶりに日本復帰
- 10月1日 国鉄が東京大阪の主要駅で100円以下
の切符販売をすべて自動販売機に切り
換える
- 10月17日 川端康成ノーベル文学賞を受賞
- 10月22日 国際反戦デー(21日)の新宿駅騒乱で
国電がマヒ
- 12月10日 東京府中で「3億円事件」発生
この年
全国116大学で学園紛争の嵐が吹き
荒れた。
「帰ってきたヨッパライ」「365歩
のマーチ」流行する
メキシコ・オリンピック、
霞が関ビル完成
ロバート・ケネディ暗殺される
ソビエト、チェコへ侵入し全土を占拠

- 8月3日~11日 夏季演奏旅行（和歌山・徳島・岡山・福山）
- 9月9日~14日 夏季合宿（野尻湖）
- 9月16日 同志社大学学園歌レコーディング
- 10月12日 同志社チャリティーコンサート（徳永ゼミ主催）
- 11月2日 梅花女子短期大学カレッジオーケストラ出演
- 11月3日 成安女子短期大学学園祭出演
ノートルダム女子大学学園祭出演
- 11月7日 和泉高校音楽会出演（岸和田市民会館）
- 11月11日 朝日新聞社主催チャリティーコンサート。同志社グリーンとマンドリンの夕べ（大阪フェスティバルホール）
- 11月13日 奈良、富雄中学校音楽会出演
- 11月15日 全国看護婦研究会出演（京都会館第一ホール）
- 11月24日 93rd同志社EVE大音楽祭出演（学生会館）
- 12月14日 第64回同志社グリーンクラブ定期演奏会（京都会館第一ホール）
- 12月24日 第4回全同志社メサイア大演奏会（京都会館第一ホール）
- 1969(昭和44年)
- 1月20日 クローバークラブ第7回東京演奏会（文京公会堂）
ばばこういち、奥河江正構成「おじさまたちのグループ・サウンド」他
- 5月8日 第3回関西六大学合唱演奏会（フェスティバルホール）
- 6月21日 第18回東西四大学合唱演奏会（東京文化会館）
- 6月22日 第18回東西四大学合唱演奏会（東京文化会館）
- 7月7日 クローバークラブ第14回定期演奏会
グノー「聖チェチリア荘厳ミサ」
「おじさまたちのグループ・サウンド」他（大阪毎日ホール）
- 10月21日 関西学院グリーンクラブ創立50周年記念演奏会賛助出演（大阪サンケイホール）
- 11月30日 第65回定期演奏会（栄光館）
- 12月23日 第5回全同志社メサイア演奏会（京都会館第一ホール）
- 1970(昭和45年)
- 1月26日 クローバークラブ第8回東京公演
客演佐良直美
- 5月9日 同志社グリーンクラブスプリングコンサート（学生会館ホール）
- 7月13日 クローバークラブ第15回記念定期演奏会、南英雄作曲「子供の詩」より
佐藤道雄編曲ウエスタンナンバー・メドレー他
- 7月27日 東京演奏会（虎ノ門ホール）
- 7月29日 レコーディング「山に祈る」（世田谷区民会館）若杉弘指揮
- 7月30日 甲府演奏会（山梨県民会館ホール）

ジョンソン大統領北爆全面停止を発表
ニクソンが大統領に就任
アポロ8号月周遊を終え無事帰還
国民総生産、アメリカに次いで世界第2位になる
「とめてくれるなあつかさん 背中の子」
「いちょうが泣いている 男東大どこへ行く」

(昭和44年)

- 1月18日 東大紛争で警官8,000人を導入
- 1月19日 東大安田講堂の封鎖解除
- 1月20日 東大の入学試験中止を決定
- 3月31日 「交通遺児育英会」設立
- 3月 コンピューターを使って筆跡から性格を占う、「性格判断コーナー」が渋谷と池袋に登場
- 5月1日 好景気連続43カ月目入り、(いざなぎ景気)
- 5月14日 東京新宿西口広場のフォーク集会やカンパ活動が禁止される
- 7月2日 アポロ11号月面着陸に成功
- 10月9日 カラーテレビ購入率が白黒テレビを上回る
この年大阪の市電が廃止される
学園紛争激化
「恋の季節」「黒ネコのタンゴ」流行する
パチンコ連発式復活
「oh! モーレス」

(昭和45年)

- 1月26日 北の富士と玉乃島同時に横綱となる
- 2月 「笑いのカンゾメ」流行する
- 2月11日 ボーイング747羽田に就航
- 3月15日 日本万国博（EXPO'70）大阪で開催
- 3月31日 日航機よど号赤軍派によるハイジャック事件
- 4月8日 大阪天六の地下鉄工事現場でガス爆発事故、死者75人、重軽傷229人
- 6月23日 日米安保条約自動延長
- 7月 光化学スモッグが問題となる

- 10月26日 第19回東西四大学合唱演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 10月27日 第19回東西四大学合唱演奏会
(同志社大学学生会館ホール)
- 12月10日 第66回定期演奏会 (京都会館第二ホール)
- 12月15日 広島メサイア出演 (広島市公会堂)
- 12月25日 第6回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第一ホール)

1971(昭和46年)

- 2月25日 ビクターレコーディング「雪と花火」
(真面目市民会館)
- 2月27日 送別演奏会
- 3月20日・21日 卒業式参列
- 3月26日～29日 春季合宿 (和歌山県日の岬)
- 4月4日・5日 入学式参列
- 4月6日～8日 オリエンテーション
- 4月14日 新入部員対面式
- 5月16日 京都三大学交歓演奏会 (京都会館第1ホール)
- 5月30日 京都合唱祭
- 6月20日 第5回同志社・関西学院交歓演奏会
(大阪厚生年金会館大ホール)
- 6月26日・27日 第20回東西四大学合唱演奏会
(東京文化会館大ホール)
- 8月7日～12日 九州演奏旅行 (大牟田・熊本・鹿児島)
- 9月8日～13日 夏季合宿 (野尻湖)
- 11月9日 クローバークラブ第16回定期演奏会
永六輔、いづみたく「にほんのうた」より (編曲井坂紘)「山に祈る」他
(大阪毎日ホール)
- 12月2日 同志社グリーンクラブ第67回定期演奏会
- 12月11日 広島メサイア演奏会(広島市公会堂)
- 12月24日 第7回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第一ホール)

1972(昭和47年)

- 2月16日 第67回同志社グリーンクラブ卒業生のための送別演奏会(京都会館第二ホール)
- 3月28日～4月1日 春季合宿 (服部緑地ユースホステル)
- 4月4日～5日 入学式参列 (栄光館)
- 5月13日 関西五大学交歓演奏会 (吹田市民会館大ホール)
- 5月28日 第9回京都合唱祭 (京都会館第一ホール)
- 7月1日 第21回東西四大学合唱演奏会 (京都会館第一ホール)
- 7月2日 第21回東西四大学合唱演奏会 (大阪フェスティバルホール)
- 7月22日 毎日放送のラジオ番組出演
- 8月5日～18日 夏季演奏旅行 (彦根・名古屋・新潟・十日町・前橋・福島・札幌)
- 9月7日～13日 夏季合宿 (服部緑地ユースホステル)
- 10月15日 第6回チャリティーコンサート

- 8月1日 車の排気ガス規制が全国でスタート
- 11月25日 三島由紀夫、陸上自衛隊で切腹
この年70年安保闘争
流行語
①ハヤシもあるでよー
②アツと驚くタメゴロー
③やっただぜセニョール
「夢は夜ひらく」流行する

(昭和46年)

- 2月22日 成田空港建設地第一次代執行始まり、
反対同盟の農民ら地下ごうで抵抗
- 5月14日 横綱大鵬引退
- 6月17日 沖縄返還協定調印
- 7月26日 アポロ15号打上げ (月面車を使用)
- 8月15日 ニクソンショック 28日円が変動相場
制に移行
この年大阪に光化学スモッグ初の注意報
「知床旅情」「私の城下町」
「よこはまたそがれ」流行する
イザヤ・ベンダサン「日本人とユダヤ人」高野悦子「二十歳の原点」

(昭和47年)

- 1月24日 グアム島で元日本兵、横井庄一さん28年ぶりに発見される
- 2月1日 郵便はがき10円に値上げ
- 2月 札幌冬期五輪でジャネットリンが人気者になる
- 2月19日 浅間山荘で連合赤軍事件起きる
- 2月21日 ニクソン米大統領中国訪問
- 3月15日 山陽新幹線開通 (新大阪-岡山)
- 3月26日 奈良・明日香村の高松塚古墳から極彩色の壁画発見
- 5月13日 大阪の千日前アパート火災で118人死亡
- 5月30日 日本人ゲリラ3人がイスラエルのテルアビブ国際空港で自動小銃を乱射、26人死亡
- 8月 ミュンヘンオリンピック開会
- 9月25日 田中首相訪中、日中国交正常化で合意
田中内閣の列島改造論による土地ブーム

- (徳永ゼミ主催・京都勤労会館)
- 10月16日 田中サトルと同志社グリーンクラブの夕べ(学生会館ホール)
- 10月22日 同志社中学校学園祭出演(栄光館)
- 10月28日 ノートルダム女子大学学園祭出演
- 10月5日 奈良県立商業高校学園祭出演
- 11月14日 クローバークラブ第17回定期演奏会
シューベルト、ト長調ミサ曲、高田三郎「水のいのち」他(大阪毎日ホール)
- 11月15日 同志社女子大学音楽学科第4回演奏会出演(栄光館)
- 12月10日 同志社グリーンクラブ第68回定期演奏会
- 12月16日 広島メサイア演奏会(広島市公会堂)
- 12月25日 第8回全同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)

1973(昭和48年)

- 2月14日 第68回同志社グリーンクラブ
卒業生のためのフェアウェルコンサート(京都会館第二ホール)
- 3月20日~21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月25日 第4回世界大学合唱祭正式招待状届く(リンカーンセンターより)
- 3月26日~29日 春季学宿(服部緑地ユースホステル)
- 4月4日~5日 同志社大学入学式参列(栄光館)
- 5月27日 第10回京都合唱祭(京都会館第一ホール)
- 6月14日 朝日放送のラジオ番組出演
「フレッシュ9時半!キタ・タローです」
- 6月23日~24日 第22回東西四大学合唱演奏会(東京文化会館大ホール)
- 7月12・13・15・16日 大阪フィルハーモニーオーケストラ「海の交響曲」出演
12・13日(大阪フェスティバルホール)
15日(神戸国際会館大ホール)
16日(京都会館第一ホール)
- 8月4日~12日 夏季演奏旅行
(福山・米子・岡山・下関・高知)
- 9月9日~13日 夏季合宿(野尻湖ハウス)
- 10月19日 相愛女子大学合唱部第4回定期演奏会(大阪厚生年金会館中ホール)
- 11月2日 大和川高校演奏会(大和川高校体育館)
- 11月12日 第18回クローバークラブ定期演奏会(毎日ホール)
- 11月13日 同志社大学文連部外連合同フェスティバル(同志社大学学生会館ホール)
- 11月18日 第21回京都市PTAコーラス交歓演奏会(京都会館第一ホール)
- 12月10日 第69回定期演奏会(京都会館第一ホール)
- 12月14日 広島メサイア演奏会(広島市公会堂)
- 12月16日 神戸女学院メサイア演奏会(西宮市民会館)
- 12月25日 第9回同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)

- 11月5日 上野動物園でパンダ初公開
この年国連の調査で「東京の物価高は世界一」と発表
有吉佐和子「恍惚の人」140万部売れる
「隠采」「瀬戸の花嫁」流行する
ボウリングブーム

(昭和48年)

- 1月27日 ベトナムと和平協定調印
- 3月20日 水俣病訴訟原告勝訴判決下る
- 5月14日 アメリカ初の宇宙実験室スカイラブ打上げ
- 6月10日 東京銀座に歩行者天国スタート
- 8月8日 金大中氏誘拐事件
- 10月 オイルショック・トイレットペーパー騒動ひろがる
- 11月14日 関門橋開通
この年
ウォーターゲート事件
狂乱物価、石油危機対策始まる
「せまい日本、そんなに急いでどこへ行く」
公衆浴場入浴料48円
江崎玲於奈博士ノーベル物理学賞を受賞
「そして神戸」「神田川」流行する
競馬でハイセイコー大人気
小松左京「日本沈没」

1974(昭和49年)

- 3月2日 第69回卒業生の為のフェアウェルパーティー (ツーリスト・グリル)
- 3月13日~17日 渡米強化合宿(滋賀県青年の城)
- 3月20・21日 卒業式参列(栄光館)
- 3月30日 渡米壮行演奏会(京都会館第二ホール)
- 4月1日 朝日放送ラジオ公開録音出演(大阪厚生年金大ホール)
- 4月5・6日 入学式参列(栄光館)
- 4月10日 朝日放送「プラスα」出演
- 4月17日~5月16日 第4回世界大学合唱祭参加の為渡米 帰国
- 5月24日 大阪教会100周年記念演奏会
- 5月26日 第11回京都合唱祭(京都会館第一ホール)
- 6月16日 第23回東西四大学合唱演奏会(大阪フェスティバルホール)
- 6月17日 第23回東西四大学合唱演奏会(京都会館第一ホール)
- 7月3日 名古屋演奏会(名古屋市民会館中ホール)
- 9月10日~15日 夏季合宿(信州・野尻湖)
- 10月9日 淡交会出演(京都会館第二ホール)
- 10月11日 朝日放送公開放送出演(ABCホール)
- 11月1日 第1回関西六大学合唱演奏会(大阪厚生年金大ホール)
- 11月7日 日野高校演奏会
- 12月6日 第70回定期演奏会(京都会館第一ホール)
- 12月14日 広島メサイア(広島市公会堂)
- 12月25日 第10回全同志社メサイア(京都会館第一ホール)

1975(昭和50年)

- 2月12日 「草野心平の詩から」レコーディング(真面目市民会館)
- 2月12日 関西テレビ「娘をよろしく」録画
- 2月13日 第70回卒業生のためのフェアウェルコンサート(京都会館第二ホール)
- 3月24~29日 春季合宿(皇子山ユースホテル)
- 4月19日 大阪ライオンズクラブチャーターズ・ナイト出演(大阪コクサイホテル)
- 4月22日 同立スプリングコンサート(京都文化芸術会館)
- 5月10日 関西六大学公開練習(豊中市民会館)
- 5月25日 第12回京都合唱祭(京都会館第一ホール)
- 6月3日 同志社県連フェスティバル(京都会館第一ホール)
- 6月17日 第6回同志社・関西学院交歓演奏会(大阪厚生年金会館大ホール)
- 6月21日 第24回東西四大学合唱演奏会(東京厚生年金会館大ホール)
- 7月26日 道頓堀ガーデンロード開通記念 キャンドルコーラス出演
- 8月3日~8日 夏季演奏旅行(新潟・十日町・札幌)

(昭和49年)

- 1月22日 東京のタクシー料金3割値上げで中型220円になる
- 2月27日 ルパン島で小野田元少尉を発見
- 7月 怪奇映画「エクソシスト」大人気となる
- 8月30日 三菱重工本社爆破事件
- 10月14日 巨人の長島茂雄選手が引退
- 10月8日 佐藤前首相ノーベル平和賞受賞
- 11月18日 フォード大統領来日
- 11月26日 田中角栄首相が引退表明
田中内閣総辞職
この年
韓国の朴大統領を撃たれ大統領夫人死亡
「襟裳岬」「田に捧げるバラード」
流行する ビアノ普及率1割を超える

(昭和50年)

- 4月30日 サイゴン陥落30年にわたるインドシナ戦争に幕
- 5月7日 イギリスのエリザベス女王夫妻来日
- 6月19日 国際婦人年会議開催
- 7月17日 ソ連のソユーズ19号とアポロガランデブー飛行に成功
- 7月19日 沖縄海洋博開く
- 8月28日 興人倒産

- 9月8日~13日 夏季合宿(長野県学生会館)
 9月25日 蒲生中学演奏会
 10月1日~2日 同志社歌集レコーディング
 (シルクホール)
 10月28日 第2回関西六大学合唱演奏会(大阪厚生年金会館大ホール)
 11月2日 大阪府立盲学校文化祭出演
 11月16日 加古川演奏会
 12月1日 同志社グリーンクラブ第71回定期演奏会
 (京都会館第一ホール)
 12月5日 同志社グリーンクラブ第71回定期演奏会
 (大阪毎日ホール)
 12月9日 神戸女学院メサイア演奏会(神戸国際会館ホール)
 12月13日 広島メサイア演奏会(広島市公会堂)
 12月25日 第11回全同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)

1976(昭和51年)

- 1月18日 ヘルシンキ大学男声合唱団交歓会
 (アーモスト館)
 2月18日 同志社グリーンクラブ第71回卒業生のためのフェアウェル・コンサート
 (京都会館第二ホール)
 3月7日 片桐哲名誉顧問米寿記念パーティー
 (京都国際ホテル)
 3月10・11日 グリーンクラブアルバム レコーディング(高槻市民会館)
 3月20・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
 3月23~27日 春季合宿(皇子山ユースホステル)
 4月5・6日 同志社大学入学式参列(栄光館)
 5月14日 川島織物新入社員オリエンテーション
 出演(シルクホール)
 5月20日 同志社大学文連フェスティバル
 (同志社大学学生会館ホール)
 5月30日 第13回京都合唱祭(京都会館第一ホール)
 6月4日 同志社県人会連合フェスティバル
 (京都会館第一ホール)
 6月20日 第25回東西四大学合唱演奏会(大阪フェスティバルホール)
 6月21日 第25回東西四大学合唱演奏会(京都会館第二ホール)
 6月28日 同志社ロータリアンの集い出演
 (京都ブランドホテル)
 6月30日 第19回立教・同志社交歓演奏会
 (東京文教公会堂)
 7月31日~8月4日 夏季演奏旅行
 (出雲・米子・鳥取)
 9月9日~14日 夏季合宿(信州・野尻湖)
 9月23日 京都西北・紫野R. C. 認証状伝達式祝賀パーティー出演(京都ホテル)
 10月16日 福永先生に感謝する会(京都ブランドホテル)
 10月17日 同志社グリーンクラブOB会設立総会
 (京都産業会館)
 10月19日 第3回関西六大学合唱演奏会(大阪フ

- 12月10日 3億円事件時効成立
 この年
 企業倒産1万2606件・1兆9146億
 4500万円で49年と2年続きの戦後最
 高 高校進学率9割を超える
 紅茶キノコブーム
 「シクラメンのかほり」流行する
 外国映画「エマニエル夫人」

(昭和51年)

- 1月8日 中国の周恩来首相死去
 1月31日 鹿児島市立病院で五つ子誕生
 2月4日 ロッキード事件発覚
 2月6日 ロッキード社コーチャン副社長、工作
 資金を政府高官に流したと証言
 7月20日 米国のパイキング1号火星に軟着陸成
 功
 7月27日 東京地検、ロッキード事件で田中角栄
 前首相を逮捕
 9月6日 ベレンコ・ソ連空軍中尉函館空港へ強
 行着陸、29日アメリカへ亡命(ミグ25
 事件)
 9月9日 中国の毛沢東主席死去
 10月22日 中国で華首席就任し、江青女史ら4人
 組摘発される
 この年
 植村直己さん北極圏単独犬ぞり旅行
 成功
 藤原義江 没
 雑誌の表紙やグラビアで、アグネス・
 ラムが人気者となる
 「北の宿から」「おかげたいやきく
 ん」流行する

エスティバルホール)

12月14日 同志社グリーンクラブ第72回定期演奏会
(京都会館第一ホール)

12月17日 広島メサイア演奏会 (広島市公会堂)

12月20日 日本ライトハウス第1回チャリティー
ショー同志社・関学グリーンクラブ演奏
会 (大阪毎日ホール)

12月25日 第12回全同志社メサイア演奏会
(京都会館第一ホール)

1977(昭和52年)

2月15日 同志社グリーンクラブ第72回卒業生のた
めのフェアウェルコンサート (京都会
館第二ホール)

2月18日 四条綴高等学校演奏会 (四条綴高校)

3月22・23日 同志社大学卒業式参列
(栄光館)

3月25~29日 春季合宿(皇子山ユースホテル)

4月2日 朝日放送テレビ「土曜の朝に」出演
(朝日放送テレビスタジオ)

4月5・6日 同志社大学入学式参列 (栄光館)

4月18日 関西テレビ「奥様リビング」出演
(関西テレビスタジオ)

4月29日 関西六大学合唱連盟運動会 (大阪城公
園)

5月21日 毎日放送「八木治郎ショー」出演
(毎日放送千里丘スタジオ)

5月29日 第14回京都合唱祭 (京都会館第一ホー
ル)

6月19日 第7回同志社・関西学院交歓演奏会
(大阪フェスティバルホール)

6月25日 第26回東西四大学合唱演奏会 (東京
文化会館)

6月26日 第26回東西四大学合唱演奏会 (新宿厚
生年金会館)

6月26日 「夕やけの歌」レコーディングー東芝
EMIー (東芝EMIスタジオ)

7月1日 千宗室氏勲章受賞祝賀パーティー出演
(京都ホテル)

7月23日 毎日放送「オーケストラがやって来た」
出演 (京都会館第一ホール)

8月3日 立教大学グリーンクラブ大阪公演賛助出
演 (大阪厚生年金会館中ホール)

8月8~11日 夏季演奏旅行 (静岡・高崎)

9月4日 NHK近畿'77「歌だ若さだにしひがし」
録画 (大阪NHKスタジオ)

9月9~14日 夏季合宿 (信州・野尻湖)

9月21・22日 グリーンクラブ アルバムPart II
レコーディングー東芝EMIー
(大津市民会館)

10月3日 丸勝株式会社創業50周年記念パーティ
ー出演 (都ホテル)

10月9日 丸勝株式会社創業50周年記念パーティ
ー出演 (京都ロイヤルホテル)

10月22日 京都教育大学附属小学校演奏会 (附属
小学校)

(昭和52年)

3月1日 米、ソガ200カイリ漁業専管水域実
施、200カイリ時代に入る

5月6日 新東京国際空港公団が、反対派の鉄塔
2基を抜き打ち撤去、8日反対同盟が
抗議集会、機動隊と衝突

6月15日 和歌山県有田市で集団コレラ発生

8月7日 北海道洞爺湖畔の有珠山、32年ぶりに
大噴火

9月28日 日本赤軍ボンベイ上空で日航機をハイ
ジャック、10月2日ダッカで身代金と
釈放犯受け取る (政府の「超法規的措
置」)

10月13日 西ドイツ・ルフトハンザ機、南仏上空
でハイジャック、18日西ドイツの特殊
部隊による救出強行により、人質解放
される

- 10月25日 「ウィンナー ワルツの夕べ」出演
(大阪フェスティバルホール)
- 10月26日 高島高等学校演奏会(滋賀県高島高校)
- 10月28日 京都芸術短期大学ファッションショー
出演(京都教育文化センター)
- 11月3日 第4回関西六大学合唱演奏会(大阪フ
ェスティバルホール)
- 11月7日 加古川演奏会
- 12月10日 同志社グリークラブ・クローバークラ
ブジョイントコンサート(大阪毎日ホ
ール)
- 12月14日 同志社グリークラブ第73回定期演奏会
(京都会館第一ホール)
- 12月18日 姫路クリスマスコンサート
- 12月24日 第13回同志社メサイア(京都会館第一
ホール)

1978(昭和53年)

- 2月14日 第73回卒業生のためのフェアウェルコ
ンサート(京都会館第二ホール)
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月23日 ウィスコンシン州立大学演奏会賛助出
演(同志社学生会館ホール)
- 3月25~29日 春季合宿(大津ユースホテル)
- 4月5・6日 同志社大学入学式参列(栄光館)
- 4月19日 関西テレビ「ミュージックフェア」出
演(大阪厚生年金会館大ホール)
- 4月21日 関西テレビ「奥様リビング」出演
(関西テレビスタジオ)
- 5月21日 京都合唱祭(京都会館第一ホール)
- 6月6日 県人会連合主催・ミュージックフェス
ティバル(京都会館第二ホール)
- 6月23日 朝日放送テレビ「プラスα」出演
(朝日放送テレビ第二スタジオ)
- 6月25日 第27回東西四大学合唱演奏会(大阪フ
ェスティバルホール)
- 8月1~4日 夏季演奏旅行(広島・高知)
- 9月1~6日 夏季合宿(信州・野尻湖)
- 10月29日 和泉市青葉台自治会招待演奏会(緑ヶ
丘小学校)
- 10月30日 「LPG美津濃クラシックゴルフ」パ
ーティー出演(千里阪急ホテル)
- 11月3日 第5回関西六大学合唱演奏会(大阪フ
ェスティバルホール)
- 11月17日 朝日放送ラジオ「フレッシュ9時半/
キタ・タローです」出演
(朝日放送スタジオ)
- 11月25日 同志社大学校友会愛知支部結成式
- 12月14日 同志社グリークラブ・クローバークラ
ブジョイントコンサート(大阪毎日ホ
ール)
- 12月16日 中国学術団交流会参列(新島会館)
- 12月20日 第74回定期演奏会(京都会館第一ホー
ル)
- 12月25日 第14回全同志社メサイア演奏会(京都
会館第一ホール)

- 12月31日 カンボジアがベトナムと断交
この年

戦後生まれ人口が半数以上となる
王貞治選手が通算756本塁打記録
を達成、国民栄誉賞第1号受賞
画家池田満寿夫が「エーゲ海に捧ぐ」
で第77回芥川賞を受賞
「ウォンテッド」「渚のシンドバッド」
のピンクレディー旋風おこる
日本映画「八甲田山」演歌「津軽海
峡冬景色」流行する
森村誠一「人間の証明」
エルビス・プレスリー、ピング・フ
ロスピーー死去

(昭和53年)

- 1月14日 伊豆大島近海でマグニチュード7.0の
大地震、死者25人を出す
- 4月12日 中国漁船、尖閣列島を侵犯
- 4月30日 植村直己、北極点に到達(単独で世界
初)
- 5月20日 新東京国際空港(成田空港)開港
- 6月12日 宮城県沖でマグニチュード7.4の大地
震、死者28人を出す
- 6月28日 ベトナム軍カンボジア領内に侵入
- 7月24日 円急騰、東京外為市場で初の200円
突破、終値は1ドル=199円10銭
- 7月25日 初の体外受精児・ルイーズちゃんイギ
リスで誕生
- 8月12日 日中平和友好条約調印
- 8月30日 巨人軍の王選手通算本塁打800号を
達成
- 10月18日 円高騰、東京外為市場で1ドル=181円
85銭、31日さらに急騰して175円50銭に
- 10月10日 本州四国連絡橋、児島一坂出ルートの
建設着工
- 11月21日 巨人、江川卓と契約、抜けがけが問題
となる
- 11月 第1回東京国際女子マラソン開催
- 11月20日 南米の人植地で、米の新興宗教「人民
寺院」の信者900余人の集団自殺判
明
この年
自然食品ブーム
持帰り弁当店登場
「UFO」「インベーダーゲーム」
流行する
古賀政男 没

1979(昭和54年)

- 1月8日 戸塚フランス刺繍協会新年パーティー
出演(新阪急ホテル)
- 2月14日 第74回卒業生のためのフェアウェルコ
ンサート(京都大谷ホール)
- 3月21日 同志社大学準硬式野球部創立30周年記
念式典出演(都ホテル)
- 3月23日~28日 春季合宿(和邇浜青年会館)
- 3月29日~30日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 4月22日 梅花女子大学合唱団と合ハイ(京都府
立植物園)
- 4月30日 京都女子大学女声合唱団と合ハイ
(京都府立植物園)
- 5月3日 関西六大学合唱連盟運動会(阪部緑地
公園)
- 5月13日 日中友好青年の船京都来訪歓迎会出演
(京都二条城)
- 5月14日 関西テレビ「奥様リビング」出演
(関西テレビスタジオ)
- 5月27日 第16回京都合唱祭(京都会館第一ホー
ル)
- 5月30日 第8回同志社・関西学院交歓演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 6月5日 朝日放送テレビ「たいむ6」録画撮り
(京都鴨沂会館)
- 6月13日 同志社ミュージックフェスティバル
(京都会館第二ホール)
- 6月20日 鈴屋創立70周年記念式典出演(大阪帝
人ホール)
- 6月24日 第28回東西四大学合唱演奏会(東京文
化会館)
- 6月25日 第28回東西四大学合唱演奏会(新宿文
化センター)
- 6月30日 第20回立教・同志社交歓演奏会
(京都大谷ホール)
- 7月4日 朝日放送ラジオ「フレッシュ9時半/
キダ・タローです」出演(朝日放送ス
タジオ)
- 7月13日 NHKテレビ「ニュースワイド640」
出演(NHK京都スタジオ)
- 7月14日 朝日放送テレビ「土曜の朝に」出演
(朝日放送テレビスタジオ)
- 7月15日 第2回東西四大学OB合唱演奏会
(京都会館第一ホール)
- 7月18日 中国演奏旅行プログラム披露会(同志
社学生会館ホール)
- 7月20日~8月3日 中国演奏旅行(上海・南京
・西安・天津・北京)
- 9月4日~9日 夏季合宿(信州・野尻湖ハウス)
- 9月10日~18日 The Reception for Chevrolet
Top Performers 出演(都ホテル)
- 9月15日 同志社大学昭和19年度卒業式参列
(同志社神学館チャペル)
- 9月22日 イーグルフェア第17回E.C国際大会出
演(京都国際会議場)

(昭和54年)

- 1月1日 アメリカが中国と国交樹立(台湾と国
交断絶)
- 1月13日 国公立大共通一次試験実施
- 1月26日 大阪・三菱銀行北畠支店に猟銃強盗が
入り4人を射殺、行員を人質に亀城、
28日犯人の梅川を警官が狙撃し死亡
- 2月6日 中国の鄧小平副首相来日
- 3月17日 フィギュアスケート世界選手権で渡辺
絵美選手が日本人初の銅メダル獲得
- 3月28日 アメリカペンシルバニア州スリーマイ
ルス島原子力発電所で放射能漏れ事故
- 4月30日 大平首相訪米
- 6月24日 カーター米大統領来日、大平首相と首
脳会談
- 6月28日 第5回主要先進国首脳会議(東京サミ
ット)開催
- 7月11日 静岡県の東名高速道路日本坂トンネル
で四重追突事故、車173台が炎上、
7人焼死
- 9月4日 上野動物園のパンダ「ランラン」急死
この年
朴韓国大統領暗殺される
「魅せられて」「関白宣言」流行す
る
E.C文書「日本人はウサギ小屋に」
と指摘
健康ブームでジョギング人口急増
カルチャーセンターが続々登場

- 9月23日 大阪枚方ワイズメンズクラブ加盟認証
伝達式出演（大阪ロイヤルホテル）
- 9月24日 中国演奏旅行帰国報告会（京大楽友会
館）
- 10月3日 高槻第二中学校招待演奏会（高槻市民
会館）
- 10月14日 甲南女子大学コーラス部と合ハイ
（万博記念公園）
- 10月20日 高槻第九中学校P T A音楽鑑賞会
（高槻第九中学校）
- 10月21日 京都西南ローターアクト・チャーター
ナイト出演（ホリディン京都）
- 11月3日 第6回関西六大学合唱演奏会（大阪フ
ェスティバルホール）
- 11月11日 平安女学院短期大学女声合唱団と合ハ
イ（京都府立植物園）
- 11月23日～25日 OB会台北演奏旅行
- 11月25日 同志社創立104周年記念リユニオン
出演（京都ホテル）
- 11月27日 同志社E V E・ランダムステージ出演
（同志社明德館前）
- 12月19日 同志社女子中・高校父母の会クリスマ
スの集い出演（京都ホテル）
- 12月24日 第15回全同志社メサイア演奏会
（京都会館第一ホール）
- 12月25日 四日市都ホテルクリスマス晩餐会出演
（四日市都ホテル）

1980(昭和55年)

- 1月8日 第75回定期演奏会（京都会館第一ホー
ル）
- 2月6日 答礼会（新島会館）
- 2月9日 第75回卒業生のためのフェアウェルコ
ンサート（京都教育文化センター）
- 3月18日 アソカ幼稚園謝恩パーティー出演
（京都国際ホテル）
- 3月20日～21日 同志社大学卒業式参列（栄光館）
- 3月23日～28日 春季合宿（小豆島）
- 4月5日～6日 同志社大学入学式参列（栄光館）
- 4月26日 対面式（京都教会）
- 5月3日 関西六大学合唱連盟運動会（関大グラ
ウンド）
- 5月4日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合
ハイ（宝ヶ池）
- 5月18日 第17回京都合唱祭（京都会館第一ホー
ル）
- 6月13日 第21回立教・同志社交歓演奏会（日比
谷公会堂）
- 6月22日 第21回東西四大学合唱演奏会（大阪フ
ェスティバルホール）
- 7月3日 プリンストン大学招待演奏会（同志社
大学学生会館ホール）
- 7月22日 名誉顧問片桐哲先生来訪（同志社新町
別館）
- 7月29日 同志社メサイア女声合唱団とボーリン
グ大会（高野スターレーン）

(昭和55年)

イラン、イラク全面戦争に突入
大平首相急死
ジョン・レノン、越路吹雪 没
「青い珊瑚礁」「ハッとしてGOOD」
流行する
米ワシントン州のセントヘレンズ山
が大爆発
ソ連のアフガニスタン侵攻に抗議し、
JOCがモスクワオリンピック不参加を決定
ポーランドで自主管理労組「連帯」
創設
奈良東大寺で大仏殿の昭和大修理落
慶法要
アメリカのボイジャー1号が3400キ
ロから土星を撮影
サラリーマンの実質賃金が戦後初の
前年比マイナスとなる
中高生の非行が社会問題化する
自動車生産台数がアメリカを抜き世
界一となる

- 8月2日 同志社グリーンクラブ・上智大学グリーンクラブ交歓演奏会（名古屋市民会館中ホール）
- 8月5日 飯田演奏会（飯田文化会館）
- 8月7日 富山演奏会（富山県民会館大ホール）
- 8月9日 会津若松演奏会（会津若松市文化センター）
- 8月10日 讃美礼拝（会津若松教会）
- 8月11日 仙台演奏会（電力ホール）
- 9月9日～14日 夏季合宿（信州野尻湖ハウス）
- 9月20日 メサイア結団式（同志社新町別館）
- 10月5日 第5回スポーツ大会（立命館大学衣笠グラウンド）
- 10月25日 同志社グリーンクラブと共に 羽衣小学校PTA主催（羽衣小学校）
- 10月26日 メサイア女声合唱団ファーストコンサートへ賛助出演（西陣ホール）
- 11月3日 第7回関西六大学合唱演奏会（大阪フェスティバルホール）
- 11月26日 京都ステーションセレモニー出演（京都駅）
- 12月8日 第76回定期演奏会（京都会館第一ホール）
- 12月18日 サントリークリスマスパーティー出演（大阪ロイヤルホテル）
- 12月23日 第16回全同志社メサイア演奏会（京都会館第一ホール）

1981(昭和56年)

- 1月25日 日本青年会議所創立30周年記念式典出演（国際会議場）
- 2月14日 第76回卒業生のためのフェアウェルコンサート（大谷ホール）
- 3月17・18日 テレビ出演「ミス・ユニバース日本大会」（ABCホール）
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列（栄光館）
- 3月26日～31日 春季合宿（ハチ高原）
- 4月25日 対面式（京都教会）
- 5月5日 関西六大学合唱連盟運動会（大阪城公園）
- 5月24日 第18回京都合唱祭（京都会館第一ホール）
- 6月2日 県連フェスティバル（京都会館第二ホール）
- 6月7日 第9回同志社・関西学院交歓演奏会（大阪フェスティバルホール）
- 6月20日 第30回東西四大学合唱演奏会（東京厚生年金会館大ホール）
- 6月21日 第30回東西四大学合唱演奏会（東京文化会館大ホール）
- 7月31日 レコーディング（池田アゼリアホール）
- 8月1日 小倉演奏会（小倉市民会館）
- 8月3日 福岡演奏会（夏季演奏旅行）（福岡電気ホール）
- 8月4日 長崎演奏会（NBCビデオホール）
- 8月7日 熊本演奏会（鶴屋ホール）
- 9月1日～6日 夏季合宿（信州・野尻湖）

(昭和56年)

政府、行政改革案づくり始まる
 アメリカスペースシャトル成功
 神戸ポートピア博開催
 チャールズ皇太子、ダイアナ嬢と結婚
 「ルビーの指輪」「キンキラキンにさりげなく」流行する
 対米、対EC貿易が過去最高の黒字を記録、貿易摩擦深刻化
 国鉄赤字1兆円突破
 「ビッグ」「ワイド」など新金融商品続々登場

- 9月14日 レコーディング(池田アゼリアホール)
- 9月26日 メサイア結団式(同志社新町別館)
- 10月4日 神戸海星女子学院グリークラブと合ハイ(エキスポランド)
- 10月17日 神戸女学院大学コーラス部と合コン(梅田)
- 11月3日 第8回関西六大学合唱演奏会(大阪フェスティバルホール)
- 11月22日 O B会5周年記念演奏会に出演(京都勤労会館)
- 12月23日 第17回全同志社メサイア演奏会(京都会館第一ホール)

1982(昭和57年)

- 1月23日 第77回定期演奏会(京都会館第一ホール)
- 2月20日 第77回卒業生のためのフェアウェルコンサート(同志社大学学生会館)
- 3月4日 レコーディング~男声合唱組曲「冬の日の記憶」~ 指揮・福永陽一郎(池田アゼリアホール)
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月26~31日 春季合宿(三重・伊勢)
- 4月5・6日 同志社大学入学式参列(栄光館)
- 4月24日 対面式(京都教会)
- 5月3日 関西六大学合唱連盟運動会(大阪城公園)
- 5月9・10日 帝塚山大学コーラス部グローリアと合ハイ・合コン・ディスコ(エキスポランド・たよし・和蘭屋敷)
- 5月29日 エール大学ウィップエンブーフ合唱団とジョイントコンサート(西陳織会館)
- 5月30日 第19回京都合唱祭(京都会館)
- 6月9日 県連ミュージックフェスティバル(京都会館第二ホール)
- 6月20日 第31回東西四大学合唱演奏会(大阪フェスティバルホール)
- 6月29日 ハーバード大学グリークラブ招待演奏会(同志社大学学生会館)
- 7月3日 名譽顧問片桐哲先生 御召天
- 7月4日 大学フェスティバル(京都大学部会)(京都府立大学グラウンド)
- 7月18日 片桐哲先生 同志社女子大学大学葬(栄光館)
- 8月6日 出雲演奏会(夏季演奏旅行)(出雲市民会館)
- 8月8日 讚美礼拝(松山教会) 松山演奏会(夏季演奏旅行)(松山市民会館中ホール)
- 9月4~9日 夏季合宿(信州・野尻湖)
- 9月13日 府立北稜高校文化祭音楽鑑賞会(府立北稜高校)
- 9月18日 レコーディング~男声合唱とピアノのための「ことばあそびうたII」~ 指揮・北村協一 ピアノ・久瀬之宜(池田アゼリアホール)

卒業式に637の中・高校が警察に警戒出動を要請

6月 東北新幹線大宮-盛岡間開通
羽田沖で日航機墜落事故

- 9月23日 大谷女子大学合唱団と合コン（梅田・うつのみ屋）
- 9月25日 メサイア結団式（同志社大学新田別館）
- 10月10日 神戸学院大学コーラス部と合ハイ（神戸・ポートピアランド）
第7回京都府合唱連盟スポーツ大会（立命館大イサグランド）
- 10月30日 NHK-FM「たのしいコーラス」放送
第31回東西四大学合唱演奏会より同志社「祈りの歌」他（NHK-FM）
- 11月2日 LPGAマツダジャパンクラシックレセプション参列（京都・都ホテル）
- 11月3日 大阪女子学園短期大学学園祭にて特別演奏会（大阪女子学園）
第9回関西六大学合唱演奏会（大阪フェスティバルホール）
- 11月13日 兵庫県立北条高校音楽鑑賞会（兵庫県加西市）
- 11月19日 '82ミキグループ南日本地区講演会出演（京都国際会議場）
- 11月23日 京都女子大学女声合唱団と合コン（河原町）
甲南女子大学コーラス部と合コン（梅田）
- 11月27～29日 強化合宿（滋賀・希望ヶ丘自然公園）
- 12月4日 クローバークラブ演奏会（大阪府立労働センター大ホール）
- 12月11日 第78回定期演奏会（大阪・ザ・シンフォニーホール）
- 12月22日 第18回全同志社メサイア演奏会（京都会館第一ホール）
- 12月25日 EST-1 開店1周年記念セレモニー出演（梅田EST-1）
- 1983(昭和58年)
- 1月1日 朝日放送テレビ新春番組出演（おはよう地球さん）（朝日放送ABCホール）
- 1月7日 京都市交響楽団ニューイヤーコンサート「森の歌」に参加（京都会館第一ホール）
- 2月12日 第78回卒業生のためのフェアウェルコンサート（大谷ホール）
- 3月10日 宝塚高校音楽鑑賞会（宝塚高校）
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列（栄光館）
- 3月26～31日 春季合宿（南紀白浜）
- 4月5・6日 同志社大学入学式参列（栄光館）
- 4月23日 対面式（京都教会）
- 4月30日 甲南女子大学コーラス部と合コン（梅田・うつのみ屋）
- 5月1日 京都女子大学女声合唱団と合コン（京都・サーカス）
- 5月3日 関西六大学合唱連盟運動会（大阪城公園）
- 5月22日 第20回京都合唱祭（京都会館第一ホール）

- 11月 上越新幹線大宮～新潟間開通
「北酒場」「100%……SOかもね」
流行する
老人保険法により、老人医療一部自己負担となる

大阪21世紀計画開幕
大韓航空機ソ連空軍による撃墜事件起こる
秋田沖でマグニチュード7.7の日本海中部地震おこる
「免田事件」無罪判決
中川一郎、寺山修司 没
「さざんかの宿」「フラッシュダンス」流行する
65歳以上の独居老人が100万人を突破
サラ金禍激化し、社会問題となる。
サラ金市場前年比2倍以上に成長

- 5月29日 大学フェスティバル(京都大学部会)
(立命館・柊野グラウンド)
- 6月5日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合
コン(京都・田園)
- 6月8日 県連フェスティバル(京都会館第二ホ
ール)
- 6月20日 第10回同志社・関西学院交歓演奏会
(大阪フェスティバルホール)
- 6月21日 アーモスト大学グリークラブとジョイ
ントコンサート(同志社大学会館ホ
ール)
- 6月25日 第32回東西四大学合唱演奏会(東京文
化会館大ホール)
- 6月26日 第32回東西四大学合唱演奏会(五反田
簡易保険ホール)
- 7月6日 NHK-FM「たのしいコーラス」録
音(NHK-FM大阪)
- 7月10日 第22回立教・同志社交歓演奏会
(大谷ホール)
- 7月16日 ヨーロッパ演奏旅行壮行演奏会
(同志社大学会館ホール)
- 7月19日~8月6日 ヨーロッパ演奏旅行
(スイス・ハンガリー・オーストリア)
- 9月2日 テレビ出演(KBS京都、タイムリー
10)(KBS京都)
- 9月5~10日 夏季合宿(信州・野尻湖/ハウス)
- 9月15日 関西合唱フェスティバル・20(大阪・
ザ・シンフォニーホール)
- 9月21日 北稜高校音楽鑑賞会(北稜高校)
- 9月24日 メサイア結団式(同志社大学新町別館)
- 9月28・29日 レコーディング 男声合唱組曲
「北陸にて」「三崎のうた」
指揮・北村協一(池田アゼリアホール)
- 10月2日 吉村杯争奪スポーツ大会(立命館・衣
笠・御室グラウンド)
神戸女学院大学コーラス部と合ハイ
(神戸ポートピアランド)
- 10月18日 内田洋行友の会パーティー(京都グラ
ンドホテル)
- 10月23日 神戸女子大学コーラス部と合コン
(梅田あじびる)
- 10月26日 多可高校音楽鑑賞会(兵庫・多可高校)
- 11月3日 第10回関西六大学合唱演奏会(大阪フ
ェスティバルホール)
- 11月4日 伊丹西高校音楽鑑賞会(豊中市民会館
大ホール)
- 11月5日 玉川小学校音楽鑑賞会(高槻・玉川小
学校)
- 11月8日 北辰中学校音楽鑑賞会(茨木・北辰中
学校)
- 11月20日 ニューファイアマリッジ出演(天満橋
東天紅)
- 11月23日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合
コン(京都・オールドハウス)
- 11月25日 スイスミッション招待レセプション
(同志社学生会館)

- 12月3日 京都西山ロータリークラブパーティー
(京都センチュリーホテル)
- 12月17日 第79回定期演奏会(大阪・ザ・シンフ
ォニーホール)
- 12月20日 第19回全同志社メサイア演奏会(京都
会館第一ホール)
- 12月25日 滋賀・水口教会クリスマス礼拝
(水口教会)

1984(昭和59年)

- 2月18日 第79回卒業生のためのフェアウェルコ
ンサート(同志社大学会館ホール)
- 2月19日 大久保昭男先生就任20周年記念パーテ
ィー(ホテルサンフラワー京都)
- 3月20・21日 同志社大学卒業式参列(栄光館)
- 3月25~30日 春季合宿(和歌山加太国民休暇村)
- 4月5・6日 同志社大学入学式参列(栄光館)
- 4月16日 ALL DOSHISHA CHORUS
FESTIVAL (同志社大学会館)
- 4月22日 神戸女学院大学コーラス部と合ハイ・
合コン(大阪城公園)
- 4月28日 対面式(京都教会)
同志社国際高校開校
- 5月3日 関西六大学連盟運動会(大阪城公園)
- 5月5日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合
コン(京都サーカス)
- 5月6日 甲南女子大学コーラス部と合ハイ・合
コン(服部緑地)
- 5月10日 京都部会Bブロック練習見学会
(同志社大学新町別館401)
- 5月12日 武庫川女子大学コーラス部と合コン
(梅田・うつのみ屋)
- 5月18日 今熊野小学校音楽鑑賞会(今熊野小学
校)
- 5月20日 聖和女子大学コーラス部と合コン(梅
田・うつのみ屋)
- 5月20日 京都文教短期大学女声合唱団と合コン
(河原町・ワインリバー)
- 5月27日 第21回京都合唱祭(京都会館)
- 6月3日 京都部会大学フェスティバル(立命館
柘野グラウンド)
- 6月16日 第31回東西四大学合唱演奏会(大阪フ
ェスティバルホール)
- 7月8日 第23回立教・同志社交歓演奏会
(東京・中央会館ホール)
- 8月7~12日 演奏旅行
- 8月7日 名古屋演奏会(名古屋市芸術創造セン
ター)
- 8月9日 安中演奏会(安中市文化センター)
- 8月11日 前橋演奏会(前橋市民文化センター)
- 8月12日 安中教会讃美礼拝(安中教会)
- 9月5~10日 夏季合宿(信州野尻湖畔)
- 9月23日 朱雀第一小学校音楽鑑賞会(朱雀第一
小学校)
- 9月24日 京都府合唱連盟スポーツ大会(立命館
衣笠グラウンド)

グリコ・森永脅迫事件起きる
1万円、5千円、千円の新札発行
「もしも明日が」「ワインレッドの
心」流行する
学校での「いじめ」が社会問題とな
る
外で働く女性の数が家事専業者を上
回る
出生率1.81人となる

- 9月24日 帝塚山大学コーラス部グローリアと合
コン（梅田・うつのみ屋）
- 9月29日 メサイア結団式（同志社大学新町別館）
- 10月4日 IBC-TRIO'84レセプション
（烏丸京都ホテル）
- 10月6日 姫路別所高校音楽鑑賞会（別所高校）
- 10月13日 ノートルダム女子大学女声合唱団と合
コン（京都・いろはかるた）
- 10月20日 華頂短期大学女声合唱団と合コン
（京都・がんこずし）
- 11月3日 第11回関西六大学合唱演奏会（大阪フ
ェスティバルホール）
- 11月4日 同志社グリークラブ創立80周年記念ク
ローバークラブ演奏会（京都シルクホ
ール）
- 11月7日 大阪女学院創立百周年記念式典（大阪
フェスティバルホール）
- 11月10日 大阪樟蔭女子大学コーラス部と合コン
（梅田・スーパー100番）
- 11月14日 三木高校音楽鑑賞会（兵庫・三木高校）
- 11月23日 奈良女子大学音楽部と合コン（京都・
いろはかるた）
- 12月17日 創立80周年記念定期演奏会（東京・新
宿文化センター大ホール）
- 12月21日 創立80周年記念定期演奏会（大阪・ザ
シンフォニーホール）
- 12月22～25日 ディナーショー出演（大阪・ロイ
ヤルホテル）
- 12月23日 滋賀水口教会クリスマス礼拝（水口文
化芸術会館）
- 12月26日 第20回全同志社メサイア演奏会（京都
会館第一ホール）

あ と が き

まずはじめに、本書を制作するにあたり、多くの方々のご協力を賜りました。関係団体、各位に心から厚く御礼申し上げます。

ふり返ってみますと、昭和59年(「創立80周年」の年)春に同志社グリークラブOB会は、「創立80周年記念事業」の一環として、「同志社グリークラブ創立80周年記念誌」を制作することを決定し、編集委員会を設置しました。委員がOBのみであったため、編集作業はどうしても仕事のあい間をぬって進めざるを得ませんでした。

まず、最大の難問は、散逸した資料の収集からでした。現役の部室にも、整理された資料は皆無の状態、合唱コンクールの賞状やトロフィーでさえ、紛失しているものがある有様でした。そこで、OB各位への資料提供の依頼の後、届いた資料(個人の貴重な財産)や関係図書との系統だった整理など、時間はいくらあっても足りませんでした。

本来ですと、昭和59年秋の「創立80周年記念演奏会、祝賀会」に発行されるべきなのですが、わずか半年足らずでは、80年にわたる長大な歴史をまとめることは困難でした。それ以後も、こつこつと資料の整理や校正を繰り返し、ようやく発行できることになりました。十分な内容ではありませんが、「歴史的事実を正確に記録する」よう努めました。さらに、作業を進める中で、特に昭和29年、河上文久氏が編集された「創立50周年記念誌」、昭和39年、影田武道氏が編集された「創立60周年記念誌」が、本書の基になっており、あらためてその努力に敬意を表する次第です。

(50周年誌で河上氏は「将来、グリークラブは必ずや文久に感謝するであろう。」と予言されましたが、まさにその通りとなりました。また60周年誌で影田氏は「次回発行の記念誌は、グリー会館落成記念号としてもらいたい。」と述べておられますが、残念ながら、未だ実現していません。)

以上のようなことから、次回発行される記念誌のために、資料の散逸を防ぐこと、故人となられた方からも貴重な写真の複製をとっておくこと、そしてその資料を大切に整理、保管することを強く希望する次第です。

また、同志社グリークラブの「昨日・今日・明日」の活動が、人とクラブと京都や日本の合唱文化に常に新鮮で且つ厳かな歴史を築かれんことを願ってやみません……。

同志社グリークラブ創立80周年記念誌編集委員

「同志社グリークラブ創立80周年記念誌」編集委員



中村 徹夫
(昭和49年卒)
通史担当



伏村 淳二
(昭和51年卒)
四連担当



平井 雅則
(昭和48年卒)
メサイア担当



小室 泰司
(昭和41年卒)
クローバークラブ担当



萩巣 潤三
(昭和49年卒)
年表担当

御協力いただいた関係各位・団体、参考図書

(順不動)

同志社グリークラブOB（資料提供者101名・アドバイザー48名）

大中恩氏、多田武彦氏、杉井六郎氏、長谷川常次郎氏、辰巳寿名尾氏、白石昭氏、小門君子氏、尾田義行氏、北野恵三氏、鏑一平氏、本宮啓氏

同志社社史編纂室、同志社校友会、同志社リーダークラシツコール、同志社交響楽団、関西学院グリークラブ

同志社グリークラブ創立50周年記念誌、同創立60周年記念誌、同志社社史、同志社交響楽団50年誌、同志社グリークラブOB会会報、同志社大学入学案内、関西学院グリークラブ80年史、各演奏会（各年代）プログラム

同志社グリーンクラブ創立80周年記念誌

Who are we

同志社グリーンクラブ80年の歩み

昭和61年(1986) 5月 20日 発 行

〈非売品〉

編 集 同志社グリーンクラブ
創立80周年記念誌編集委員会
編集代表 中村 徹夫

発 行 同志社グリーンクラブOB会
〒617 京都府向日市寺戸町大牧14-117
電話 075-932-3719
楠 本 英 雄

印 刷 有限会社 太陽社 代表取締役 平井雅則
〒543 大阪市天王寺区大道3-1-30
電話06-779-7618

日本音楽著作権協会 第8670244-601号
(出)許諾番号

